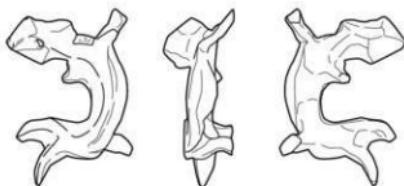


大野中遺跡  
七分一堂口遺跡 発掘調査報告  
加納谷内遺跡

—能越自動車道建設に伴う  
埋藏文化財発掘報告XII—



2014年

大野中遺跡  
七分一堂口遺跡 発掘調査報告  
加納谷内遺跡

—能越自動車道建設に伴う  
埋蔵文化財発掘報告XII—

2014年

公益財団法人 富山県文化振興財団  
埋蔵文化財調査事務所

# 序

能越自動車道は、北陸自動車道の小矢部砺波ジャンクションから北上して、高岡市、氷見市を通り、石川県輪島市に至る高規格幹線道路として計画されました。この能越自動車道と関連アクセス道の建設に伴い、当事務所では平成4年度から計画路線内の多数の遺跡を発掘調査してまいりました。

本書は、平成17年度と18年度に発掘調査を実施した氷見市の大野中遺跡、七分一堂口遺跡、加納谷内遺跡の成果をまとめたものです。

大野中遺跡からは古代の掘立柱建物群がみつかり、上庄川のほとりに古代の集落が営まれていたことがわかりました。その対岸にある七分一堂口遺跡からは中世の掘立柱建物群がみつかりました。南北を丘陵に挟まれた加納谷内遺跡では、縄文時代前期と中期の土器や漁に使われた石錘、中世の掘立柱建物群と数多くの井戸、切石を敷き詰めた施設などがみつかり、人々の生活が繰り返し営まれていたことがわかりました。

こうした発掘調査の成果が、文字の記録に現れることのない往時の生活をひもとく一助となり、地域の歴史と文化財の理解に役立てば幸いです。

本書をまとめるにあたり、ご協力とご指導を頂きました関係機関および関係諸氏に厚く感謝申し上げます。

平成26年3月

公益財団法人富山県文化振興財団  
埋蔵文化財調査事務所  
所長 岸本雅敏

## 例　　言

1 本書は富山県氷見市大野地内に所在する大野中遺跡、同七分一地内に所在する七分一堂口遺跡、  
同加納地内に所在する加納谷内遺跡の発掘調査報告書である。

2 調査は国土交通省北陸地方整備局からの委託を受けて、公益財團法人富山県文化振興財團が行った。

3 本遺跡の発掘調査期間と本書刊行までの整理期間は下記のとおりである。

調査期間　　大野中遺跡　　平成17（2005）年5月12日～7月19日

　　　　　　　平成18（2006）年5月24日～10月2日

七分一堂口遺跡　　平成17（2005）年5月12日～10月3日

加納谷内遺跡　　平成17（2005）年5月16日～12月21日

　　　　　　　平成18（2006）年5月17日～11月28日

整理期間　　平成22（2010）年4月1日～平成26（2014）年3月31日

4 本書の編集は新宅 茜が担当した。本文執筆は新宅のほか、島田亮仁が行った。執筆分担は第Ⅰ章・第Ⅱ章を新宅、第Ⅲ章・第Ⅳ章を島田、第Ⅴ章を新宅が担当した。執筆分担は文末に記した。自然科学的な分析は諸機関に委託し、その成果を第Ⅲ章・第Ⅳ章・第Ⅴ章に収録した。

5 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から多大なご教示・ご協力を得た。

氷見市教育委員会、富山県教育委員会、富山県埋蔵文化財センター

（敬称略）

## 凡　　例

1 本文・挿図で扱った遺構・遺物は、一覧表に掲載している。

2 本書で示す方位は全て真北である。

3 挿図の縮尺は下記を基本とし、各図の下に縮尺率を示す。

遺構 壁穴建物：1/40・1/80、柵・掘立柱建物：1/100、溝・自然流路：1/40・1/80、

井戸・土坑：1/20・1/40

遺物 土器・陶磁器：1/4、木製品：1/4・1/8・1/12、

石製品：1/1・2/3・1/3、金属製品：1/1・1/2

4 遺構の略号は以下のとおりである。

S I : 壁穴建物、S A : 柵、S B : 掘立柱建物、S P : 柱穴、S D : 溝・自然流路、

S E : 井戸、S K : 土坑、S X : 谷・石敷遺構

5 遺構番号は、大野中遺跡・加納谷内遺跡では調査時に地区ごとに付した番号の末尾に、調査区のアルファベットと数字を付して遺構番号とした。七分一堂口遺跡は調査時のままでした。番号は、遺構の種類にかかわらず連番とするが、掘立柱建物・柵には新たに番号を付した。

6 遺物は種類に関わらず連番を付し、斜体で示す。本文・挿図・一覧表・写真図版中の遺物番号は全て一致する。

7 遺跡の略号は市町村番号に遺跡名を続け。大野中遺跡では「05O N - 地区名」、七分一堂口遺跡は「05 S D」、加納谷内遺跡では「05 K Y - 地区名」とし、遺物の注記には略号を用いた。

8 施釉陶磁器の袖の掛かる範囲、黒色土器の黒色処理が及ぶ範囲は一点鎖線で示した。

9 遺物のススや炭化物の付着する範囲は、二点鎖線及びスクリントーンで示した。但し、煮炊具に付着するススや炭化物は図示せず、付着の有無を一覧表に記載した。

10 使用したスクリントーンは以下に図示した。これ以外については図中に凡例を示した。



ス　ス



炭化物



地　山

○ 半 彩

11 土層及び遺構埋土の色については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』を参照した。

12 遺構一覧及び本文中で用いる遺構についての用語は以下の文献を参考とした。

掘立柱建物：奈良国立文化財研究所 1976『平城宮発掘調査報告VII』

井戸：宇野隆夫 1982「井戸考」「史林」第65巻第5号

13 遺物の分類と編年に関する用語は、以下の文献を参考にした。

弥生土器：財団法人富山県文化振興財團 2006「弥生土器の分類」「下老子笹川遺跡発掘調査報告－能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告V－」

須恵器・土師器：田嶋明人 1988「古代土器編年軸の設定」「シンポジウム 北陸の古代土器研究の現状と課題」石川考古学研究会・北陸古代土器研究会

北野博司・池野正男 1989「北陸における須恵器生産」「北陸の古代手工業生産」北陸古代手工業生産史研究会

池野正男 2003「越中における古代前半期の土師器食器について」「北陸古代土器研究」第10号北陸古代土器研究会

中世土師器：越前慎子 1996「梅原胡摩堂遺跡出土中世土師器皿の編年」「梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告－東海北陸自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告II－」

珠洲：吉岡康暢 1994「中世須恵器の研究」吉川弘文館

輸入陶磁器：山本信夫 2000『太宰府市の文化財第49集 太宰府条坊跡 X V－陶磁器分類編－』太宰府市教育委員会

木製品：奈良国立文化財研究所 1993「木器集成図録」近畿原始編

14 遺構一覧・遺物一覧の凡例は以下のとおりである。

①遺構の埋土に切り合い関係がある場合は、備考欄に新>古のように記号で示す。

②規模・法量の（ ）内は現存長を表す。

③重量はg単位で示す。計測は大きさによって台秤と電子秤を使い分けた。

④胎土色調・釉色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』・財団法人日本規格協会「標準色票 光沢版」を使用し、釉調の和名は小学館『色の手帖』より似たものを使用した。なお、陶磁器のうち複数の色がみられる場合は最も多く使用されている色を記し、その他は特記事項に記す。但し透明釉の場合は記入しない。

# 目 次

第Ⅰ章 調査の経過	1
1 調査に至る経緯	1
(1) 調査の契機	1
(2) 既往の調査	1
2 発掘作業の経過と方法	3
3 整理作業の経過	5
4 普及活動	5
第Ⅱ章 位地と環境	6
1 地理的環境	6
2 歴史的環境	6
第Ⅲ章 大野中遺跡	11
1 概要	11
2 層序	11
3 遺構	11
(1) 掘立柱建物	11
(2) 竪穴建物	12
(3) 棚列	13
(4) 溝	13
(5) 井戸	16
(6) 土坑	16
4 遺物	18
(1) 土器・陶磁器・土製品	18
5 自然科学分析	40
(1) 大野中遺跡の花粉・植物珪酸体分析	40
6 総括	.....
第Ⅳ章 七分一堂口遺跡	50
1 概要	50
2 層序	50
3 遺構	50
(1) 中世以前	50
(2) 中世	51
4 遺物	53
(1) 土器・陶磁器・土製品	53
5 自然科学分析	65
(1) 七分一堂口遺跡の花粉・植物珪酸体分析	65
6 総括	71
(1) 主要遺構変遷について	71
第Ⅴ章 加納谷内遺跡	72
1 概要	72
2 層序	72
3 遺構	73
(1) 繩文時代	73
(2) 中近世	74
4 遺物	80
(1) 繩文時代	80
(2) 弥生時代～古代	81
(3) 中近世	83
5 自然科学分析	247
(1) 放射性炭素年代測定分析	247
(2) 樹種同定	250
(3) 石材鑑定	258
6 総括	261

写真図版

報告書抄録

## 挿図目次

第1図	調査位置図・遺跡位置図	2
第2図	調査地区区割図	3
第3図	地形図	7
第4図	周辺遺跡位置図	9
第5・6図	大野中遺跡 遺跡全体図	20・21
第7~14図	大野中遺跡 遺構実測図	22~29
第15~17図	大野中遺跡 遺物実測図	30~32
第18図	大野中遺跡 花粉化石群集	41
第19図	大野中遺跡 植物珪酸体含量	42
第20図	大野中遺跡 主要遺構変遷図	46
第21図	土器構成図	48
第22・23図	七分一堂口遺跡 遺構全体図	54・55
第24~29図	七分一堂口遺跡 遺構実測図	56~61
第30図	七分一堂口遺跡 遺物実測図	62
第31図	七分一堂口遺跡 花粉化石群集	66
第32図	七分一堂口遺跡 植物珪酸体含量	67
第33図	七分一堂口遺跡 中世主要遺構変遷図	71
第34・35図	加納谷内遺跡 遺構全体図	88・89
第36・37図	加納谷内遺跡 遺構実測図	90・91
第38~41図	加納谷内遺跡 遺構全体図	92~95
第42~97図	加納谷内遺跡 遺構実測図	96~151
第98~161図	加納谷内遺跡 遺物実測図	152~215
第162図	加納谷内遺跡 建物変遷図	262

## 表目次

第1表	既往の調査一覧	2
第2表	調査体制・調査一覧	4
第3表	整理体制	5
第4表	周辺遺跡一覧	10
第5表	大野中遺跡 古代掘立柱建物一覧	33
第6表	大野中遺跡 柱穴一覧	33
第7表	大野中遺跡 竪穴建物一覧	35
第8表	大野中遺跡 井戸一覧	35
第9表	大野中遺跡 土坑一覧	35
第10表	大野中遺跡 溝・自然流路一覧	36
第11表	大野中遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧	37
第12表	大野中遺跡 花粉分析結果	41
第13表	大野中遺跡 植物珪酸体含量	42
第14表	大野中遺跡出土の古代土器構成	48
第15表	七分一堂口遺跡 中世掘立柱建物一覧	63
第16表	七分一堂口遺跡 柱穴一覧	63
第17表	七分一堂口遺跡 溝・自然流路一覧	64
第18表	七分一堂口遺跡 井戸一覧	64
第19表	七分一堂口遺跡 土坑一覧	64
第20表	七分一堂口遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧	64
第21表	七分一堂口遺跡 花粉分析結果	66
第22表	七分一堂口遺跡 植物珪酸体含量	67
第23表	加納谷内遺跡 中世掘立柱建物一覧	216
第24表	加納谷内遺跡 柱穴一覧	217
第25表	加納谷内遺跡 井戸一覧	223
第26表	加納谷内遺跡 石敷一覧	224
第27表	加納谷内遺跡 土坑一覧	225
第28表	加納谷内遺跡 溝・自然流路一覧	227
第29表	加納谷内遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧	229
第30表	加納谷内遺跡 木製品一覧	242
第31表	加納谷内遺跡 金属製品一覧	244
第32表	加納谷内遺跡 石製品一覧	245
第33表	加納谷内遺跡 AMS測定結果	249
第34表	加納谷内遺跡 繩文時代・弥生時代～の器種別種類構成	253
第35表	加納谷内遺跡 中世～の器種別種類構成（容器・食事具）	253
第36表	加納谷内遺跡 中世～の器種別種類構成（工具・農具・服飾具・調度・建築部材・その他）	253
第37表	加納谷内遺跡 石器・石製品の種類別石材組成	260

## 写真図版目次

- 図版 1 大野中遺跡・七分一堂口遺跡  
図版 2 加納谷内遺跡  
図版 3 加納谷内遺跡 土器・陶磁器  
図版 4 航空写真（1953年 米軍撮影）  
図版 5 航空写真（2003年 国土地理院撮影）  
図版 6・7 大野中遺跡 全景  
図版 8・9 大野中遺跡 掘立柱建物  
図版10 大野中遺跡 掘立柱建物・溝  
図版11 大野中遺跡 掘立柱建物・竪穴建物  
図版12 大野中遺跡 溝・柱穴・井戸・土坑  
図版13～17 大野中遺跡 土器・陶磁器・土製品  
図版18 七分一堂口遺跡 全景  
図版19～21 七分一堂口遺跡 堀立柱建物  
図版22 七分一堂口遺跡 柱穴・溝・井戸・土坑  
図版23 七分一堂口遺跡 土器  
図版24 七分一堂口遺跡 土器・陶磁器・土製品  
図版25 加納谷内遺跡 全景（縄文時代）  
図版26 加納谷内遺跡 墓壙・土坑（縄文時代）  
図版27 加納谷内遺跡 土坑・出土状況（縄文時代）  
図版28～33 加納谷内遺跡 全景（中近世）  
図版34～37 加納谷内遺跡 掘立柱建物（中近世）  
図版38～46 加納谷内遺跡 井戸（中近世）  
図版47 加納谷内遺跡 石敷遺構・土坑（中近世）  
図版48 加納谷内遺跡 石敷遺構（中近世）  
図版49 加納谷内遺跡 土坑（中近世）  
図版50 加納谷内遺跡 土坑・溝（中近世）  
図版51 加納谷内遺跡 土器  
図版52 加納谷内遺跡 縄文土器・土製品  
図版53・54 加納谷内遺跡 土器  
図版55 加納谷内遺跡 土器・陶磁器  
図版56・57 加納谷内遺跡 土器  
図版58・59 加納谷内遺跡 陶磁器  
図版60・61 加納谷内遺跡 土器  
図版62 加納谷内遺跡 土器・陶磁器  
図版63～86 加納谷内遺跡 木製品  
図版87～102 加納谷内遺跡 石製品  
図版103～105 加納谷内遺跡 金属製品

# 第Ⅰ章 調査の経過

## 1 調査に至る経緯

### (1) 調査の契機

能越自動車道（一般国道470号）は、富山県砺波市と石川県輪島市を結ぶ延長約100kmの自動車専用道路で、昭和62（1987）年に高規格幹線道路網計画の一部として策定された。富山県内では約45kmが計画され、これまでに北陸自動車道・東海北陸自動車道と連結する小矢部砺波JCT（ジャンクション）から高岡北IC（インターチェンジ）までの約18.2km（高岡砺波道路）と、高岡北ICから氷見ICまでの11.2km（氷見高岡道路）、氷見ICから灘浦ICまでの8.5km（七尾氷見道路）が開通しており、今後、更に北上して県境PA（仮称、パーキングエリア）が設置される予定となっている。

能越自動車道の建設計画は平成2（1990）年4月に建設省（現国土交通省）から富山県教育委員会（以下、県教委）に示され、路線予定地内の埋蔵文化財の取り扱いについて、建設省北陸建設局（現国土交通省北陸地方整備局）・県教委・小矢部市教育委員会の三者により協議が行われた。その結果、埋蔵文化財の分布状況を把握するため、小矢部市の用地買収完了地域で早急に分布調査を実施することとなった。以後、平成2（1990）年から、小矢部市・旧福岡町・高岡市・氷見市域の分布調査については、県教委・富山県埋蔵文化財センター（以下、県センター）が主体となり、当該市町教育委員会の協力を得て実施している。

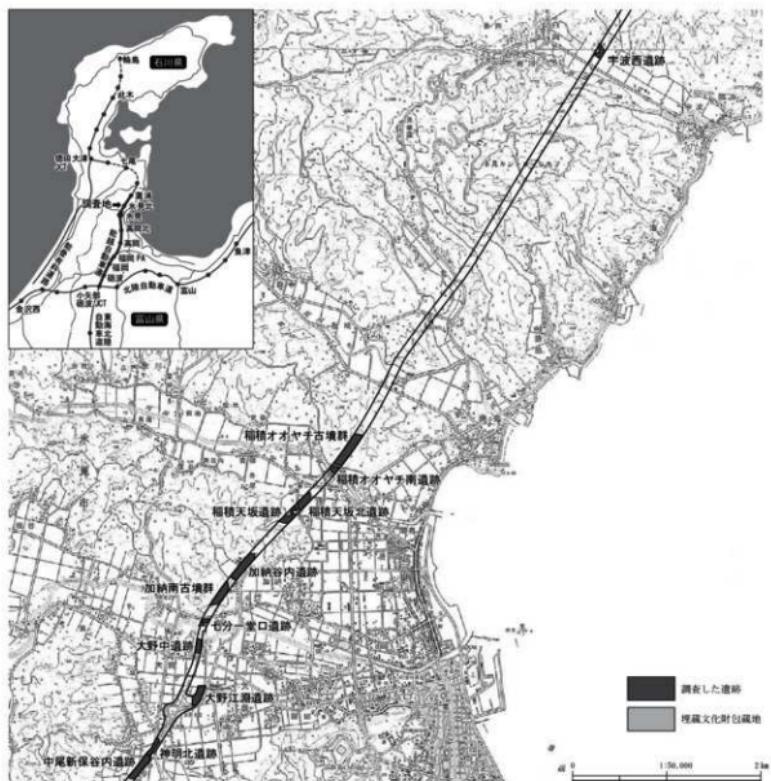
能越自動車道氷見ICから灘浦IC間の分布調査は平成14（2002）年に実施し、NEJ-22～27の埋蔵文化財包蔵地を設定した。分布調査の結果報告から、埋蔵文化財包蔵地の今後の取り扱いについて検討が行われた。その結果、遺跡のより明確な範囲と内容について把握するため、包蔵地確認調査を実施することとなった。

NEJ-22～24の包蔵地確認調査は、建設省から委託を受け、平成16（2004）年度～平成18（2006）年度に財團法人（現公益財團法人）富山県文化振興財團（以下、財團）が実施した。この結果、NEJ-22では古代の遺構・遺物を確認し、大野中遺跡と命名した。NEJ-23では古墳時代の遺構・遺物を確認し、七分一堂口遺跡と命名した。NEJ-24では古墳時代・中世の遺構・遺物を確認し、加納谷内遺跡と命名した。なお、大野中遺跡は南側へ遺跡の範囲が広がる可能性があったため、平成17年に大野中遺跡隣接地の確認調査を行い、遺構・遺物を確認したため、遺跡の範囲を拡大した。また、平成17年度に実施した加納谷内遺跡の本調査の結果から、遺跡の範囲が南側へ広がる可能性があったため、平成18年に加納谷内遺跡隣接地の確認調査を行ったが、遺構面は削平されており、遺跡の範囲とはしなかった。

確認調査の結果を受けて、建設省・県教委・県センター・財團の協議で、範囲が確定している遺跡について本調査の要望が出された。協議の結果、財團が本調査を受託することで合意し、平成17（2005）年度に大野中遺跡、七分一堂口遺跡、加納谷内遺跡、平成18（2006）年度に大野中遺跡、加納谷内遺跡の本調査を実施した。

### (2) 既往の調査

大野中遺跡、七分一堂口遺跡、加納谷内遺跡の既往の調査は、第1表のとおりである。



第1図 調査位置図・遺跡位置図（1:50,000）

道路名	分布調査		試掘調査			本調査						
	年度	調査主体	年度	調査主体	調査面積 (対象面積) m <sup>2</sup>	文獻	年度	調査主体	調査面積m <sup>2</sup>	文獻		
大野中	H14	県教委	H16	財団	184 (1,800)	1	H17	財団	1,064	5		
			H17	財団	120 (7,012)	2	H18	財団	3,018	6		
			H16	財団	630 (12,470)	1	H17	財団	2,608	5		
			H22	水見市教委	4567	4						
			H16	財団	1,496 (25,700)	1	H17	財団	25,953	5		
七分一堂口			H18	財団	61 (1,000)	3	H18	財団	9,422	6		
加納谷内												

第1表 既往の調査一覧

- 文献1 財団法人富山県文化振興財団 2005『能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査報告 中尾埋蔵文化財包蔵推定地・NE J-22 (大野中道路)・NE J-23 (七分一堂口道路)・NE J-24 (加納谷内道路)・NE J-25 (福積天坂道路)・NE J-27 (宇波西道路)・NE J-29】
- 2 財団法人富山県文化振興財団 2006『能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査報告 大野中道路隣接地・福積天坂道路隣接地・NE J-26 (福積オヤチ南道路)・NE J-28 (福積天坂北道路)】
- 3 財団法人富山県文化振興財団 2007『能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査報告 加納谷内道路隣接地・福積オヤチ古墳群・宇波西道路】
- 4 水見市教育委員会 2011『水見市内遺跡発掘調査概報 I 七分一地区経営体育成基盤整備事業に伴う試掘調査ほか】
- 5 財団法人富山県文化振興財団 2006『平成17年度埋蔵文化財年報】
- 6 財団法人富山県文化振興財団 2007『平成18年度埋蔵文化財年報】

## 2 発掘作業の経過と方法

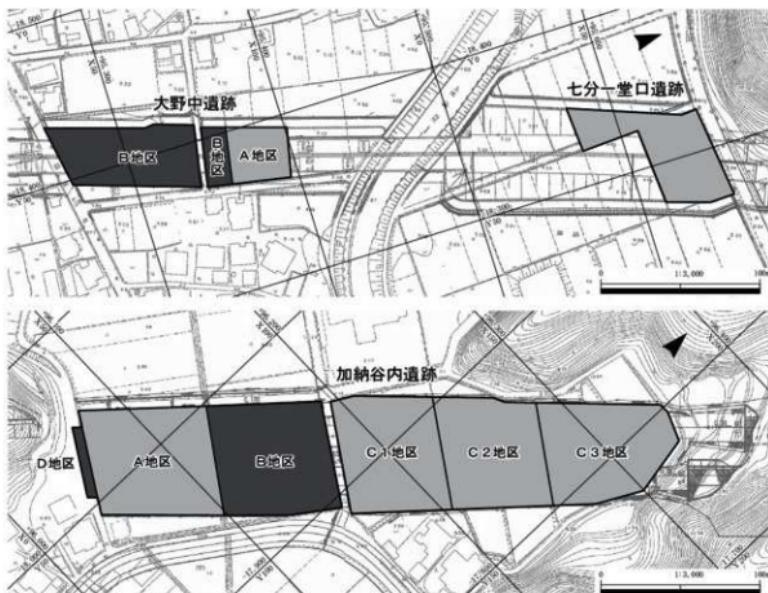
発掘調査の作業工程及びその方法・内容は、平成16（2004）年10月に文化庁から示された『行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準（報告）』に則って進めた。

発掘調査の基準となるグリッドは、日本測地系による国土座標（平面直角座標第7系）を基に設定した。各遺跡のX Y 0の起点は以下の通りで、国土地理院のWeb版TKY2JGDの変換プログラムにより世界測地系に変換し、併せて掲載した。南北方向をX軸、東西方向をY軸とし、グリッドは2m方眼とした。各グリッド名は北東角のX軸・Y軸の座標とした。

	日本測地系		世界測地系	
大野中遺跡	X95200	Y-18500	X95546.2973	Y-18768.9806
七分一堂口遺跡	X95500	Y-18400	X95846.2867	Y-18668.9845
加納谷内遺跡	X96000	Y-18100	X96346.2666	Y-18368.9951

調査区は用水、道路、水田の区画によって分割し、大野中遺跡ではA・B地区、加納谷内遺跡ではA・B・C1・C2・C3・D地区を設定した。七分一堂口遺跡では調査区を分割していない。

掘削方法は、表土は重機により除去し、包含層と構造埋土については人力で掘削した。加納谷内遺跡では第2構造面までの間層が無遺物層であったため、これを重機により除去した。



実施年度	調査事業担当									
	課長補佐 竹中 哲一			調査統括			調査第一課長 神保 孝造			
平成17	総括	所長 桃野 真晃	主査・副所長 関 清	副所長・総務課長 森田根津子	総務	主任 岩田 扶紀	調査員	主任 菅田 黑	* 同本淳一郎	* 金三津道子
								* 烏田 光仁	* 文化財保護主事 新宅 西	* 林 昭男
								* 纏江 真理	* 理藏文化財技師 泉 英樹	* 杜山 貢一
								* 杜山 貢一		
		所長 岸本 正敏	主査・副所長 山本 正敏	副所長・総務課長 加藤豈次郎		チーフ 浅地 正代	調査統括	調査第一課長 神保 孝造	文化財保護主事 新宅 西	文化財保護主事 新宅 西
	総務							主任 菅田 黒	理藏文化財技師 泉 英樹	理藏文化財技師 泉 英樹
								* 纏江 真理	* 杜山 貢一	* 杜山 貢一
大野中遺跡	A	平成17 (2005)	H17.5.12~7.19	40日間	1,064m <sup>2</sup>	島田 光仁 杜山 貢一	掘立柱建物・ 土坑・溝	土師器・須恵器		
	B	平成18 (2006)	H18.5.24~10.2	68日間	3,018m <sup>2</sup>	新宅 西 杜山 貢一	掘立柱建物・ 竪穴建物・井戸・ 土坑・溝・ 自然流路	土師器・須恵器・木製品		
加納谷内	七分一堂II	-	平成17 (2005)	H17.5.12~10.3	53日間	2,608m <sup>2</sup>	島田 光仁	掘立柱建物・ 井戸・土坑・溝・ 自然流路	弥生土器・古墳時代土師器・ 土師器・須恵器・中世土師器・ 珠洲・白磁・越中窯戸・越中丸山・ 肥前陶器・石製品	
	A	平成17 (2005)	H17.5.16~10.7	83日間	4,915m <sup>2</sup>	金三津道子 泉 英樹	埋設土器・掘 立柱建物・機 区溝溝・井戸・ 溜池状遺構・ 溝・土坑	縄文土器・土偶・弥生土器・ 古墳時代土師器・須恵器・土 師器・珠洲・青磁・白磁・瓦 質土器・瓶口差遺・越中窯戸・ 肥前陶器・木製品・石製品・ 金属製品		
	B (上層)	平成18 (2006)	H18.5.17~9.14	73日間	4,609m <sup>2</sup>	新宅 西 泉 英樹	掘立柱建物・ 井戸・石敷遺 構・土坑・溝・ 自然流路	中世土師器・珠洲・青磁・白 磁・瓦質土器・越中窯戸・肥 前陶器・木製品・石製品・ 金属製品		
	B (下層)	平成18 (2006)	H18.9.15~11.28	44日間	4,609m <sup>2</sup>		杭列・土坑・ 自然流路	縄文土器・弥生土器・古墳時 代土師器・木製品		
	C 1	平成17 (2005)	H17.5.19~9.30	77日間	4,169m <sup>2</sup>	菅田 杜山 貢一	井戸・石敷遺 構・土坑・溝・ 自然流路	弥生土器・土師器・須恵器・ 中世土師器・珠洲・越中窯戸・ 土鍋・木製品・石製品・金属製品		
	C 2 (上層)	平成17 (2005)	H17.6.1~10.4	71日間	4,294m <sup>2</sup>	新宅 林 昭男	掘立柱建物・ 機・井戸・道 路状遺構・区 割溝・土坑	土師器・須恵器・中世土師器・ 珠洲・瓶口美濃・青磁・白磁・ 青花・越中窯戸・ 肥前陶器・木製品・石製品・金 属製品		
	C 2 (F層)	平成17 (2005)	H17.10.5~12.21	47日間	4,294m <sup>2</sup>	菅田 新宅 林 昭男	集石土坑・土 坑・溝	縄文土器・石製品		
	C 3 (上層)	平成17 (2005)	H17.5.24~9.22	64日間	4,520m <sup>2</sup>	同本淳一郎 纏江 真理	掘立柱建物・ 機・井戸・溝・ 土坑	土師器・須恵器・中世土師器・ 珠洲・青磁・白磁・青花・越 中窯戸・石製品・金属製品		
	C 3 (下層)	平成17 (2005)	H17.9.26~10.18	51日間	3,761m <sup>2</sup>	菅田 新宅 西 同本淳一郎 纏江 真理	土坑・自然流 路	縄文土器・石製品		
	D	平成18 (2006)	H18.10.2~10.18	11日間	204m <sup>2</sup>	杜山 貢一	横・土坑・自 然流路	土師器・須恵器・珠洲・越中 窯戸		

第2表 調査体制・調査一覧

### 3 整理作業の経過

出土遺物は調査年度内に可能な限り洗浄・バインダー処理・注記・分類を行った。木製品・石製品・金属製品はメモ写真を撮影し、整理台帳を作成した。木製品及び金属製品は収納・管理の便宜を図るためにオートシーラーと専用フィルムを用いてパックし、仮保管している。

調査概要については『埋蔵文化財年報』(平成17・18年度)として発刊している。

報告書刊行に向けての本格的な室内整理作業は、平成22(2010)年度に開始した。平成22年度は、木製品・石製品・金属製品の写真撮影及び実測・挿図図版作成、土器の接合、木製品の樹種鑑定を行った。平成23年度は、土器の実測・復元、石製品の石材鑑定、自然科学分析、木製品の保存処理を行った。平成24年度は、土器の写真撮影、土器・遺構の挿図作成、写真図版作成、原稿執筆、編集を行った。平成25年度は原稿執筆、編集、印刷、校正を行った。

遺物の実測は、土器を調査員及び整理作業員が行い、木製品・石製品・金属製品は業者に委託した。遺構実測図・写真は各台帳を作成して整理し、遺構カードとともにパソコンコンピューターを使用してデータ入力を行った。データ入力は職員が行い、整理作業員が補足した。遺構・遺物のデータは一覧表として掲載している。遺構・遺物の挿図は業者に委託し、デジタルデータ化を行い印刷原稿とした。遺物の写真撮影は業者に委託し、デジタルカメラで撮影し、写真図版にはデータを使用した。自然科学分析は専門業者に委託し、結果報告を掲載した。また、劣化が懸念された木製品については、保存処理を専門業者に委託して行った。

### 4 普及活動

加納谷内遺跡の南側にある加納南古墳群の現地説明会を平成18年10月21日に開催したが、その際、遺物展示会場に加納谷内遺跡から出土した遺物と写真パネルを展示した。

実施年度		整 理 業 務 担 当			
	総括	所 長	岸本 雅敏	整理統括	調査第二課長補佐
平成22	総務	副所長・調査第二課長	池野 正男	担当	島田美佐子
	総務	総務課長	竹中 慎一		高柳由紀子
	総務	チーフ	浅地 正代		
平成23	総括	所 長	岸本 雅敏	整理統括	調査課長
	総務	副所長	池野 正男	チーフ	島田美佐子
	総務	総務課長	竹中 慎一	担当	越前 憲子
	総務	主任	江本 裕一	主任	新宅 西
平成24	総括	所 長	岸本 雅敏	整理統括	調査課長
	総務	副所長	池野 正男	チーフ	島田美佐子
	総務	総務課長	松尾 互	担当	越前 憲子
	総務	主任	江本 裕一	主任	新宅 西
平成25	総括	所 長	岸本 雅敏	整理統括	調査課長
	総務	副所長	池野 正男	チーフ	島田美佐子
	総務	総務課長	松尾 互	担当	越前 憲子
	総務	主任	江本 裕一	主任	新宅 西

第3表 整理体制

## 第Ⅱ章 位置と環境

### 1 地理的環境

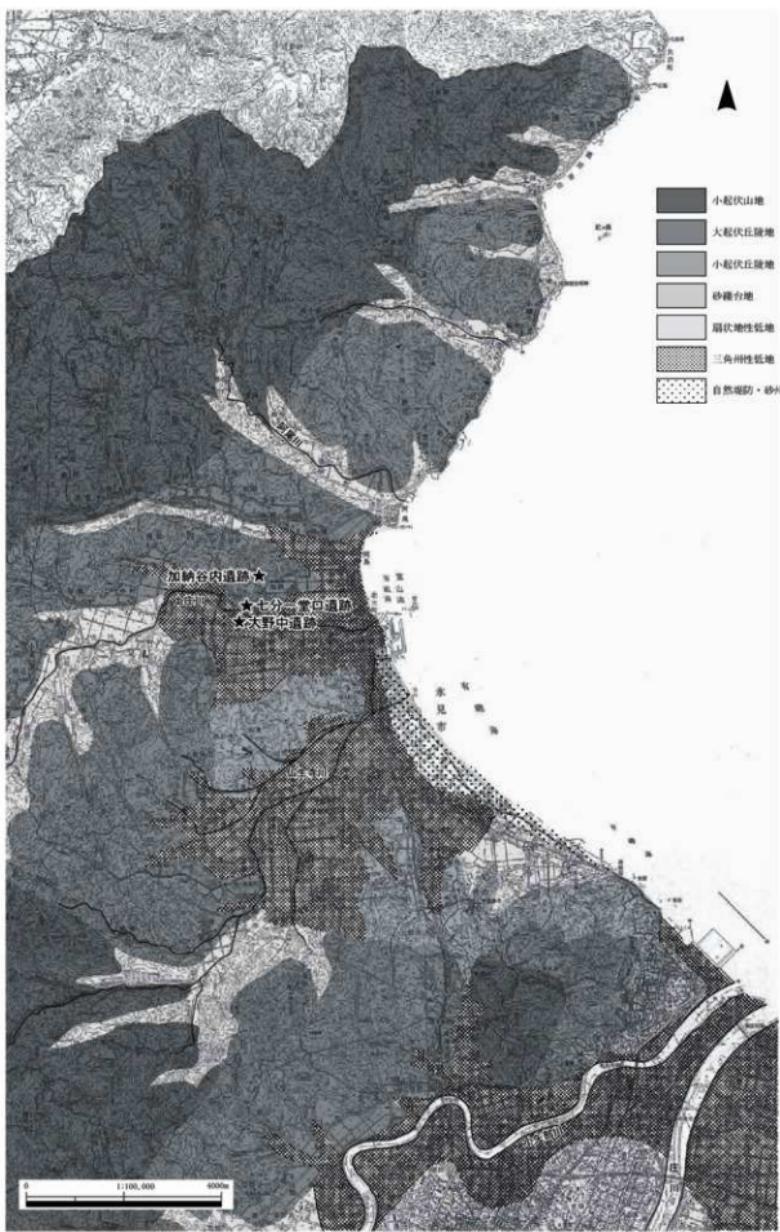
大野中遺跡・七分一堂口遺跡・加納谷内遺跡は富山県西部の氷見市に位置する。氷見市は能登半島東側基部に位置し、三方を石動丘陵・宝達丘陵・二上山丘陵に囲まれ、東は富山湾に面する。市域の約8割を占める丘陵は新第三紀と第四紀層の泥岩が広く分布し、地滑り地形が多く認められている。市南半部には、仏生寺川とその支流によって開拓された十三谷と呼称される谷底平野がある。かつて仏生寺川下流一帯には布勢水海と呼ばれた潟湖が存在したが、現在は開拓されて水田が広がっている。市北半部は、宇波川・阿尾川・余川川・上庄川などの小河川とその支流からなる谷地形で、上庄川中流域から下流域にかけては小規模な平野が広がる。下流左岸の平野には、弥生時代から古代にかけて、加納潟と仮称される潟湖が広がっていたと推測されている。能越自動車道は十三谷を南北に縱断し、北東に向かって上庄川・余川川・阿尾川・宇波川流域の谷地形と平野部を通る形で計画された。本調査を実施した大野中遺跡・七分一堂口遺跡・加納谷内遺跡は、上庄川中・下流域の両岸の平野部に位置する。上庄川は、氷見市では長さ、流域面積とともに最大の河川で、氷見市南西端の大釜山を水源とし、谷平野の中を蛇行しながら流れ、大野付近で低地帯に入るが、この両岸に大野中遺跡と七分一堂口遺跡が立地している。また、上庄川北側丘陵の先端が二股に別れた谷間から丘陵にかけて、加納谷内遺跡が立地している。標高は、大野中遺跡が4.9~5.2m、七分一堂口遺跡が4.5~6m、加納谷内遺跡が4.9~10.5mを測る。

### 2 歴史的環境

遺跡が位置する上庄川中・下流域では、小規模ながらも安定した平野が広がり、その平野とそれを見下ろす丘陵上に、縄文時代から中近世に至る遺跡が存在している。

縄文時代の遺跡には、平野部に中尾新保谷内遺跡（29）、大野沢遺跡（43）、鞍川寺田遺跡（18）、鞍川金谷遺跡（13）がある。中尾新保谷内遺跡では、丘陵裾部から前期の土器が出土し、平地部では標高4m前後に縄文時代前期の混貝層を確認しており、縄文海進期には遺跡周辺は内湾奥部のような環境であったことが明らかになった。中期の初め頃にはトネリコ属などが茂る湿地林が存在したと推定されており、海退が進んでいったと考えられる。

弥生時代では、中期の遺跡に、上庄川右岸の平野部に立地する鞍川中B遺跡（22）がある。加納潟に流れ込む川跡と推測される流路から中期の土器等が出土している。後期から終末期にかけては、上庄川右岸の丘陵に鞍川横羽毛遺跡（23）、沖布A遺跡（24）、朝日大山遺跡（86）、丘陵裾に中尾茅戸遺跡（28）、神明北遺跡（32）、平野部に大野江淵遺跡（34）がある。上庄川左岸には七分一遺跡（48）がある。いずれの遺跡も散布地にとどまり、集落の姿はみえてこない。しかし、上庄川に沿って平野部を通り、羽咋に至る古道は、「万葉集」に「之乎路」（志雄路）として詠まれており、成立は弥生時代終末期頃まで遡ると考えられている。集落間を結ぶようなルートの開発が行われていたのではないだろうか。なお、この古道は中世・戦国期には「白が峰越」として利用され、近世では幕府の巡見使の定例通行道路である「御上使往来」に制定されている。



第3図 地形図 (1:100,000)

注1 國土地理院「2003年1:50,000地形図」紀ヶ島、木見、石鈴、富山」を元に、経営企画所「1970『地形分類図 木見・紀ヶ島、石鈴、富山』」を合成して作成

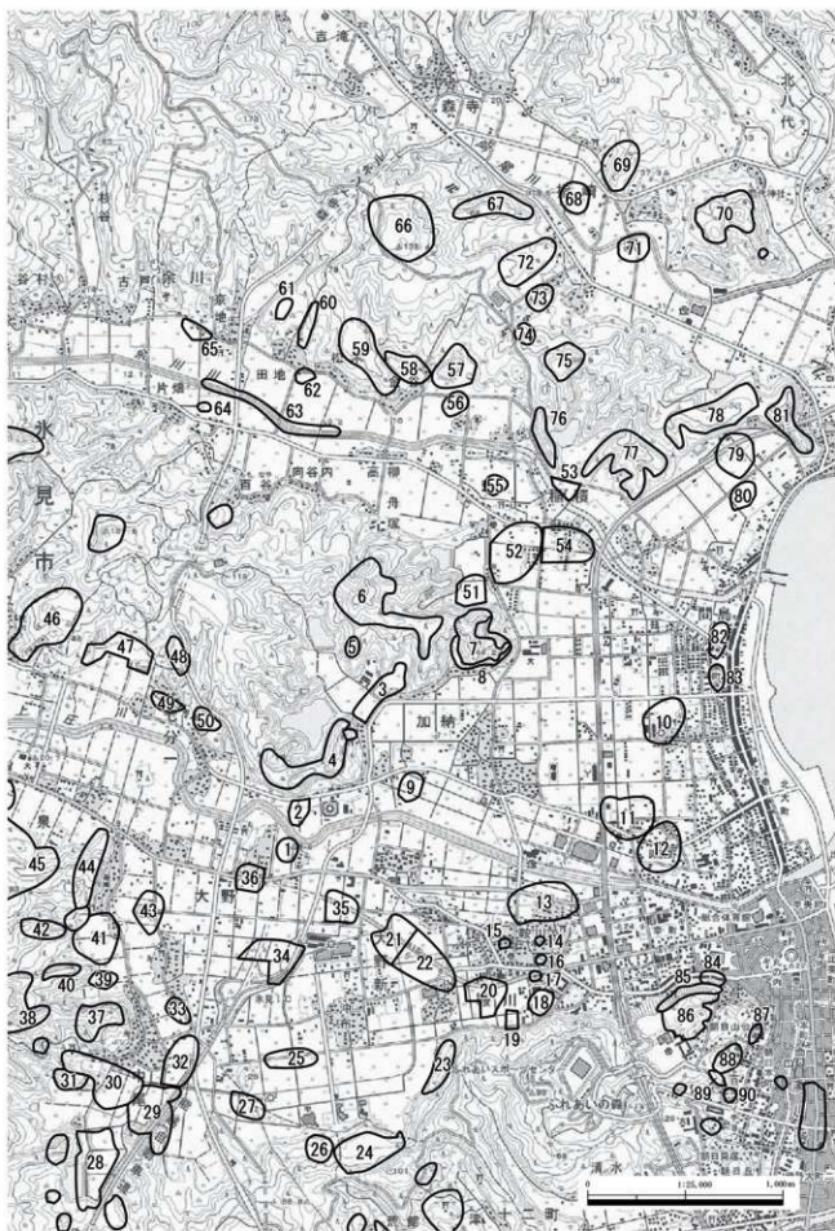
古墳時代では、前期から後期まで、平野を見下ろす丘陵の先端部に多くの古墳が築かれた。上庄川左岸には泉古墳群（45）、泉往易古墳群（44）、泉谷内口古墳群（42）、中尾喜城古墳群（40）、中尾隅崎古墳群（37）、中尾茅戸古墳群（31）、上庄川右岸には柿谷土谷山古墳群（46）、加納蛭子山古墳群（7）、加納横穴群（8）、加納新池古墳群（5）、加納南古墳群（4）、七分一古墳（50）があり、氷見市内では古墳が集中する地域となっている。それらの古墳を支えた人々の集落は明らかになっていないが、これだけの古墳が密集すると言うことは、陸海の交通要所を押さえた交易や加納湯周辺での農耕を基盤とし、生産力と政治力の高い集団が生活していたと推測できる。

古代では、丘陵裾から平野部に中尾茅戸遺跡（28）、中尾新保谷内遺跡（29）、泉B遺跡（39）、泉C遺跡（41）、大野沢遺跡（43）、加納桜打遺跡（9）、七分一B遺跡（49）、七分一古大門遺跡（47）、KB-2遺跡（35）、KB-3遺跡（36）などの遺跡があり、丘陵に接する台地上にある泉中尾庵寺跡（30）からは、平安時代後期の金銅宝冠阿弥陀如来座像が出土している。上庄川平野は『和名類聚抄』にみえる射水郡の十郷のひとつ、阿努郷に比定されている。平安時代中期には、越中権守源家賢の私領「阿努庄」として成立し、12世紀中頃には浜間家近衛家領として伝頒されている。この頃は気候の温暖化による海面の上昇が、加納湯の範囲を広げることとなり、丘陵裾や微高地に集落が営まれていたと推測されている。

中世では、前期の集落である中尾新保谷内遺跡（29）、鞍川D遺跡（20）など、古代から中世まで集落が引き続いて営まれる。また、大野江淵遺跡（34）、鞍川中B遺跡（22）では、中世後期から近世にかけての溜池状遺構が見つかっており、溜池灌漑事業が中世まで遡ることを裏付けた。中世以降は気候の寒冷化にともなって、加納湯もその範囲を狭めており、湯周辺での新田開拓が盛んに行われていたことであろう。また上庄川右岸の丘陵上には千久里山城（38）、左岸には木谷城跡（6）、河口に近い右岸の丘陵上には朝日山砦（85）の山城が築かれた。そのほか、七分一古墓（50）、鞍川A中世墓（15）、鞍川B中世墓（17）、蓮乗寺中世墓群（87）、上日寺中世墓群（88）など、宗教に関連する遺跡も存在し、仏教活動の盛んな地域であったと考えられる。

#### 参考文献

- 氷見市史編さん委員会 1999 『氷見市史9 資料編七 自然環境』
- 氷見市史編さん委員会 2002 『氷見市史7 資料編五 考古』
- 氷見市教育委員会 2007 『氷見市遺跡地図』
- 氷見市教育委員会 2010 『鞍川中B遺跡II 金沢医科大学氷見市民病院建設事業に伴う発掘調査報告』
- 氷見市教育委員会 2011 『氷見市内遺跡発掘調査概報I 七分一地区経営体育成基盤整備事業に伴う試掘調査ほか』
- 財團法人富山県文化振興財团 2009 『中尾茅戸遺跡・中尾新保谷内遺跡・神明北遺跡・大野江淵遺跡発掘調査報告』



第4図 周辺遺跡位置図 (1:25,000)

No.	遺跡名	所在地	種類	時代	No.	遺跡名	所在地	種類	時代
1	大野中	大野	集落	古代	46	柿谷土谷山 古墳群	柿谷	古墳	古墳（中～後）
2	七分一堂口	七分一	集落	中世	47	七分一古門	七分一	散布地	古代・中世
3	加納谷内	加納	集落	绳文・古代・中世・近世	48	七分一	七分一	散布地	弥生（後～末）・古墳（後）
4	加納南古墳群	加納	古墳・城館	古墳・中世	49	七分一B	七分一	散布地	古代・中世
5	加納新池古墳群	加納	古墳	古墳	50	七分一古墳	七分一	古墳・中世墓	古墳・中世
6	大谷城跡	加納・稻橋	城館	南北朝	51	稻橋天坂	稻橋	集落	古代・中世・近世
7	加納稻子山 古墳群	加納稻子山	古墳	古墳初期～後期	52	稻橋天坂北	稻橋	集落	古代・中世・近世
8	加納穴穴群	加納稻子町	窓穴	古墳後～飛鳥白壁	53	稻橋オヤチ南	稻橋	集落	古代・中世
9	加納板打	加納	散布地	古代	54	稻橋川口	稻橋	散布地	古墳・古代
10	加納金宮	荣町	散布地	古代・中世	55	稻橋宿前田	稻橋	散布地	弥生・古代・中世
11	御詫野B 御詫野	御詫野	散布地	古代・中世	56	稻橋西ヶ谷内	稻橋西ヶ谷内	散布地	奈良・平安・中世
12	御詫野A 御詫野	御詫野	散布地	古代	57	稻橋後塹	稻橋	散布地	绳文（前）・古代・中世
13	稻谷金谷	稻谷川下	散布地	绳文（中）・弥生（後）・古墳	58	余田糸糸ヶ谷内	余田糸糸ヶ谷内	散布地	古代
14	稻田C	稻田304	散布地	中世	59	余田金谷古墳群	余田	古墳	古墳
15	稻田A 中世墓	稻田	中世墓	中世	60	余田田島古墳群	余田	古墳	古墳
16	稻田諏訪社	稻田	散布地	中世・近世	61	余田吉寺谷内	余田吉寺谷内	散布地	中世
17	稻田B 中世墓	稻田	中世墓	中世	62	余田海老瀬田	余田海老瀬田	散布地	古代
18	稻田寺田	稻田寺田	散布地	绳文（後）	63	余田川河床	余田	散布地	绳文・古墳・古代・中世
19	稻田E	稻田	散布地	弥生・古墳・中世	64	余田片畠	余田片畠	散布地	古墳
20	稻田D	稻田	集落	古代・中世	65	余田著名	余田	散布地	古代・中世
21	稻田中A	稻田・大野新	散布地	古代・中世・近世	66	海老瀬城跡	余田字田城・森守字海老瀬	城館	中世（観測）
22	稻田中B	稻田	集落	弥生・古代・中世・近世	67	指崎大谷古墳群	指崎	古墳	古墳
23	稻田横羽毛	稻田字横羽毛	散布地	弥生（後）・古墳（前）	68	指崎五反田	指崎五反田	散布地	古代
24	冲布A	冲布字引緋	散布地	弥生（後）・古代	69	指崎北古墳群・ 指崎城跡	指崎	古墳・城館	古墳・中世
25	冲布B	冲布	散布地	古代	70	八代城跡・ 八代西唇路	八代城跡	城館	南北朝
26	冲布C	冲布	散布地	古代・中世	71	指崎御詫野	指崎字御詫野	散布地	中世
27	冲坂南	稻田	散布地	绳文・古代・中世	72	指崎山古墳群	指崎字山古墳	古墳	古墳
28	中尾寺口	中尾	集落	弥生・古墳・古代	73	指崎山向	指崎	散布地	古代・中世・近世
29	中尾新保谷内	中尾字守尾	集落	古代・中世	74	稻橋城・峰	稻橋	古墳	古墳
30	中尾兔寺跡	皇子寺尾	寺院	古代・中世	75	稻橋城跡	稻橋城跡	城館	南北朝
31	中尾芋古墳群	泉（中尾）	古墳・中世墓	弥生（末）・古墳（初～後）・中世	76	稻橋ウシロ	稻橋	古墳	古墳
32	神明北	中尾	集落	古代・中世	77	稻橋オヤチ	稻橋	古墳	古墳
33	大野南	大野	散布地	古代・中世	78	阿尾島田古墳群・ 土恩群	阿尾	古墳・城館	古墳・中世
34	大野江潤	大野	集落	弥生・古墳・古代・中世・近世	79	阿尾島田A	阿尾字島田	集落	绳文（後期）・古代・中世
35	KB-2	大野新・大野	散布地	古代	80	阿尾島田B	阿尾字島田	散布地	绳文・古代・中世
36	KB-3	大野	散布地	古代	81	阿尾島尾山跡	阿尾字島尾	城館	中世
37	中尾岡崎古墳群	泉（中尾）	古墳	古墳（後）	82	稻橋三ノ屋前	稻橋三ノ屋前	不明	古代
38	久里城跡	中尾字守口	城館	南北朝・(戰國)	83	稻橋三ノ屋	荣町	散布地	古代・中世
39	泉B	泉	散布地	古墳・古代・中世	84	七軒町	幸町	散布地	绳文（後）
40	中尾寄城古墳群	泉（中尾）	古墳	弥生（末）・古墳（初）・古	85	朝日山脊	幸町	城館	中世
41	泉C	泉字住易	散布地	古代	86	朝日大山	幸町	集落	弥生（末）
42	泉谷内口古墳群	泉	古墳	古墳（後）	87	進乗寺古墳群	朝日本町	中世墓	中世
43	大野沢	大野（沢）	散布地	绳文・古代	88	上日寺中世墓群	朝日本町	中世墓	古代・中世
44	泉往古古墳群	泉	古墳・城館	古墳・中世	89	朝日寺古墳群	朝日本町	古墳	古墳（中）
45	泉古墳群	泉	古墳	古墳（中～後）	90	朝日長山西	朝日本町	古墳	古墳

第4表 周辺遺跡一覧

# 第Ⅲ章 大野中遺跡

## 1 概要

大野中遺跡では古代と中世とみられる遺構群を確認した。検出された遺構は掘立柱建物9棟、竪穴建物1棟、柵列2条、溝30条以上、自然路1条、井戸1基、土坑200基以上がある。

古代の遺構としては、掘立柱建物、柵列、竪穴建物、土坑が検出されている。遺構はA地区とB地区の北側に分布しており、全体に調査区の東側に偏在している。このことは、遺構が東側へ展開している可能性が高いと考えられる。内容は主に4間×2間の掘立柱建物を主要構成とする集落であり、上庄川に面しているという地理的条件などから、物流を中心とした集落の可能性がある。中世の遺構とみられる遺構に、掘立柱建物、溝、井戸、土坑があるが、出土遺物が希薄なため更に検討をする。

## 2 層序

調査区はA地区とB地区の2地区である。微地形的には国道415号線に近いB地区から上庄川へ近くA地区に向かって、緩やかに傾斜している。国道415号線付近は上庄川が形成した自然堤防のピークとみられる。A地区的現況は水田であり、B地区的国道寄り大部分は宅地跡であるが、基本はI層で耕作土・盛土、II層で遺物包含層、III層で基盤層である。II層は遺物包含層であるが、A地区で褐色粘土であり、層厚は約0.15~0.30mで、上庄川に向かって厚く堆積している。遺構が密に分布する範囲の層厚は約0.1~0.2mである。B地区では灰色粘土であり、A地区と比較して炭化物の含有量が少ないためか、色味がやや薄い。その傾向はA地区と反対の国道に近いほど顕著である。層厚は、場所により違があるが、約0.1~0.25mである。遺物包含層がA地区主体の褐色粘土からB地区主体の灰色粘土の漸移は不明瞭であるが、B地区的灰色粘土の方がA地区的褐色粘土より堆積速度が速かった可能性が考えられる。

## 3 遺構

### (1) 掘立柱建物

#### 1号掘立柱建物 (SB1, 第7図, 図版9・10)

A地区的南端に位置する。規模は4間×2間の側柱建物で、南北棟である。桁行8.9m、梁行4.55m、面積は40.5m<sup>2</sup>である。主軸はN-4°-Eである。柱穴の平面は円形～隅丸方形で、規模は径0.38~0.78m、深さは0.1~0.34mである。埋土は褐色粘土を基調とし、粘性に富む。柱根やその痕跡を裏付けるようなものは確認されていない。SB2とはほぼ同じ場所に構築されている。

#### 2号掘立柱建物 (SB2, 第7図, 図版9・10)

A地区的南端に位置する。規模は4間×2間の側柱建物で、南北棟である。桁行8.75m、梁行4.55m、面積は39.81m<sup>2</sup>である。主軸はN-3°-Wである。柱穴の平面形は円形～隅丸方形で、規模は径0.63~0.96m、深さは0.06~0.5mである。埋土は褐色粘土を基調とし、粘性に富む。柱根やその痕跡を裏付けるようなものは確認されなかった。西側にあるSA1を伴う。出土遺物はSP7A・SP

13Aから土師器、S P 4 Aから土師器・須恵器（12）がある。

#### 3号掘立柱建物（S B 3, 第8図, 図版9）

A地区の南端に位置する。規模は4間×2間の側柱建物で、南北棟である。桁行7.85m, 梁行4.95m, 面積は38.86m<sup>2</sup>である。主軸はN-3°-Eである。柱穴の平面形は円形～楕円形で、規模は径0.36～0.96m, 深さは0.1～0.37mである。埋土は褐灰色粘土を基調とし、粘性に富む。L字状の構列（S A 2）とは若干主軸方位が異なるが、S B 3に付随するとみられる。出土遺物はS P 32A・76Aから須恵器、S P 33Aから土師器、須恵器がある。

#### 4号掘立柱建物（S B 4, 第9図, 図版10）

A地区の中央に位置し、建物群の中で最も北側に構築されている。規模は4間×2間の側柱建物で、南北棟である。桁行8.9m, 梁行4.55m, 面積は40.5m<sup>2</sup>である。主軸はN-3°-Eである。柱穴の平面形は円形～楕円形で、規模は径0.34～0.92m, 深さは0.1～0.47mである。埋土は褐灰色粘土を基調とし、粘性に富む。

#### 5号掘立柱建物（S B 5, 第9図, 図版11・12）

B地区の北側に位置する。規模は（2）間×1間の側柱建物で、南北棟である。桁行（5.90）m, 梁行5.35m, 面積は（31.57）m<sup>2</sup>である。主軸はN-3°-Wである。柱穴の平面形は円形～楕円形で、規模は径0.58～0.72m, 深さは0.25～0.46mである。埋土は褐灰色粘土を基調とし、粘性に富む。

#### 6号掘立柱建物（S B 6, 第10図）

B地区の中央東側に位置する。規模は（3）間×2間の側柱建物で、南北棟である。桁行6.8m, 梁行4.75m, 面積は32.3m<sup>2</sup>である。主軸はN-13°-Eである。柱穴の平面形は円形～楕円形で、規模は径0.25～0.6m, 深さは0.06～0.22mである。埋土は灰色粘土を基調とし、粘性に富む。出土遺物はS P 191B・201Bから須恵器がある。

#### 7号掘立柱建物（S B 7, 第10図）

B地区の中央西側に位置し、調査区外へ広がる。規模は3間×（1）間の側柱建物とみられ、南北棟か。桁行6.2m, 梁行（2.0）m, 面積は（12.4）m<sup>2</sup>である。主軸はN-3°-Eである。柱穴の平面形は円形～楕円形で、規模は径0.22～0.56m, 深さは0.07～0.36mである。埋土は灰色粘土を基調とし、粘性に富む。S B 8とは、ほぼ同位置に存在することから、建て替えの可能性があるが、先後関係は不明である。

#### 8号掘立柱建物（S B 8, 第10図）

B地区の中央西側に位置し、調査区外へ広がる。規模は3間×（一）の側柱建物とみられ、南北棟か。桁行6.2mである。主軸はN-3°-Eである。柱穴の平面形は円形～楕円形で、規模は径0.4～0.72m, 深さは0.13～0.33mである。埋土は灰色粘土を基調とし、粘性に富む。出土遺物はS P 182Bから土師器がある。

#### 9号掘立柱建物（S B 9, 第10図）

B地区の中央東側に位置し、調査区外へ広がる。規模は（1）間×（一）間の側柱建物とみられ、南北棟か。桁行（2.75）mである。主軸はN-2°-Wである。柱穴の平面形は円形～楕円形で、規模は径0.57～0.67m, 深さは0.14～0.18mである。埋土は灰色粘土を基調とし、粘性に富む。

### （2）竪穴建物

#### 1号竪穴建物（S I 1, 第11図, 図版11）

B地区の北端に位置し、調査区外へ広がる。規模は長径3.0m, 短径（0.8）m, 深さ0.36mで、現

存する面積は $2.06\text{m}^2$ で、平面形は隅丸方形を呈するとみられる。南北棟で、主軸は概ねN-8°-Eである。埋土は褐灰色～黒褐色粘土を基調としている。カマドなどの付属施設は確認されていない。当初、南側に近接している土坑（SK37B）がSI1に付帯するカマドと推定し、調査を実施したが、掘削が進むにつれてSI1より後出する別の土坑であることが判明した。出土遺物には、土師器の壺（5）、須恵器の杯（1～4）がある。

### （3）柵列

#### 1号柵列（SA1, 第7図）

A地区の南端に位置する。2間の規模を有し、1間の距離が0.2～0.25mで、主軸はN-3°-Wである。柱穴の平面形は円形～楕円形で、規模は径0.24～0.69m、深さは0.06～0.17mである。埋土は褐灰色粘土を基調とし、粘性に富む。主軸方位がSB2と同様であることから、SB2に伴う柵列とみられる。出土遺物はSP22Aから土師器、須恵器がある。

#### 2号柵列（SA2, 第8図、図版10）

A地区的南端に位置し、平面がL字状を呈する。東西2間×南北4間の規模を有し、1間の距離が0.2～0.31mで、主軸はN-6°-Eである。柱穴の平面形は円形～楕円形で、規模は径0.26～0.8m、深さは0.05～0.32mである。埋土は褐灰色粘土を基調とし、粘性に富む。主軸方位が若干異なるが、SB3と同様であることから、SB3に伴う柵列とみられる。

### （4）溝

#### 67A号溝（SD67A, 第11図、図版10）

A地区的北西側に位置する南北方向に走る不整形の溝で、東西方向に枝分かれしており、西端は調査区外に延びる。幅0.76m、深さ0.18mを測る。埋土は灰色粘土を基調とし、非常に軟質である。地震に伴う地割れの痕跡とも考えられたが、断面が逆台形状であり、また、同様な溝（SD68B）から遺物が出土していることから、ここでは溝として報告する。

#### 107A号溝（SD107A, 第11図）

A地区的中央から西側に位置する不整形に延びる溝で、全体図では途切れたように図化しているが、検出時にはわずかに繋がっていた。しかし、埋土が著しく軟質のため調査が進むにつれて不明瞭となり途切れた状態となった。幅0.66m、深さ0.27mを測る。埋土は灰色粘土を基調とし、軟質であり、質はSD67Aと同様である。

#### 54B号溝（SD54B, 第11図）

B地区的北側に位置する小規模な溝である。幅0.4m、深さ0.18mを測る。埋土は褐灰色粘土を基調とする。

#### 68B号溝（SD68B, 第11図）

B地区的北側に位置する不整形の溝である。幅0.32m、深さ0.16mを測る。埋土は褐灰色～オリーブ黒色粘土を基調とし、非常に軟質であり、質はSD67AやSD107Aと同質である。出土遺物には桶側板がある。

#### 79B号溝（SD79B, 第11図、図版12）

B地区的北西側に位置する不整形に延びる溝で、西端と北端は調査区外に延びる。幅0.38m、深さ0.14mを測る。埋土は黒褐色粘土を基調とする。出土遺物には土師器がある。

#### 107B号溝（SD107B, 第11図）

B地区的中央からやや北側に位置する直線的な溝で、西端は調査区外に延び、東端は不明瞭とな

る。幅0.4m, 深さ0.12mを測る。埋土は褐灰色粘土を基調とする。

#### 146B号溝（S D146B, 第11図）

B地区の中央に位置する小規模な溝である。幅0.7m, 深さ0.15mを測る。埋土は灰色粘土を基調とする。

#### 159B号溝（S D159B, 第11図）

B地区の中央東端に位置する溝で、東端は調査区外に延びる。幅0.22m, 深さ0.19mを測る。埋土は灰色粘土を基調とする。

#### 163B号溝（S D163B, 第11図）

B地区の中央に位置する東西方向に直線的な溝で、東端は調査区外に延びる。幅1.03m, 深さ0.19mを測る。埋土は灰色粘土を基調とする。出土遺物には須恵器がある。S D194B, S D224Bは規模や軸方位が同様であることから、関連性が高い。耕作に伴う溝の可能性がある。また、規模は大きくなるが、主軸が同じであるS D174Bがあり、関連性がうかがえる。

#### 169B号溝（S D169B, 第11図）

B地区の中央東寄りに位置する東西方向に延びる溝で、東端は調査区外となる。幅0.24m, 深さ0.14mを測る。埋土は灰色粘土を基調とする。

#### 174B号溝（S D174B, 第12図）

B地区の中央に位置する東西方向に延びるやや規模の大きな溝で、東端は調査区外に延びる。幅2.06m, 深さ0.3mを測る。埋土は灰色粘土を基調とする。出土遺物には須恵器の杯（6）壺（7）、珠洲擂鉢（96）がある。

#### 181B号溝（S D181B, 第12図）

B地区の中央西端に位置する南北方向に延びる溝で、北端は調査区外となる。幅0.74m, 深さ0.17mを測る。埋土は灰色粘土を基調とする。出土遺物には須恵器がある。

#### 194B号溝（S D194B, 第12図）

B地区の中央に位置する東西方向に延びる溝で、東端はS D209Bに切られ、西端は調査区外となる。幅0.5m, 深さ0.23mを測る。埋土は灰色～褐灰色粘土を基調とする。出土遺物には土師器、須恵器がある。

#### 195B号溝（S D195B, 第12図）

B地区の中央に位置する東西方向に延びる小規模な溝である。幅0.45m, 深さ0.08mを測る。埋土は灰色粘土を基調とする。

#### 197B号溝（S D197B, 第12図）

B地区の中央に位置する南北方向に延びる溝で、南端はS D195Bに切られる。幅0.39m, 深さ0.04mを測る。埋土は灰色粘土を基調とする。

#### 200B号溝（S D200B, 第12図）

B地区の中央に位置する東西方向に延びる溝で、東端と西端は調査区外となる。幅0.88m, 深さ0.38mを測る。埋土は灰色粘土を基調とする。S E227Bと重複しており、切り合いでからS D200Bが先行する。出土遺物には須恵器蓋（8）がある。

#### 209B号溝（S D209B, 第12図）

B地区の中央西端に位置する東西方向に延びる溝で、西端はS D200Bに切られ、東端は調査区外となる。幅0.38m, 深さ0.22mを測る。埋土は灰色粘土を基調とする。

## 213B号溝（S D213B, 第12図）

B地区の南側に位置する東西方向に延びる小規模な溝で、幅0.28m、深さ0.06mを測る。埋土は灰色粘土を基調とする。東端はS D200Bと重複しており、切り合いからS D213Bが先行する。

## 216B号溝（S D216B, 第12図）

B地区の南側に位置する東西方向に延びる溝で、幅0.73m、深さ0.6mを測る。埋土はオリーブ褐色シルト～暗灰黄色粘土を基調とする。東端は調査区外に延び、S D248Bと重複しているが、先後関係は不明である。出土遺物には弥生土器がある。

## 218B号溝（S D218B, 第12図）

B地区の中央に位置する南北方向に延びる溝で、幅0.72m、深さ0.12mを測る。埋土は灰色粘土を基調とする。S D195Bと重複しており、S D218Bが先行する。南端はS D174Bに切られている。

## 220B号溝（S D220B, 第12図）

B地区の中央に位置する南北方向に延びる溝で、幅0.64m、深さ0.18mを測る。埋土は灰色～黒褐色粘土を基調とする。北端はS D224Bによって途切れている。S D194Bと重複しており、S D220Bが先行する。

## 221B号溝（S D221B, 第12図）

B地区の中央に位置する南北方向に延びる溝で、幅0.56m、深さ0.06mを測る。埋土は灰色粘土を基調とする。南端はS D194Bによって途切れている。S D224Bと重複しており、S D221Bが先行する。出土遺物には土師器、須恵器蓋（8）がある。

## 222B号溝（S D222B, 第12図）

B地区の中央に位置する南北方向に延びる溝で、幅0.58m、深さ0.06mを測る。埋土は灰色粘土を基調とする。南端はS D248Bによって途切れている。S D194B・200B・224Bと重複しており、いずれもS D222Bが先行する。同様な主軸方位で、規模も類似しているものに、S D220B・223B等があり、東西方向の溝との先後関係は、南北方向の溝が先行する。出土遺物には土師器、須恵器、土製品がある。

## 223B号溝（S D223B, 第12図）

B地区の中央からやや南側に位置する南北方向に延びる溝で、幅0.88m、深さ0.17mを測る。埋土は灰色粘土を基調とする。南端はS D248Bによって途切れている。S D194B・200B・224Bと重複しており、いずれもS D223Bが先行する。同様な主軸方位で、規模も類似しているものに、S D220B・222B等があり、東西方向の溝との先後関係は、南北方向の溝が先行する。出土遺物には土師器、須恵器がある。

## 224B号溝（S D224B, 第12図）

B地区の中央に位置する東西方向に延びる溝で、西端は調査区外となる。幅0.54m、深さ0.08mを測る。埋土は褐灰色粘土を基調とする。出土遺物には土師器、須恵器がある。

## 225B号溝（S D225B, 第12図）

B地区の中央に位置する東西方向に延びる溝である。幅0.53m、深さ0.07mを測る。埋土は灰色粘土を基調とする。

## 226B号溝（S D226B, 第12図）

B地区の中央に位置する東西方向に延びる溝で、西端は調査区外に延びる。幅0.36m、深さ0.14mを測る。埋土は灰色粘土を基調とする。

## 228B号溝（S D228B, 第12図）

B地区のやや南側に位置する南北方向に延びる溝で、幅1.0m、深さ0.2mを測る。埋土は灰色粘土を基調とする。北端はS E227Bに、南端はS D248Bによって途切れている。同様な主軸方位で、規模も類似しているものに、S D222B・223B等があり、東西方向の溝との先後関係は、南北方向の溝が先行する。

## 232B号溝（SD232B, 第12図）

B地区の南端に位置する南北方向に延びる小規模な溝である。幅0.28m、深さ0.15mを測る。埋土は灰色粘土を基調とする。北端はS K239Bと重複しており、S D232Bが先行する。出土遺物には土師器がある。

## 233B号溝（S D233B, 第13図）

B地区の南端に位置するL字状を呈する溝である。幅1.0m、深さ0.52mを測る。埋土は黒褐色～黄灰色粘土を基調とする。X37Y44付近で直角に屈曲し、南端と東端は調査区外に延びる。断面は台形状を呈しており、何らかを区画していた溝と想定される。出土遺物には土師器、須恵器がある。

## 236B号溝（S D236B, 第13図）

B地区の南端に位置する東西方向に延びる溝である。幅0.41m、深さ0.23mを測る。埋土は灰色粘土を基調とする。東端はS D233Bに切られ、西端は試掘トレンチによって途切れている。出土遺物には土師器がある。

## 240B号溝（S D240B, 第13図）

B地区の南端に位置する東西方向に延びる溝である。幅0.86m、深さ0.15mを測る。埋土は黄灰色粘土を基調とする。西端は試掘トレンチによって途切れている。

## 241B号溝（S D241B, 第13図）

B地区の南側に位置する東西方向に延びる溝で、西端は試掘トレンチで途切れており、東端は調査区外となる。幅2.1m、深さ0.52mを測る。埋土は黄灰色～黒褐色粘土を基調とする。断面は台形状を呈する。

## 248B号溝（S D248B, 第13図）

B地区の南側に位置する東西方向に延びる自然流路で、幅11.56m、深さ1.2mを測る。埋土は黄灰色～灰色粘土を基調とする。東端と西端は調査区外に延びている。出土遺物には土師器壺(9)・手捏(10)、須恵器、土製品、板材がある。

## (5) 井戸

## 227B号井戸（S E227B, 第14図、図版12）

B地区的中央からやや南側に位置する素掘り井戸である。長径2.38m、短径2.0m、深さ1.23mを測り、断面は筒状～播鉢状を呈する。S D200とS D228とは重複関係にあり、S E227Bが後出する。埋土は黄灰色～褐灰色粘土を基調とする。出土遺物は土師器、須恵器、土製品、カマド形土製品(11)、木製品が含まれている。遺構の重複関係や埋土から中世の所産と考えられる。

## (6) 土坑

## 11A号土坑（S K11A, 第14図）

A地区の南東側に位置し、楕円形を呈する土坑で、長径0.29m、短径0.26m、深さ0.1mを測る。S B1・S B2が立地する場所に位置しているが、いずれの遺構とも重複していない。埋土は褐灰色粘土を基調とし、出土遺物は須恵器壺(14)がある。

## 38A号土坑（SK38A, 第14図）

A地区の南東側に位置し、円形を呈する土坑で、長径0.4m、短径0.34m、深さ0.14mを測る。S B 2が立地する場所に位置しているが、いずれの遺構とも重複していない。埋土は褐灰色粘土を基調とし、出土遺物は土師器がある。

## 104A号土坑（SK104A, 第14図）

A地区の中央付近に位置し、不整形を呈する土坑で、長径1.3m、短径0.96m、深さ0.14mを測る。いずれの遺構とも重複していない。埋土は褐灰色粘土を基調とし、出土遺物は土師器、須恵器杯(13)がある。

## 113A号土坑（SK113A, 第14図）

A地区の東端に位置し、楕円形を呈する土坑で、長径0.96m、短径0.92m、深さ0.38mを測る。埋土は褐灰色粘土を基調とし、出土遺物は土師器がある。

## 35B号土坑（SK35B, 第14図）

B地区の北端に位置し、楕円形を呈する土坑である。規模は長径(0.96)m、短径0.7m、深さ0.48mである。埋土は褐灰色～黒褐色粘土を基調としている。出土遺物には、土師器がある。

## 37B号土坑（SK37B, 第14図）

B地区の北端に位置し、隅丸方形を呈する土坑である。規模は長径0.92m、短径0.8m、深さ0.58mである。埋土は褐灰色～黒褐色粘土を基調としている。当初、S I 1のカマドなどの付属施設とも考えられたが、断面が筒状で、炭化物がほとんど含まれておらず、S I 1に伴わない別遺構とした。

## 165B号土坑（SK165B, 第14図）

B地区の中央に位置し、楕円形を呈する土坑である。規模は長径0.26m、短径0.24m、深さ0.18mである。埋土は灰色粘土を基調としている。出土遺物には、土師器がある。

## 187B号土坑（SK187B, 第14図）

B地区の中央西寄りに位置し、円形を呈する小規模な土坑である。規模は長径0.42m、短径0.42m、深さ0.14mである。埋土は灰色粘土を基調としている。出土遺物には、土師器がある。

## 204B号土坑（SK204B, 第14図）

B地区の中央に位置し、円形を呈する土坑である。規模は長径0.28m、短径0.26m、深さ0.15mである。埋土は灰色粘土を基調としている。出土遺物には、土師器がある。

## 229B号土坑（SK229B, 第14図）

B地区の南端に位置し、楕円形を呈する土坑である。規模は長径0.6m、短径0.5m、深さ0.14mである。埋土は灰色粘土を基調としている。S D 233Bと重複しており、S K 229Bが後出する。出土遺物には、土師器がある。

## 230B号土坑（SK230B, 第14図、図版12）

B地区の南端に位置し、楕円形を呈するとみられる土坑である。規模は長径0.7m、短径(0.4)m、深さ0.18mである。埋土は黄灰色粘土を基調としている。半分程度が試掘トレンチで削平を受けている。出土遺物には、土師器、須恵器蓋(15)がある。

## 249B号土坑（SK249B, 第14図）

B地区の中央西寄りに位置し、円形を呈する小規模な土坑である。規模は長径0.24m、短径0.2m、深さ0.06mである。埋土は灰色粘土を基調としている。出土遺物には、土師器がある。

## 4 遺物

出土遺物には弥生土器・土師器・須恵器・カマド形土製品・手捏ね土器・中世土師皿・珠洲・中国製白磁・中国製青磁・木製品・石製品・金属製品がある。遺構出土の土器はわずかで、包含層出土の土器が優占している。また、その中でも数量的に多いのが須恵器である。中近世の土器・陶磁器はほとんどみられない。

### (1) 土器・陶磁器・土製品 (第15~17図、図版13~17)

1~94は古代の遺物で、95~101は中近世の遺物である。1~15・96は遺構出土、16~95・97~101は包含層出土のものである。

1~5はS I 1出土のもので、1~4は須恵器、5は土師器である。1は杯Aで、平坦な底部から体部はやや外反気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くおさめる。2は体部が外反気味に立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。器壁はやや厚い作りである。3・4は杯Bで、3は高台がハ字状に踏ん張る。体部は外反しながら立ち上がる。4はやや幅広の高台で内側が接地する。体部は外反気味に立ち上がる。5は壺で、肩部から口縁部はく字状に屈曲し、口縁端部は方形を呈する。6・7はSD174B出土の須恵器で、6が杯Bの底部破片、7は壺の底部高台分部の破片である。8はSD200B・221B出土の須恵器で、蓋である。扁平な天井部から、口縁部は屈曲して下方へ垂下させる。天井部には擬宝珠状のつまみを有する。9・10はSD248B出土のものである。9は土師器の壺で、肩部から口縁部はく字状に屈曲し、口縁端部を丸くおさめる。調整は摩滅のため不明である。10は手捏ね土器で、ナデ調整である。11はSE227B出土のカマド形土製品である。据部の破片で、器壁は肉厚である。外面にハケメ調整が施される。12はSB2の柱穴であるSP4A出土の須恵器の蓋で扁平な天井部に口縁端部はほとんど屈曲しない。13はSK104A出土の須恵器の杯Bで、方形の高台に外反気味の体部を有する。端部は丸くおさめる。14はSK11A出土の須恵器の壺底部で、高台は内端が接地する。15はSK230B出土の須恵器蓋で扁平な天井部に口縁端部は短く垂下させる。内面には線刻されているが、全容は不明である。

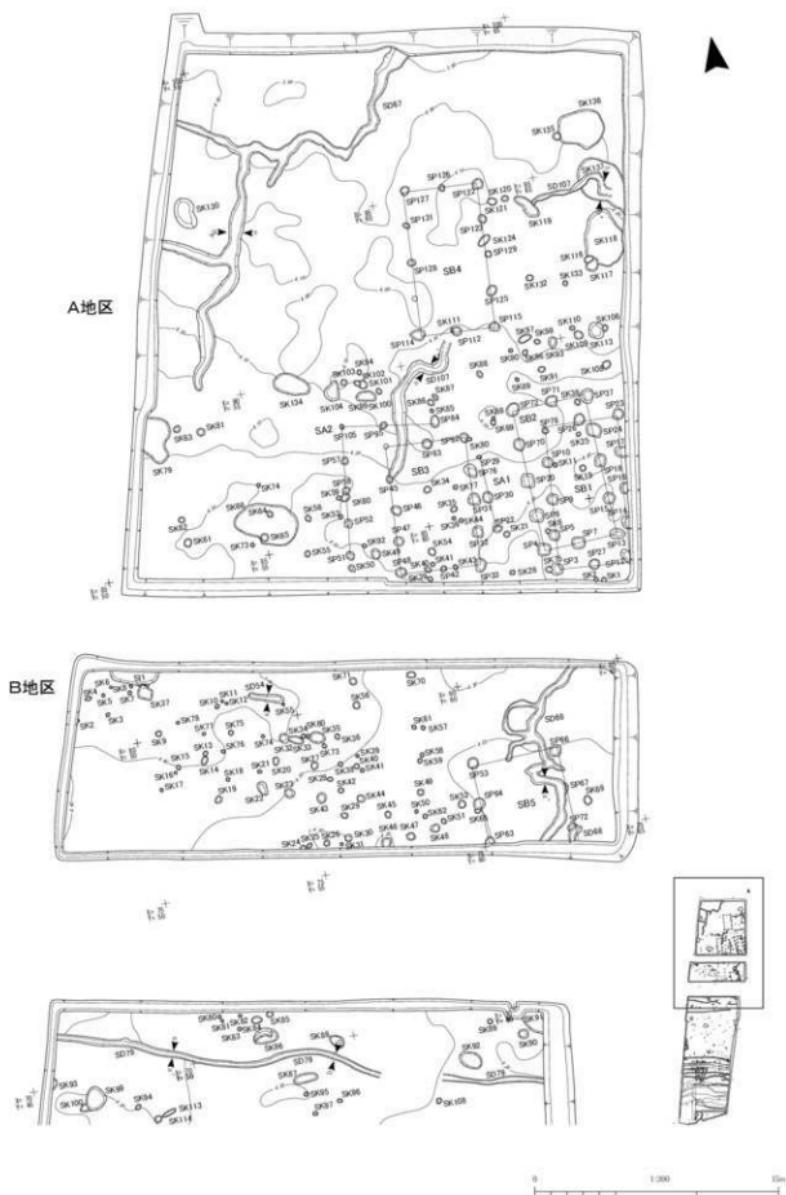
16~94は包含層出土のもので、16~41は須恵器の蓋である。16~29は扁平な天井部に口縁端部は屈曲して下方へ垂下させる。16~19・22・27の天井部には擬宝珠状のつまみが付く。16で口径15.4cm、器高は2.8cmである。30・31は口縁端部を小さく屈曲して作出している。32~34は笠型を呈する天井部に、口縁端部は短く垂下させる。34には擬宝珠状のつまみが付き、口径12.4cm、器高は4.1cmである。35・36は体部が直線的で端部は屈曲して垂下させる。37~41は内面に線刻が施された個体で、37で「○」がくずれたものか。39・40は「×」か。42~67は須恵器の杯Aである。42~44は尖底気味な底部に、直線的もしくは外反気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。口径12.0~12.8cm、器高3.5~4.0cmである。45~52は平坦な底部から屈曲し、外反気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。53~59は体部が直線もしくは内湾気味に立ち上がる。60~62は底部の破片である。63~67は底部外面に線刻が施された個体である。63~65は「×」と線刻が施される。68~82は須恵器の杯Bである。68~74は高台がハ字状を呈し、体部は外反気味に立ち上がる。75~77は高台が方形状を呈し、器壁はやや肉厚である。78~81は高台がハ字状に踏ん張る。79は体部が内湾気味に立ち上がり、78は沈線が巡る。82は高台見込みに「○」の線刻が施される。83は須恵器の鉢で、平坦な底部から外反気味に立ち上がる体部に、把手を有する。体部外面下位1/2程度をヘラケズリ

し、2条の沈線が巡る。口径23.9cm、器高は15.4cmである。84・85は須恵器の壺で、84は長頸壺の口縁部破片である。85は底部で、ハ字状の高台を有する。86は須恵器の双耳壺で、耳部の破片である。87～90は須恵器の壺で、87の口縁端部はやや肥厚させる。88～90は壺の口縁部破片で、波状文が施される。91～93は須恵器の横瓶で、93は閉塞円盤の痕跡が認められる。94は手捏ね土器の破片である。これらの古代の土器群は8世紀後半～9世紀を中心とする時期である。

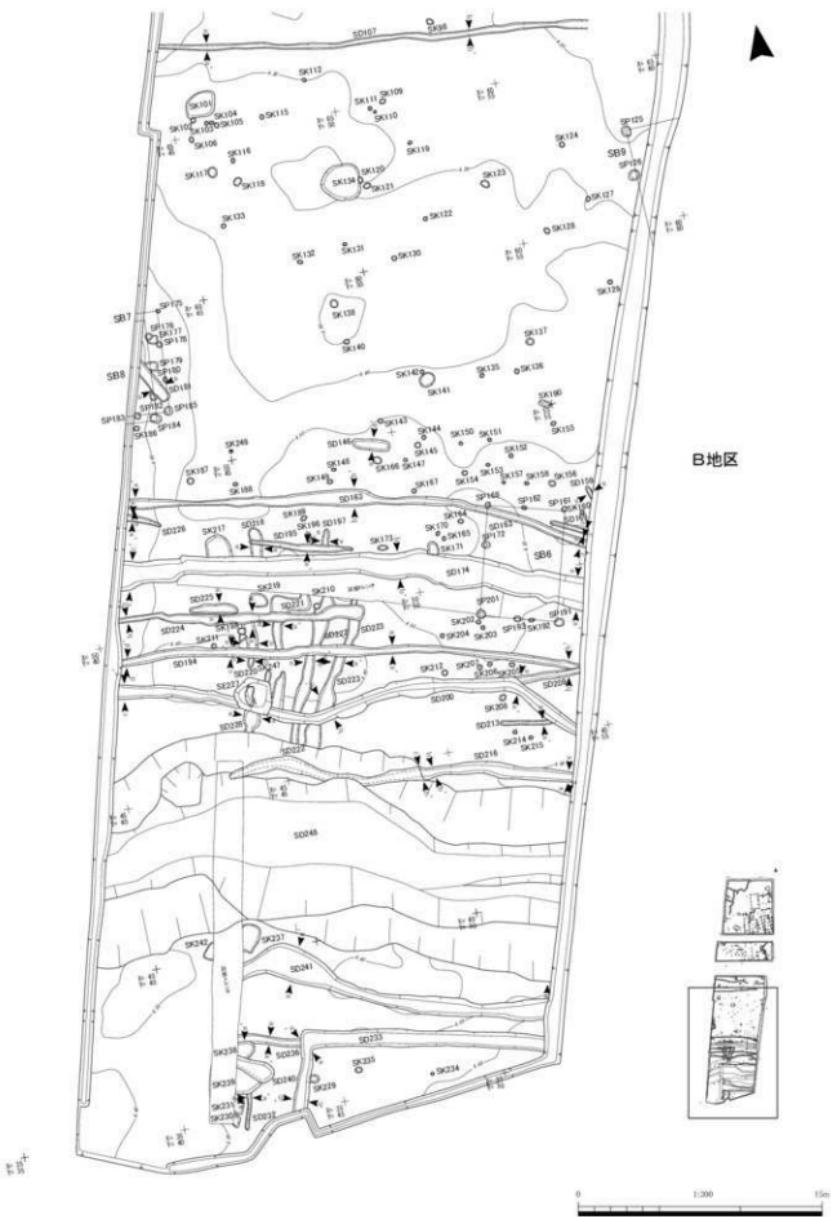
95～101は中世の土器・陶磁器である。95・96は珠洲の擂鉢の破片で、内面に卸し目が認められる。95・96は吉岡編年のII期とIII～IV期にそれぞれ比定される。97～99は中国製白磁、100・101は中国製青磁である。97・98は椀で、97の口縁部は小さな玉縁を呈する。98は高台の外面を垂直に、内面を斜めに削り出している。大宰府分類のII類に相当する。99は体部が外反気味に立ち上がり、口縁端部が口禿の皿で、IX類に分類される。100は龍泉窯系青磁の椀で、内面には蓮華文とみられる文様を片切彫りされている。101は杯とみられる個体で、口縁部を平坦に作出している。 (島田亮仁)

#### 参考文献

- 池野正男 1987「射水丘陵における8世紀後半の須恵器窯跡」『大境第11号』富山考古学会  
 内田亜希子 2000「越中婦負郡の古代土師器煮炊具—婦中町中名I・V・VI遺跡の堅穴住居出土資料を中心にして—」  
 『富山考古学研究 紀要第3号』財團法人富山県文化振興財團

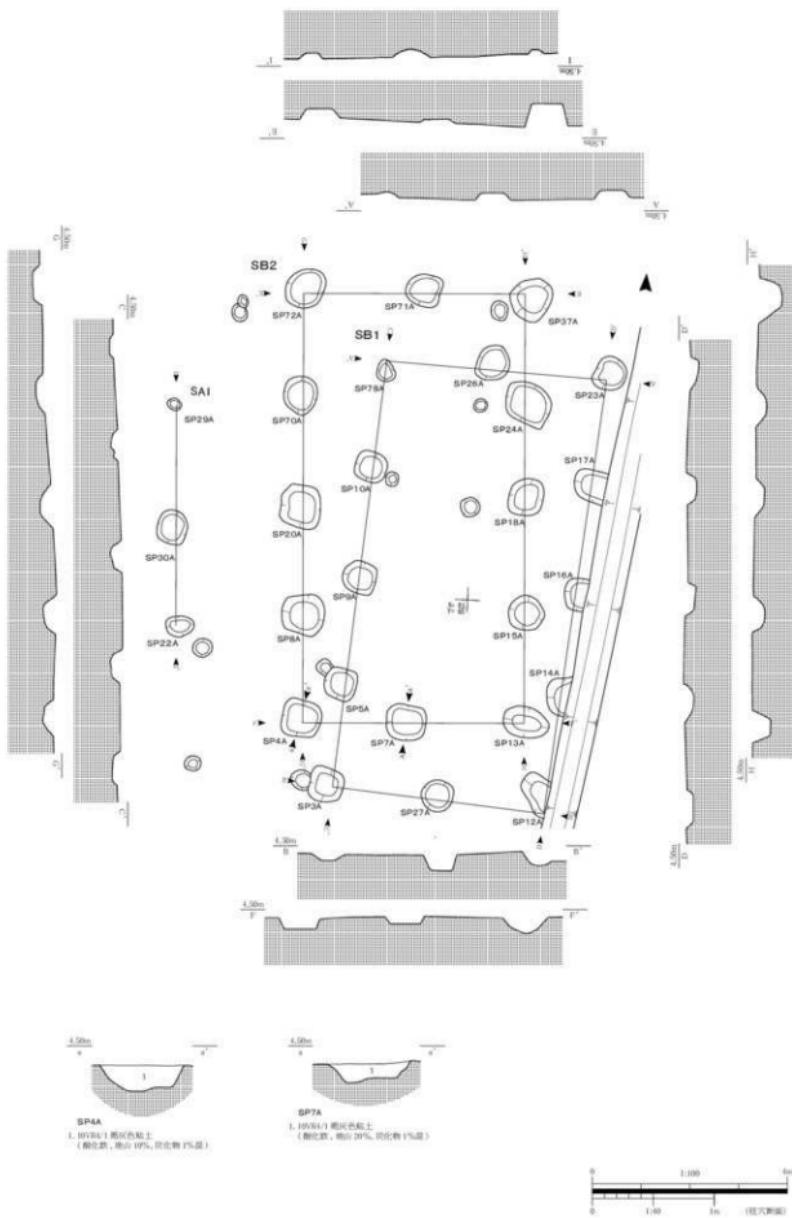


第5図 大野中遺跡 遺構全体図 (1:300)

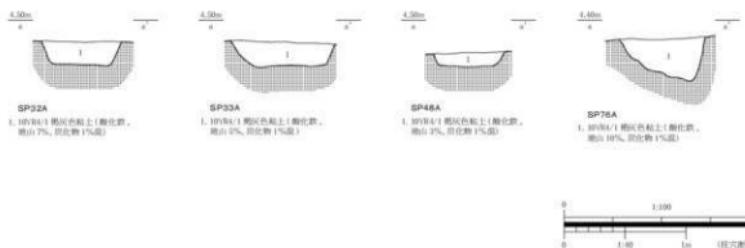
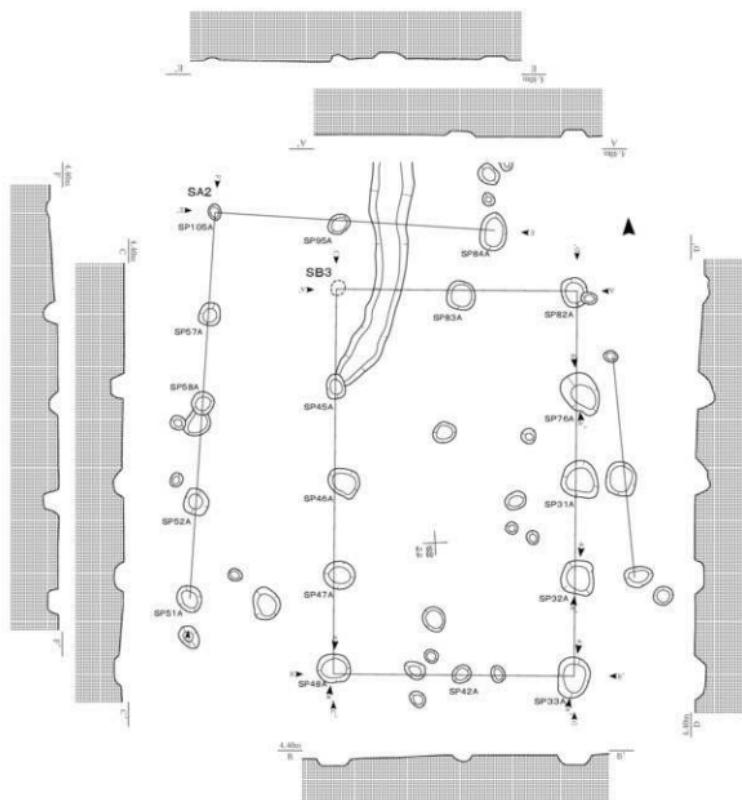


B地区

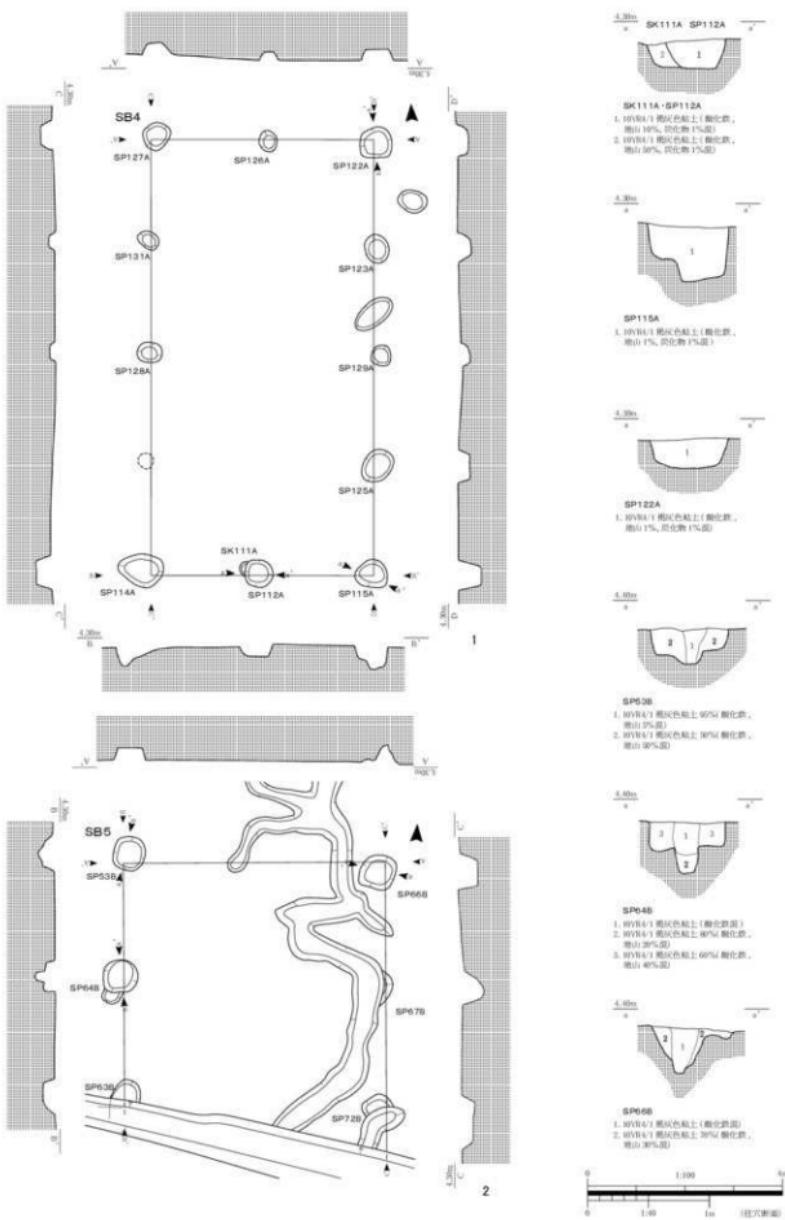
第6図 大野中遺跡 遺構全体図 (1:300)



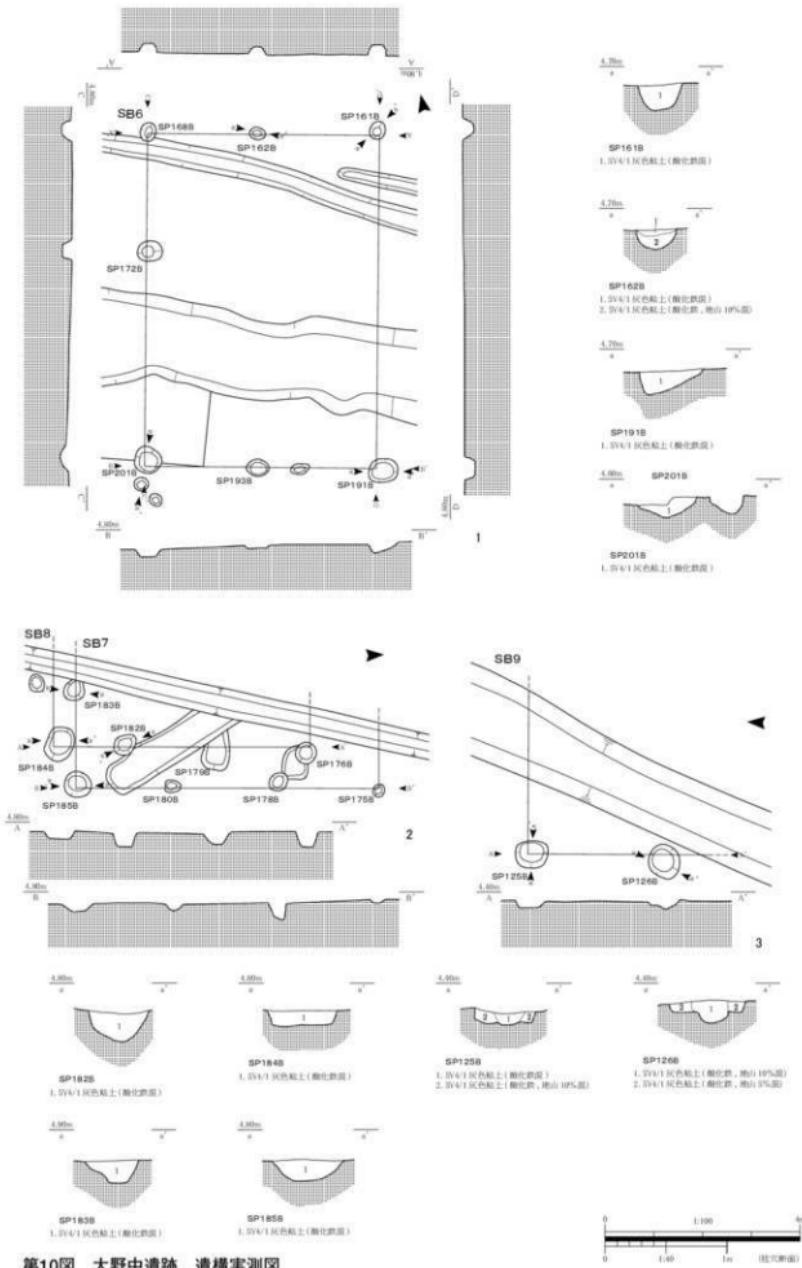
第7図 大野中遺跡 遺構実測図  
SB1・SB2・SAI



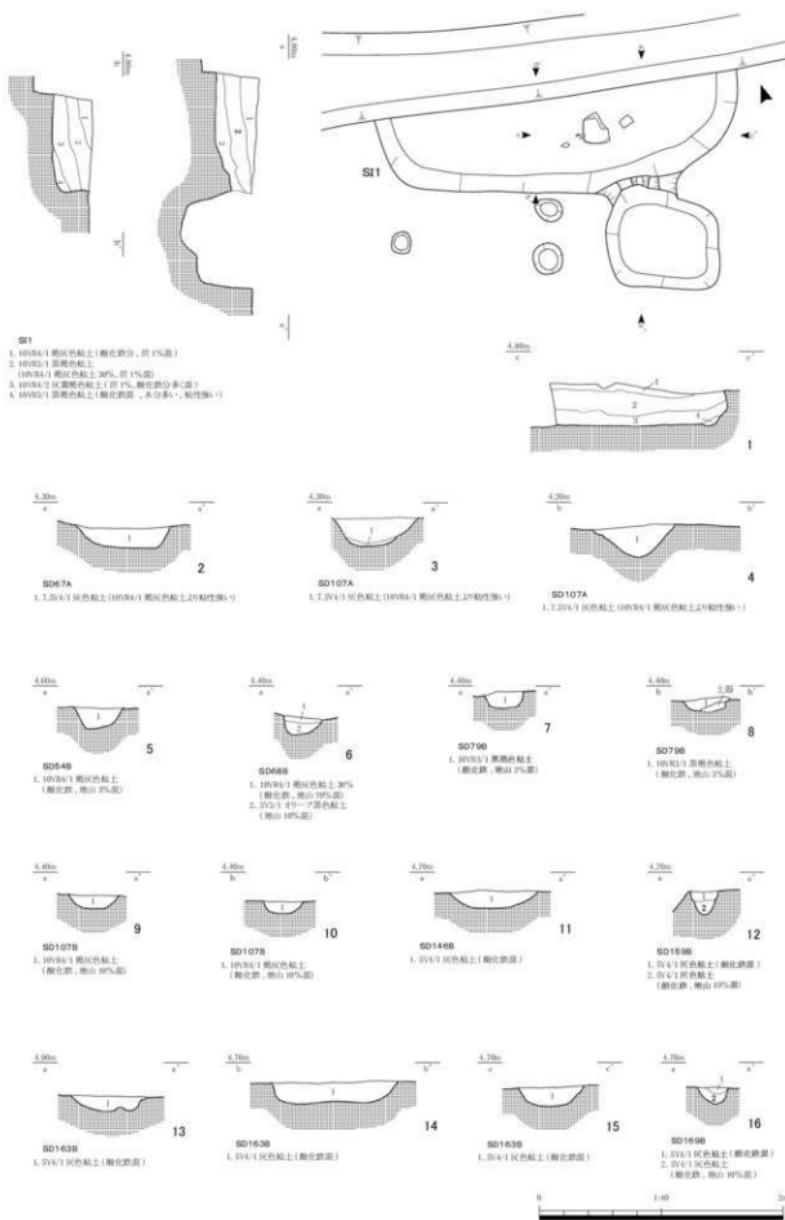
第8図 大野中遺跡 遺構実測図  
SB3・SA2



第9図 大野中遺跡 遺構実測図  
1. SB4 2. SB5

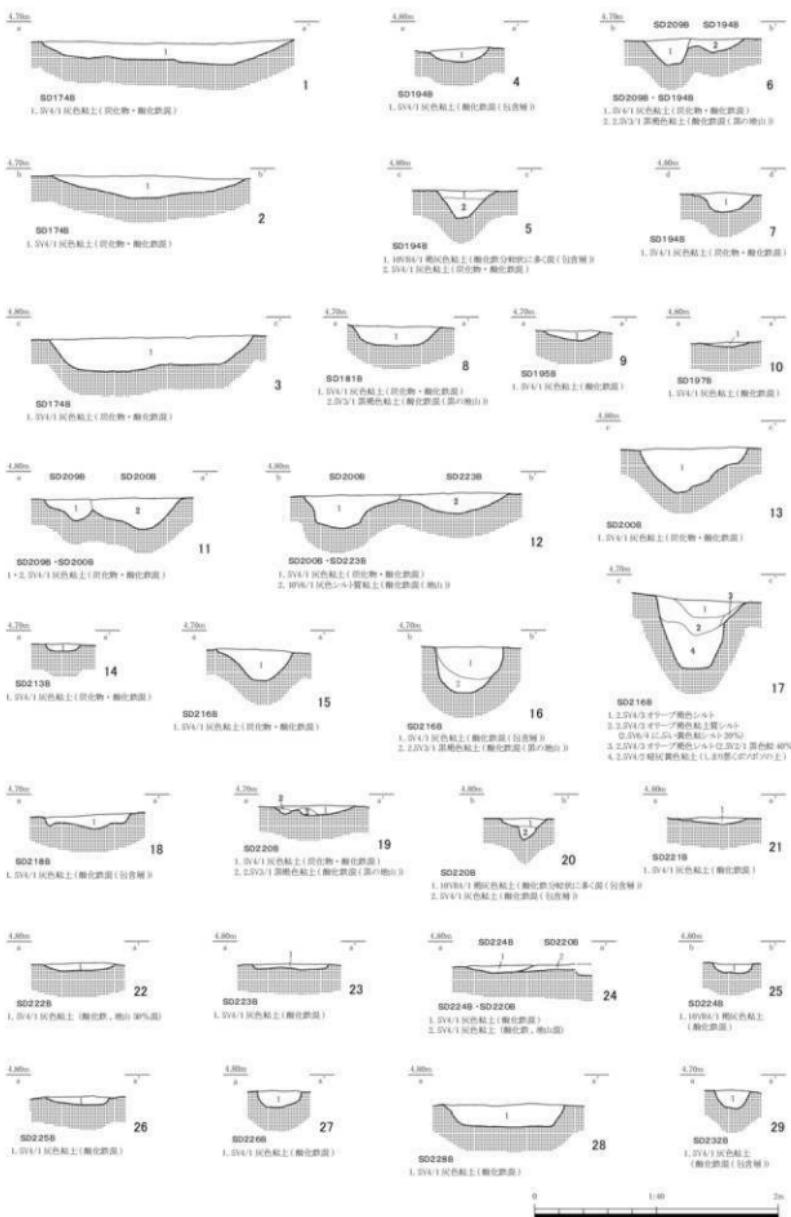


第10図 大野中遺跡 遺構実測図  
1. SB6 2. SB7-SB8 3. SB9



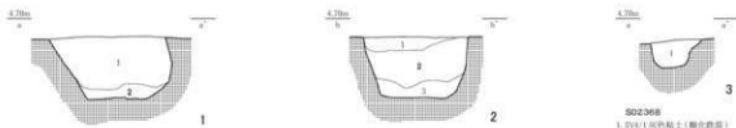
第11図 大野中遺跡 遺構実測図

1. SD11 2. SD67A 3・4. SD107A 5. SD54B 6. SD68B 7・8. SD79B 9・10. SD107B  
11. SD146B 12. SD159B 13～15. SD163B 16. SD169B



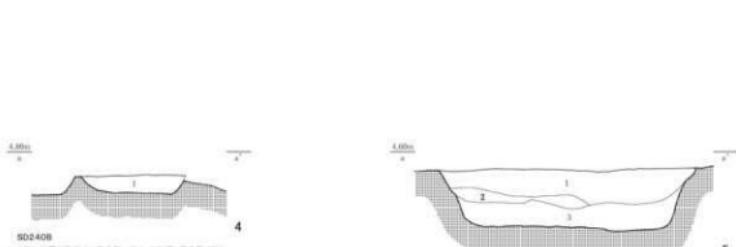
第12図 大野中遺跡 遺構実測図

1 ~ 3. SD174B 4 ~ 5. 7. SD194B 6. SD194B・SD209B 8. SD181B 9. SD195B 10. SD197B  
11. SD200B・SD209B 12. SD200B・SD223B 13. SD200B 14. SD213B 15 ~ 17. SD216B  
18. SD218B 19 ~ 20. SD220B 21. SD221B 22. SD222B 23. SD223B 24. SD220B・SD224B  
25. SD224B 26. SD225B 27. SD226B 28. SD228B 29. SD228B



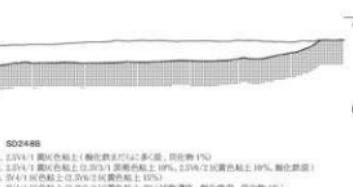
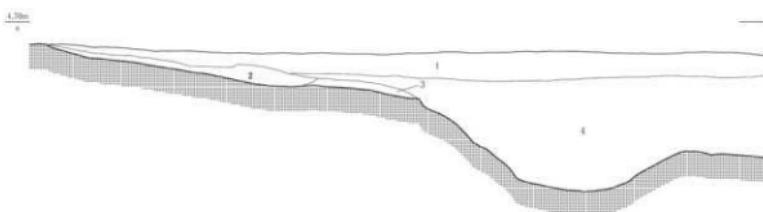
**SD233B**

1. 2.5V4/1 黑褐色粘土(腐化鉄, 地山 30%以上)  
2. 10V3/1 黑褐色粘土(腐化鉄, 地山 1%)  
3. 2.5V6/1 黑灰色粘土(腐化鉄, 地云灰)



**SD236B**

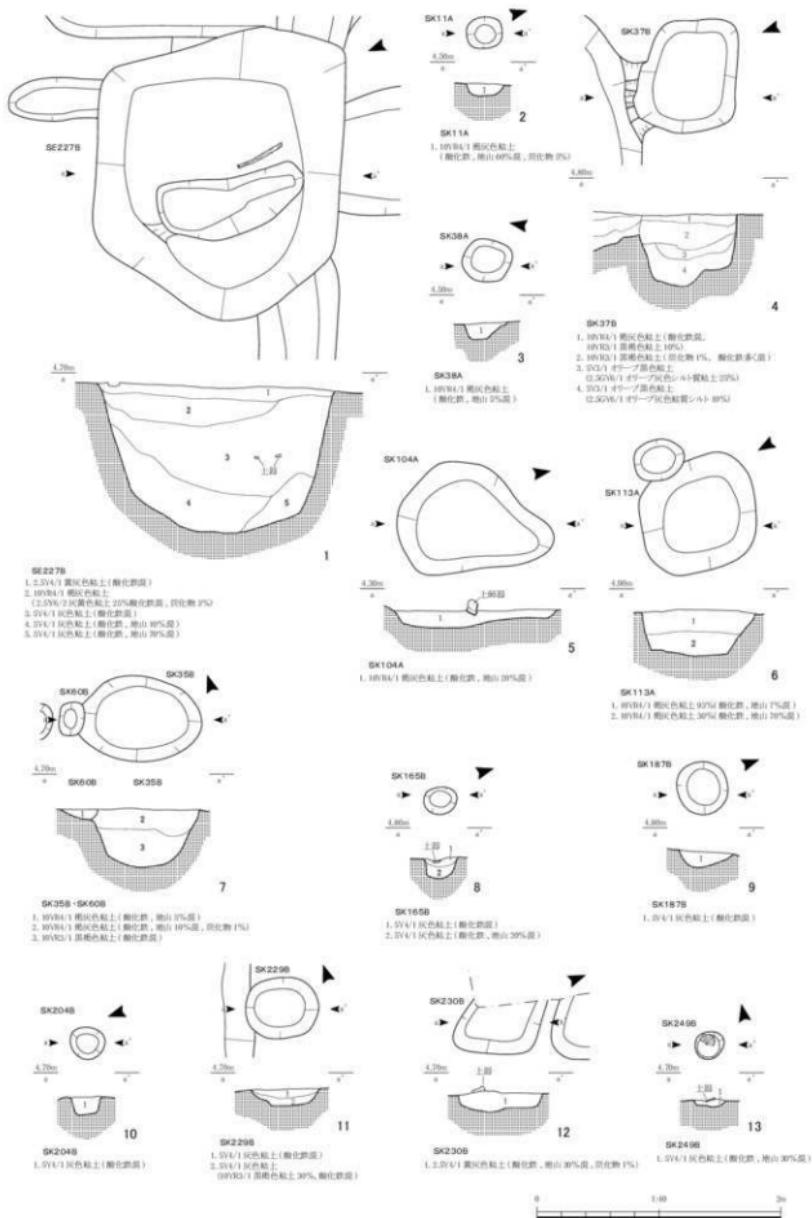
1. 2.5V4/1 黑灰色粘土(腐化鉄, 地山 40%以上, 腐化物 2%)  
2. 10V3/1 黑褐色粘土(腐化鉄, 地山 1%)  
3. 2.5V6/1 黑色粘土(腐化鉄, 地山 7%以上, 腐化物 1%)



**第13図 大野中遺跡 遺構実測図**

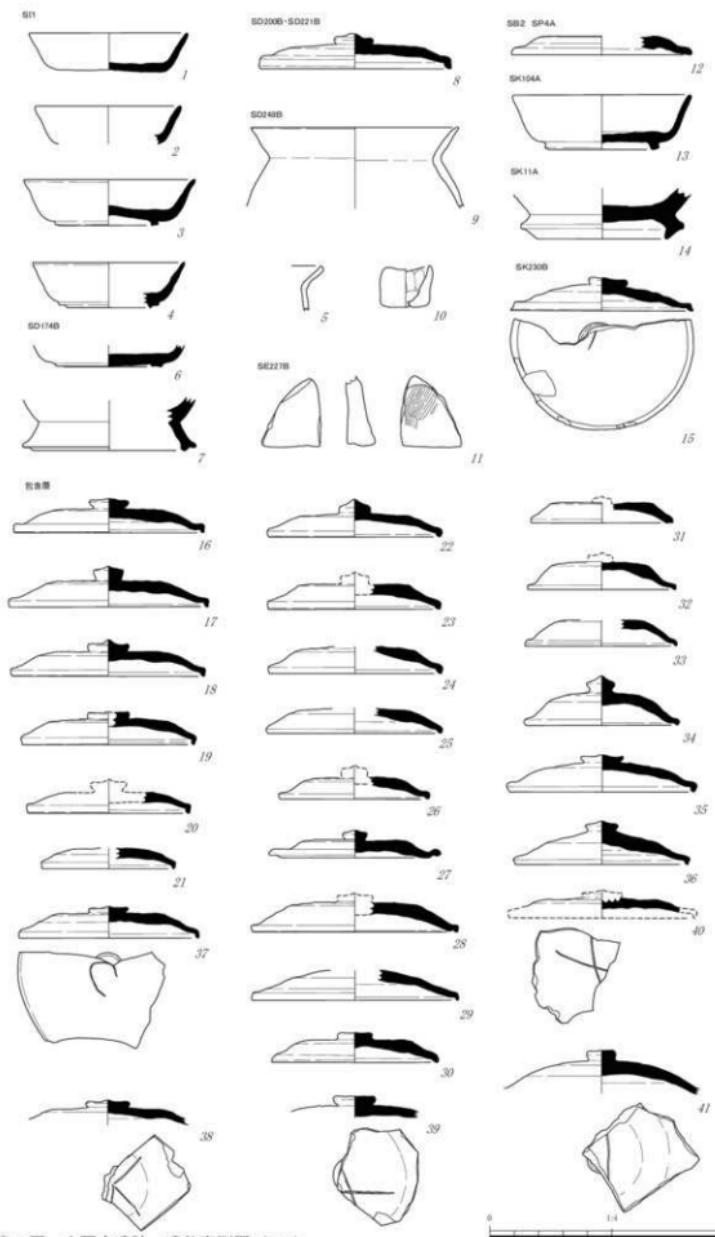
1・2. SD233B 3. SD236B 4. SD240B 5. SD241B 6. SD248B





第14図 大野中遺跡 遺構実測図

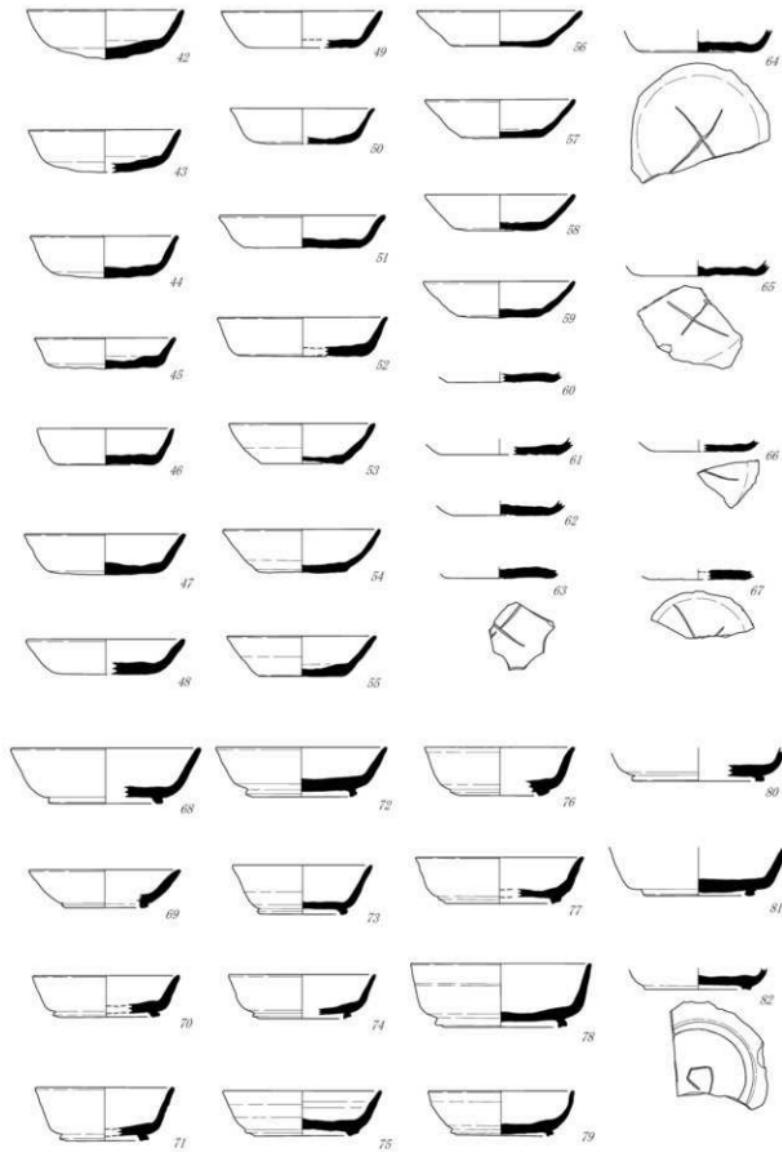
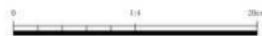
1. SE227B
2. SK11A
3. SK38A
4. SK37B
5. SK104A
6. SK113A
7. SK35B · SK60B
8. SK165B
9. SK187B
10. SK204B
11. SK229B
12. SK230B
13. SK249B

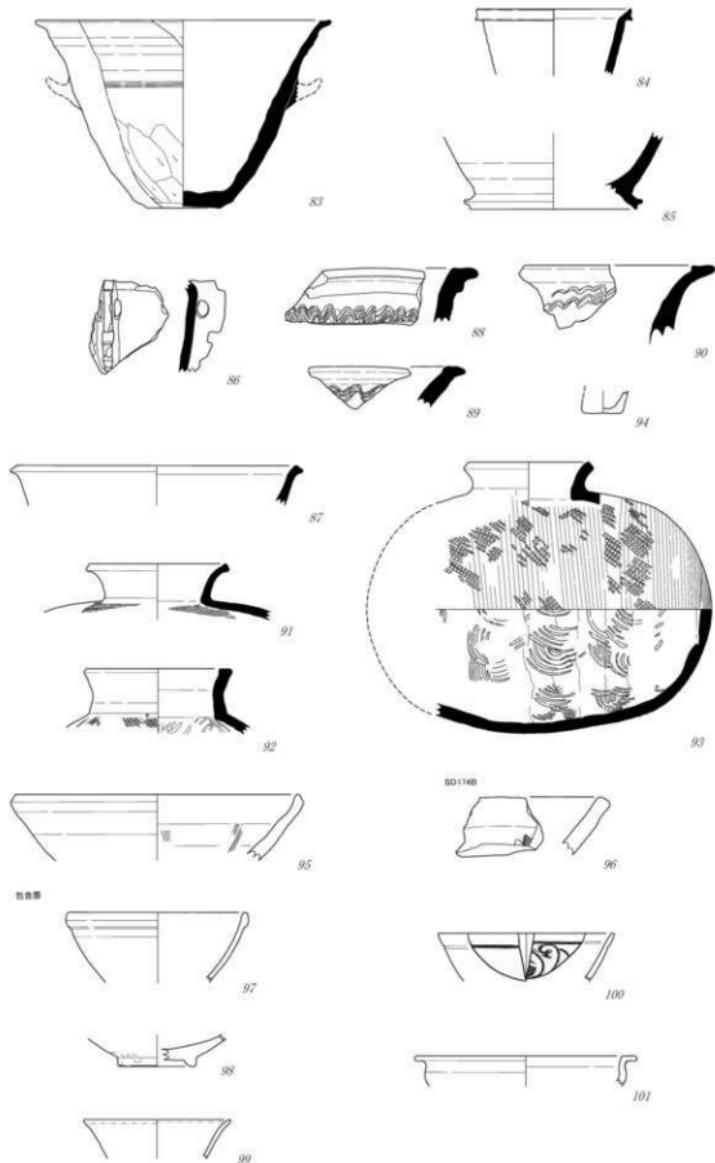


第15図 大野中遺跡 遺物実測図 (1/4)

SII (1 ~ 5) SD174B (6, 7) SD200B・SD211B (8) SD248B (9, 10) SE227B (11) SB2 SP4A (12)  
SK11A (14) SK104A (13) SK230B (15) 包含層

包含層

第16図 大野中遺跡 遺物実測図 (1/4)  
包含層



第17図 大野中遺跡 遺物実測図 (1/4)  
SD174B (96) 包含層



第5表 大野中遺跡 古代掘立柱建物一覧

地区	建物	種別	桁行 (m)	梁行 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	棟方位	柱穴規模 径 (m)	柱穴規模 深さ (m)	柱間距離 幅 (m)	柱間距離 梁 (m)	出土遺物	挿図	写真 図版		
A	SB1	南北椎 側柱	4間	8.9	2間	4.55	40.50	N-4°-E	0.38~0.78	0.10~0.34	2.00~2.30	2.20~2.45	7	9	
A	SB2	南北椎 側柱	4間	8.75	2間	4.55	39.81	N-3°-W	0.63~0.96	0.06~0.50	1.90~2.35	2.15~2.45	土師器、 須恵器	7	9
A	SB3	南北椎 側柱	4間	7.85	2間	4.95	38.86	N-3°-E	0.36~0.96	0.10~0.37	1.70~2.10	2.30~2.65	土師器、 須恵器	8	9
A	SB4	南北椎 側柱	4間	8.9	2間	4.55	40.50	N-3°-E	0.34~0.92	0.10~0.47	2.15~2.30	2.25~2.40		9	10
B	SB5	南北椎 側柱	(2間)	(5.90)	1間	5.35	(31.57)	N-3°-W	0.58~0.72	0.25~0.46	2.35~2.50	5.15		9	11
B	SB6	南北椎 側柱	3間	6.8	2間	4.75	32.30	N-43°-E	0.25~0.60	0.06~0.22	2.45~4.30	2.20~2.55	須恵器	10	
B	SB7	南北椎 側柱?	3間	6.2	(1間)	(2.00)	(12.40)	N-3°-E	0.22~0.56	0.07~0.36	2.00~2.15	1.90		10	
B	SB8	南北椎 側柱?	3間	6.2	—	—	N-3°-E	0.40~0.72	0.13~0.33	1.35~1.90	—	土師器	10		
B	SB9	?	(1間)	(2.75)	—	—	N-2°-W	0.57~0.67	0.14~0.18	2.75	—		10		

第6表 大野中遺跡 柱穴一覧 (1)

建物・樁	造構	平面形	規模 (m)			出土遺物	時期	特記事項	切り合い	挿図	写真 図版
			長さ	幅	深さ						
SA1	SP22A	楕円	0.57	0.43	0.14	土師器、須恵器	古代			7	
	SP29A	円	0.29	0.24	0.06		古代			7	
	SP30A	隅丸方	0.69	0.62	0.17		古代			7	
SA2	SP51A	円	0.58	0.50	0.23		古代			8	
	SP52A	隅丸方	0.52	0.52	0.32		古代			8	
	SP57A	隅丸方	0.48	0.48	0.28		古代			8	10
	SP58A	円	0.48	0.48	0.20		古代			8	
	SP84A	楕円	0.80	0.54	0.08		古代			8	
	SP95A	楕円	0.48	0.38	0.14		古代			8	
SB1	SP105A	楕円	0.34	0.26	0.05		古代			8	
	SP3A	隅丸方	0.71	0.69	0.17		古代			7	
	SP5A	隅丸方	0.62	0.68	0.20		古代			7	
	SP9A	隅丸方	0.70	0.66	0.20		古代			7	
	SP10A	隅丸方	0.65	0.60	0.15		古代			7	
	SP12A	不整	(0.70)	0.64	0.28		古代			7	
	SP14A	隅丸方	0.77	(0.45)	0.19		古代			7	
	SP16A	隅丸方	0.67	(0.46)	0.24		古代			7	
	SP17A	楕円	(0.67)	0.65	0.20		古代			7	
	SP23A	隅丸方	0.71	0.65	0.18		古代			7	
SB2	SP26A	円	0.78	0.65	0.15		古代			7	
	SP27A	円	0.65	0.65	0.34		古代			7	10
	SP78A	楕円	0.46	0.38	0.10		古代			7	
	SP4A	隅丸方	0.80	0.75	0.21	土師器、須恵器 (12)	古代			7	10
	SP7A	隅丸方	0.80	0.71	0.18	土師器	古代			7	
	SP8A	隅丸方	0.88	0.80	0.27		古代			7	
	SP13A	楕円	0.95	0.63	0.35	土師器	古代			7	
SP15A	SP15A	円	0.75	0.70	0.25		古代			7	
	SP18A	隅丸方	0.77	0.70	0.20		古代			7	
	SP20A	隅丸方	0.88	0.82	0.25		古代			7	
	SP24A	隅丸方	0.96	0.80	0.21		古代			7	
	SP37A	隅丸方	0.90	0.82	0.50		古代			7	

第6表 大野中遺跡 柱穴一覧(2)

建物・構	造構	平面形	規模(m)			出土遺物	時期	登記事項	切り合い	挿図	写真 図版
			長さ	幅	深さ						
SB2	SP70A	円	0.80	0.68	0.14		古代			7	
	SP71A	隅丸方	0.70	0.68	0.06		古代			7	
	SP72A	隅丸方	0.88	0.76	0.19		古代			7	
SB3	SP31A	隅丸方	0.77	0.76	0.30		古代			8	
	SP32A	隅丸方	0.80	0.76	0.20	須恵器	古代			8	
	SP33A	隅丸方	0.84	0.66	0.20	土師器、須恵器	古代			8	
	SP42A	楕円	0.42	0.36	0.11		古代			8	
	SP45A	隅丸方	0.52	0.38	0.23		古代		>SD107A	8	
	SP46A	隅丸方	0.66	0.56	0.21		古代			8	
	SP47A	円	0.64	0.58	0.20		古代			8	
	SP48A	隅丸方	0.68	0.58	0.11		古代			8	
	SP76A	楕円	0.96	0.68	0.37	須恵器	古代			8	
	SP82A	隅丸方	0.60	0.52	0.12		古代			8	
SB4	SP112A	隅丸方	0.58	0.56	0.24		古代		>SK111A	9	
	SP114A	楕円	0.92	0.68	0.35		古代			9	
	SP115A	円	0.66	0.58	0.47		古代			9	
	SP122A	隅丸方	0.64	0.64	0.24		古代			9	
	SP123A	円	0.60	0.48	0.28		古代			9	
	SP125A	楕円	0.74	0.56	0.26		古代			9	
	SP126A	円	0.44	0.38	0.17		古代			9	
	SP127A	隅丸方	0.60	0.52	0.23		古代			9	
	SP128A	楕円	0.52	0.42	0.10		古代			9	
	SP129A	円	0.44	0.40	0.18		古代			9	
SB5	SP131A	楕円	0.44	0.34	0.12		古代			9	
	SP53B	隅丸方	0.70	0.63	0.29		古代			9	
	SP63B	楕円	0.60	(0.42)	0.25		古代			9	
	SP64B	隅丸方	0.72	0.70	0.41		古代			9	12
	SP66B	円	0.71	0.71	0.36		古代			9	
	SP67B	隅丸方	0.58	(0.18)	0.46		古代		<SD68B	9	
SB6	SP72B	隅丸方	0.60	(0.28)	0.40		古代		<SD68B	9	
	SP161B	楕円	0.38	0.32	0.22		古代			10	
	SP162B	楕円	0.33	0.25	0.17		古代			10	
	SP168B	楕円	0.40	0.32	0.19		古代		>SD163B	10	
	SP172B	楕円	0.32	0.42	0.18		古代			10	
	SP191B	隅丸方	0.60	0.48	0.18	須恵器	古代			10	
SB7	SP193B	楕円	0.47	0.35	0.06		古代			10	
	SP201B	円	0.55	0.51	0.17	須恵器	古代			10	
	SP175B	円	0.28	0.22	0.07		古代			10	
	SP178B	円	0.42	0.36	0.36		古代			10	
	SP180B	楕円	0.32	0.25	0.12		古代			10	
SB8	SP183B	円	0.42	(0.40)	0.19		古代			10	
	SP185B	円	0.56	0.52	0.18		古代			10	
	SP176B	円	0.44	0.40	0.33		古代			10	
	SP179B	隅丸方	(0.68)	0.58	0.26		古代		<SD181B	10	
SB9	SP182B	隅丸方	0.52	0.42	0.26	土師器	古代		>SD181B	10	
	SP184B	楕円	0.72	0.56	0.13		古代			10	
	SP125B	楕円	0.67	0.57	0.14		古代			10	
SB9	SP126B	円	0.67	0.65	0.18		古代			10	

第7表 大野中遺跡 穫穴建物一覧

地区	建物	造構	種類	平面形	規模 (m)			出土遺物	特記事項	切り合い	押図	写真 図版
					長さ	幅	深さ					
B	SII	SII	竪穴建物	隅丸方	3.00	(0.80)	0.36	土師器 (5), 須恵器 (1~4)	南東部分の一角をSK37Bに切りられ、北側の半分以上が調査区外にのびる。 主軸方向はN8°E	<SK37B	II	II

第8表 大野中遺跡 井戸一覧

造構	平面形	規模 (m)			出土遺物	時期	特記事項	切り合い	押図	写真 図版
		長さ	幅	深さ						
SE227B	円	2.38	2.00	1.23	土師器, 須恵器, 土製品, カマド形土製品 (II), 棒材	中世	素掘りの井戸	>SD200B - 228B	14	12

第9表 大野中遺跡 土坑一覧

造構	平面形	規模 (m)			出土遺物	時期	特記事項	切り合い	押図	写真 図版
		長さ	幅	深さ						
SK11A	稍円	0.29	0.26	0.10	須恵器 (I4)	古代			14	
SK38A	円	0.40	0.34	0.14	土師器	古代			14	
SK104A	不整	1.30	0.96	0.14	土師器, 須恵器 (I3)	古代			14	
SK111A	円	0.30	0.16	0.20		古代		<SP112A (SB4)	9	
SK113A	稍円	0.96	0.92	0.38	土師器	古代			14	
SK35B	稍円	(0.96)	0.70	0.48	土師器	古代		<SK60B	14	
SK37B	隅丸方	0.92	0.80	0.58		古代		>SII	14	
SK60B	稍円	0.28	0.20	0.08		古代		>SK35B	14	
SK165B	稍円	0.26	0.24	0.18	土師器	古代			14	
SK187B	円	0.42	0.42	0.14	土師器	古代			14	
SK204B	円	0.28	0.26	0.15	土師器	古代			14	
SK229B	稍円	0.60	0.50	0.14	土師器	中世以降		>SD233B	14	
SK230B	稍円	0.70	(0.40)	0.18	土師器, 須恵器 (I5)	古代			14	12
SK249B	円	0.24	0.20	0.06	土師器	古代			14	

第10表 大野中遺跡 溝・自然流路一覧

遺構	種類	規模 (m)		出土遺物	時期	特記事項	切り合い	排図	写真 図版
		幅	深さ						
SD67A	溝	0.76	0.18					5・11	10
SD107A	溝	0.66 / (0.68)	0.27 / (0.22)				<SP45A (SB3)	5・11	
SD54B	溝	0.40	0.18		古代			5・11	
SD68B	溝	0.32	0.16	桶彌板	古代		>SP67B・72B (SB5)	5・11	
SD79B	溝	0.32 / 0.38	0.14 / 0.11	土師器	古代			5・11	12
SD107B	溝	0.40 / 0.33	0.12 / 0.10		古代			6・11	
SD146B	溝	0.70	0.15		古代			6・11	
SD159B	溝	0.22	0.19		古代			6・11	
SD163B	溝	0.62 / 1.03 / 0.53	0.14 / 0.19 / 0.17	須恵器	古代以降		<SP168B (SB6)	6・11	
SD169B	溝	0.24	0.14		古代			6・11	
SD174B	溝	2.06 / 1.58 / 1.68	0.20 / 0.18 / 0.30	土師器、 須恵器 (6・7), 珠洲 (96)	古代以降		>SD218B	6・12	
SD181B	溝	0.74	0.17	須恵器	古代		>SP179B (SB8), <SP182B (SB8)	6・12	
SD194B	溝	0.46 / 0.50 / 0.50	0.11 / 0.23 / 0.16	土師器、須恵器	古代以降		>SD220B・221B・222B・ 223B, <SD209B	6・12	
SD195B	溝	0.45	0.08		古代		>SD197B・218B	6・12	
SD197B	溝	0.39	0.04		古代		<SD195B	6・12	
SD200B	溝	0.73 / 0.78 / 0.88	0.26 / 0.27 / 0.38	須恵器 (8)	古代		>SD209B・213B・221B・ 222B・223B, <SE227B	6・12	
SD209B	溝	0.38	0.22		古代		>SD194B, <SD200B	6・12	
SD213B	溝	0.28	0.06		古代		<SD200B	6・12	
SD216B	溝	0.62 / 0.56 / 0.73	0.26 / 0.38 / 0.60	弥生土器	古代			6・12	
SD218B	溝	0.72	0.12		古代		<SD174B・195B	6・12	
SD220B	溝	0.64 / 0.39	0.08 / 0.18		古代以降		<SD194B・224B	6・12	
SD221B	溝	0.56	0.06	土師器、 須恵器 (8)	古代以降		<SD194B・200B・224B	6・12	
SD222B	溝	0.58	0.06	土師器、須恵器、 土製品	古代以降		<SD194B・200B・224B・ 248B	6・12	
SD223B	溝	0.88	0.17	土師器、須恵器	古代以降		<SD194B・200B・224B・ 248B	6・12	
SD224B	溝	0.54 / 0.32	0.06 / 0.08	土師器、須恵器	古代以降		>SD220B・221B・222B・ 223B	6・12	
SD225B	溝	0.53	0.07		古代以降			6・12	
SD226B	溝	0.36	0.14		古代以降			6・12	
SD228B	溝	1.00	0.20	土師器	古代?		<SD248B・SE227B	6・12	
SD232B	溝	0.28	0.15	土師器	古代?		<SK239B	6・12	
SD233B	溝	1.00 / 0.84	0.52 / 0.50	土師器、須恵器	中世以降		>SD236B, <SK229B	6・13	
SD236B	溝	0.41	0.23	土師器	古代		<SD233B	6・13	
SD240B	溝	0.86	0.15		中世以降			6・13	
SD241B	溝	2.10	0.52		中世以降			6・13	
SD248B	自然流路	11.56	1.20	土師器 (9・10), 須恵器、土製品, 板材	古代以降		>SD222B・223B・228B	6・13	

第11表 大野中遺跡 土器・陶製器・土製品一覧（1）

件名	分類	名前	出土地点	種類	形態	寸法 (mm)	断面	時期	計測用	絶対色調	絶対色調	地質	備考
1	土器	高湯	X503131 1号	須恵器	盤	17.0	断面	7.5	7.5	7.5	7.5	白色	
2	土器	高湯	X503131 2号	須恵器	盤	11.8	2.2	7.5	7.5	Neg. 0	Neg. 0	白色	
3	土器	高湯	X503131 3号	須恵器	盤	14.1	2.5	8.4	8.5	Neg. 0	Neg. 0	白色	
4	土器	高湯	X503131 4号	須恵器	盤	12.1	3.7	6.8	7.5	Neg. 0	Neg. 0	白色	
5	土器	高湯	X503131 5号	須恵器	盤	14.2	2.5	5.9	7.5	Neg. 0	Neg. 0	白色	
6	土器	高湯	X503174B	須恵器	盤	14.2	2.5	8.7	7.5	Neg. 0	Neg. 0	白色	
7	土器	高湯	X503173Z	須恵器	盤	14.2	2.5	14.2	7.5	Neg. 0	Neg. 0	白色	
8	土器	高湯	X503090B	須恵器	盤	13.5	2.0	7.5	7.5	Neg. 0	Neg. 0	白色	
9	土器	高湯	X502145B	須恵器	盤	13.5	2.2	7.5	7.5	2.5YR 6/6	2.5YR 6/6	白色	
10	土器	高湯	X507165	須恵器	盤	17.0	2.5	7.5	7.5	5YR 6/4	5YR 6/4	白色	
11	土器	高湯	X507167	須恵器	盤	17.0	2.5	7.5	7.5	7.5YR 7/3	7.5YR 7/3	白色	
12	土器	高湯	X507210	須恵器	盤	17.0	2.5	7.5	7.5	7.5YR 7/3	7.5YR 7/3	白色	
13	土器	高湯	X507169	須恵器	盤	17.0	2.5	7.5	7.5	7.5YR 7/3	7.5YR 7/3	白色	
14	土器	高湯	X507164A	須恵器	盤	14.5	4.5	9.3	7.5	Neg. 0	Neg. 0	白色	
15	土器	高湯	X507164A	須恵器	盤	13.5	3.2	13.5	7.5	5YR 6/4	5YR 6/4	白色	
16	土器	高湯	X507164B	須恵器	盤	15.0	2.7	7.5	7.5	5YR 6/4	5YR 6/4	白色	
17	土器	高湯	X503062 1号	須恵器	盤	15.4	2.6	7.5	7.5	Neg. 0	Neg. 0	白色	
18	土器	高湯	X505139 1号	須恵器	盤	15.4	2.6	7.5	7.5	Neg. 0	Neg. 0	白色	
19	土器	高湯	X505139 2号	須恵器	盤	14.1	2.7	7.5	7.5	Neg. 0	Neg. 0	白色	
20	土器	高湯	X505139 3号	須恵器	盤	13.2	2.7	7.5	7.5	Neg. 0	Neg. 0	白色	
21	土器	高湯	X505139 4号	須恵器	盤	10.8	2.5	7.5	7.5	Neg. 0	Neg. 0	白色	
22	土器	高湯	X505139 5号	須恵器	盤	14.2	3.1	7.5	7.5	7.5YR 6/3	7.5YR 6/3	白色	
23	土器	高湯	X505139 6号	須恵器	盤	14.0	3.1	7.5	7.5	7.5YR 7/1	7.5YR 7/1	白色	
24	土器	高湯	X505139 7号	須恵器	盤	14.2	3.1	7.5	7.5	7.5YR 7/1	7.5YR 7/1	白色	
25	土器	高湯	X505139 8号	須恵器	盤	14.3	3.1	7.5	7.5	7.5YR 7/1	7.5YR 7/1	白色	
26	土器	高湯	X505139 9号	須恵器	盤	13.2	2.7	7.5	7.5	7.5YR 7/1	7.5YR 7/1	白色	
27	土器	高湯	X427301 1号	須恵器	盤	14.2	2.2	7.5	7.5	2.5YR 7/1	2.5YR 7/1	白色	
28	土器	高湯	X427301 2号	須恵器	盤	14.2	2.2	7.5	7.5	2.5YR 7/1	2.5YR 7/1	白色	
29	土器	高湯	X427301 3号	須恵器	盤	16.7	2.0	7.5	7.5	Neg. 0	Neg. 0	白色	
30	土器	高湯	X427301 4号	須恵器	盤	16.9	2.4	7.5	7.5	Neg. 0	Neg. 0	白色	
31	土器	高湯	X427301 5号	須恵器	盤	13.6	2.4	7.5	7.5	Neg. 0	Neg. 0	白色	
32	土器	高湯	X427301 6号	須恵器	盤	14.6	2.8	7.5	7.5	2.5YR 6/3	2.5YR 6/3	白色	
33	土器	高湯	X427301 7号	須恵器	盤	11.6	2.0	7.5	7.5	2.5YR 6/3	2.5YR 6/3	白色	
34	土器	高湯	X427301 8号	須恵器	盤	12.0	2.7	7.5	7.5	2.5YR 6/3	2.5YR 6/3	白色	

第11表 大野中遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧（2）

件名	分類	遺物 名	遺物 種類	出土地点	性質	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	時期	詳細説明	出土の位置	総色調	地質	備考
13	33	11. B	X4616 II 磁	須佐窯	直	17.0	15.5	4.1	古代	No. 0	灰白色	白色	砂利	
24	14	A	X49376 II 磁	須佐窯	直	>15.4	13.4	2.3	古代	317.1	灰白色	白色	砂利	
35	14	B	X70190 II 磁	須佐窯	直	>15.2	13.0	3.0	古代	10YR 6.3	淡青灰色			
36	14	B	X78176 II 磁	須佐窯	直	14.0	12.6	2.7	古代	23Y7.4	6.5F灰色	砂利		
37	14	A	X85190 I - Ⅱ 磁	須佐窯	直	14.8	12.6	3.3	古代	73Y7.4	6.5F白色	白色	砂利 + 土色粒	内側へ記号
38	14	A	X90187 II 磁	須佐窯	直	14.0	12.6	3.6	古代	No. 0	灰白色	白色	砂利	内側へ記号
39	14	A	X94194 II 磁	須佐窯	直	14.0	12.6	3.4	古代	No. 0	灰白色	白色	砂利	内側へ記号
40	14	A	X95196 II 磁	須佐窯	直	14.0	12.6	3.4	古代	73Y7.4	6.5F白色	白色	砂利	内側へ記号
41	14	B	X40190 II 磁	須佐窯	直	>14.0	12.6	2.4	古代	No. 0	灰白色	白色	砂利	内側へ記号
42	15	A	X49371 II 磁	須佐窯	6A	12.8	10.5	3.5	古代	23Y6.2	6.5F白色	砂利		
43	15	B	X69173 II 磁	須佐窯	6A	12.4	10.5	3.5	古代	No. 0	灰白色	砂利		
44	15	A	X49166 II 磁	須佐窯	6A	12.0	10.5	3.5	古代	No. 0	灰白色	砂利		
45	15	A	X89166 II 磁	須佐窯	6A	11.5	10.6	3.6	古代	51Y7.1	6.5F白色	白色	砂利	
46	15	A	X90175 II 磁	須佐窯	6A	11.0	10.6	3.6	古代	No. 0	灰白色	白色	砂利	
47	15	A	X90176 II 磁	須佐窯	6A	11.1	10.5	3.5	古代	No. 0	灰白色	白色	砂利	
48	15	A	X49176 II 磁	須佐窯	6A	11.2	10.5	3.5	古代	10YR 6.3	淡青灰色	白色	砂利	
49	15	A	X49178 II 磁	須佐窯	6A	11.1	10.5	3.5	古代	No. 0	灰白色	白色	砂利	
50	15	A	X92173 II 磁	須佐窯	6A	11.7	10.5	3.5	古代	72Y6.1	6.5F白色	白色	砂利 + 砂利	
51	15	A	X84173 II 磁	須佐窯	6A	12.5	10.5	3.7	古代	73Y7.1	6.5F白色	白色	砂利	
52	15	A	X94176 II 磁	須佐窯	6A	12.9	10.5	3.7	古代	73Y7.1	6.5F白色	白色	砂利	
53	15	B	X79176 II 磁	須佐窯	6A	11.9	10.5	3.7	古代	No. 0	灰白色	白色	砂利 + 砂利	
54	13	B	X69176 II 磁	須佐窯	6A	12.8	10.5	3.7	古代	No. 0	灰白色	白色	砂利	
55	15	B	X77176 II 磁	須佐窯	6A	12.2	10.5	3.5	古代	317.1	6.5F白色	白色	砂利	
56	15	B	X69176 II 磁	須佐窯	6A	13.4	10.5	3.5	古代	No. 0	灰白色	白色	砂利	
57	15	B	X69176 II 磁	須佐窯	6A	12.8	10.5	3.5	古代	No. 0	灰白色	白色	砂利	
58	15	A	X49176 II 磁	須佐窯	6A	12.2	10.5	3.5	古代	73Y6.1	6.5F白色	白色	砂利 + 砂利	
59	15	B	X69176 II 磁	須佐窯	6A	12.4	10.5	3.5	古代	51Y7.1	6.5F白色	白色	砂利	
60	15	A	X49174 II 磁	須佐窯	6A	12.9	10.5	3.5	古代	No. 0	灰白色	白色	砂利	
61	15	A	X97196 II 磁	須佐窯	6A	12.5	10.5	3.5	古代	No. 0	灰白色	白色	砂利 + 砂利	
62	15	A	X98196 II 磁	須佐窯	6A	12.8	10.5	3.5	古代	No. 0	灰白色	白色	砂利	
63	15	A	X49176 II 磁	須佐窯	6A	12.4	10.5	3.5	古代	73Y6.1	6.5F白色	白色	砂利	
64	15	A	X93196 II 磁	須佐窯	6A	12.2	10.5	3.5	古代	73Y7.1	6.5F白色	白色	砂利	
65	15	B	X49176 II 磁	須佐窯	6A	12.5	10.5	3.5	古代	No. 0	灰白色	白色	砂利	
66	15	A	X88176 II 磁	須佐窯	6A	12.8	10.5	3.5	古代	73Y7.1	6.5F白色	白色	砂利	
67	15	B	X50176 II 磁	須佐窯	6A	12.2	10.5	3.5	古代	No. 0	灰白色	白色	砂利 + 砂利	

第11表 大野中遺跡 土器・陶製器・土製品一覧（3）

件番	器物	分類	基盤	鉢形	口径	上口径	底径	深さ	計測用	絞土色調	土色調	施薬	備考
16	16 A 16 A	器物 出土未記	X951981号 直筒	直筒 直筒	16.1 12.5	4.6 3.1	7.3 7.3	2.7	N6.0	灰褐色			
16	16 A 16 A	器物 直筒	X951981号 X951981号	直筒 直筒	11.9 11.3	3.4 4.3	7.5 7.5	2.7	N5.0	灰褐色			
17	16 A 16 A	器物 直筒	X951981号 X951981号	直筒 直筒	11.3 11.0	4.3 4.3	7.3 7.3	2.7	N6.0	灰褐色			
17	16 B 16 B	器物 直筒	X951981号 X951981号	直筒 直筒	14.0 12.1	4.1 4.0	9.1 8.1	2.7	2.5Y7.1	灰褐色			
17	16 B 16 B	器物 直筒	X951981号 X951981号	直筒 直筒	12.9 12.0	3.6 3.6	8.9 8.9	2.7	N6.0	灰褐色			
17	16 B 16 B	器物 直筒	X951981号 X951981号	直筒 直筒	12.1 11.8	4.0 3.8	8.0 8.0	2.7	2.5Y7.1	灰褐色			
17	16 A 16 A	器物 直筒	X951981号 X951981号	直筒 直筒	14.7 13.8	5.2 5.1	10.8 10.8	2.7	7.5Y7.1	灰褐色			
17	16 A 16 A	器物 直筒	X951981号 X951981号	直筒 直筒	11.9 11.9	3.7 3.7	8.5 8.5	2.7	N7.0	灰褐色			
17	16 A 16 A	器物 直筒	X951981号 X951981号	直筒 直筒	10.8 10.8	3.4 3.4	7.5 7.5	2.7	2.5Y7.1	灰褐色			
17	17 A 17 A	器物 直筒	X951981号 X951981号	直筒 直筒	12.6 12.5	3.5 3.4	8.0 8.0	2.7	5YR7.2	明褐色			
17	17 B 17 B	器物 直筒	X951981号 X951981号	直筒 直筒	12.6 12.6	3.5 3.5	8.0 8.0	2.7	N6.0	灰褐色			
17	17 B 17 B	器物 直筒	X951981号 X951981号	直筒 直筒	14.7 14.7	5.1 5.1	10.8 10.8	2.7	N6.0	灰褐色			
17	17 B 17 B	器物 直筒	X951981号 X951981号	直筒 直筒	12.5 12.5	3.5 3.5	7.5 7.5	2.7	N5.0	灰褐色			
17	17 B 17 B	器物 直筒	X951981号 X951981号	直筒 直筒	12.0 11.7	3.5 3.5	7.5 7.5	2.7	7.5Y7.1	灰褐色			
17	17 B 17 B	器物 直筒	X951981号 X951981号	直筒 直筒	11.7 11.7	3.5 3.5	7.5 7.5	2.7	N7.0	灰褐色			
17	17 B 17 B	器物 直筒	X951981号 X951981号	直筒 直筒	11.8 11.6	3.5 3.4	7.5 7.5	2.7	5YR7.1	明褐色			
17	17 B 17 B	器物 直筒	X951981号 X951981号	直筒 直筒	10.6 10.6	2.2 2.2	5.5 5.5	2.7	N6.0	灰褐色			
17	17 B 17 B	土器	X951981号 X951981号	土器	21.0 19.8	5.1 5.1	10.5 10.5	2.7	5YR7.4	1.5-2.5の褐色			
17	17 A 17 A	土器	X951981号 X951981号	土器	21.0 19.8	5.1 5.1	10.5 10.5	2.7	2.5Y7.1	1.5-2.5の褐色			
17	17 A 17 A	土器	X951981号 X951981号	土器	14.5 14.5	4.2 4.2	9.6 9.6	2.7	10YR8.1	灰褐色			
17	17 A 17 A	土器	X951981号 X951981号	土器	6.2 6.2	1.7 1.7	4.6 4.6	2.7	2.5Y7.2	灰褐色			
17	17 A 17 A	土器	X951981号 X951981号	土器	12.0 11.3	4.2 4.2	8.5 8.5	2.7	2.5Y7.1	灰褐色			
17	17 A 17 A	土器	X951981号 X951981号	土器	14.3 14.3	4.2 4.2	8.5 8.5	2.7	7.5Y7.1	灰褐色			
17	17 A 17 A	土器	X951981号 X951981号	土器	17.6 17.6	4.2 4.2	8.5 8.5	2.7	N7.0	灰褐色			

## 5 自然科学分析

### (1) 大野中遺跡の花粉・植物珪酸体分析

#### A 分析目的および試料

本遺跡では、古代および古代以降の古植生の検討を目的として、以下に示す試料を対象に、自然科学分析を実施した。

試料はA地区の調査区南壁より採取された土壌5点（試料番号①, ③～⑥）である。調査区南壁の堆積層は上位より①～④層に区分され、①・②層がI層（表土）、③層がII層（古代；8°C後半～9°C前半の包含層）、④層がIII層（地山に相当する基盤層）にそれぞれ対比される。分析に供された試料は、I層上部に相当する①層（Ia層；試料番号①）、同下部に相当する②層（Ib層；試料番号③）、II層上部（試料番号④）と同下部（試料番号⑤）、III層上部（試料番号⑥）から採取されている。

#### B 分析方法

##### a 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下で、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本はじめ、Erdman (1952, 1957), Faegri and Iversen (1989)などの花粉形態に関する文献や、鳥倉 (1973), 中村 (1980), 藤木・小澤 (2007)等の邦産植物の花粉写真集等を参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の層位分布図として表示する。図表中で複数の種類を「-」で結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。なお、木本花粉総数が100個未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるため、出現した種類を「+」で表示するに留めている。

##### b 植物珪酸体分析

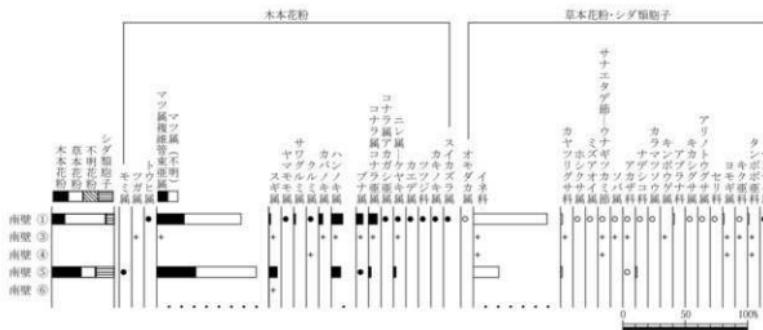
各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュエラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体）を、近藤 (2010) の分類を参考に同定し、計数する。分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量を正確に計量し、堆積物1gあたりの植物珪酸体含量（同定した数を堆積物1gあたりの個数に換算）を求める。

結果は植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、各分類群の含量は100単位として表示し、100個/g未満は「<100」と表示する。また、各分類群の植物珪酸体含量の層位の変化を図示する。

#### C 結 果

##### a 花粉分析

結果を第12表、第18図に示す。花粉化石の保存状態はいずれの試料も悪く、特に試料番号③、④、



第18図 大野中遺跡 花粉化石群集

第12表 大野中遺跡 花粉分析結果

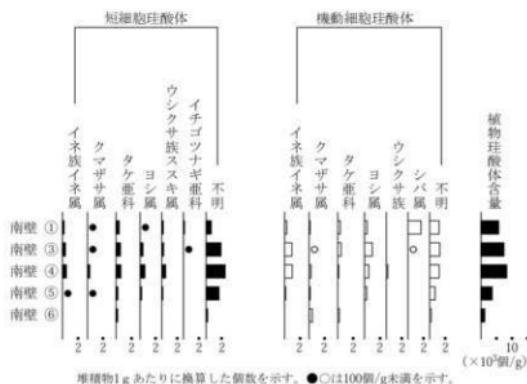
分類群	南壁					
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
木本花粉	—	—	—	—	1	—
モミ属	—	—	—	—	—	—
ツガ属	—	3	—	—	—	—
トウヒ属	1	—	—	—	—	—
マツ属	48	1	—	33	—	—
マツ属(不明)	99	3	—	51	—	—
スギ属	3	2	—	7	—	1
ヤマモモ属	1	—	—	—	—	—
サワグルミ属	3	—	—	—	—	—
クルミ属	1	—	1	—	—	—
カバノキ属	7	3	—	—	—	—
ハンノキ属	20	3	—	8	—	—
ブナ属	12	5	—	2	—	—
コナラ属	45	2	—	2	—	—
コナラ属コナラ亜属	1	—	—	—	—	—
コナラ属カシ亜属	2	3	—	2	—	—
カエデ属	1	—	—	—	—	—
ツヅジ科	1	—	—	—	—	—
カキノキ属	1	—	—	—	—	—
スイカズラ属	1	—	—	—	—	—
草本花粉	—	—	—	—	—	—
オモダカ属	1	—	—	—	—	—
イネ科	631	55	2	46	—	—
カヤツリグサ科	45	1	—	—	3	—
ホシクサ属	1	—	—	—	—	—
ミズアオイ属	1	—	—	—	—	—
サナエタデ属	4	1	1	—	—	—
ソバ属	4	1	—	—	—	—
アカザ科	2	2	—	—	1	3
ナデシコ科	2	—	—	—	—	—
カラマツソウ属	1	—	—	—	—	—
キンポウゲ属	—	1	—	—	—	—
アブラナ科	13	—	—	—	—	—
キカシグサ属	2	—	—	—	—	—
アリノトウガサ属	3	—	—	—	—	—
セリ科	5	—	—	—	—	—
ヨモギ属	11	3	1	—	—	—
キク亜科	5	3	—	—	—	—
タンボボ亜科	12	2	1	—	—	—
不明花粉	13	10	—	2	—	—
シダ類胞子	—	—	—	—	—	—
ゼンマイ属	1	—	—	—	—	—
他のシダ類胞子	135	120	107	66	18	—
合計	217	25	1	105	1	—
木本花粉	713	69	5	53	0	—
草本花粉	13	10	0	2	0	—
不明花粉	136	120	107	66	18	—
計	1066	214	113	224	19	—

⑥は花粉化石の含量が少ない。試料番号⑤は、木本花粉ではマツ属の割合が高く、他の種類はほとんど検出されない。草本類はイネ科が多い。試料番号①は、木本花粉ではマツ属の割合が高く、草本花粉ではイネ科が多い。また、ソバ属やヨシ属などの栽培植物の花粉化石も含む（イネ属はイネ科花粉の中に少量含まれている）。両試料の傾向は似るが、下位の試料番号⑤は検出される分類群が少なく、草本花粉（特にイネ科）の割合が低い。

### b 植物珪酸体分析

結果を第13表、第19図に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるが、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められるなど、保存状態が悪い。

植物珪酸体含量は、1,200~8,300個/gであり、試料番号④および上位の試料で含量が高い傾向を示す。クマザサ属を含むタケア科やヨシ属、スキ属を含むウシクサ族などが検出されるほか、栽培植物のイネ属も認められる。イネ属は、試料番号⑤および上位の試料より検出されるが、短細胞珪酸体および機動細胞珪酸体の含量は低い。



第19図 大野中遺跡 植物珪酸体含量

第13表 大野中遺跡 植物珪酸体含量

(個/g)

分類群	南壁				
	①	③	④	⑤	⑥
イネ科葉部短細胞珪酸体					
イネ族イネ属	200	400	500	<100	-
クマザサ属	<100	<100	300	<100	-
タケア科	400	600	600	200	200
ヨシ属	<100	400	600	200	-
ウシクサ族スキ属	200	200	500	100	-
イチゴツナギ科	100	<100	-	-	-
不明	700	1,900	2,500	1,700	200
イネ科葉身機動細胞珪酸体					
イネ族イネ属	300	900	1,000	100	-
クマザサ属	100	<100	200	100	400
タケア科	300	400	100	-	200
ヨシ属	300	1,000	600	300	-
ウシクサ族	-	-	200	-	-
シバ属	1,700	<100	-	-	-
不明	1,200	1,300	1,200	700	200
合計	1,800	3,600	5,000	2,400	400
イネ科葉部短細胞珪酸体	4,000	3,800	3,300	1,200	800
イネ科葉身機動細胞珪酸体	5,800	7,400	8,300	3,600	1,200

## D 考 察

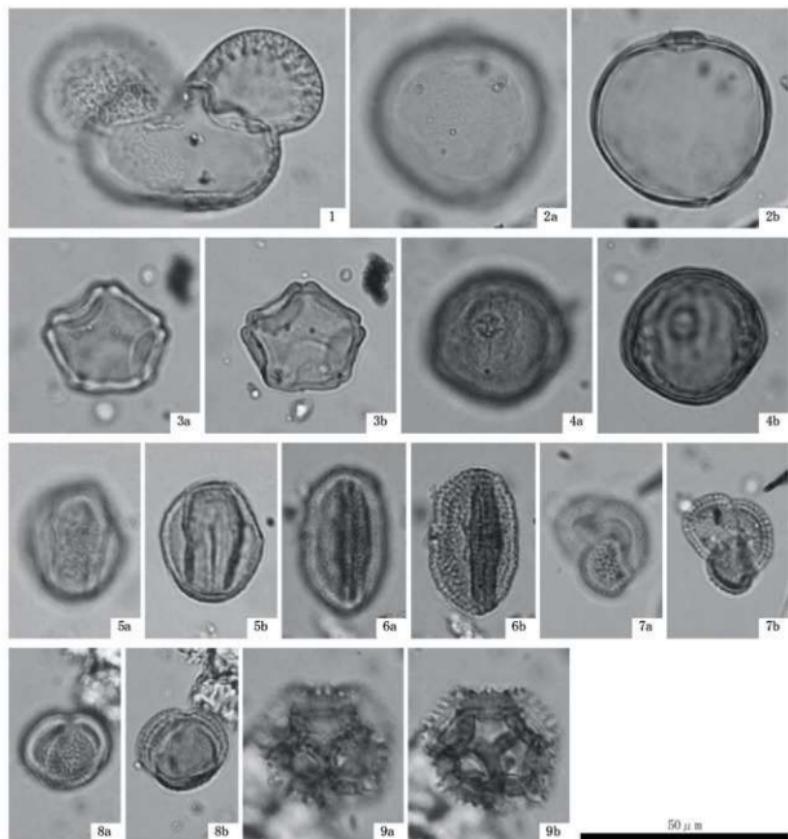
A地区南壁の堆積層における花粉分析結果を見ると、花粉化石の保存状態が悪い。花粉化石は、好気的環境下による風化に弱く、低地部においても自然堤防などの微高地では花粉化石が残りにくい傾向がある。上庄川の低地における古代頃の花粉化石群集をみると、中尾新保谷内遺跡や神明北遺跡のように、ハンノキ属、スギ属、コナラ亜属など低湿地に森林を構成する木本類が多く検出されるほか、沼沢域に生育する水生植物の花粉、種実遺体も多く検出されている（パリノ・サーヴェイ株式会社、2009a・2009b）。本遺跡の包含層（Ⅱ層）の一部（試料番号⑤）は、マツ属とイネ科が多いが、これは近世～現在の作土（I層）と組成が類似する。上述した中尾新保谷内遺跡や神明北遺跡に確認された組成と異なることから、上位の堆積層の影響（擾乱など）を考慮する必要がある。I層は現在の耕作土に相当するI層（試料番号①）では、マツ属とイネ科が多産する。マツ属が多いのは周辺の植生改変によりマツの二次林や植林が増えたためと考えられ、イネ科などの草本類は周辺の耕地化が進んだことが要因と考えられる。

植物珪酸体も花粉化石と同様に保存状態が悪い。植物珪酸体は、アルカリ性を示す水域や、乾湿を繰り返すような場所においては、風化が進み保存が悪くなる傾向がある（江口、1994、1996など）。したがって、堆積機構の影響により土壤中の珪酸質が溶脱し、保存され難い状況下にあったことが想定される。なお、植物珪酸体の保存状態が良かった中尾新保谷内遺跡の結果では、ヨシ属が多く、次いでタケ亜科が多いが、タケ亜科の中でもクマザサ属の産出が多い。今回の結果も、含量は少ないものの、これと同様な結果を示していることから、同様な景観が推定される。すなわち、ヨシ属は、低地を中心生育していたとみられる。また、クマザサ属は多雪地に多いササ類であり、林縁部や丘陵地内のギャップなどの森林が失われた場所に先駆的に進入してササ草原を形成したり、落葉樹林の林床に生育することが多い。そのため、検出されたクマザサ属は後背山地に由来すると思われる。なお、今回の結果では、含量は低いものの、古代の包含層および上位の堆積層よりイネ属が検出される。イネ属は、花粉と同様に擾乱の影響も想定されるが、調査地付近での稻作を反映している可能性がある。

（パリノ・サーヴェイ株式会社 田中義文・馬場健司）

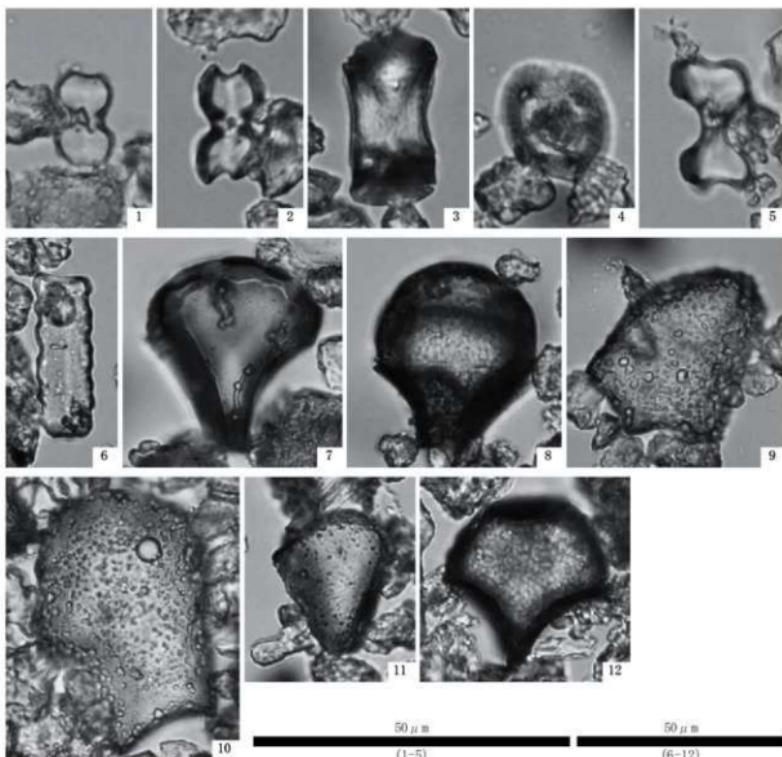
## 引用文献

- 江口誠一 1994 「沿岸域における植物珪酸体の分布 千葉県小櫃川河口域を例にして」『植生誌研究』2 19-27  
 江口誠一 1996 「沿岸域における植物珪酸体の風化と堆積物のpH値」『ペトロジスト』40 81-84  
 Erdtman G. 1952. Pollen morphology and plant taxonomy: Angiosperms (An introduction to palynology. I). Almqvist & Wiksell, 539p  
 Erdtman G. 1957. Pollen and Spore Morphology/Plant Taxonomy: Gymnospermae, Pteridophyta, Bryophyta (Illustrations) (An Introduction to Palynology. II). 147p  
 Feagri K. and Iversen Johs. 1989. Textbook of Pollen Analysis. The Blackburn Press, 328p  
 藤木利之・小澤智生 2007 「琉球列島植物花粉図鑑」アカコーアル全画 155p  
 近藤鍊三 2010 「プラント・オパール図譜」北海道大学出版会 387p  
 中村 純 1967 「花粉分析」古今書院 232p  
 中村 純 1980 「日本産花粉の標識 I II (図版)」大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第12・13集 91p  
 パリノ・サーヴェイ株式会社 2009a 「中尾新保谷内遺跡の自然科学分析」『中尾茅戸遺跡・中尾新保谷内遺跡・神明北遺跡・大野江瀬遺跡発掘調査報告 -能越自動車軌道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告書Ⅶ』第二分冊 富山県文化振興財團埋蔵文化財発掘調査報告第41集、財团法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所 2-70  
 パリノ・サーヴェイ株式会社 2009b 「神明北遺跡の自然科学分析」『中尾茅戸遺跡・中尾新保谷内遺跡・神明北遺跡・大野江瀬遺跡発掘調査報告 -能越自動車軌道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告書Ⅷ』第二分冊 富山県文化振興財團埋蔵文化財発掘調査報告第41集、財团法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所 125-140  
 烏倉巳三郎 1973 「日本植物の花粉形態」大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第5集 60p



- |                    |               |
|--------------------|---------------|
| 1. マツ属(南壁:①)       | 2. イネ科(南壁:①)  |
| 3. ハンノキ属(南壁:①)     | 4. ブナ属(南壁:①)  |
| 5. コナラ属コナラ亜属(南壁:①) | 6. ソバ属(南壁:①)  |
| 7. アブラナ科(南壁:①)     | 8. ヨモギ属(南壁:①) |
| 9. タンボボ亜科(南壁:①)    |               |

写真1 花粉化石



1. イネ属短細胞珪酸体(南壁:①)  
 3. クマザサ属短細胞珪酸体(南壁:④)  
 5. ススキ属短細胞珪酸体(南壁:①)  
 7. イネ属機動細胞珪酸体(南壁:③)  
 9. クマザサ属機動細胞珪酸体(南壁:④)  
 11. ウシクサ族機動細胞珪酸体(南壁:④)
2. イネ属短細胞珪酸体(南壁:④)  
 4. ヨシ属短細胞珪酸体(南壁:③)  
 6. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体(南壁:①)  
 8. イネ属機動細胞珪酸体(南壁:④)  
 10. ヨシ属機動細胞珪酸体(南壁:③)  
 12. シバ属機動細胞珪酸体(南壁:①)

写真2 植物珪酸体

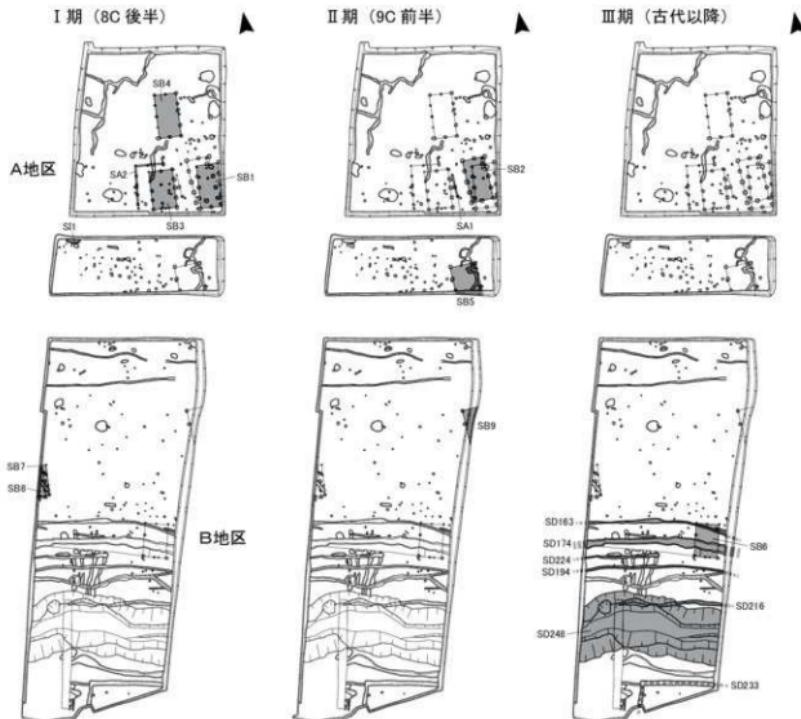
## 6 総括

### (1) 主要遺構変遷について

ここでは、主要な遺構について変遷を示していく。遺構は古代と古代以降の時期に大きく区分されるが、主体となる時期は古代である。古代の建物群は主にA地区からB地区にかけて分布しており、A地区では中央から東南側にやや偏在して展開している。遺構変遷は主軸方位から大きくⅠ～Ⅲ期の3時期に分けて、主要遺構である掘立柱建物9棟(SB1～SB9)、竪穴建物1棟(SI1)、柵列2条(SA1・SA2)及び、B地区的溝群について変遷を考えてみる。なお、遺構変遷を検討するにあたり、掘立柱建物群の柱穴や土坑から時期決定できるような遺物がほとんど出土していない。このため、概念的な要素に依拠している部分が大きいことをあらかじめ断っておく。

#### I期

I期は大野中遺跡で建物群が最も広く展開した時期で、掘立柱建物のSB1・SB3・SB4・SB7・SB8の5棟、竪穴建物のSI1の1棟、柵列のSA2の1条で構成されている。調査区外に広がるSB7・SB8以外の建物群の規模はいずれも4間×2間で、床面積もおよそ40m<sup>2</sup>と一定の規格性が窺える。主軸方位も同一であるため同時期に存在していた可能性が高い。SB7・SB8はそ



第20図 大野中遺跡 主要遺構変遷図 (1:1,000)

の大部分が調査区外へ広がっているため詳細は不明だが、SB1・SB3・SB4とは柱穴の規模や柱間の距離の規格が異なる。SA2の柵列は建物群とは主軸方位でやや異なるものの、この時期に含め、SB3に付随すると考えておく。堅穴建物であるSI1は軸方位が掘立柱建物群と概ね同一であったためこの時期に含めた。掘立柱建物に伴う付随施設の可能性があるものの、堅穴建物の半分以上が調査区外に広がるため詳細は不明である。掘立柱建物群と同時併存していない可能性もある。SB7とSB8の関係については建て替えとみられるが、先後関係は不明である。これらの建物群は、須恵器などの出土遺物が最も多量に出土している8世紀後半を中心とした時期を考えておく。

## II 期

II期はI期と比較して建物の棟数が減少化する時期と捉えられる。掘立柱建物のSB2・SB5・SB9の3棟に、SB2に付随するとみられる柵列のSA1で構成されている。SB2は4間×2間で、床面積は40m<sup>2</sup>である。SB5は約1/3程度が調査区外に広がっているとみられ、1間分の長さがI期のSB1やSB3と比較して長くなっている。SB9はその大部分が調査区外に広がっているため、規模については不明な点が多い。SB2はSB1からの建て替えが考えられるため、時期的に近接している可能性がある。これらの建物群は9世紀前半を中心とした時期を想定している。

## III 期

III期になると掘立柱建物が確認できたのは、SB6の1棟のみであり、建物群を形成するに至っていない。SB6と軸方位を同じくする遺構は少なく、わずかにSD174・SD163・SD224・SD194・SD216などの溝群が確認される。SD163とSB6は柱穴が重複しており、SB6が後出する。このため、SD163・SD174が形成された後に、SB6が構築されたと推定される。SB6の柱穴規模は、SB1～SB5の柱穴より小規模である。また、SD174からは珠洲の捕鉢(96)の小破片が1点出土しており、III期～IV期の所産である。このことから、これらの遺構群は、古代以降の所産で、14世紀代まで下る可能性がある。しかし、遺構の時期に伴う中世遺物は、この1点のみで他の遺構からは検出されていないことから、時期決定の根拠としては乏しく、今後、再検討の必要性を指摘しておく。なお、上庄川の対岸に近接している七分一堂口遺跡では、中世(12世紀後半～14世紀)の建物群が確認されているが、SB6や溝群と主軸方位が類似している遺構は確認されていない。

## (2) 土器組成について

次に土器組成について検討してみる。古代の土器はそのほとんどが包含層出土のもので構成されており、掘立柱建物群が展開していた時期に使用していたとみられる。このため、遺跡の性格を知る上で、土器組成を数値化することは重要と考えられる。以前、筆者は大野中遺跡A地区の古代土器組成を検討し、遺跡の性格を論じたことがある<sup>注1</sup>。その時の、土器組成のデータ算出方法については他の遺跡との比較に用いられにくくという印象を持った。そのため、土器組成の数値化には宇野氏<sup>注2</sup>の方法に準拠し、古代の土器組成を改めて考えてみたい。ただし、総個体数が全体で102個体分しかなく、数値化するにあたり絶対数が少ない点に留意する必要がある。特徴としては食膳具の割合が高く、口縁部残存率で76.4%を占めていることがあげられる。内容は土師器の椀で15%、須恵器の杯・鉢類で98.5%と須恵器の食膳具の高い出現率が際立っている。貯蔵具で22.4%，煮炊具で12%であり、煮炊具が極めて少ないと特徴的である。

県内の村落遺跡とみられる立山町浦田遺跡と莊家とみられる入善町じょうべのま遺跡を例に上げて比較してみると<sup>注3</sup>。種類や器種構成をみると、種類や器種が少ない点でじょうべのま遺跡より浦田遺

注1 中村光仁：2006「大野中遺跡A地区における古代の土器組成について」『富山考古学研究紀要第1号』財団法人富山県文化振興財团

注2 宇野義夫：1992「食器計算の意義と方法」『國立民族学博物館研究報告第40集』国立民族学博物館

注3 宇野義夫：1991「食令社会の考古学的研究 北陸を舞台として」日本書院

第14表 大野中遺跡出土の古代土器構成

種類	器種	総破片数	口縁部破片数	口縁部残存率
土師器	杯A	16 片 1.2%	3.0% 1 片 0.6% 0.7%	1.2 / 12 (0.1個体分) 1.2% 1.5% } 1.5%
須恵器	杯A	283 片 21.3% 52.4%	87 片 53.4% 64.5%	44.1 / 12 (3.7個体分) 43.5% 56.9%
須恵器	杯B	238 片 17.9% 44.0%	46 片 28.2% 34.1%	30.4 / 12 (2.5個体分) 29.4% 38.5% }
須恵器	鉢	3 片 0.2% 0.6%	1 片 0.6% 0.7%	2.4 / 12 (0.2個体分) 2.3% 3.1%
食器具	計	540 片 40.6% 100.0%	135 片 82.8% 100.0%	78.1 / 12 (6.5個体分) 76.4% 100.0%
須恵器	甕	527 片 39.7% 73.1%	9 片 5.5% 33.3%	6.3 / 12 (0.5個体分) 5.9% 26.3% }
須恵器	壺	194 片 14.6% 26.9%	18 片 11.1% 66.7%	16.5 / 12 (1.4個体分) 16.5% 73.7%
貯蔵具	甌	721 片 54.3% 100.0%	27 片 16.6% 100.0%	22.8 / 12 (1.9個体分) 22.4% 100.0%
土師器	甌	67 片 5.1% 100.0%	1 片 0.6% 100.0%	1.2 / 12 (0.1個体分) 1.2% 100.0% }
食器具	計	67 片 5.1% 100.0%	1 片 0.6% 100.0%	1.2 / 12 (0.1個体分) 1.2% 100.0%
	計	1328 片 100.0%	163 片 100.0%	102.1 / 12 (8.5個体分) 100.0%

・小数点第2位は四捨五入している。

・蓋物は蓋と身の多い方の数値を採用している。なお、須恵器杯B蓋の破片数は119片（うち口縁部59片、口縁部残存率46.2/12）、須恵器蓋の破片数は1片（口縁部1片、口縁部残存率1.1/12）であった。

・土師器碗類、須恵器類の体部破片は、確実に器種が判定できたものの比率に乗じて配分している。

立山町浦田遺跡出土品の構成

種類・器種	破片数	口縁部
土師器	杯A	93片(16.0%) 23.5 / 12 (16%) 土師器 15.8%
土師器	皿Bか碗B	6片( 1.0%) 2.0 / 12 ( 1.2%) 土師器 15.8%
黒色土器	杯A	6片( 1.0%) 0 / 12 (*) 黒色土器 *
須恵器	杯A	172片(25.6%) 40.2 / 12 (25.0%)
須恵器	杯B	292片(50.2%) 84.3 / 12 (52.4%) 須恵器 54.2%
須恵器	皿A	12片( 2.1%) 6.0 / 12 ( 3.7%) 須恵器 54.2%
須恵器	皿B	1片( 0.2%) 5.0 / 12 ( 3.1%)
食器具	总计	585片(46.2%) 161.0 / 12 (54.0%)
須恵器	甌	68片(28.5%) 6.0 / 12 (55.7%) 須恵器 100%
須恵器	甌	171片(71.5%) 1.0 / 12 (14.3%) 須恵器 100%
貯蔵具	总计	229片(19.0%) 7.0 / 12 ( 2.3%)
土師器	甌	381片(86.8%) 115.5 / 12 (88.8%) 土師器 100%
土師器	甌	58片(13.2%) 14.5 / 12 (11.2%) 土師器 100%
食器具	总计	439片(34.8%) 130.0 / 12 (43.8%)
計器品	总计	1260片 258.0 / 12 (24.8個体分)

(備考：器種別の比率は用途別統計に対する比率、用途別統計の比率は計器品統計に対する比率である。\*は存在するが比率が数値として表れないもの。以下同じ。)

宇都宮大1988「越中の國屋・延米・村落」『歴史学と考古学』高井伸三郎先生専攻記念論集よりデータを転載。

入善町じょうべのま遺跡第5次調査A地区出土品の構成

種類・器種	破片数	口縁部
土師器	杯A	2778片(74.3%) 207.2 / 12 (57.0%)
土師器	瓶B	147片( 3.9%) 19.8 / 12 ( 5.4%) 土師器 63.3%
土師器	鉢	38片( 10%) 3.3 / 12 ( 0.9%)
黒色土器	杯A	107片( 2.9%) 10.7 / 12 ( 2.9%)
黒色土器	瓶B	24片( 6.6%) 3.6 / 12 ( 1.0%) 黒色土器 4.9%
黒色土器	盆	11片( 0.3%) 0.5 / 12 ( 0.1%)
須恵器	杯A	323片( 8.6%) 28.4 / 12 ( 7.8%)
須恵器	杯B	287片( 7.2%) 8.6 / 12 ( 2.3%) 須恵器 32.0%
須恵器	皿B	1片( *) 0 / 12 ( *)
須恵器	甌	9片( 0.2%) 4.5 / 12 ( 1.2%)
縁付陶器	鉢・皿	5片( 0.1%) 1.8 / 12 ( 0.5%) 施釉陶器 0.6%
灰被陶器	鉢・皿	2片( 0.2%) 0.3 / 12 ( 0.1%)
食器具	总计	3737片(66.1%) 363.7 / 12 (55.4%)
須恵器	甌	180片(12.3%) 9.0 / 12 (4.2%) 須恵器 100%
須恵器	甌	1280片(87.6%) 120 / 12 (57.3%)
灰被陶器	甌	2片( 0.1%) 0 / 12 ( *) 須恵器 *
灰被陶器	杯	1462片(23.9%) 21.0 / 12 ( 4.9%)
土加器	甌	381片(85.0%) 33.3 / 12 (81.0%) 土加器 100%
土加器	瓶	68片(15.0%) 7.8 / 12 (19.0%)
並載具	总计	452片( 8.0%) 41.1 / 12 ( 9.7%)
計器品	总计	9651片 425.8 / 12 (35.5個体分)

第21図 土器構成図

跡に類似している。また、縁釉陶器・灰釉陶器などの当時高級品である焼物や、硯や墨書き土器などの文字関連遺物が確認されていないことも類似点としてあげることができよう。その一方で、土師器に比べて須恵器の割合が非常に高いことや、食膳具と貯蔵具に比べて煮炊具の占める割合が極めて低いことなど、日常的に使用される土器については大きな相違がある。これらの点については、むしろ、じょうべのま遺跡の出現傾向と類似していると言えよう。

### (3) 小 結

大野中遺跡の古代（I期～II期）を中心にまとめてみる。建物群は掘立柱建物を中心としており、4間×2間の床面積40m<sup>2</sup>前後の規格性を有している。この点は、竪穴建物を中心とした集落や掘立柱建物でも床面積が30m<sup>2</sup>以下のもので構成されているような集落とはやや異なる。また、土器組成において、食膳具や貯蔵具に比べて煮炊具が極めて少ない傾向は莊家であるじょうべのま遺跡と共通する。その一方で、公的な様相が強い遺跡から一定量出土する当時としては高級品である縁釉陶器・灰釉陶器や、文字関連資料である硯や墨書き土器などが欠落している。

大野中遺跡は、上庄川右岸の自然堤防上に立地し、標高5mを測る。遺跡は上庄川に面しているため、水運に適した立地ということができる。このことは、大野中遺跡が公的な様相の強い遺跡か私的な集落かどうかは判断材料に乏しいため判別しがたいが、上庄川を利用した水運により、物流の中継的集落の可能性が想定される。遺跡の周辺には加納桜打遺跡、大野沢遺跡、大野南遺跡などの古代を主体とした遺跡が分布している。しかし、散布地や包蔵地が多く、発掘調査が実施されている遺跡がほとんど無いため、遺跡の内容が不明な点が多い。今後、これらの周辺の遺跡との関係を考慮した上で検討していく必要があろう。

（島田亮仁）

#### 参考文献

『氷見市史』2002 氷見市史編さん委員会

# 第IV章 七分一堂口遺跡

## 1 概 要

七分一堂口遺跡は、海岸から約2.6kmほど内陸の上庄川左岸にあり、大野中遺跡とは上庄川を挟んで対岸に位置している。弥生時代終末期～古墳時代初頭、古代、中世の遺構・遺物が検出されており、遺構には掘立柱建物4棟、溝11条、自然流路3条、井戸1基、土坑70基以上がある。

弥生時代終末期～古墳時代初頭では谷が確認されており、北東落ち際から土器が出土している。古代の遺構としては、自然流路、土坑が検出されているが、集落を構成する建物遺構は確認されていない。中世の遺構は掘立柱建物、溝、自然流路、井戸、土坑がある。遺構は調査区全体から検出されており、掘立柱建物群はやや西寄りに分布する傾向にある。検出された遺構のほとんどが中世に帰属する。

## 2 層 序

調査区は加納南古墳群が立地する宝達丘陵から舌状に張り出す小丘陵の裾部に立地する。現況は水田であるため、層序としては1層が表土・耕作土となり、層厚は0.1～0.25mを測る。2層は包含層であるが、後世の削平を受けているために調査区全体に分布するのではなく、部分的にしか認められない。層厚は西壁の中央付近で0.05～0.1mであり、暗オリーブ灰色シルト質粘土を基調としている。3層は基盤層であり、褐色シルト質粘土を基調としている。古代の包含層については、層序として分布されず、遺構埋土でのみ確認される。このため、すべての遺構が同一遺構面上で検出されている。

## 3 遺 構

### (1) 中世以前

#### A 谷

谷（S X146、第22図）

調査区を南北方向に走る谷で、東側の落ち際はサブトレンドで確認されたが、西側は調査区外となる。現存幅30.16m、深さ1.32mを測る。埋土は灰オリーブ色～オリーブ黒色中～粗粒砂を基調とし、非常に軟質である。東側落ち際（X73～75、Y55）からは、弥生時代終末期～古墳時代初頭の土器が出土しているが、土器の出土はこの地点に限定される。

#### B 溝

1号溝（S D 1、第22・25図、図版22）

調査区の東側に位置する南北方向に流れる自然流路で、東側の落ち際は調査区外となる。現存幅4.76m、深さ0.82mを測る。埋土は暗灰黄～暗褐色粘土質シルトを基調とし、出土遺物は無いが、古代の土坑とみられるSK107やSK5の埋土に類似することから古代の自然流路とする。

127号溝（S D127、第23・25図）

調査区の南端に位置する東西方向に流れる自然流路で、南側の落ち際は調査区外となる。現存幅

7.34m、深さ0.34mを測る。埋土は暗灰黄～オリーブ黒色シルト質粘土を基調とする。

### C 土 坑

#### 5号土坑（SK5、第25図）

調査区の北東側に位置し、不整形を呈する土坑で、長径2.42m、短径0.5m、深さ0.22mを測る。埋土は暗褐色シルト質粘土を基調とする。包含層から古代の遺物が出土していることや、中世の埋土とは異なることから、ここでは古代の土坑とした。

#### 107号土坑（SK107、第25図、図版22）

調査区の北東側に位置し、不整形を呈する土坑で、長径2.72m、短径0.76m、深さ0.14mを測る。埋土は暗褐色シルト質粘土を基調とし、埋土はSK5と同質である。

### (2) 中 世

#### A 挖立柱建物

##### 1号掘立柱建物（SB1、第26図、図版20・22）

調査区の北西側に位置する。規模は4間×2間の側柱建物で、北側に2間×1間の張出部分が付随する。桁行9.2m、梁行6.7m、面積は61.64m<sup>2</sup>である。主軸はN-72°-Eである。柱穴の平面は円形～楕円形で、規模は径0.18～0.36m、深さは0.16～0.41mである。埋土は黒色粘土質シルトを基調とする。柱根やその痕跡を裏付けるようなものは確認されていない。

##### 2号掘立柱建物（SB2、第26図、図版20）

調査区の北側に位置する。規模は1間×1間である。桁行2.55m、梁行2.55m、面積は6.5m<sup>2</sup>である。主軸はN-83°-Eである。柱穴の平面形は円形で、規模は径0.18～0.24m、深さは0.16～0.45mである。埋土は黒色粘土質シルトを基調とし、柱根やその痕跡を裏付けるようなものは確認されなかつた。

##### 3号掘立柱建物（SB3、第27図、図版19・21）

調査区の中央やや南寄りに位置する。規模は3間×3間の総柱建物で、東西棟である。桁行9.95m、梁行9.2m、面積は91.54m<sup>2</sup>である。主軸はN-85°-Eである。柱穴の平面形は円形で、規模は径0.26～0.42m、深さは0.13～0.52mである。埋土は黒色粘土質シルトを基調とし、柱根やその痕跡は認められない。

##### 4号掘立柱建物（SB4、第27図、図版21）

調査区の西側に位置し、調査区外へ延びる。規模は2間×1間が確認できる総柱建物とみられる。桁行(5.3)m、梁行(2.5)m、面積は(13.25)m<sup>2</sup>である。主軸はN-12°-Wである。柱穴の平面形は円形～楕円形で、規模は径0.2～0.36m、深さは0.22～0.59mである。埋土は黒色粘土質シルトを基調とし、柱根やその痕跡は認められない。

### B 溝

#### 2号溝（SD2、第22・28図、図版22）

調査区の東寄りに位置する南北方向に直線的に走る溝で、北端はSD3で途切れしており、南は調査区外に延びる。幅0.96m、深さ0.31mを測る。埋土は暗褐色シルト質粘土を基調とする。直線的に延びるため、何らかを区画する目的で構築された可能性が高い。出土遺物は唐津・磁器がある。

#### 3号溝（SD3、第22・23・28図）

調査区の北側に位置する東西方向に走る溝で、両端は調査区外へ延びる。幅2.38m、深さ0.14mを測る。埋土は暗緑灰色粘土質シルトを基調としている。出土遺物には伊万里・近世陶器、獸骨がある。

## 4号溝（S D 4, 第22・28図）

調査区の北東端に位置する南北方向に走る溝で、東側落ち際は調査区外となる。南端はS D 3と重複し、S D 4はS D 3より先行する。幅0.88m、深さ0.18mを測る。埋土は暗褐色シルト質粘土を基調としている。

## 77号溝（S D 77, 第22・28図）

調査区の南側に位置する小規模な溝で、S B 3の東側に南北方向に走る。南端は調査区外へ延びる。幅0.31m、深さ0.07mを測る。埋土は黒色粘土質シルトを基調とする。

## 101号溝（S D 101, 第22・23・28図）

調査区の中央に位置する南北方向に走る小規模な溝である。幅0.65m、深さ0.14mを測る。埋土は黒色粘土質シルトを基調としている。S D 102と重複しており、S D 101が先行する。

## 102号溝（S D 102, 第22・23・28図、図版22）

調査区を東西方向に走る不整形な溝である。幅3.64m、深さ0.24mを測る。埋土は黒色粘土質シルトを基調とする。S E 134とS P 143との重複関係は不明であるが、S D 101やS K 106とでは後出する。出土遺物には中世土師器皿（20）がある。

## 109号溝（S D 109, 第23・28図、図版22）

調査区の南側に位置する東西方向の溝で、両端は調査区外へ延びる。幅0.55m、深さ0.18mを測る。埋土は黒色粘土質シルトを基調とする。

## 110号溝（S D 110, 第23・29図）

調査区の南側に東西方向に走る幅のある溝で、両端は調査区外へ延びる。幅21.75m、深さ0.4mを測る。埋土は暗オリーブ褐色シルト～黒色粘土質シルトを基調とする。出土遺物には須恵器杯（15）がある。

## 126号溝（S D 126, 第23・28図）

調査区の南側に位置する南北方向に走る小規模な溝である。幅0.21m、深さ0.06mを測る。埋土は暗褐色シルト質粘土を基調とする。

## C 井戸

## 134号井戸（S E 134, 第29図、図版22）

調査区の西側に位置する素掘り井戸である。長径1.36m、短径1.0m、深さ0.8mを測り、断面は筒状を呈する。S D 102と重複関係にあるが先後関係は不明である。埋土は黒色シルト質粘土を基調とする。出土遺物は土師器、軽石がある。

## D 土坑

## 76号土坑（S K 76, 第29図）

調査区の南側に位置し、円形を呈する土坑で、長径0.96m、短径0.96m、深さ0.37mを測る。S B 3の東側に立地し、S D 77と重複関係にある。S K 76がS D 77より後出する。埋土は黒色粘土質シルトを基調とし、出土遺物は中世土師器がある。

## 125号土坑（S K 125, 第29図）

調査区の南側に位置し、不整形を呈する土坑で、長径2.72m、短径2.28m、深さ0.07mを測る。S B 4の東側に位置しており、S D 126と重複している。S K 125がS D 126より先行する。埋土は暗褐色シルト質粘土を基調とし、出土遺物は土師器がある。

## 4 遺 物

出土遺物には弥生土器・土師器・須恵器・中世土師皿・珠洲・中国製白磁・越中瀬戸・越中丸山・唐津・伊万里・土錘・石製品がある。遺構出土の土器はわずかで、包含層出土の土器で優占している。

### (1) 土器・陶磁器・土製品（第30図、図版23・24）

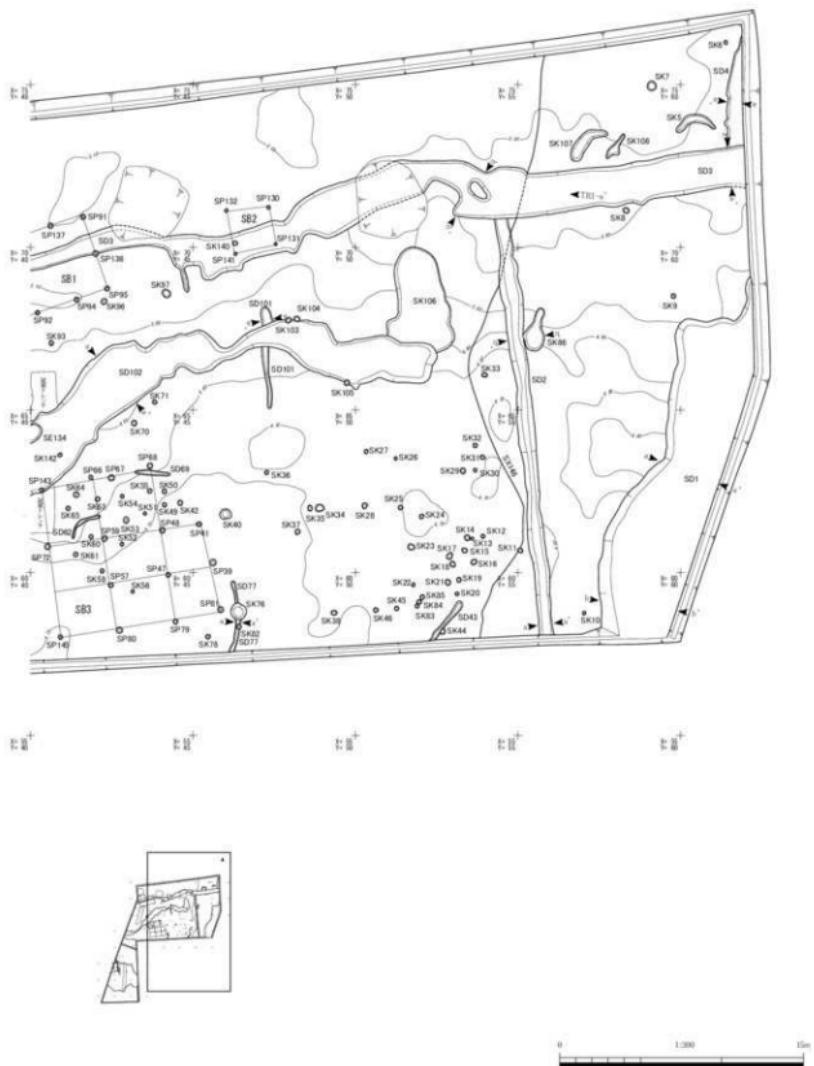
1～12は弥生時代～古墳時代の遺物で、いずれも包含層もしくは谷出土のものである。遺存状態は良好でなく、表面は薄く剥離しており、調整が不明な個体がほとんどである。1～12は弥生土器もしくは土師器、13～19・26は古代の須恵器・土師器・土製品で、20～25は中世の土器・陶磁器である。

1・2は壺で、頸部は緩やかに外反する。平縁の口縁部に端部は方形を呈する。3～6は壺で、3は有段口縁を有する。4は平縁、5は有段気味の口縁部を有する。6は小さく外反する口縁部に端部はやや丸縁状を呈する。7～10は高杯である。7は有段高杯の杯部であり、8は有段脚を呈する。9・10は大きく聞く脚部を有する。これらは、漆町編年の5～6群を中心とする土器群である。11は壺で、口縁端部を面取り、内外面ハケメ調整を施す。12には椀で、内湾気味に立ち上がる体部に、口縁端部は面取気味を呈する。13～18は須恵器で、13は蓋である。扁平な天井部に、口縁部は短く屈曲し垂下させる。天井部には擬宝珠状のつまみが付く。14～16は杯Aで、14・15は尖底気味な底部に外反しながら立ち上がる体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。16は平坦気味の底部を有する。17は杯Bで、ハ字状に聞く高台に、体部は外反気味に立ち上がる。18は壺の口縁部破片で、広口で外面に波状文が施される。19は土師器の壺で、口縁端部は丸くおさめる。古代の土器は8世紀後半～9世紀前半を中心とし、19のみ時期が下るとみられる。20は回転台成形の中世土師皿で、回転糸切りの底部から体部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。法量は口径13.8cm、底径6.0cm、器高4.4cmである。21は珠洲の擂鉢で、口縁端部は方形を呈する。内面には鉤目が8条確認される。吉岡編年のIV期に比定される。22は中国製白磁の椀で、内湾気味に立ち上がる体部を有する。23は越中瀬戸の短頸壺で、口縁端部を水平に作出しており、外面に鉄軸が施される。24は唐津の皿で、回転切り離しの底部に、灰釉がかかる。25は越中丸山の皿で、灰釉が施される。26は土錘で、樽型を呈する。重量は48.8gである。

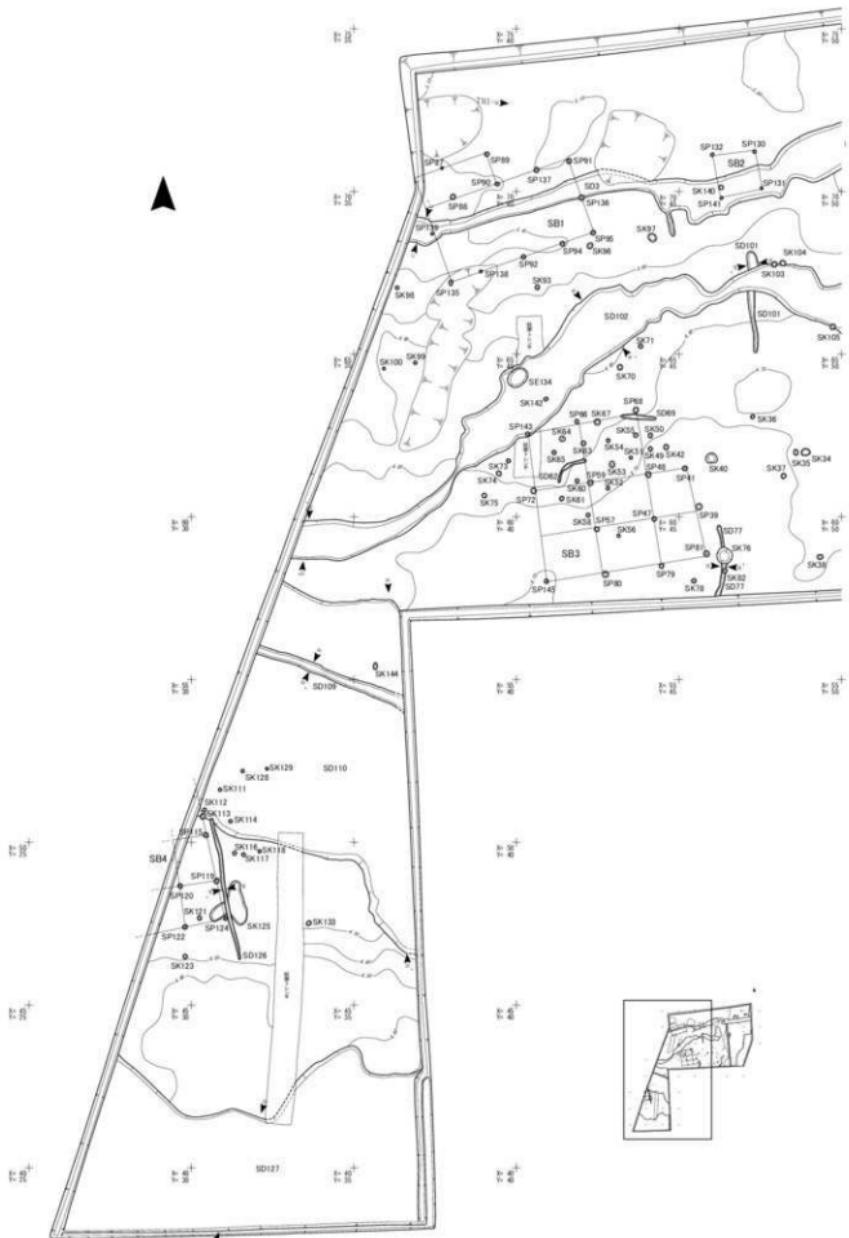
（島田亮仁）

### 参考文献

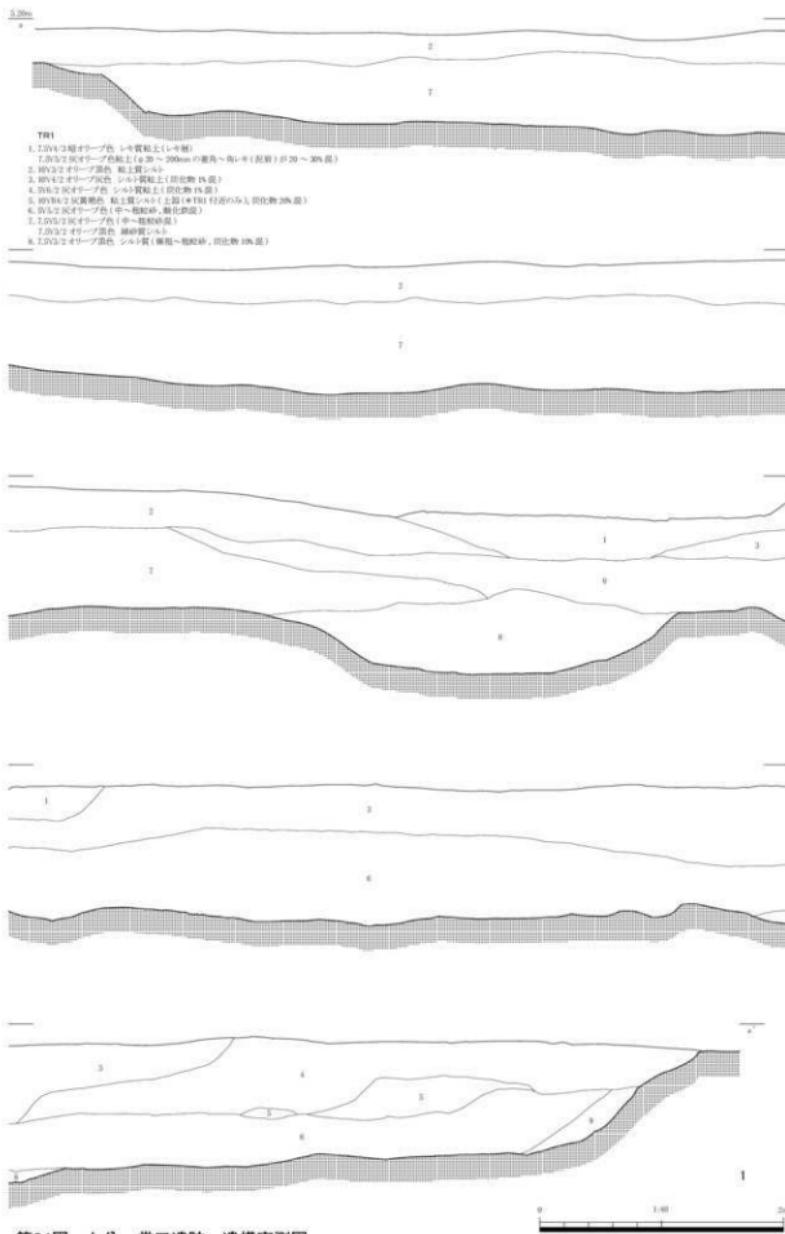
- 池野正男 1987「射水丘陵における8世紀後半の須恵器窯跡」『大境第11号』富山考古学会
- 内田亜希子 2000「越中婦負郡の古代土師器煮炊具—幡中町中名I・V・VI遺跡の堅穴住居出土資料を中心にして—」『富山考古学研究 紀要第3号』財团法人富山県文化振興財團
- 細辻真澄 2001「任海宮田遺跡出土の土錘について」『富山考古学研究 紀要第4号』財团法人富山県文化振興財團



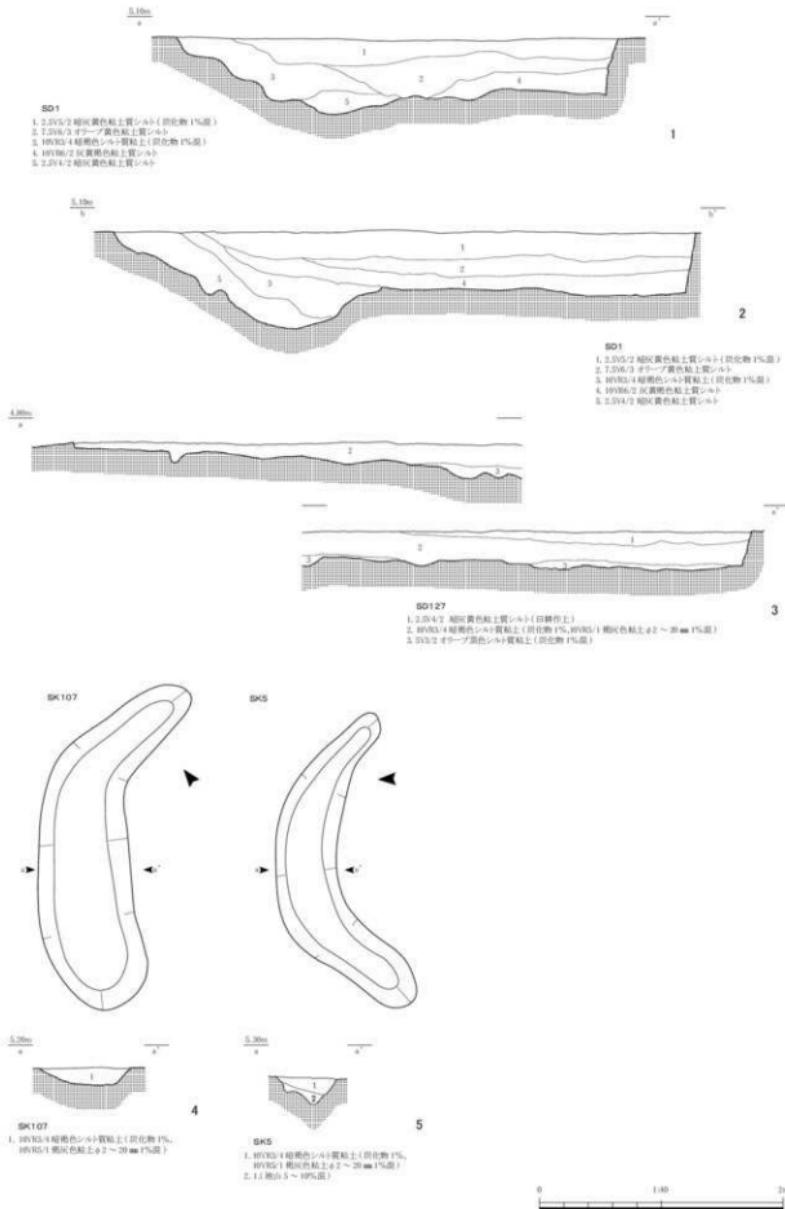
第22図 七分一堂口遺跡 遺構全体図 (1:300)



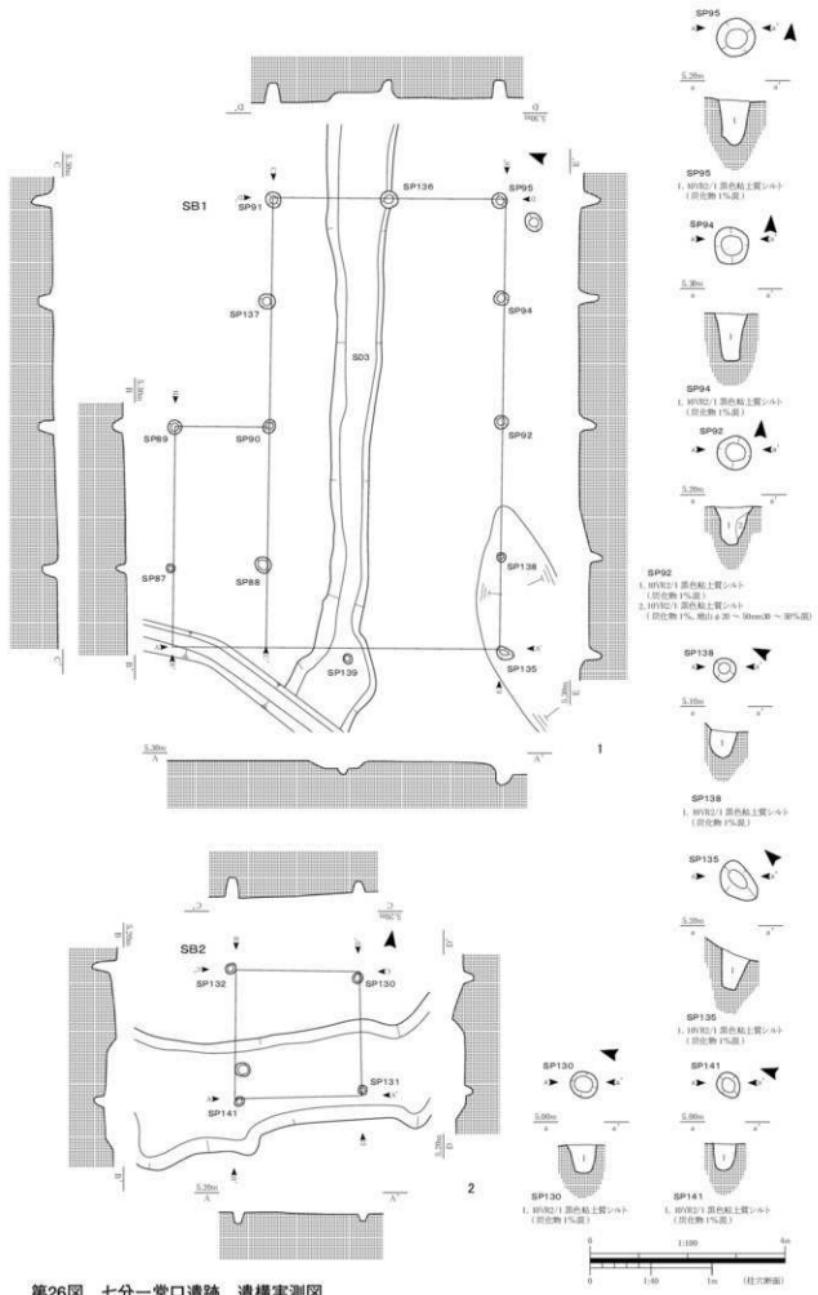
第23図 七分一堂口遺跡 遺構全体図 (1:300)



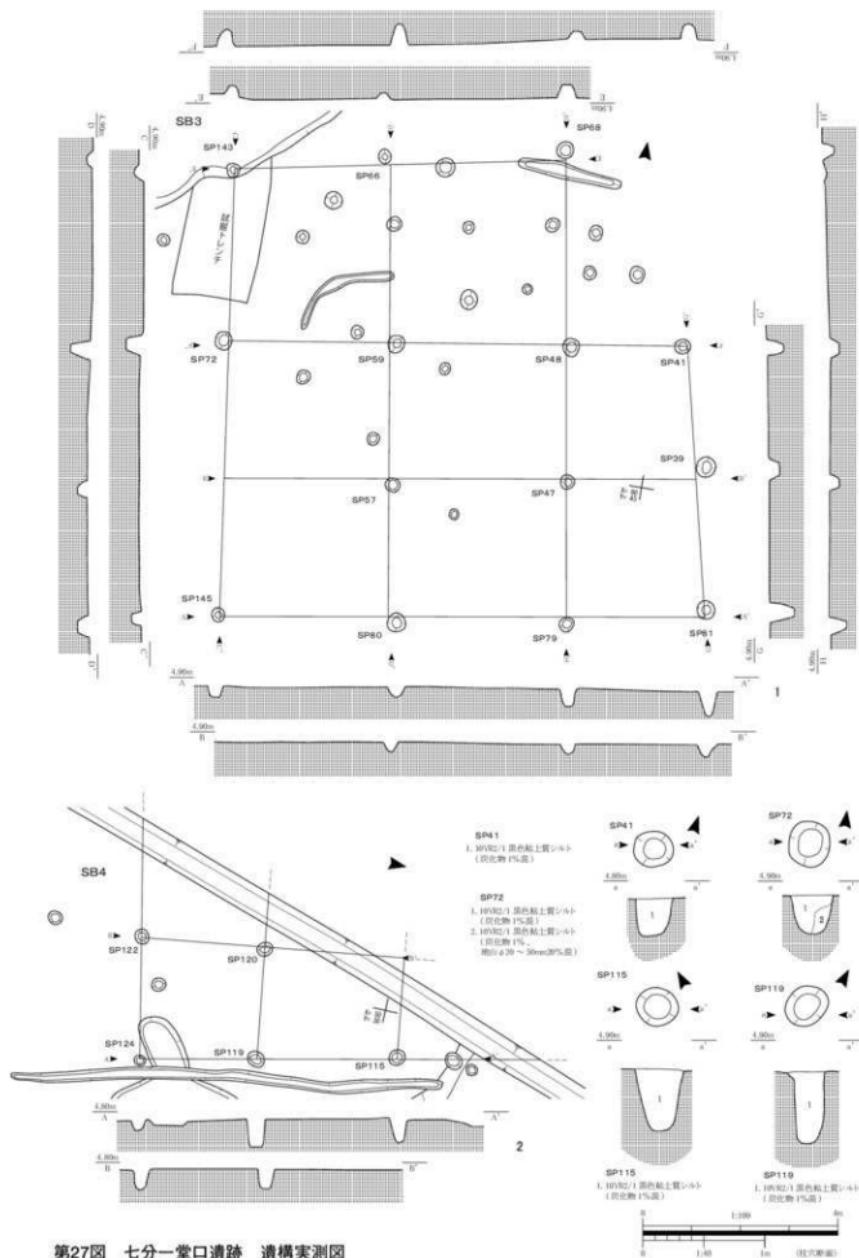
第24図 七分一堂口遺跡 遺構実測図  
TR1



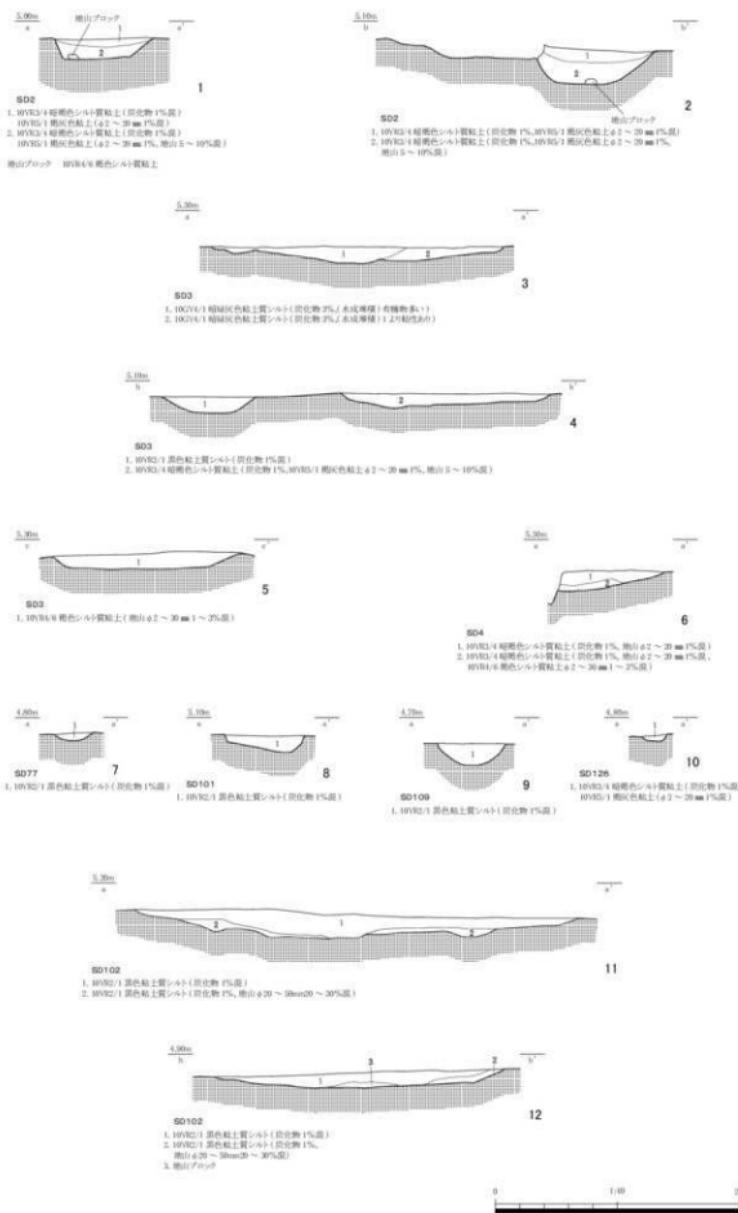
第25図 七分一堂口遺跡 遺構実測図  
1・2. SD1 3. SD127 4. SK107 5. SK5



第26図 七分一堂口遺跡 遺構実測図  
1. SB1 2. SB2

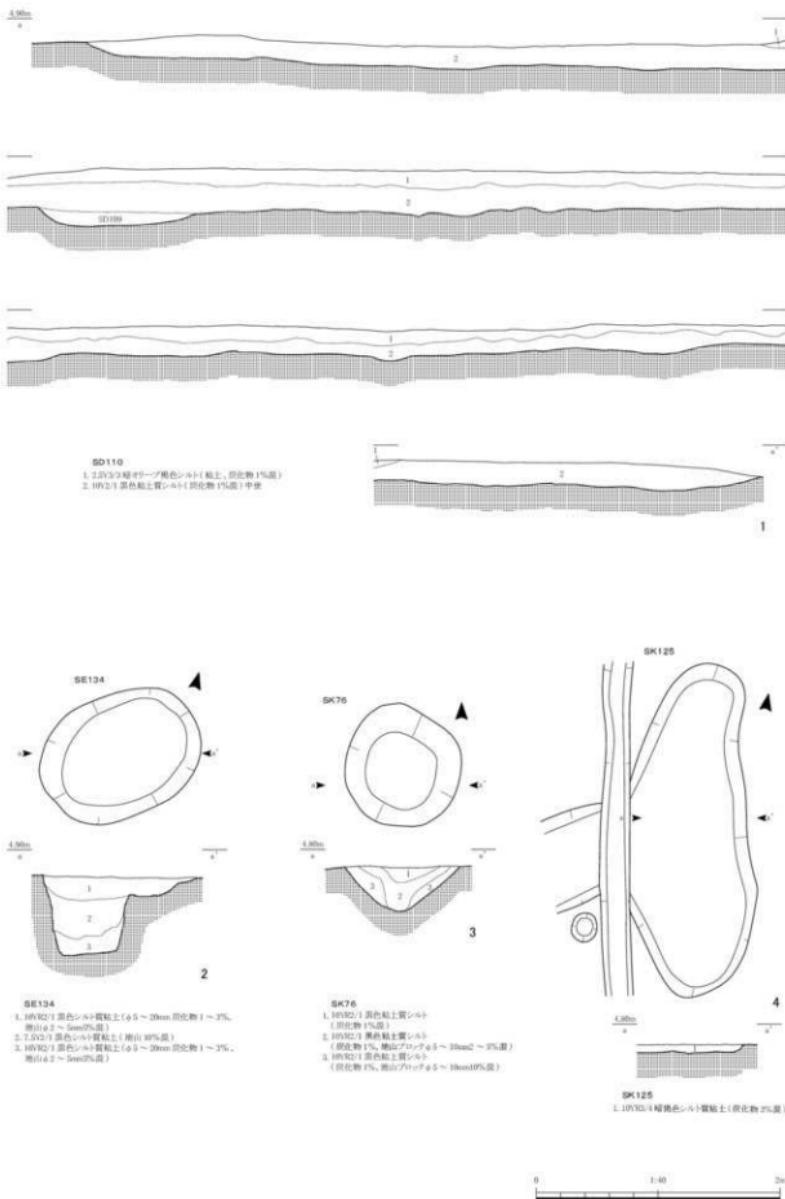


第27図 七分一堂口遺跡 遺構実測図  
1. SB3 2. SB4



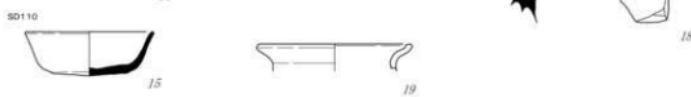
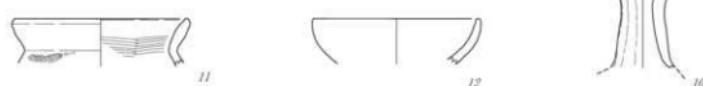
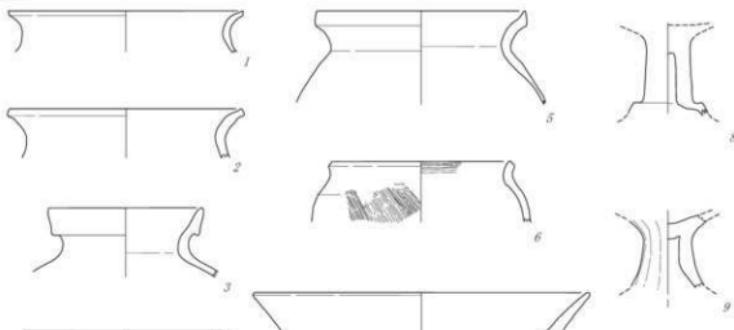
第28図 七分一堂口遺跡 遺構実測図

1. 2. SD2 3 ~ 5. SD3 6. SD4 7. SD77 8. SD101 9. SD109 10. SD126 11 · 12. SD102



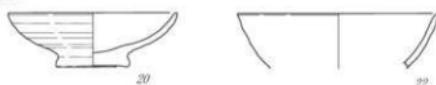
第29図 七分一堂口遺跡 遺構実測図  
1. SD110 2. SE134 3. SK76 4. SK125

包含層

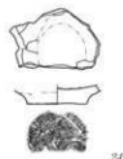


19

SD102

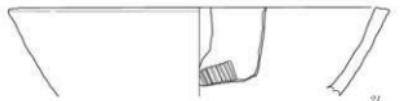


20



18

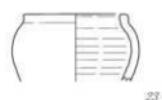
包含層



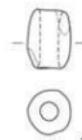
21



24



25



0 1:1 20cm

第30図 七分一堂口遺跡 遺物実測図 (1/4)  
SD102 (20) SD110 (15) 包含層

第15表 七分一堂口遺跡 中世掘立柱建物一覧

建物	種別	桁行 (m)	梁行 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	柱方位	柱穴規模 径 (m)	柱穴深さ (m)	柱間距離 桁 (m)	柱間距離 梁 (m)	出土遺物	挿図	写真 図版
SB1	東西棟 彌柱	4間 9.20	2間 4.75	61.64	N-72°-E	0.18~0.36	0.16~0.41	195~290	195~3.20		26	20· 22
SB2	東西棟 隅柱	1間 2.35	1間 2.55	6.50	N-83°-E	0.18~0.24	0.16~0.45	230~270	250~265		26	20
SB3	東西棟 軒柱	3間 9.95	3間 9.20	91.54	N-85°-E	0.26~0.42	0.13~0.52	230~270	245~4.05		27	19· 21
SB4	南北棟 軒柱	(2間) (5.30)	(1間) (2.50)	(13.25)	N-12°-W	0.20~0.36	0.22~0.59	240~290	230~2.55		27	21

第16表 七分一堂口遺跡 柱穴一覧

建物	造構	平面形	櫛構 (m)			出土遺物	時期	特征事項	切り合ひ	挿図	写真 図版
			長さ	幅	深さ						
SB1	SP87	円	0.18	0.18	0.21		中世			26	
	SP88	円	0.36	0.32	0.31		中世			26	
	SP89	円	0.30	0.28	0.22		中世			26	
	SP90	円	0.30	0.26	0.33		中世			26	
	SP91	円	0.34	0.32	0.41		中世			26	
	SP92	円	0.28	0.28	0.31		中世			26	22
	SP94	円	0.30	0.28	0.39		中世			26	
	SP95	円	0.32	0.30	0.38		中世			26	
	SP135	楕円	0.36	0.24	0.34		中世			26	
	SP136	円	0.36	0.36	0.36		中世	>SD3		26	
	SP137	円	0.34	0.32	0.28		中世			26	
	SP138	円	0.20	0.20	0.23		中世			26	
	SP139	円	0.22	0.18	0.16		中世			26	
SB2	SP130	円	0.22	0.22	0.23		中世			26	
	SP131	円	0.18	0.18	0.16		中世			26	
	SP132	円	0.24	0.22	0.45		中世			26	
	SP141	円	0.22	0.20	0.22		中世			26	
SB3	SP39	円	0.42	0.40	0.26		中世			27	
	SP41	円	0.34	0.32	0.30		中世			27	
	SP47	円	0.30	0.30	0.22		中世			27	
	SP48	円	0.36	0.34	0.18		中世			27	
	SP57	円	0.30	0.30	0.21		中世			27	
	SP59	円	0.38	0.34	0.42		中世			27	
	SP66	円	0.30	0.26	0.13		中世			27	
	SP68	円	0.36	0.36	0.27		中世			27	
	SP72	円	0.36	0.34	0.32		中世			27	
	SP79	円	0.32	0.30	0.34		中世			27	
	SP80	円	0.40	0.38	0.22		中世			27	
	SP81	円	0.38	0.38	0.52		中世			27	
	SP143	円	0.30	0.26	0.18		中世			27	
	SP145	円	0.30	0.26	0.19		中世			27	
SB4	SP115	円	0.34	0.32	0.51		中世			27	
	SP119	円	0.36	0.30	0.59		中世			27	
	SP120	円	0.32	0.28	0.39		中世			27	
	SP122	円	0.32	0.28	0.41		中世			27	
	SP124	楕円	0.24	0.20	0.22		中世			27	

第17表 七分一堂口遺跡 溝・自然流路一覧

造構	種類	規模 (m)			出土遺物	時期	特記事項	切り合い	辨団	写真 図版
		幅	長さ	深さ						
SD1	溝	3.62	4.26	0.62-0.82		古代			22・25	22
SD2	溝	0.80	0.96	0.18-0.31	唐津、鉢器	中世	<SD3		22・28	22
SD3	溝	2.38	1.72	0.14-0.12	伊万里、近賀陶磁、獸骨	中世-近世	>SD2・4、<SP136 (SB 1)		22・23・28	
SD4	溝	0.88	0.18			中世	<SD3		22・28	
SD77	溝	0.31	0.07			中世	<SK76		22・28	
SD101	溝	0.65	0.14			中世	<SD102		22・23・28	
SD102	溝	3.64	2.36	0.24-0.16	中世土器部 (20)、土器部	中世	>SD101		22・23・28	22
SD109	溝	0.55	0.18			中世	>SD110		23・28	22
SD110	溝	21.75	0.40		須恵器 (15)	中世	<SD109・126		23・29	
SD126	溝	0.21	0.06			中世	>SD110・SK125		23・28	
SD127	溝	7.34	0.34			古代			23・25	
SX146	自然 流路	30.16	1.32		土器部、弥生土器	弥生-古墳			22	

第18表 七分一堂口遺跡 井戸一覧

造構	平面形	規模 (m)			出土遺物	時期	特記事項	切り合い	辨団	写真 図版
		長さ	幅	深さ						
SE134	円	1.36	100	0.80	土器部、鉢石	中世			29	22

第19表 七分一堂口遺跡 土坑一覧

造構	平面形	規模 (m)			出土遺物	時期	特記事項	切り合い	辨団	写真 図版
		長さ	幅	深さ						
SK5	不整	2.42	0.50	0.22		古代			25	
SK76	円	0.96	0.96	0.37	中世土器	中世	>SD77		29	
SK107	不整	2.72	0.76	0.14		古代			25	22
SK125	小整	2.72	2.28	0.07	土器部	中世	<SD126		29	

第20表 七分一堂口遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧

登録 番号 登記番号	造構	出土地点	種類	器種	測量 (m)			評定時期	船土色調	船土の粒度	船土色調	種類	備考
					上径	下径	底径						
30 1 23	谷 (T 2)	土器部	甕		19.3			古墳	塗町 5-6番	10YR4/1	褐灰色	砂粒	
2 23	X75Y30分	土器部	甕		19.5			古墳	塗町 5-6番	7.5YR8/2	浅黄褐色	赤色粒・砂粒	
3 23	X66Y46	土器部	甕		12.6			古墳	塗町6番	10YR7/4	にふく 青褐色	砂粒	
4 23	谷 (T 2)	土器部	甕		16.9			古墳	塗町 5-6番	10YR7/4	にふく 青褐色	砂粒	
5 23	X67Y39号	土器部	甕		17.7			古墳	塗町5番	7.5YR8/2	灰白色	砂粒	
6 23	X74Y55分	土器部	甕		14.8			古墳	塗町 5-6番	5YR7/4	にふく 青褐色	赤色粒・ 砂粒・骨針	
7 23	X74Y55Ⅱ号	土器部	高杯		27.5			古墳	塗町 5-6番	10YR7/3	にふく 黄褐色	砂粒・ 骨針	
8 23	X74Y55分	弥生土器	高杯						10YR8/3		浅黄褐色	骨針	
9 23	印5-T 1	弥生土器	高杯						10YR8/4		浅黄褐色	赤色粒・ 砂粒・骨針	
10 23	X65Y55Ⅱ号	弥生土器	高杯						10YR6/3		にふく 青褐色	赤色粒・ 黑色粒・骨針	
11 23	X72Y50Ⅰ号	土器部	甕		14.6			古墳		5YR7/4		砂粒	
12 23	X72Y52Ⅰ号	土器部	甕		13.6			古墳	塗町13番	5YR7/4		赤色粒・骨針	
13 24	X70Y60Ⅰ号	須恵器	甕	つまみ付 21	11.5	30		古代	N6-0		灰色	白砂粒・ 砂粒・右夷	
14 24	X72Y52Ⅰ号	須恵器	杯A		12.5			古代	2.5YR8/2		灰白色	骨針	
15 24	SD110 X36Y36	須恵器	杯A		20.6	36		古代	N6-0		灰白色	白色粒	
16 24	X70Y60Ⅰ号	須恵器	杯A					古代	10YR8/1		灰白色	砂粒	
17 24	X57	須恵器	杯B		13.9	29	97	古代	2.5YR7/1		灰白色	白色粒	
18 24	X71Y54	須恵器	甕					古代	7.5YR6/1		灰色	骨針	
19 24	X71Y53	土器部	甕		12.4			古代	7.5YR8/2		灰白色		
20 25	SD102 X67Y49	中世土器部	甕		13.8	44	6.0	中世 12世紀 後半	7.5YR8/3		浅黄褐色	砂粒	
21 24	X72Y52Ⅰ号	須恵器	瓶B		31.2			中世 古期	N6-0		灰色	黑色粒	
22 24	X68Y42Ⅰ号	中國銅白釉	甕		16.6			中世	N8-0		灰白色	白細 織	
23 24	X67Y49土器	越中繩引	甕		8.6			云林	7.5YR8/2		灰白色	7.5YR4/2 灰褐色	
24 24	X68Y45Ⅰ号	須恵器	甕			5.0		近世	2.5YR6/3		褐色	7.5YR7/2 明褐色	
25 24	X67Y65Ⅰ号	越中丸山	甕			5.4		云林	10YR8/3		浅黄褐色	2.5YR7/3 灰褐色	
26 24	X71Y54	土器部	土罐	孔径 35	1.5			古代	5YR7/4		赤色粒	重量 約8kg	

## 5 自然科学分析

### (1) 七分一堂口遺跡の花粉・植物珪酸体分析

#### A 分析目的および試料

本遺跡では、弥生時代末～古墳時代初頭頃の古植生の検討を目的として、以下に示した試料を対象に、自然科学分析調査を実施した。

試料は、弥生時代末～古墳時代初頭の谷に設定されたトレンチ(Tr 1)より採取された土壌4点(①～④)である。谷埋積物(Tr 2)は、上位より①～⑧層に区分されている。分析に供された土壌試料は、①層(Tr 2; 試料番号①)、⑥層(Tr 2; 試料番号②)、⑧層上部(Tr 2; 試料番号③)および下部(Tr 2; 試料番号④)に相当する。

#### B 分析方法

##### a 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛、比重2.3)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス(無水酢酸9:濃硫酸1の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下で、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本はじめ、Erdtman (1952, 1957), Feagri and Iversen (1989) 等の花粉形態に関する文献や、鳥倉 (1973), 中村 (1980), 藤木・小澤 (2007) 等の邦産植物の花粉写真集等を参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の層位分布図として表示する。図表中で複数の種類を「-」で結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基準として、百分率で出現率を算出し図示する。なお、木本花粉総数が100個体未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を「+」で表示するにとどめている。

##### b 植物珪酸体分析

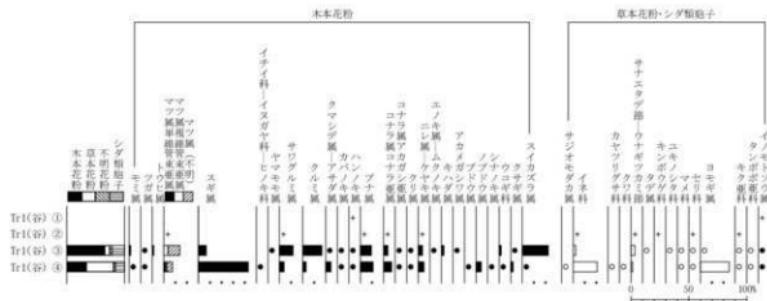
各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法(ポリタンゲステン酸ナトリウム、比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入してプレパラートを作成する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体)を、近藤(2010)の分類を参考に同定し、計数する。分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量を正確に計量し、堆積物1gあたりの植物珪酸体含量(同定した数を堆積物1gあたりの個数に換算)を求める。

結果は植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、各分類群の含量は100単位として表示し、100個/g未満は「<100」と表示する。また、各分類群の植物珪酸体含量の層位の変化を図示する。

#### C 結果

##### a 花粉分析

結果を第21表、第31図に示す。⑧層からは花粉化石が検出されるが、上位2点は花粉化石が少ない。保存状態は全ての試料で悪い。同じ⑧層である試料番号④と試料番号③では、組成が異なる。試



第31図 七分一堂口遺跡 花粉化石群集

第21表 七分一堂口遺跡 花粉分析結果

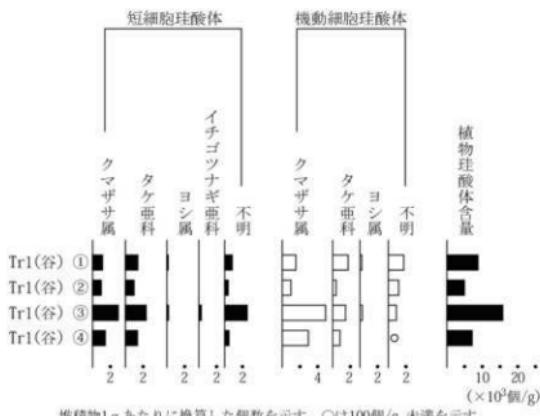
分類群	Tr1 (谷)			
	①	②	③	④
本木花粉	—	—	3	2
モミ属	—	2	1	—
ツガ属	—	—	3	—
トウヒ属	—	—	—	3
マツ属単維管束亞属	—	—	8	2
マツ属複維管束亞属	—	2	23	10
マツ属(不明)	—	—	15	86
スギ属	—	—	—	2
イチイ科-イヌヤ科-ヒノキ科	—	—	—	—
ヤマモモ属	—	—	1	—
サワグルミ属	—	7	26	8
クルミ属	—	—	37	6
クマシデ属-アサダ属	—	—	1	9
カバノキ属	—	—	2	2
ハンノキ属	1	—	1	1
ブナ属	—	3	21	22
コナラ属コナラ属	—	1	8	14
コナラ属カガシ属	—	—	1	2
クリ属	—	—	1	1
ニレ属-ケヤキ属	—	1	8	10
エノキ属-ムクノキ属	—	—	1	—
キハダ属	—	—	5	—
アカメガシワ属	—	—	1	—
ブドウ属	—	—	—	2
ノブドウ属	—	—	—	9
シナノキ属	—	—	—	1
ウコギ科	—	—	4	1
クサギ属	—	—	1	4
スイカズラ属	—	—	50	2
草木花粉	—	—	—	1
サジオモダカ属	—	2	7	118
イネ科	—	—	—	1
カヤフリグサ科	—	—	—	1
クワ科	—	—	—	—
サナエタデ属-ウナギツカミ属	—	8	11	8
タデ属	—	—	1	—
キンボウゲ科	—	1	—	—
ユキノシタ科	—	—	1	—
マメ科	—	—	2	1
セリ科	—	1	1	4
ヨモギ属	—	—	3	142
キク亜科	—	1	1	2
タンボボ亜科	—	—	2	1
不明花粉	—	4	14	19
シダ類胞子	—	—	—	—
イモモトソウ属	8	—	3	1
他のシダ類胞子	27	65	70	91
合計	36	92	325	571
本木花粉	1	14	223	200
草木花粉	0	13	29	279
不明花粉	0	4	14	19
シダ類胞子	35	65	73	92
総計(不明を除く)	36	92	325	571

料番号④は、木本花粉に比べ、草本花粉の割合が多い。草本花粉では、イネ科とヨモギ属が多いのが特徴である。イネ科の中にイネ属花粉はみられない。木本花粉ではスギ属が多く、マツ属、ブナ属、ニレ属—ケヤキ属などを伴う。試料番号③は、木本花粉の割合が高い。木本花粉では、マツ属、スギ属、サワグルミ属、クルミ属、ブナ属、スイカズラ属などがみられるが、多い試料でも20%程度であり、際立って多い種類がみられないのが特徴である。一方、草本類では、カヤツリグサ科やサナエタデ節—ウナギツカミ節などがみられる程度で、全体的に少ない。

#### b 植物珪酸体分析

結果を第22表、第32図に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるが、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められるなど、保存状態が悪い。

植物珪酸体含量は、4,900~15,800個/gと試料間で多寡が認められる。検出される分類群は、4試料ともに、クマザサ属を含むタケ亜科の含量が高い点で共通する。この他、試料番号③ではヨシ属とイチゴツナギ亜科が、試料番号①ではヨシ属が検出される。なお、栽培植物のイネ属は検出されない。



第32図 七分一堂口遺跡 植物珪酸体含量

第22表 七分一堂口遺跡 植物珪酸体含量

分類群	Tr1 (谷)			
	①	②	③	④
イネ科葉部短細胞珪酸体				
クマザサ属	1,100	1,000	2,900	1,400
タケ亜科	1,400	1,000	2,400	1,400
ヨシ属	100	—	200	—
イチゴツナギ亜科	—	—	300	—
不明	800	400	2,500	500
イネ科葉身機動細胞珪酸体				
クマザサ属	1,500	1,000	4,900	3,000
タケ亜科	1,800	400	1,400	800
ヨシ属	200	—	300	—
不明	1,800	1,200	900	<100
合計	3,500	2,400	8,200	3,300
イネ科葉部短細胞珪酸体	5,300	2,600	7,500	3,800
イネ科葉身機動細胞珪酸体	8,800	4,900	15,800	7,100
総計				

## D 考 察

谷埋積物における花粉分析結果では、底部に近い⑧層のみで花粉化石が検出され、上位の堆積物ではみられない。花粉化石は好気的環境による風化に弱い（中村、1967など）ことから、谷埋積物上層は、定常的に水が存在するのではなく、乾湿を繰り返すような環境であったため、花粉化石が分解した可能性がある。

⑧層の花粉化石群集は、上・下部で異なる。試料番号④では、木本花粉ではスギ属が多く、マツ属、ニレ属—ケヤキ属などを伴う。スギ属は、中尾新保谷内遺跡においても古代～中世の時にハンノキ属とともに多産し、木材や種実も検出されていることから、低地に生育していたことが推定されている（パリノ・サーヴェイ株式会社、2009）。今回の結果から、弥生～古墳時代においても、河川沿いや低地などを中心にスギが分布していたとみられる。また、イネ科やヨモギ属などの草本類が多産することから、周辺には草地が広がっていたと思われる。これらの木本類や草本類は、土地条件の悪い場所に生育するものが多い。おそらく、当時の低地や河川沿いは、削剥、運搬、堆積作用が活発で、土壤流出や植生破壊が起こっていたため、安定した森林が存在しなかったと考えられる。そのため、土地条件が悪い場所でも生育可能なスギや草本類などが低地に生育していたと思われる。

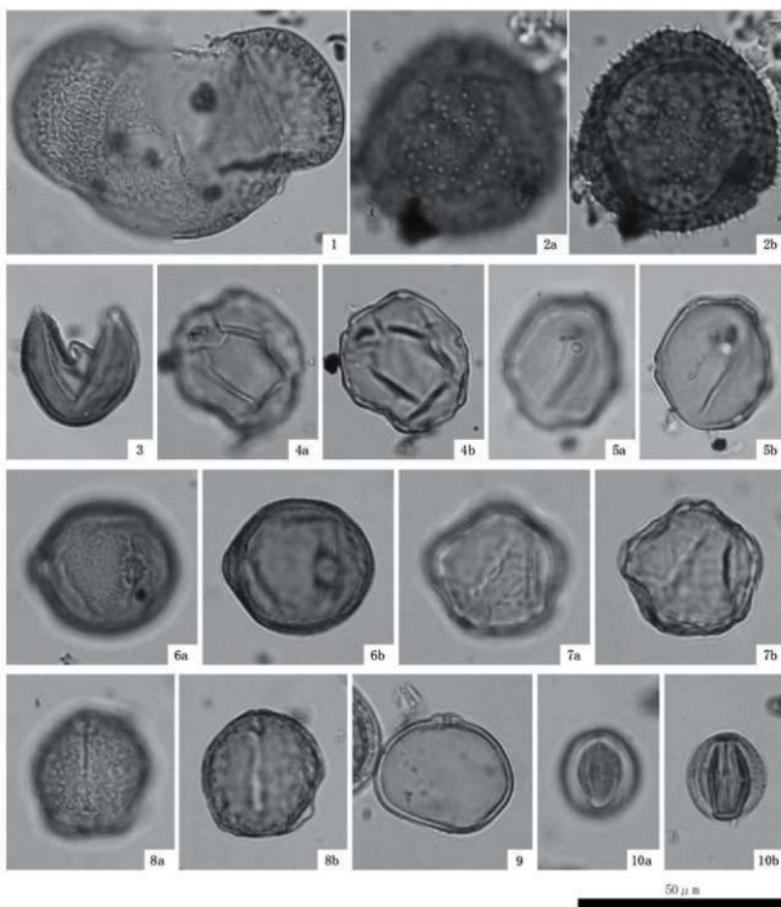
一方、試料番号③は木本類が主であり、マツ属、スギ属、サワグルミ属、クルミ属、コナラ亜属、ブナ属、ニレ属—ケヤキ属、スイカズラ属などがみられるが、際だって多い種類は認められない。検出された種類のうち、ブナ属以外は河川沿いや渓谷などの多湿な場所に生育する種類であることから、河川沿いの植生を反映していると考えられる。また、ブナ属は安定した森林を構成する種類であることから、山地を中心に生育していたと思われる。なお、試料番号④と試料番号③との花粉化石群集の差異は、周辺植生の変化ではなく、試料番号③が集水域を含むより広範囲の植生を反映していることによると推定される。

植物珪酸体も保存状態が悪い。植物珪酸体は、アルカリ性を示す水域や、乾湿を繰り返すような場所においては、風化が進み保存が悪くなる傾向がある（江口、1994、1996など）。植物珪酸体についても、堆積機構の影響により、保存されにくい状況下におかれていたと推測される。分析結果をみると、タケア科が多く、その中でもクマザサ属の産出が多い。クマザサ属は多雪地に多いササ類であり、林縁部や丘陵地内のギャップなどの森林が失われた場所に先駆的に進入してササ草原を形成したり、落葉樹林の林床に生育することが多い。そのため、検出されたクマザサ属は後背山地に由来するものと思われる。

（パリノ・サーヴェイ株式会社 田中義文・馬場健司）

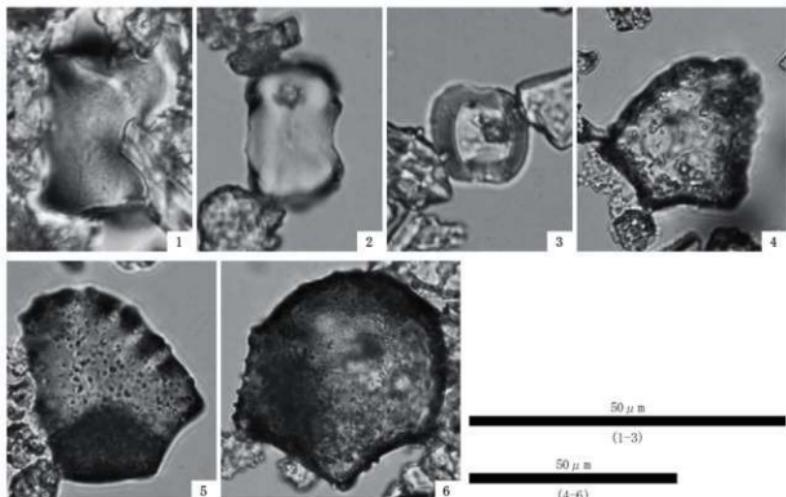
## 引用文献

- 江口誠一 1994 「沿岸域における植物珪酸体の分布」千葉県小櫃川河口域を例にして』『植生誌研究』2 19-27
- 江口誠一 1996 「沿岸域における植物珪酸体の風化と堆積物のpH値」『ペトロジスト』40 81-84
- Erdtman G., 1952, Pollen morphology and plant taxonomy: Angiosperms (An introduction to palynology. I), Almqvist&Wiksell, 539p
- Erdtman G., 1957, Pollen and Spore Morphology/Plant Taxonomy: Gymnospermae, Pteridophyta, Bryophyta (Illustrations) (An Introduction to Palynology. II), 147p
- Feagri K. and Iversen Johs., 1989, Textbook of Pollen Analysis, The Blackburn Press, 328p
- 藤本利之・小澤智生 2007 「琉球列島産植物花粉図鑑」アクリアコーラル企画 155p
- 近藤錦三 2010 『プラント・オーパール図譜』北海道大学出版会 387p
- 中村 純 1967 「花粉分析」古今書院 232p
- 中村 純 1980 『日本産花粉の標識 I II (図版)』大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第12・13集 91p
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2009 「中尾新保谷内遺跡の自然科学分析」「中尾茅戸遺跡・中尾新保谷内遺跡・神明北遺跡・大野江瀬遺跡発掘調査報告 -能越自動車軌道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告書VII - 第二分冊 富山県文化振興財团埋蔵文化財発掘調査報告第41集、財團法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 2-70
- 鳥倉巳三郎 1973 「日本植物の花粉形態」大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第5集 60p



1. マツ属 (Tr1;③)  
 2. スイカズラ属 (Tr1;③)  
 3. スギ属 (Tr1;③)  
 4. サワグルミ属 (Tr1;③)  
 5. クルミ属 (Tr1;③)  
 6. ブナ属 (Tr1;④)  
 7. ニレ属—ケヤキ属 (Tr1;④)  
 8. コナラ属コナラ亜属 (Tr1;④)  
 9. イネ科 (Tr1;④)  
 10. ヨモギ属 (Tr1;④)

写真3 花粉化石



1. クマザサ属短細胞珪酸体(Tr1;①)
3. ヨシ属短細胞珪酸体(Tr1;③)
5. クマザサ属機動細胞珪酸体(Tr1;③)

2. クマザサ属短細胞珪酸体(Tr1;③)
4. クマザサ属機動細胞珪酸体(Tr1;①)
6. ヨシ属機動細胞珪酸体(Tr1;③)

写真4 植物珪酸体

## 6 総括

### (1) 主要遺構変遷について

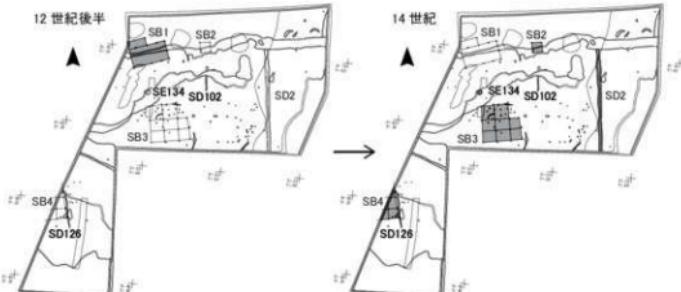
遺構には掘立柱建物、溝、井戸、土坑などがある。弥生時代終末期～古墳時代初頭の時期では谷が確認されている。谷の東側の北端落ち際付近から、土器が比較的まとまりをもって出土している。谷には3本のサブトレーニチを設定し、掘削したが遺物は確認されなかった。したがって、谷から出土した土器は、東側の北端落ち際付近に限定される。建物などの集落に直接関わるような遺構は確認されていない。古代の遺構にはSD1とSD127の自然流路、SK5とSK107の土坑が検出されているが、遺構数は少ない。集落を構成する掘立柱建物や竪穴建物も確認されていない。中世の遺構は掘立柱建物、溝、自然流路、井戸、土坑が確認されている。掘立柱建物は4棟、井戸は1基検出されており、掘立柱建物群は調査区からやや西寄りに分布する傾向にある。SB4は調査区外に広がることから、集落は西側に展開する可能性がある。

建物遺構が確認された中世の主要遺構変遷を考えてみたい。まず、主軸方位からSB1のグループとSB2～SB4のグループに分類することができる。SB1は単独棟であり、調査区外に同じ主軸を持つ建物が存在するかもしれない。SB2～SB4については主軸方位がほぼ同じであるため、同時期に存在、もしくは近似した時期に構築された可能性が高い。SB1とSB2～SB4の各建物群の先後関係は切り合いや柱穴出土の遺物が無いため根拠に乏しいが、SB1と比較してSB3のグループは柱間が長く、柱穴が規則的に並ばない様相を呈する。富山県内の傾向として、中世の前半（12世紀～14世紀）では、総柱建物が主流で、規模も大きい傾向であるが、時代が下るにつれて側柱建物が主流となり、小規模化する<sup>註1</sup>。SB1とSB3を比較した場合、SB1は側柱建物であるものの、柱間はSB3のグループより短く、柱列では規則的に並ぶ。このため、SB1が先行し、SB3のグループが後出する変遷案を提示する。建物以外でSB1と明らかに関連性が高い遺構は検出されていない。又、SB2～SB4の建物群と関連性のある遺構としては、井戸のSE134や主軸方位がほぼ同一である区画溝のSD2を考えたい。建物群の時期は、SB1にはほど近いSD102から、12世紀後半の中世土師皿（20）が出土しているため、SB1はこの時期に構築されたと考えたい。SB2～SB4については時期決定が困難であるが、珠洲の擂鉢で吉岡編年のIV期に比定される個体が出土していることも考え合わせると、14世紀前後の時期が想定されよう。

(島田亮仁)

註1 河西健二 1993『越中における様相』『第6回北陸中世土器研究会 中世北陸の家・住敷・暮らし』北陸中世土器研究会

参考文献 財團法人富山県文化振興財團 1994『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺構編）』



第33図 七分一堂口遺跡 中世主要遺構変遷図

# 第V章 加納谷内遺跡

## 1 概 要

加納谷内遺跡は、余川川と上庄川に挟まれて伸びた丘陵の先端が二股に分かれた合間に位置する。遺跡南側の丘陵上には加納南古墳群、遺跡北側の丘陵上には加納蛭子古墳群、加納横穴墓群、木谷城跡、加納新池古墳群が存在し、東側は上庄川や余川川によって形成された平野が広がっている。

加納谷内遺跡では平成17・18年度に全6地区を調査し、縄文時代・弥生時代～古墳時代・古代・中近世の遺構・遺物を確認することができた。以下、時代ごとに簡略に概要を述べる。

縄文時代では、A地区で前期中葉から中期前葉の埋設土器、B地区の谷で中期初頭から前葉の土器、C2地区・C3地区で集石土坑・土坑・溝と前期前葉の土器・石製品を確認した。

弥生時代から古墳時代では、遺構は確認出来なかったが、B地区的谷で土器・木製品が出土した。

中近世については、全地区で集落跡を確認した。掘立柱建物26棟・櫛11列・井戸64基・溜池状遺構15基以上、石敷遺構2基、道路状遺構1条のほか、多数の土坑・溝を検出し、中世前期から近世に至る遺物が出土している。

## 2 層 序

加納谷内遺跡は南北を丘陵に挟まれた合間に存在するため、遺跡の南側にあるD地区からA地区的南半は平坦であるが、A地区的北半からB地区的南半は緩やかに低くなり、B地区的北半からC1地区・C2地区・C3地区へは遺跡北側にある丘陵の傾斜をのぼっていく形となる。調査前の現況は全地区が水田で、どの地区も圃場整備によって中近世の遺物包含層と検出面が削平を受けていた。

基本となる層序は表土・耕作土（I層）、中近世遺物包含層（II層）、中近世遺構検出面（III層）、縄文時代遺物包含層（IV層）、縄文時代遺構検出面（V層）となる。IV層とV層はA・B・C1・D地区には存在せず、C2・C3地区にのみ存在する。

I層は全地区を通して堆積し、黄灰色や灰黃褐色の粘質シルトである。C2地区・C3地区は自然地形の傾斜が激しいところを盛土と削平によって水田に整備したため、I層が厚く堆積し、II層が残存するところと、II・III層を削ってI層の直下が中近世遺構検出面となるところが存在する。

II層は灰褐色や黒褐色の砂質シルトであるが、C3地区ではやや粘性のあるシルトとなる。圃場整備による削平を受けた層であるため、全地区を通して堆積は薄く、存在しない箇所もあった。

III層はA・B・C1・D地区では黄褐色から灰色の砂、C2・C3地区では浅黄色粘土である。C2地区では、C1地区寄りの南側ではC1地区のIII層である黄褐色砂と混じり合って堆積が薄くなり、C3地区寄りの北側では粘性が強くなって厚く堆積する。

IV層は黒色粘土で、III層と同様に、C2地区では南側にはほとんど堆積せず、北側は厚く堆積する。V層は灰色砂である。

中近世遺構検出面のIII層上面は、A地区では標高5.0m、一番高いC3地区の北端で標高10.4mを計り、縄文時代遺構検出面のV層上面は、C2地区的南側で標高5.8m、C3地区的北端で標高9.7mとなる。

### 3 遺構

#### (1) 繩文時代

繩文時代の遺構・遺物を検出した地区は、A・B・C2・C3地区である。A地区の北半部では、中近世遺構検出面であるⅢ層上面で、埋設土器5基と土坑を検出した。またⅠ層直下に薄く残存したⅡ層からも土器が出土している。A地区北半部は地形が緩やかに下がってB地区の谷へと続くが、その低くなつた落ち際で遺構・遺物が点在するため、本来は繩文時代の生活面が存在したが、中近世の土地利用による削平によって消失し、わずかに残ったものを検出したと考えられる。B地区では、谷と呼称する自然流路の最下層である谷V層（褐色砂）から土器・石製品が出土している。C2地区とC3地区では、遺跡北側丘陵裾のやや窪んだ地形になっているV層上面で、埋設土器・土坑・集石土坑・溝・倒木痕を検出し、遺構内やV層上面、その周辺の包含層であるⅣ層から土器・石製品が出土している。

##### A 埋設土器（第36図、図版26）

埋甕1AはA地区北東部にあり、土器のみをⅢ層上面で検出した。土坑の掘形は検出されず、また周辺一帯は中近世の削平を受けているため、遺構との関係性は不明である。44は口縁部を下にし、倒立した状態で出土しており、口縁部も全周はせず、胴部以下は欠損している。時期は中期前葉。

埋甕2AはA地区北東部にあり、埋土は灰黄色砂であるが、検出面であるⅢ層とはわずかな差しあり、掘形は明確ではない。13は土坑内で直立した状態で出土し、口縁部を欠くが、胴部から底部はよく残っていた。時期は前期後葉かと考えられる。

埋甕3AはA地区中央部にある中近世の溝SD300A底面から土器のみを検出した。33は直立した状態で出土し、口縁部を欠くが、胴部は半分、底部はほぼ全体が残存していた。時期は中期前葉か。

S K338AはA地区北東部にある土坑であるが、土坑上面で上から押しつぶされ平らにひしゃげたような状況の土器が出土した。土坑内ではなく上面での検出であり、周辺は後世の削平を受けているため、遺構との関係はあきらかではない。30は胴部がほぼ一周し、口縁部と底部を欠いている。時期は中期前葉かと考えられる。

S K1130AはA地区中央部にある土坑である。31は土坑内に直立した状態で出土した。口縁部と底部を欠くが、胴部は一周し、残りはよい。時期は中期前葉かと考えられる。

##### B 土坑（第36・37図、図版26・27）

S K1038AはA地区北西部にある長方形の土坑で、南東側は試掘トレンチによって失っている。埋土は黒色砂質シルトと黒褐色砂の2層で、土坑内と上面で土器（38・40・48・50・52）がまとまって出土した。また土坑周辺の検出面からも土器（28）が出土しているほか、この土坑の西側にあるSD1029A・SD1048Aからも土器（49・61）が出土している。時期は中期前葉と考えられる。

S K410C2はC2地区の北東部にある円形の集石土坑で、埋土は炭化物の混じった灰色砂である。土坑の内部には、ぎっしりと大量の礫が詰め込まれていた。周囲の地山には礫がほとんど含まれないため、人為的に運ばれてきたものと考えられるが、これらの礫の中には石錘等の製品は存在しなかつた。時期は周囲の土坑と同様に、前期前葉から中葉と考えられる。

S K413C2はC2地区の北東部にある不整形の土坑で、埋土は多量の炭化物と植物遺体を含んだ灰色砂質土。土坑の底部からは土器（8・10）と石錘（122）が出土している。時期は前期中葉と考えられる。

S K425C 2 は C 2 地区の北東部にある円形の土坑である。土坑の上層には拳大の礫が置かれ、この礫の下面是焼け、下半は炭化物層に埋もれる形になっていた。この炭化物層の下は上面が焼けた砂混じりの粘土層で、さらにその下には再び炭化物層があった。土坑の底面から肩にかけての地山砂は焼けて硬く締まっており、特に法面において顕著であった。上下の炭化物層には炭化材がよく残っており、特に下の炭化材は土坑の中心に向かって放射状に木材を組んだように見受けられた。この炭化材を放射性炭素年代測定にかけたところ、<sup>14</sup>C 年代で 5720 ± 50yrBP という結果を得ており<sup>iii</sup>、前期前葉に属すると考えられる。遺物は石錘 (119) が出土しているが、焼けた礫の中には石錘ではなく、この石錘は火を受けた痕跡がないため、周囲から混ざり込んだ可能性がある。

S K205C 3 は C 3 地区南西部にある不整形の土坑で、埋土は砂の混じった黒色粘土である。一段深く落ち込んだ肩部に横倒しの状態で土器 (1) が出土したほか、土器 (4)・石錘 (127) が出土している。時期は前期前葉と考えられる。

### C 自然流路

#### 谷 (第34図)

B 地区の南半部を占める谷地形で、幅約 35m、深さ約 2.7m を測る。中近世遺構検出面であるⅢ層上面で谷の肩を検出し、その上面では中近世の遺構は全く検出されなかった。埋土は上から黒褐色粘土層、谷Ⅲ層：黄灰色粘土層（弥生・古墳時代遺物包含層）、谷Ⅳ層：黒色砂質シルト層（縄文～弥生時代遺物包含層）、谷Ⅴ層：褐灰色砂層（縄文時代遺物包含層）となっている（この谷Ⅲ・谷Ⅳ・谷Ⅴ 層は谷埋土の独自の層序で、基本層序とは異なる）。谷Ⅲ層上面では S D425B・杭列・土坑を検出した。杭列は S D425B と交差し、北東から南西へ 2 列が平行してのびるものであった。また木製品と弥生土器・土師器も谷Ⅲ層上面と黒褐色粘土層から多数出土している。谷Ⅳ層上面の南側では土坑群を検出した。これらの土坑の埋土は黄灰色粘土であるが、建物は構成せず、性格は不明である。谷Ⅳ層・谷Ⅴ層からは縄文土器・弥生土器・土師器・木製品・石製品等が出土している。縄文土器は中期初頭～中期前葉のもの、弥生土器・土師器は弥生時代後期後半～古墳時代中期のものである。中近世の遺物は少ない。谷は縄文時代中期初頭には存在し、古墳時代中期頃をすぎて埋没していくが、中近世に至るまでは低湿地のまま残り、その上を人々が利用するものではなかったと考えられる。

### (2) 中近世

中近世の遺構・遺物は全 6 地区で集落跡を確認した。掘立柱建物 26 棟・井戸 64 基・石敷遺構 2 基・溜池状遺構 15 基以上・道路状遺構 1 条、多数の土坑、溝を検出した。C 2・C 3 地区に展開する建物群と、A 地区に展開する建物群では存続時期が異なっており、前者は中世前期後半から後期前半、後者は中世後期前半から近世と考えられる。井戸は A・B・C 1 地区の平坦地に集中し、井戸側の種類によって分類できた。石敷遺構は、B・C 1 地区で検出し、遺構の明確な性格は不明だが、生活用の水場かと推定するものである。土坑では A・C 1 地区の大型土坑が溜池状遺構と考えられ、その水源かと考えられる井戸も検出している。溝では区画溝と道路状遺構を検出した。

#### A 掘立柱建物・欄 (第42～58図、図版34～37)

S B 1 は A 地区南部に位置する 3 間 × 3 間の東西棟縦柱建物である。遺構が密集し、遺構の切り合いで激しいため、柱穴の規模が判然としないものがある。S P504A と S P1146A は井戸を埋めた後に柱穴を作り、S K517A は複数の土坑が重複している中に柱穴があり、いずれも柱根が残っていた。S P504A からは井戸構築の際に混入したと考えられる土師器 (261) のほか、瀬戸美濃 (312)、S P

<sup>iii</sup> 第V章5自然科学分析 (1) 放射性炭素年代測定分析を参照されたい。

S 615Aからは中世土師器（327）が出土している。建物内の S K545A は土間か。周囲には井戸が多く、S E574A・S E1134A・S E614A・S E630A のいずれかは建物に伴う井戸である可能性がある。東側にある S A 1 とは主軸方位がほぼ同一で、また建物南側をコの字に囲む S X1114A は、建物を意識したものと考えられる。時期は中世後期後半から近世か。

S B 2 は A 地区南部に位置する 2 間 × 1 間の東西棟側柱建物である。遺構が密集し、遺構の切り合いが激しいため、柱穴の規模が判然としないものがある。S P505A と S P614A は井戸を埋めた後に柱穴を作ったもので、柱根が残っていた。S P1135A は土坑の切り合いが激しく、柱穴の掘形は判然としないが、柱根が残っていた。S A 2 が伴うと考えられる。S B 1 と重複し、切り合い等から S B 2 が古いと考えられる。S P505A から珠洲（408）が出土している。時期は中世後期後半か。

S B 3 は A 地区南部に位置する 2 間 × 2 間の東西棟総柱建物である。S B 2 の北東側にあり、建物の主軸がほぼ同一であることから、S B 2 と同時期の建物と考えられる。また、北側にある S D287A・S D300A、南東側の S D100A は S B 2 と S B 3 に付随する区画溝の可能性がある。

S B 4 は A 地区南部に位置する 2 間 × 1 間の南北棟側柱建物である。S B 1 の南東側に重複し、S B 2 と近接する位置にある。S P570A が S E569A に切られており、この井戸が中世後期前半のものであるため、それ以前の建物と考えられる。

S B 5 は A 地区北西部に位置する 3 間 × 2 間の南北棟側柱建物である。他の建物とは離れたところに立地する。S E796A がこの建物に伴う可能性がある。柱穴からは柱根も含めて出土遺物がなく、時期は不明である。

S B 6・S B 7 は B 地区南部に位置する。S B 6 は 4 間 × 2 間の東西棟側柱建物、S B 7 は 2 間 × 2 間の南北棟総柱建物である。S B 6 と S B 7 は重複するが、切り合いがなく、前後関係は不明である。S B 7 の S P60B から中世土師器片が出土している。周辺の土坑の時期から、中世後期かと推定しておく。

S B 8 は B 地区の南部に位置する 2 間 × 1 間の東西棟側柱建物である。S B 7 と建物主軸がほぼ同一で、同時に存在したと考えられる。

S B 9 は C 1 地区北東部に位置する建物である。現状では 1 間 × 2 間の南北棟総柱建物であるが、C 2 地区との境界畔が建物の北側に近接していたため、北側に建物規模が拡張する可能性を残す。遺物はなく、時期は不明だが、S B19 と建物主軸が似ており、同時期か。

S B10 は C 2 地区北部に位置する 2 間 × 2 間の南北棟総柱建物である。遺跡北側の丘陵裾から一段登った狭小な平坦面に位置する。調査区北端であるため、北西側に建物規模が拡張する可能性もある。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

S B11 は C 2 地区南東部に位置する 3 間 × 3 間の東西棟総柱建物である。東側に S A 5 が付隨し、北側を東西に走る S D3 C 2 は区画溝かと考えられる。西側に近接する S B12 と建物主軸を同じくし、同時に建物と考えられる。図示していないが、S P310C 2 から珠洲の鉢底部が出土している。

S B12 は C 2 地区南東部に位置する 5 間 × 2 間の東西棟総柱建物である。南側に S A 6 が付隨し、北側にある S D3 C 2 は区画溝、東側の S B11 とは同時に建物と考えられる。西側で S B13・S B14 と重複する。S P333C 2 と S B13 の柱穴 S P334C 2 の切り合いから、S B13 よりも S B12 のほうが古いが、S B14 との新旧関係は不明。遺物は出土していない。

S B13・S B14・S B15 は C 2 地区南東部に位置する。S B13 は 3 間 × 2 間の南北棟総柱建物、S B14 は 2 間 × 2 間の南北棟総柱建物、S B15 は 4 間 × 3 間の南北棟総柱建物である。S B12~15 は重

複しており、SB13はSB12よりは新しいが、SB13・14・15間の新旧関係は不明である。SB15は建物主軸をやや西に振る。SE91C2は建物に伴う井戸か。いずれの建物も遺物は出土していない。

SB16はC2地区南西部に位置する6間×4間の南北棟総柱建物である。遺跡北側の丘陵裾に展開する建物群の中ではひときわ大型の建物となる。いくつかの柱穴で重複がみられるため、同位置での建て替え等の可能性がある。SB11・SB12・SB17とは建物主軸がほぼ同一で、同時期の建物と考えられる。東側のSD54C2、西側のSD214C2は区画溝であろう。SP145C2から中国製白磁(472)、SP160C2から珠洲が出土している。

SB17はC2地区南西部に位置する4間×1間の東西棟側柱建物である。SB16の南側に、ほぼ1間の間を置いて位置するため、SB16の一部かと考えられたが、東端の柱列が揃わないため、別建物とした。SP106C2からは柱根、SP108C2からは須恵器・珠洲片が出土している。

SB18はC2地区南西部に位置する3間×2間の南北棟総柱建物である。東側にSB16が近接するが、建物主軸はやや西に振る。遺物は出土していない。

SB19はC2地区南西部に位置する2間×1間の東西棟側柱建物である。建物主軸はSB16・SB17よりもやや東にふる。SP118C2から土師器が出土している。

SB20はC3地区北東部に位置する2間×2間の東西棟総柱建物である。出土遺物はない。

SB21はC3地区中央部に位置する2間×1間の東西棟側柱建物である。出土遺物はない。

SB22はC3地区南西部に位置する4間×2間の南北棟総柱建物である。位置は離れているが、SB15やSB18と同様に建物主軸をやや西にふるため、同時期の建物かと。柱穴には柱痕があり、SP50C3・SP51C3・SP54C3・SP57C3からは時期不明の土師器小片が出土している。

SB23はC3地区南東部に位置する建物である。調査区外の南側と東側に建物が広がる可能性があり、全体の規模は不明だが、現状では3間×1間の側柱建物として確認している。北側のSD102C3は区画溝と考えられる。SB24と重複しているが、SB24に伴うとみられるSK120C3をSP119C3が切っているため、SB24よりも時期は新しいと考えられる。SP113C3から時期不明の土師器小片が出土している。

SB24はC3地区南東部に位置する建物である。SB23同様、調査区外の南側に建物が広がる可能性があり、全体の規模は不明だが、現状では3間×2間の側柱建物として確認している。SK120C3はこの建物に伴うとみられる。南側が調査区外に広がるため、全容は不明であるが、東西幅約2.9m、南北幅約3m、深さ約0.5mの平面隅丸方形の土坑である。炉や竈等は確認した範囲では検出しておらず、性格は不明である。この土坑からは15世紀の中世土師器皿が出土している。

SB25・SB26はC3地区南西部に位置する。SB25は3間×1間の東西棟側柱建物、SB26は1間×3間の南北棟側柱建物である。両建物は重複するが、切り合いではなく、新旧関係は不明である。

#### B 井戸

井戸は全地区で64基確認しており、とりわけA・B・C1地区に集中している。井戸の構造から素掘り・木枠組・石組・切石組の4種類に分類でき、さらに石組では円筒状石組のみと、上段は円筒状石組で下段は方石組の2種類、切石組では水溜が曲物桶であるものと、水溜も切石組であるものの2種類に分類できる。以下、この分類ごとに記述を行うこととする。

a 素掘り(第59~62・84・85図、図版38・39・42・43・45・46)

SE172A・SE609A・SE640A・SE671A・SE156B・SE336B・SE339C1・SE53C2・SE91C2・SE73C3・SE140C3・SE146C3は素掘り井戸である。

S E609A・S E640Aは隣接し、いずれも上部をS K545Aに切られており、水溜に近い下部だけ残存した。水溜には、S E609Aは曲物桶を2段重ね、S E640Aは結物桶を据えてあった。S E640Aから折敷(614)が出土した。

S E156BはS K1Bに上部を切られていたが、水溜に曲物桶(590・591)を2段重ね、それが生じていた。土師器・中世土師器・箸・円形板・部材(633)が出土している。

S E336Bは木製臼(592)の底部を抜き、口縁部を下にして水溜として据えてあった。石材も出土したが、組まれたものではないと思われる。中世土師器・珠洲・箸・部材(637)が出土している。

S E339C1は曲物桶5段を組み合わせて水溜としており、これを埋設するときに珠洲の壺の胸部を裏込めに使用している。珠洲(407・423)・漆器・円形板(603)・部材(625)が出土している。時期は中世前期後半と考えられる。

S E53C2はS D54C2の水源か。土師器・珠洲(391・416)・中国製白磁が出土した。時期は中世前期前半かと考えられる。

#### b 木枠組(第63~66図、図版41~44)

S E796A・S E867A・S E185C1・S E326C1は木枠組の井戸である。

S E796Aは方形縦板組隅柱横棟どめ。S B5に伴うか。珠洲・砥石が出土している。

S E867Aは板材を四角に組み、水溜に曲物桶(583)を据える。溜池状遺構S K791Aの南隅にあり、溜池の水源としての溜井である可能性も考えられる。円形板(607)が出土している。

S E185C1は、最下段の桟木のみが残存したS E112C1が廃棄された後に作られた井戸で、方形縦板組、水溜に曲物桶(585)を据える。中世土師器(326・341)・珠洲・漆器碗(569)・折敷(615)が出土した。時期は中世前期後半かと考えられる。

S E326C1は方形縦板組の井戸で、吉岡編年Ⅲ期の珠洲、円形板(597)、盤(617)等が出土した。中世前期前半かと考えられる。

#### c 石組(第67~72図、図版38~40・43・44)

S E495A・S E564A・S E569A・S E323B・S E420C1は井戸側を円筒状石組とした井戸、S E595A・S E596A・S E669Aは井戸側の上部を円筒状石組、下部を平面方形の石組とした井戸である。石材はほとんどがシルト岩で、特に方形の石組に使用した石材は角柱状や四角形に整形されており、円筒状に使用した石材よりも格段に大きなものを使用している。

S E495Aは上部が削平されており、構造不明だが、水溜に木臼を転用した刳物(594)を据える。中世土師器(373)・珠洲・瀬戸が出土している。中世後期か。

S E564Aは水溜に結物桶を据え、側板のゆるんだ箇所に外側から珠洲壺の胸部破片をあてて、補強を行っていた。須恵器・中世土師器(328)・珠洲(405)・越前が出土している。中世前期後半か。

S E569Aは水溜に結物桶(572)を据え、桶の下端まで石組を構築し、石組中段の石材には宝篋印塔(663)が転用されていた。井戸廃棄の際には、石組中段でシルト岩と粘土とを用いて井戸内部を封じ、それらの石の中には板碑(671)も使用されていた。中世土師器(356)・珠洲(403)・中国製青磁(450)が出土している。中世後期前半かと考えられる。

S E323Bは鐵や円形板を転用した板材(605・606・608・609・612・613・622・628・629・636)を石組と水溜の曲物桶との間に一周して差し立ててあり、井戸側の補強を行っていた。

S E595Aは井戸側上部を人頭大のシルト岩で円筒状に組み、下部を長方形のシルト岩で四角に組む。水溜には曲物桶(580)を据える。珠洲(429)・円形板(600)・バンドコ(676)が出土しており、

中世後期かと考えられる。

S E 596A は石組の石材に板碑 (665・666) が転用され、水溜に曲物桶 (581) を据える。溜池状遺構 S K 510A の南部にあり、溜井か。中世土師器 (321・366) が出土している。中世後期か。

S E 669A は水溜の曲物桶内部に竹が立ててある状態で検出しており、井戸廃棄の際に祭祀が行われたと考えられる。近世の瀬戸が出土しており、近世になってから廃棄されたと考えられる。

#### d 切石組（第73～83図、図版39～46）

S E 630A・S E 682A・S E 717A・S E 111B・S E 4 C 1・S E 591C 1・S E 593C 1 は井戸側を板石で組み、水溜に桶を据えた井戸。S E 574A・S E 614A・S E 1134A・S E 201B・S E 202B・S E 5 C 1・S E 201C 1 は井戸側も水溜も板石で組んだ井戸である。板石とはシルト岩を厚さ10～15cm・短辺30～40cm・長辺50～60cmの長方形の板に加工したもので、表面は繋痕等が観察できた。

S E 717A・S E 111B は四角形の漏斗状となるように厚めの板石を組み、水溜に曲物桶を据える。上段板石の上面に人頭大の石を並べてあるが、石組井戸のように井戸側の上部を円筒状石組とするほどではない。S E 111B からは中世土師器 (338・354)・珠洲 (437)・中国製白磁・中国製青磁 (456)・越中瀬戸・伊万里・唐津 (527)・漆器椀 (567)・銅錢 (699) 等が出土しており、近世に廃棄されたものと考えられる。

S E 630A は板石を五角形に3段組んで井戸側とし、水溜に結物桶を据える。板石の合わせ目は杭と粘土で補填して、隙間のない仕上げとなっていた。円形板 (595・596・604)・柄 (621)・砥石 (683) が出土している。

S E 682A は板石を1段組み、水溜に曲物桶 (582) を据える。筵状の編物が北側の板石内面から桶上面に掛けてあったような状況で検出された。溜池状遺構 S K 683A に伴う溜井か。

S E 4 C 1 は板石を六角形に2段組み、水溜には結物桶を据える。桶上面に人頭大の川原石が投棄された状態で検出された。漆器椀 (565) が出土している。

S E 5 C 1 は板石を五角形に2段組み、水溜は板石を四角形に組む。

S E 591C 1・S E 592C 1・S E 593C 1 は3基の井戸が並び、間の S E 592C 1 が2基を切っている。S E 591C 1 は板石を四角形に2段組み、水溜に曲物桶 (589)、S E 593C 1 は板石を五角形に1段組み、水溜の上段に結物桶、下段に木臼の中心を抜いたもの (593) を据える。S E 593C 1 の板石の合わせ目は杭で補填してあった。S E 591C 1 から部材 (624) 等の木製品、S E 592C 1 からは珠洲が出土している。

S E 574A は板石を五角形に3段組み、水溜は四角形に1段組む。板石の合わせ目は杭と粘土で補填してあった。珠洲・瀬戸・近世磁器が出土している。

S E 614A は板石を五角形に1段組み、水溜は四角形に1段組む。板石の合わせ目は杭と粘土で補填してあった。この井戸を埋めた後に S B 2 の柱穴を掘削しており、柱根が残存していた。

S E 1134A は板石を六角形に組み、水溜にはシルト岩の円形削物 (680) を使用している。板石の合わせ目は杭と粘土で補填してあった。珠洲・曲物桶 (575)・柄杓が出土している。

S E 201B・S E 202B はともに S K 1 B によって上部を削平されており、構造の全容は不明である。S E 202B は板石を六角形に1段組み、水溜に板石を四角形に1段組む。切石の合わせ目は粘土で補填する。井戸側の板石組みの直下には礫が敷いてあり、沈下を防いだと考えられる。水溜の中には40cm大の石が投げ込まれていた。S E 201B はシルト岩の円形削物 (679) のみが残存したもので、S E 1134A と同様のものと考えられる。S E 201B から中世土師器が出土している。

### C 石敷遺構（第86～88図、図版47・48）

石敷遺構は長方形の板石を敷き並べた遺構で、B地区とC1地区の2箇所で検出した。石材は切石組井戸と同じく、シルト岩を厚さ約15cmほどの長方形に加工した板石を主に用いている。

S X191Bは平面梢円形の土坑内に板石を敷き並べた遺構で、原位置を保った板石は北側に限られる。板石は上面を水平に据え、遺構中央に近づくにつれて下るよう、少しづつ段差をつけた階段状に並べる。板石の平面形の基本は長方形であるが、西端に近い1箇所では平面円形を意識した板石がある。外縁は板石を立てて置くか、大きな角柱状の石材を用い、土坑の平面形にあわせて弧を描くように並べており、区画を意識しているものと考えられる。東端はやや様相が異なり、水平に並べた小ぶりな板石の北と東に板石を立て、直線的に並べて区画している。遺構中央の板石は規則性に欠け、南側はシルト岩の破片が散在していた。遺物は中世土器（377）・珠洲（413）・瓦質土器・瀬戸美濃・越中瀬戸・伊万里・漆器椀（566・571）・桶側板（573）・円形板（598）・温石（675）・バンドコ（674）・砥石（686）・鉄釘等が出土しており、中世後期以降に構築され、近世には埋没したと考えられる。

S X350B・S X351Bは、石敷遺構とするには至らないが、関連する可能性がある土坑として記述する。S X350Bは残存する板石が少なく、並べ方は整然としていない。土坑内の南東隅に曲物桶が据えられており、井戸があった可能性がある。珠洲・曲物側板・杓子（627）が出土している。S X351Bは埋土と底面から板石とその破片が大量に検出された。中世土器（368）・珠洲・瓦質土器（379）等が出土している。いずれの土坑も埋土から、S X191Bと同時期に埋没したと考えられる。

S X726C1は遺構上面を自然流路に削平されているものの、隅丸方形の浅い土坑の南側に板石を隙間なく整然と敷き詰めてあった。板石は遺構中央から辺縁に向かって僅かに傾いて上がり、段差は設けない。外縁は石を立て、土坑の平面形にあわせて弧を描くように並べる。東側は調査区外へ続き、北側の石材は残っておらず、シルト岩の破片がわずかに散在するのみである。弥生土器（180）・中世土器・珠洲・瀬戸が出土しており、中世後期以降に構築され、近世には埋没したと考えられる。

### D 土坑・溜池状遺構（第89～96図、図版49・50）

土坑は全6地区で多数検出したが、なかでもA地区南部とB地区南東部に大型土坑が集中している。SK510A・SK666A・SK683A・SK791A・SK921A・SK922A・SK1028A・SK55B・SK78B・SK79B・SK93B・SK305B・SK330Bは円形または不整形の大型土坑で、湧水層に達するまで掘削されたものと、浅いレンズ状となるものがある。溜池状遺構かと考えられるSK666A・SK683A・SK791Aなどは、遺物から中世前期後半～後期中頃に掘削され、改修されながら近世まで存続したと考えられる。またSK683Aの南隅にあるSE682Aや、SK791Aの南隅にあるSE867Aは溜池の水源としての井戸「溜井」の可能性がある。SK305BはB地区北部にある平面隅丸形の土坑で、北側と東側の法面に泥岩を3段積んで、護壁が施されていた。

C2地区とC3地区では、方形の大型土坑を2基検出した。SK52C2はほぼ正方形で、深さ約1m、南西隅が突出して長く伸び、緩やかなスロープとなって、出入りが可能になっていた。SK170C3はやや長方形で、スロープはないが、北辺の東側法面の一部が段になっている。これらの土坑は遺跡北側丘陵の斜面上にあり、A・B地区での溜池状遺構とは性格が異なるように考えられる。

C2地区の北西隅にあるSK242C2は、東・北・中央の3つの土坑が複合した土坑で、東土坑からは木製品、北土坑からは井桁状に並べられた多数の杭、中央の土坑から多量の土器・陶磁器が出土した。A地区的SK619A、B地区的SK2Bからも多量の土器・陶磁器が出土しており、これらは近世の廃棄土坑かと考えられる。

## E 溝・道路状遺構（第74・90・92・97図、図版50）

溝は全6地区で多数検出したが、区画溝や道路状遺構かと考えられる溝について記述する。

S D100AはS B 3西側のS D300Aと同様に、S B 3に伴う区画溝か。中世土師器が出土している。

S D403C 1・S D603C 1・S D750C 1はC 1地区西部にあり、流れの向きを直角に変えている区画溝。S D603C 1とS D750C 1で区画された内側では、多数の土坑と2基の井戸を検出したが、建物を特定するには至らなかった。S D403C 1から珠洲（435）が出土している。

S D221C 1はS D111C 1に平行し、流れの向きを二度変えた内側に多数の土坑と井戸が存在する。北端付近で珠洲（435）がまとまって出土した。

S D111C 1・S D214C 2は同一の溝で、C 2地区の建物群からやや離れた西側を南北に走る。建物群と、その東側にあるS D54C 2と平行に伸びているので、S D54C 2とともに区画溝であると考えられる。S D3C 2はS D54C 2と直角に交わり、S B11・S B12の北側を東西に走る区画溝。S D2C 2はS B11の東側を南北に走る区画溝か。S D111C 1・S D214C 2からは珠洲、S D54C 2からは土師器・須恵器・珠洲（388・392・416）・中国製白磁（464・466・469・470）、S D3C 2からは須恵器・鉄滓が出土している。

S D1C 2・S D80C 3は同一の溝で、丘陵裾を開削するように流れる。土師器・須恵器（276）・灰釉陶器（299）・珠洲（380）・中国製白磁（465・473）・鉄滓が出土している。

S D61C 2・S D62C 2は丘陵斜面を長さ約25m平行して走り、丘陵裾と丘陵斜面の建物群をつなぐ道路状遺構の両側溝と考えられる。両側溝の心々距離は約2.1mとなる。両側溝に挟まれた内側では、垂直方向の短い溝を2箇所検出したのみで、道路面には硬化した部分等は見られなかった。

S D76C 3は前述の道路状遺構と平行に走る溝で、土師器・須恵器（281）が出土している。

S D2C 3・S D22C 3・S D26C 3・S D33C 3はC 3地区北東部を碁盤目状に区画する溝で、S D80C 3へと合流する。C 3地区北東部の丘陵斜面中腹では地割れの痕跡が多数見つかった。これらの溝は地割れよりも新しい。S D2C 3から須恵器（290）・中世土師器・珠洲が出土している。

## 4 遺 物

## （1）縄文時代

## A 土器・土製品（第98～102図、図版2・51・52）

I～76は縄文土器で、器種はすべて深鉢。I～7は胴部外面に非結束羽状縄文、I・7の底部は爪形狀連続刺突文を施し、6には補修孔かと考えられるが未貫通の痕跡がある。新谷式に併行する前期前葉のもの。8・10は胴部外面に菱形連続刺突文5条の中央に円形竹管文を施す。富山県小杉町南太閤山I遺跡のZ II群段階で前期中葉。IIは半隆起線文による渦巻文が施された福浦上層式で、前期後葉。I2は口縁部上と外面に極細粘土紐を貼り付け、刻みを施した朝日下層式で、前期末葉。I4～19・25～29は新保式で中期前葉。I4～16は細胴で口縁部が強く内湾する、やや小型の深鉢。I6は粘土紐貼り付け後にL R縄文を施す。I7～19は太胴で口縁部が内湾するもの。I7はL R縄文を施す後に磨き、I8は縄文地に半裁竹管による沈線を縦に引き並べる。I8は小突起が欠落した跡がみられる。25・26は太胴で、口縁部を緩く外反させるもの。35～37・44・45は新崎式で中期前葉。44は口縁部に粘土帯を貼付け、R L縄文を施す。粘土帯上には突起部を付す。20～24・30～34・38～44は新保～新崎式。22は外面に単軸絡条体第1 A類、24は影刻蓮華文と上下に刻みのある横位無文帯。23・32の底

部はスグレ状圧痕がみられる。30~33は粗製の深鉢で、30は半裁竹管による沈線を縦に引く。49は半裁竹管による渦巻状の半隆起線の基隆起線上に綾杉状の刻みをつけたもので、新崎~上山田天神式。

77は有脚立像土偶。河童形土偶かと考えられるが、胴部の下半身のみで、上半身と脚部は欠落している。正面から見ると腰から臀部にかけて丸みをもたせたスタイルで、腹部にはヘソの小さな刻みと、ヘソにつながるヘラ描き沈線、背中部には太めの沈線、臀部は切り込みを入れて表現する。側面から見ると腹部は膨らみ、臀部は張り出している。中期前葉のもの。

#### B 石 器（第103~113図、図版87~95）

78~98は磨製石斧。欠損して基部のみ、刃部のみというものがほとんどで、完形もしくは完形に近いものは92~98の7点である。91は刃部中央を打ち欠き、石錐に再利用したものか。96は刃部先端にも擦痕がある。99・100は打製石斧。99は円碟に加工を施した短冊型、100は剥片の両側縁に明瞭なくびれを加工した撥型である。101~104は石鎌。101・102は無茎で、101は凹基式直線型、102は平基式直線型である。104は有茎凸基式外湾型。105・106は石槍。いずれも木葉形で、105は上半下半ともに外湾して丸みをおびるが、106は上半が直線的で下半は外湾する。107・108は石匙で、柄の主軸と刃部が斜交する。109~111は剥片。112・114は敲石。やや細長い牒を使用し、112は上下表裏に、114は6面に敲打痕がある。113・115は擦石。表裏に擦面があり、113は周縁に敲打痕、115は表裏に凹みがある。116は石皿。凹みとともに擦痕もみられる。119~179は石錐。梢円もしくは細長い扁平な牒を用い、相対する辺の2箇所を打ち欠いて、紐かけを作る。紐かけは牒の短辺に作り、長辺に作るのは127のみである。大きさは約5~18cm、重量は約37g~1.2kgまでと幅がある。122・143は別製品の整形途中の未製品である可能性もある。177は円碟から剥片をとり、これを打ち欠いて石錐としたもの。

#### (2) 弥生時代~古代

##### A 土器・陶器（第114~121図、図版3・53・54・60~62）

弥生土器 180~192・202~216・219~233・248は弥生土器。181は弥生時代中期後半の栗林式の胴部。ススが胴部外面上半に厚く付着するため、文様は不鮮明だが重蔓文か。下半は繩文地にヘラ描き沈線で連続するS字状文と連弧文を施文する。180は口縁部内面に櫛排列点文、端部下端に刻みを施す。中期後半か。182~189は有段口縁壺。182は有段部に擬凹線、186・187は短い有段口縁の下端を下垂させる。189は有稜口縁で、接合しないが同一個体とみられる底部があり大型。190~193はくの字壺。202~220・222は壺。202~206・209は有段短頸壺。210は擬凹線短頸壺。211は把手付壺。212~216は小型壺で、214・216は有段、215は有段に擬凹線を施し、底部は小平底で中央がやや凹む。内外面ミガキを施し、外面には部分的に赤彩が残るが、胴部下半はコゲが付着し、比熱によって表面がはじけ飛んだ痕跡が残る。227・228はミニチュア。223~226・230は器台で、223は口縁部と脚裾部に段を設ける。透孔は4箇所。230は広く開いた口縁部、受下部との境目に沈線2条を施す。231~234は高杯。231は杯部・脚部ともに有段となるので、内外面に赤彩。232は脚部の有段部に粘土紐を貼り付け、爪形刺突文を施す。248是有段鉢。擬凹線文は見られず、ナデを施す。182以降の土器は弥生時代後期後半の法仏式新段階から弥生時代終末期の月影式段階と考えるが、一部のものは古墳時代前期初頭に下る可能性もある。

土師器 194~201・217・218・234~247・249~258は古墳時代の土師器。196は壺で、くの字に強く屈曲した口縁部の端部を丸く、胴部は球胴となり、底部は丸底となる。217・218は壺で、218は強い稜をもつ口縁部に、胴部は球胴で底部は厚い平底となる。234~247は高杯。239は全体に粗雑な作

りで、口縁部がわずかに外反し、脚裾部が強く屈曲して開く。249は有孔台付鉢。体部内外面はミガキ、口縁部は屈曲外反し、端部は面取りし、上端部をつまむ。250は台付鉢。脚部は太く、強く屈曲してほぼ水平に開く。体部は丸みを持ち、端部は内斜し尖る。251～258は椀。底部が扁平（251・252・254）と球形（253・255・256）の2種があり、口縁部が屈曲して外反するものが多い。217・218は前期前半の古府ケルビ式、これ以外は中期の漆町13群段階のものと考えられる。

259～265は古代の土師器である。259・261・262は9世紀代の椀。261・262は底部周辺への手持ちヘラ削り調整は見られず、浅身で、底部径は口縁部に対して極端に小型化はしておらず、回転糸切り未調整。体部には赤彩痕は見られず、ロクロナデ成形で、9世紀後半頃のもの。260・263は10世紀以降の椀。260・263は底部がやや柱状に残る粘土盤が高台状に残るもの。264・265は有高台皿。

須恵器 268～298は須恵器。268～272は杯Hの杯身・蓋。268は立ち上がりが直立し、底部はロクロヘラ削りとなる。269・270はやや内斜する立ち上がりで、受け部は突帯状に肥大したものとなり、口縁端部は丸くなる。これらは5世紀末から6世紀前葉頃（MT15～TK10窯並行期頃）のものと考えられる。271の蓋は天井部はやや丸みを持つものの、ロクロヘラ削りによる成形となる。稜は前時代的な突帯状のものは見られない。272は立ち上がりが短くなり、ロクロヘラ削り痕は底部周辺のみとなる。271・272は、6世紀後葉～7世紀前葉頃（TK209～217窯並行期頃）のものと考えられる。273～282は蓋。273・282は返り蓋であり、これ以外は摘み蓋である。273は天井部の摘み部分が欠損し、返りはやや内方へ傾斜する。282もまた摘み部分を欠損したものであり、摘みの有無は不明である。返りは非常に短いものとなり、形骸化した形に近い。摘み蓋は山笠型と扁平型のものが見え、摘みはボタン状のものであった。端部は断面三角形のもの（275～277・280）と丸く取めるもの（274・278・279）がある。時期は273・282が7世紀代～8世紀初頭頃、274が9世紀中葉か、他は8世紀後半～9世紀前半頃のもの。283～294は杯。身の浅いもの（286～288・291～294）、深いもの（289・290）があり、高台は外傾もしくは平行するものの、体部は腰が丸みを持って立ち上がるものと直線的に口縁部へ立ち上がるものがある。294の高台裏にはヘラ記号がある。時期は8世紀後半から9世紀前半のもの。295～298は甕。295は口縁部に突帯状の平坦面を作り、頸部にはタタキ痕が顔を出す。269・270は口縁端部が外斜し、頸部はほぼ直立し、緩い波状文が3列みられる。形状や波状文から7世紀後半以降のものと考えられる。298は胴部片に蓋が溶着したもの。

灰釉陶器 299は椀。見込みには重ね焼き痕が見られ、内面の釉薬は見込みまではかからない。外面での施釉は見られず、高台は端部外面の内方向へのケズリは見られるものの、内側下半の内湾は緩く、稜も弱い高台である。K90窯並行段階以降のものと考えられる。

#### B 木製品（第134～136・152図、図版82～86）

谷Bから出土した、弥生時代後期から古墳時代に属すると考えられる木製品について記述する。

549～551は槽。いずれも欠損が多く、全体がわかるものはない。549の上部は欠損ではなく、両面から削られた二次加工である。549・551ともに加工痕がよく残る。550はつくりが薄く、小型のもの。552は容器の未製品と考えられるもの。椀状の受け部に裾広がりとなる台部をもち、全体に厚手である。高杯のような容器になるかと考えられる。器の中心となるあたりに欠損があり、表面摩滅も激しいため、轆轤使用の有無や工具痕跡などは不明である。553～556は割物桶。いずれも断片で、全体の大きさは不明。553・554は小型、555・556は大型で、553は紐孔突起をもつ。この紐孔突起の上面は、桶の口縁部上面と段差がなく、紐孔は桶本体の器壁をやや抉るようにあけられている。557は円形板で、これも断片のため全体は不明であるが、桶の底板と考えられる。558・559は鉢。558は直柄平鉢。鉢

の上部は欠損。柄孔周辺の隆起は逆半円形で、隆起と鉢身の境には成形時の刃当たり痕が残っている。隆起の上半部が欠損しているため、柄孔や着柄角度等は不明である。両側面は細かく削って面をなし、下辺はややとがらせる。559も直柄平鉢であるが、未製品。両側面が欠損するが、平面形は横長となる。柄孔周辺の隆起は円形で、その上部は鉢身上辺と水平になる。成形途中であったためか、隆起と鉢身とのさかいには刃当たり痕が残る。560は小型の弓で、芯持材の両端部に紐かけの刻みを作る。舞鉢の弓かと。561は用途不明のヘラ状の板材。655・657は板材。655は一方の長辺をやや薄くして、断面が細長い楔形になるもの。656は一方の短辺が緩やかな弧状となり、長辺に3箇所弧状に抉りをいれ、もう一方の短辺を片面から削って尖らせるようにしたもの。657は片方の長辺のみわずかに抉ってコの字状にしたもの。いずれも建築部材か。

### (3) 中近世

#### A 土器・陶磁器（第121～133図、図版3・55～59・62）

瀬戸美濃 301～313は瀬戸美濃。301～304は天目茶碗。口縁部は体部中位で屈曲し、外反気味に端部に至るもののが主であり、口縁端部は丸く収める。高台は幅広い高台を削り出し、平坦にするものと、丸く削り出すものがある。釉薬は体部に鉄釉を施釉し、体部下半は露胎となる。305～308は皿。305～307は丸皿で、306の見込みには印花文がある。307は灰釉の丸皿で、体部内面にはソギが入る。308は灰釉の折線皿で、体部内面にはソギが入る。309は蓋。310は袴腰形香炉で、灰釉が全面に施釉され、底部は欠損する。311は鉄釉の壺で、底部には回転糸切り痕が残る。312は鉄釉耳付水滴である。体部外面には鉄釉を施釉する。313は花瓶。いずれも大窯期の16世紀代のもので、の中でも307は大窯第2段階以降、306・308は大窯第3～4段階頃の16世紀後半～17世紀頃のもの<sup>注2</sup>。

中世土師器 314～377は中世土師器皿。314～320はロクロ成形。314の体部は内湾気味に開き、口縁端部は外方に面を取る。318は柱状高台をもつ。319は底部外面にヘラ削りを施す。321～377は非ロクロ成形。13世紀中頃～14世紀のものと、15世紀中頃～16世紀のものが多い。330・331は口縁部に二段の横撫でを施し、明確な棱をもつもので12世紀後半。339～342は平底を呈し、体部がやや開き気味に直立する。13世紀前半のもの。352～355・360～364は底部から強く屈曲して立ち上がり、体部は外反して、口縁端部を尖らせる。13世紀後半のもの。334～338・348～351・371～373は緩やかに外反して開く体部に、口縁端部は小さくつまむ。15世紀中頃～16世紀のもの。

瓦質土器 378は火鉢。ほぼ直立する口縁部の外面に2条の隆帯を巡らせ、その間に雷文を押捺する。15世紀代。379は鉢か。口縁端部は面を取り、口縁部内面に凹線を巡らせる。

珠洲 380～437は珠洲。380～410は鉢。380～382の口縁端部は水平で、やや内側へ引き出し気味にする。383は口縁部がやや外反気味となり、口縁端部は丸みを持つ。384は幅広の口縁端部を持ち、体部内面上半は内傾気味、注口は深く作り出される。385は外斜、水平の口縁端部を持ち、注口は深い作りで幅広い。卸目は見られない。386～388は口縁端部がやや肥厚し、丸みを持つもの。389～394は口縁端部が方頭で外斜するもの。口縁端部内側はやや引出し状になり、391は口縁部内面がやや窪む。394の口縁端部内側は明瞭に引き出す。卸目は392～394に見られ、394は中太の櫛歯原体で10条。395・396・399～401・408・409は、肥厚した口縁端部の内面に広く面をとり、櫛目波状文が巡る。中太の卸目が見られる。408・409は注口部分は突出が浅い。397は口縁端部がやや水平気味になつてゐるもの、肥厚した口縁部であり、卸目は中太の櫛歯原体となる。398・402・403は肥厚した口縁端部に一層広い面をとり、ゆるい櫛目波状文が巡る。404は方頭形の口縁端部が外斜気味に屈曲し、丸み

注2 瀬戸市史編纂委員会 1993『瀬戸市史』附録史稿四

みを持った体部内面に細めの卸目が見られる。405~407・410は鉢の底部で、卸目は全面配されている。時期は380~382は吉岡編年Ⅰ期頃、383・385がⅠ~Ⅱ期頃、384・389~392・405・407が吉岡編年Ⅳ期、386~388・394がⅣ $\frac{1}{2}$ ~V期頃、395~404・406・408~410がV~VI期頃のものと考えられる。

411~419は壺。411~413の口縁端部は外斜して面を取り、頸部は浅く折り返して直立する。胴部には綾杉状の叩き痕がある。414は口縁端部が肥厚、方頭化し、頸部はくの字に屈曲する。胴部には綾杉状の叩き痕がある。415は壺の頸部から胴部で、綾杉状の叩き痕の上にヘラで「九」と書かれる。416~417は四耳壺。口縁端部は玉縁状に肥大し、頸部は直立する。耳は大ぶりなブリッジ状の横耳で、耳の下部には緩やかな櫛歯波状文が施文される。時期は416・417が吉岡編年Ⅰ期頃、411~413がⅢ~Ⅳ期頃、414がV期頃のものと考えられる。

420~437は壺。420・421は口縁部が5の字状に屈曲し、口縁端部は下方へ嘴状に挽き出される。胴部は叩き痕が肩部まで施され、内面は当て具痕が見られ、特に420は縱方向への動くのを観察できた。422・423・425~436は口縁部の外反が強い。426は長頭形の口縁端部を持ち、頸部は短い。433は円頭状の口縁端部を持ち、口縁部と胴部の境は不明瞭となる。430・434の口縁部は外反し、口縁端部の挽き出しあは見られず、頸部に棒状工具による屈曲痕がある。436は方頭状の口縁端部、コの字状の頸部となる。時期は420・421・424が吉岡編年Ⅰ~Ⅱ期頃、425・436がⅡ~Ⅲ期頃、422・423・427~432・434・435がⅢかⅣ期頃、426がV期頃、433がV~VI期頃のものと考えられる。

中国製青磁 438~446は椀。438~441は、ほぼ内湾氣味の体部下半から直線的に口縁端部に至る。口縁端部は肥大することなく丸く収める。442・443は口縁部が外反し、ヘラ状と櫛状の工具による施文がある。444~446には体部内外面に施文され、444は内面に劃花文、446は外面に片彫りの鍋運弁文がある。447~449は底部片で、447の高台は細く尖り氣味、448・449は角高台。450・452~456は皿。450は口縁部が輪花となるもので、底部は幅広の高台を持つ。452・453・455・456は折縁の口縁部を持ち、内外面には運弁文が片彫りされている。454も内面に運弁文が施文される。

中国製白磁 457~467は椀。457の口縁端部は細く収めるが、458~462の口縁端部は玉縁状となり、461・462はより大きく肥大する。460の高台は幅広く、平行に接地する。461・462は太宰府分類の椀Ⅳ類、460は椀Ⅱ類と考えられる。463~467の口縁部は屈折し、端部は水平で、外方へ鋭く尖る嘴状となる。太宰府部分類の椀Ⅳ~Ⅵ類か椀Ⅷ類と考えられる。472~474・479は椀の底部。472は見込みに櫛目文、高台は高く細く直立したもので、太宰府分類の椀Ⅴ類。468~470は小椀。471・475・476は皿である。471の高台は皿Ⅱ類のものより細く高い。口縁部は直線的ではあるが、やや外反する。体部内面中位に段が見られるものの、相対的な特徴から太宰府分類の皿Ⅲ類に該当するか。475は見込みに蛇の目稚ハギが見られる。皿Ⅲ類か。480は壺。

中国製染付 481は皿。高台は低く尖り、砂が少量付着する。草花文が内外面に描かれる。

越中瀬戸 482~491・493~496・498~503は皿。器種は丸皿、内禿皿、ヒダ皿の他、いわゆる「向付」の鉢形態のもの（501~503）がある。493・498の見込みには菊の印花文を施す。削り出し高台の断面三角形のものが多く、495・496は底部に回転糸切り痕が残る。496は口縁端部がやや玉縁状に肥大氣味になる。492は灯明受皿。497は椀。504~509は壺で、鉄袖を施し、底部は無袖で糸切り痕がみられる。510~512は播鉢。510は口縁端部が方形を呈し、やや上方へ挽き出す。511は口縁端部が短く屈曲し、直立する。512は口縁部の縁帯を下方へつまみ出す。510・511の卸目は口縁部の下から見込みまで施されるが、512はこれとは別に、短い卸目が間にに入る。513・514は火入れ。

**肥前陶磁器他** 520~540は肥前陶器。520~532・539は皿で、底部から口縁部へ内湾しながら立ち上がり、口縁端部を丸くおさめるものがほとんどで、526・531は口縁部が外反する。高台は削り出しである。539はいわゆる「向付」の形態のもの。533~538は椀で、体部が内湾して立ち上がり、高台は削り出しとなる。文様などは見られない。540は鉢。大鉢で刷毛目文様があり、砂目跡がある。高台は削り出しとなり、やや幅広の豊付けとなる。541~544は肥前磁器の皿。体部から口縁部はゆるく内湾して開く。見込みに草花文を描く。545~548は産地不明の陶器。545は小型の甕。口縁部を外側へ折り返し、水平にした口縁部上面には重ね焼きの跡が残る。体部内外面には灰釉が施釉され、内面は口縁部から体部に当て具痕がある。546は大鉢で、体部はゆるく内湾し、口縁部は屈曲して折縁となる。見込みに印花文を押捺する。547は陶器の擂鉢で、口縁部の縁帯を外方へつまみだす。外面に「加納屋利カ右」と墨書がある。548は鉄釉の甕で、直立した口縁部を持ち、胴部上方には繩状の凸帯と2条の沈線を巡らす。胴部内面には當て具痕が残り、外面はナデとなる。

#### B 木製品（第137図～152図、図版63～82）

562~571は漆器椀・皿。562~564は内外面赤色漆で、高台内部のみ黒色漆。563の皿の高台内は赤色漆で文様を施す。565・566は内面赤色漆・外面黒色漆で、566は外面に赤色漆で文様を施す。567~571は内外面黒色漆で、567・569・570は内面に、571は内外面に赤色漆で文様を施す。570は外面に漆がみられないが、剥落したのではないかと考える。562や569等は体部の器厚とはほぼ同じ厚みの底部に高台がつき、564・565・571は底部が厚みを増して、高台が高くなる。材質はケヤキ・ブナ属等である。572は井戸水溜に転用された結物で、スギの側板15枚をタケの籠で締めている。573は結物桶の側板か。574・575は曲物桶。575は口径約9cmと小型のもので、側板・底板とともにヒノキである。576~591は井戸側あるいは水溜に使用された曲物。上面図では、側板内部にある側板と直交する線は綴じの位置を、側板外部にある二対一組の線は木釘孔の位置を示している。579・584・588以外は底板を留めた木釘孔が残り、曲物桶から転用されたものである。577は木釘孔が外側の側板に貫通していないため、外側の側板は補強のために、転用される際につけられたと考えられる。587は内側側板の籠の下縁に接して、外側側板を回し、上下の籠で締めたもの。591は図示していないが、側面に横6.8cm、縦3.8cmの菱形の孔があけられている。592は井戸の水溜に転用された例物。大型の撫き白か鉢の底部を取り去ったものと考えられる。内面は劣化のため調整は不明だが、外面下半は棱線を角にし、内部をやや凹ませて花弁状に面取りして、13角形となっている。593・594は井戸側に転用された磨り臼。593は下臼、594は上臼で、いずれも中心部分を取り去って転用したもの。593は欠損のため、目が部分的に消失している。594は臼を回転させる柄を取り付けるために、側面に四角の孔が4箇所あけられている。底面の目の間隔は593に比べてかなり粗い。595~613は円形板。円形板側面に木釘穴があるもの(596・597・602・606~609・613)、縦皮があるもの(598・599・612)、木釘や縦皮などがないもの(595・600・601・603~605・610・611)に大別できる。木釘穴や縦皮のあるものは曲物の底板、ないものは蓋か結物の底板かと考えられる。595はタケの両端を尖らせた合い釘で、割れた面をつなぎ合わせて補修したものの、596・604・606・611にも同様の補修の痕がみられる。また606には、薄くて幅のある材を差し込んだかのような穴が、割れた面の木釘穴の上下2箇所にある。600・601は小型の円形板。608は側面の木釘穴の他に、縁辺にそって表裏へ小孔があけられている。612・613は楕円形で、612は縦皮の他に2孔1組の孔が3箇所で確認できる。縦皮だけではなく別の方法で側板と結合していたとも考えられる。613は欠損部分の縁にそって孔があけられており、縁などで補修した痕か。著しく刃当たり痕がみられる599・603・606・608・609・612・613は作業台への転用も考えられる。614~616は

折敷底板。614・615は四辺にそって縦皮や縦皮用の孔が残る。四隅はやや角を取っている。いずれも刃当たり痕が著しい。615は裏面側に、まっすぐに伸びた先端を丸く曲げた形を3つ、交差するように配置した文様が陰刻されている。617は盤か。花を模した平面形の縁近くから、縁へ向けて浅く削り、段をつけて平縁とする。裏面はやや端に寄せて蟻ほぞを切り、ここで別材と組み合わせたと考えられる。2孔1組の孔が3箇所みられる。蟻ほぞ周囲の2箇所は別材との結合を補強するための木釘孔か。618・619は下駄。いずれも連歛下駄で、後歛の磨滅が激しい。618は前方が丸みをおび、後方が方形となる平面形をしており、前壺・後壺ともに台に対して垂直に孔をあけ、後壺よりも後方すべてが後歛となる。台裏の歯の間に線状の加工痕が著しい。台表には指圧痕があり、右足用と考えられる。619は前方が方形となる平面形で、後方は欠損しているが、幅を狭めるため、方形とはならないようである。前壺は台に対して垂直だが、後壺は後歛と台の境目に向けて斜めに孔をあけている。後歛の中央に2箇所小孔がある。台表に指圧痕が残るが、左足用だろうか。620・621は工具の柄。620は刷毛の柄かと考えられるもの。持ち手から緩やかに幅を広げて肩をつくり、幅広の刷毛を想定させる。持ち手に1箇所、柄元に2箇所小孔をあけ、柄元の小孔をつなぐように横方向に線を刻んでいる。621は柄の握りで、上部の小口に金属が残存する。622は鉤。上部の左右がやや外側へ張り出す形のもので、張り出しの下は鉄製の刃が装着されたとみられる痕跡が残る。柄孔は台形で、柄孔の角度からみて、柄はほぼ直角に装着されたとみられる。623は櫛。大半は欠けているが、櫛歯は16本。624は織機の部材か。左右の切り欠き部分に圧痕がある。625・626は用途不明の部材。625は両面に黒漆が塗布され、大きめの孔が中央に、小孔が7箇所あけられている。626は片方の長辺を表裏から細かく削って刃のように加工し、それに近い端のほうに小孔を1つあける。627~629は杓子状の板材。629は厚みがあり、肩もしっかりと張り出したもので、櫛を想定させるもの。630~638は用途不明部材。630は樹皮の残る芯持材の両端を加工したもの。片方は削りを入れて頭と丸みをおびた頭部をつくり、もう片方は別材にはめ込むようなホゾを削り出す。631は5つに枝別れした股の部分を丸く削って球形にしたもの。枝を落とした節のあとも丁寧に削り、全体が非常に細かく削って仕上げてある。632は上部を断面四角形に削り出し、その中央に四角の孔をあけ、下部は断面円形に仕上げたもの。下端は欠けがあるものの、小口面は削って仕上げてあるため、これではほぼ完形の部材となる。633は632と似た形のものだが、未加工に近い部分があり、未製品か。634・635は上辺とした部分に凹凸のある部材。いずれも凸部に木釘が残る。また、凹凸のない長辺にも木釘穴があり、634は短辺の一辺にも木釘穴がある。636は板材で、8箇所に大小の孔をあけ、表裏に線状痕がある。637・638は角材に四角の孔をあけたもの。いずれも両端が欠損しているため、本来の全長は不明である。637は自然の枝を残した荒削りの角材に孔が2箇所あけられている。638は角を面取りしてやや断面八角形となる角材に、正面と側面から交互に縦長長方形の孔があけられている。孔が完全に残るのは3箇所であるが、上端の欠損した部分は側面から孔があけられており、中央の3箇所に引き続孔の方向が交互になっているが、下端の欠損部分では、正面から孔があけられており、孔の方向が交互になっていない。639は作業台。天板は四隅に長方形のはぞ孔をあけ、同じく長方形のはぞを削り出した脚をはめ込む。脚は天板に対して、外へ踏ん張るようにわずかに傾きがつけられている。脚は右下の1つだけがほぼ完形で、右上と左下は脚のはぞ部分だけがはぞ孔内部に残存していた。天板の表面は無数の線状痕、裏面には削りの痕が残る。また、裏面には左下と右下のはぞ孔をつなぐ2本の線状痕があり、はぞ孔の位置決めのためかと考えられるが、他の孔との間に同様の痕跡は見られない。天板の樹種はマツ属、脚は左下がヤナギ属、右上・右下がイヌシデとなり、別材を用いている。640~653は柱根。摩耗がなく

加工痕が観察できたもののみ底面の図を掲載した。649以外は運搬時の繩かけ孔を残したものである。繩かけ孔は横長長方形で、横幅はそのままに、奥にいくほど高さが低くなる楔形となり、奥で左右の穴がつながっている。641・651・652は左右の孔を分けていた部分が欠損している。底面は平らにするもの（641・642・647・650～653）、2もしくは3方向から削って尖らせたもの（640・643～646）がある。また、柱の断面形は、径が小さいものは円形に近く、径の大きいもの（647・650～653）は五角形もしくは六角形を呈する。樹種はすべてクリである。654は板材。約15mのマツ属の薄板で、欠損箇所が多いが、上半の13箇所に小孔があけられ、2孔一対となる孔もみられるもの。

#### C 石製品（第153～159図、図版96～102）

658～661は五輪塔で、いずれも火輪で、風化と欠損が激しいが、軒が反り、軒端から下面へはほぼ垂直になる。660は上面が狭く、空風輪の收まる部分が浅い。662は宝篋印塔の相輪。上面は平らとなり、宝珠と請花は別材となるか。風化が激しいが、九輪は7段判別でき、下部請花は八蓮弁となる。663・664は石塔の部品かと考えられるもので、663は塔身か。665～672は板碑で、いずれも風化が激しいが、形態はオベリスク状となる。665・666は正面に五輪塔を陰刻する。665の五輪塔は空輪と風輪がわけて表現され、666は空風輪で表現される。どちらも水輪に種子が刻まれる。667～669は種子のみが陰刻されたものである。670～672は風化のため、種子が読み取れないが、667と同様のものであろう。五輪塔・宝篋印塔・板碑の材質は、658・660が凝灰質砂岩であるほかはすべてシルト岩。673・674・676はバンドコ（行火）。673は蓋、674・676は身である。ノミ痕が顕著である。675は滑石製の温石で、欠損が激しいが、孔が穿たれ、ススが付着している。677・678は石臼で、どちらも上白。678は摩耗と風化が激しく、下面の目も消えている。679・680は井戸水溜で、板碑等と同じシルト岩を円筒状に加工したもの。内外面に削り痕が顕著に認められる。681～691は砥石。688・690・691は砂岩製で粗緻。691は3条の切り込みがある筋砥石。692は硯で、海部が欠損している。墨痕があり、側面・裏面に擦痕があるため、砥石に転用されたと考えられる。693はシルト岩製で、中央よりも上に1つ、表裏から孔を穿たれた製品である。下部は石斧のように刃状になっている。694は滑石製の紡錘車。表裏に擦痕がある。

#### D 金属製品（第160～161図、図版103～105）

695は袋状鉄斧。袋部から刃部にかけては、断面でみると明瞭に屈曲して境界を作るが、平面ではなだらかに広がるハの字形である。696は鎌。697はクマデ形の鉄製品で、3本の刃の1つが根元から欠損している。698・708・709は鎗管。いずれも吸口で、709は叩きの痕が残る。710は鉄製の容器底部で、3本の短い脚部がつく。711は簪。上部の先端に耳かきはつかない。712は龍状金具。4本の足と、ややもちあげた頭部、短い尾が簡略に表現されており、龍というよりはトカゲに似る。前足と後右足の下端が欠損しており、この部分で別部品に接合されていたとみられる。699～707・713～723は銅鏡で、開元通寶（713）、至道元寶（699・714）、景德元寶（715）、天禧通寶（716）、天聖元寶（700）、皇宋通寶（704）、元豐通寶（701・706・707）、元祐通寶（702・703・718・719・723）、紹聖元寶（705）、政和通寶（717）、洪武通寶（720）、永樂通寶（721）、寛永通寶（722）。

(新宅 譲)

#### 参考文献

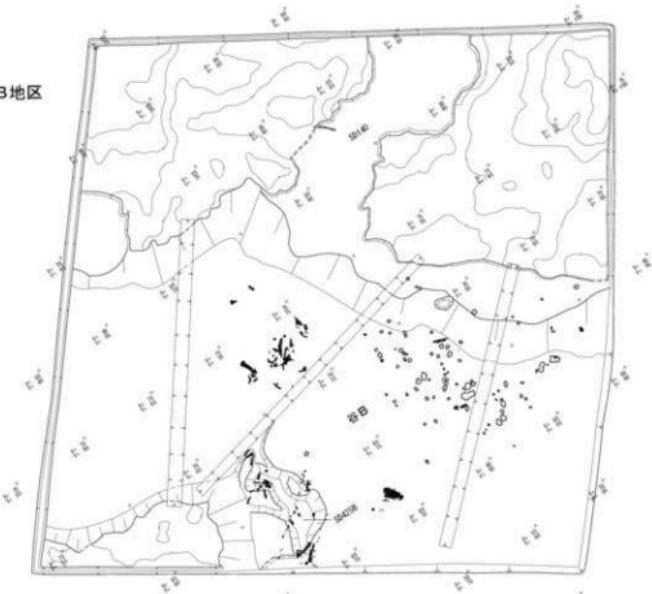
中世土器研究会 1995 「概説 中世の土器・陶器」

小野正敏編 2001 「図解・日本の中世遺跡」

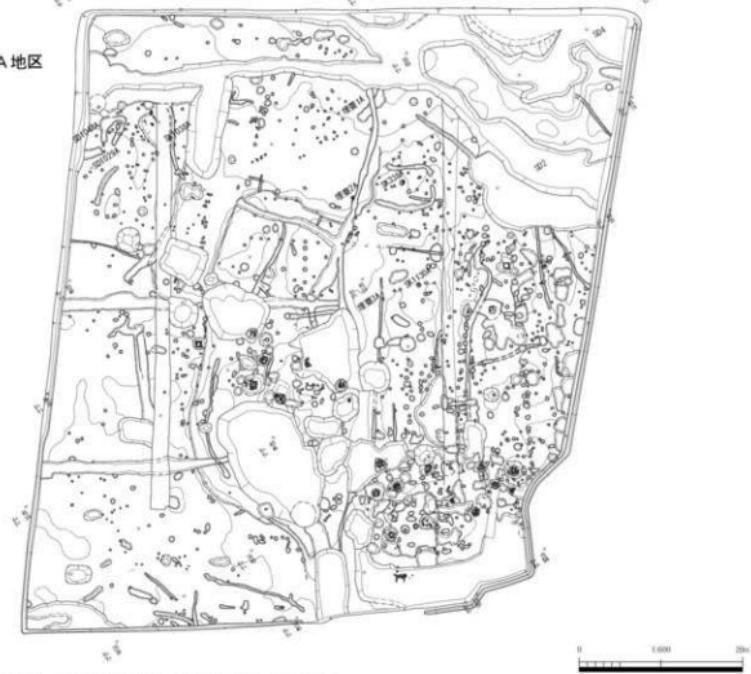
富山県埋蔵文化財センター 1990 「北陸自動車道遺跡調査報告 朝日町編5 境A遺跡－石器編（本文）－」

伊東隆夫・山田昌久編 2012 「木の考古学 出土木製品用材データベース」

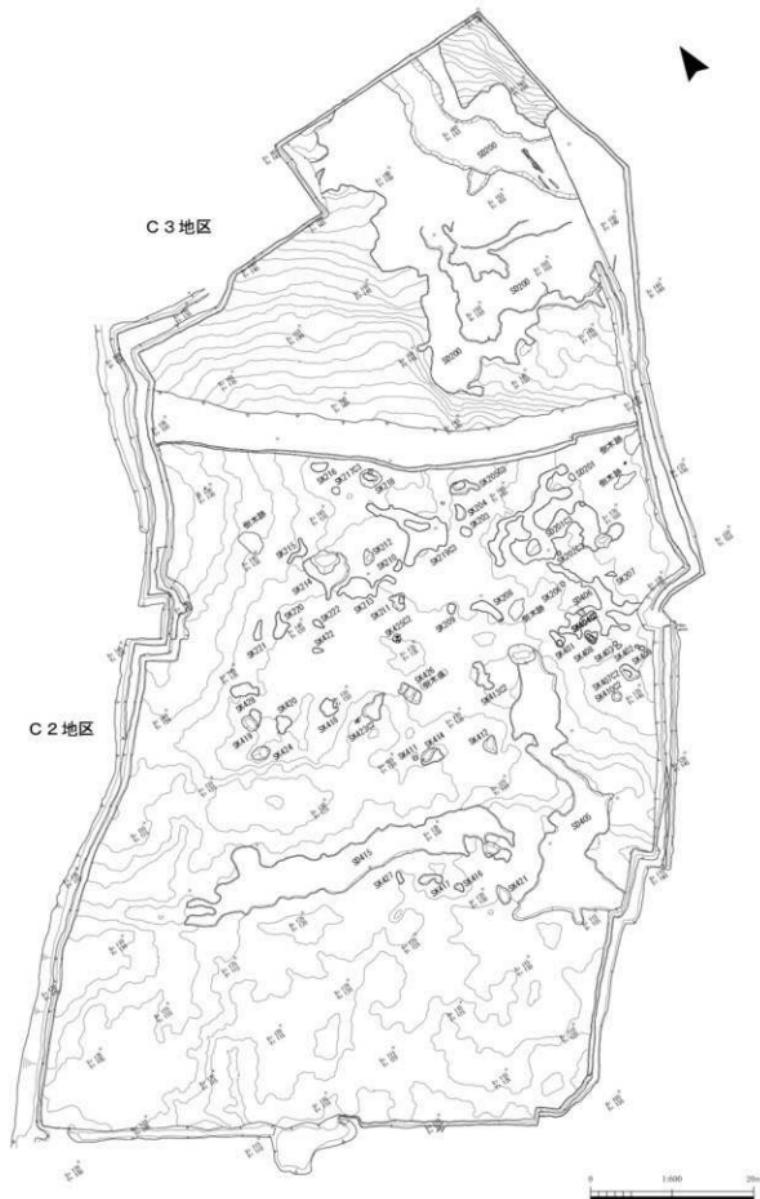
B地区



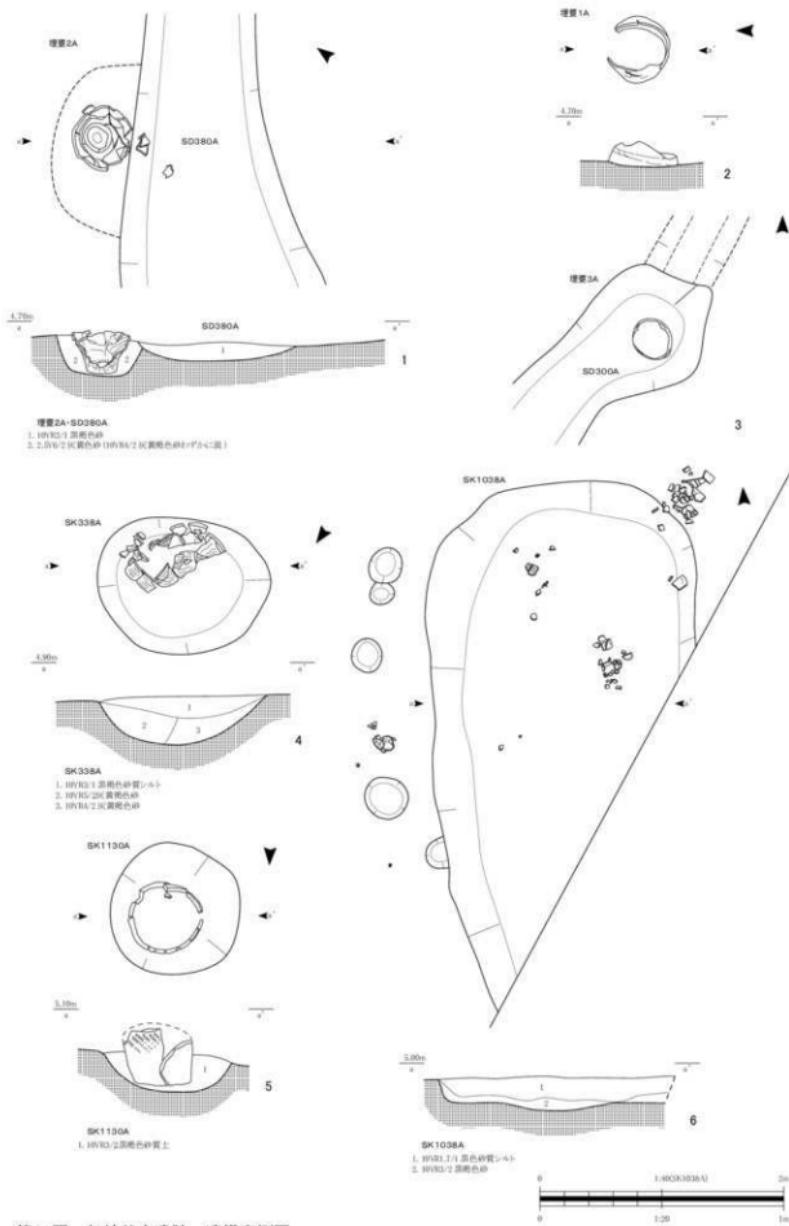
A地区



第34図 加納谷内遺跡 遺構全体図 (1:600)

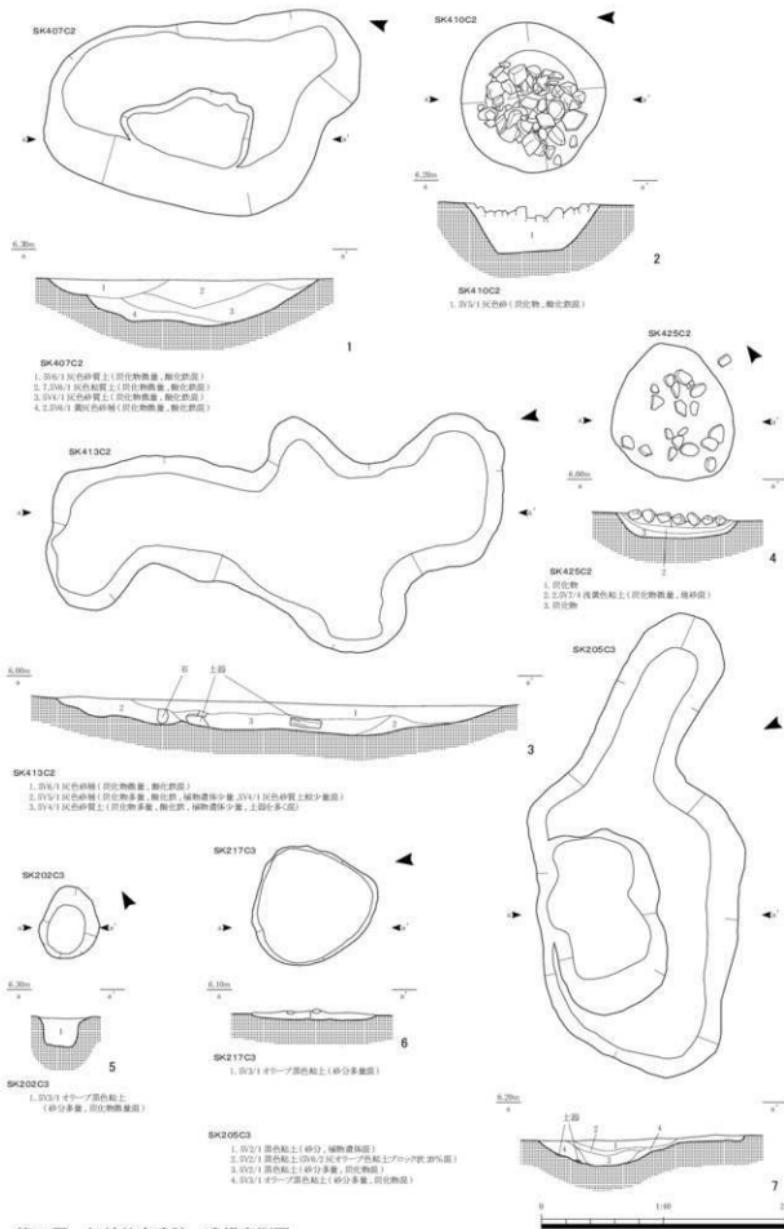


第35図 加納谷内遺跡 遺構全体図 (1:600)



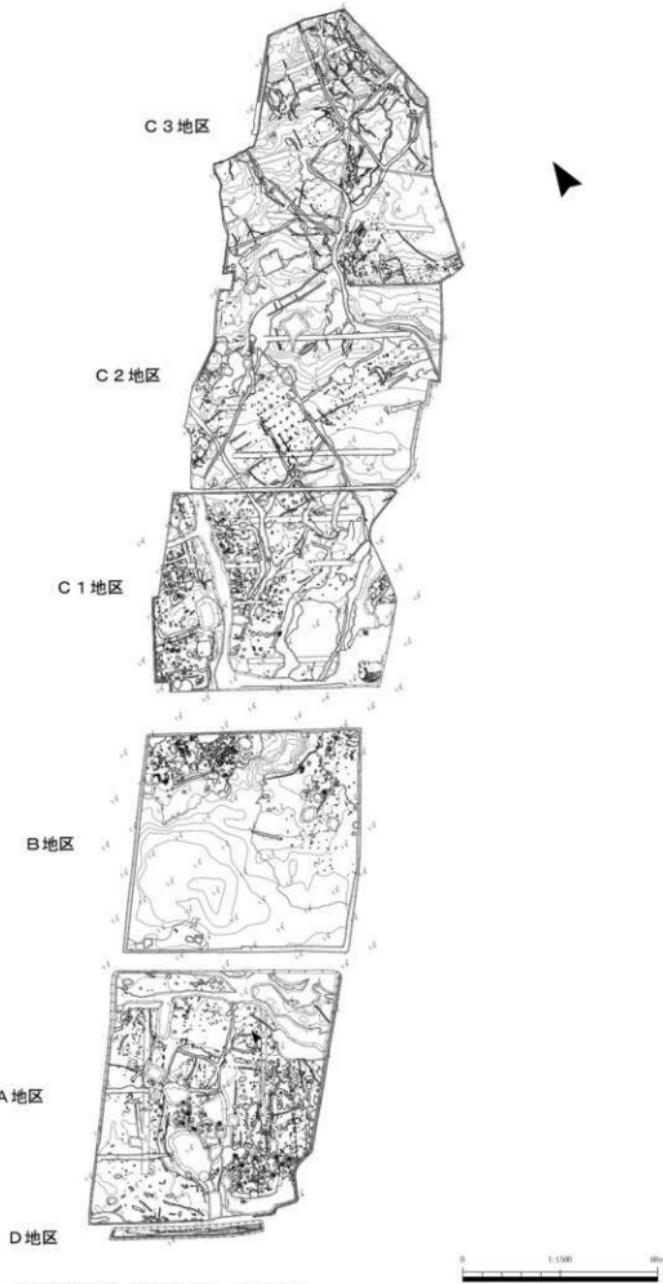
第36図 加納谷内遺跡 遺構実測図

1. 埋窓 2A・SD380A 2. 埋窓 1A 3. 埋窓 3A・SD300A 4. SK338A 5. SK1130A 6. SK1038A

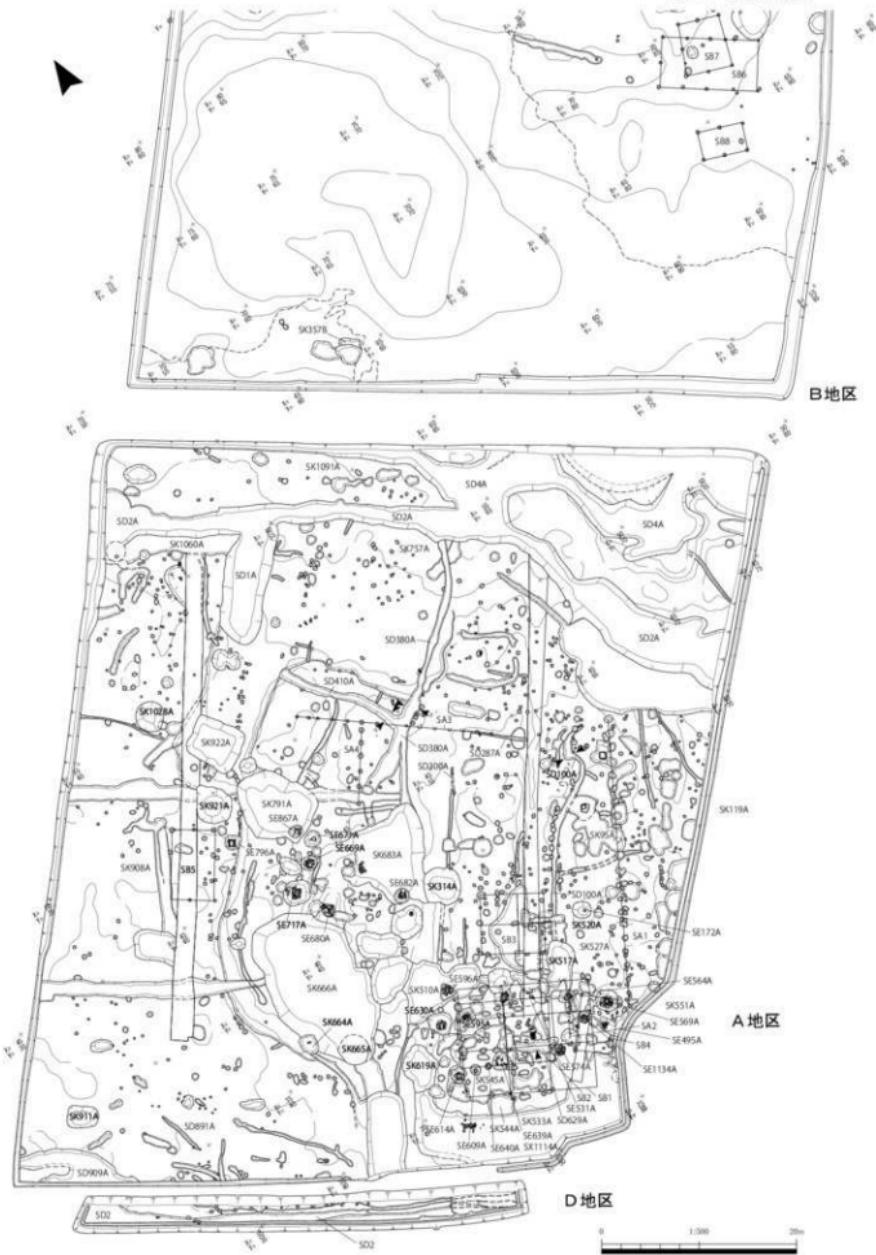


第37図 加納谷内遺跡 遺構実測図

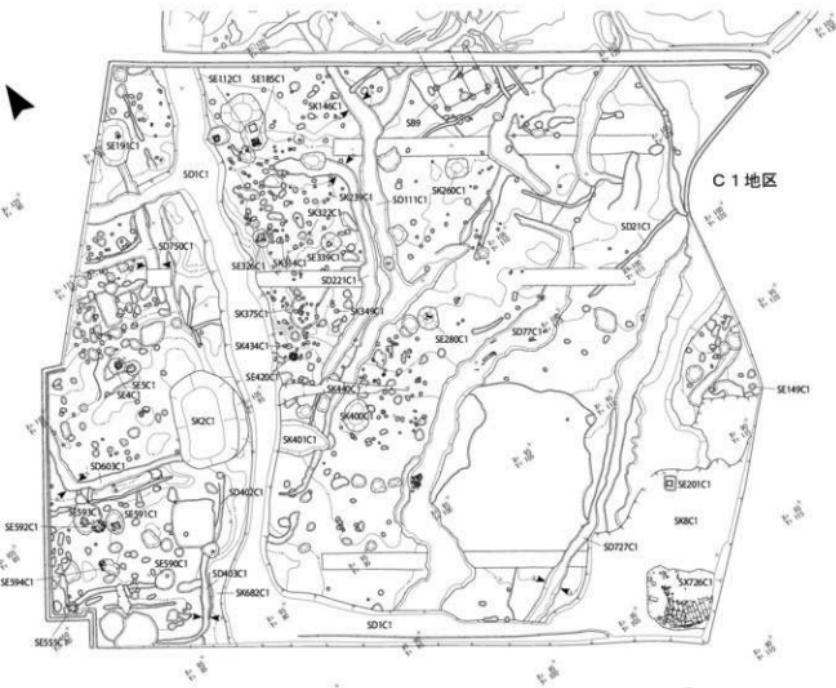
1. SK407C2
2. SK410C2
3. SK413C2
4. SK425C2
5. SK202C3
6. SK217C3
7. SK205C3



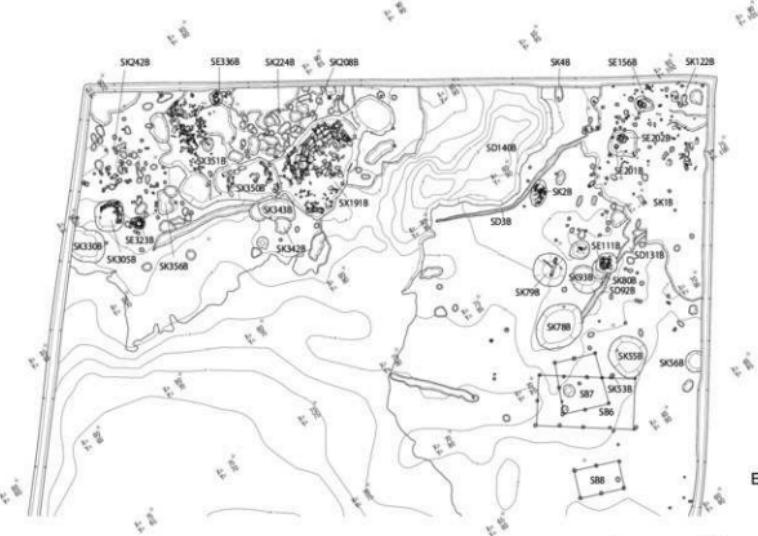
第38図 加納谷内遺跡 遺構全体図 (1:1500)



第39図 加納谷内遺跡 遺構全体図（1:500）



C1地区

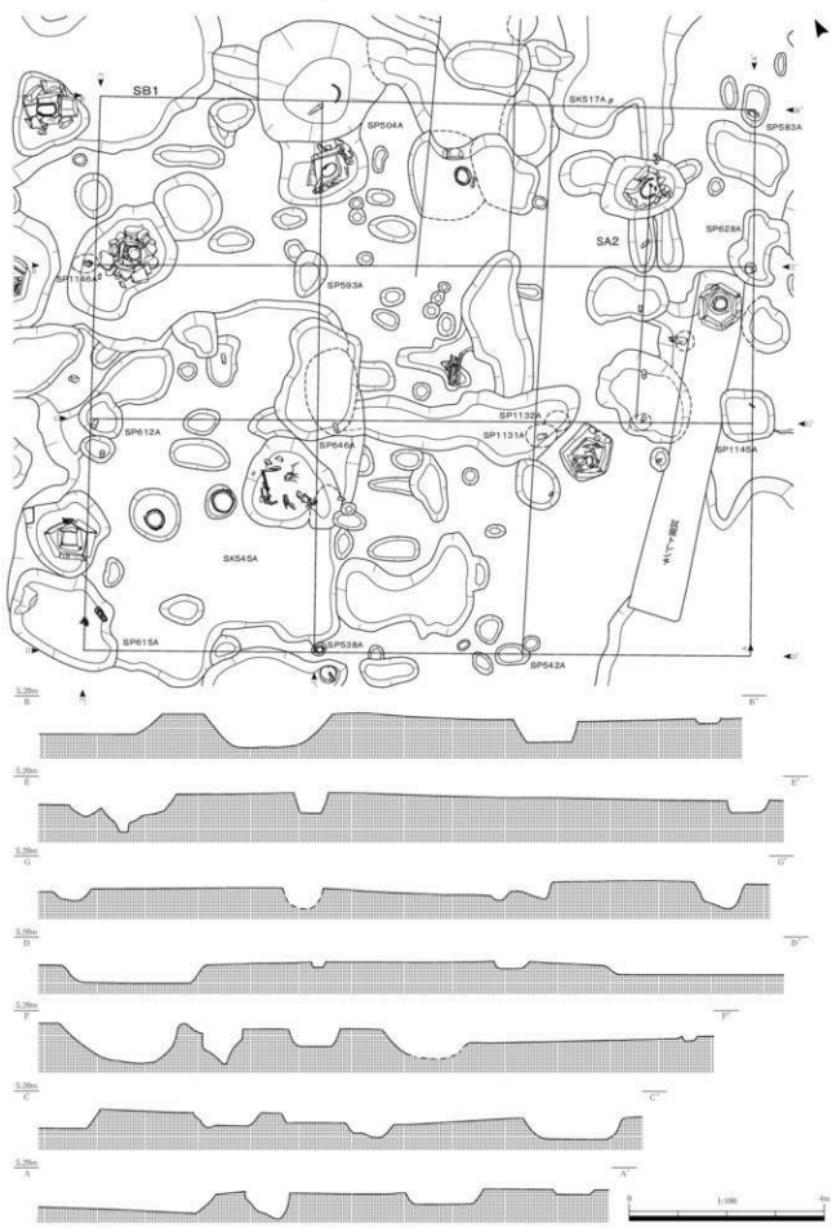


B地区

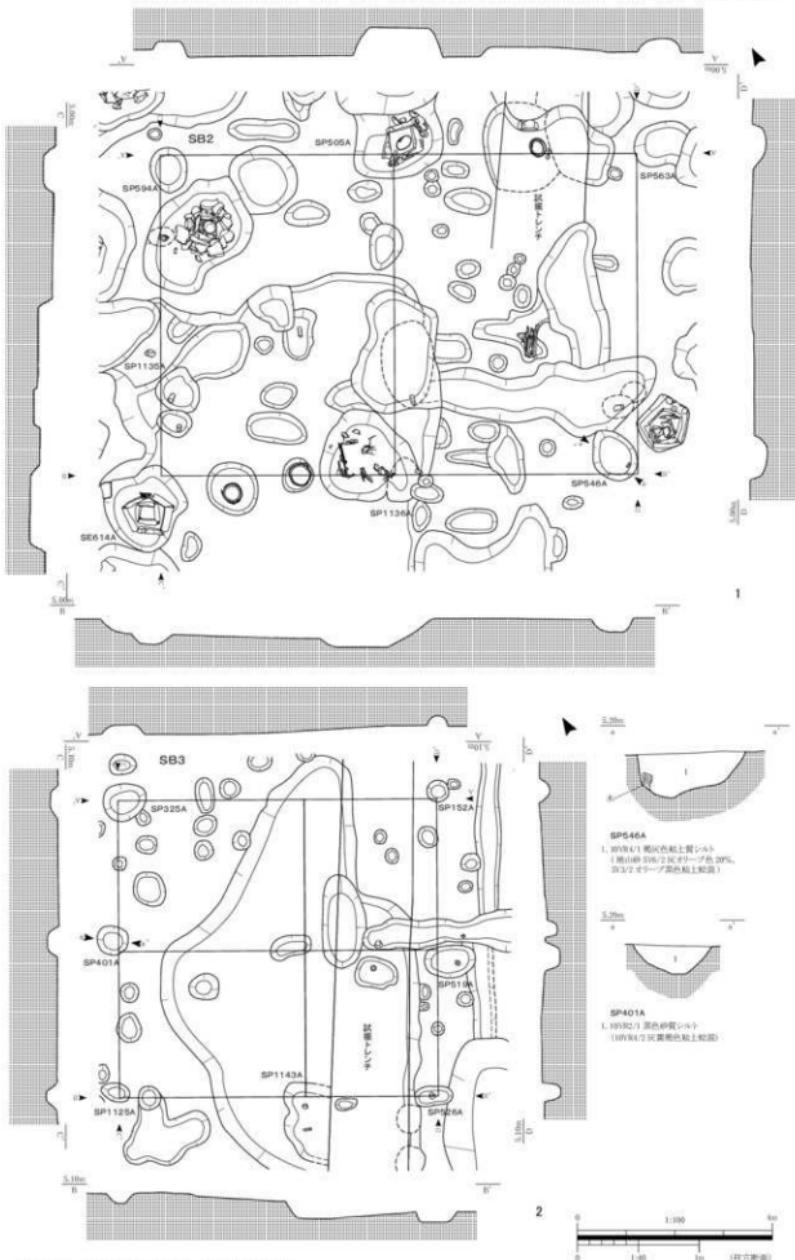
第40図 加納谷内遺跡 遺構全体図 (1:500)



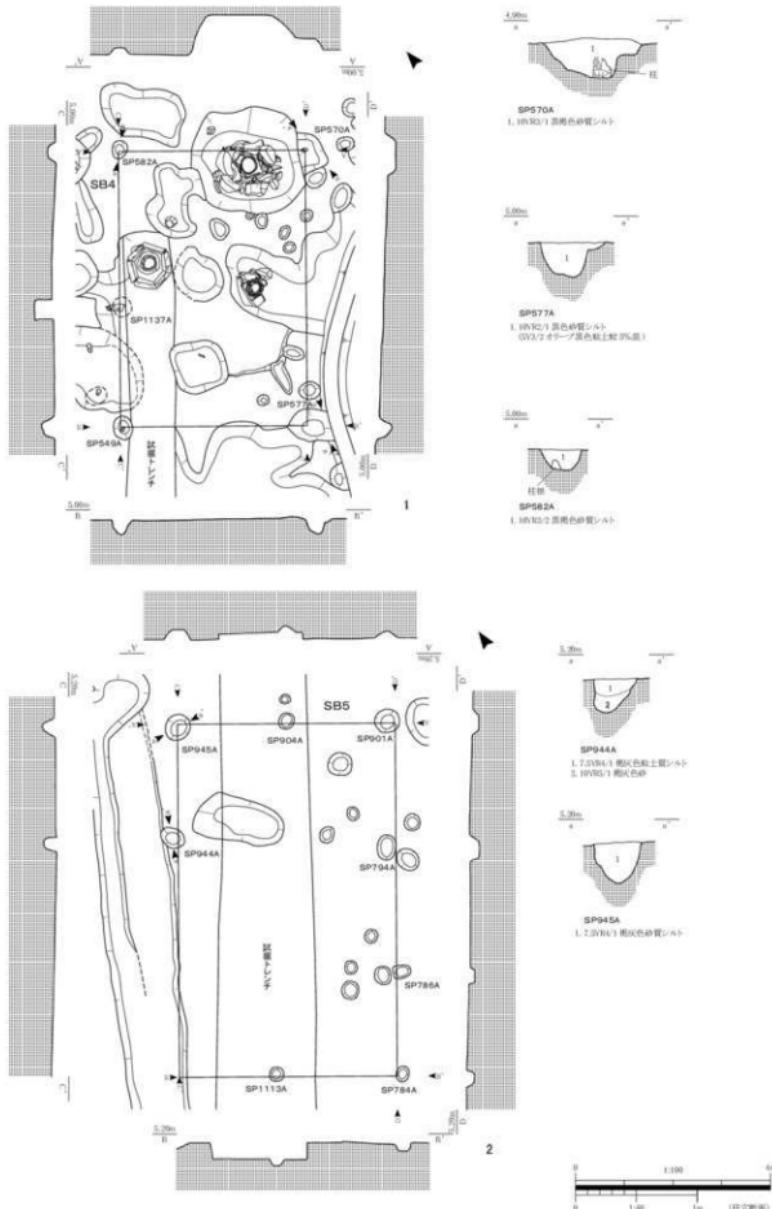
第41図 加納谷内遺跡 遺構全体図（1:500）



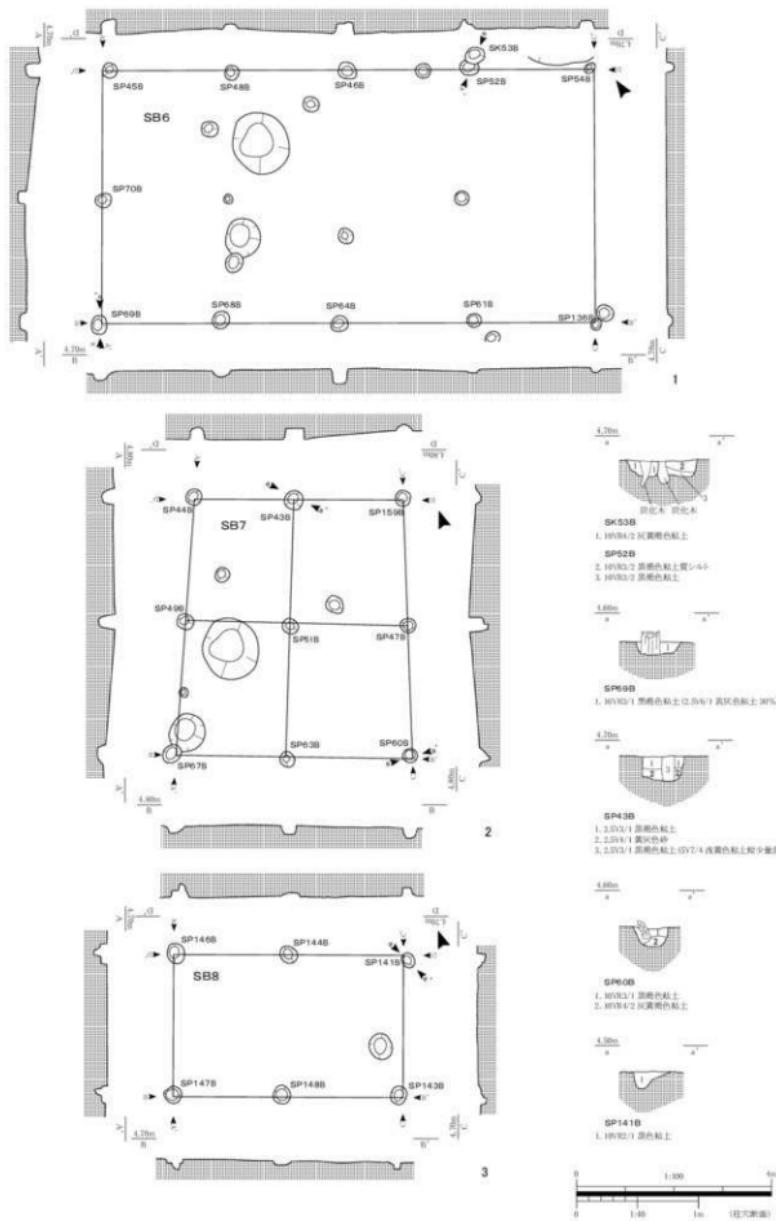
第42図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SB1



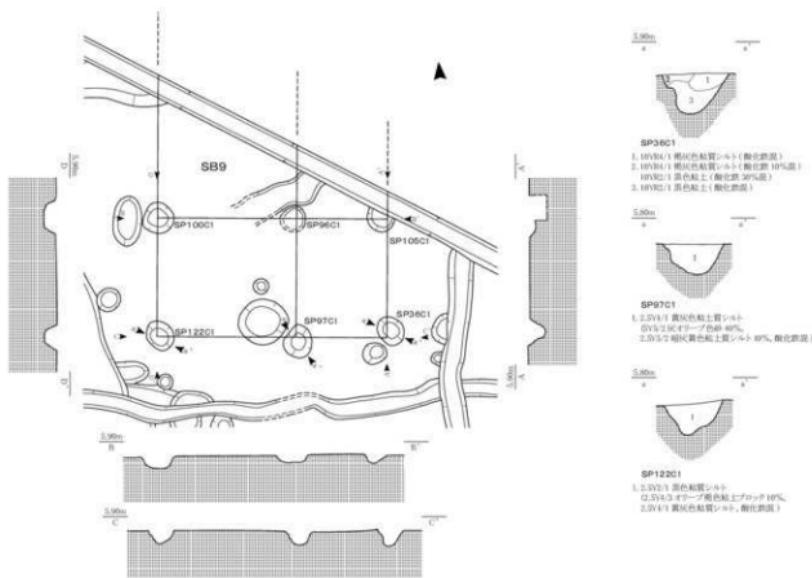
第43図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
1. SB2 2. SB3



第44図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
1. SB4 2. SB5

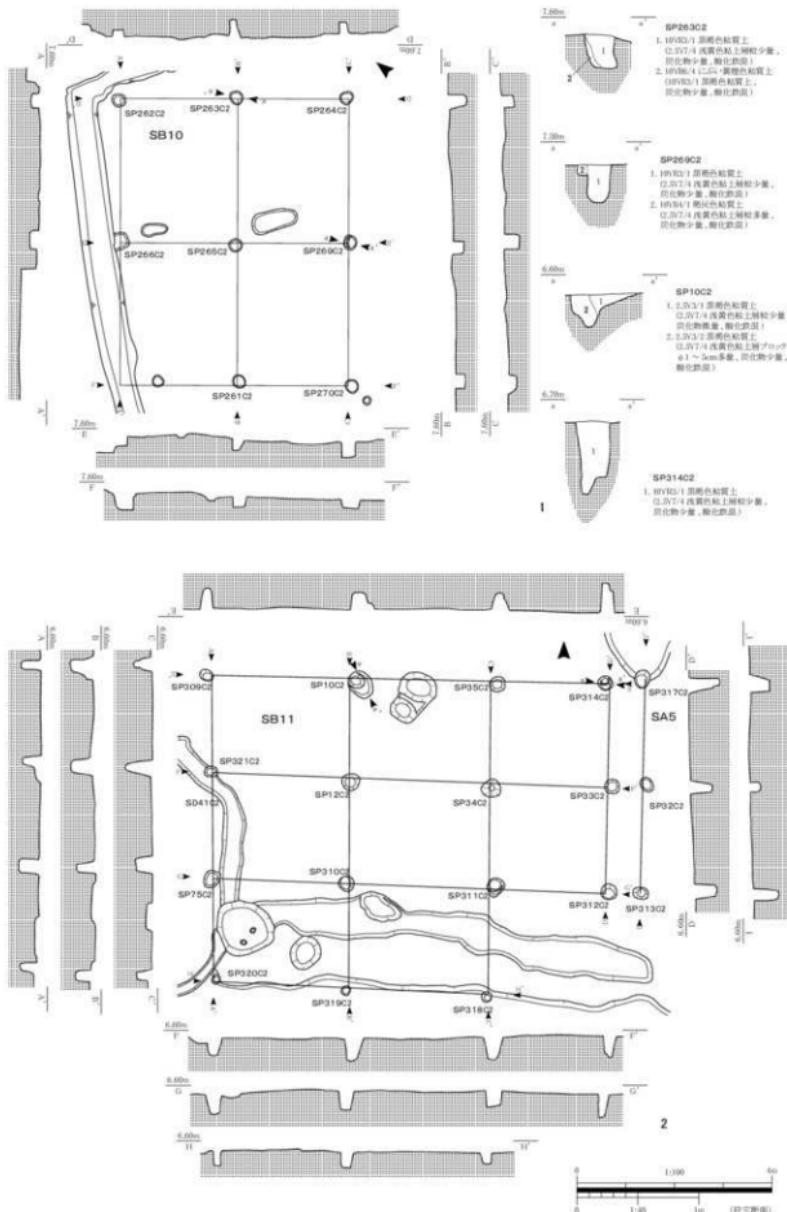


第45図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
1. SB6 2. SB7 3. SB8

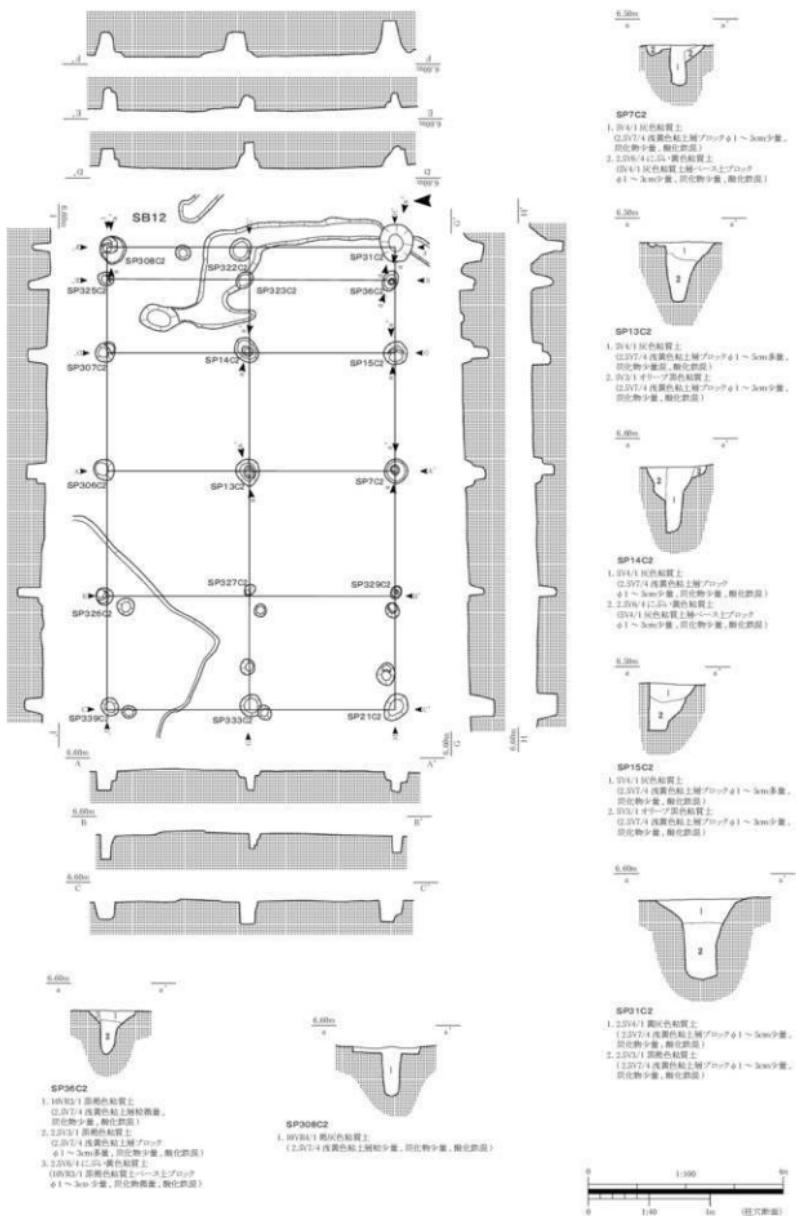


第46図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SB9

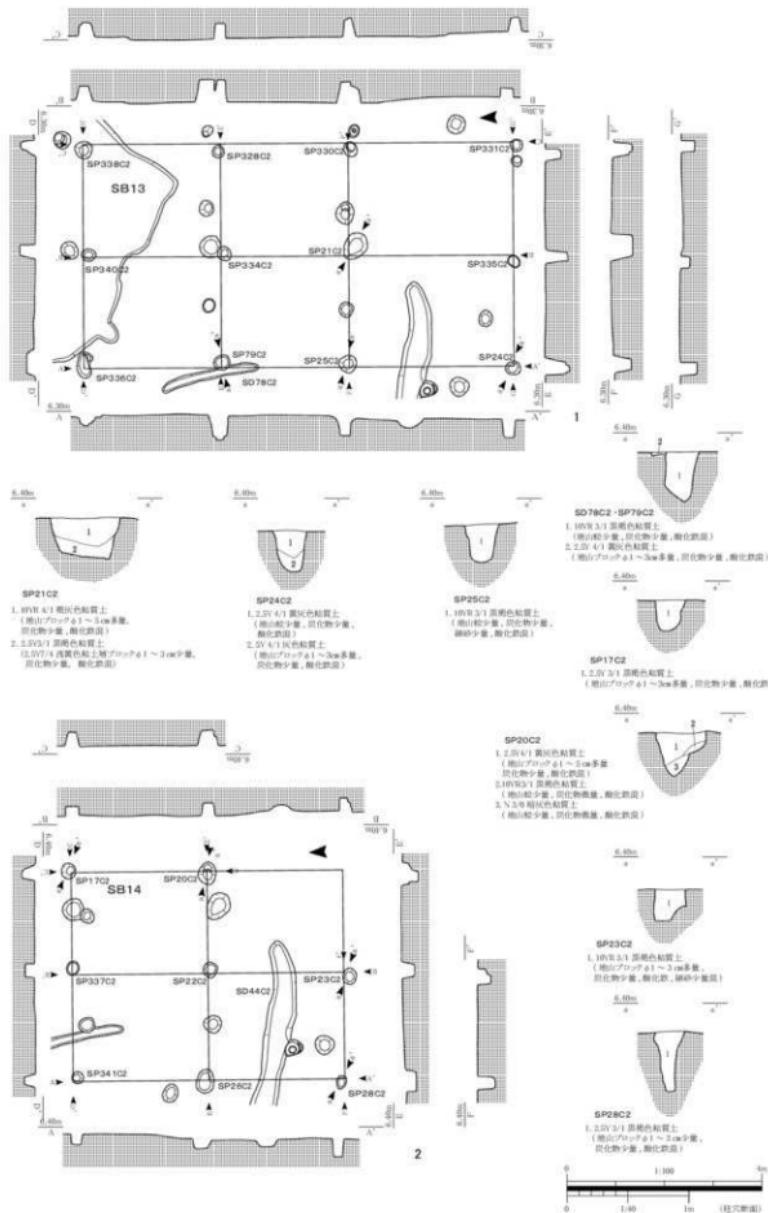
0 1:100 1m (柱穴断面)



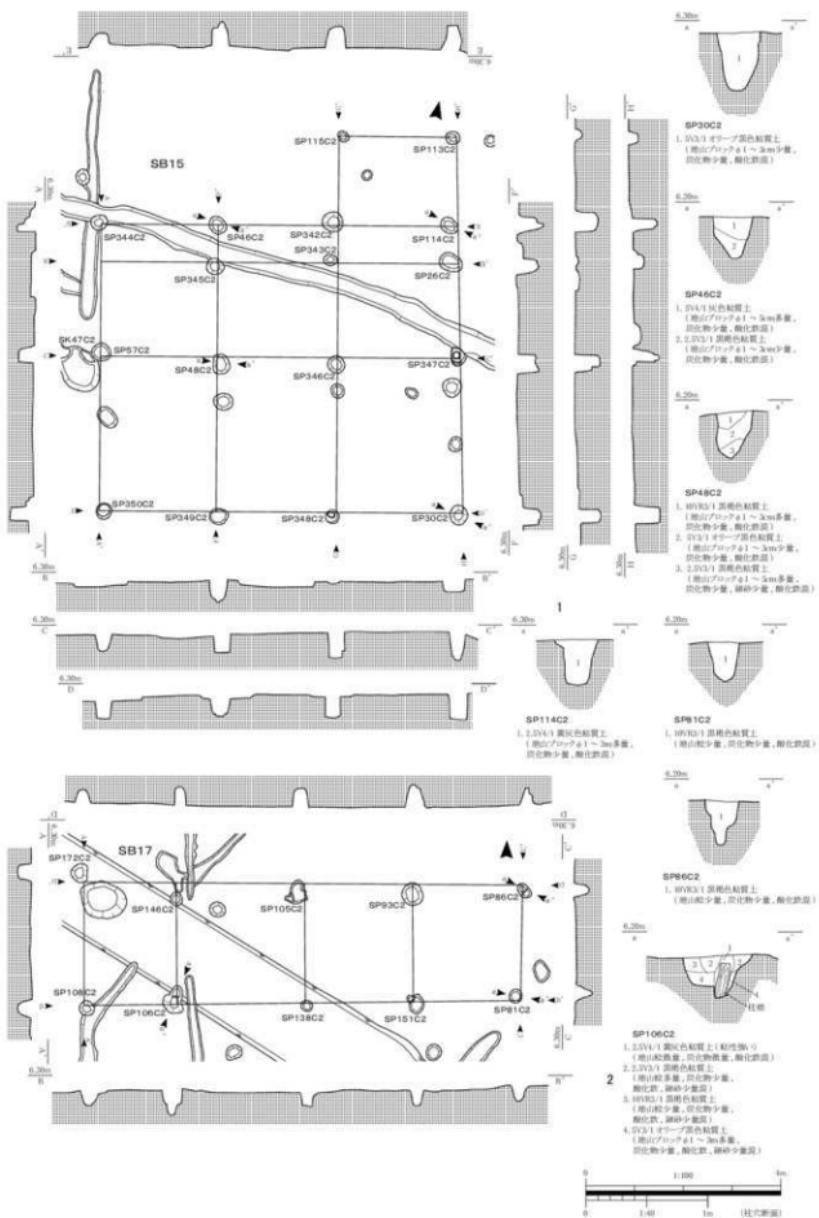
第47図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
1. SB10 2. SB11 SA5



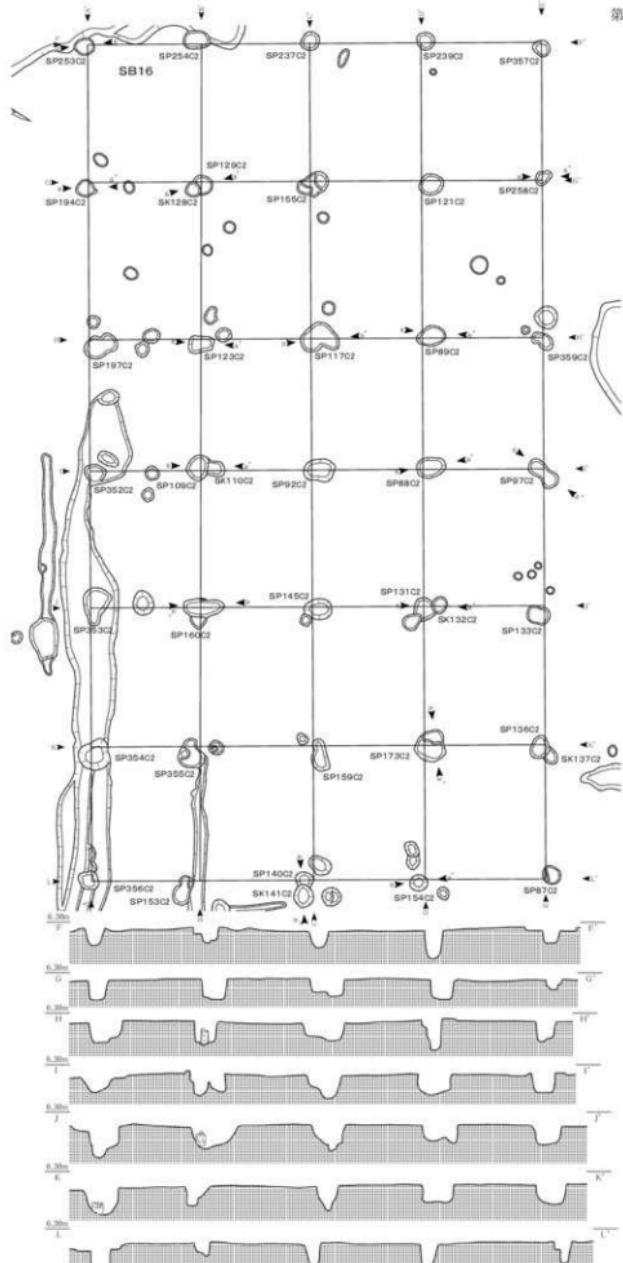
第48図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SB12



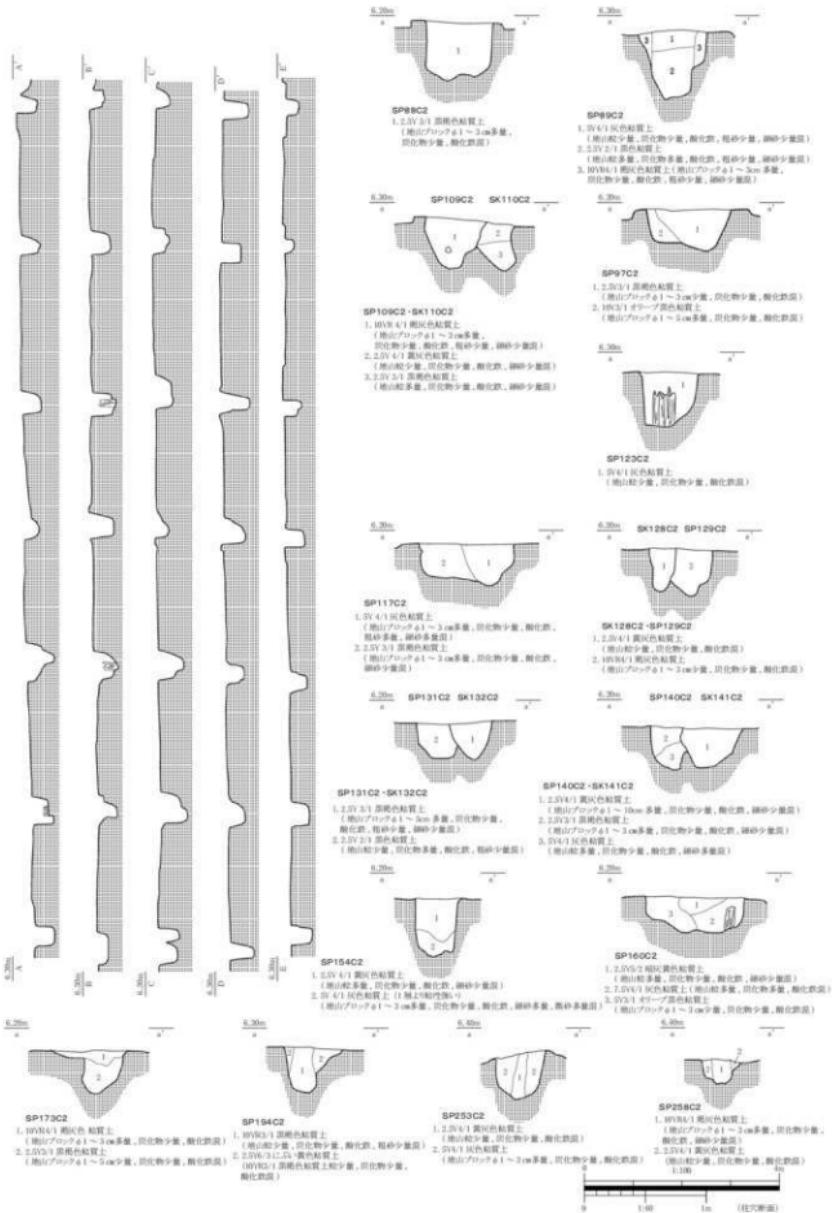
第49図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
1. SB13 2. SB14



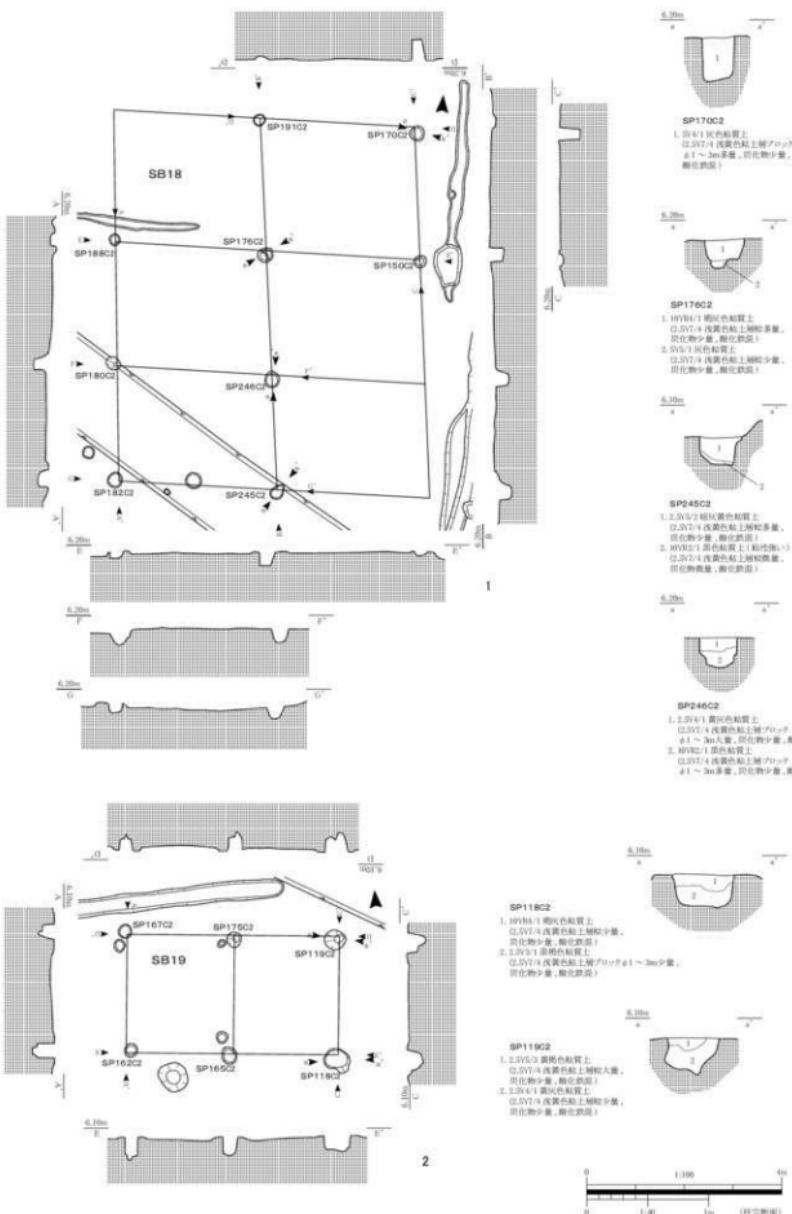
第50図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
1. SB15 2. SB17



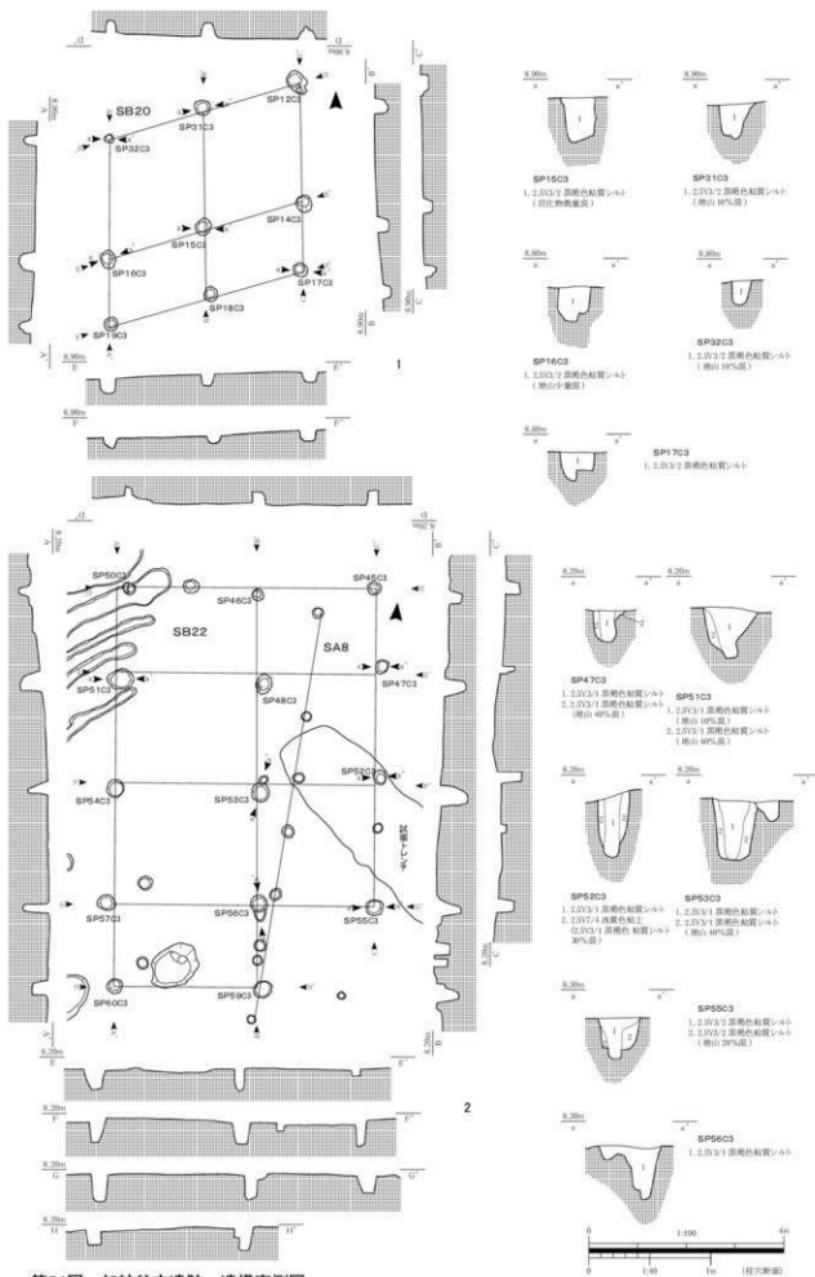
第51図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SB16



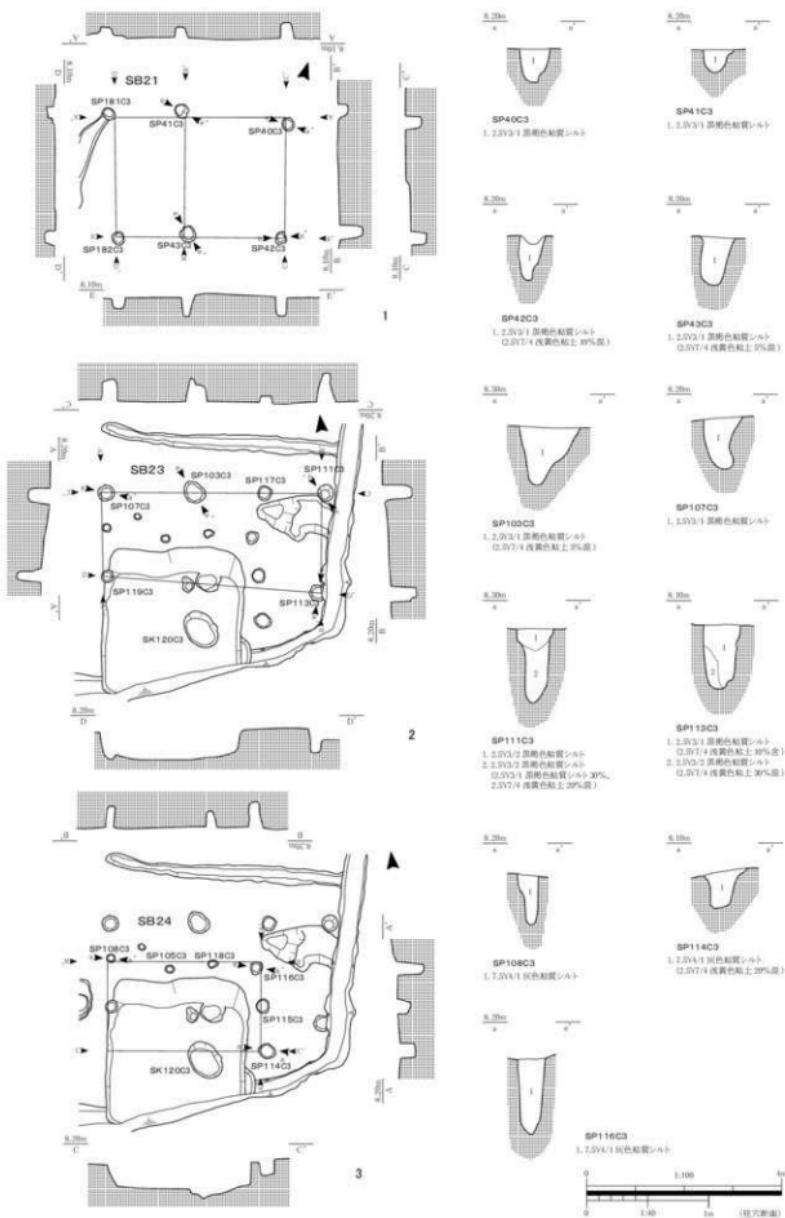
第52図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SB16



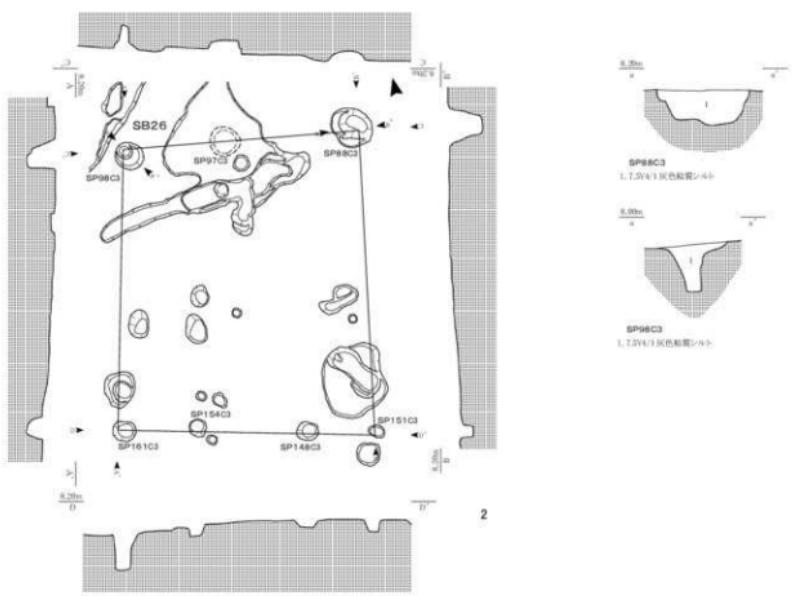
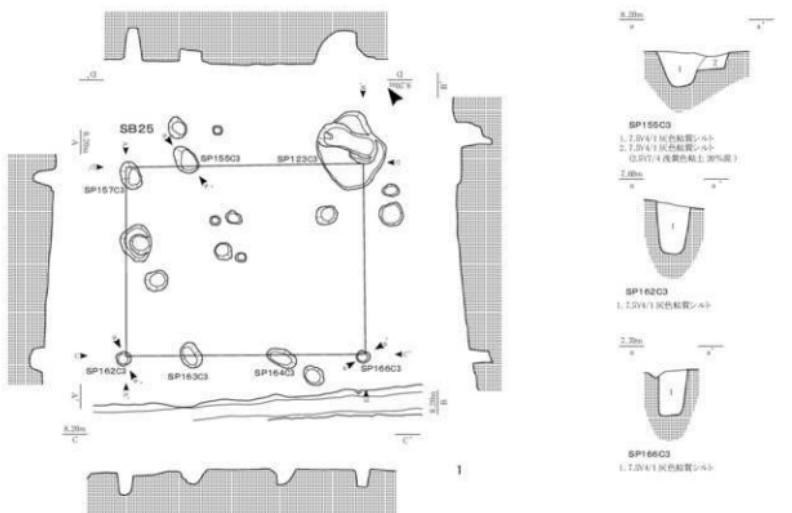
第53図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
1. SB18 2. SB19



第54図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
1. SB20 2. SB22

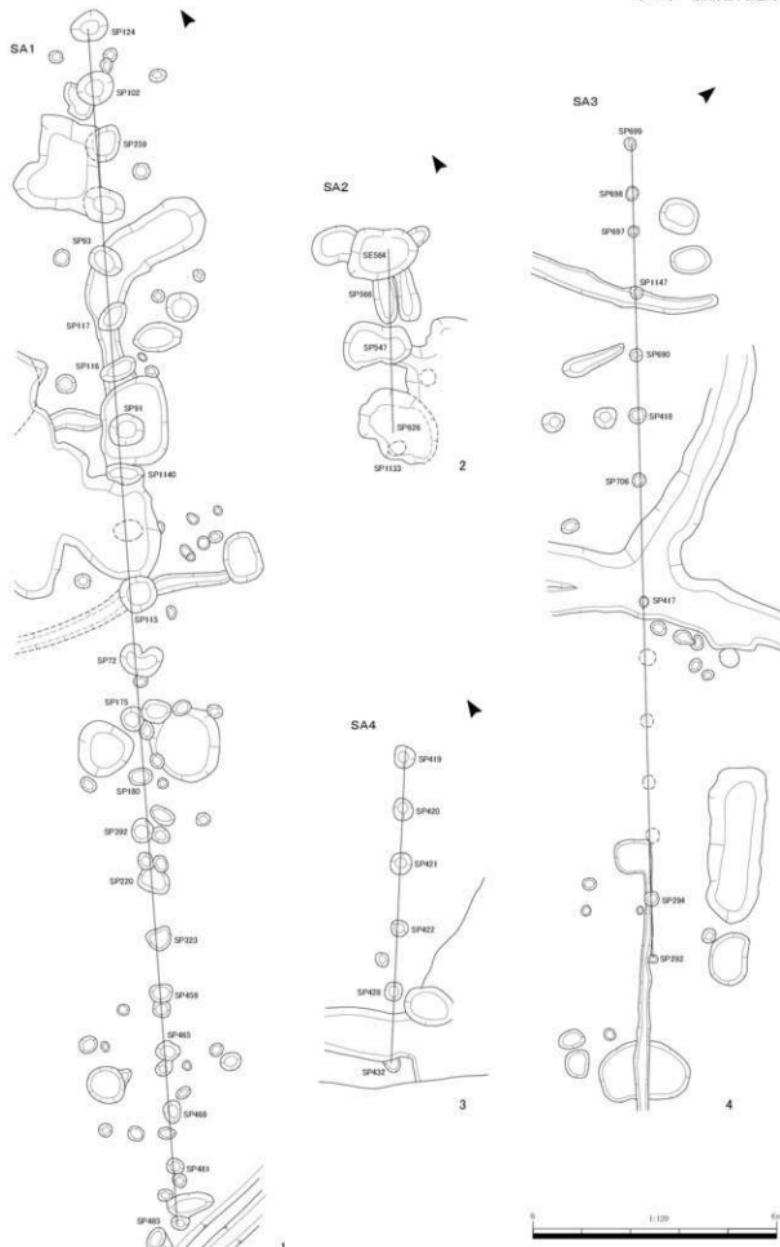


第55図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
1. SB21 2. SB23 3. SB24

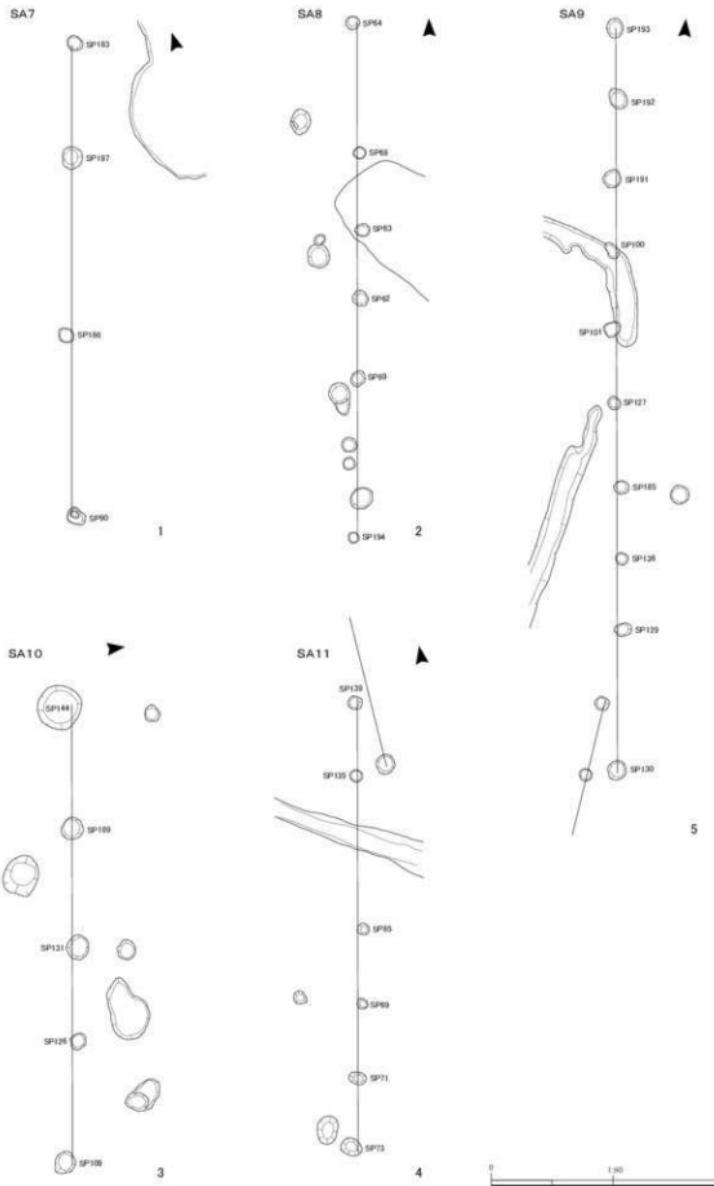


第56図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
1. SB25 2. SB26



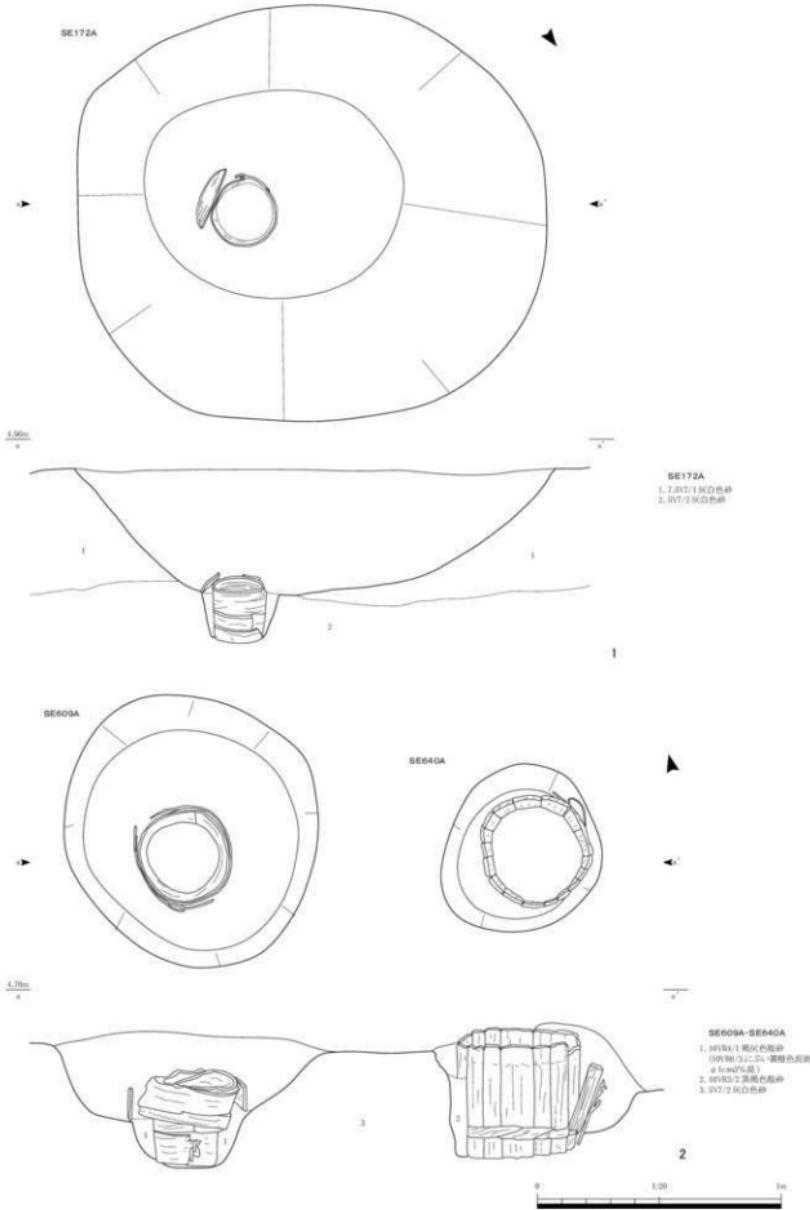


第57図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
1. SA1 2. SA2 3. SA4 4. SA3

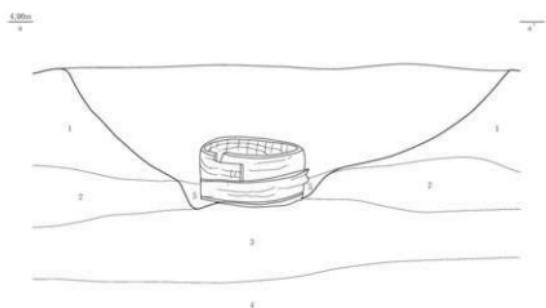
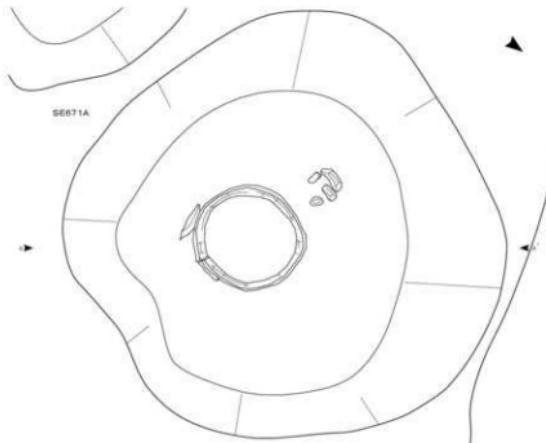


第58図 加納谷内遺跡 遺構実測図

1. SA7 2. SA8 3. SA10 4. SA11 5. SA9



第59図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
1. SE172A 2. SE609A・SE640A

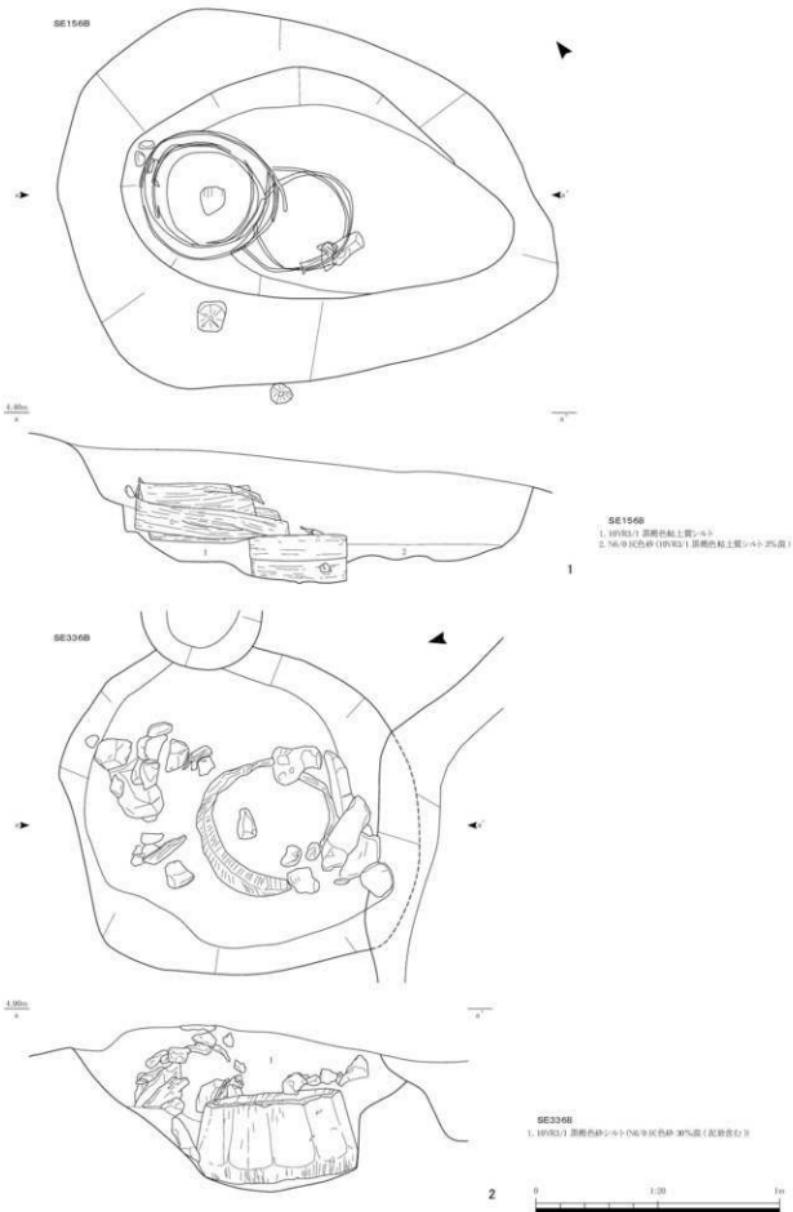


**SE671A**

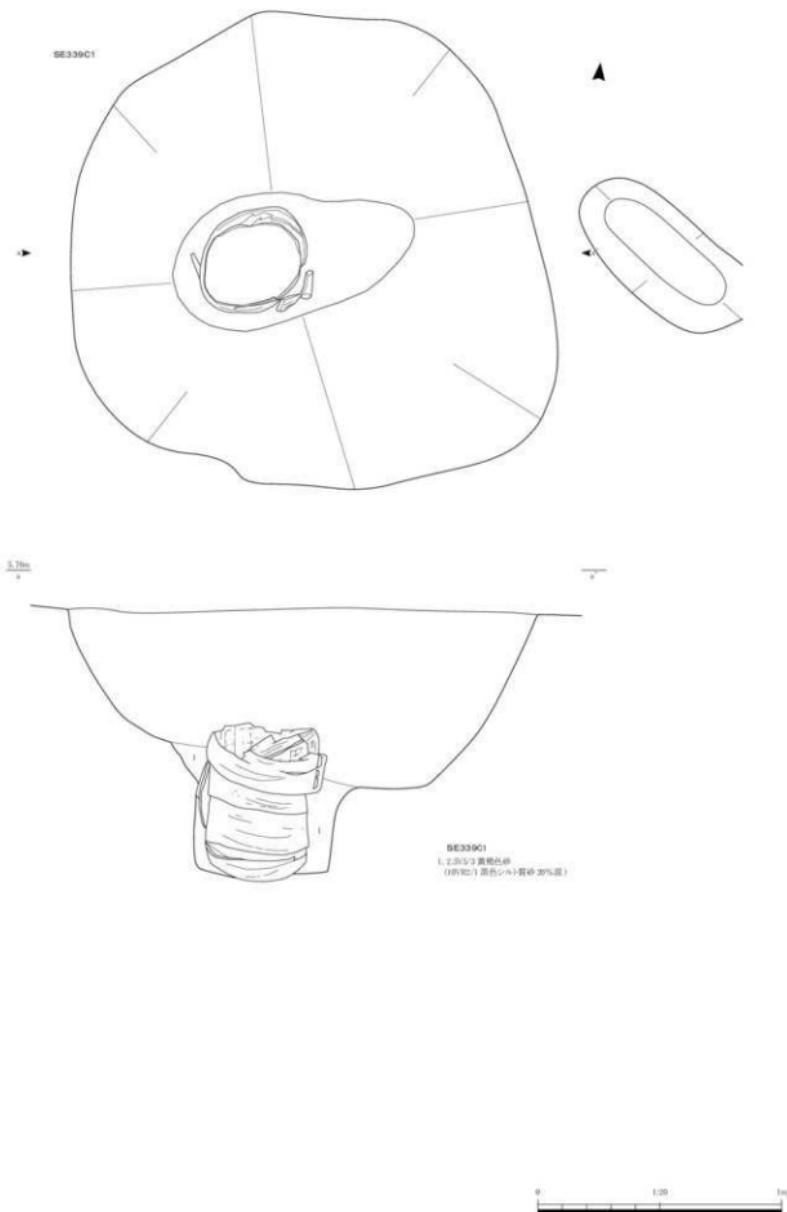
1. 490mm(外周)・黄褐色砂
2. 7.97(1)灰白色粗砂
3. 7.59(1)灰白色粗砂
4. 9.77(1)灰白色砂
5. 10.03(1)黑褐色砂質(シルト)



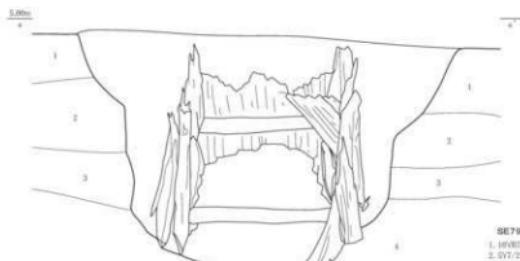
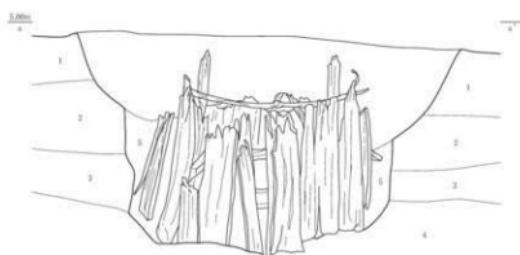
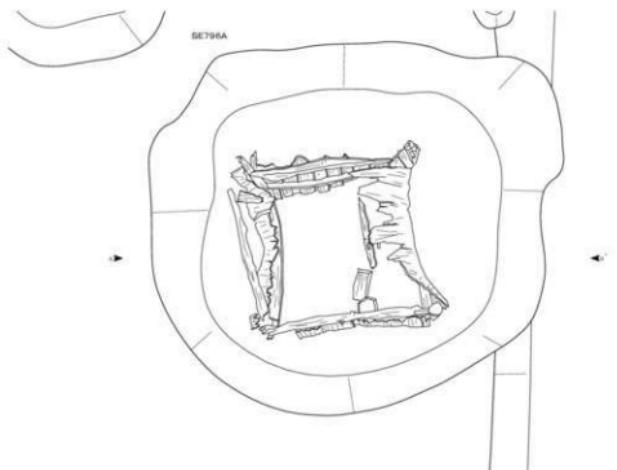
第60図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SE671A



第61図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
1. SE156B 2. SE336B



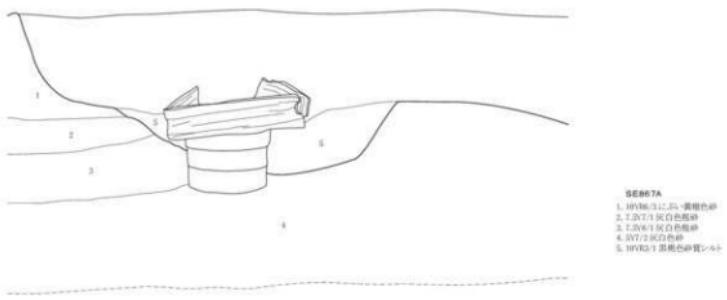
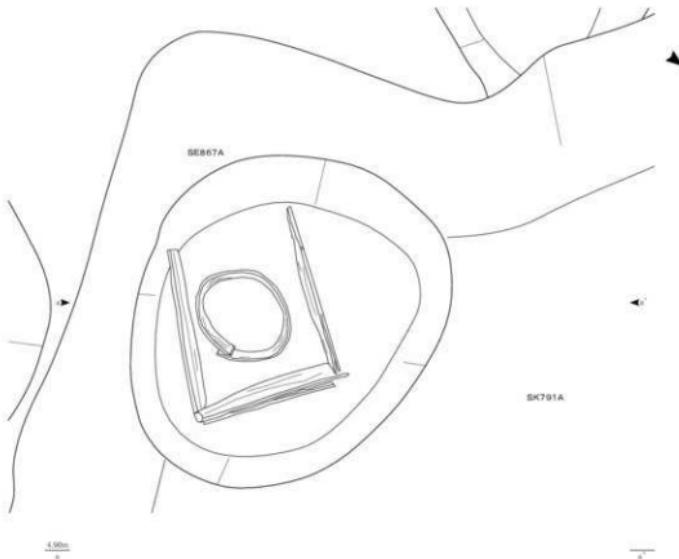
第62図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SE339C1



SE796A  
 1. 16VET-6 黄褐色粗砂  
 2. 5YT-2 黄褐色 (2.5YT-1 30%白色粗砂) (2.5YT-1 30%白色粗砂)  
 3. 1.5YR-2 黄褐色  
 4. 7.5YR-2 黄褐色  
 5. 16VET-1 黑色砂

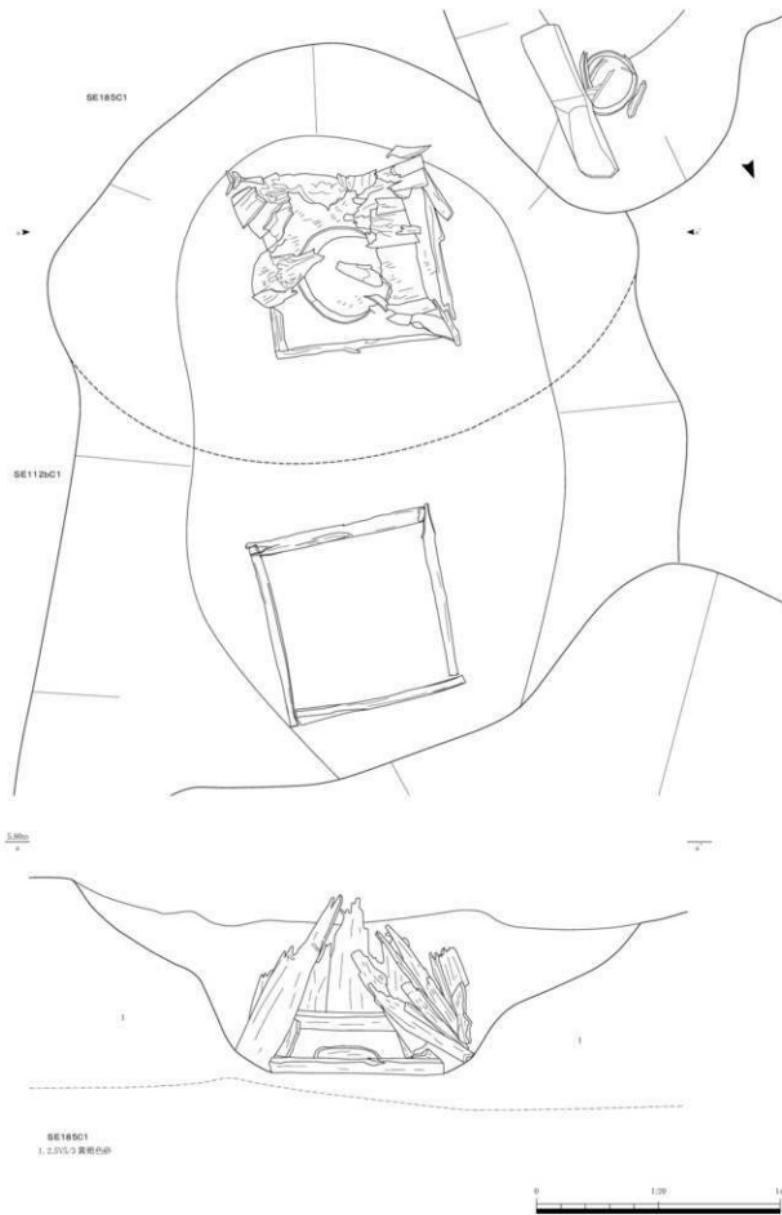


第63図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SE796A



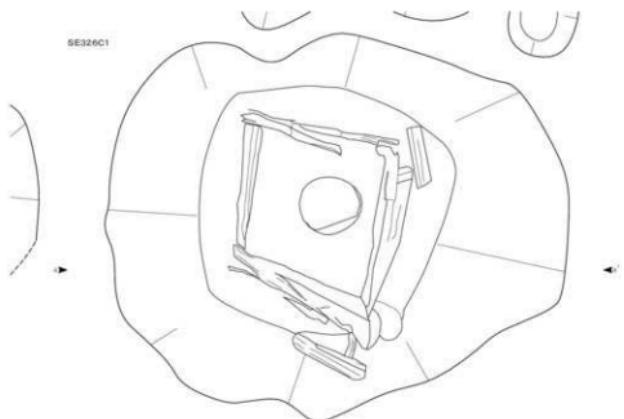
第64図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SE867A

0 1/20 1m

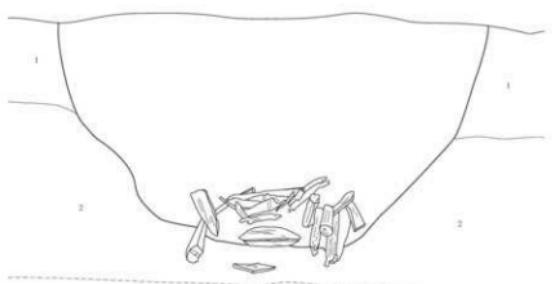


第65図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SE185C1

SE326C1

0.30m  
m

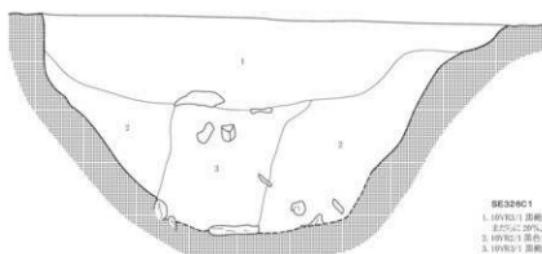
m

0.30m  
m

m

SE326C1

1. 1.25m/3 黄褐色68  
(0.95m/7 黑褐色シート質砂63%混)  
2. 1.05m/2 黑色シート質砂65%混  
3. 0.30m/1 黃褐色シート質砂65%混)

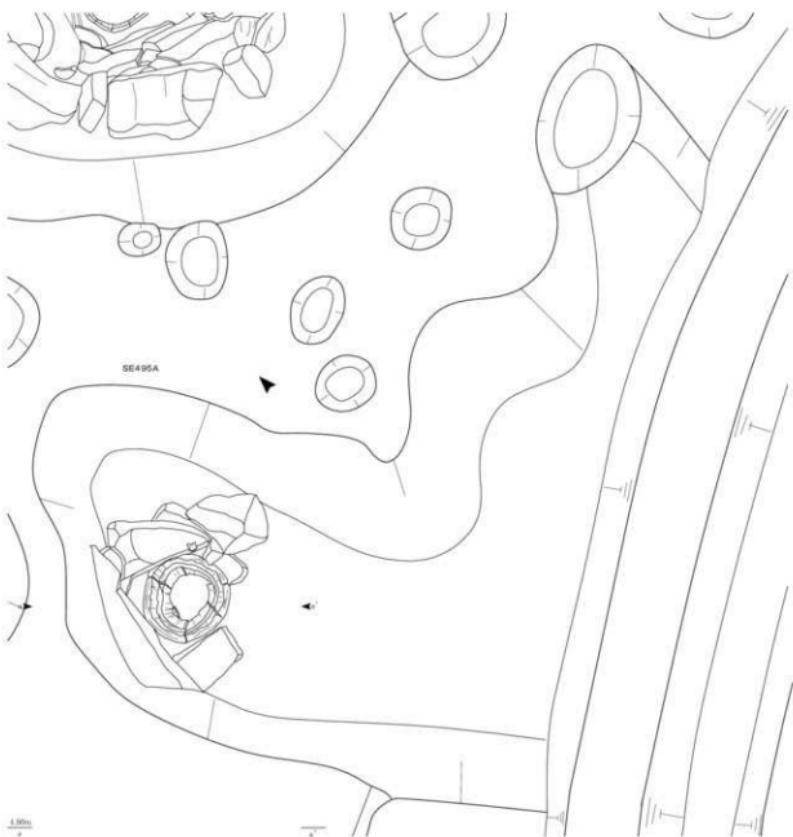


SE326C1

1. 1.00m/1 黄褐色シート質砂 (0.80m/4 黒色シート質砂上フロック  
2. 1.00m/1 黄褐色シート質砂 (0.75m/1 黄褐色シート質砂+4% 黑色物 15%混)  
3. 1.05m/1 黑色シート質砂 (2.35m/2 黄褐色69 黑色物 30%)  
3. 1.05m/1 黑色シート質砂 (0.75m/3 黄褐色69 黑色物 30%)  
4. 0.95m/1 黑色シート質砂 20%、2.35m/4 黑色シート質砂上フロック7%混)

0 1.00 1m

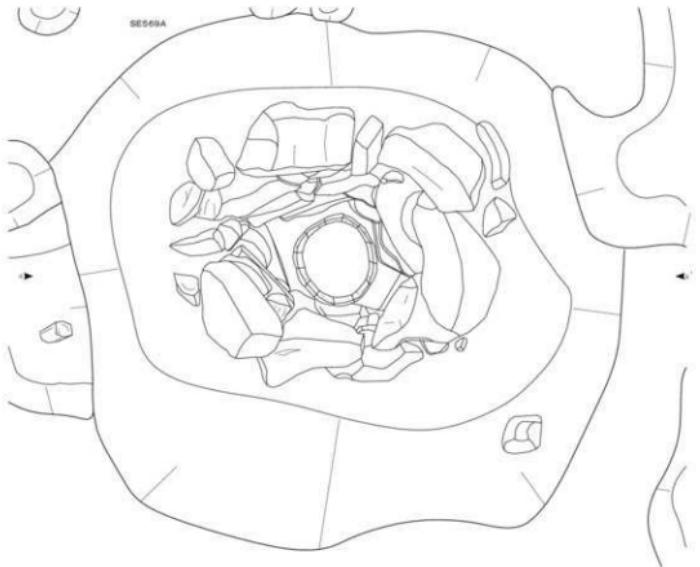
第66図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SE326C1



SE495A  
1. HB307/1に高・黒褐色斑紋(1)の3/4 黑褐色砂質的に10%混)  
2. BV4/1 黑褐色  
3. BV7/2 黑褐色

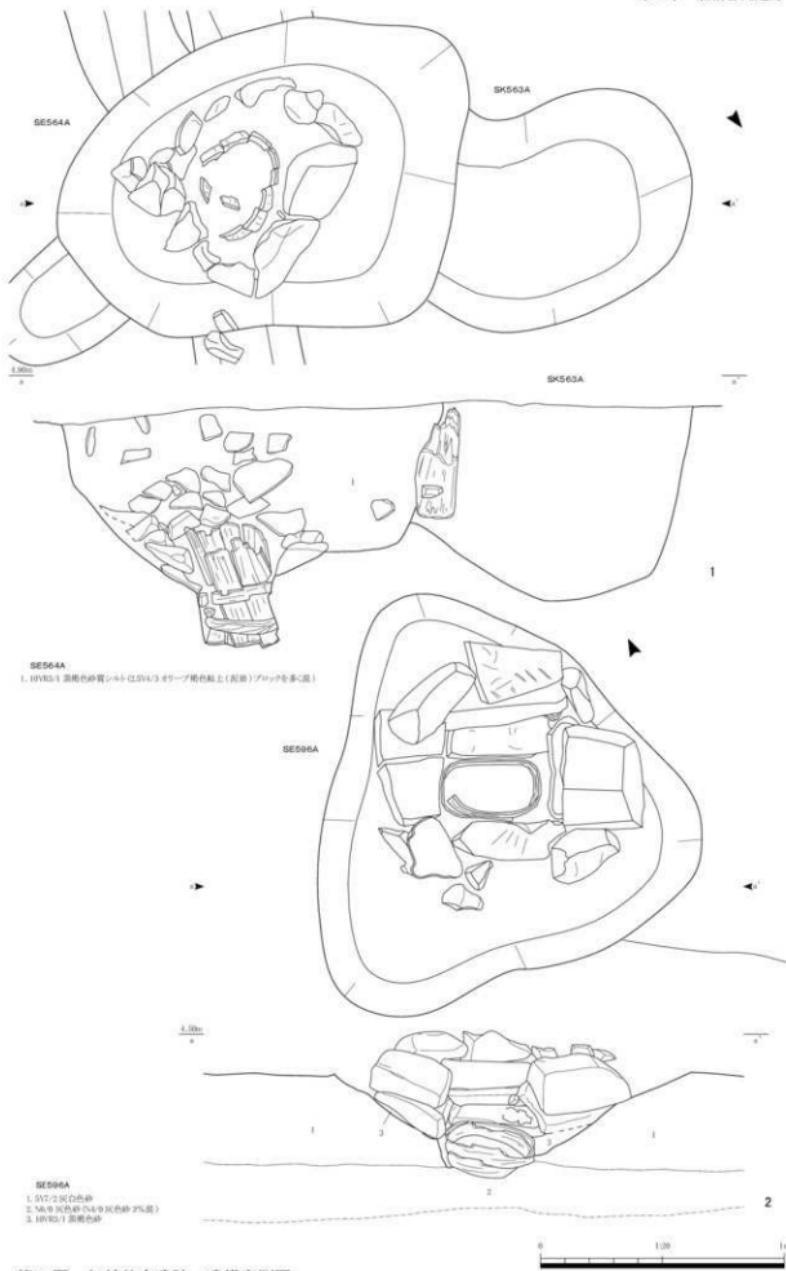


第67図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SE495A

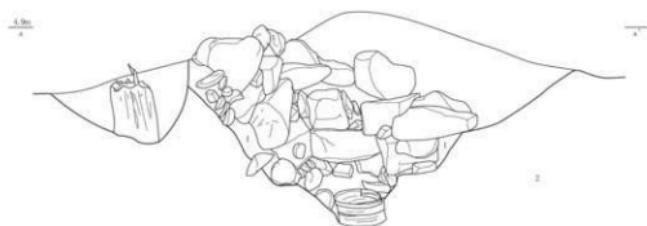
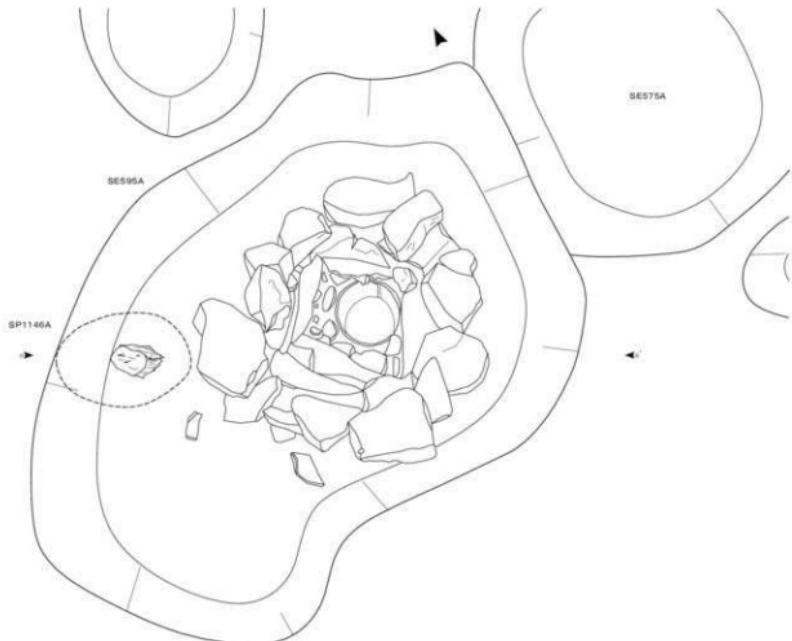


第68図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SE569A

0 1.00 1m



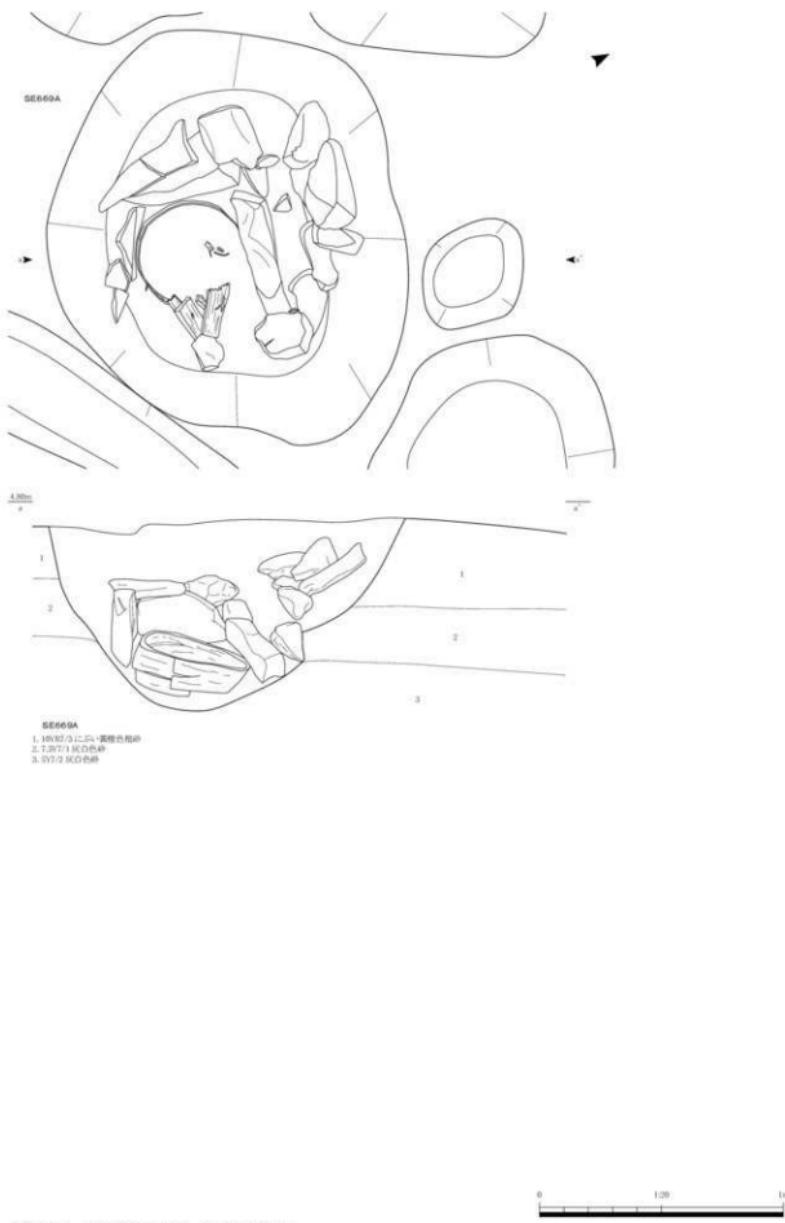
第69図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
1. SE564A 2. SE596A



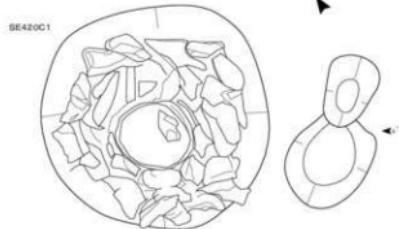
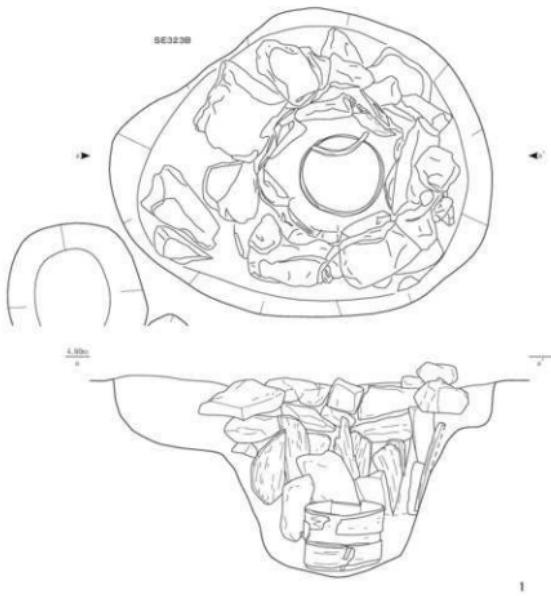
SBI SP1146A - SE595A  
 1. HBNL/2(灰褐色地砂) HNSZ/3(12.25・黄褐色粘土) cm 25.5  
 2. HNT/2(IGD色砂)



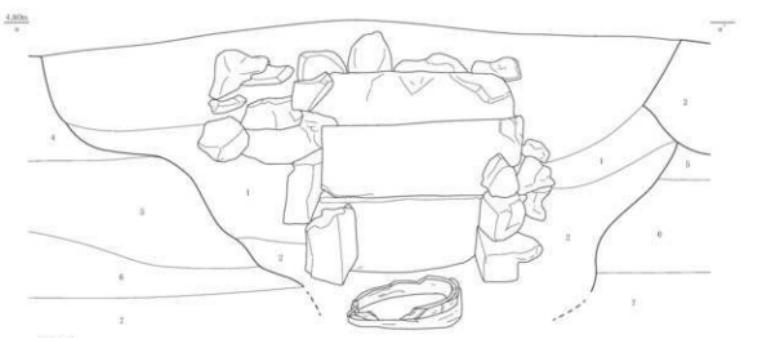
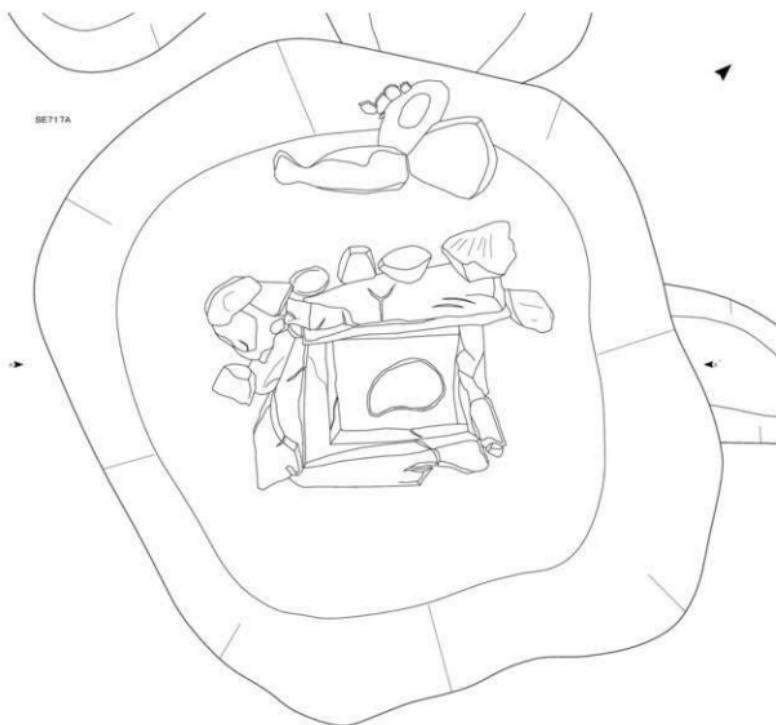
第70図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
 SBI SP1146A・SE595A



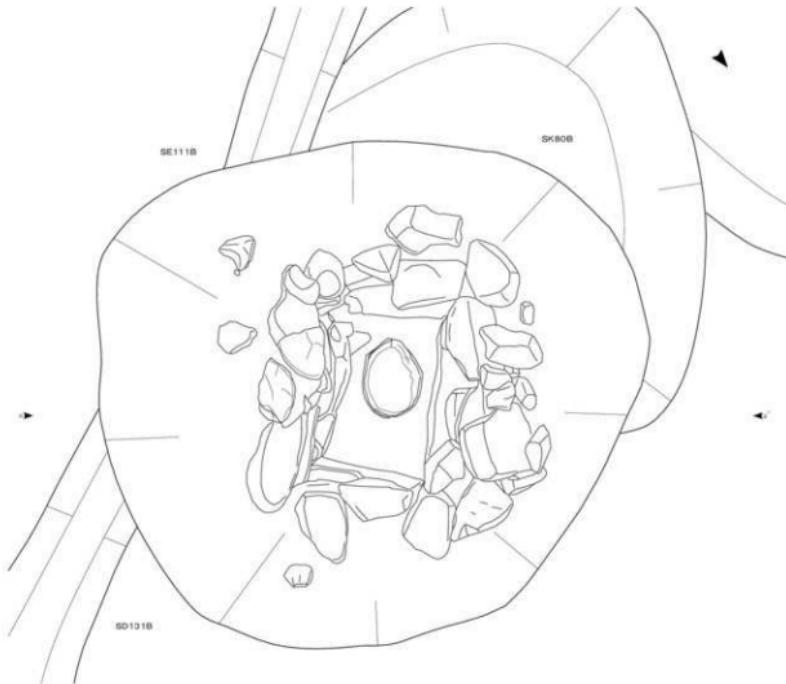
第71図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SE669A



第72図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
1. SE323B 2. SE420C1



第73図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SE717A

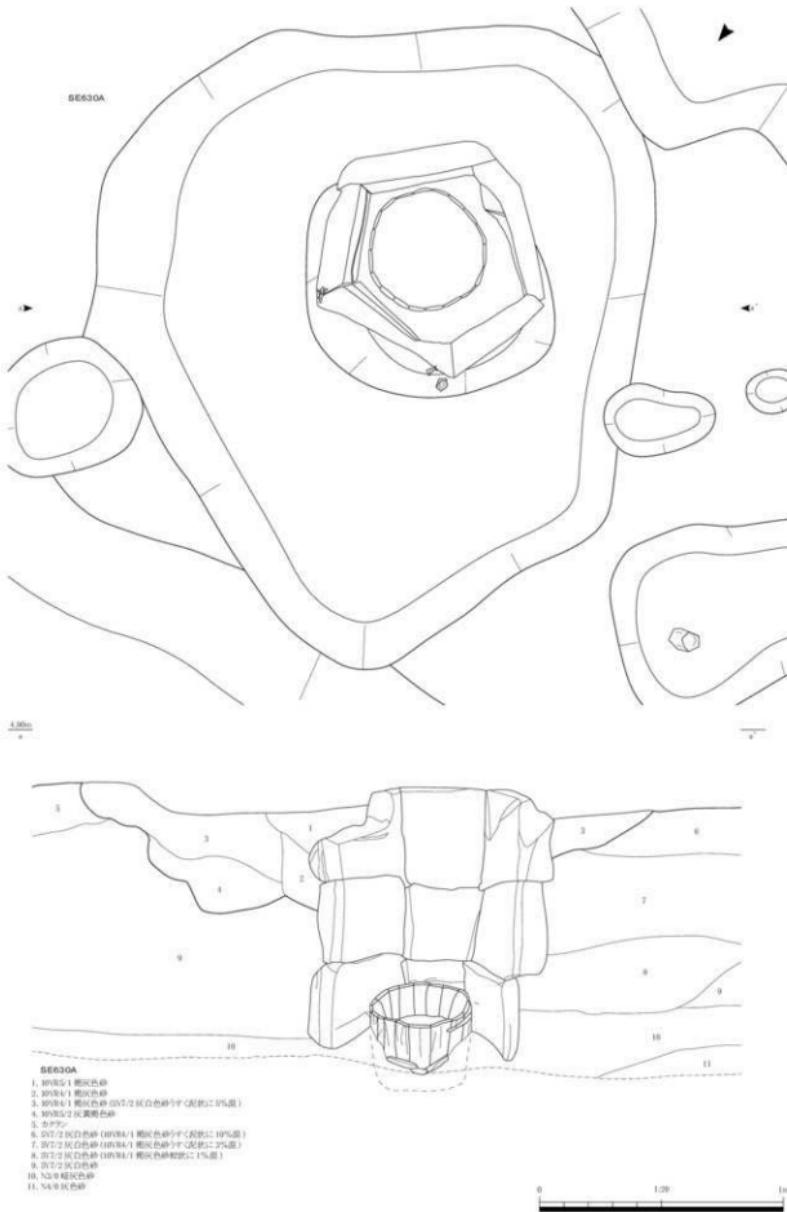


SE111B  
 1. MVSD/1 黒褐色砂質シート (MVSD/1 黒褐色砂質シート・アーブル状 30% 底)  
 2. MVSD/1 黒褐色砂質シート  
 3. MVSD/2 水質測定孔  
 4. MVSD/3 (底物を茎底)  
 5. MVSD/1 黒褐色砂  
 6. Nodular状砂砾 (MVSD/1 黑褐色砂砾内に混)

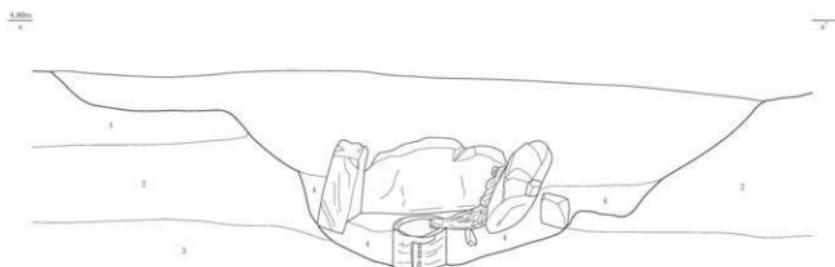
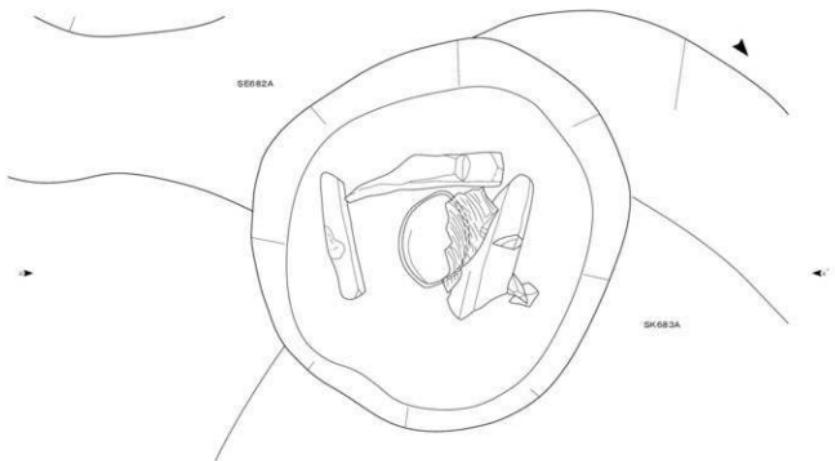
SD131B  
 7. MVSD/1 黑褐色砂質シート (66% 灰色砂質状 10% 底)



第74図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
 SE111B・SD131B



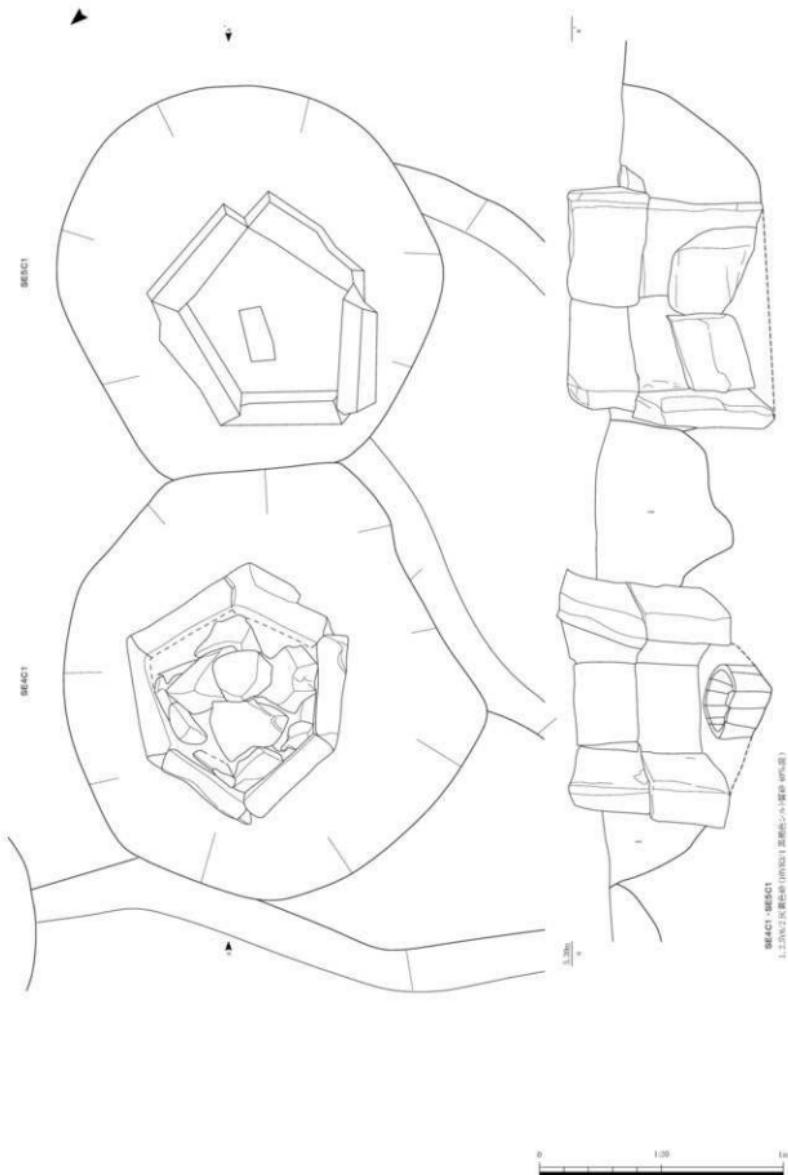
第75図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SE630A



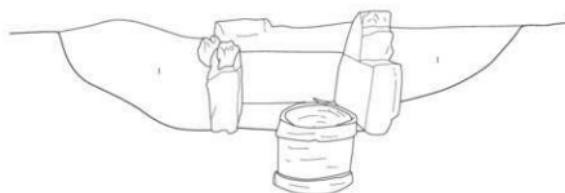
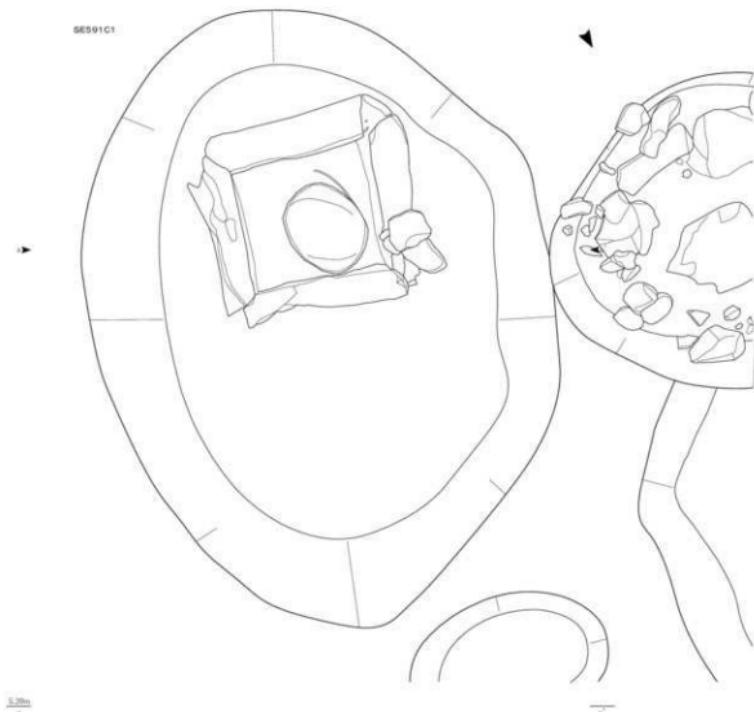
- SE682A  
 1. H682A 朝瀬褐色鉢（W7.2cm 白色砂質陶土30%混）  
 2. SY7.2 黄白色砂  
 3. N6.6 棕色砂  
 4. N3.9 錫灰白色砂



第76図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
 SE682A

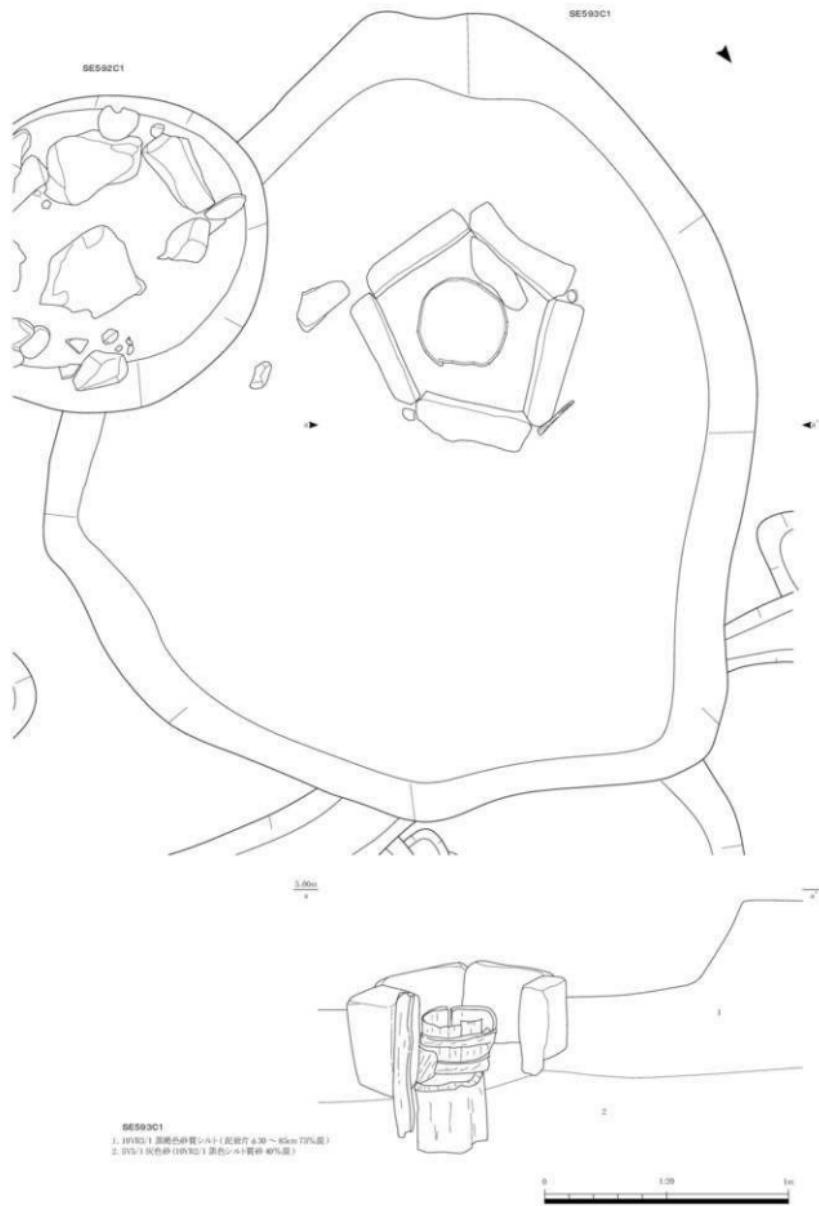


第77図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SE4C1・SE5C1

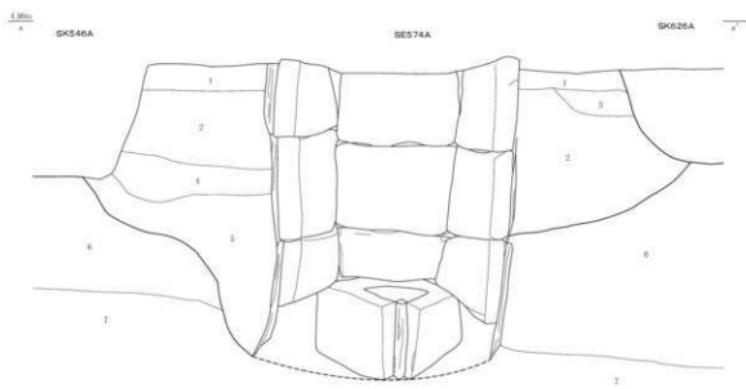
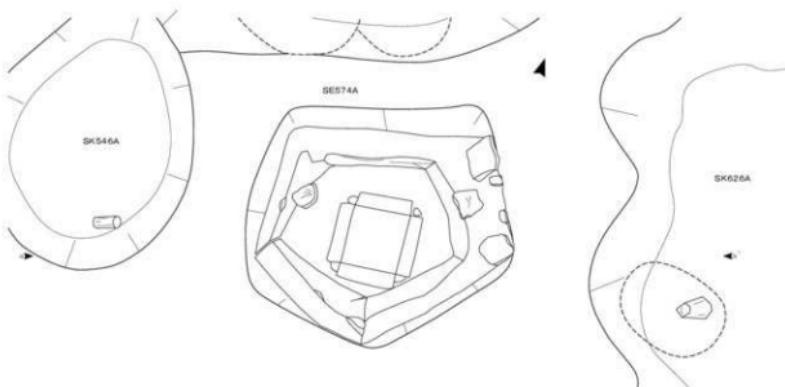


第78図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SE591C1





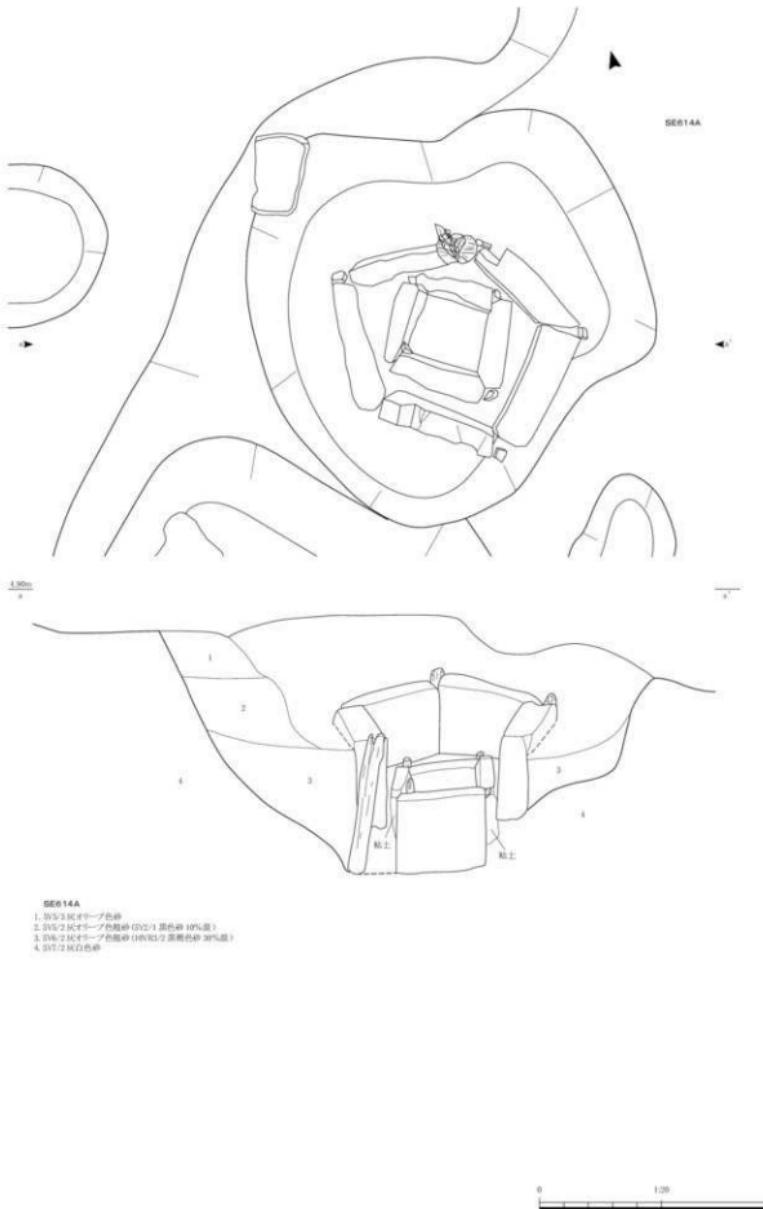
第79図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SE593C1



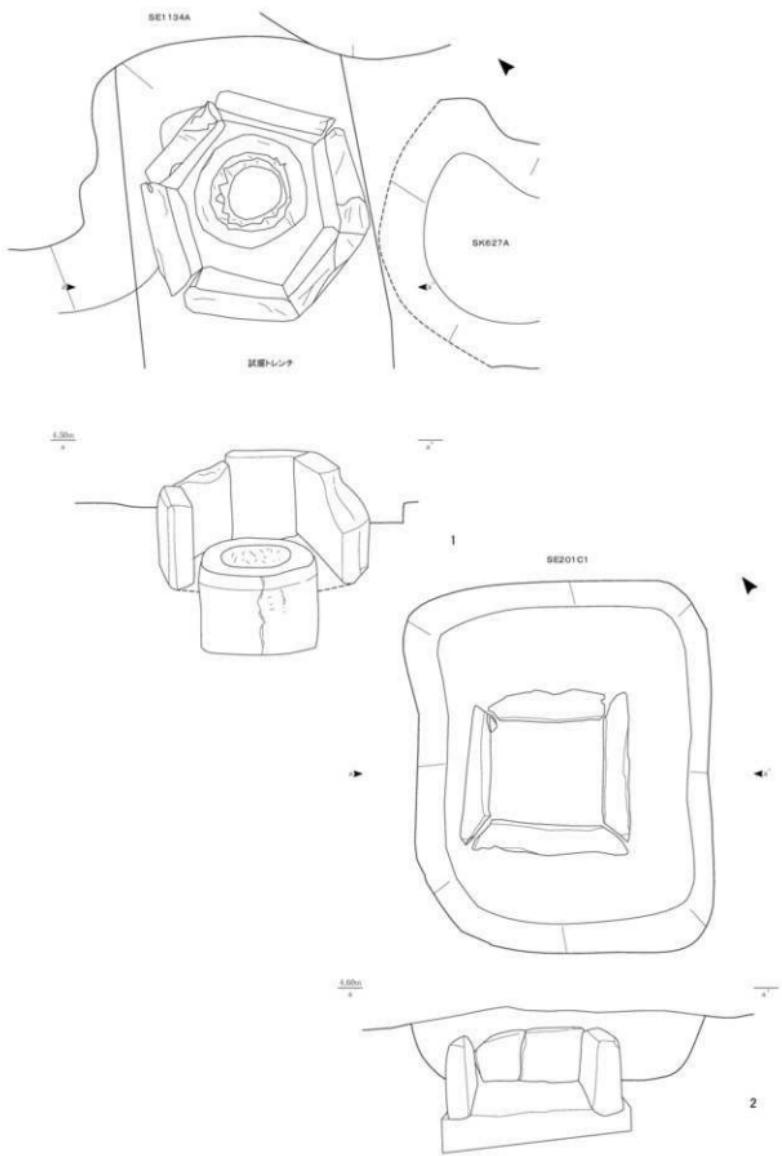
- SES74A  
 1. 10V32.1灰一黄褐色砂质(10%灰) 灰(色沙质少于10%灰)  
 2. 3V7.2灰白砂(10%灰) 黄褐色砂质(少于10%灰)  
 3. 10V32.1黑褐色砂质少于10%灰  
 4. 3V7.2灰白砂(10%灰) 黄褐色砂质少于10%灰  
 5. 3V7.2灰白砂(10%灰) 黄褐色砂质少于10%灰  
 6. 3V7.2灰白砂  
 7. N4赤褐色砂(25%)1层(10%灰土粒少于10%)  
 8. N4赤褐色砂(25%)1层(10%灰土粒少于10%)



第80図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
 SES74A

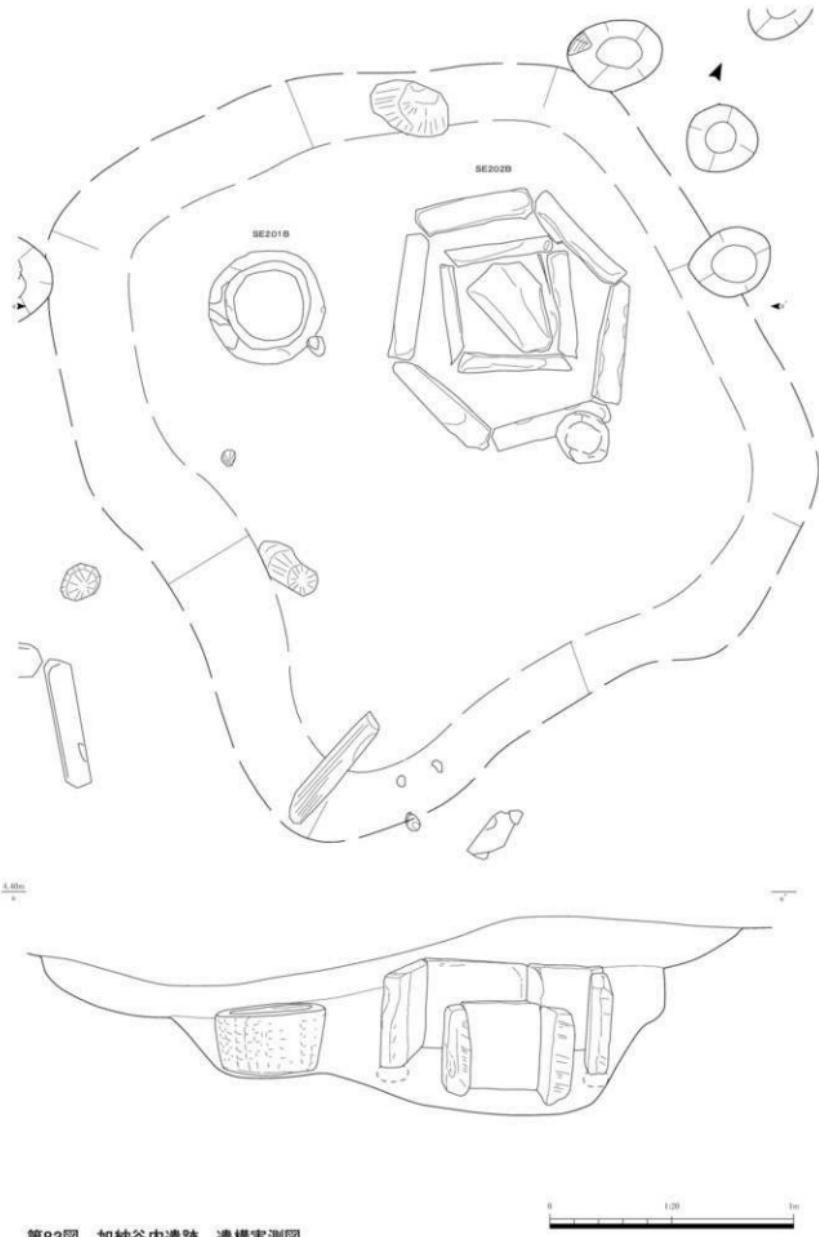


第81図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SE614A

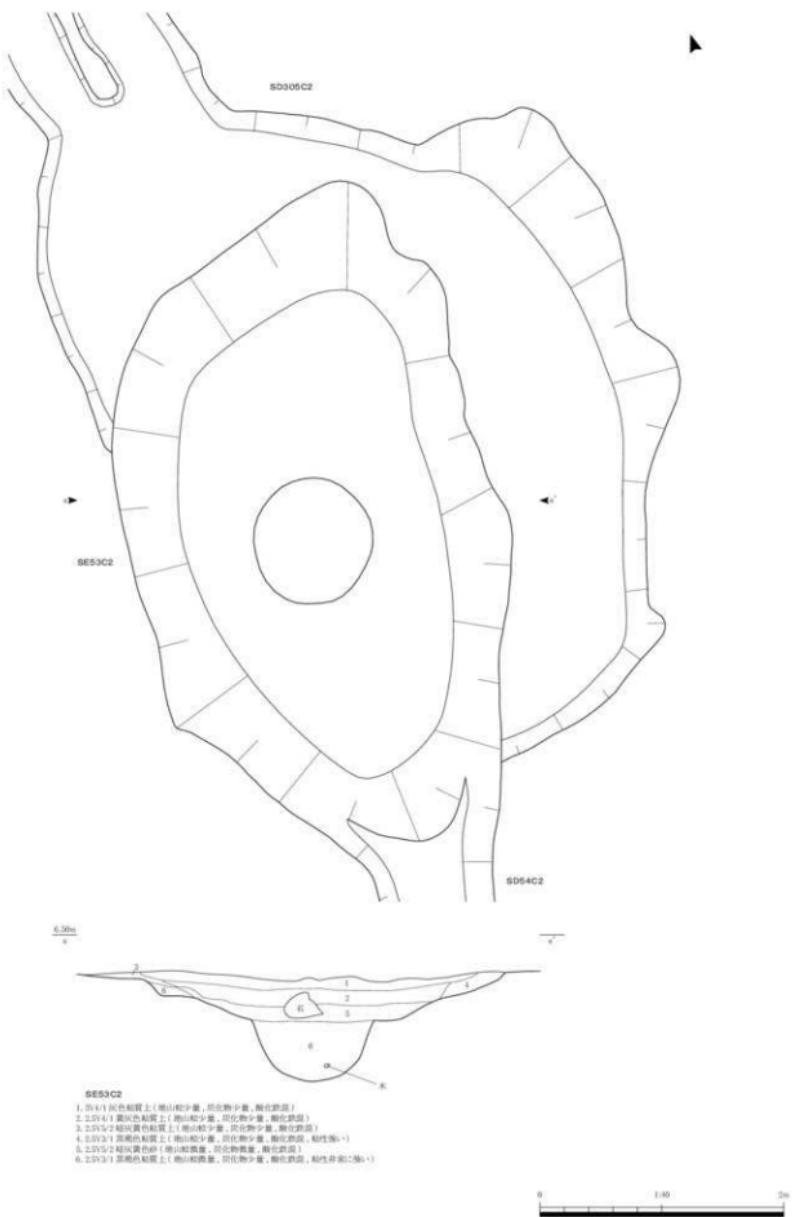


第82図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
1. SE1134A 2. SE201C1

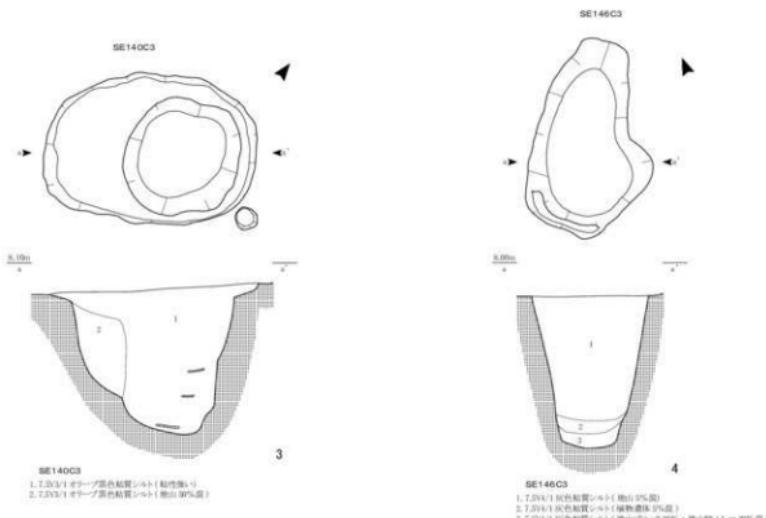
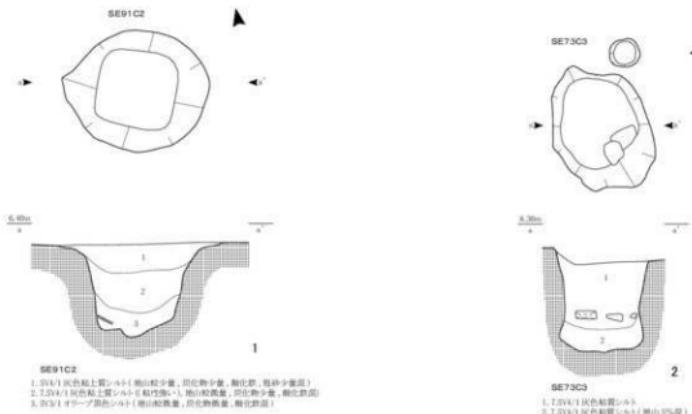




第83図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SE201B・SE202B

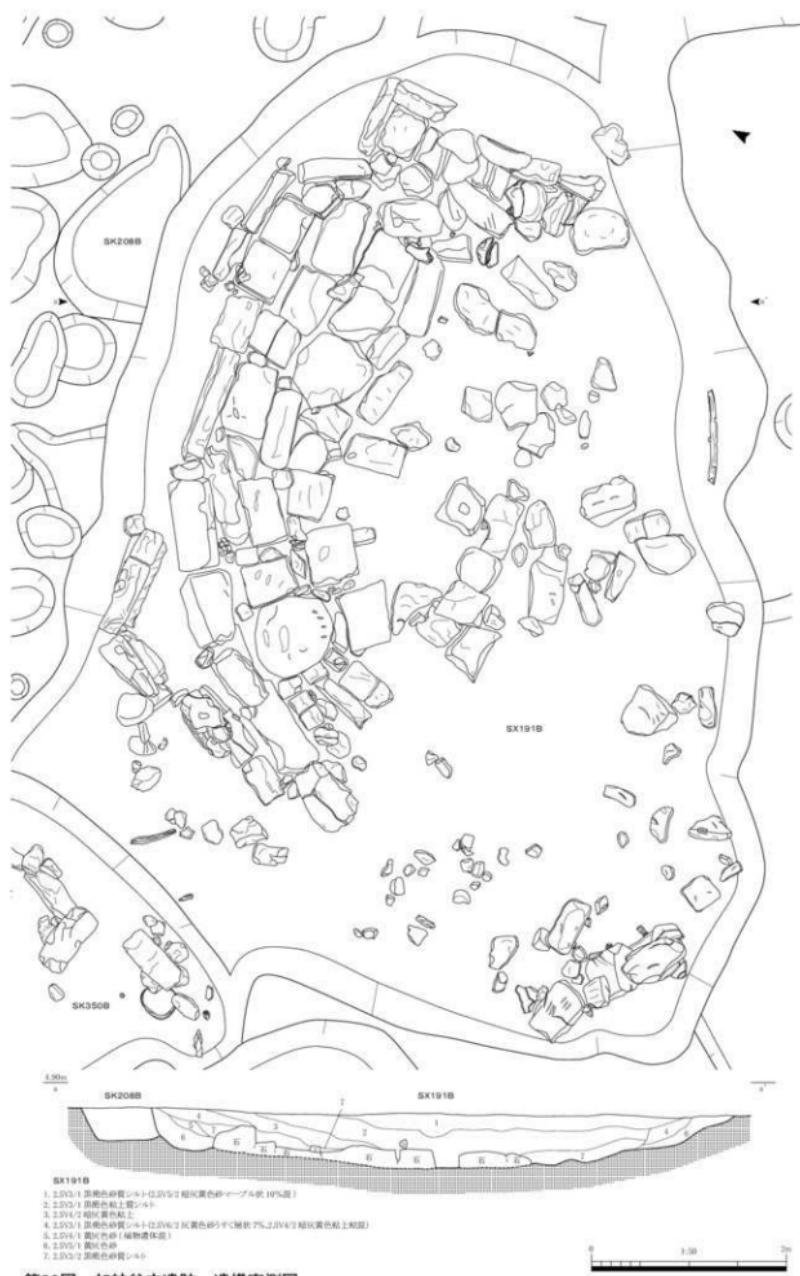


第84図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SE53C2



第85図 加納谷内遺跡 遺構実測図

1. SE91C2 2. SE73C3 3. SE140C3 4. SE146C3



第86図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SX19IB

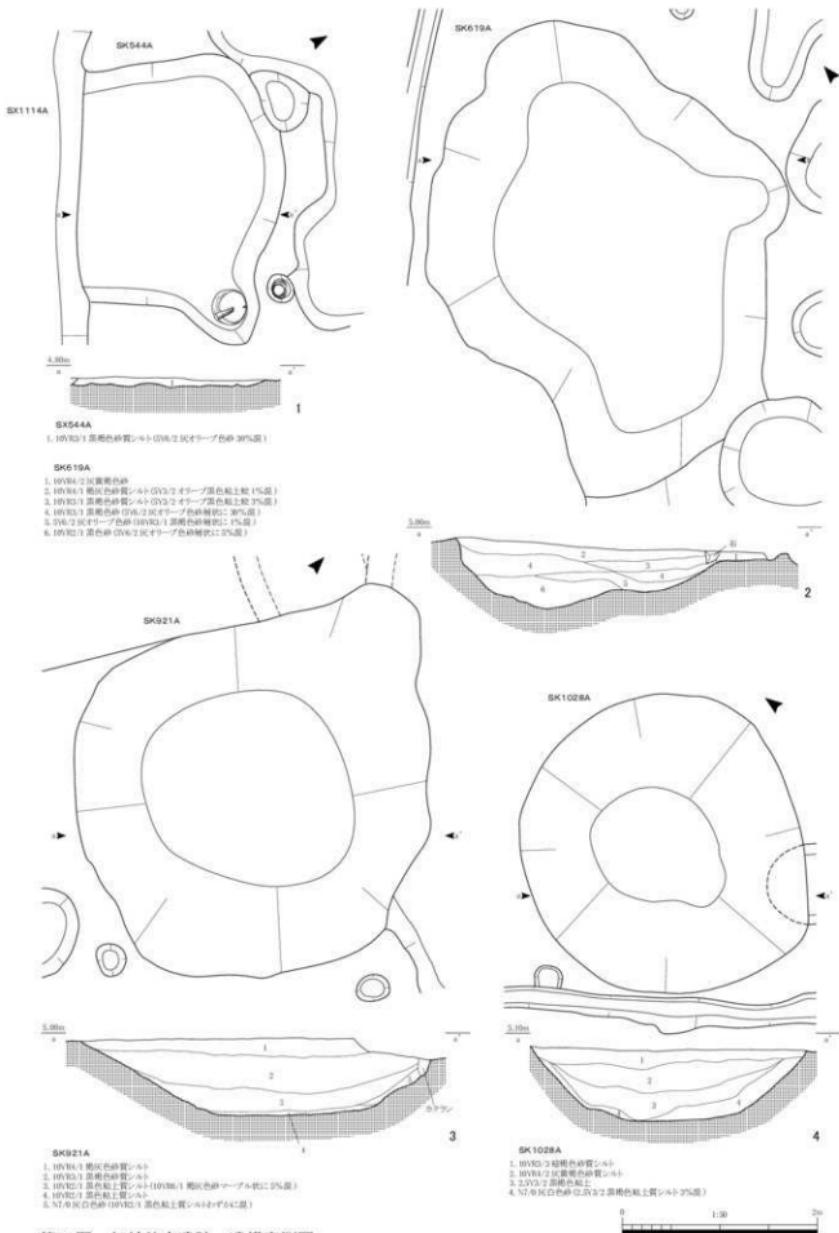


第87図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SK350B



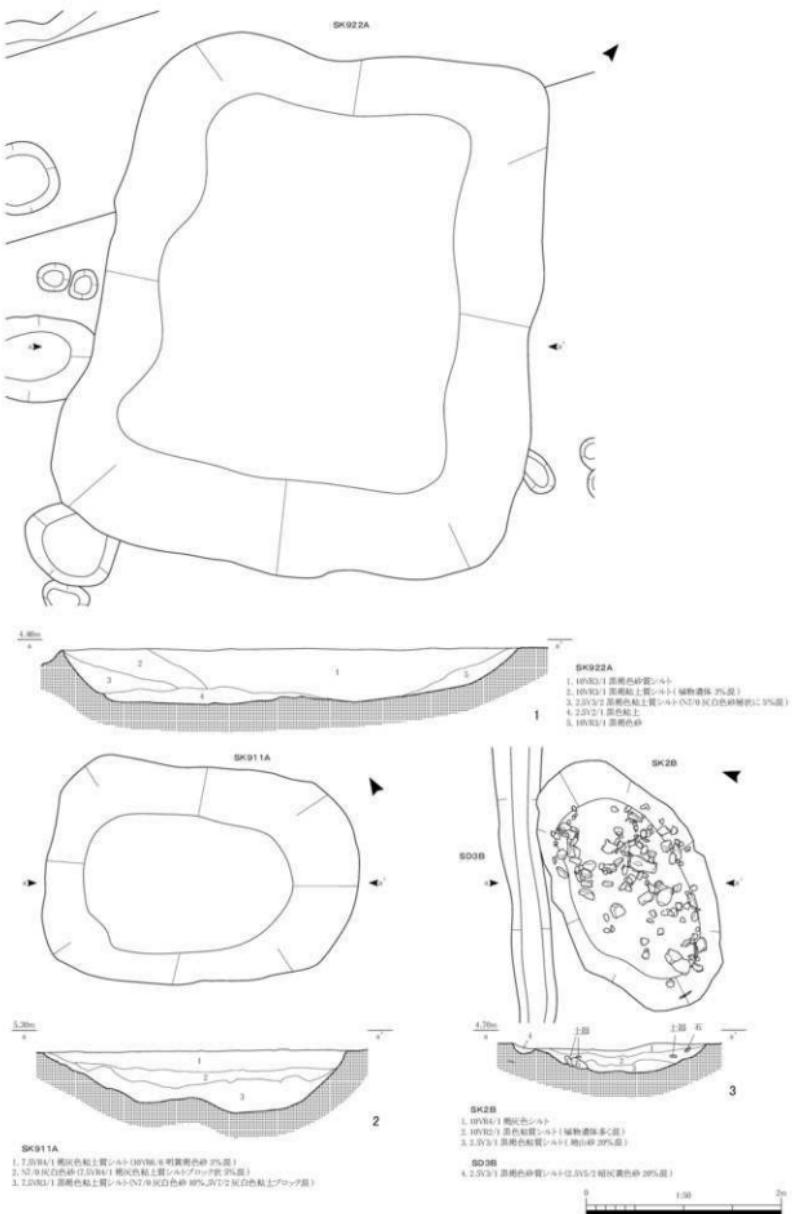
第88図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
SX726C1





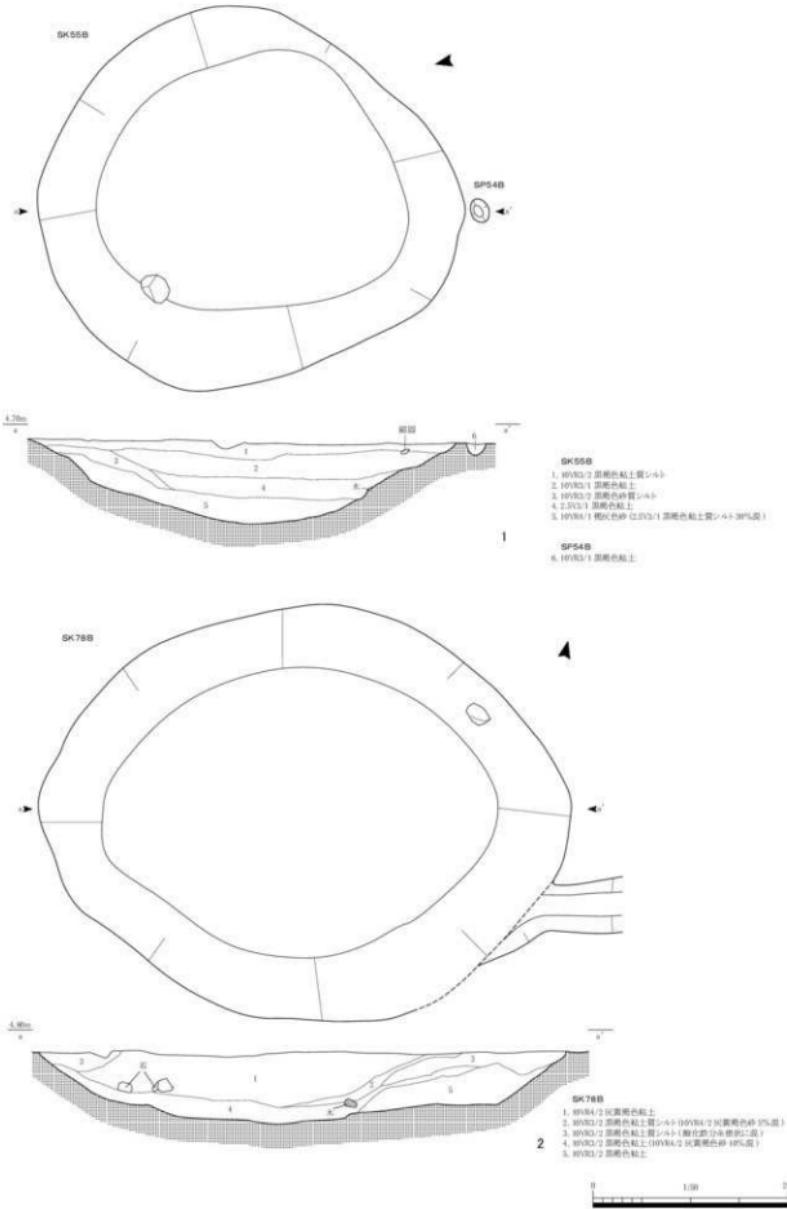
第89図 加納谷内遺跡 遺構実測図

1. SK544A 2. SK619A 3. SK921A 4. SK1028A



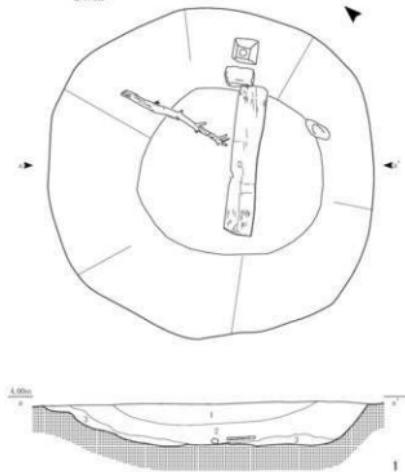
第90図 加納谷内遺跡 遺構実測図

1. SK922A 2. SK911A 3. SK2B・SD3B



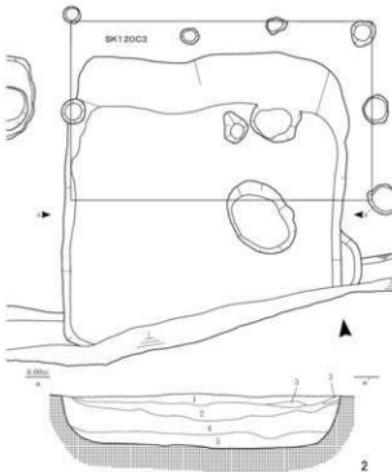
第91図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
1. SK55B・SP54B 2. SK78B

SK79B



SK79B

1. HVYH1/7 黒褐色粘土(表面から下) 100%
2. HVYH2/3 黑褐色粘土(1/4-1/2 黑褐色粘土上部, 比例物質)
3. HVYH9 黑褐色 (HVYH2/3 黑褐色粘土上部 30%混)

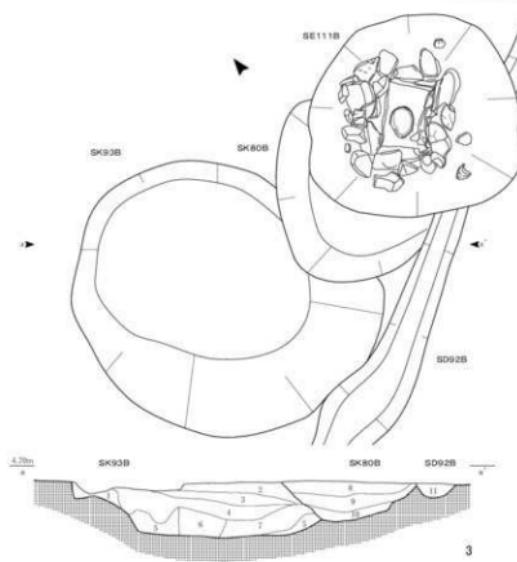


SK120C3

1. 7.5V4/3 黑褐色粘土(縫隙～粗砂)
2. 7.5V4/3 黑褐色粘土(縫隙～粗砂)
3. 3.0V4/3 黑褐色粘土(縫隙～粗砂, 地山 7%, 比例物質量)
4. 7.5V4/3 黑褐色粘土(縫隙～粗砂, 地山 10%, 比例物質量)
5. 7.5V4/3 黑褐色粘土(地山 30%)

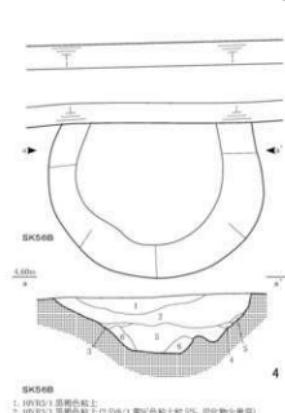
SK93B

1. HVYH2/3 黑褐色粘土(表面から下) 100%
2. HVYH2/3 黑褐色粘土(1/4-1/2 黑褐色粘土上部, 比例物質)
3. HVYH9 黑褐色 (HVYH2/3 黑褐色粘土上部 30%混)



SK93B

1. HVYH2/3 黑褐色粘土
2. HVYH2/3 黑褐色粘土(表面から下)
3. HVYH2/3 黑褐色粘土(縫隙～粗砂)
4. HVYH2/3 黑褐色粘土(縫隙～粗砂)
5. HVYH2/3 黑褐色粘土(縫隙～粗砂)
6. HVYH2/3 黑褐色粘土(縫隙～粗砂)
7. HVYH2/3 黑褐色粘土(縫隙～粗砂)
8. HVYH2/3 黑褐色粘土(縫隙～粗砂)
9. HVYH2/3 黑褐色粘土(縫隙～粗砂)
10. HVYH2/3 黑褐色粘土(10VH3/1 黑褐色粘土質 30%混)
11. HVYH3/1 黑褐色粘土質シート



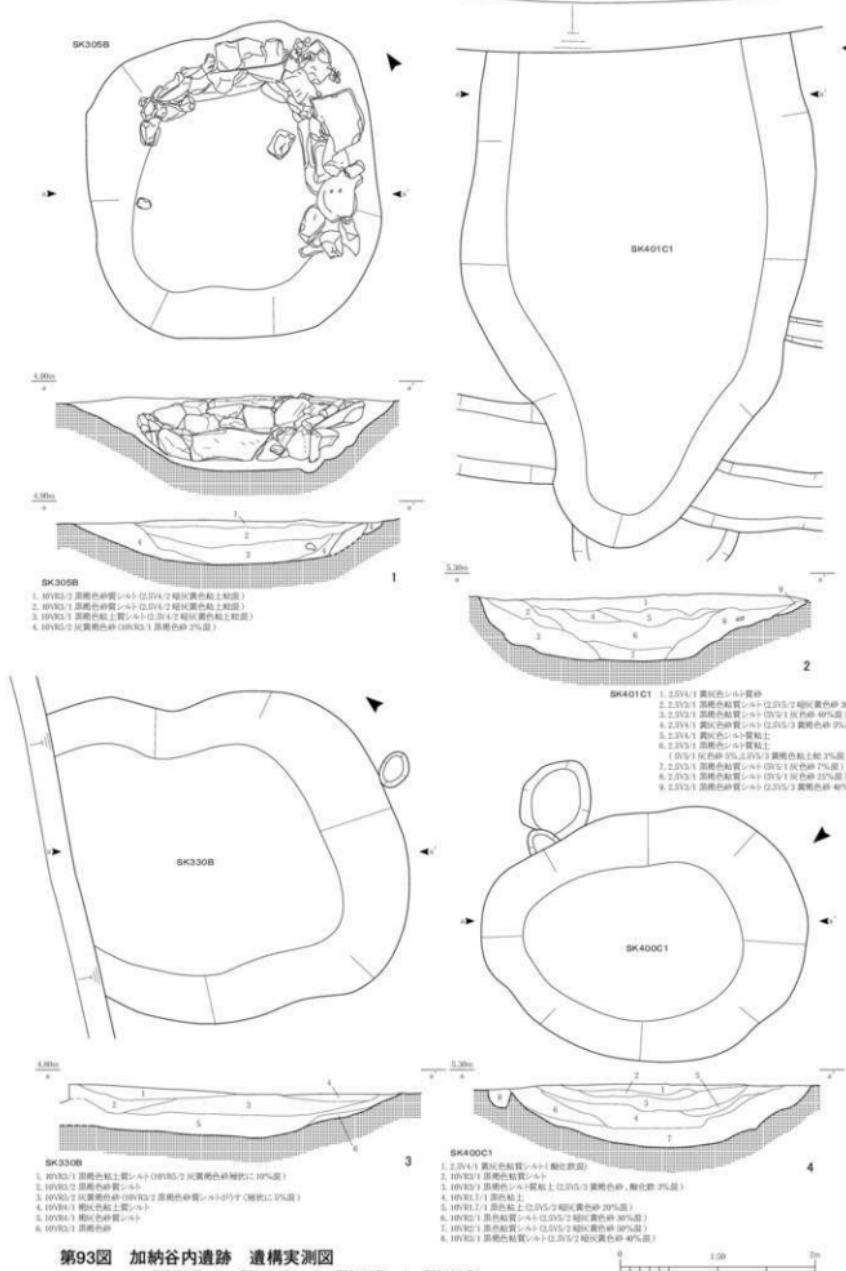
SK56B

1. HVYH2/3 黑褐色粘土上質
2. HVYH2/3 黑褐色粘土(10VH3/1 黑褐色粘土質 5% 比例物質量)
3. HVYH2/3 黑褐色粘土(10VH3/1 黑褐色粘土質 30%混)
4. HVYH2/3 黑褐色粘土
5. HVYH2/3 黑褐色粘土(10VH3/1 黑褐色粘土質 30%混)
6. HVYH3/1 黑褐色粘土質シート



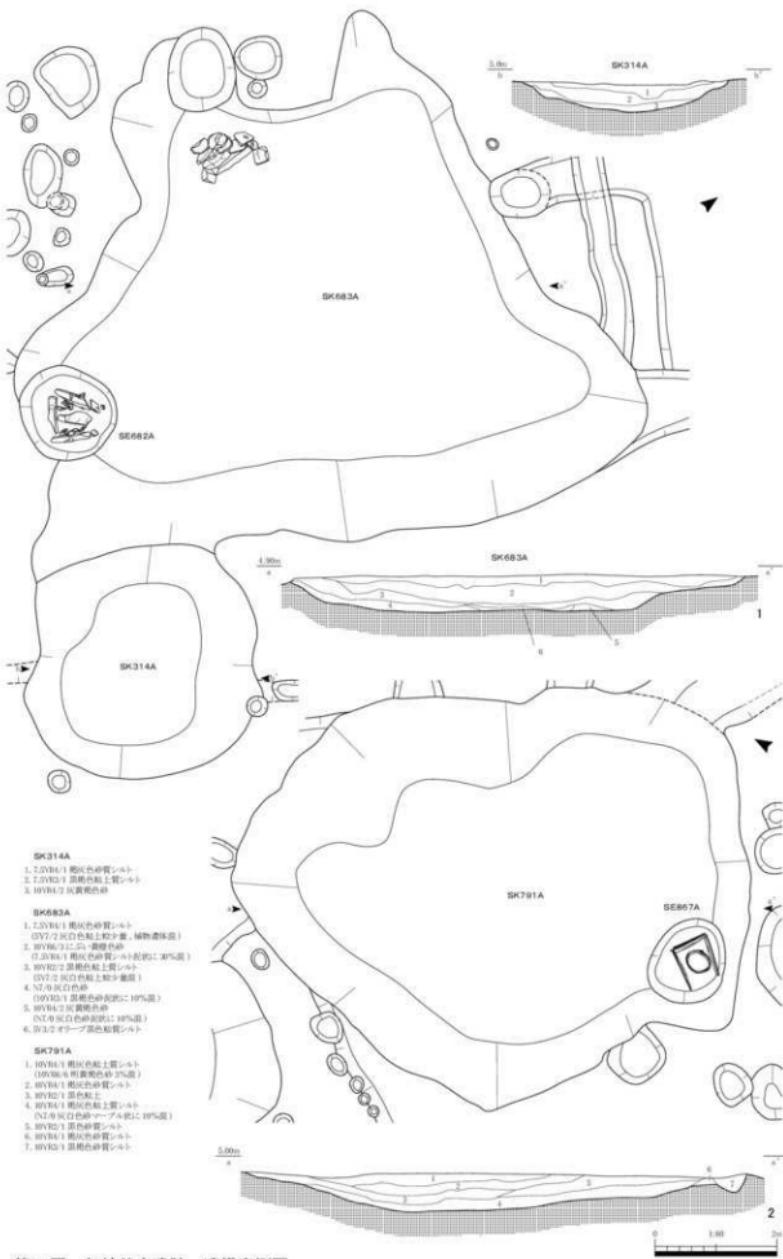
第92図 加納谷内遺跡 遺構実測図

1. SK79B 2. SK120C3 3. SK93B・SK80B・SD92B 4. SK56B

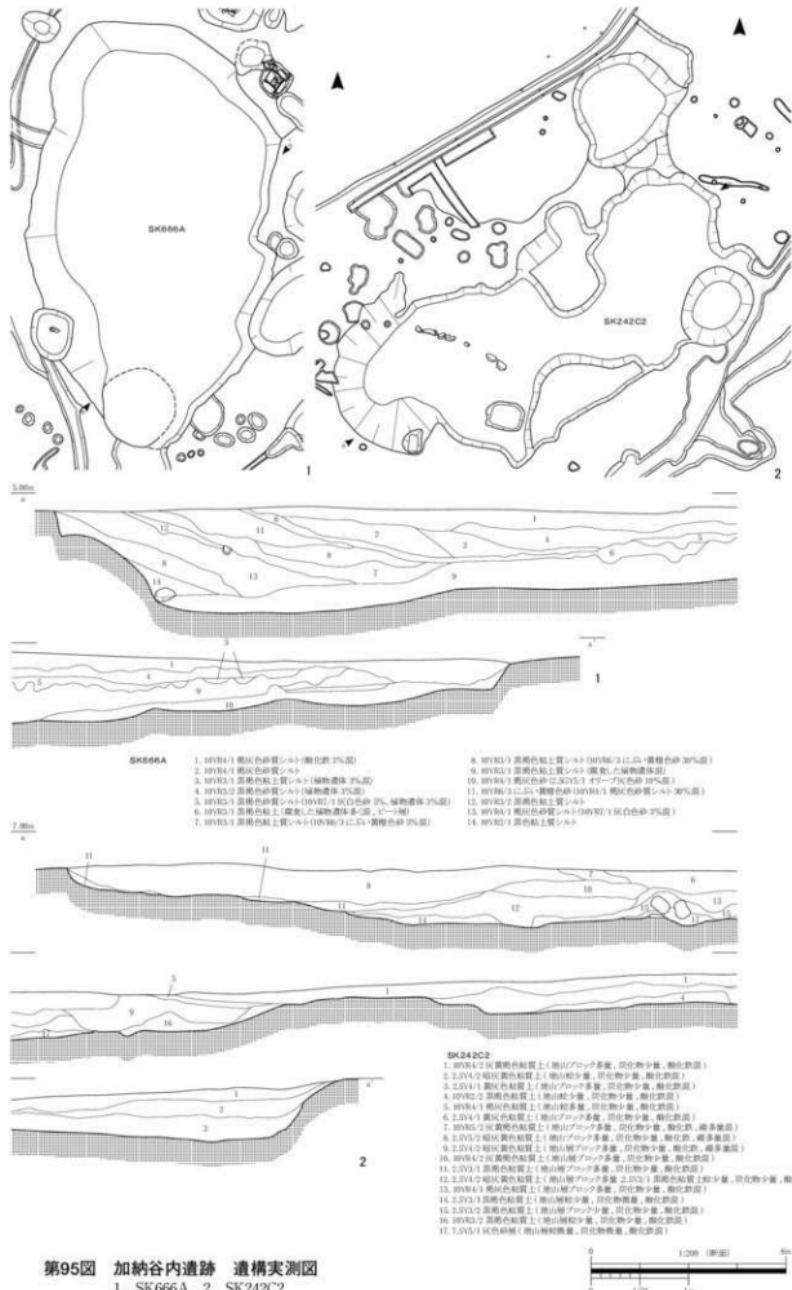


第93図 加納谷内遺跡 遺構実測図

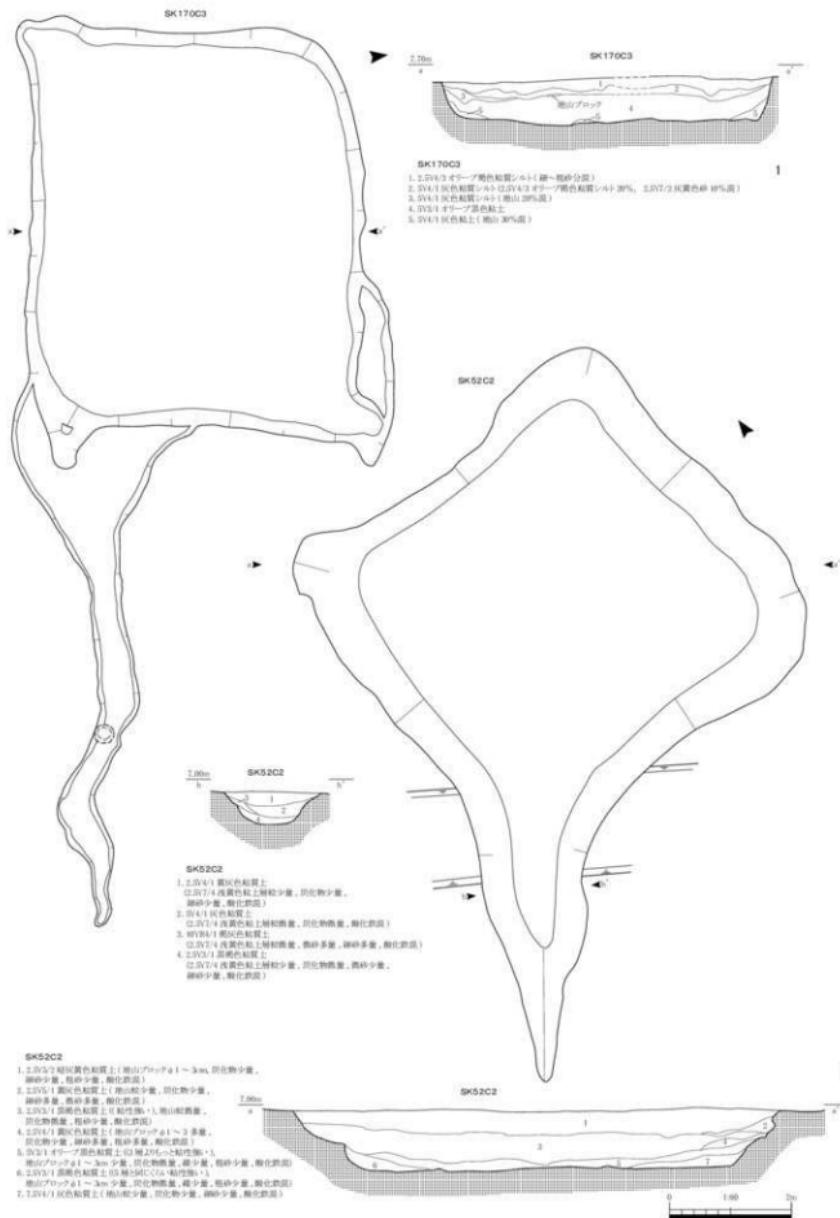
1. SK305B 2. SK401C1 3. SK330B 4. SK400C1



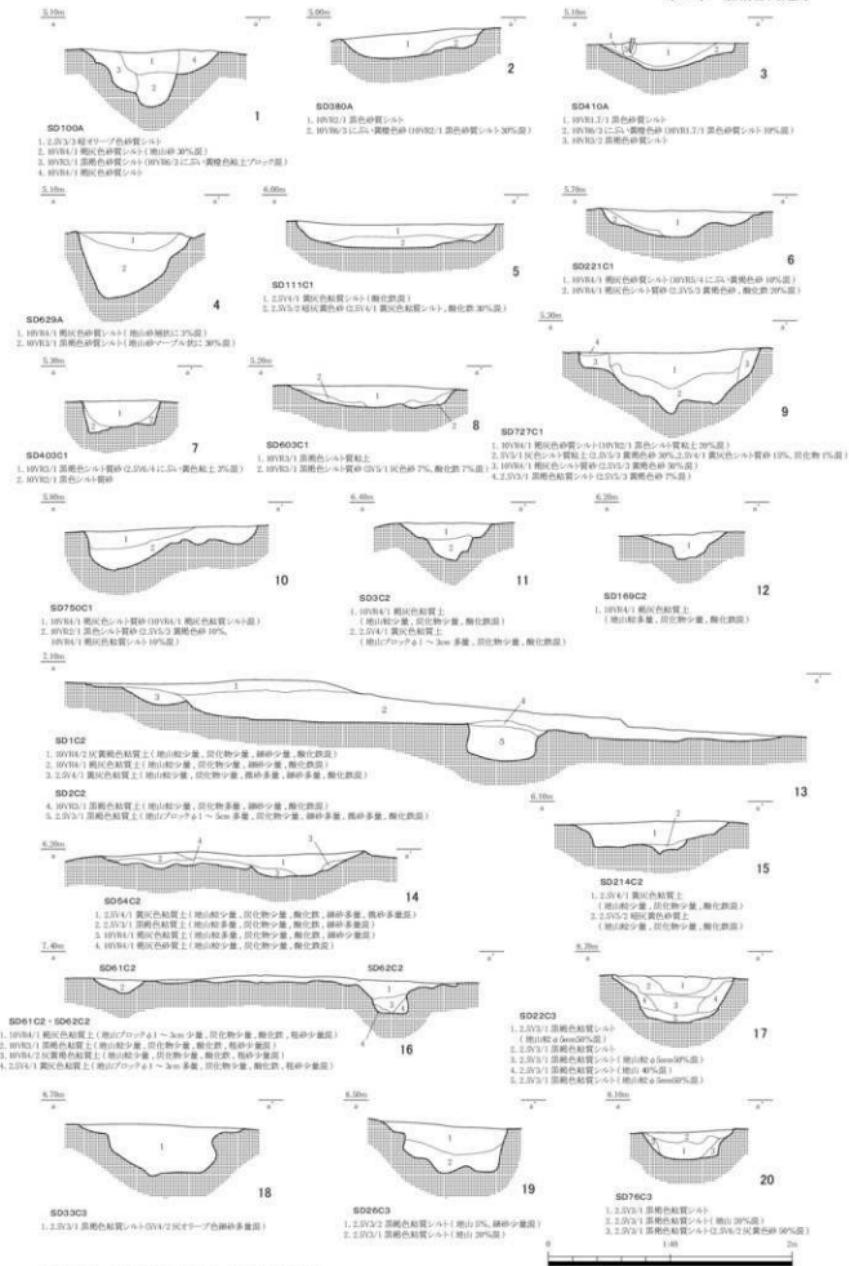
第94図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
1. SK314A・SK683A 2. SK791A



第95図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
 1. SK66A 2. SK242C2



第96図 加納谷内遺跡 遺構実測図  
1. SK170C3 2. SK52C2



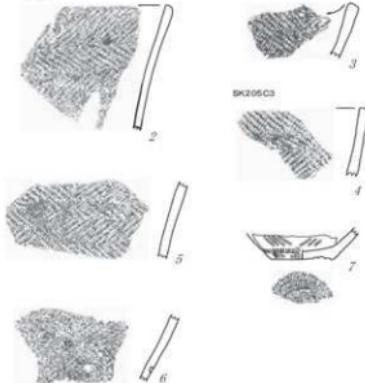
第97図 加納谷内遺跡 遺構実測図

1. SD100A 2. SD380A 3. SD410A 4. SD629A 5. SD111C1 6. SD221C1 7. SD403C1
8. SD603C1 9. SD727C1 10. SD750C1 11. SD3C2 12. SD169C2 13. SD1C2 · SD2C2 14. SD54C2
15. SD214C2 16. SD61C2 · SD62C2 17. SD22C3 18. SD33C3 19. SD26C3 20. SD76C3

SK205C3



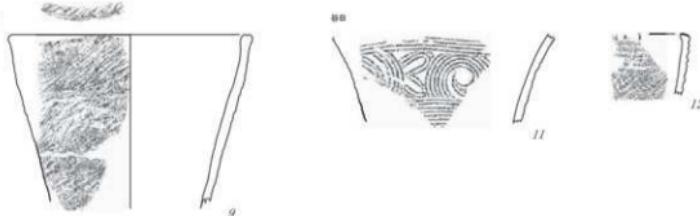
包含層



SK413C2



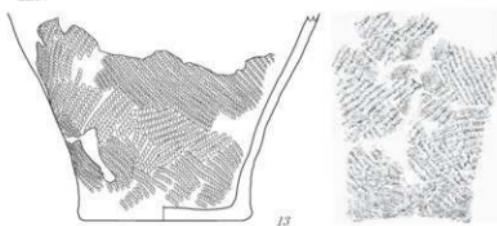
包含層



谷B

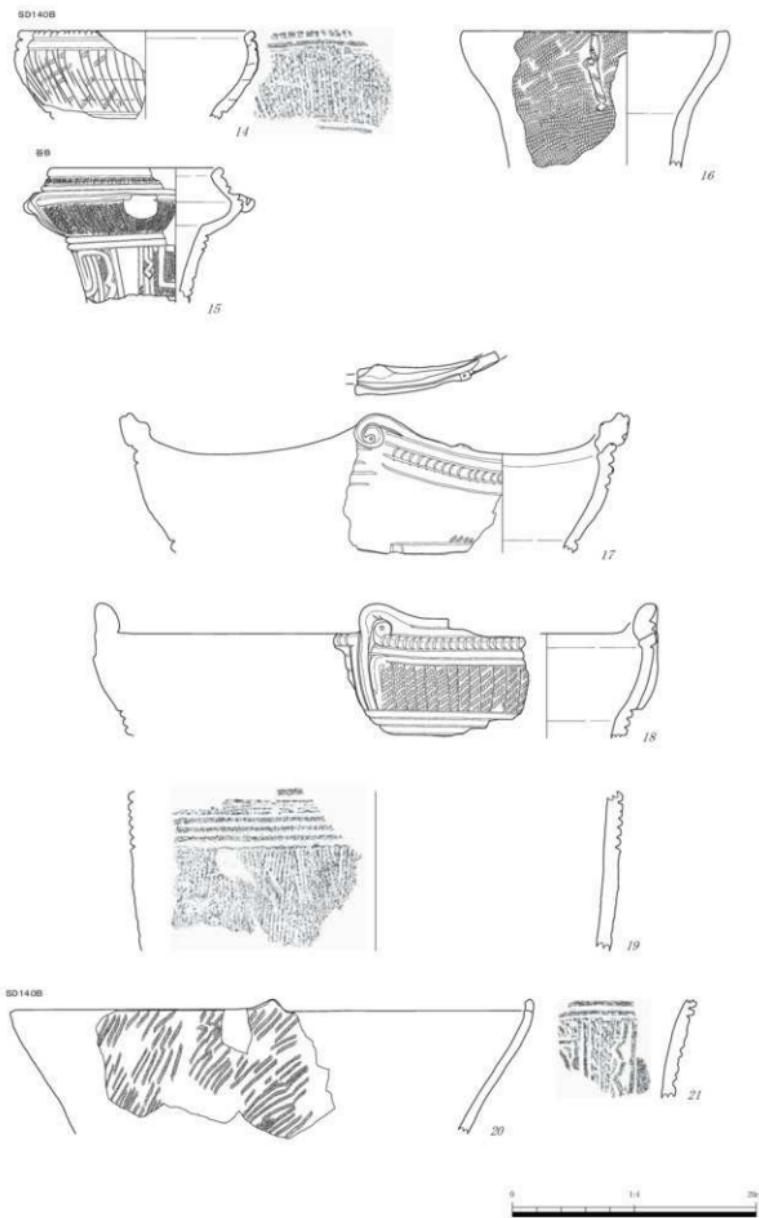


埋甕2A

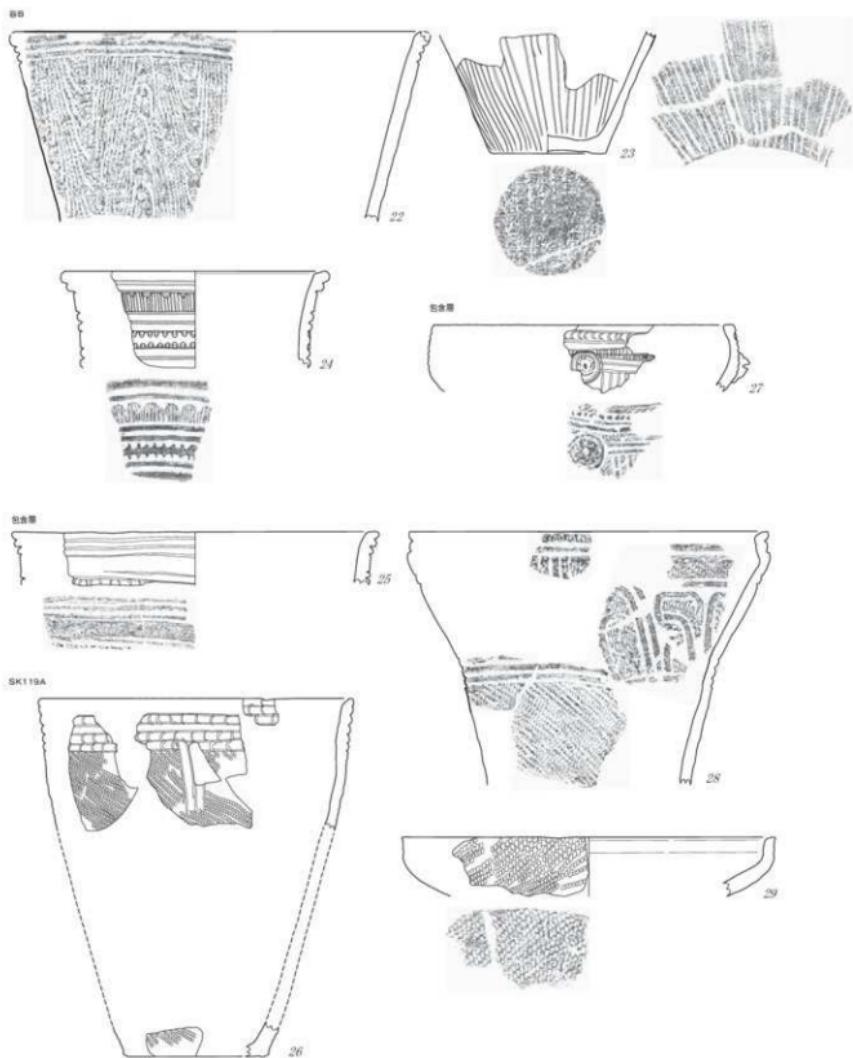


第98図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)

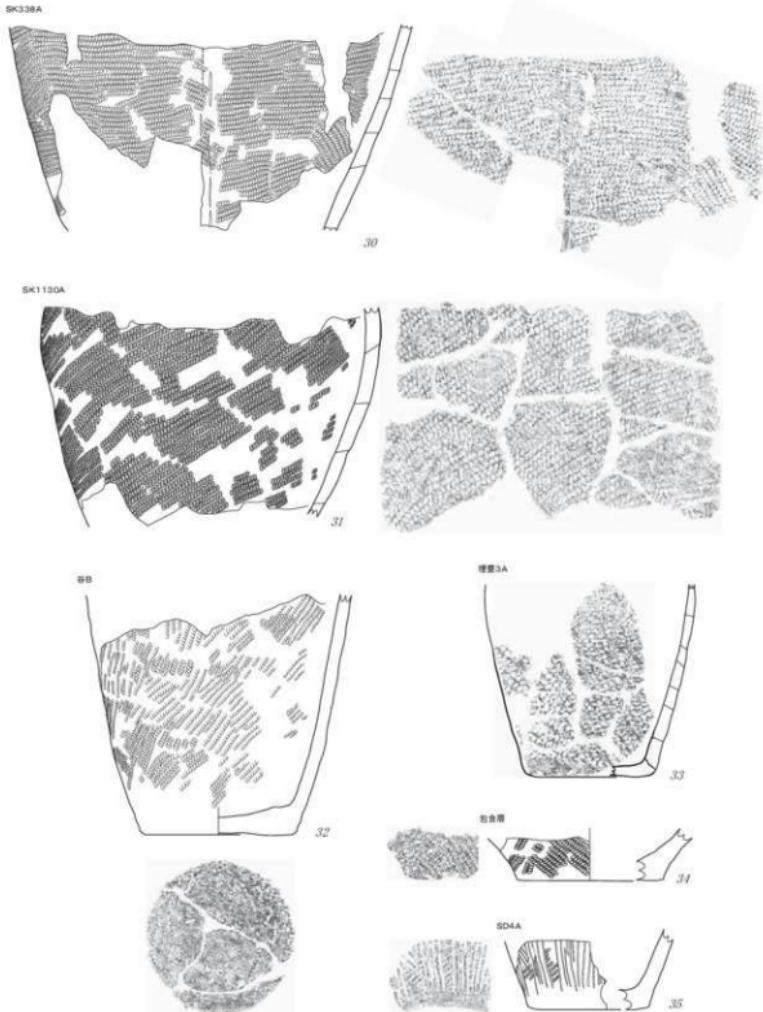
SK413C2 (8・10) SK205C3 (1・4) 埋甕2A (13) 谷B (11) 包含層



第99図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)  
SD140B (14・16・20) 谷B (15・17~19・21)



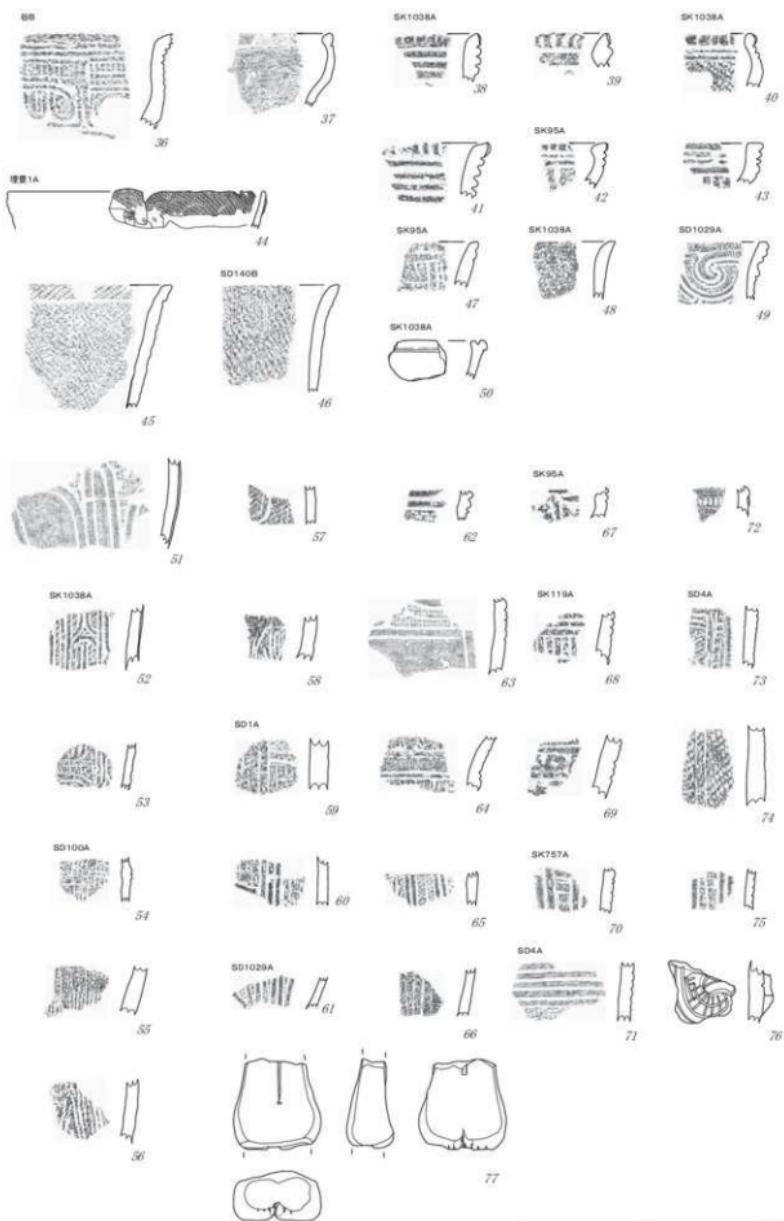
第100図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)  
SK119A (26) 谷 B (22 - 24) 包含層



第101図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)

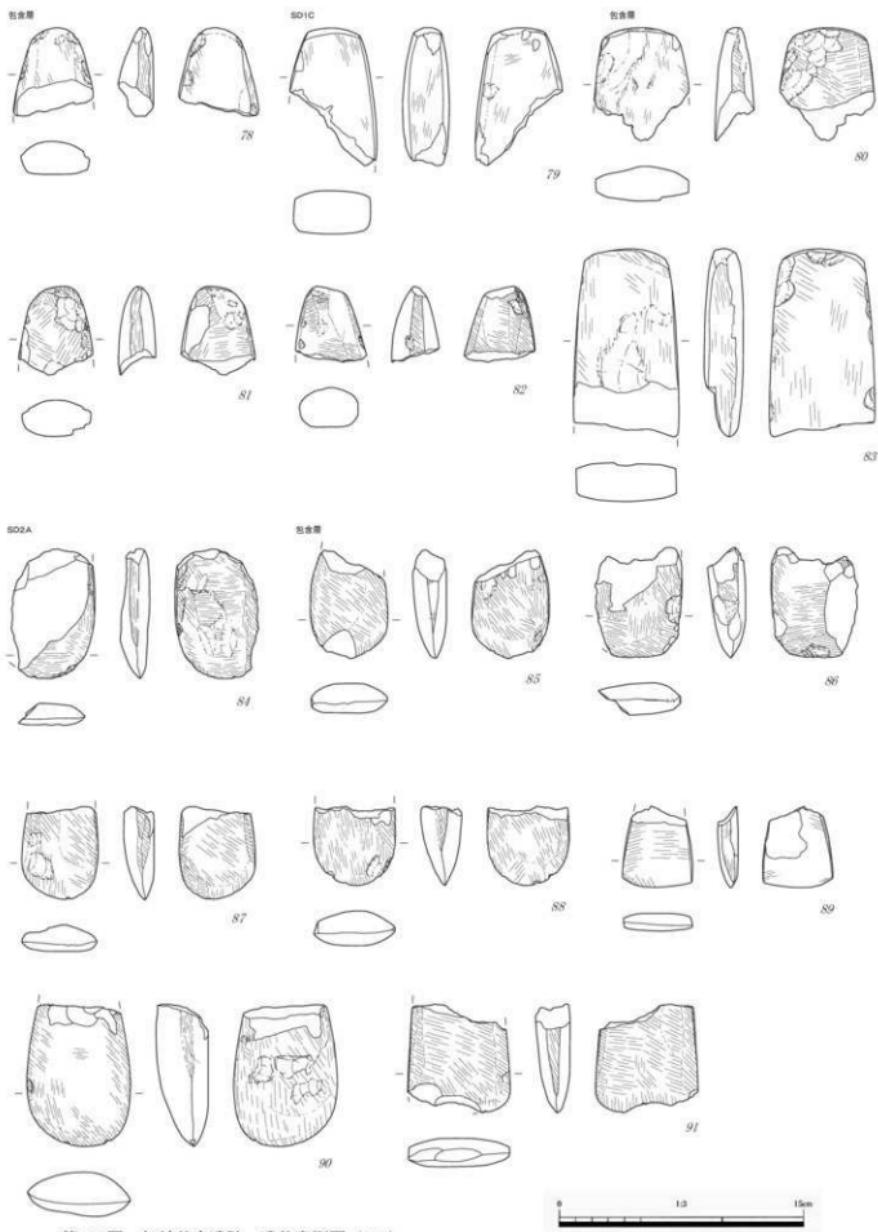
SK338A (30) SK1130A (31) SD4A (35) 墓壙3A (33) 谷B (32) 包含層



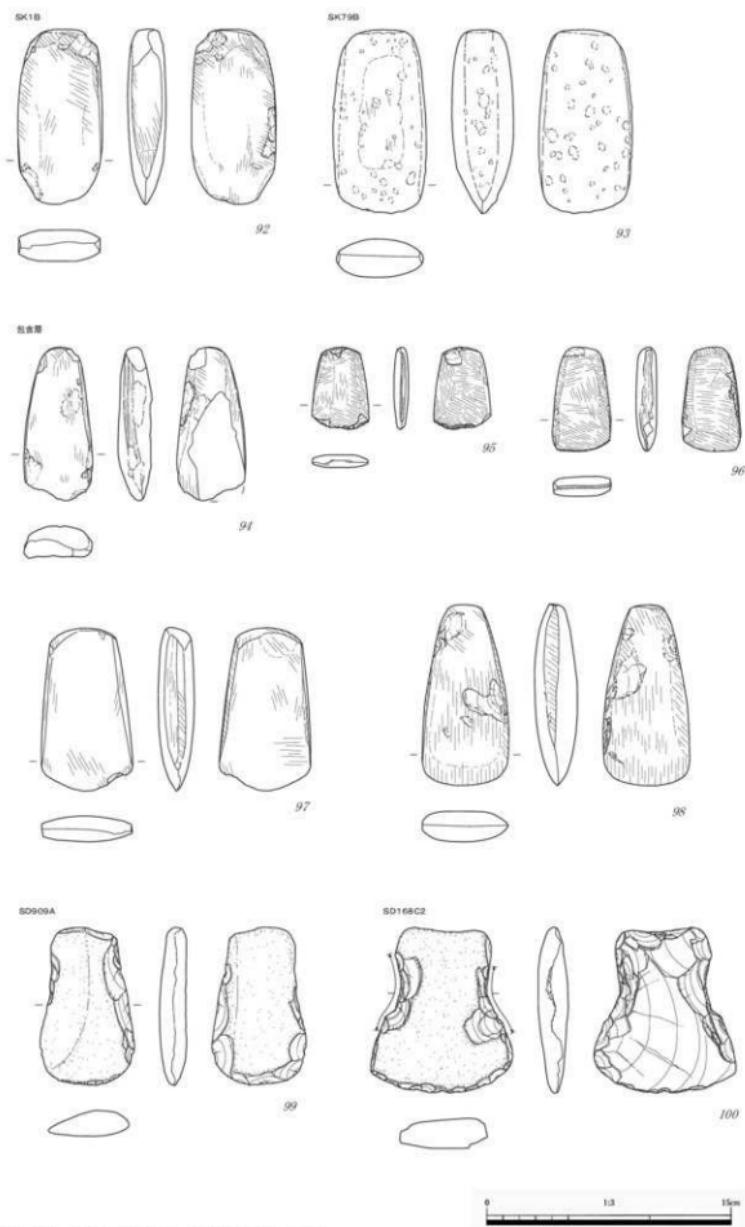


第102図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)

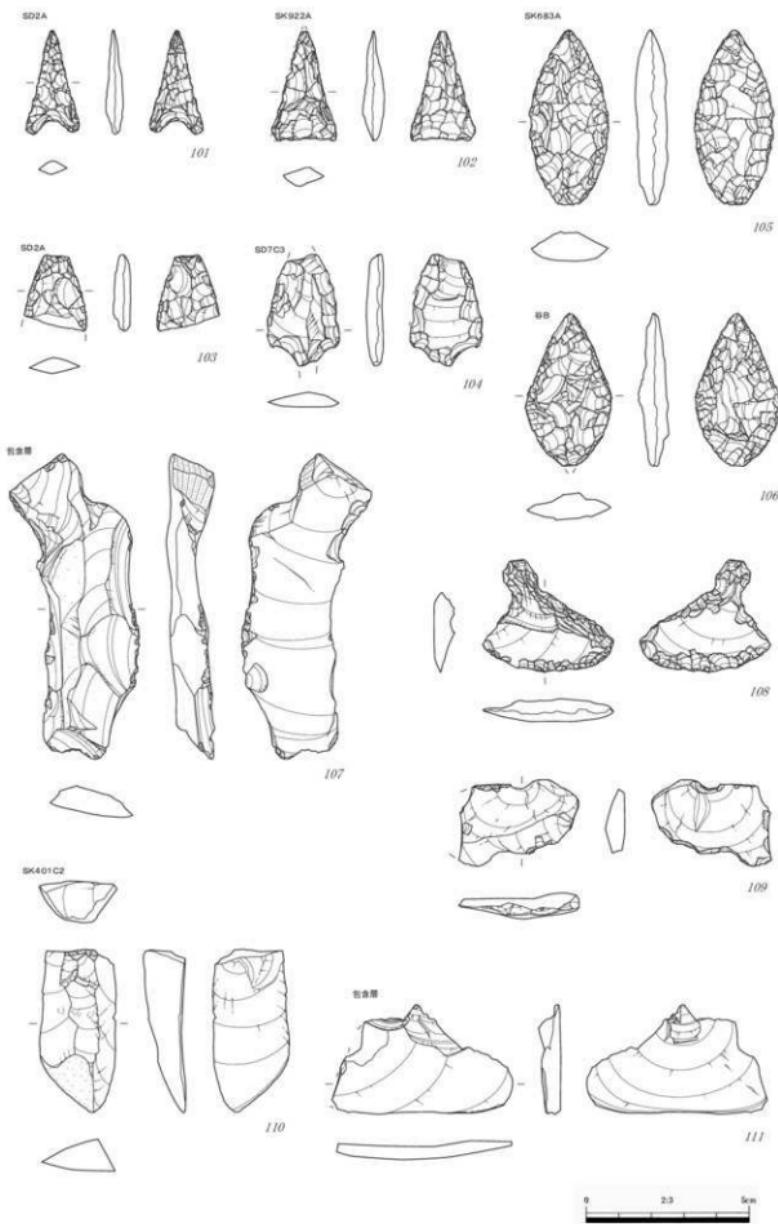
SK95A (42・47・67) SK119A (68) SK757A (70) SK1038A (38・40・48・50・52) SD1A (59)  
SD4A (71・73) SD100A (54) SD1029A (49・61) SD140B (46) 埋甕1A (44) 谷B (36) 包含層



第103図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/3)  
SD2A (84) SD1C3 (79) 包含層



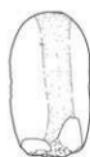
第104図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/3)  
 SK1B (92) SK79B (93) SD909A (99) SD168C2 (100) 包含層



第105図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (2/3)

SK683A (105) SK922A (102) SK401C2 (110) SD2A (101・103) SD7C3 (104) 谷B (106)  
包含層

包含層



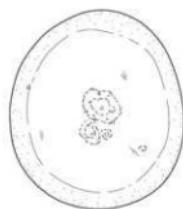
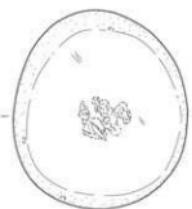
112



113



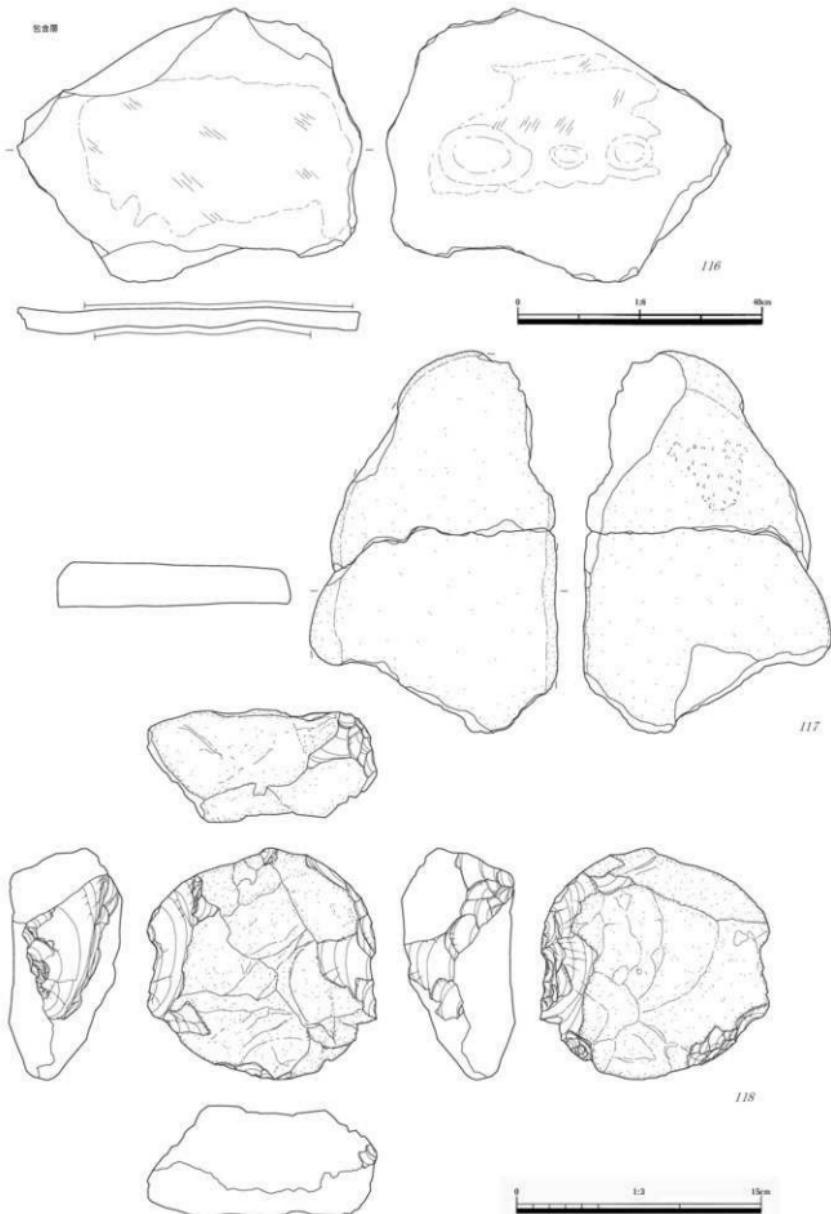
114



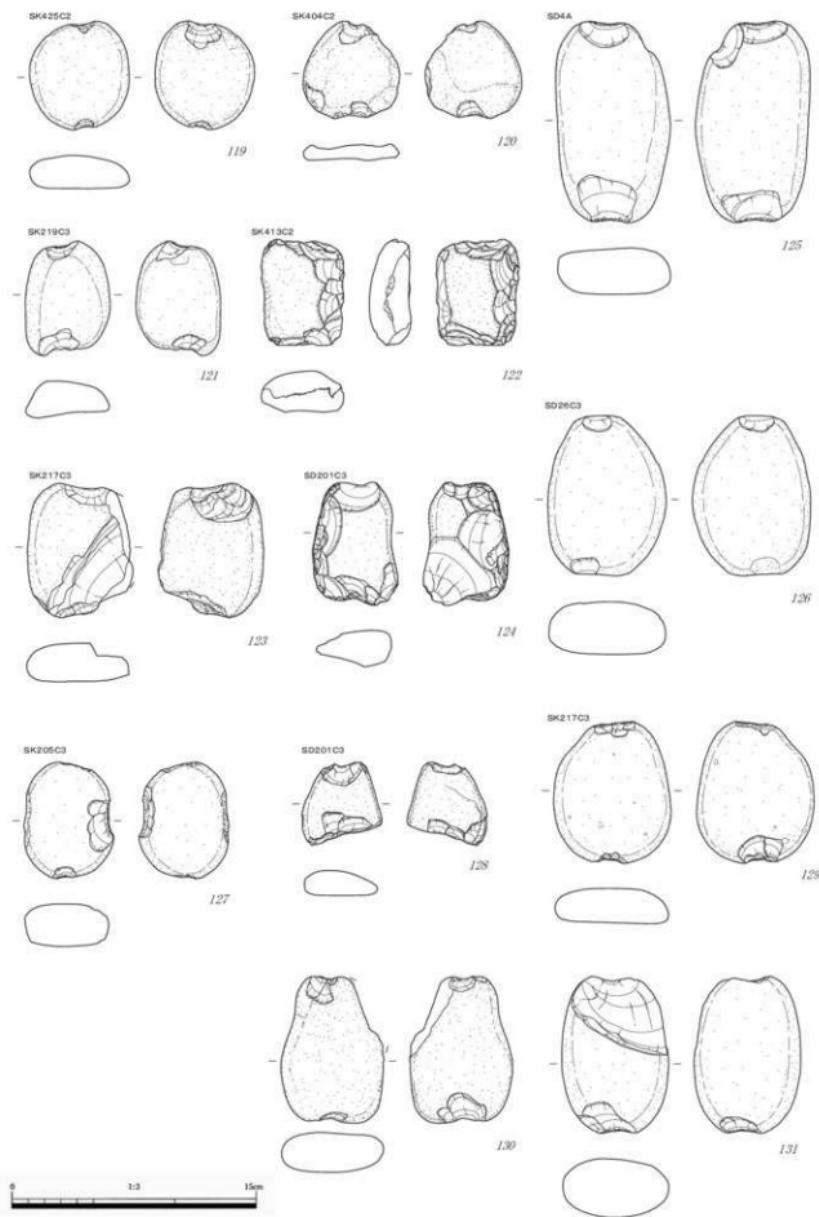
115



第106図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/3)  
包含層

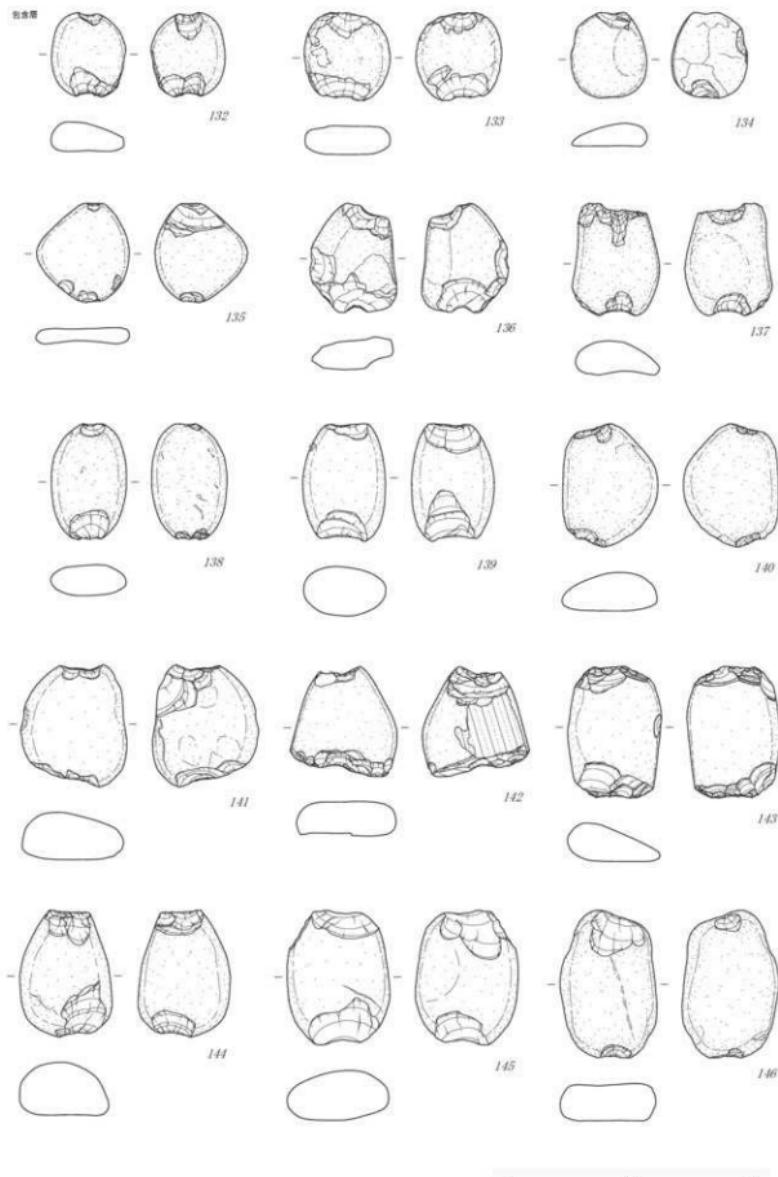


第107図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (117・118 1/3, 116 1/8)  
包含層



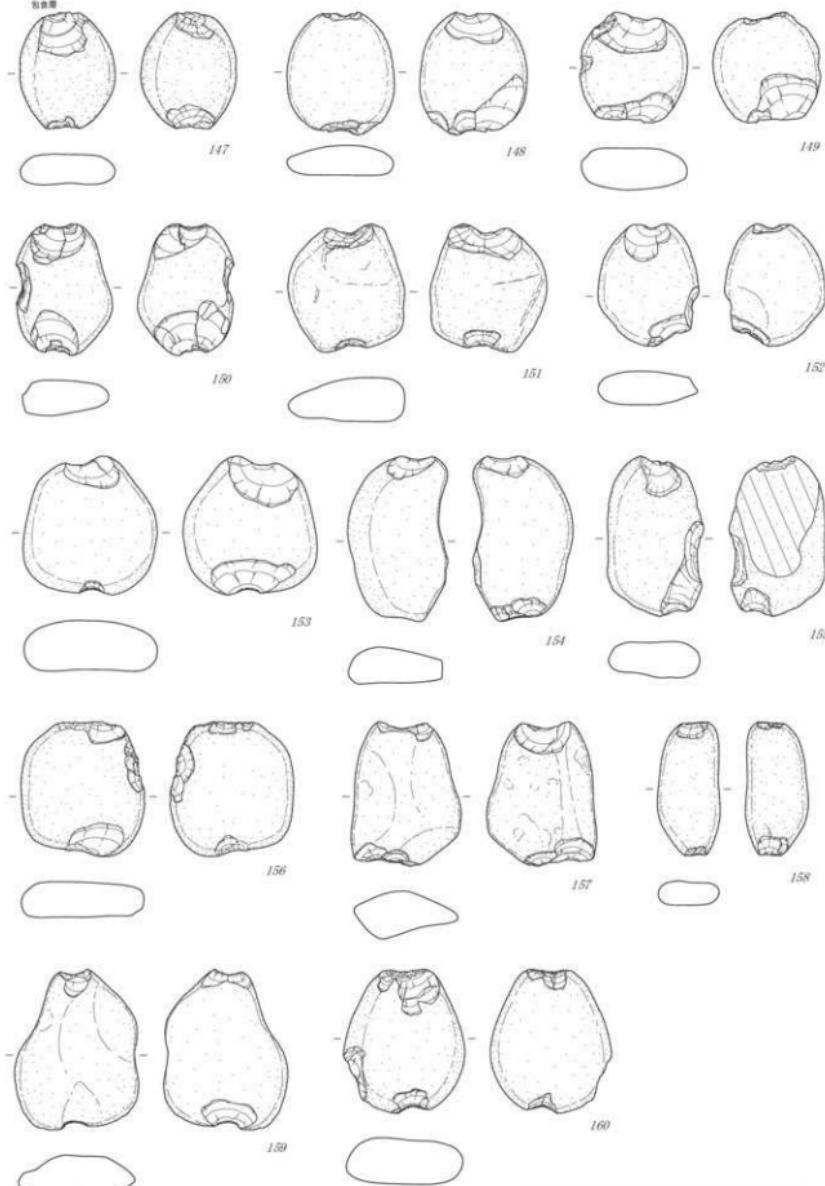
第108図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/3)

SK40IC2 (120) SK413C2 (122) SK425C2 (119) SK205C3 (127) SK217C3 (123・129～131)  
SK219C3 (121) SD4A (125) SD26C3 (126) SD201C3 (124・128)



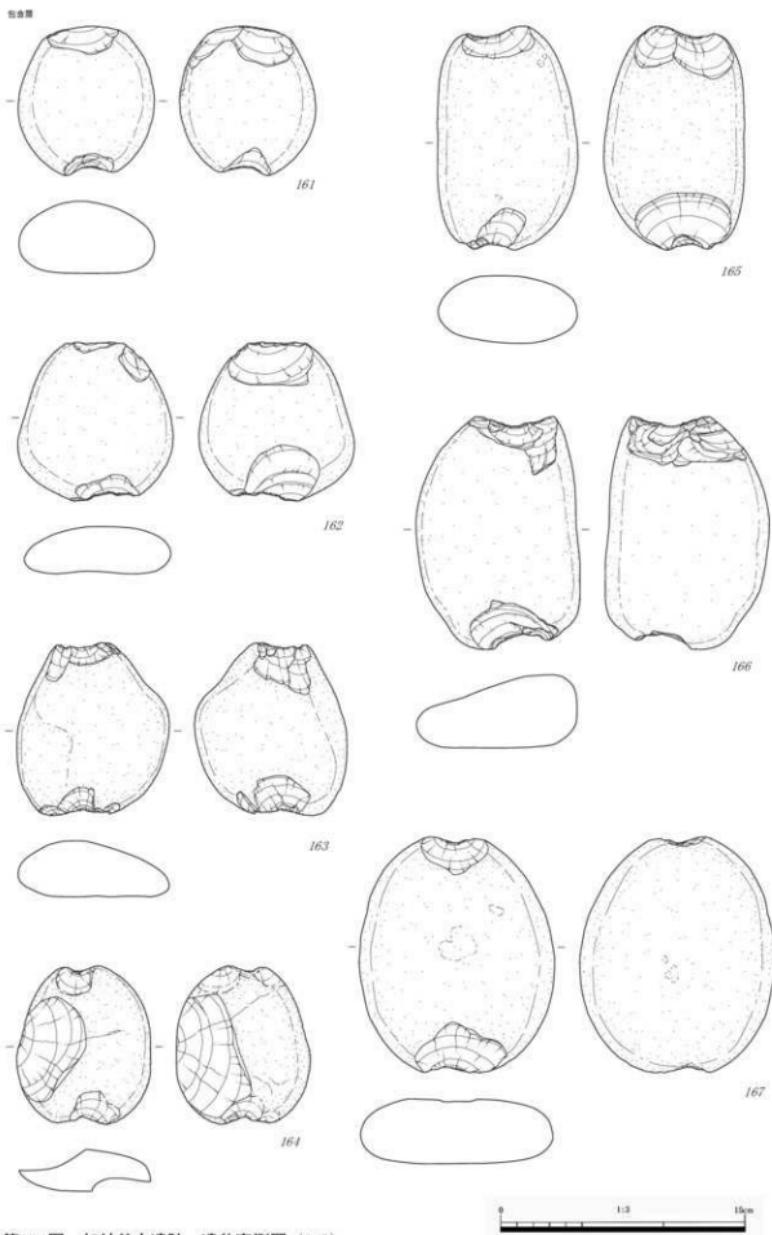
第109図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/3)  
包含層



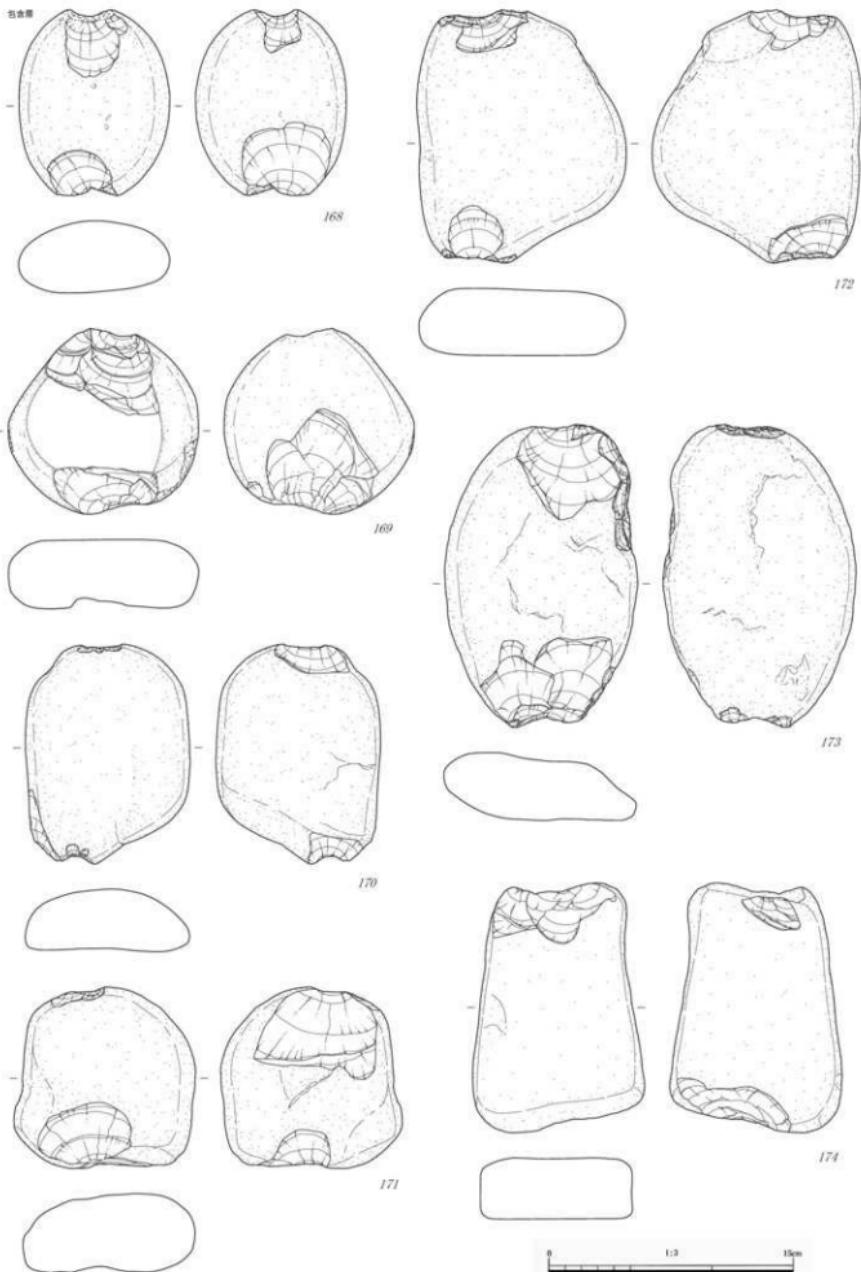


第110図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/3)  
包含層

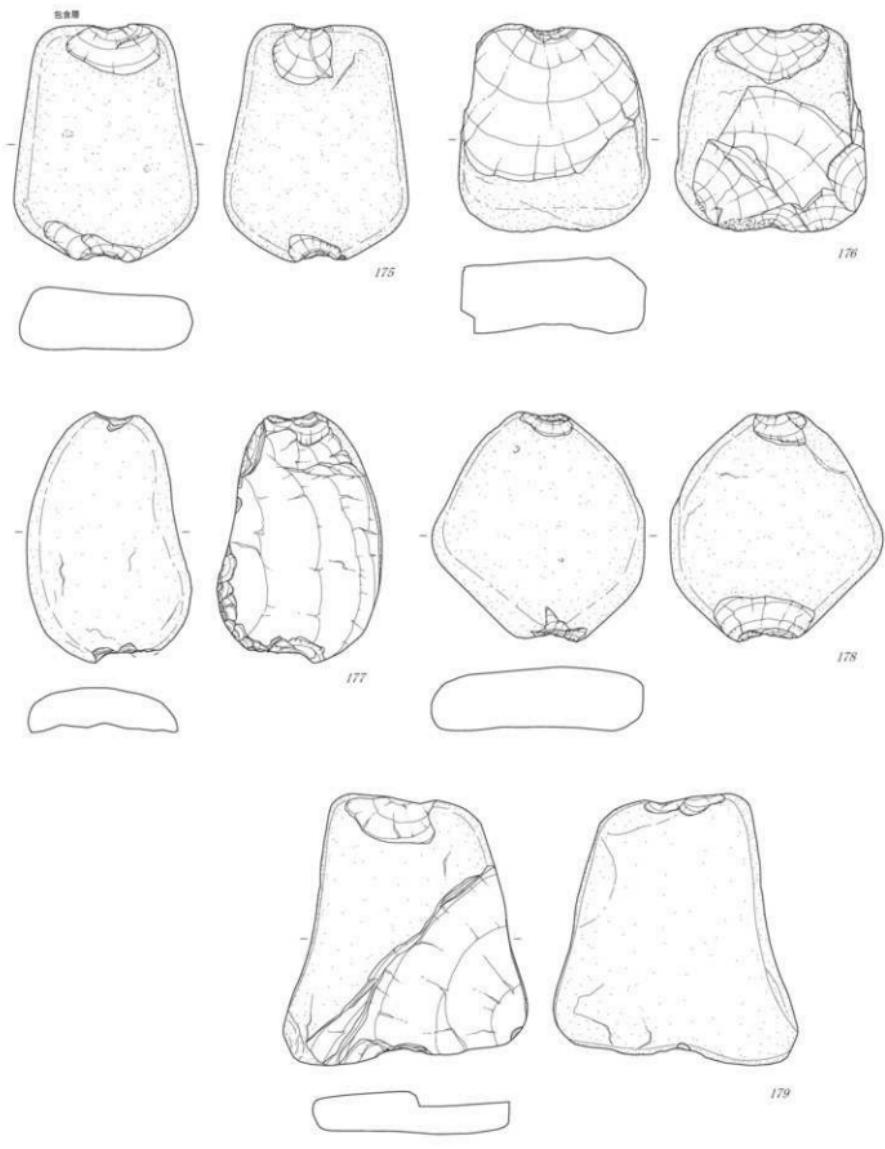




第111図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/3)  
包含層



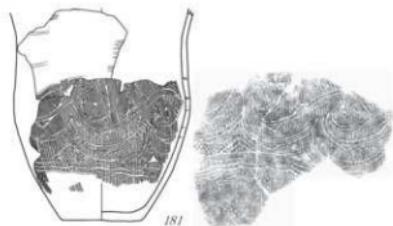
第112図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/3)  
包含層



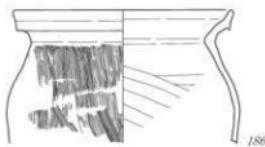
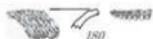
第113図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/3)  
包含層



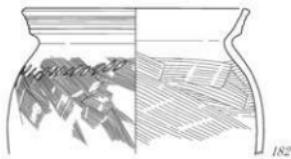
SD77C1



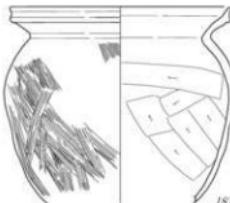
SX726C1



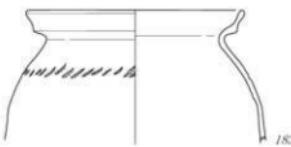
188



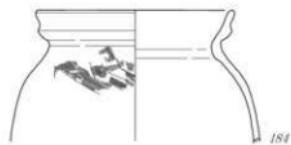
182



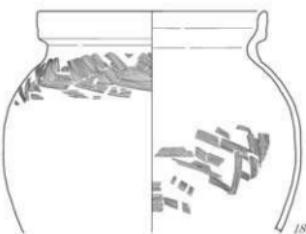
187



183



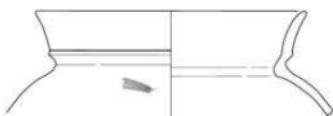
184



188



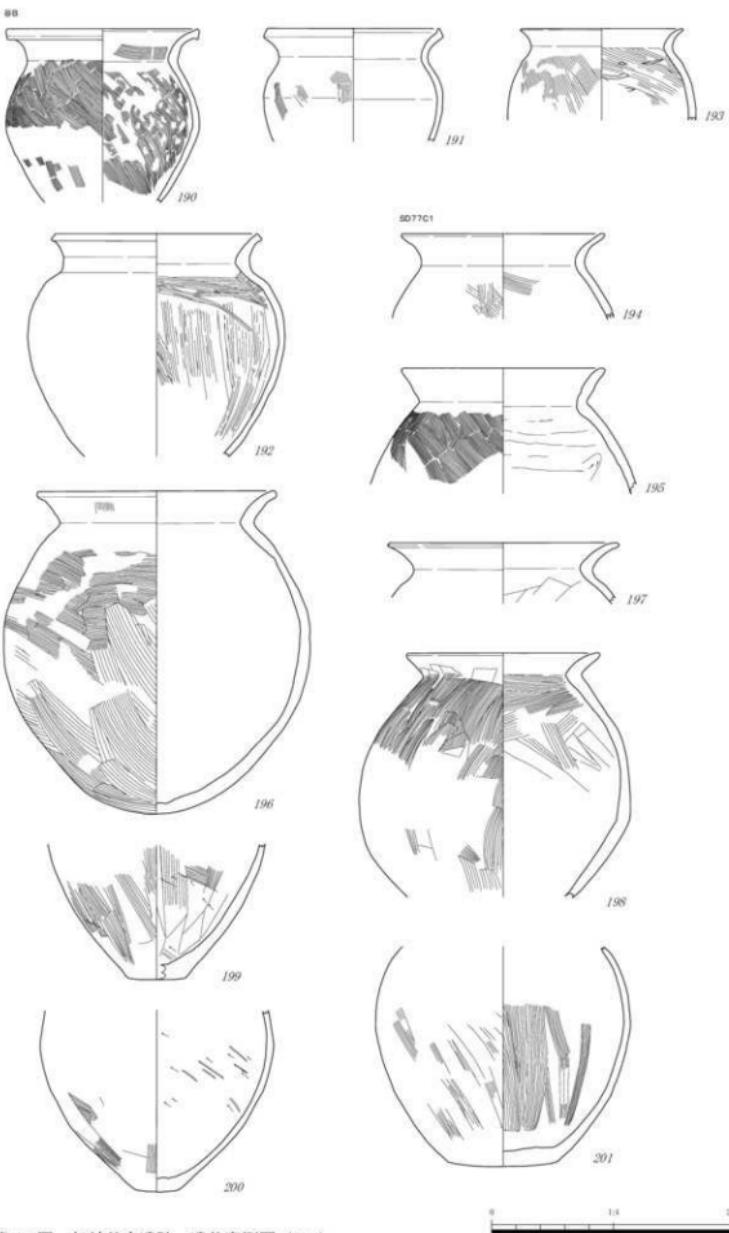
185



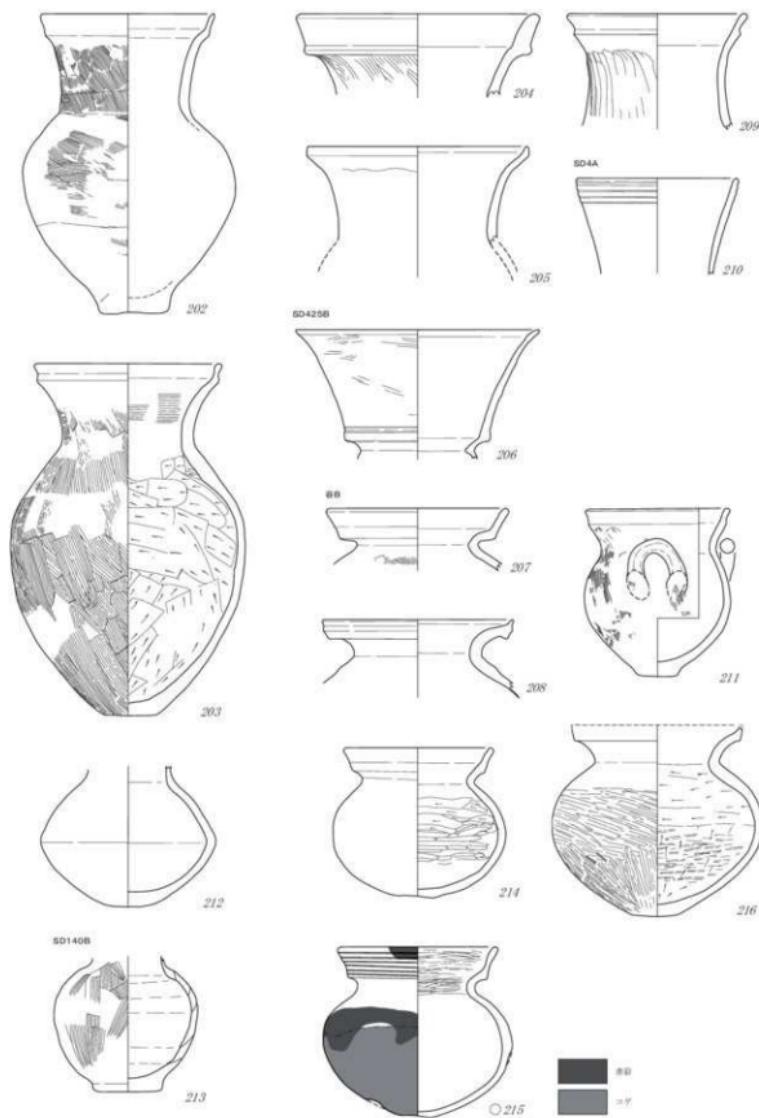
189



第114図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)  
SX726C1 (180) SD77C1 (181) 谷B (182~189)



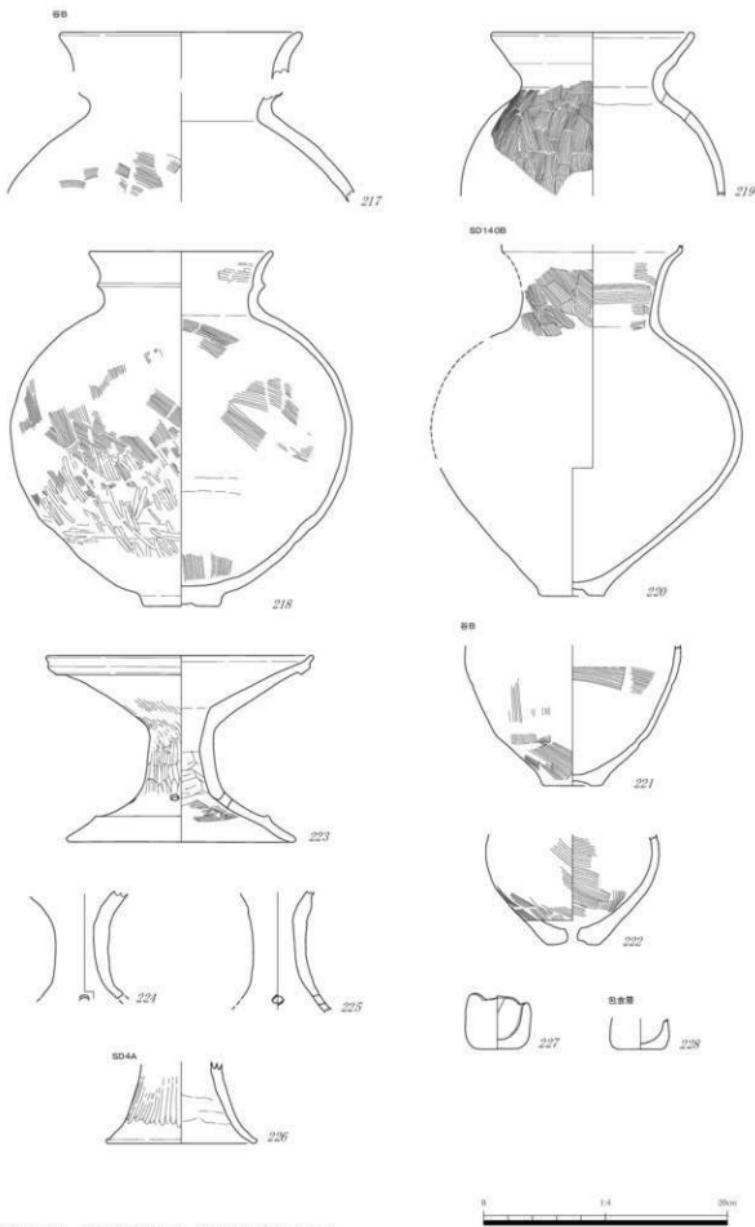
第115図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)  
SD77C1 (194) 谷B (190~193・195~201)



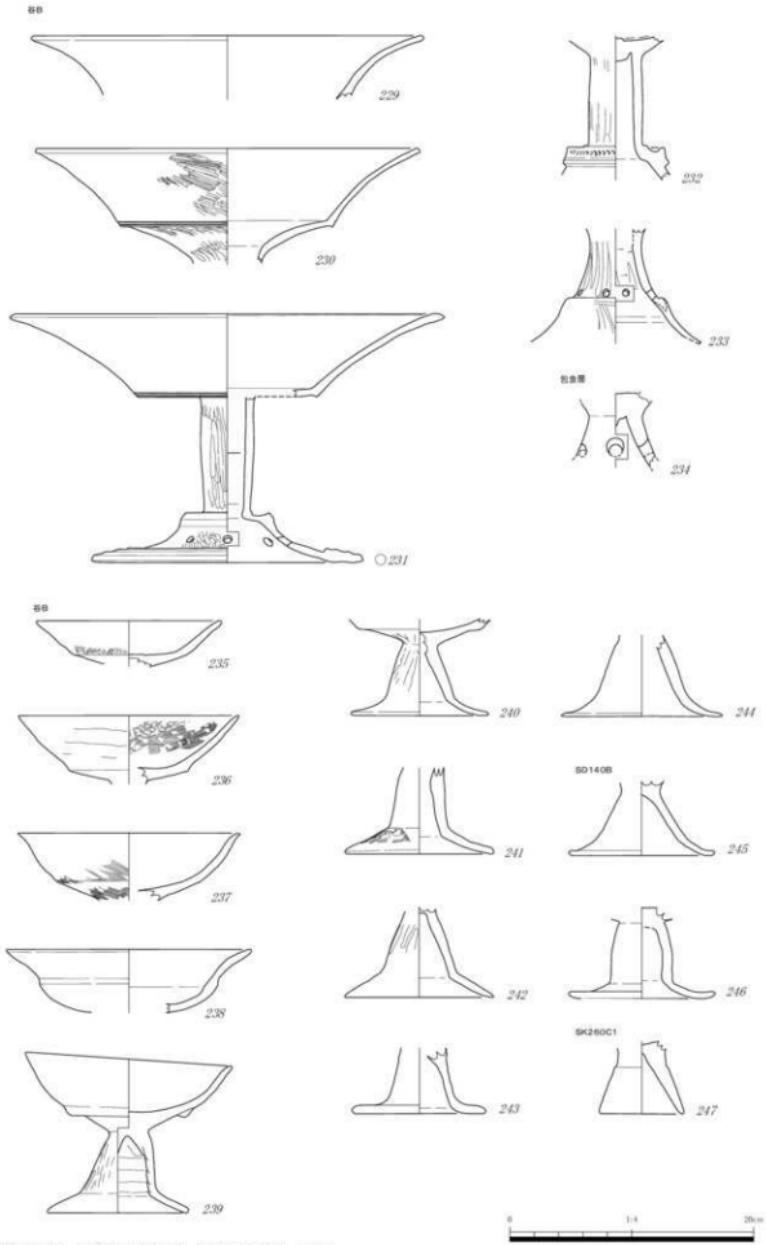
第116図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)

SD4A (210) SD140B (213) SD425B (206) 谷B (202 ~ 205 · 207 ~ 209 · 211 · 212 · 214 ~ 216)

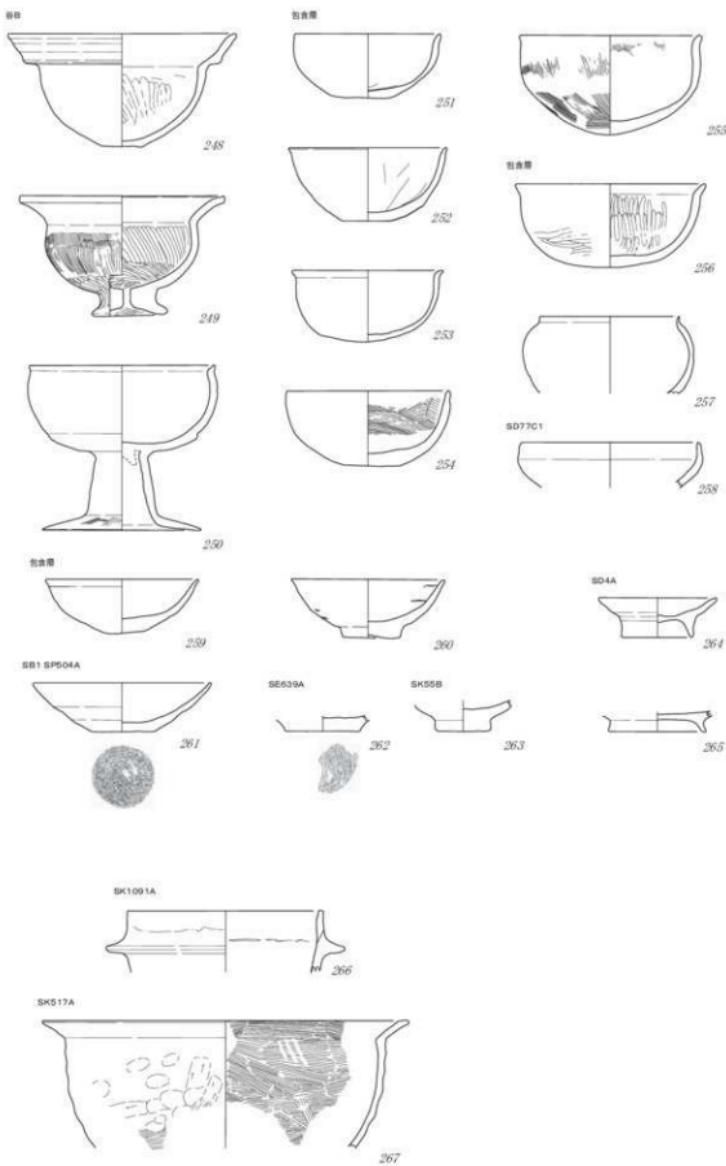




第117図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)  
SD4A (226) SD140B (220) 谷B (217~219・221~225・227) 包含層

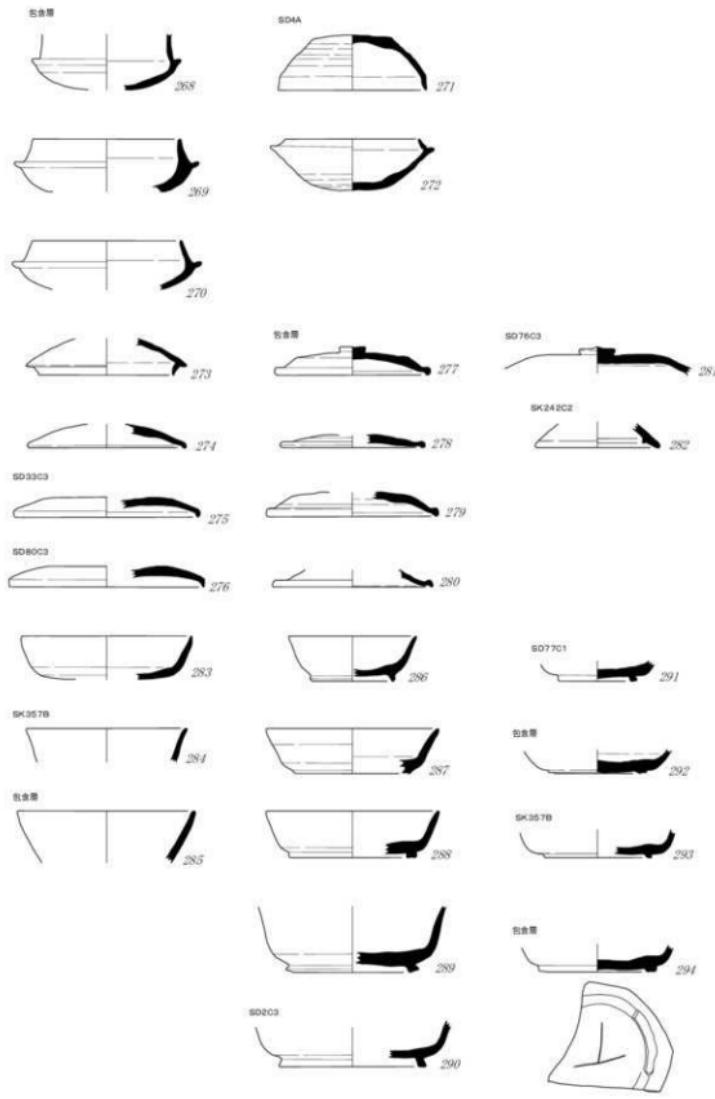


第118図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)  
SK260C1 (247) SD140B (245) 谷 B (229 ~ 233・235 ~ 244・246) 包含層



第119図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)

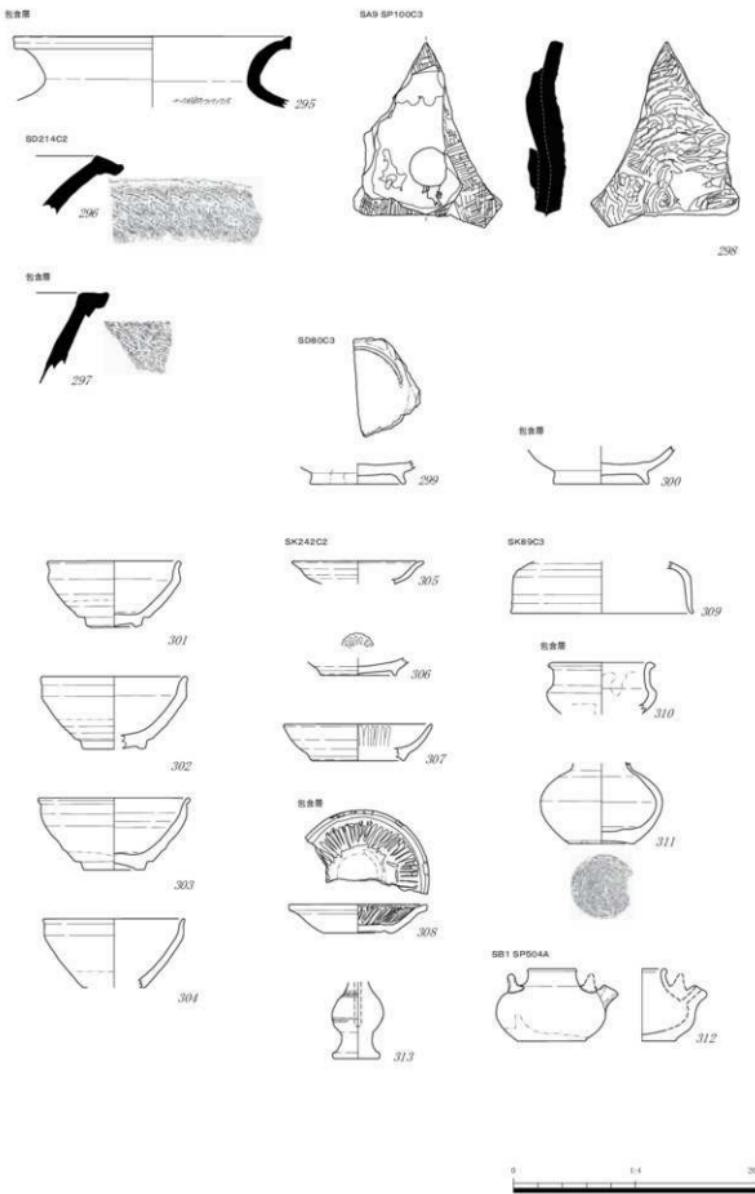
SB1 SP504A (261) SE639A (262) SK1091A (266) SK517A (267) SK55B (263)  
SD4A (264・265) SD77C1 (258) 谷 B (248 ~ 257・259・260) 包含層



0 14 28cm

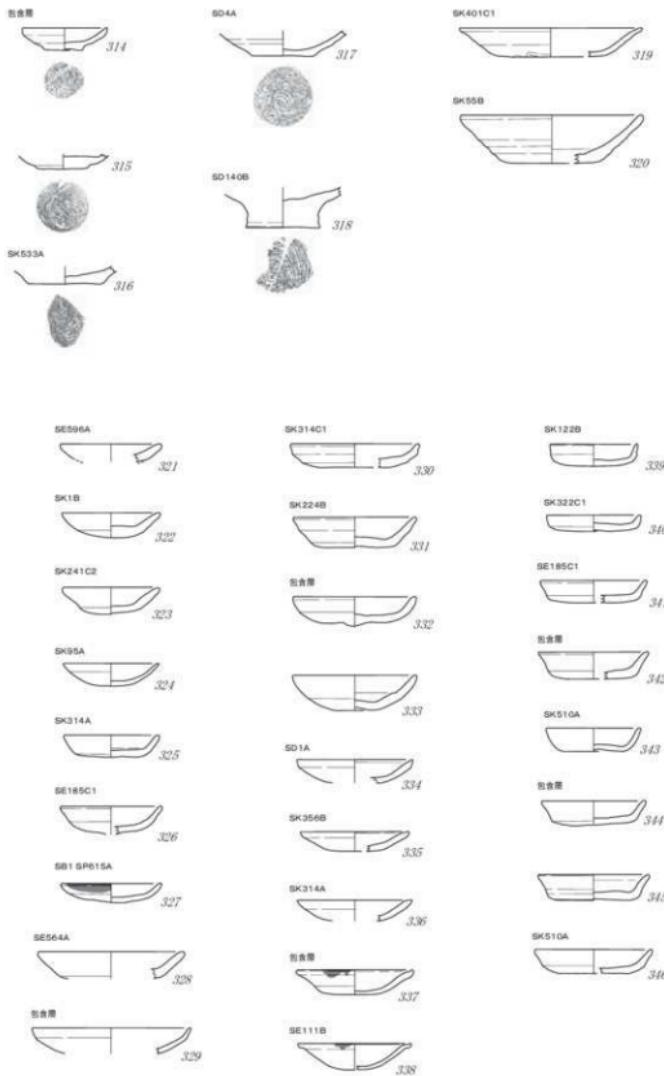
第120図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)

SK357B (284-293) SK242C2 (282) SD4A (271-272) SD77C1 (291) SD2C3 (290) SD33C3 (275)  
SD76C3 (281) SD80C3 (276) 包含層



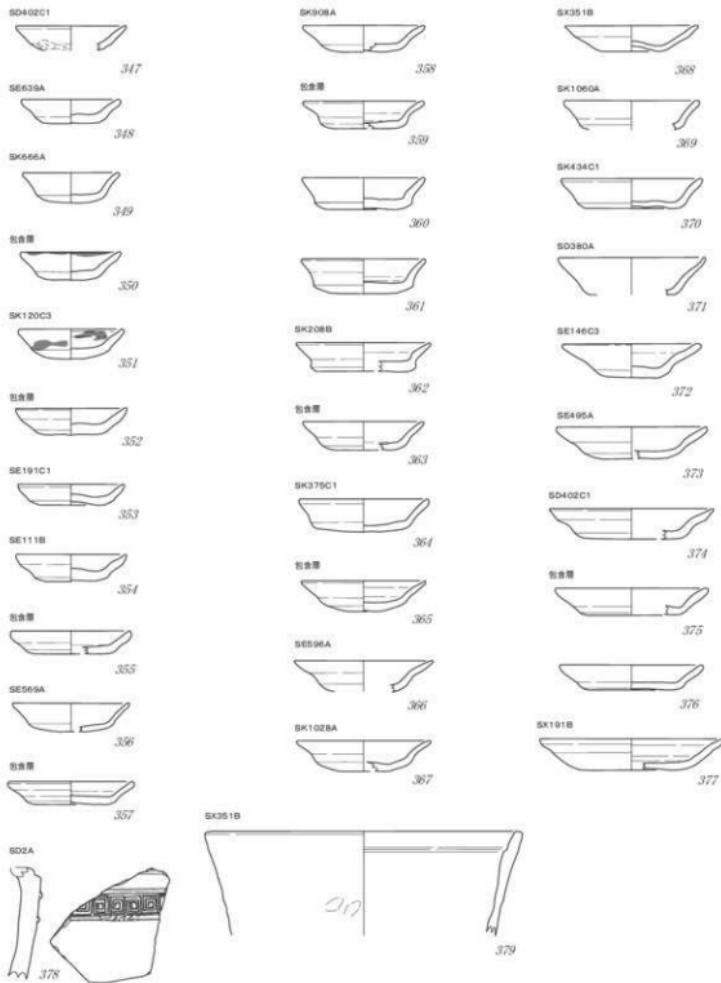
第121図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)

SB1 SP504A (312) SA9 SP100C3 (298) SK242C2 (305 ~ 307) SK89C3 (309) SD214C2 (296)  
SD80C3 (299) 包含層



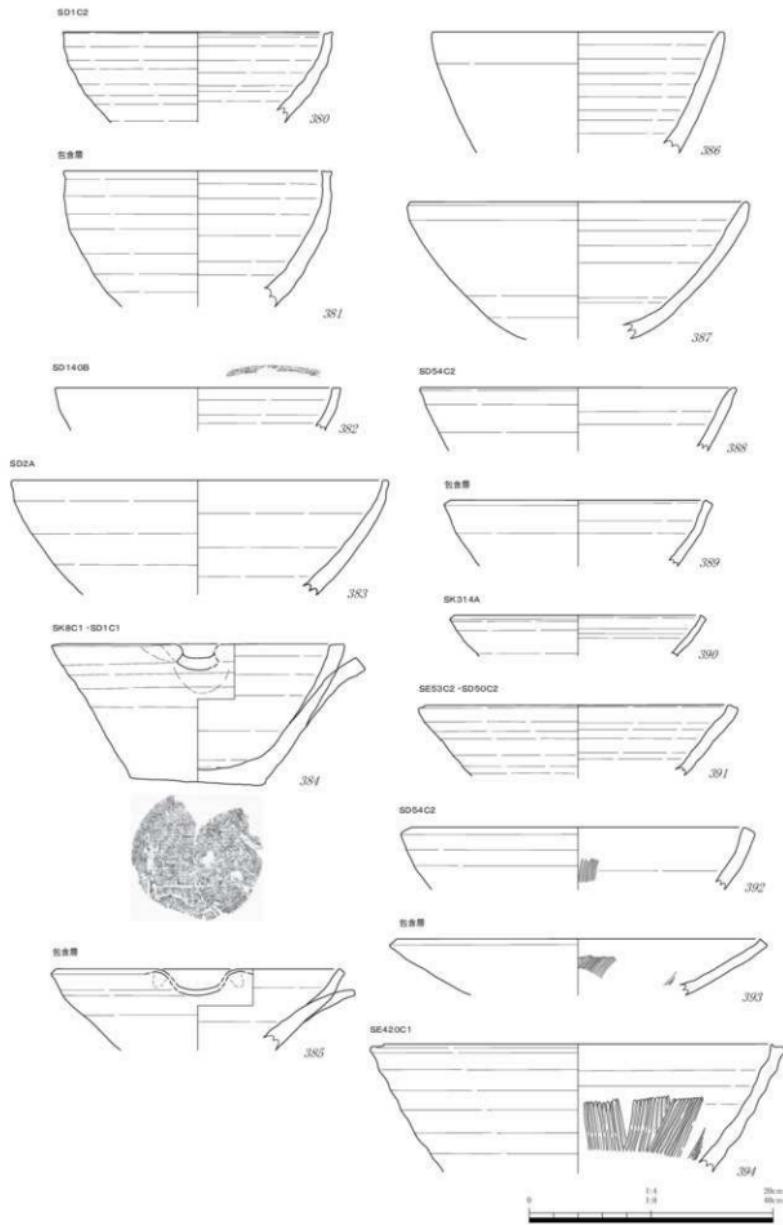
第122図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)

SB1 SP615A (327) SE564A (328) SE596A (321) SE111B (338) SE185C1 (326-341) SK95A (324)  
 SK314A (325-336) SK510A (343-346) SK533A (316) SK1B (322) SK55B (320) SK122B (339)  
 SK224B (331) SK356B (335) SK314C1 (330) SK322C1 (340) SK401C1 (319)  
 SK241C2 (323) SD1A (334) SD4A (317) SD140B (318) 包含層  
 SE185C1 (342) SK510A (343) SK314A (345) SK510A (346)



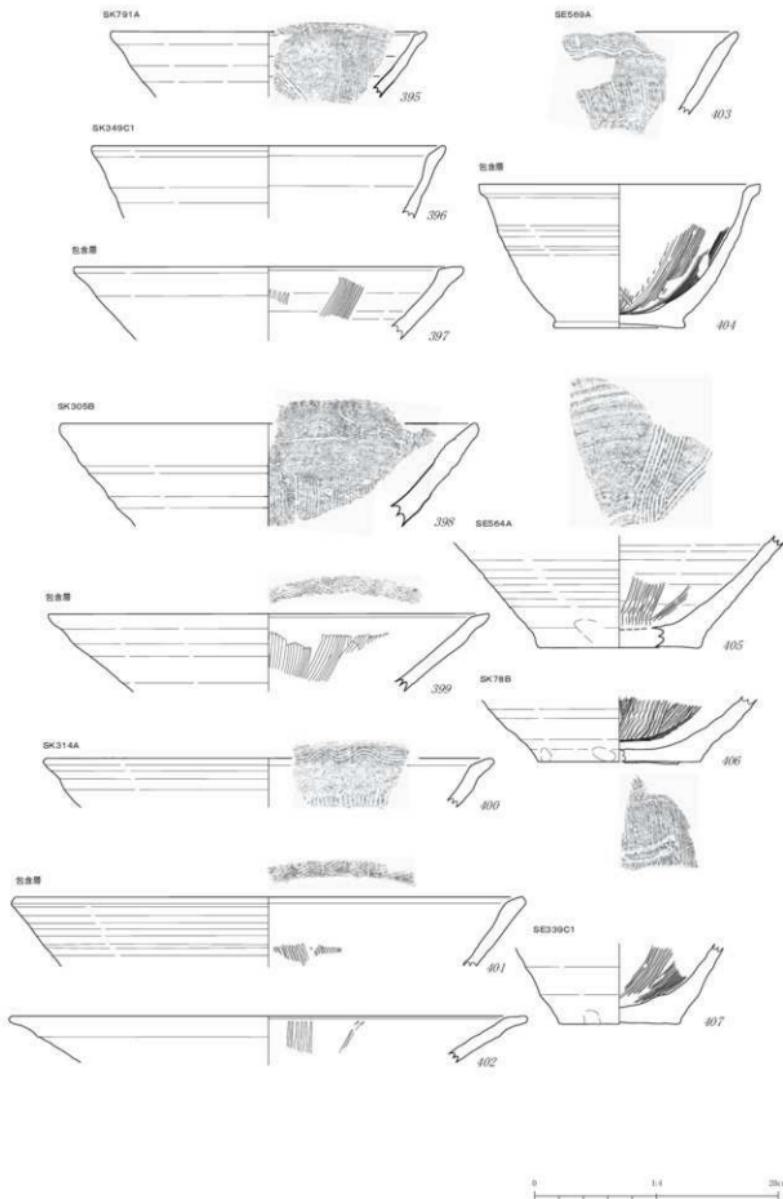
第123図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)

SE495A (373) SE569A (356) SE596A (366) SE639A (348) SE111B (354) SE191C1 (353)  
 SE146C3 (372) SX191B (377) SX351B (368・379) SK666A (349) SK908A (358) SK1028A (367)  
 SK1060A (369) SK208B (362) SK375C1 (364) SK434C1 (370) SK120C3 (351) SD2A (378)  
 SD380A (371) SD402C1 (347・374) 包含層



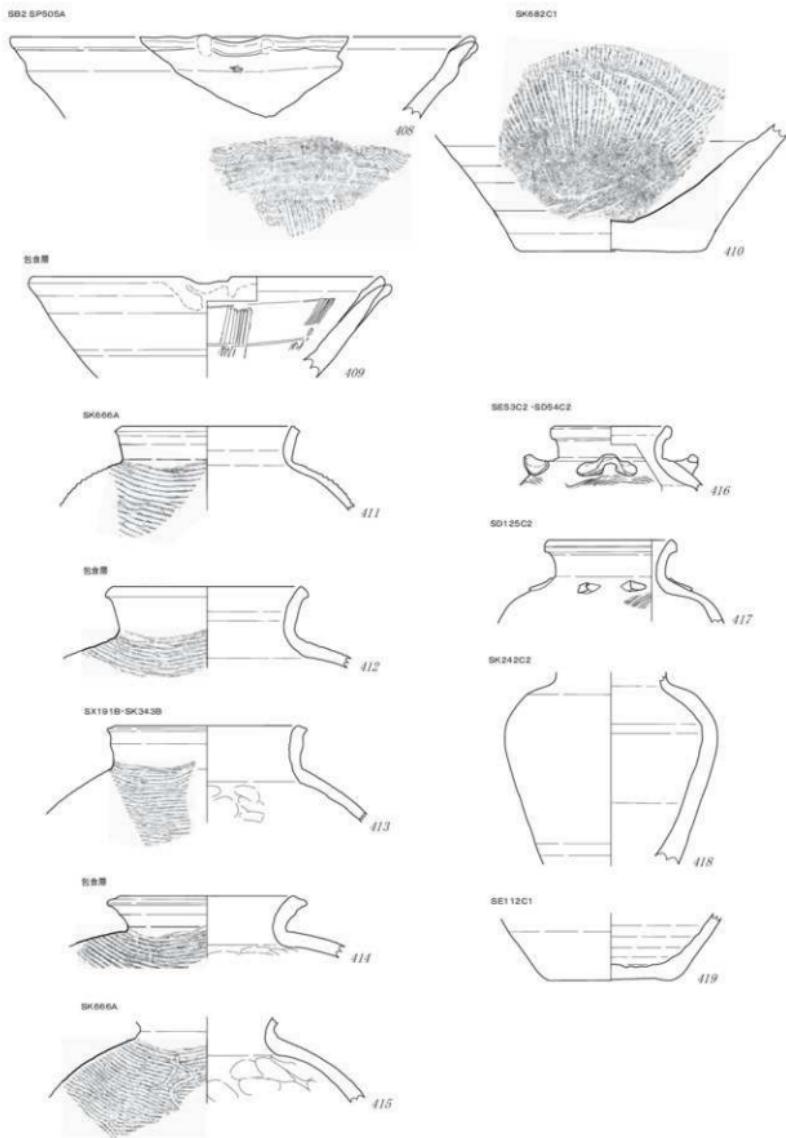
第124図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (380~389・391~394 1/4, 390 1/8)

SE420C1 (394) SE53C2・SD50C2 (391) SK314A (390) SK8C1・SD1C1 (384) SD2A (383)  
 SD140B (382) SD1C2 (380) SD54C2 (388・392) 包含層



第125図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)

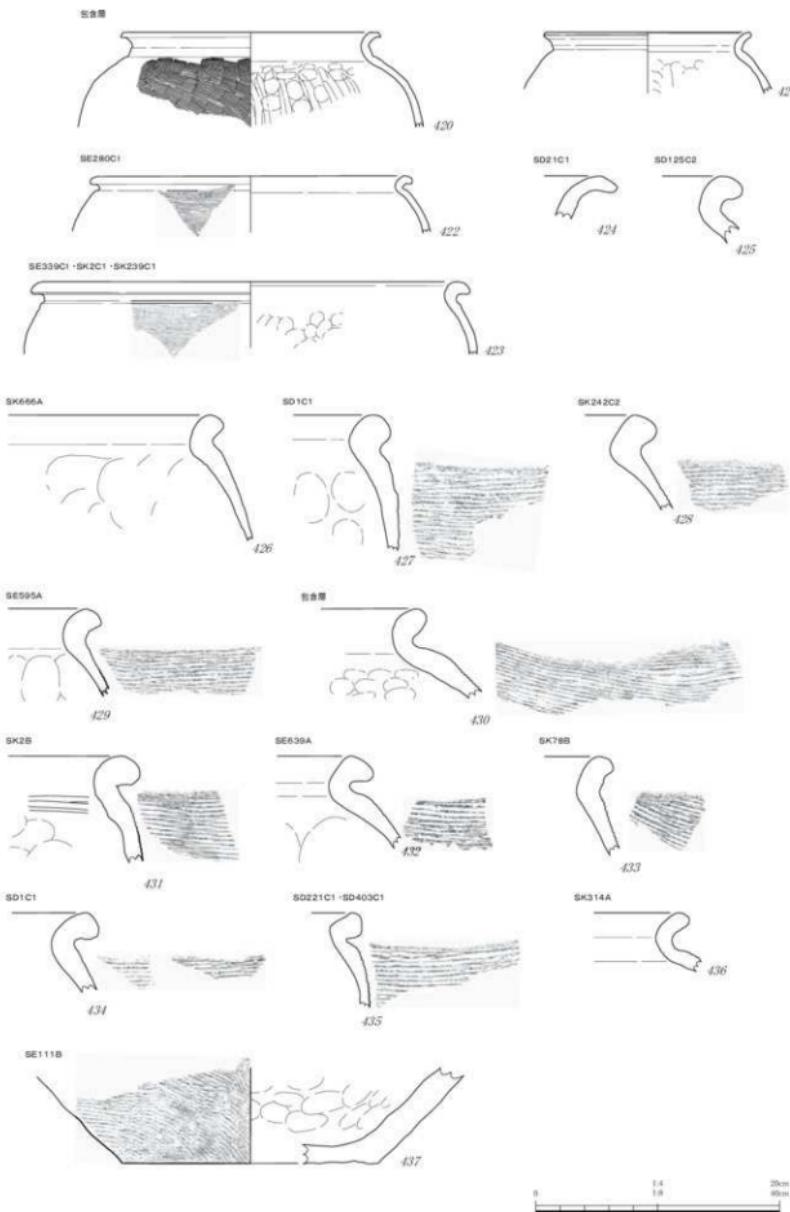
SE569A (405) SE569A (403) SE339C1 (407) SK314A (400) SK791A (395) SK78B (406)  
SK305B (398) SK349C1 (396) 包含層



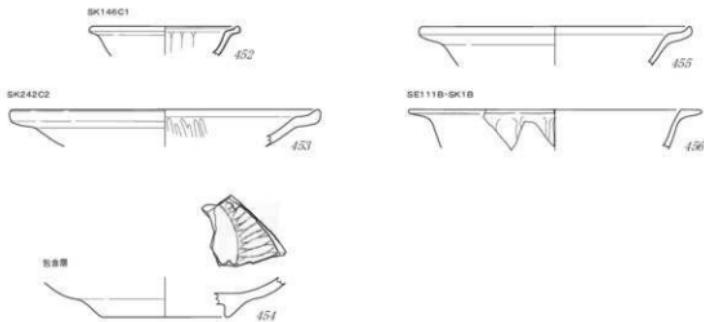
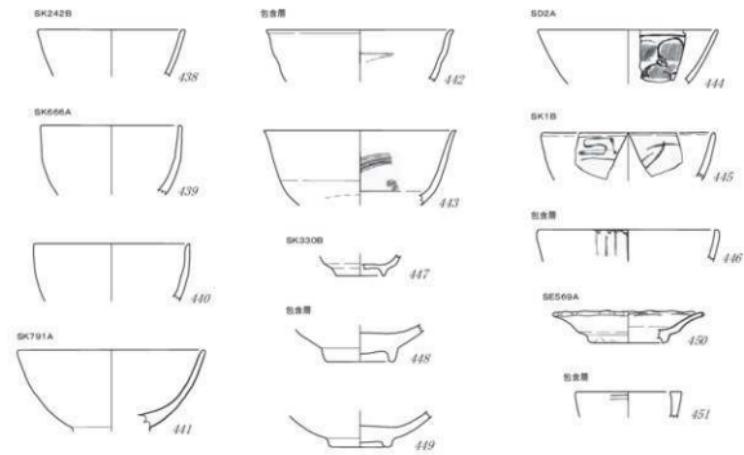
第126図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)

SB SP505A (408) SE112C1 (419) SE53C2 · SD54C2 (416) SX191B · SK343B (413)  
SK666A (411 · 415) SK682C1 (410) SK242C2 (418) SD125C2 (417) 包含層



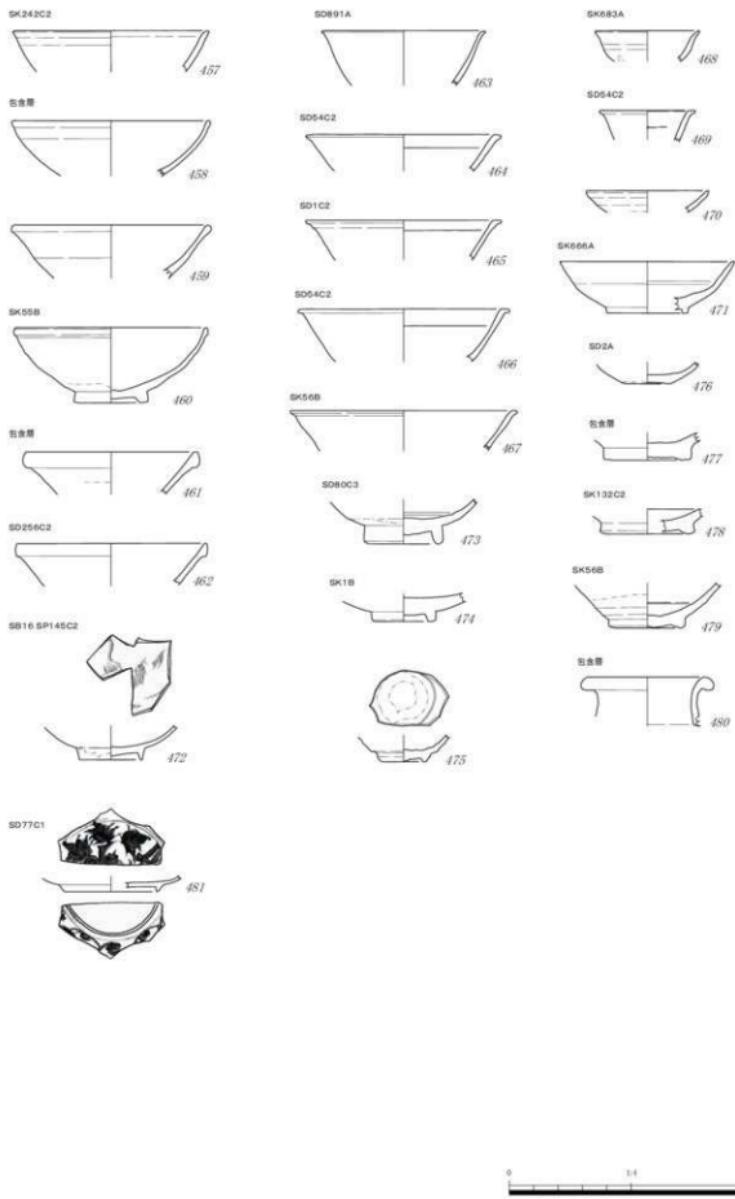


第127図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (424~437 1/4, 420~423 1/8)  
 SE595A (429) SE639A (432) SE111B (437) SE280C1 (422) SE339C1 · SK2C1 · SK239C1 (423)  
 SK314A (436) SK666A (426) SK2B (431) SK78B (433) SK242C2 (428) SD1C1 (427, 434)  
 SD221C1 (424) SD221C1 · SD403C1 (435) SD125C2 (425) 包含層



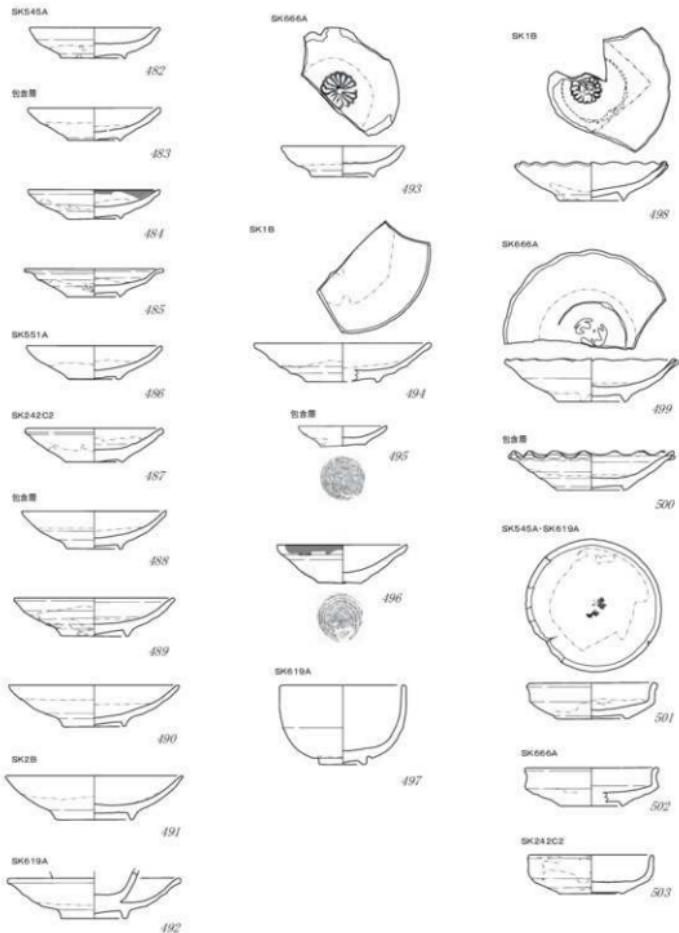
第128図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)  
 SE569A (450) SE111B-SK1B (456) SK666A (439-440) SK791A (441) SK1B (445) SK330B (447)  
 SK242B (438) SK146C1 (452) SK242C2 (453) SD2A (444) 包含層





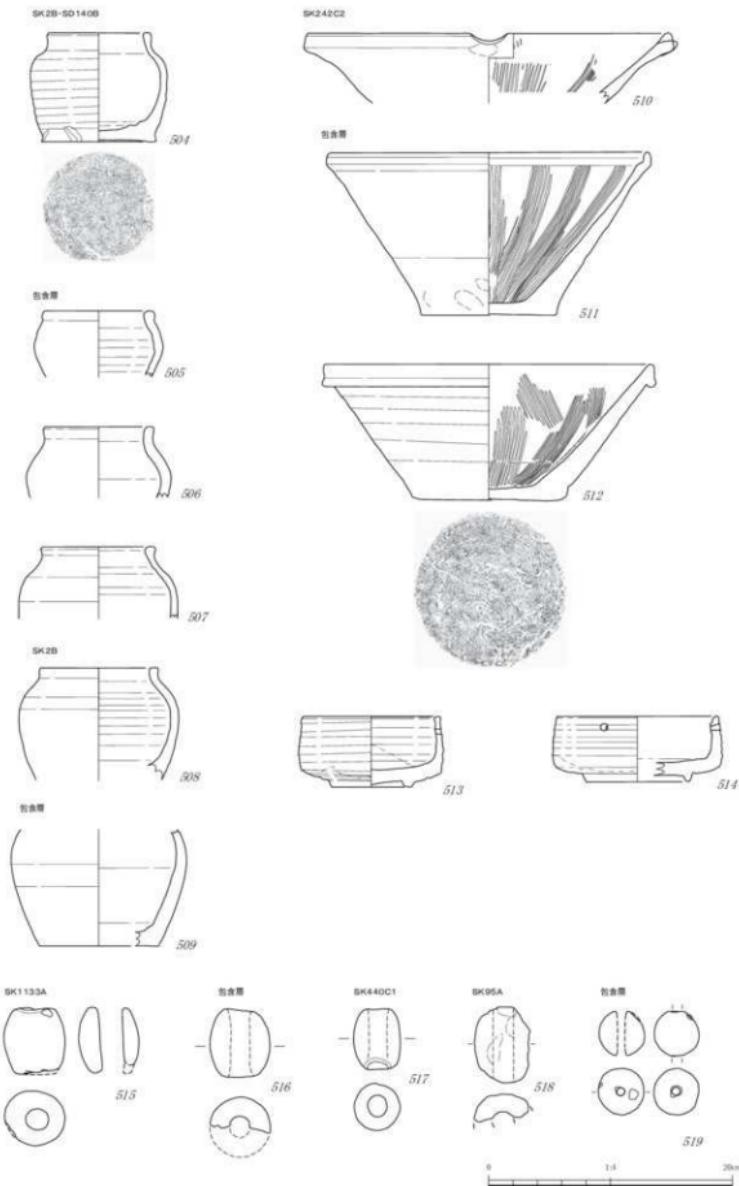
第129図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)

SB16 SP145C2 (472) SK66A (471) SK683A (468) SK1B (474 · 475) SK55B (460)  
 SK56B (467 · 479) SK132C2 (478) SK242C2 (457) SD2A (476) SD891A (463) SD77C1 (481)  
 SD1C2 (465) SD54C2 (464 · 466 · 469 · 470) SD256C2 (462) SD80C3 (473) 包含層



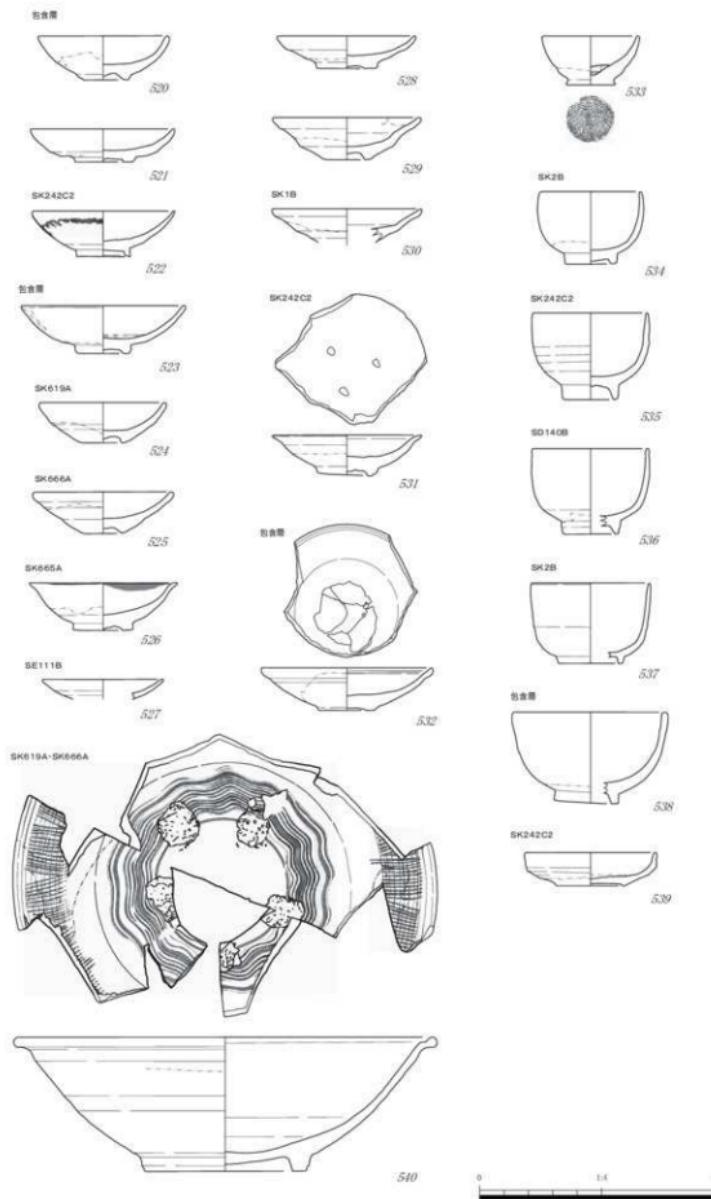
第130図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)

SK545A (482) SK545A・SK619A (501) SK551A (486) SK619A (492・497)  
SK666A (493・499・502) SK1B (494・498) SK2B (491) SK242C2 (487・503) 包含層



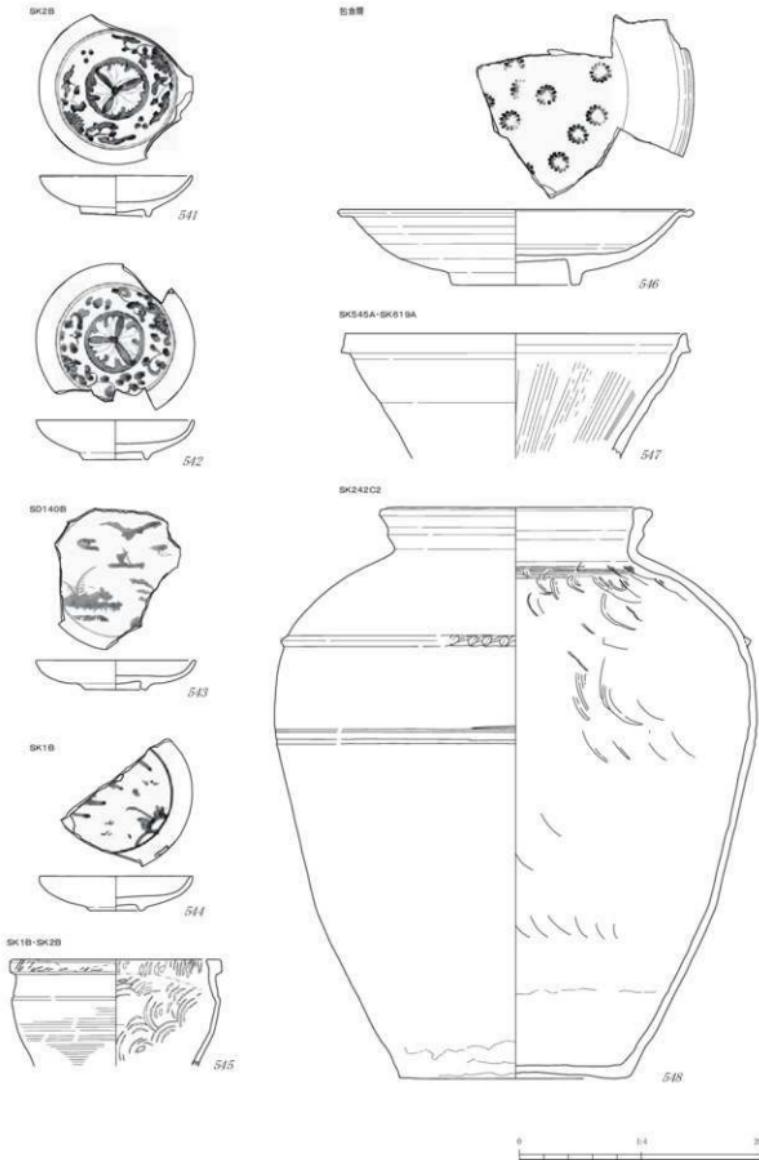
第131図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)

SK95A (518) SK1133A (515) SK2B (508) SK2B-SD140B (504) SK242C2 (510) SK440C1 (517)  
包含層



第132図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)

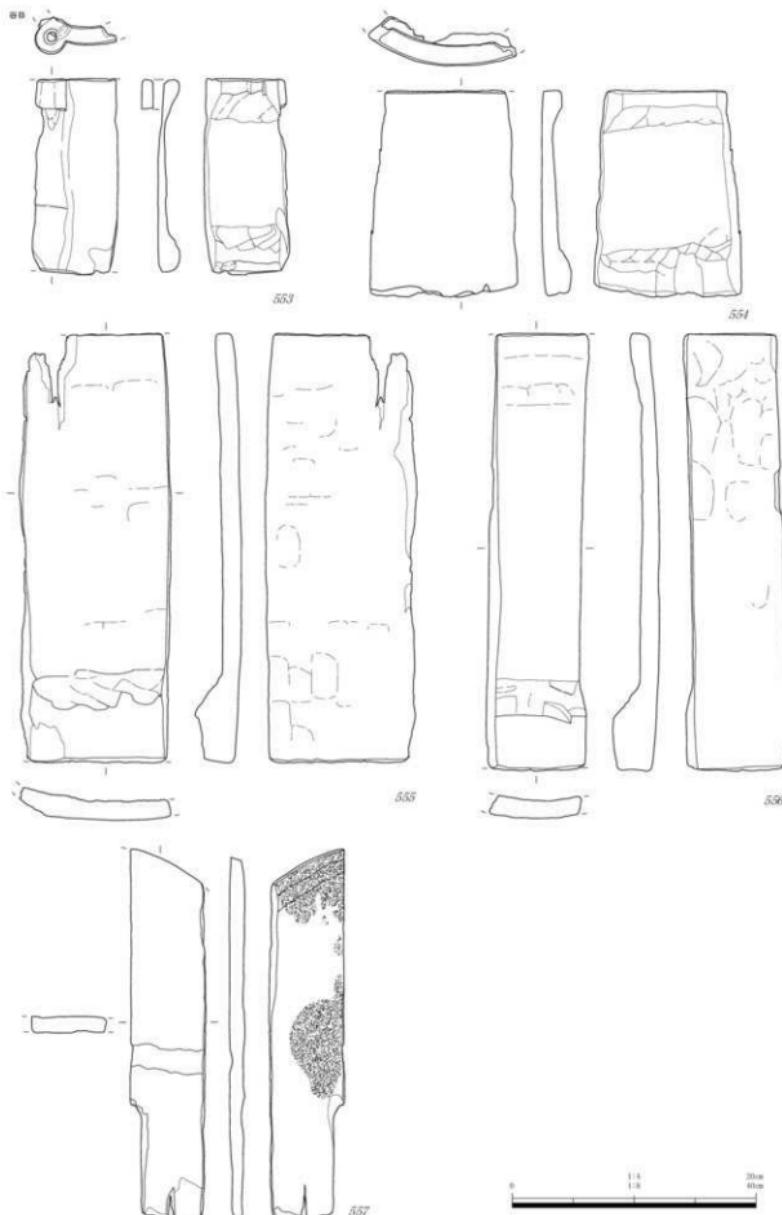
SE111B (527) SK619A (524) SK619A-SK666A (540) SK665A (526) SK666A (525) SK1B (530)  
SK2B (534・537) SK242C2 (522・531・535・539) SD140B (536) 包含層



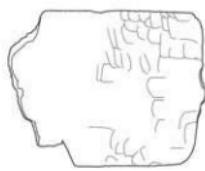
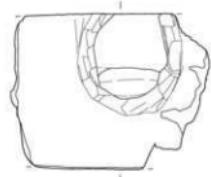
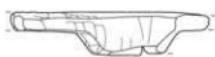
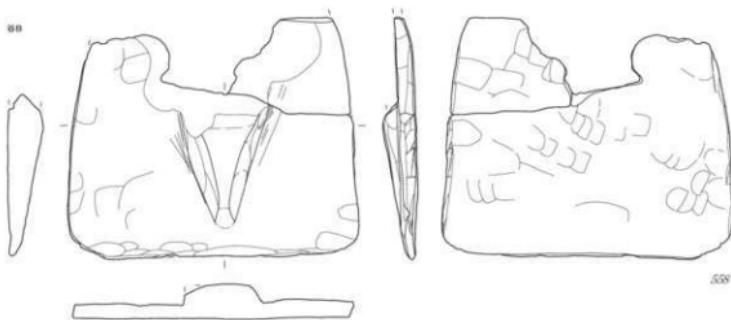
第133図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)  
SK545A・SK619A (547) SK1B (544) SK1B・SK2B (545) SK2B (541・542) SK242C2 (548)  
SD140B (543) 包含層



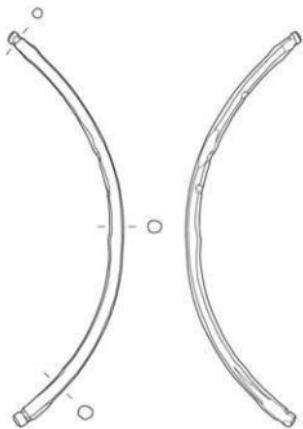
第134図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (552 1/4, 549~551 1/8)  
SD4A (551) 谷B (549・550・552)



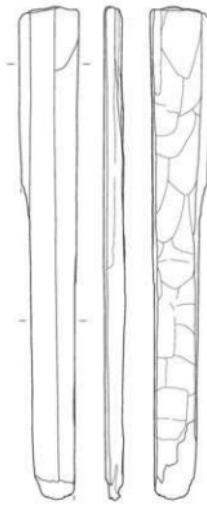
第135図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (557 1/4, 553~556 1/8)  
谷B



559

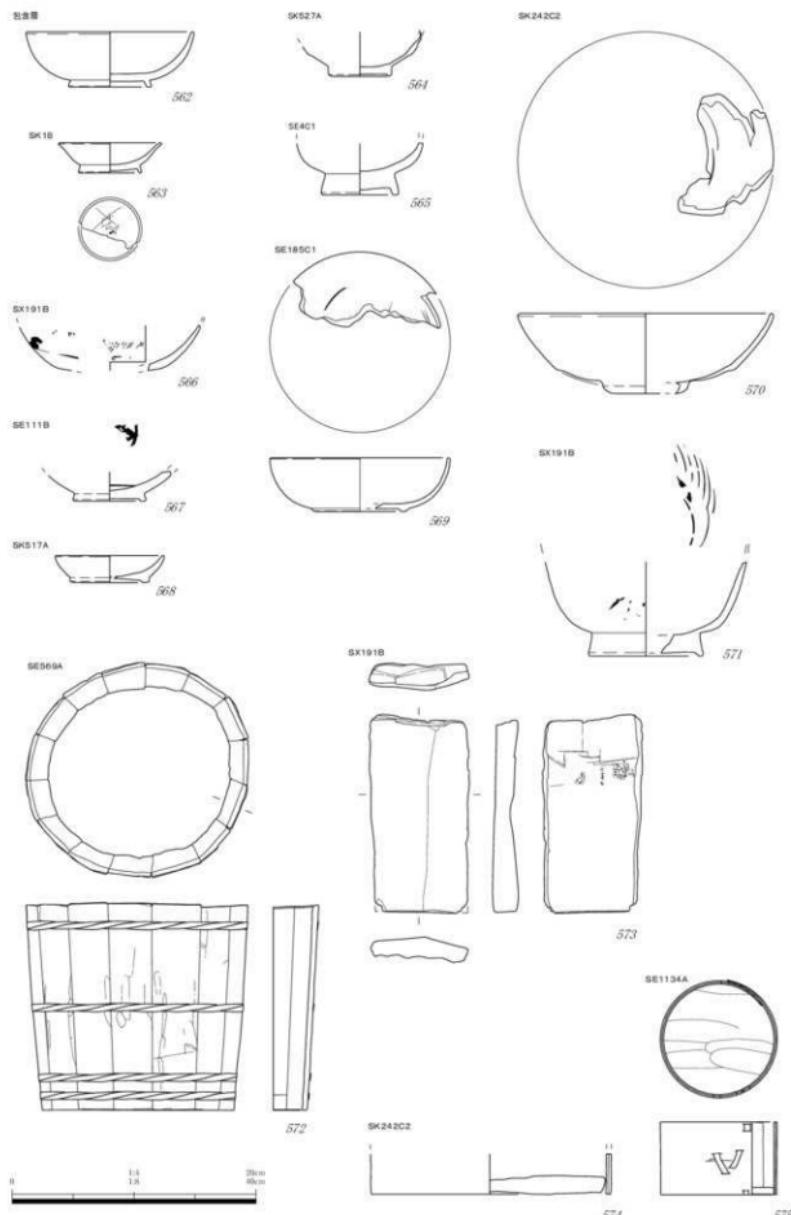


560



561

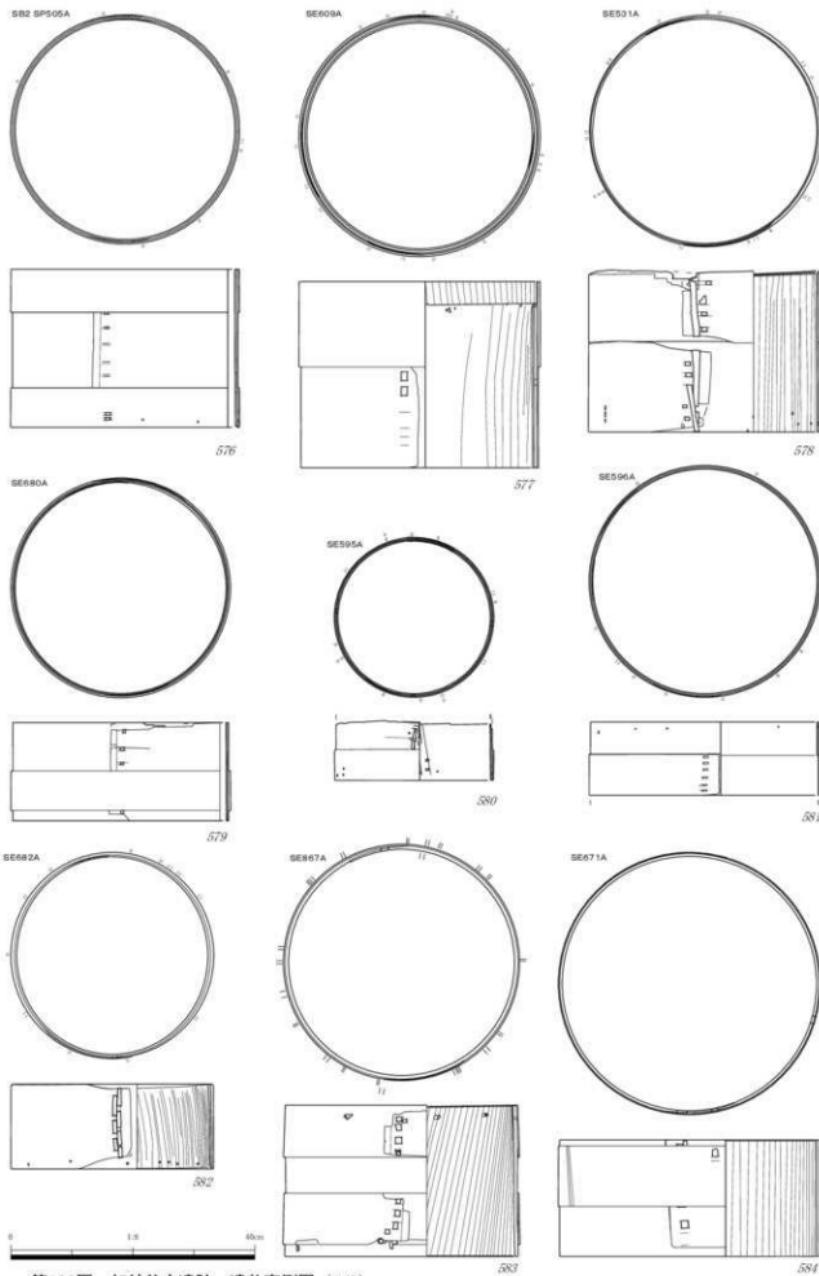
第136図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)  
谷B



第137図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (562~571・573~575 1/4, 572 1/8)

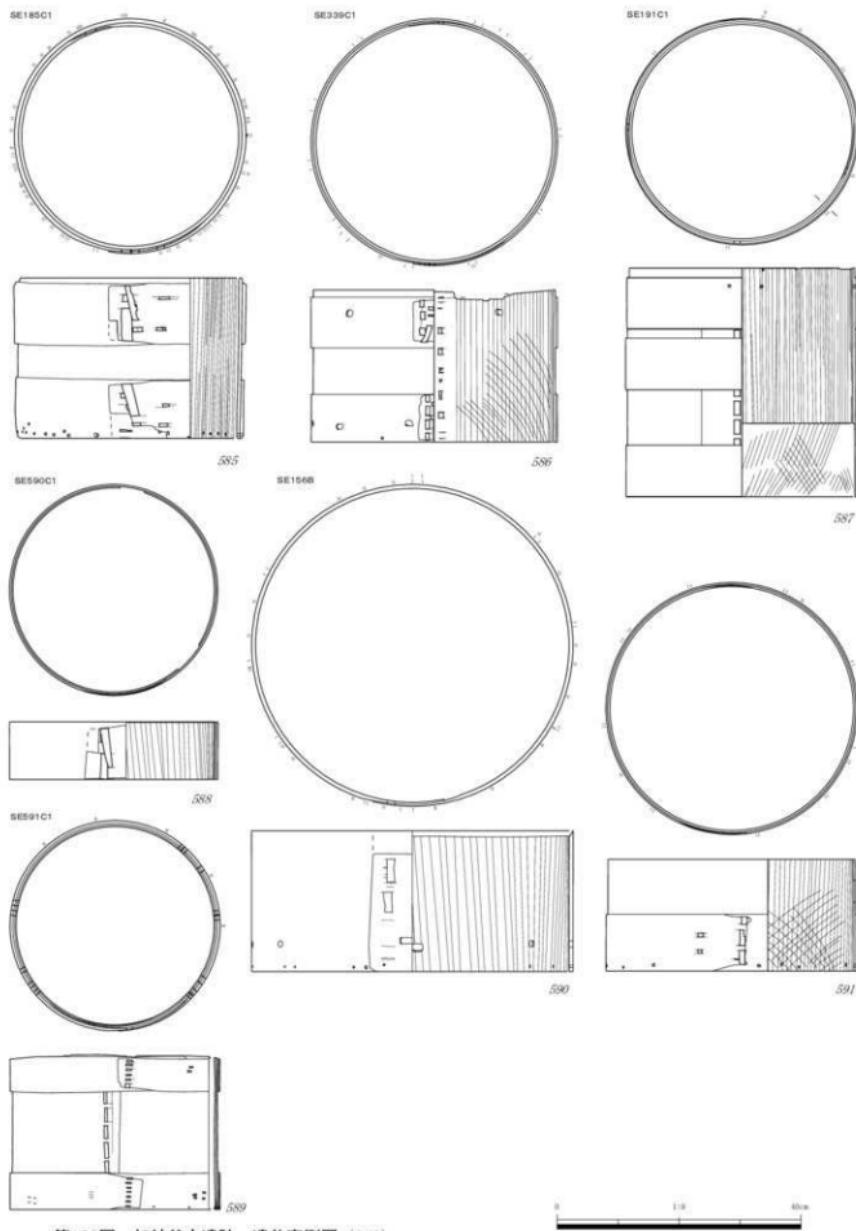
SE569A (572) SE1134A (575) SE111B (567) SE4C1 (565) SE185C1 (569)

SX191B (566・571・573) SK517A (568) SK527A (564) SK1B (563) SK242C2 (570・574)  
包含層



第138図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/8)

SB2 SP505A (576) SE531A (578) SE595A (580) SE596A (581) SE609A (577) SE671A (584)  
SE680A (579) SE682A (582) SE867A (583)



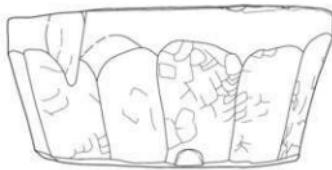
第139図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/8)

SE156B (590-591) SE185C1 (585) SE191C1 (587) SE339C1 (586) SE590C1 (588) SE591C1 (589)

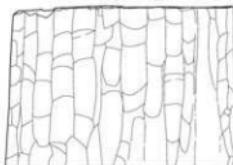
SE336B



SE593C1



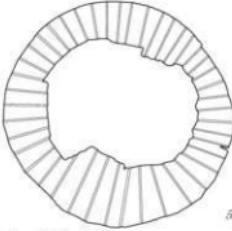
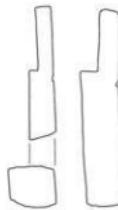
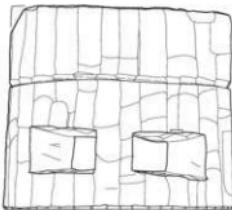
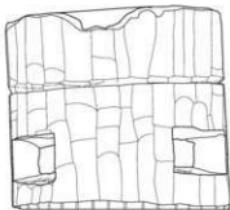
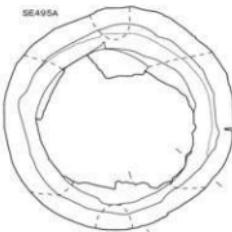
592



593

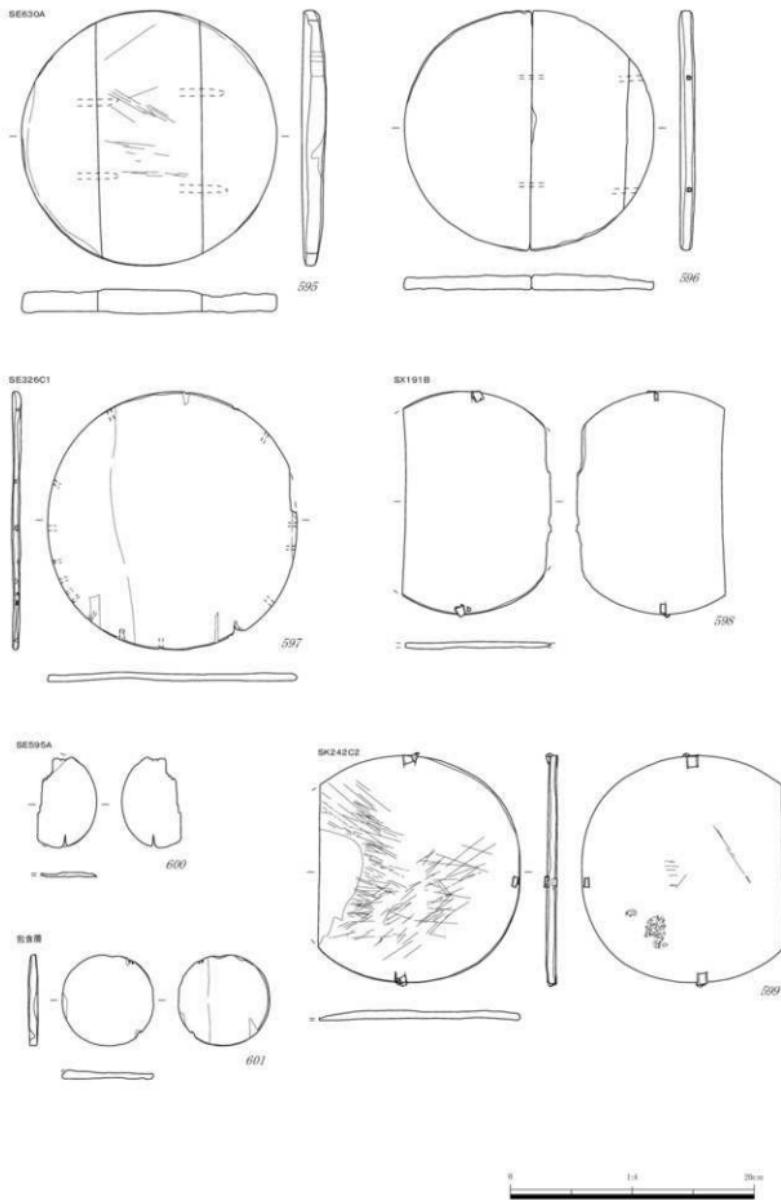


SE495A



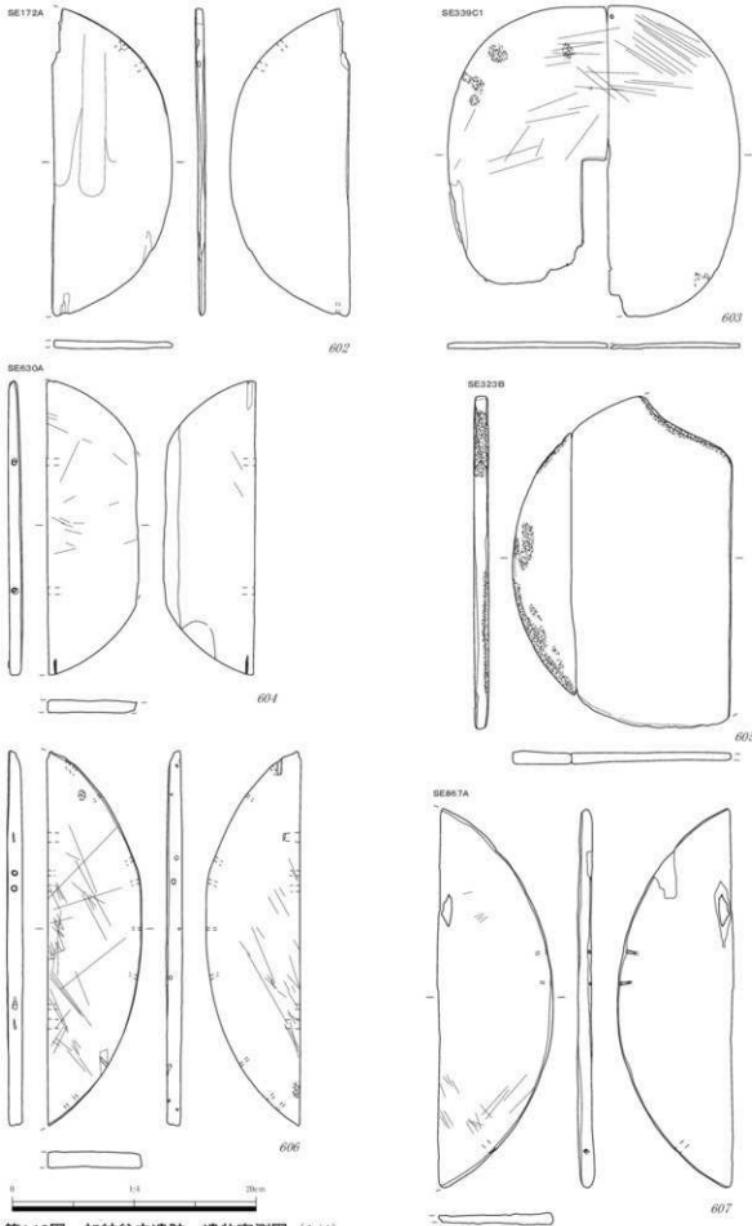
594

第140図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (593・594 1/8, 592 1/10)  
SE495A (594) SE336B (592) SE593C1 (593)

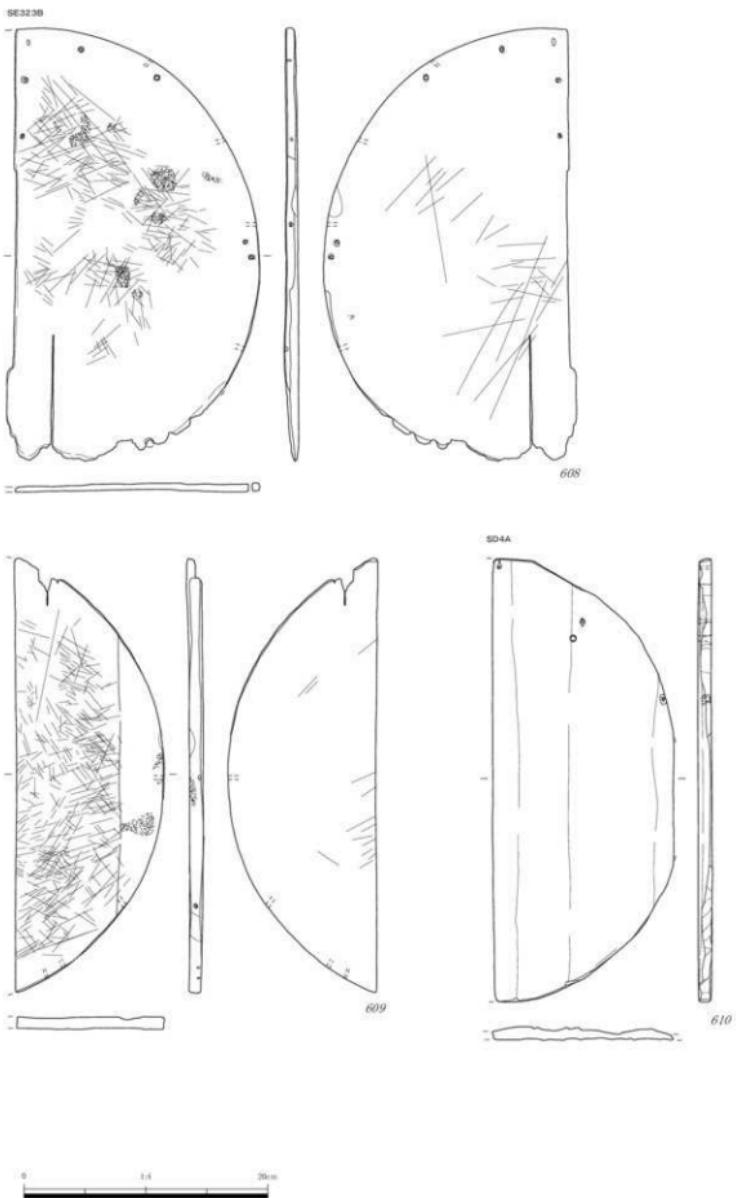


第141図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)

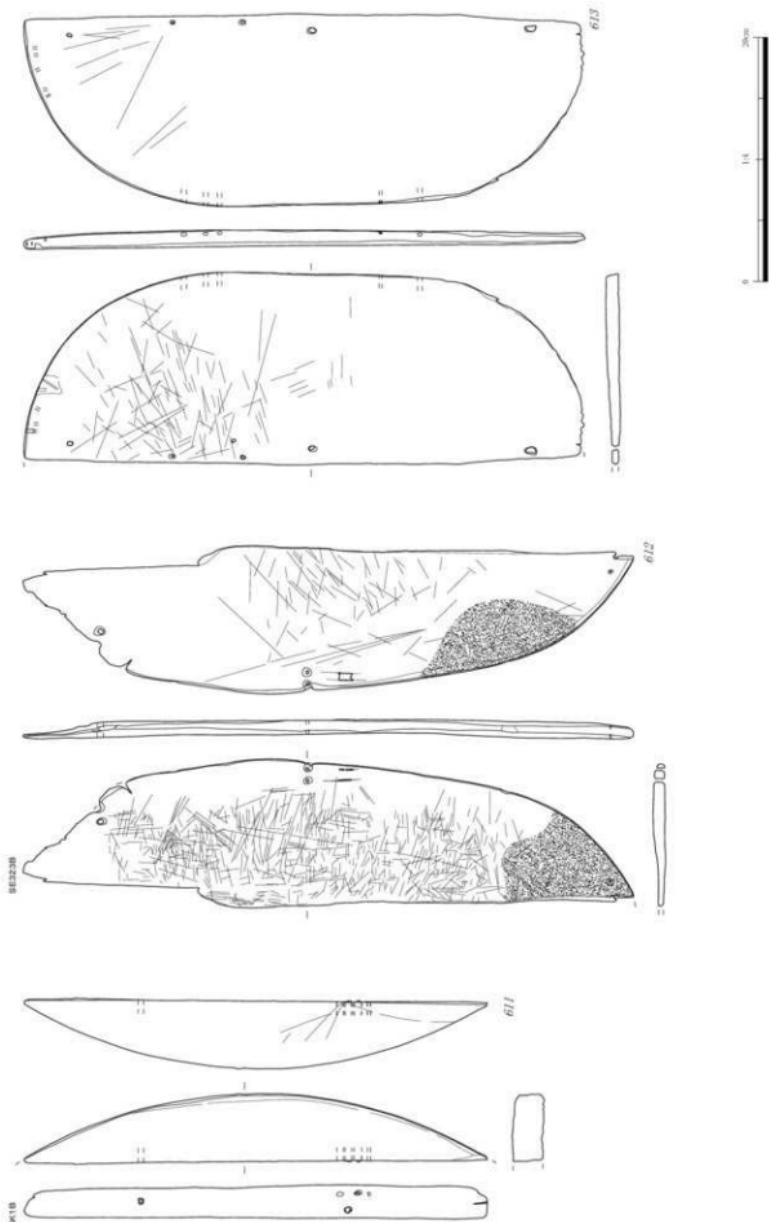
SE595A (600) SE630A (595・596) SE326C1 (597) SX191B (598) SK242C2 (599) 包含層



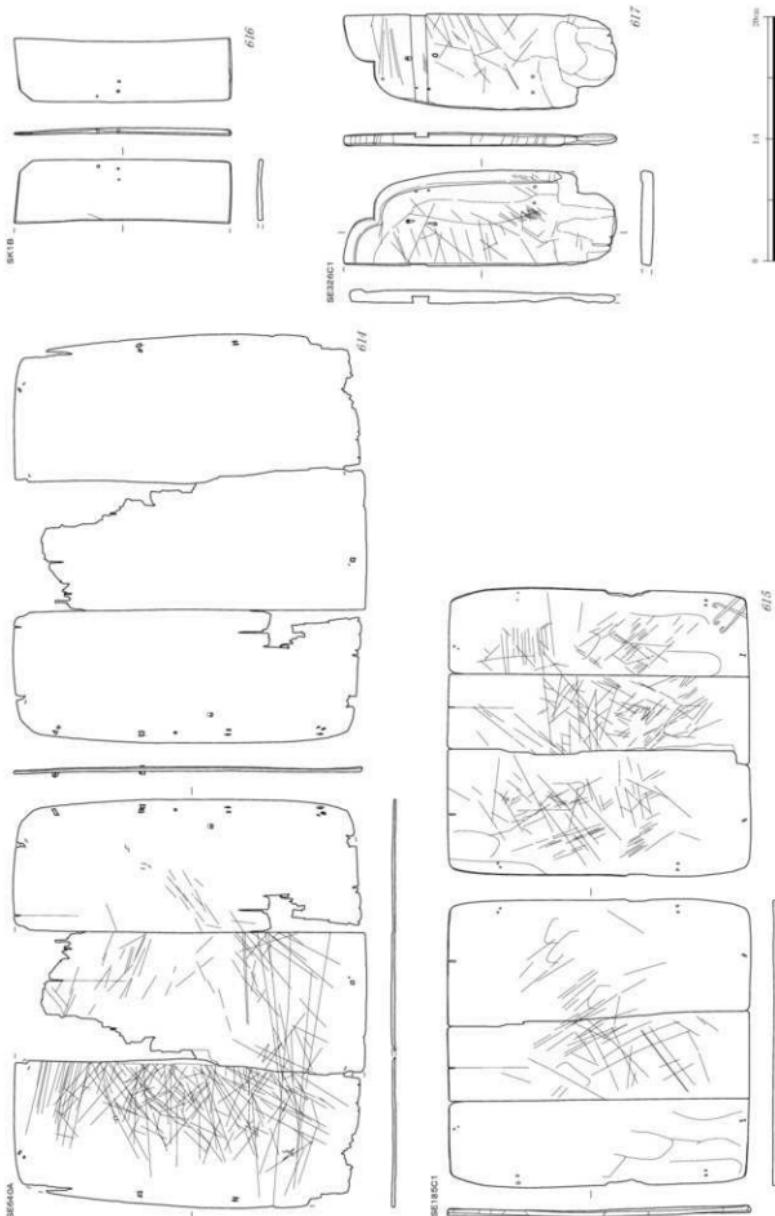
第142図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)  
SE172A (602) SE630A (604) SE867A (607) SE323B (605・606) SE339C1 (603)



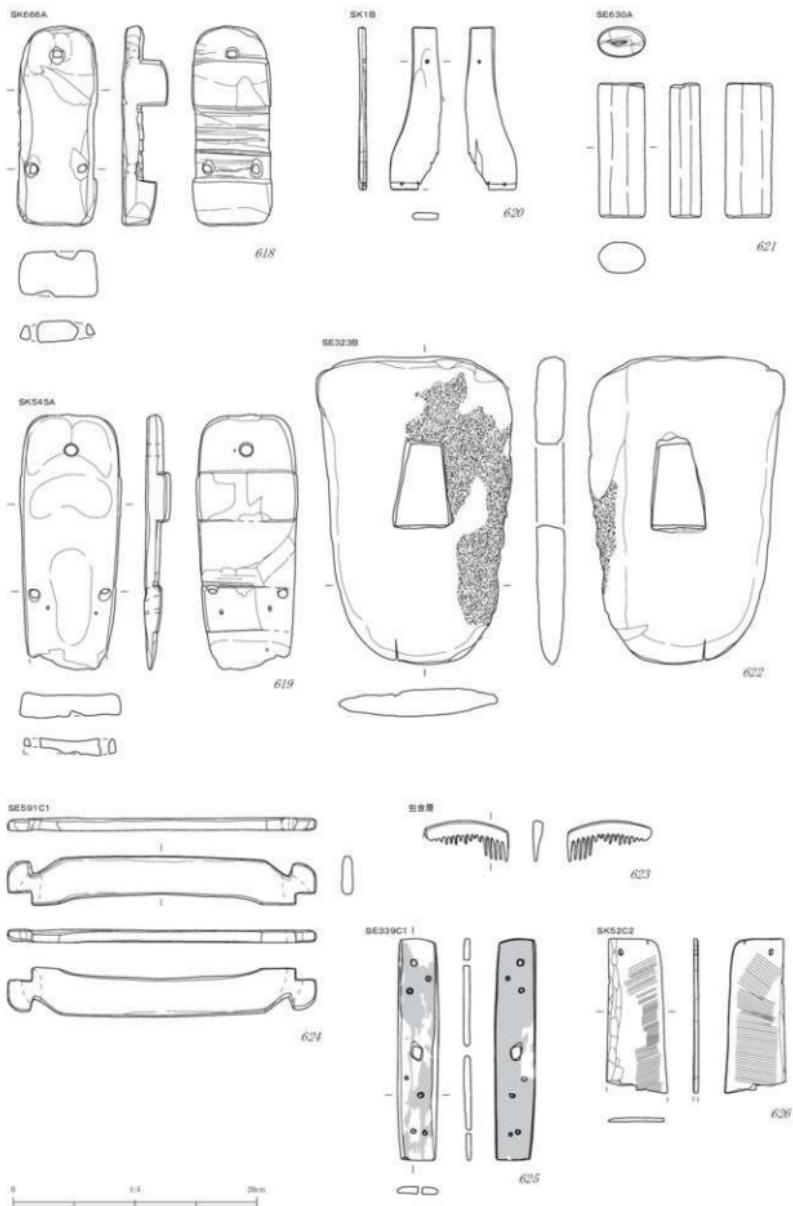
第143図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)  
SE323B (608・609) SD4A (610)



第144図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)  
SE323B (612・613) SK1B (611)

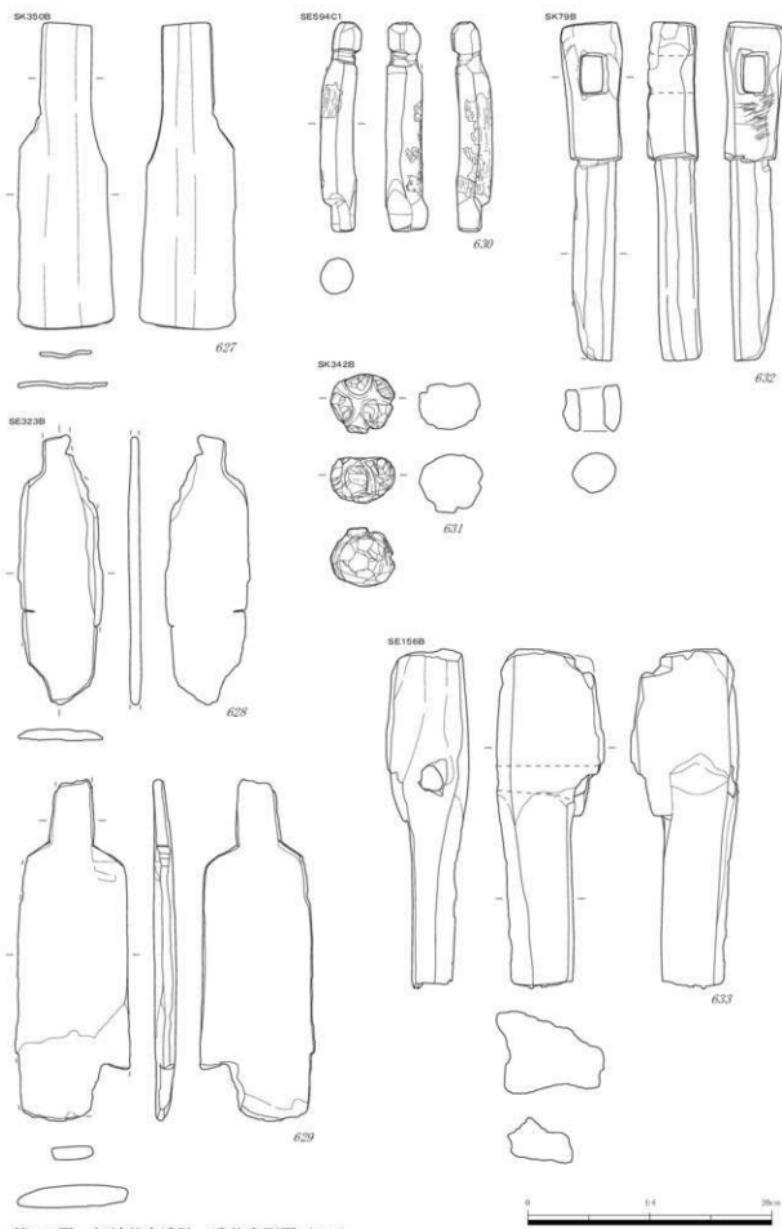


第145図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)  
SE640A (614) SE185C1 (615) SE326C1 (617) SK1B (616)



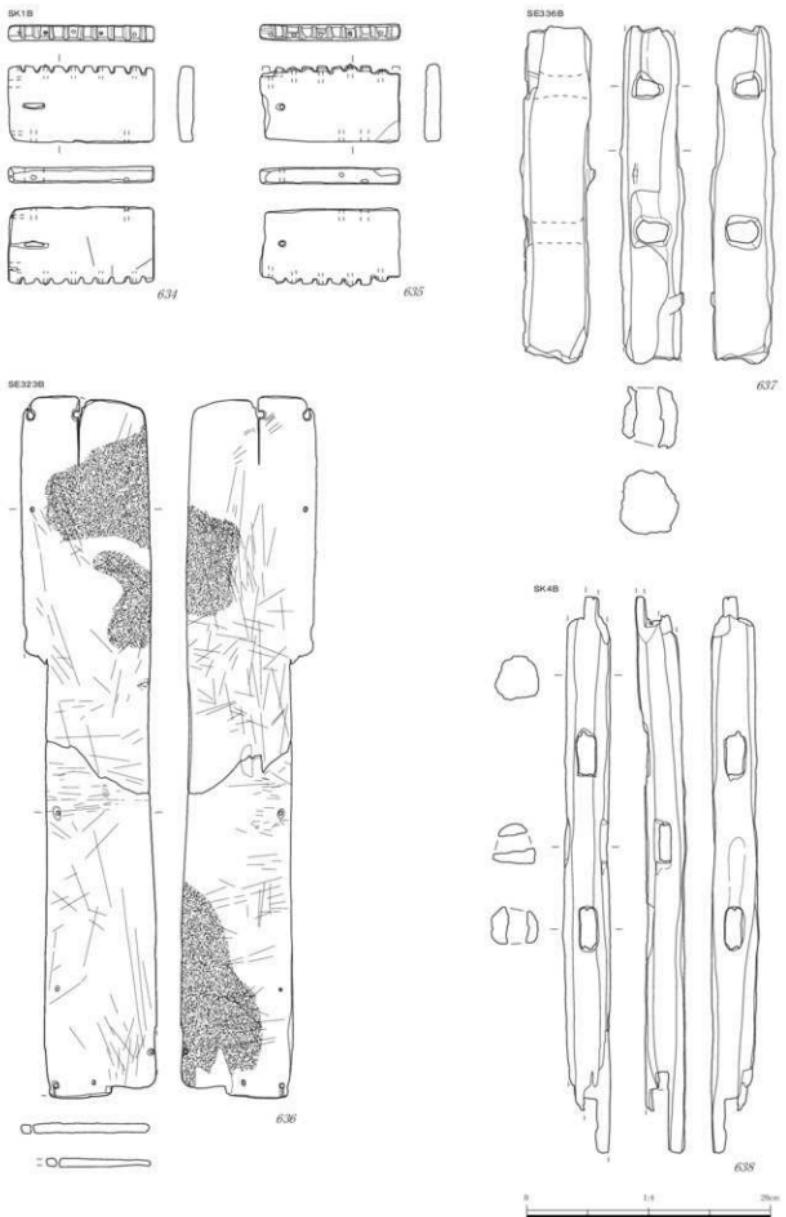
第146図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)

SE630A (621) SE323B (622) SE339C1 (625) SE591C1 (624) SK545A (619) SK666A (618)  
SK1B (620) SK52C2 (626) 包含層

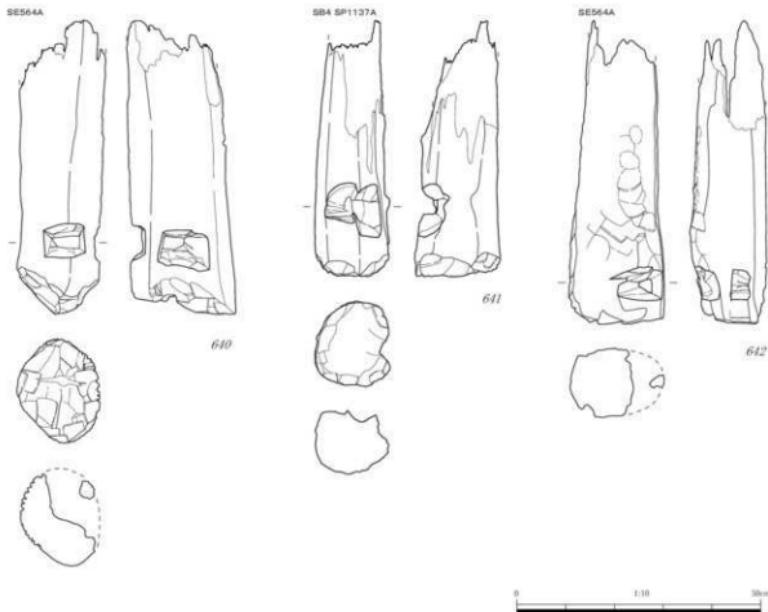
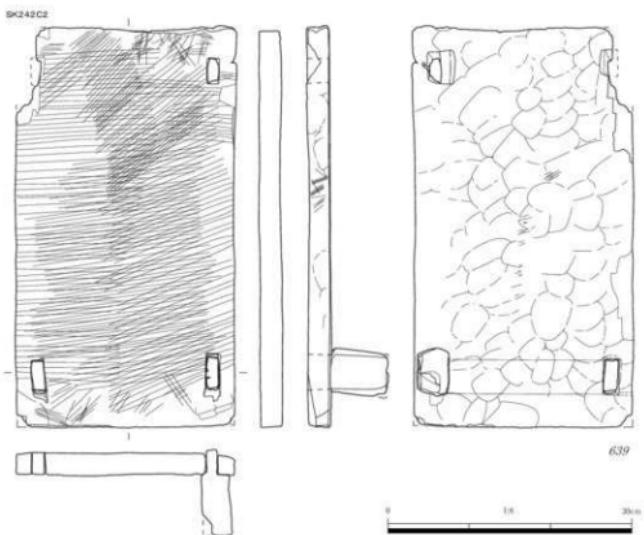


第147図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)

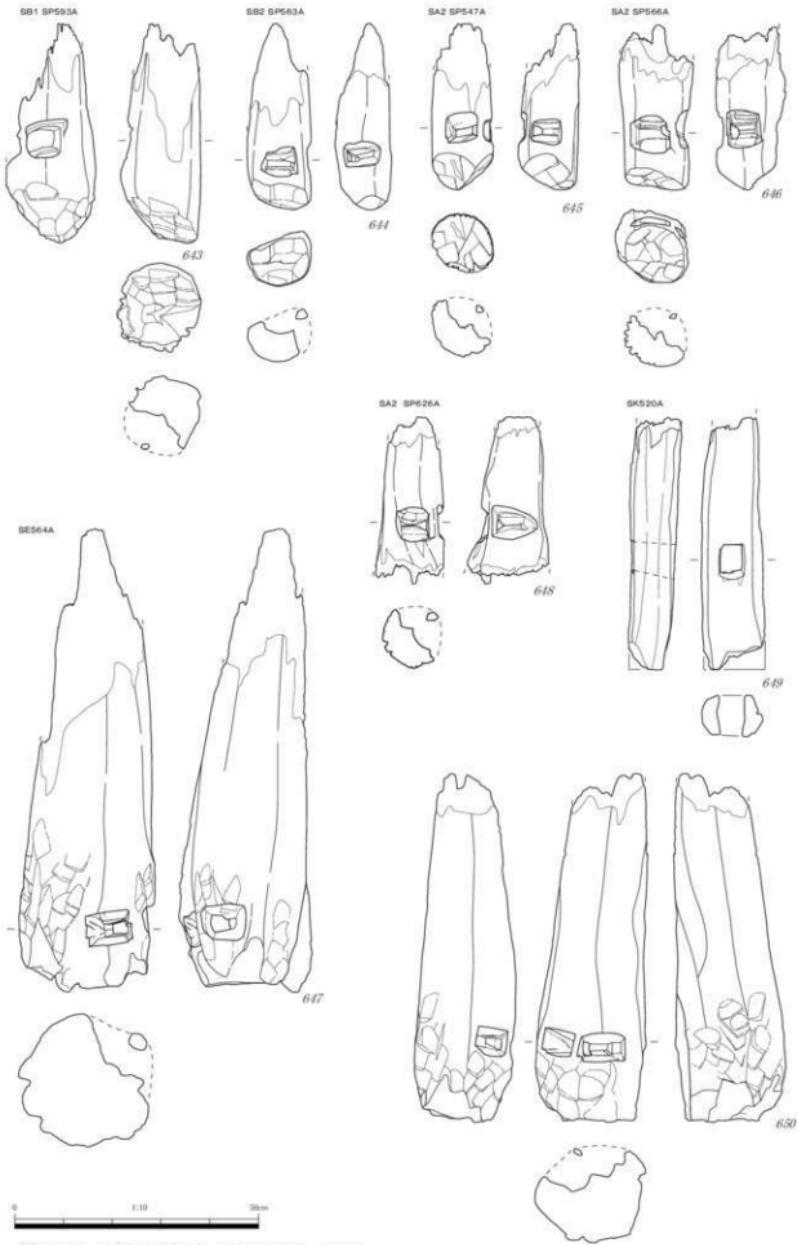
SE156B (633) SE323B (628・629) SE594C1 (630) SK79B (632) SK342B (631) SK350B (627)



第148図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/4)  
SE323B (636) SE336B (637) SK1B (634・635) SK4B (638)

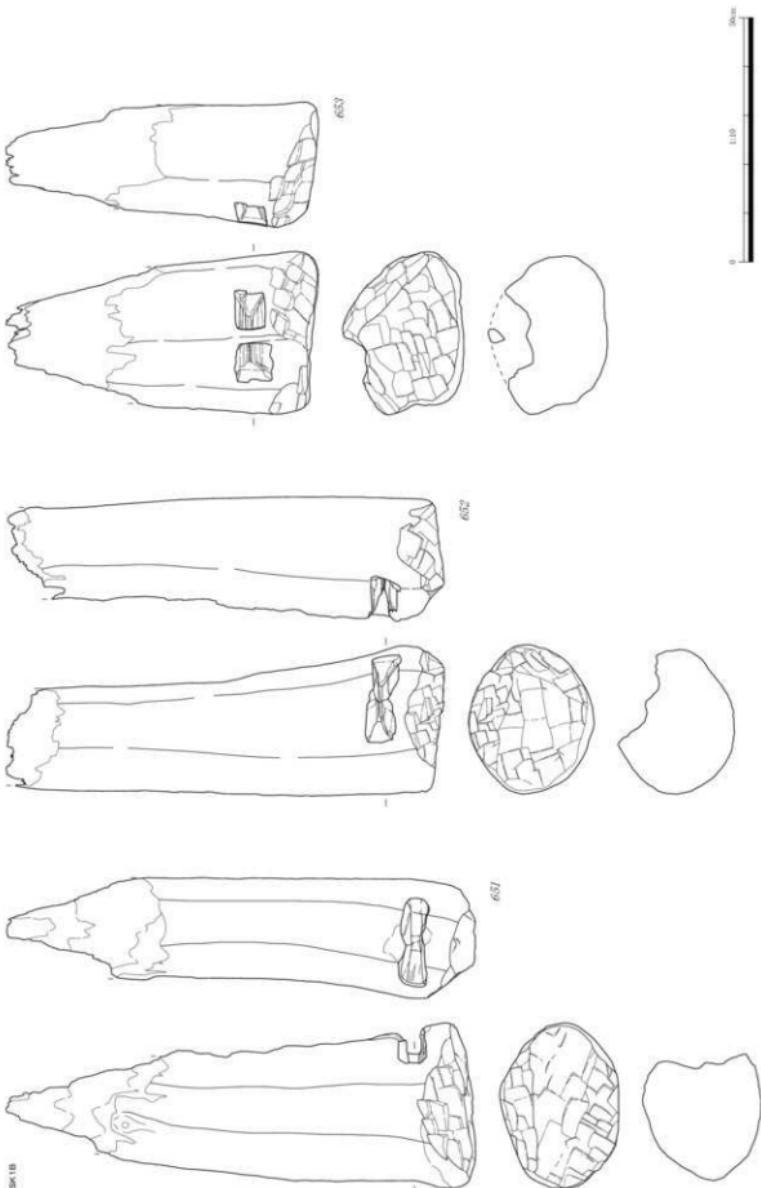


第149図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (639 1/6, 640~642 1/10)  
SB4 SP1137A (641) SE564A (640・642) SK242C2 (639)

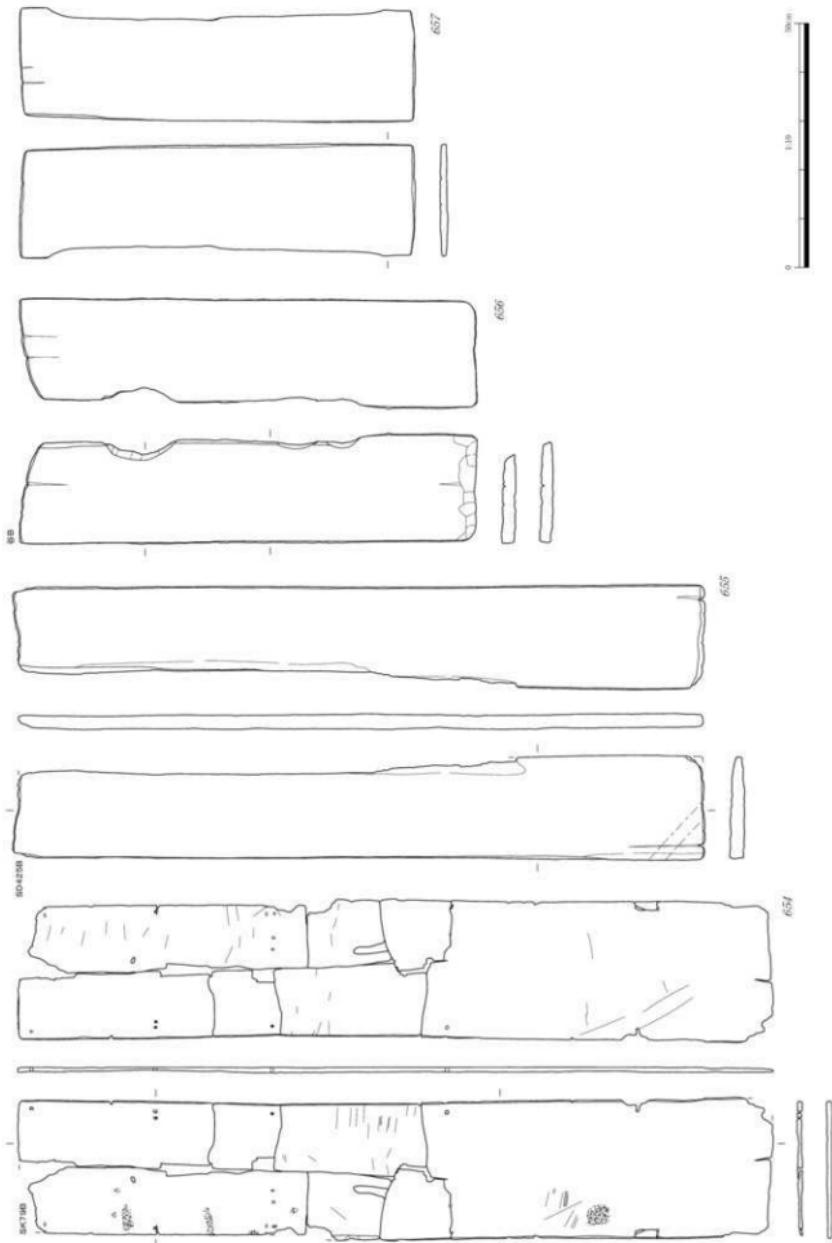


第150図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/10)

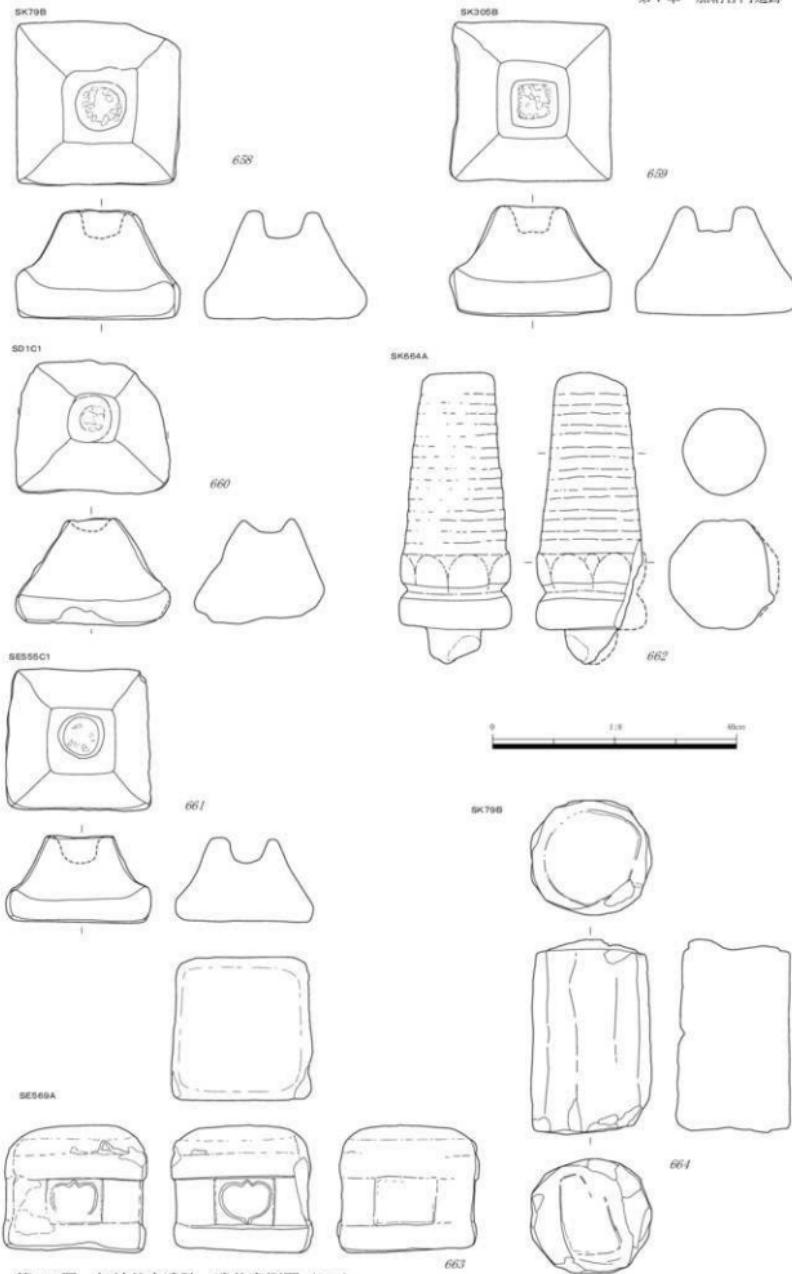
SB1 SP593A (643) SB2 SP563A (644) SA2 SP547A (645) SA2 SP566A (646)  
SA2 SP626A (648・650) SE564A (647) SK520A (649)



第151図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/10)  
SK1B

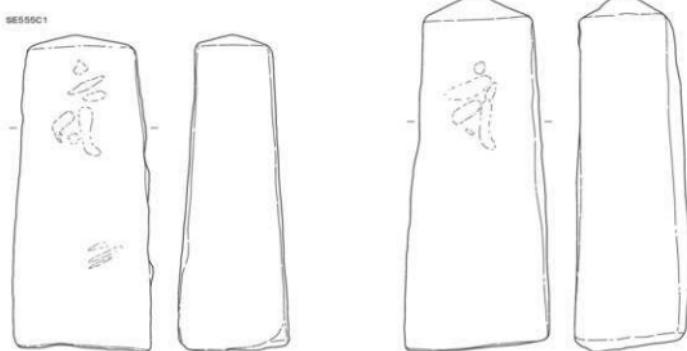
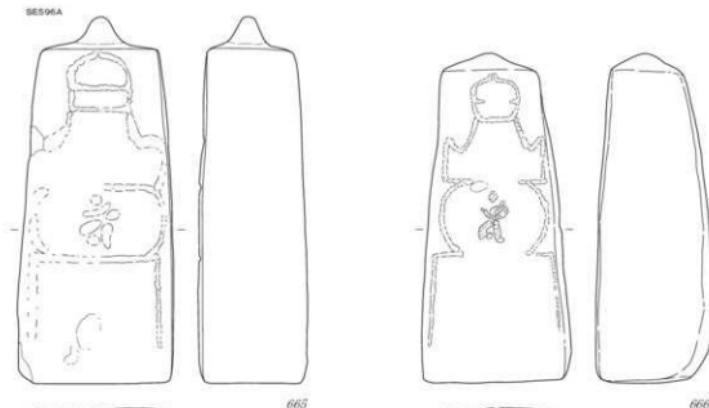


第152図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/10)  
SK79B (654) SD425B (655) 谷B (656・657)

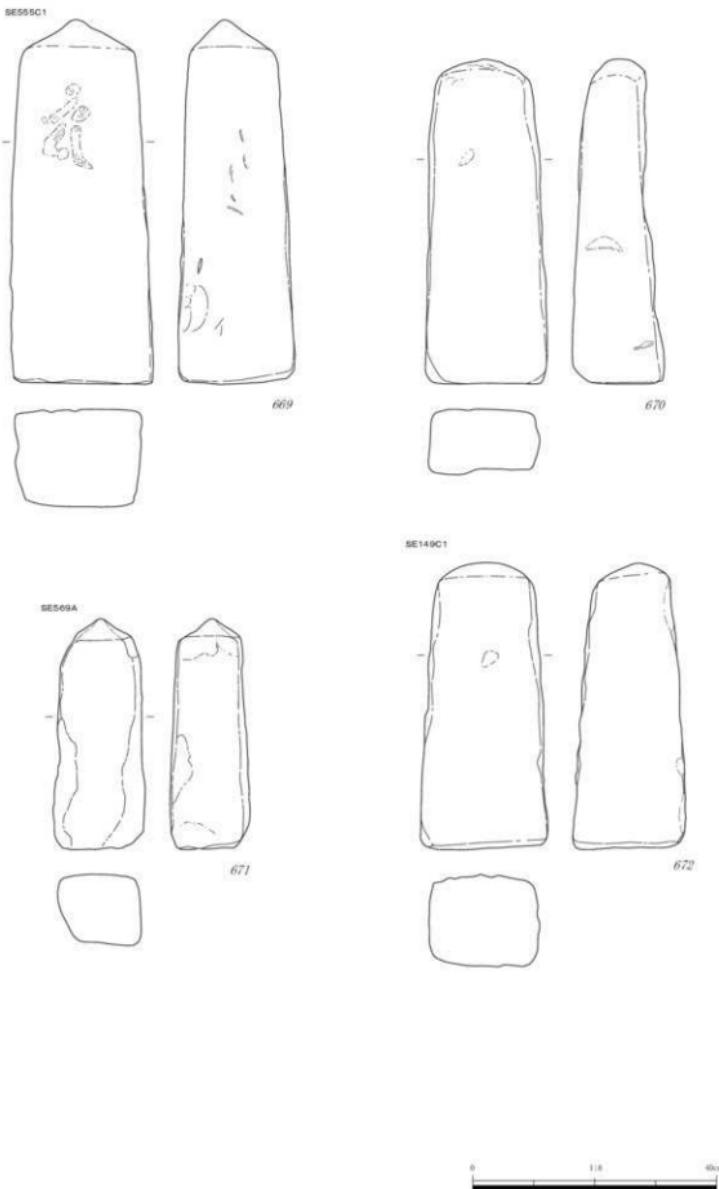


第153図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/8)

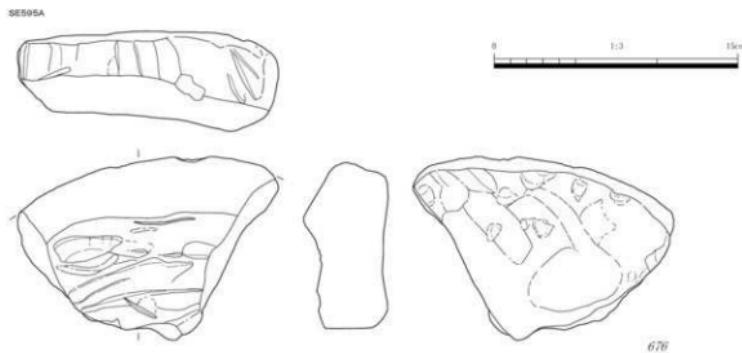
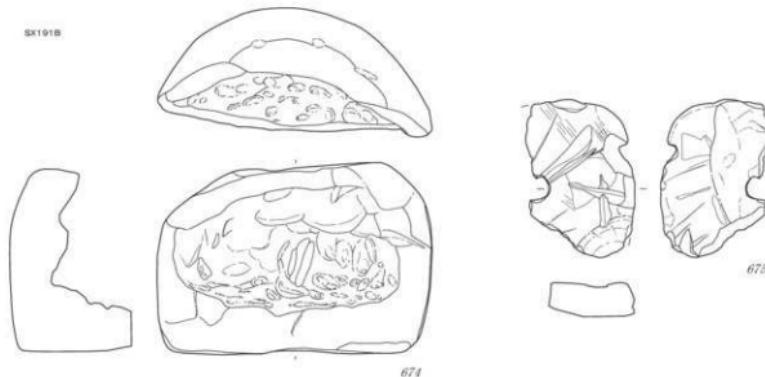
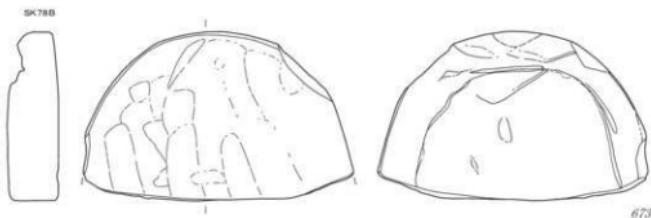
SE569A (663) SE555C1 (661) SK664A (662) SK79B (658・664) SK305B (659) SD1C1 (660)



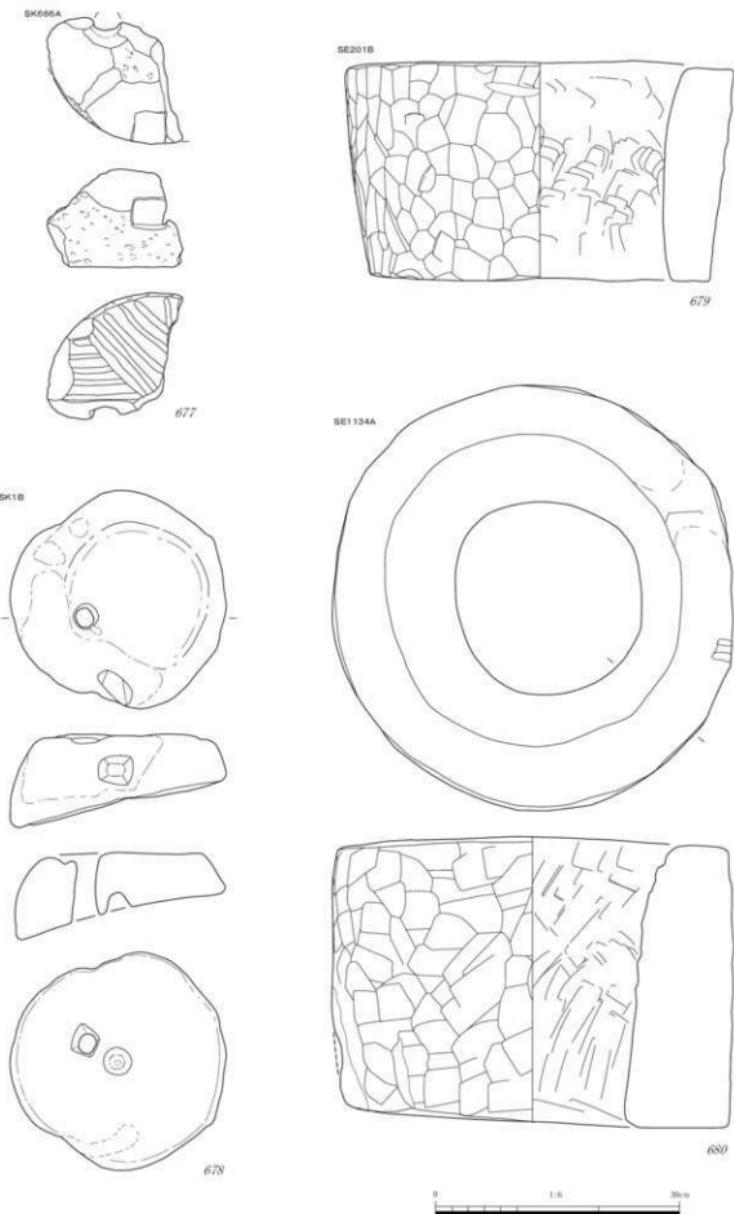
第154図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/8)  
SE596A (665・666) SE555C1 (667・668)



第155図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/8)  
SE569A (671) SE149C1 (672) SE555C1 (669・670)



第156図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/3)  
SE595A (676) SX191B (674・675) SK78B (673)

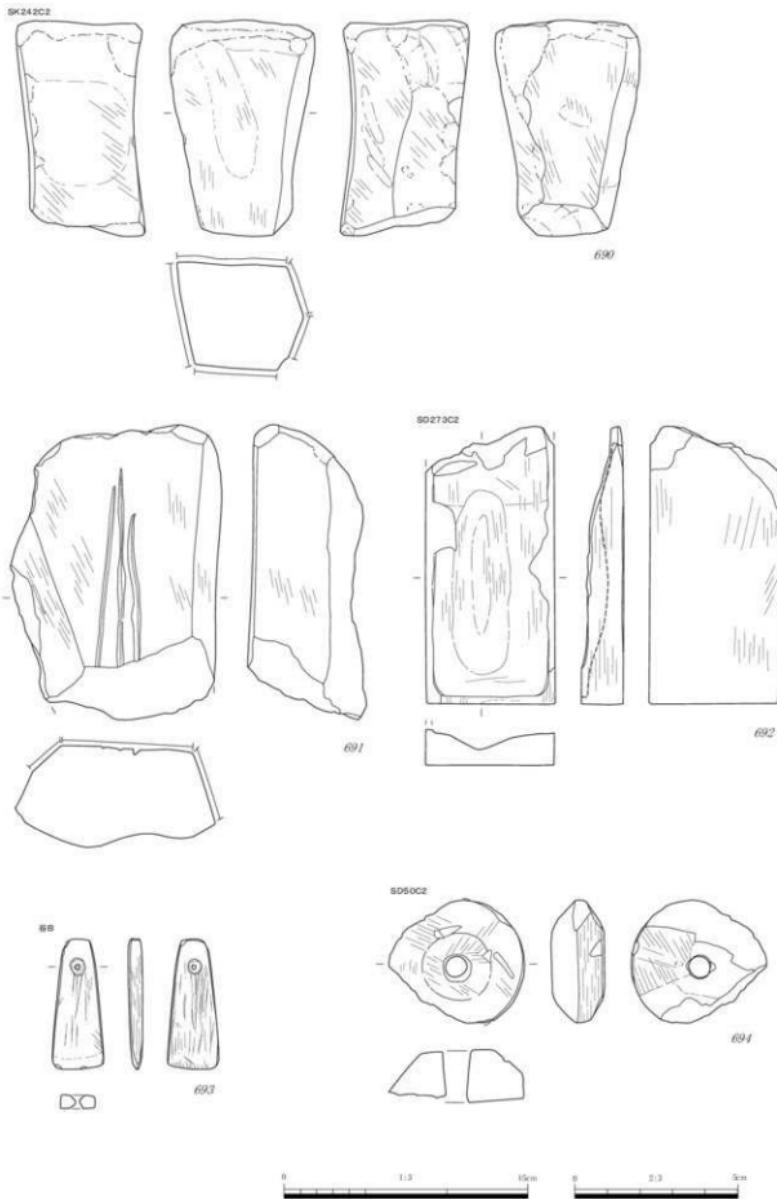


第157図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/6)  
SE1134A (680) SE201B (679) SK1B (678) SK666A (677)



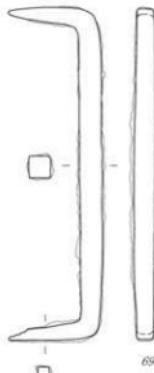
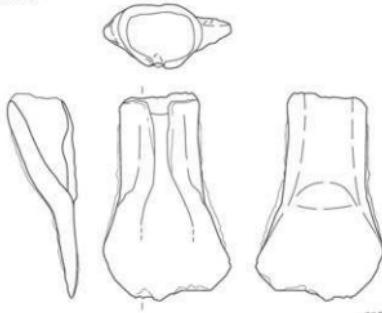
第158図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (1/3)

SE630A (683) SK191B (686) SK619A (684) SK666A (687) SK1B (685) SK242C2 (688)  
SD629A (681・682) 谷 B (689)

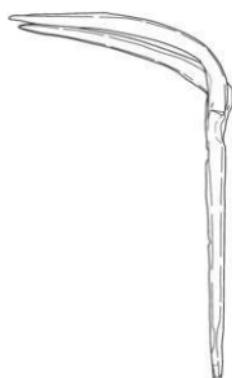


第159図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (694 2/3, 690~693 1/3)  
SK242C2 (690・691) SD50C2 (694) SD273C2 (692) 谷B (693)

SD140B



SK666A



SE111B



SD2D



SK1B



703

699

700

701

702

698



704

705

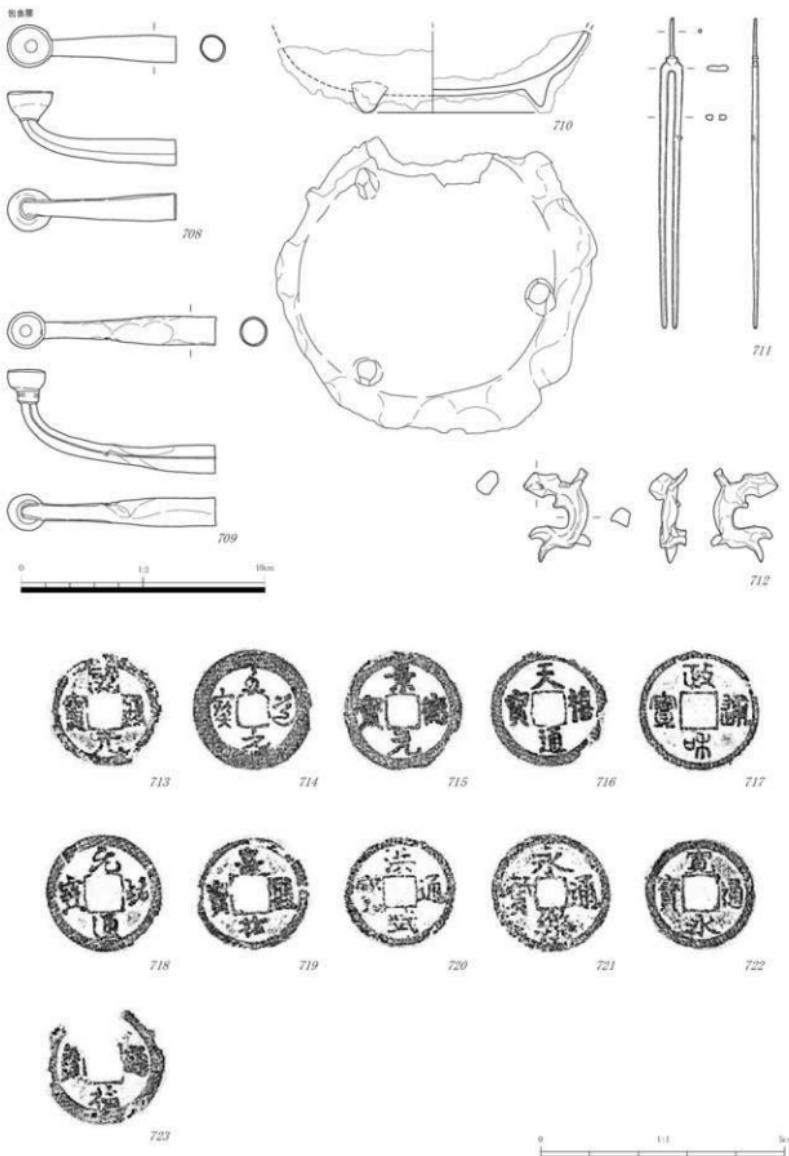
706

707

704

第160図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (699~707 1/1, 695~698 1/2)  
SE111B (699) SK510A (698) SK666A (697) SK1B (701~707) SK510A (698)  
SD140B (695・696) SD2D (700)





第161図 加納谷内遺跡 遺物実測図 (713~723 1/1, 708~712 1/2)  
包含層

第23表 加納谷内遺跡 中世掘立柱建物一覧

地区	建物	種別	柱行(m)	梁行(m)	面積(m <sup>2</sup> )	棟方位	柱穴規規 径(m)	柱穴規規 深さ(m)	柱間距離 幅(m)	柱間距離 梁(m)	出土遺物	持国	写真 図版		
A	SB1	東西棟 蛇柱	3間	13.70	3間	11.20	153.44	N-60°-W	0.26~2.60	0.09~ (0.62)	3.40~ 9.00	2.80~ 5.30	土師器、内里土師器、 須恵器、中世土師器、 珠洲、鹿戸、越中鹿戸、 近世陶器、漆器 瓢、曲物、柱根、板 材	42	34
A	SB2	東西棟 側柱	2間	9.80	1間	6.60	64.68	N-62°-W	0.16~1.78	0.04~ 1.06	4.65~ 5.50	3.90~ 6.50	珠洲、越中鹿戸、曲 物、柱根	43	34
A	SB3	東西棟 蛇柱	2間	6.55	2間	6.10	39.96	N-60°-W	0.44~1.58	0.17~ 0.68	3.90~ 6.40	2.90~ 3.50	土師器、内里土師器、 中世土師器、柱根	43	
A	SB4	南北棟 側柱	2間	5.60	1間	3.85	21.56	N-40°-E	0.38~ (0.88)	0.17~ 0.38	2.50~ 5.50	3.80~ 4.10	柱根	44	
A	SB5	南北棟 側柱	3間	7.25	2間	4.50	32.63	N-35°-E	0.24~0.56	0.10~ 0.34	2.10~ 2.70	2.10~ 2.60		44	
B	SB6	東西棟 側柱	4間	11.00	2間	5.20	57.20	N-55°-W	0.18~0.40	0.08~ 0.30	2.50~ 2.70	2.60~ 2.70	柱根	45	35
B	SB7	南北棟 蛇柱	2間	5.30	2間	4.90	25.97	N-16°-E	0.28~0.42	0.09~ 0.34	2.50~ 2.70	2.10~ 2.50	中世土師器	45	35
B	SB8	東西棟 側柱	2間	4.70	1間	2.90	13.63	N-70°-W	0.26~0.42	0.06~ 0.14	2.20~ 2.50	2.90~ 3.10		45	35
C1	SB9	南北棟 (1間)	(2.45)	2間	4.70	(11.52)	N-7°-E	0.52~0.64	0.13~ 0.33	1.60~ 2.90	2.40~ 2.50		46		
C2	SB10	南北棟 蛇柱	2間	5.90	2間	4.70	27.73	N-53°-E	0.26~0.34	0.14~ 0.31	2.90~ 3.10	2.40~ 2.90		47	37
C2	SB11	東西棟 蛇柱	3間	8.10	3間	6.40	51.84	N-89°-W	0.22~0.56	0.17~ 0.60	2.70~ 3.00	1.90~ 2.30	珠洲	47	36
C2	SB12	東西棟 蛇柱	5間	9.45	2間	5.90	55.76	N-90°-W	0.20~0.76	0.29~ 0.66	2.70~ 2.50	2.70~ 3.20		48	36
C2	SB13	南北棟 蛇柱	3間	8.85	2間	4.60	40.71	N-3°-E	0.24~0.60	0.01~ 0.45	2.80~ 3.40	2.20~ 3.40		49	
C2	SB14	南北棟 側柱	2間	5.60	2間	4.30	24.08	N-5°-E	0.24~0.46	0.19~ 0.50	2.60~ 2.80	2.10~ 2.40		49	
C2	SB15	南北棟 蛇柱	4間	7.75	3間	7.50	49.31	N-12°-W	0.20~0.48	0.14~ 0.55	0.80~ 3.20	2.30~ 2.65		50	
C2	SB16	南北棟 蛇柱	6間	17.20	4間	9.30	159.96	N-2°-E	0.28~0.80	0.10~ 0.57	2.55~ 3.30	1.90~ 2.80	珠洲、中国製白磁、 柱根	51	36
C2	SB17	東西棟 側柱	4間	9.00	1間	2.50	22.50	N-90°-W	0.22~0.58	0.08~ 0.39	1.80~ 2.80	2.10~ 3.80	須恵器、珠洲、柱根	50	36
C2	SB18	南北棟 蛇柱	3間	7.60	2間	6.40	48.64	N-5°-W	0.24~0.36	0.08~ 0.38	2.30~ 2.70	3.20~ 3.40		53	
C2	SB19	東西棟 側柱	2間	4.35	1間	2.40	10.44	N-83°-W	0.26~0.54	0.14~ 0.34	2.10~ 2.30	2.40~ 2.50	土師器	53	
C3	SB20	東西棟 蛇柱	2間	4.20	2間	3.90	15.54	N-105°-W	0.20~0.40	0.15~ 0.35	2.00~ 2.10	1.30~ 2.60		54	
C3	SB21	東西棟 側柱	2間	3.50	1間	2.50	8.75	N-106°-W	0.25~0.30	0.20~ 0.40	1.40~ 2.20	2.40~ 2.60		55	
C3	SB22	南北棟 蛇柱	4間	8.20	2間	5.30	39.38	N-5°-W	0.20~0.55	0.25~ 0.55	1.70~ 2.70	2.40~ 3.10	土師器	54	37
C3	SB23	東西棟 側柱	3間	4.50	1間	2.10	9.45	N-80°-W	0.25~0.50	0.13~ 0.60	1.30~ 4.20	1.70~ 2.10	土師器	55	37
C3	SB24	東西棟 側柱	3間	3.15	2間	1.85	5.83	N-80°-W	0.20~0.30	0.25~ 0.60	0.90~ 2.10	0.80~ 1.00	須恵器、中世土師器	55	37
C3	SB25	東西棟 側柱	3間	4.90	1間	3.90	19.11	N-55°-W	0.30~1.50	0.30~ 0.45	1.20~ 3.20	3.30~ 4.50		56	37
C3	SB26	南北棟 側柱	1間	6.20	3間	5.30	31.80	N-10°-E	0.25~0.85	0.15~ 0.40	5.50~ 6.30	0.14~ 0.26		56	37

第24表 加納谷内遺跡 柱穴一覧 (1)

建物・構 造構	種類	平面形	規模 (m)			出土遺物	時期	特記事項	切り合	跡園	写真 図版
			長さ	幅	深さ						
SA1	SP72A	椭穴	不整	1.02	0.76	0.50		中世		57	
	SP91A	柱穴	椭円	2.18	1.64	0.62		中世		57	
	SP93A	椭穴	椭円	0.88	0.64	0.65	縄文土器	中世		57	
	SP102A	椭穴	円	0.92	0.80	0.54		中世		57	
	SP115A	椭穴	円	0.92	0.88	0.56		中世		57	
	SP116A	椭穴	椭円	0.92	0.48	0.52		中世		57	
	SP117A	椭穴	椭円	0.86	0.56	0.58		中世		57	
	SP124A	椭穴	椭円	0.92	0.72	0.56		中世		57	
	SP175A	椭穴	円	0.60	0.54	0.44		中世		57	
	SP180A	椭穴	椭円	0.58	0.40	0.40		中世		57	
	SP220A	椭穴	椭円	0.80	(0.64)	0.36		中世		57	
	SP259A	椭穴	円	0.86	0.84	(0.52)		中世~		57	
	SP323A	椭穴	不整	0.58	0.56	0.32		中世		57	
	SP392A	椭穴	円	0.60	0.52	0.32	須恵器	中世		57	
	SP459A	椭穴	椭円	0.56	0.44	0.40		中世		57	
	SP465A	椭穴	椭円	0.58	0.48	0.28		中世		57	
	SP468A	椭穴	椭円	0.56	0.40	0.31		中世		57	
	SP481A	椭穴	円	0.42	0.36	0.25		中世		57	
	SP485A	椭穴	円	0.44	0.36	0.27		中世		57	
	SP1140A	柱穴	椭円	0.92	0.52	0.47		中世		57	>SP 91A(SA1) + SK95A
SA2	SP547A	椭穴	不整	1.68	1.16	0.41	珠洲、越中瀬戸、柱 根 (645)	中世~		57	
	SE564A	井口 (柱穴)	不整	1.64	1.26	1.02	柱根	中世		>SP 566A(SA2) + 563A(SB2) + SK517A	57
	SP566A	椭穴	椭円	(1.10)	0.56	0.45	柱根 (646)	中世		<SE564A	57
	SP626A	椭穴	不整	(2.12)	(1.64)	0.50	縄文土器、中世土師 器、珠洲、越中瀬戸、 近世陶器、柱根 (648 - 650)	中世~		<SP 1133A(SA2)	57
	SP1133A	椭穴	(円)	(0.44)	(0.32)	0.28	土師	中世		>SP 626A(SA2)	57
SA3	SP292A	椭穴	円	0.24	0.20	0.16		中世		57	
	SP294A	椭穴	円	0.36	0.36	0.23		中世		57	
	SP417A	椭穴	円	0.28	0.22	0.10		中世		<SD380A	57
	SP418A	椭穴	円	0.44	0.40	0.25		中世		57	
	SP690A	椭穴	円	0.32	0.32	0.21		中世		57	
	SP697A	椭穴	円	0.28	0.28	0.30		中世		57	
	SP698A	椭穴	円	0.36	0.30	0.38		中世		57	
	SP699A	椭穴	円	0.32	0.28	0.28		中世		57	
	SP706A	椭穴	円	0.36	0.32	0.20		中世		57	
	SP1147A	椭穴	円	0.32	0.32	0.08		中世		57	
SA4	SP419A	椭穴	円	0.56	0.52	0.38		中世	柱痕	57	
	SP420A	椭穴	円	0.56	0.46	0.50		中世	柱痕	57	
	SP421A	椭穴	円	0.54	0.52	0.38		中世	柱痕	57	
	SP422A	椭穴	円	0.44	0.42	0.27		中世	柱痕	57	
	SP428A	椭穴	円	0.46	0.44	0.19		中世	柱痕	57	
SA5	SP432A	椭穴	円	0.38	0.32	0.15		中世		57	
	SP313C	柱穴	円	0.32	0.24	0.29		中世		47	
	SP317C	柱穴	円	0.36	0.32	0.46		中世		47	
SA6	SP32C2	柱穴	円	0.32	0.24	0.20		中世		47	
	SP16C2	柱穴	円	0.40	0.38	0.28		中世		41	
SA7	SP18C2	柱穴	円	0.40	0.34	0.22		中世		41	
	SP19C2	柱穴	円	0.38	0.34	0.13		中世		41	
	SP90C3	柱穴	椭円	0.35	0.25	0.15		中世		58	
	SP183C	柱穴	円	0.25	0.25	0.25		中世		58	
	SP186C3	柱穴	円	0.25	0.25	0.08		中世		58	
SA8	SP187C	柱穴	円	0.35	0.35	0.20		中世		58	
	SP194C3	柱穴	円	0.20	0.20	0.25		中世		58	
	SP62C3	柱穴	円	0.25	0.25	0.15		中世		58	
	SP63C3	柱穴	椭円	0.25	0.20	0.15		中世		58	
	SP64C3	柱穴	円	0.20	0.20	0.10		中世		58	
SA9	SP68C3	柱穴	円	0.20	0.20	0.10		中世		58	
	SP69C3	柱穴	円	0.25	0.25	0.25		中世		58	
	SP100C3	柱穴	椭円	0.30	0.20	0.40	須恵器 (298)	中世		58	

第24表 加納谷内遺跡 柱穴一覧（2）

建物・構	造構	種類	平面形	規模（m）			出土遺物	時期	参考事項	切り合ひ	辨認	写真版	
				長さ	幅	深さ							
SA9	SP101C3	柱穴	楕円	0.30	0.20	0.40		中世			58		
	SP127C3	柱穴	円	0.20	0.20	0.40		中世			58		
	SP129C3	柱穴	楕円	0.30	0.20	0.50		中世			58		
	SP130C3	柱穴	円	0.30	0.30	0.20		中世			58		
	SP136C3	柱穴	円	0.20	0.20	0.45		中世			58		
	SP185C3	柱穴	円	0.25	0.25	0.40		中世			58		
	SP191C3	柱穴	円	0.30	0.30	0.45		中世			58		
	SP192C3	柱穴	楕円	0.40	0.30	0.55		中世			58		
	SP193C3	柱穴	楕円	0.30	0.25	0.50		中世			58		
SA10	SP109C3	柱穴	円	0.35	0.35	0.20		中世			58		
	SP126C3	柱穴	円	0.25	0.25	0.35		中世			58		
	SP131C3	柱穴	円	0.40	0.40	0.45		中世			58		
	SP144C3	柱穴	円	0.70	0.70	0.50		中世			58		
	SP189C3	柱穴	円	0.40	0.40	0.40		中世			58		
SA11	SP95C2	柱穴	円	0.20	0.18	0.16		中世			58		
	SP96C2	柱穴	円	0.18	0.18	0.17		中世			58		
	SP71C2	柱穴	円	0.28	0.20	0.20		中世			58		
	SP73C2	柱穴	円	0.34	0.28	0.16		中世			58		
	SP135C3	柱穴	円	0.20	0.20	0.25		中世			58		
	SP139C3	柱穴	円	0.25	0.25	0.35		中世			58		
SB1	SP504A	柱穴	円	2.60	2.48	0.84	土師器（261）、内黒 土師器、須恵器、中 黄土師器、珠洲、瀬戸 美濃（312）、近畿 陶器、曲物、柱根	中世？		>SP 505A (SB2) · SK510A	42	34	
	SK517A	土坑 (柱穴)	不整	4.80	2.88	0.78	柱根	中世		>SD100A ·< SP519A (SB3) · 526A (SB3) · SK520A · SE564A	42	42	
	SP538A	柱穴	円	0.30	0.26	0.09	柱根	中世			42	34	
	SP542A	柱穴	楕円	0.72	0.44	0.17		中世			42	34	
	SP583A	柱穴	楕円	0.82	0.52	0.16	鐵板	中世			42	34	
	SP593A	柱穴	楕円	0.96	0.68	0.52	柱根 (643)	中世			42	34	
	SP612A	柱穴	不整	0.92	0.80	0.35	柱根	中世～		>SK545A	42	34	
	SP615A	柱穴	不整	2.40	(180)	(662)	中世土師器 (327)、 柱根	中世～		< SK545A <sup>a</sup>	42	34	
	SP628A	柱穴	不整	1.52	0.84	0.43	柱根	中世		< SE569A	42	34	
	SP646A	柱穴	不整	(1.76)	(108)	0.60	柱根	中世～		>SK545A	42	34	
SP1131A	SP1131A	柱穴	(円)	(0.64)	(0.48)	0.52	柱根	中世～		>SD629A · SP1132A (SB1)	42	34	
	SP1132A	柱穴	(円)	(0.50)	(0.40)	0.29	柱根	中世		>SD629A ·< SP1131A (SB1)	42	34	
	SP1145A	柱穴	方	1.08	1.06	0.47	柱根	中世			42	34	
	SP1146A	柱穴	円	(0.54)	(0.38)	0.34	柱根	中世～		>SE595A	42	34	70
	SP1147A	柱穴	不整	1.78	(1.34)	0.72	珠洲 (408)、曲物桶 (576)、板、柱根	中世？		< SP504A (SB1)	43	34	
SB2	SP505A	柱穴	不整	1.14	0.86	0.38	珠洲、柱根	中世～		>SD629A	43	34	
	SP546A	柱穴	円	(1.00)	0.88	0.37	珠洲、柱根 (644)	中世		< SE564A	43	34	
	SP563A	柱穴	楕円	0.92	0.74	0.27	越中瀬戸	近世？			43	34	
	SE614A	井戸	(柱穴)	1.68	1.64	1.06	柱根	中世～		< SK545A	43	34	
	SP1135A	柱穴	円?	0.22	0.16	0.04	柱根	中世		< SK545A?	43	34	
	SP1136A	柱穴	(円)	(0.90)	(0.58)	0.42	柱根	中世		>SE639A ·< SK333A · 545A	43	34	
SB3	SP152A	柱穴	円	0.44	0.44	0.30		中世			43		
	SP325A	柱穴	楕円	0.90	0.76	0.17	中世土師器	中世			43		
	SP401A	柱穴	円	0.64	0.60	0.24		中世			43		
	SP519A	柱穴	楕円	1.04	0.66	0.38	土師器、内黒土師器、 柱根	中世？		>SK517A	43		
	SP526A	柱穴	楕円	0.78	0.40	0.39	柱根	中世～		>SK517A · 527A	43		
	SP1125A	柱穴	楕円	0.60	0.40	0.24		中世			43		
	SP1143A	柱穴	不整	1.58	(0.94)	0.68	柱根	中世			43		
SB4	SP549A	柱穴	楕円	0.48	0.40	0.38	柱根	中世			44		
	SP570A	柱穴	不整	0.76	(0.56)	0.32	柱根	中世		< SE569A	44		
	SP577A	柱穴	不整	(0.88)	0.64	0.28		中世			44		
	SP582A	柱穴	円	0.38	0.32	0.17	柱根	中世			44		

第24表 加納谷内遺跡 柱穴一覧 (3)

建物・構 造構	種類	平面形	規模 (m)			出土遺物	時期	特記事項	切り合	辨認	写真 図版
			長さ	幅	深さ						
SB4	SP1137A	柱穴	不明	0.40	0.36	柱根 (641)	中世			44	
SB5	SP784A	柱穴	円	0.32	0.24	0.10	中世			44	
	SP786A	柱穴	椭円	0.36	0.28	0.11	中世			44	
	SP794A	柱穴	円	0.50	0.36	0.22	中世			44	
	SP901A	柱穴	円	0.52	0.50	0.10	中世			44	
	SP904A	柱穴	円	0.34	0.30	0.10	中世			44	
	SP944A	柱穴	円	0.52	0.40	0.28	中世~			44	
	SP945A	柱穴	椭円	0.56	0.48	0.34	中世			44	
	SP1113A	柱穴	円	0.28	0.28	0.14	中世			44	
SB6	SP45B	柱穴	円	0.30	0.30	0.30	中世			45	35
	SP46B	柱穴	円	0.38	0.32	0.25	中世			45	35
	SP48B	柱穴	円	0.30	0.28	0.08	中世			45	35
	SP52B	柱穴	円	0.40	(0.26)	0.14	中世			45	35
	SP54B	柱穴	円	0.24	0.18	0.11	中世			45 -	35
	SP61B	柱穴	円	0.30	0.28	0.06	中世			45	35
	SP64B	柱穴	円	0.36	0.32	0.18	中世			45	35
	SP68B	柱穴	円	0.38	0.34	0.12	中世			45	35
	SP69B	柱穴	円	0.38	0.32	0.10	柱根			45	35
	SP70B	柱穴	円	0.34	0.28	0.14	中世			45	35
	SP136B	柱穴	円	0.24	0.20	0.10	中世			45	35
SB7	SP43B	柱穴	円	0.40	0.40	0.20	中世			45	35
	SP44B	柱穴	円	0.34	0.32	0.13	中世			45	35
	SP47B	柱穴	円	0.32	0.30	0.32	中世			45	35
	SP49B	柱穴	円	0.34	0.32	0.34	中世			45	35
	SP51B	柱穴	円	0.32	0.31	0.17	中世			45	35
	SP60B	柱穴	円	0.28	0.28	0.16	中世土器			45	35
	SP63B	柱穴	円	0.32	0.30	0.14	中世			45	35
	SP67B	柱穴	円	0.42	0.36	0.12	中世			45	35
	SP159B	柱穴	円	0.32	0.30	0.09	中世			45	35
SB8	SP41B	柱穴	椭円	0.32	0.26	0.14	中世			45	35
	SP43B	柱穴	円	0.36	0.32	0.04	中世			45	35
	SP44B	柱穴	円	0.38	0.34	0.10	中世			45	35
	SP146B	柱穴	円	0.42	0.36	0.12	中世			45	35
	SP147B	柱穴	円	0.36	0.36	0.06	中世			45	35
	SP44B	柱穴	円	0.36	0.34	0.06	中世			45	35
SB9	SP36C1	柱穴	円	0.62	0.52	0.33	中世			46	
	SP96C1	柱穴	不明	(0.54)	0.50	0.13	中世			46	
	SP97C1	柱穴	円	0.64	0.58	0.26	中世			46	
	SP100C1	柱穴	方	0.60	0.62	0.26	中世			46	
	SP105C1	柱穴	円	0.58	(0.38)	0.22	中世			46	
	SP122C1	柱穴	円	0.64	0.52	0.29	中世			46	
SB10	SP261C2	柱穴	円	0.28	0.26	0.20	中世			47	37
	SP262C2	柱穴	円	0.28	0.26	0.14	中世			47	37
	SP263C2	柱穴	円	0.28	0.26	0.28	中世			47	37
	SP264C2	柱穴	円	0.28	0.28	0.21	中世			47	37
	SP265C2	柱穴	円	0.28	0.26	0.26	中世			47	37
	SP266C2	柱穴	椭円	0.34	(0.30)	0.19	中世			47	37
	SP269C2	柱穴	円	0.30	0.26	0.31	中世			47	37
	SP270C2	柱穴	円	0.28	0.26	0.21	中世			47	37
SB11	SP10C2	柱穴	椭円	0.56	0.46	0.26	中世			47	36
	SP12C2	柱穴	円	0.38	0.36	0.36	中世			47	36
	SP33C2	柱穴	円	0.28	0.28	0.32	中世			47	36
	SP34C2	柱穴	円	0.40	0.38	0.36	中世			47	36
	SP35C2	柱穴	円	0.32	0.32	0.32	中世			47	36
	SP75C2	柱穴	円	0.36	0.36	0.40	中世			47	36
	SP309C2	柱穴	円	0.28	0.22	0.37	中世			47	36
	SP310C2	柱穴	円	0.36	0.36	0.17	鳥糞			47	36
	SP311C2	柱穴	円	0.40	0.36	0.26	中世			47	36
	SP312C2	柱穴	円	0.32	0.32	0.44	中世			47	36
	SP314C2	柱穴	円	0.30	0.30	0.60	中世			47	36
	SP318C2	柱穴	円	0.22	0.20	0.19	中世			47	36
	SP319C2	柱穴	円	0.20	0.18	0.16	中世			47	36
	SP320C2	柱穴	円	0.18	0.18	0.16	中世			47	36
	SP321C2	柱穴	円	0.28	0.22	0.20	中世			47	36
SB12	SP7C2	柱穴	円	0.50	0.48	0.32	中世			48	36
	SP13C2	柱穴	円	0.56	0.48	0.48	中世			48	36
	SP14C2	柱穴	円	0.56	0.44	0.34	中世			48	36

第24表 加納谷内遺跡 柱穴一覧 (4)

建物・構	通構	種類	平面形	規模 (m)			出土遺物	時期	参考事項	切り合ひ	辨認	写真 図版
				長さ	幅	深さ						
SB12	SP15C2	柱穴	円	0.48	0.48	0.39		中世			48	36
	SP21C2	柱穴	椭円	0.60	0.44	0.34		中世			48	36
	SP31C2	柱穴	円	0.76	0.68	0.66		中世			48	36
	SP36C2	柱穴	椭円	0.44	0.30	0.36		中世			48	36
	SP306C2	柱穴	円	0.46	0.42	0.32		中世			48	36
	SP307C2	柱穴	円	0.46	0.40	0.33		中世			48	36
	SP308C2	柱穴	円	0.58	0.54	0.40		中世			48	36
	SP322C2	柱穴	円	0.48	0.42	0.30		中世			48	36
	SP323C2	柱穴	円	0.38	0.30	0.29		中世			48	36
	SP325C2	柱穴	円	0.30	0.28			中世			48	36
	SP326C2	柱穴	円	0.36	0.36	0.52		中世	< SD3C2		48	36
	SP327C2	柱穴	円	0.26	0.20	0.34		中世			48	36
	SP329C2	柱穴	円	0.28	0.24	0.38		中世			48	36
	SP333C2	柱穴	円	0.44	0.44	0.46		中世	< SP334C2 (SB13)		48	36
	SP338C2	柱穴	円	0.38	0.34	0.29		中世			48	36
SB13	SP21C2	柱穴	椭円	0.60	0.44	0.34		中世			49	
	SP24C2	柱穴	円	0.32	0.28	0.34		中世			49	
	SP25C2	柱穴	円	0.36	0.36	0.32		中世			49	
	SP79C2	柱穴	円	0.34	0.32	0.41		中世	> SD78C2		49	
	SP328C2	柱穴	円	0.26	0.26	0.28		中世			49	
	SP330C2	柱穴	円	0.30	0.28			中世			49	
	SP331C2	柱穴	円	0.26	0.26	0.01		中世			49	
	SP334C2	柱穴	円	0.30	0.28	0.45		中世	> SP333C2 (SB12)		49	
	SP335C2	柱穴	円	0.28	0.24	0.02		中世			49	
	SP336C2	柱穴	円	0.52	0.28	0.16		中世			49	
SB14	SP338C2	柱穴	円	0.36	0.36	0.24		中世			49	
	SP340C2	柱穴	円	0.30	0.26	0.28		中世			49	
	SP17C2	柱穴	円	0.32	0.28	0.23		中世			49	
	SP20C2	柱穴	円	0.46	0.36	0.37		中世			49	
	SP22C2	柱穴	円	0.32	0.28	0.29		中世			49	
	SP23C2	柱穴	円	0.34	0.28	0.26		中世			49	
	SP26C2	柱穴	椭円	0.48	0.36	0.24		中世			49	
	SP28C2	柱穴	円	0.28	0.20	0.50		中世			49	
	SP337C2	柱穴	円	0.30	0.26	0.19		中世			49	
	SP341C2	柱穴	円	0.26	0.24	0.22		中世			49	
SB15	SP26C2	柱穴	椭円	0.48	0.36	0.24		中世			50	
	SP30C2	柱穴	円	0.40	0.36	0.48		中世			50	
	SP46C2	柱穴	円	0.36	0.32	0.34		中世			50	
	SP48C2	柱穴	円	0.40	0.36	0.40		中世			50	
	SP57C2	柱穴	円	0.40	0.36	0.30		中世			50	
	SP113C2	柱穴	円	0.30	0.28	0.19		中世			50	
	SP114C2	柱穴	円	0.38	0.28	0.38		中世			50	
	SP115C2	柱穴	円	0.24	0.20	0.14		中世			50	
	SP343C2	柱穴	円	0.42	0.40			中世			50	
	SP345C2	柱穴	円	0.28	0.24			中世			50	
	SP344C2	柱穴	円	0.34	0.32	0.27		中世			50	
	SP345C2	柱穴	円	0.36	0.34	0.19		中世			50	
	SP346C2	柱穴	円	0.36	0.34	0.25		中世			50	
	SP347C2	柱穴	円	0.36	0.32	0.53		中世			50	
	SP348C2	柱穴	円	0.28	0.28	0.45		中世			50	
	SP349C2	柱穴	円	0.40	0.34	0.35		中世			50	
	SP350C2	柱穴	円	0.32	0.32	0.44		中世			50	
SB16	SP87C2	柱穴	円	0.38	0.38	0.14		中世			51・ 52	36
	SP88C2	柱穴	椭円	0.60	0.44	0.48		中世			51・ 52	36
	SP89C2	柱穴	椭円	0.60	0.42	0.57		中世			51・ 52	36
	SP90C2	柱穴	円	0.46	0.46	0.38		中世			51・ 52	36
	SP92C2	柱穴	椭円	0.62	0.44	0.34		中世			51・ 52	36
	SP97C2	柱穴	椭円	0.72	0.34	0.34		中世			51・ 52	36
	SP109C2	柱穴	円	0.52	0.44	0.42		中世		> SK110C2	51・ 52	36

第24表 加納谷内遺跡 柱穴一覧（5）

建物・構	造構	種類	平面形	規模（m）			出土遺物	時期	特記事項	切り合い	堆因	写真 図版
				長さ	幅	深さ						
SB16	SP117C2	柱穴	不整	0.80	0.58	0.35		中世			51・ 52	36
	SP121C2	柱穴	円	0.46	0.44	0.38		中世			51・ 52	36
	SP123C2	柱穴	楕円	0.50	0.36	0.45	柱根	中世			51・ 52	36
	SP129C2	柱穴	円	0.42	(0.29)	0.38		中世		<SK128C2	51・ 52	36
	SP131C2	柱穴	円	0.48	0.44	0.28		中世		<SK132C2	51・ 52	36
	SP133C2	柱穴	楕円	0.48	0.34	0.32		中世			51・ 52	36
	SP136C2	柱穴	円	0.50	0.38	0.28		中世			51・ 52	36
	SP140C2	柱穴	円	0.38	0.24	0.36		中世		<SK141C2	51・ 52	36
	SP145C2	柱穴	円	0.56	0.44	0.38	中国製白磁（472）	中世			51・ 52	36
	SP153C2	柱穴	楕円	0.60	0.36	0.10		中世			51・ 52	36
	SP154C2	柱穴	円	0.36	0.32	0.48		中世			51・ 52	36
	SP155C2	柱穴	楕円	0.66	0.44	0.26		中世			51・ 52	36
	SP159C2	柱穴	楕円	0.68	0.34	0.38		中世			51・ 52	36
	SP160C2	柱穴	楕円	0.84	0.64	0.29	珠渦、柱根	中世			51・ 52	36
	SP173C2	柱穴	円	0.68	0.64	0.36		中世			51・ 52	36
	SP194C2	柱穴	円	0.44	0.36	0.37		中世			51・ 52	36
	SP197C2	柱穴	楕円	0.68	0.48	0.40		中世			51・ 52	36
	SP237C2	柱穴	円	0.40	0.36	0.24		中世			51・ 52	36
	SP239C2	柱穴	円	0.38	0.38	0.15		中世			51・ 52	36
	SP253C2	柱穴	円	0.42	0.34	0.40		中世			51・ 52	36
	SP254C2	柱穴	楕円	0.56	0.36	0.26		中世			51・ 52	36
	SP258C2	柱穴	円	0.36	0.28	0.20	鏡	中世			51・ 52	36
	SP352C2	柱穴	円	0.44	0.44	0.15		中世		<SD169C2	51・ 52	36
SB17	SP353C2	柱穴	楕円	0.78	0.56	0.36		中世		<SD169C2	51・ 52	36
	SP354C4	柱穴	円	0.64	0.58	0.32		中世		<SD169C2	51・ 52	36
	SP355C2	柱穴	円	0.60	(0.56)	0.27		中世			51・ 52	36
	SP356C2	柱穴	円	0.38	0.36	0.26		中世		<SD169C2	51・ 52	36
	SP357C2	柱穴	円	0.36	0.32	0.31		中世			51・ 52	36
	SP358C2	柱穴	不整	0.50	0.30	0.26		中世			51	36
	SP81C2	柱穴	円	0.28	0.26	0.32		中世			50	36
	SP86C2	柱穴	円	0.32	0.24	0.36		中世			50	36
	SP93C2	柱穴	円	0.44	0.40	0.39		中世			50	36
	SP105C2	柱穴	不整	0.48	0.44	0.35		中世			50	36
SB18	SP106C2	柱穴	不整	0.58	0.42	0.36	柱根	中世			50	36
	SP108C2	柱穴	円	0.32	0.30	0.08	須恵器、珠渦	中世			50	36
	SP138C2	柱穴	円	0.24	0.22	0.28		中世			50	36
	SP146C2	柱穴	円	0.28	0.24	0.38		中世			50	36
	SP151C2	柱穴	楕円	0.40	0.34	0.22		中世			50	36
	SP172C2	柱穴	円	0.38	0.34	0.26		中世			50	36
	SP150C2	柱穴	円	0.26	0.24	0.08		中世			53	
	SP170C2	柱穴	円	0.32	0.32	0.38		中世			53	
SB19	SP176C2	柱穴	円	0.32	0.30	0.24		中世			53	
	SP180C2	柱穴	円	0.30	0.24	0.18		中世			53	
	SP182C2	柱穴	円	0.32	0.28	0.12		中世			53	

第24表 加納谷内遺跡 柱穴一覧 (6)

建物・構	造構	種類	平面形	規模 (m)			出土遺物	時期	参考事項	切り合ひ	辨認	写真版
				長さ	幅	深さ						
SB18	SP188C2	柱穴	円	0.24	0.24	0.10		中世			53	
	SP191C2	柱穴	円	0.24	0.24	0.08		中世			53	
	SP245C2	柱穴	円	0.36	0.24	0.22		中世			53	
	SP246C2	柱穴	円	0.34	0.30	0.24		中世			53	
SB19	SP118C2	柱穴	円	0.54	0.52	0.28	土師器	中世			53	
	SP119C2	柱穴	円	0.44	0.40	0.30		中世			53	
	SP162C2	柱穴	円	0.28	0.26	0.14		中世			53	
	SP165C2	柱穴	円	0.36	0.32	0.34		中世			53	
	SP167C2	柱穴	円	0.28	0.28	0.28		中世			53	
	SP175C2	柱穴	円	0.32	0.28	0.32		中世			53	
	SP182C2	柱穴	円	0.50	0.35	0.13		中世			54	
SB20	SP142C3	柱穴	椭円	0.50	0.35	0.13		中世			54	
	SP144C3	柱穴	椭円	0.35	0.30	0.20		中世			54	
	SP155C3	柱穴	円	0.30	0.30	0.35		中世			54	
	SP166C3	柱穴	椭円	0.40	0.30	0.30		中世			54	
	SP177C3	柱穴	円	0.30	0.30	0.25		中世			54	
	SP183C3	柱穴	円	0.30	0.30	0.15		中世			54	
	SP193C3	柱穴	円	0.30	0.30	0.20		中世			54	
	SP311C3	柱穴	円	0.30	0.30	0.30		中世			54	
	SP323C3	柱穴	円	0.20	0.20	0.20		中世			54	
SB21	SP404C3	柱穴	円	0.25	0.25	0.30		中世			55	
	SP411C3	柱穴	円	0.30	0.30	0.20		中世			55	
	SP424C3	柱穴	円	0.25	0.25	0.35		中世			55	
	SP434C3	柱穴	円	0.35	0.35	0.40		中世			55	
	SP181C3	柱穴	円	0.25	0.25	0.23		中世			55	
	SP182C3	柱穴	円	0.25	0.25	0.29		中世			55	
	SP454C3	柱穴	円	0.30	0.30	0.30		中世			54	37
SB22	SP464C3	柱穴	円	0.20	0.20	0.30		中世			54	37
	SP474C3	柱穴	円	0.30	0.30	0.25		中世	柱痕		54	37
	SP484C3	柱穴	椭円	0.40	0.30	0.50		中世			54	37
	SP505C3	柱穴	円	0.25	0.25	0.25	土師器	中世			54	37
	SP514C3	柱穴	椭円	0.55	0.40	0.45	土師器	中世			54	37
	SP525C3	柱穴	椭円	0.30	0.25	0.55		中世	柱痕		54	37
	SP535C3	柱穴	円	0.30	0.30	0.50		中世	柱痕		54	37
	SP545C3	柱穴	円	0.35	0.35	0.45	土師器	中世			54	37
	SP555C3	柱穴	円	0.35	0.35	0.45		中世	柱痕		54	37
	SP566C3	柱穴	椭円	0.55	0.35	0.45		中世			54	37
SB23	SP575C3	柱穴	椭円	0.40	0.30	0.55	土師器	中世			54	37
	SP595C3	柱穴	円	0.40	0.40	0.45		中世			54	37
	SP606C3	柱穴	円	0.30	0.30	0.30		中世			54	37
	SP103C3	柱穴	椭円	0.50	0.40	0.50		中世			55	37
	SP107C3	柱穴	円	0.35	0.35	0.45		中世			55	37
	SP111C3	柱穴	円	0.30	0.30	0.60		中世			55	37
	SP113C3	柱穴	円	0.35	0.35	0.50	土師器	中世			55	37
SB24	SP117C3	柱穴	円	0.30	0.30	0.15		中世			55	37
	SP119C3	柱穴	円	0.25	0.25	0.13		中世		>SK120C3	55	37
	SP105C3	柱穴	円	0.20	0.20	0.20		中世			55	37
	SP108C3	柱穴	円	0.20	0.20	0.40		中世			55	37
	SP114C3	柱穴	円	0.30	0.30	0.35		中世			55	37
	SP115C3	柱穴	円	0.30	0.30	0.25		中世			55	37
	SP116C3	柱穴	円	0.25	0.25	0.60		中世			55	37
SB25	SP118C3	柱穴	椭円	0.25	0.20	0.30		中世			55	37
	SK120C3	土坑 (柱穴)	隅丸方	3.00	3.00	0.55	須恵器・中世土師器	中世	<SP119C3 (SB23)		55	37
	SP123C3	柱穴	椭円	1.50	1.20	0.40		中世			56	37
	SP155C3	柱穴	椭円	0.60	0.40	0.30		中世			56	37
	SP157C3	柱穴	椭円	0.60	0.40	0.45		中世			56	37
	SP162C3	柱穴	円	0.30	0.30	0.40		中世			56	37
	SP163C3	柱穴	椭円	0.50	0.40	0.30		中世			56	37
SB26	SP164C3	柱穴	椭円	0.60	0.30	0.40		中世			56	37
	SP166C3	柱穴	円	0.30	0.30	0.40		中世			56	37
	SP88C3	柱穴	円	0.85	0.85	0.30		中世			56	37
	SP97C3	柱穴	円	0.60	0.60	0.15		中世			56	37
	SP98C3	柱穴	円	0.60	0.60	0.40		中世			56	37
	SP148C3	柱穴	椭円	0.45	0.40	0.20		中世			56	37
SB27	SP151C3	柱穴	椭円	0.35	0.25	0.25		中世			56	37
	SP154C3	柱穴	円	0.40	0.40	0.20		中世			56	37
	SP161C3	柱穴	椭円	0.50	0.40	0.35		中世			56	37

第25表 加納谷内遺跡 井戸一覧 (1)

遺構	平面形	規模 (m)			出土遺物	時期	特記事項	切り合い	伴同	写真版
		長さ	幅	深さ						
SE172A	円	1.92	1.70	0.80	中世土師器、曲物、円形板 (602)	中世			59	38
SE495A	不整	3.08	(2.32)	0.67	中世土師器 (373)、珠洲、瀬戸、木口 (594)、板材	中世			67	38
SE531A	(円)	(1.86)	1.32	0.80	中世土師器、曲物桶 (578)	中世			39	
SE564A	不整	1.64	1.26	1.02	須恵器、中世土師器 (328)、珠洲 (405)、越前、桶、柱根 (640・642・647)	中世	>SP563A(SB2)・566A(SA2)・SK517A		69	38
SE569A	不整	2.24	2.12	1.44	中世土師器 (356)、珠洲 (403)、中国製青磁 (450)、桶 (579)、宝鏡印符 (663)、板碑 (671)	中世～	>SP562A(SB1)・570A(SB4)		68	39
SE574A	五角形	1.10	1.04	1.34	珠洲、瀬戸、近畿磁器	中世～			80	39
SE595A	不整	2.52	1.68	0.88	珠洲 (429)、八尾、曲物桶 (580)、円形板 (600)、パンドコ (676)	中世～	<SP1146A(SB1)		70	38
SE596A	不整	1.64	1.64	1.00	中世土師器 (321・366)、曲物桶 (581)、板碑 (665・666)	中世～	>SK510A		69	39
SE609A	円	1.06	1.06	0.56	曲物桶 (577)	中世?	<SK545A		59	39
SE614A	不整	1.68	1.64	1.06	柱根	中世～	<SK545A		81	40
SE630A	不整	2.60	2.24	1.20	桶、網 (621)、円形板 (595・604)、砥石 (683)	中世～	>SK510A		75	40
SE639A	不整	1.92	1.84	0.84	土師器 (362)、中世土師器 (348)、珠洲 (432)、板材	中世	<SP1136A(SB2)・SK545A		39	
SE640A	円	0.72	0.64	0.55	折敷 (614)、桶	中世	<SK545A		59	39
SE669A	不整	1.60	1.48	0.80	瀬戸	近世			71	40
SE671A	(円)	1.64	1.60	0.81	須恵器、珠洲、曲物桶 (584)	中世			60	39
SE680A	不整	(1.56)	(1.16)	0.76	曲物桶 (579)	中世～			39	
SE682A	円	1.52	1.56	0.82	曲物桶 (582)、織物	中世?	<SK683A		76	41
SE717A	(円)	2.72	2.40	1.16		中世			73	41
SE796A	(円)	1.68	1.50	1.01	珠洲、砥石、織	中世			63	41
SE867A	(円)	1.40	1.20	0.53	曲物桶 (583)、円形板 (607)、板材、焼石	中世～	<SK791A		64	42
SE1134A	不明	0.98	0.88	1.08	珠洲、曲物桶 (573)、網杓、井戸水溜 (680)				82	42
SE111B	円	2.12	2.06	1.08	須恵器、中世土師器 (338・354)、珠洲 (437)、中国製白磁、中国製青磁 (456)、越中瀬戸、唐津 (527)、伊万里、不明磁器、漆器碗 (567)、箸、曲物、織材、銅鏡 (699)	近世	>SK80B・SD92B・13HB		74	42
SE156B	楕円	2.10	1.58	0.60	土師器、中世土師器、曲物桶 (590・591)、箸、円形板、板材、竹状陶材 (633)	中世	<SK1B		61	42
SE201B		0.48	0.46	0.41	中世土師器、棒材、井戸口	中世	<SK1B		83	43
SE202B	六角形	1.04	1.00	0.82		中世	<SK1B		83	43
SE323B	楕円	1.56	1.26	0.86	曲物、杓子 (628・629)、網 (622)、円形板 (605・606・608・609・612・613)、井戸部材。板材 (636)、棒材	中世			72	43
SE336B	楕円	(1.54)	1.38	0.68	中世土師器、珠洲、別物、曲物桶 (592)、箸、板材、杓子 (637)	中世			61	43
SE4C1	不整	1.76	1.72	0.91	漆器碗 (565)		<SE5C1		77	44
SE5C1	円	(1.56)	1.56	0.95			>SE4C1		77	44
SE112C1	不整	0.76	0.72	0.06	珠洲 (419)、井戸口棒	中世	<SE185C1		40	
SE149C1	不整	3.10	1.60	0.27	板碑 (672)	近代			40	
SE185C1	不整	(3.04)	2.54	1.07	中世土師器 (326・341)、珠洲、曲物桶 (585)、漆器碗 (569)、折敷 (615)、井戸口棒	中世	>SE112C1		65	43
SE191C1	楕円	4.84	3.00	1.08	中世土師器 (353)、珠洲、曲物桶 (587)	中世	>SD750C1		40	
SE201C1	隅丸方	1.52	1.20	0.68			<SK8C1		82	45
SE280C1	不整	2.32	2.28	0.97	珠洲 (422)、円形板	中世			40	
SE326C1	不整	1.88	1.60	1.04	珠洲、円形板 (597)、蓋 (617)	中世			66	44

第25表 加納谷内遺跡 井戸一覧（2）

造構	平面形	規模 (m)			出土遺物	時期	登記事項	切り合い	挿図	写真 図版
		長さ	幅	深さ						
SE339C1	円?		1.98	1.90	1.16 珠洲 (407・423), 曲物桶 (586), 錆器, 凹形板 (603), 部材 (625)	中世			62	45
SE420C1	円	0.92	0.90	0.48	珠洲 (394), 曲物	中世			72	44
SE555C1	椭円?	1.54	(1.12)	0.73 五輪塔 (661), 板牌 (667) ~670)	中世～近世				40	
SE590C1	円	2.28	1.88	0.48 珠洲, 曲物桶 (588)	中世				40	
SE591C1	不整	2.56	1.80	0.77 曲物桶 (589), 部材 (624)	中世～近世	<SE592C1			78	45
SE592C1	円	1.50	1.28	0.49 珠洲	中世	>SE591C1 - 593C1			40	45
SE593C1	不整	3.32	2.84	1.05 木臼 (593)	中世～近世	<SE592C1			79	45 ~ 46
SE594C1	椭円	2.30	1.34	0.44 珠洲, 部材 (630)	中世				40	
SE532C2	椭円	5.60	4.76	(1.01) 土師器, 珠洲 (391・ 416), 中国製白磁, 椅材, 鐵滓	中世				84	
SE91C2	円	1.18	1.00	0.76	中世～近世				85	
SE73C3	椭円	1.10	0.80	0.85	中世				85	46
SE140C3	椭円	1.75	1.25	1.25 珠洲	中世				85	46
SE146C3	椭円	1.60	1.00	1.25 中世土師器 (372)	中世				85	

第26表 加納谷内遺跡 石敷一覧

造構	平面形	規模 (m)			出土遺物	時期	登記事項	切り合い	挿図	写真 図版
		長さ	幅	深さ						
SX191B	椭円	10.88	7.56	0.62 鍋文土器, 中世土師器 (377), 珠洲 (413), 瓦質 土器, 漢戸, 磁器, 越中漬戸, 伊万里, 小明治器, 錆器 (566・571), 楠脚物 (573), 円形板 (598), 板 材, 温石 (675), パンド コ (674), 瓜石 (686), 剥片, 烧石, 不明石製品, 鉄釘, 伽藍?	中世～近世			>SD140B・ SK208B	86	47 ~ 48
SX350B	不整	(6.70)	4.24	0.48 鍋文土器, 珠洲, 曲物, 杓子 (627)	中世～近世				87	47
SX351B	不整	(11.54)	7.68	0.37 中世土師器 (368), 珠洲, 瓦質土器 (379), 不明治 器	中世～近世				49	47
SX726C1	不整	6.68	6.12	0.38 弥生土器 (180), 中世土 師器, 珠洲, 漢戸	中世～近世			<SD1C1・ SK8C1	88	47

第27表 加納谷内遺跡 土坑一覧 (1)

遺構	平面形	規模 (m)			出土遺物	時期	特記事項	切り合い	挿図	写真 図版
		長さ	幅	深さ						
SK338A	楕円	0.72	0.56	0.20	縄文土器 (30)	縄文	埋設土器		36	26
SK757A	円	0.40	0.36	0.28	縄文土器 (70)	縄文?			39	
SK1038A	不整	3.16	2.18	0.27	縄文土器 (38・40・48・50・52), 粘土塊	縄文			36	26
SK1130A	円	0.54	0.52	—	縄文土器 (31)	縄文	埋設土器		36	26
SK404C2	不整	2.88	(1.30)	0.05	石錐 (120)	縄文			35	
SK407C2	楕円	2.68	1.64	0.29	石錐	縄文			37	
SK410C2	円	1.24	1.18	0.40		縄文	集石土坑		37	27
SK413C2	不整	3.68	1.72	0.31	縄文土器 (8・10), 石錐 (122)	縄文			37	27
SK425C2	楕円	1.08	1.00	0.21	石錐 (119)	縄文	集石土坑		37	
SK202C3	楕円	0.60	0.46	0.25	縄文土器	縄文			37	
SK205C3	不整	3.70	1.82	0.25	縄文土器 (J・4), 石錐 (127)	縄文			37	27
SK217C3	楕円	0.98	0.96	0.10	石錐 (123・129・131)	縄文			37	
SK219C3	不整	10.60	6.32	0.10	石錐 (121)	縄文			35	
SK95A	不整	(4.96)	4.02	0.70	縄文土器 (42・47・67), 土師器, 須恵器, 中世土師器 (324), 越中繩戸, 土錐 (518)	中世	複数の土坑 が重複	<SP115A (SA1)・ 1140A (SA1)・ SD100A	39	
SK119A	楕円	1.20	0.72	0.28	縄文土器 (26・68), 土師器				39	
SK314A	不整	3.82	3.80	0.64	中世土師器 (325・336), 珠洲 (390・400・436), 瓦質土器, 梁付, 越前	中世～	蓄池状遺構	>SD300A・SK683A	94	
SK510A	不整	(7.24)	6.48	0.81	土師器, 中世土師器 (343・346), 珠洲, 越前, 煙管 (698)	中世～	蓄池状遺構	<SP504A (SB1)・ SE96A・630A	39	
SK517A	不整	4.80	2.88	0.78	土師器 (267), 珠洲, 越中繩戸, 陶器皿 (568), 柱根	中世	複数の土坑 が重複	>SD100A・ <SP519A (SB3)・ 526A (SB3)・ SK520A・SE564A	39	
SK520A	不整	3.64	0.88	0.92	柱根 (649), 織盤	中世?	複数の土坑 が連続	>SK517A・SD100A	39	
SK527A	(楕円)	(0.58)	(0.48)	0.41	珠洲, 瀬戸, 塗器模 (564)	中世		<SP526A (SB3)	39	
SK533A	円	0.30	0.26	0.09	土師器, 中世土師器 (316)			>SP1136A (SB2)・ SK545A	39	
SK544A	不整	2.52	2.10	0.10	曲物				89	
SK545A	不整	8.08	6.68	0.49	須恵器, 珠洲, 瀬戸, 越中繩戸 (482・501), 近世陶器 (547), 下駄 (619)	中世～		>SP615A (SB1)・? 1135A (SB2)・? 1136A (SB2)・ SD629A・SE609A・ 614A・639A・640A, <SP612A (SB1)・ 646A (SB1)・SK533A	39	50
SK551A	不整	1.76	0.98	0.70	珠洲, 越中繩戸 (486)	中世～			39	
SK619A	不整	4.82	3.72	0.74	珠洲, 瓦質土器, 中国製白磁, 近世 越中繩戸 (492・497・501), 衛津 (524・540), 伊万里, 近世 陶器 (547), 瓷石 (684)	中世			89	
SK664A	円	2.04	1.70	0.92	珠洲, 宝鏡印塔 (662)	中世		>SK666A	39	
SK665A	円	(3.24)	(2.94)	1.08	須恵器, 唐津 (526), 瓷石	近世?		>SK666A	39	
SK666A	不整	17.08	10.12	1.11	土師器, 須恵器, 中世土師器 (349), 珠洲 (411・415・426), 越前, 瓦質土器, 中国 製白磁 (471), 中国製青磁 (429・440), 越中繩戸 (493・499・502), 江津 (525・540), 近世 陶器皿, 曲物, 下駄 (618), 石臼 (677), 瓷石 (687), クマダ形瓦製器 (697)	中世～近世	蓄池状遺構	<SK664A・665A	95	50
SK683A	不整	9.64	9.52	0.68	珠洲, 中国製白磁 (468), 中国 製青磁, 瓷石 (105)	中世	蓄池状遺構	>SD380A・SE682A, <SK314A	94	50
SK791A	不整	8.48	6.68	0.70	須恵器, 珠洲 (395), 中国製 青磁 (441)	中世	蓄池状遺構	>SE867A	94	50
SK908A	不整	1.84	0.88	0.40	縄文土器, 中世土師器 (358)				39	
SK911A	隅丸方	3.20	2.22	0.64	珠洲	中世			90	
SK921A	不整	4.56	3.72	0.80	珠洲	中世～	蓄池状遺構		89	
SK922A	隅丸方	5.38	4.44	0.58	土師器, 須恵器, 珠洲, 中国 製白磁, 石錐 (102)	中世～	蓄池状遺構		90	
SK1028A	円	3.20	3.02	0.72	中世土師器 (367), 珠洲	中世	蓄池状遺構		89	
SK1060A	(円)	1.28	1.06	0.20	中世土師器 (369)	中世			39	
SK1091A	不整	3.40	(1.58)	0.29	土師器 (266)				39	

第27表 加納谷内遺跡 土坑一覧（2）

通構	平面形	規模 (m)			出土遺物	時期	登記事項	切り合い	挿図	写真 版面
		長さ	幅	深さ						
SK1B	不整	(22.28)	12.70	0.56	縄文土器、須恵器、中世土師器(322)、珠洲、越前、中国製白磁(474・475)、中国製青磁(445・456)、瀬戸美濃、越中瓢箪(494-498)、唐津(530)、伊万里(544)、近世陶器(545)、漆器類(563)、折敷枕板(616)、円形板(611)、部材(620・634・635)、柱根(651-653)、磨製石斧(92)、石臼(678)、砾石(685)、火打石、鋼錢(701-707)	近世		>SE156B・201B・202B・SK122B	40	
SK2B	楕円	2.74	1.58	0.31	中世土師器、珠洲(431)、越中瓢箪(491・504・508)、唐津(534・537)、伊万里(541・542)、近世陶器(545)、砾石、不明石製品、鉛錠	近世		>SD3B	90	49
SK4B	不整	1.52	0.86	0.19	土師器、角材(638)	中世～近世				40
SK5B	円	4.40	3.94	0.90	土師器(263)、須恵器、中世土師器(320)、中国製白磁(460)、砾石、棒材	中世		>SP52B(SB6)	45	
SK56B	円?	2.20	1.60	0.60	縄文土器、須恵器、中世土師器、珠洲、中国製白磁(467・479)	中世				92
SK78B	楕円	5.46	4.28	0.76	中世土師器、珠洲(406・433)、バンド型(673)	中世		>SD92B・131B	91	49
SK79B	円	3.38	3.34	0.46	板材(654)、部材(632)、磨製石斧(93)、石塔(664)、五輪塔(658)	中世		溜池状遺構		92
SK80B	円	1.90	(0.75)	0.42		中世		>SK93B, <SE111B・SD92B・ SD131B	92	
SK93B	椭円	3.16	2.70	0.82	土師器、中世土師器	中世		溜池状遺構	<SK90B	92
SK122B	不整	1.18	0.56	0.16	中世土師器(339)	中世～近世		<SK1B	40	
SK208B	不整	2.08	1.04	0.40	中世土師器(362)	中世		<SX191B	40	
SK224B	不整	0.44	0.28	0.06	中世土師器(331)	中世			40	
SK242B	円	0.50	0.44	0.22	中国製青磁(438)	中世			40	
SK305B	隅丸方	3.22	2.96	0.46	中世土師器、珠洲(388)、瓦質土器、五輪塔(659)	中世		溜池状遺構	93	49
SK330B	不整	(3.36)	3.26	0.57	中世土師器、珠洲、中国製青磁(447)、砾石	中世		溜池状遺構	93	
SK342B	不整	1.68	1.68	0.26	珠洲、用途不明木製品(631)	中世		>SK343B	40	
SK343B	不整	3.70	2.22	0.30	珠洲(413)	中世		<SK342B	40	
SK356B	不整	2.56	1.54	0.47	中世土師器(335)	中世			40	
SK357B	不整	2.24	(0.76)	0.14	縄文土器、須恵器(284・293)、中世土師器	中世			39	
SK2C1	隅丸方	9.76	7.56	1.22	珠洲(423)、近世陶磁器	近世		溜池状遺構	40	
SK8C1		(18.52)	13.24	0.70	土師器、須恵器、珠洲(384)、越中瓢箪(?)、近世陶器、漆器	近世		>SE201C1・ SX726C1, <SD1C1	40	
SK146C1	円	0.42	0.32	0.41	中国製青磁(452)、近世陶器	近世			40	
SK230C1	椭円	0.36	0.24	0.26	珠洲(423)				40	
SK260C1	隅丸方	2.32	1.96	0.64	土師器(247)	中世			40	
SK314C1	不整	0.64	0.34	0.24	中世土師器(330)	中世前半			40	
SK322C1	椭円	0.38	0.30	0.27	中世土師器(340)	中世前半			40	
SK349C1	隅丸方	0.50	0.40	0.05	珠洲(396)	中世			40	
SK375C1	円	0.84	0.74	0.44	中世土師器(364)	中世前半			40	
SK400C1	椭円	3.34	2.56	0.66	珠洲	中世			93	
SK401C1	不整	(5.10)	3.46	0.70	中世土師器(319)、珠洲	中世後半		>SD111C1・ 221C1	93	
SK434C1	椭円	0.66	0.56	0.10	中世土師器(370)	中世			40	
SK440C1	隅丸方?	0.88	(0.44)	0.44	土師(517)				40	
SK682C1	不明	(7.40)	2.64	0.79	珠洲(410)			<SD1C1・ 403C1	40	
SK525C2	隅丸方	12.04	8.44	1.06	土師器、珠洲、中国製白磁、板材(626)	中世			96	50
SK110C2	椭円							<SP109C2(SB16)	52	
SK128C2	円	0.32	0.32	0.36				>SP129C2(SB16)	52	
SK132C2	円	0.36	0.30	0.31	中国製白磁(478)	中世		>SP131C2(SB16)	52	
SK141C2	円							>SP140C2(SB16)	52	
SK241C2	隅丸方	3.34	3.20	0.50	中世土師器(323)、珠洲、越中瓢箪(?)、屈器、桶掛板	近世			41	

第27表 加納谷内遺跡 土坑一覧（3）

遺構	平面形	規模（m）			出土遺物	時期	特記事項	切り合い	挿図	写真 図版
		長さ	幅	深さ						
SK242C2	不整	17.84	8.00	0.95	土師器、須恵器（282）、中世土師器、珠洲（418・428）、中國製白磁（457）、中國製青磁（453）、瀬戸美濃（305～307）、越中繩目（487・503・510）、唐津（522・531・535・539）、伊万里、近世陶器（548）、漆器楓（570）、円形板（569）、作業台（639）、曲物楓（574）、砥石（688・690・691）、五輪塔	近世			95	
SK120C3	隅丸方	3.00	3.00	0.55	須恵器、中世土師器（251）	中世		<SP119C3 (SR23)	92	50
SK170C3	隅丸方	6.40	5.50	0.80	土師器、須恵器、珠洲	中世			96	50

第28表 加納谷内遺跡 溝・自然流路一覧（1）

遺構	種類	規模（m）		出土遺物	時期	特記事項	切り合い	挿図	写真 図版
		幅	深さ						
SD1A	自然流路	7.14	0.30	縄文土器（59）、土師器、須恵器、中世土師器（334）、珠洲、八尾、中國製青花、越中繩目、近世陶器		SD2Aと合流		39	
SD2A	自然流路	(2.04)	(0.64)	縄文土器、土師器、須恵器、中世土師器、珠洲（383）、瓦質土器（378）、中國製白磁（476）、中國製青磁（444）、越中繩目、近世陶器組、磨製石器（84）、石器（101・103）		SD1A・4Aと合流	>SD380A	39	
SD4A	自然流路	(2.10)	(0.96)	縄文土器（35・71・72）、弥生土器（210・236）、土師器（264・265）、内側土師器、須恵器（271・272）、中世土師器（317）、近世組器、楓（551）、円形板（610）、板材、石碑（125）		SD2Aと合流		39	
SD100A	溝	(1.12) /0.52/0.65	0.46/0.27/ 0.33	縄文土器（54）、中世土師器	中世？		>SK96A、 <SK517A・520A	39- 97	
SD300A	溝	0.37	0.12	縄文土器			<SK31A	36	
SD380A	溝	0.90/0.85 (1.40) /1.17	0.16/0.12 0.22/0.24	中世土師器（371）、珠洲、	中世？		>SP117A (SA3)、 <SD2A・SK683A	36- 39- 97	
SD410A	溝	1.10/0.88	0.22/0.20	縄文土器				39- 97	
SD629A	溝	0.92/0.82	0.54/0.47	中世土師器、越中繩目、砥石（681・682）	中世～		<SP1131A (SB1)・ 1132A (SB1)・ 546A (SH2)・SK545A	39- 97	
SD891A	溝	0.42	0.07	須恵器、中國製白磁（463）				39	
SD900A	溝	9.92/3.22	0.56/0.38	土師器、中世土師器、珠洲、打製石斧（99）				39	
SD1029A	溝	1.12	0.20	縄文土器（49・61）				39	
SD3B	溝	(1.48) /0.24	0.42/0.11		中世～近世		<SK2B	90	
SD92B	溝	0.47/0.86	0.23/0.33	土師器、越中繩目	中世～近世		>SK80B、<SE11HB・ SK78B	92	
SD131B	溝	(1.70)	0.36		中世		>SK80B、<SE11HB・ SK78B	74	
SD140B	自然流路	(18.70)/ 1.65	(0.68)/ (0.46)	縄文土器（14・16・20・46）、弥生土器（213・220）、土師器（245）、須恵器、中世土師器（318）、珠洲（382）、瓦質土器、越中繩目（504）、唐津（536）、伊万里（543）、袋状鉢（685）、楓（696）			<SK491B	49	
SD425B	溝	4.50	0.74	弥生土器（206）、土師器、板状楓（655）	古墳			34	
谷B	自然流路	35.00	2.70	縄文土器（11・15・17・19・21・24・ 32・36）、弥生土器（182・183・202・ 205・207・209・211・212・214・216・ 219・221・225・229・233・246）、土師 器（195・201・217・218・227・235・ 244・246・249・257・259・260）、楓（549・ 550）、青器未製品（532）、羽物楓（551・ 556）、円形板（557）、麻木製品（558・ 559）、弓（560）、部屋（561）、板材（656・ 657）、石槍（406）、砥石（689）、A型 石製品（693）	縄文～古墳				
SD1C1	自然流路	4.68/3.45/ 3.10	0.61/0.78 0.66	弥生土器、土師器、中世土師器、珠洲、 越中繩目、五輪塔（660）、燒石	近世		>SK8C1・682C1・ SX726C1・SD727C1	40	
SD21C1	溝	0.38	0.12	珠洲（424）、近世陶器	近世			40	

第28表 加納谷内遺跡 溝・自然流路一覧（2）

遺構	種類	規模(m)		出土遺物	時期	登記事項	切与合v	辨認	写真 版
		幅	深さ						
SD77C1	溝	2.83	0.36	純文土器、弥生土器(181)、土師器(194-258)、須恵器(291)、珠洲、中国製青花(481)	中世			40	
SD111C1	溝	1.63-2.63	0.22-0.77	珠洲	中世		<SK401C1	40・ 97	
SD221C1	溝	1.66/(1.33)	0.45-0.23	珠洲(435)、近世陶器	中世		<SK401C1	40・ 97	
SD402C1	溝	0.64	0.13	中世土器(347-374)、珠洲	中世前半	SD400C1と合流		40	
SD403C1	溝	0.65	0.26	珠洲(435)	中世	SD402C1と合流	>SK682C1	40・ 97	
SD600C1	溝	(1.20) /1.38/ 1.88	0.32-0.18/ 0.33	珠洲	中世			40・ 97	
SD727C1	溝	1.48	0.54	土師器			<SD1C1	40・ 97	
SD750C1	溝	(1.16) /2.14	0.28-0.37		中世～近世		<SE191C1	40・ 97	
SDH2C	溝	4.74-3.49 5.72-4.50	0.46-0.28 0.46-0.16	土師器、須恵器、珠洲(380)、陶器、 中国製白磁(465)、鉄滓	中世		>SD2C2	41・ 97	
SD2C2	溝	0.65	0.33	須恵器	中世～近世		<SD1C2	41・ 97	
SD3C2	溝	0.86-0.75	0.16-0.30	須恵器、鉄滓	中世～近世		>SP326C2(SB12)	41・ 97	
SD50C2	溝	0.78	0.16	珠洲(291)、石製鍤車(694)	中世			41	
SD54C2	溝	2.10-2.15	0.30-0.21	土師器、須恵器、珠洲(388-392- 416)、中国製白磁(464-466-469- 470)	中世			41・ 97	
SD61C2	溝	0.42	0.12		中世～近世	道路状遺構		41・ 50	
SD63C2	溝	0.42	0.22		中世～近世	道路状遺構		41・ 50	
SD78C2	溝	(0.12)	0.02				<SP79C2(SB13)	49	
SD125C2	溝	0.28	0.16	珠洲(417-425)	中世			41	
SD168C2	溝	0.32-0.35	0.08-0.07	磨製石斧、打整石斧(100)				41	
SD169C2	溝	0.98-0.71 0.96	0.32-0.22 0.16	土師器、須恵器			>SP332C2(SB16)・ 353C2(SB16)・ 354C2(SB16)・ 356C2(SB16)	41・ 97	
SD214C2	溝	1.26	0.27	須恵器(296)	中世～近世			41・ 97	
SD256C2	溝	1.18	0.28	珠洲、中国製白磁(462)、近世磁器	近世			41	
SD272C2	自然流路	3.68	0.68	珠洲、越中繩印、近世磁器、鏡(692)	近代			41	
SD1C3	自然流路	154	0.48	珠洲、磨製石斧(79)	中世		>地割れ	41	
SD2C3	溝	130	0.67	須恵器(290)、中世土器類、珠洲	中世		>地割れ	41	
SD7C3	自然流路	3.12	0.38	土師器、須恵器、中国製白磁、石鍤(104)	中世			41	
SD223C3	溝	0.98	0.38		中世		>地割れ	41・ 97	
SD26C3	溝	1.04	0.40	石鍤(126)	中世		>地割れ	41・ 97	
SD33C3	溝	1.36	0.44	土師器、須恵器(281)	中世		>地割れ	41・ 97	
SD76C3	溝	0.76	0.22	土師器、須恵器(281)	中世		>地割れ	41・ 97	
SD80C3	溝	2.72	0.52	土師器、須恵器(276)、灰釉陶器(299)、 珠洲、中国製白磁(473)	中世		>地割れ	41	
SD201C3	自然流路	2.00-2.56 1.68-1.84	0.06-0.06/ 0.34-0.20	石鍤(124-126)	縦文			35	
SD2D	自然流路	(0.53) (0.50) (1.01) (1.54)	0.17-0.32 0.40-0.36	土師器、珠洲、越中繩印、伊万里、鏡 珠洲、中国製白磁(473)	中世～近世			39	

第29表 加納谷内遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧（1）

件名	分類	種類	出土場所	性別	形狀	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	詳細	出土の状況	総色調	施画	備考
1 SI SK06C-3	器物	縁盤	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	26.5	26.0	62	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	白地に縁行	
2 SI C3	器物	縁盤	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	21.6	21.0	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
3 SI C3	器物	縁盤	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	25.9	25.0	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
4 SI SK06C-3	器物	縁盤	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	25.5	25.0	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
5 SI C3	器物	縁盤	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	24.6	24.0	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
6 SI C3	器物	縁盤	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	23.6	23.0	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
7 SI C3	器物	縁盤	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	25.6	25.0	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
8 SI SK06C-2	器物	縁盤	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	33.3	32.8	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
9 SI SI SK06C-2	NU/34/T/10/1	陶文土器	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	33.4	32.8	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
10 SI SI SK06C-2	NU/34/T/10/1	陶文土器	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	33.4	32.8	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
II SI SIH	X031/36/V	縁板	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	25.9	25.0	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
12 SI A	X50/61/1	縁板	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	14.0	13.5	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
13 2・32 2・32	標記	縁板	X50/61/1	陶文土器	直鉢	14.0	13.5	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
99 14 SI SIH	X50/61/1	縁板	X50/61/1	陶文土器	直鉢	14.0	13.5	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
15 SI SIH	X64/81/V	縁板	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	13.7	13.0	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
16 SI SIH	X65/80/H	縁板	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	21.6	21.0	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
17 SI SIH	X65/80/V	縁板	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	42.6	42.0	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
18 SI SIH	X65/80/V	縁板	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	45.0	44.5	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
19 SI SIH	X70/74/10/1	縁板	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	20.6	20.0	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
20 SI SIH	X65/72/V	縁板	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	42.0	41.5	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
21 SI SIH	X75/78/V	縁板	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	21.6	21.0	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
100 22 SI SIH	X76/80/V	縁板	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	33.0	32.5	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
22 SI SIH	X87/88/10/1	縁板	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	34.0	33.5	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
24 SI SIH	X14/73/10/1	縁板	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	21.6	21.0	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
25 SI A	X45/90/H	縁板	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	25.9	25.0	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
26 SI SIH	X39/10/A	縁板	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	25.5	25.0	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
27 SI A	X50/91/H	縁板	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	24.6	24.0	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	
28 A	X61/90/H	縁板	X1351/35/10/1	陶文土器	直鉢	20.6	20.0	52	縁板文	縁板文	白色系・石青・青鉄	外削り・石青	

第29表 加納谷内遺跡 土器・陶磁器・土製品一覽 (2)

第29表 加納谷内遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧（3）

件号	番号	名前	種類	出土場所	性別	口径	上径	底径	高さ	計測用	鉢土面	出土の状況	緑色調	地質	備考
102	56	A	圓盤	X50730II 磁	陶文土器	深鉢	陶文土器	陶文土器	陶文土器	小鉢皿	22YR7.2	灰黒色	白色・黑色・深色	細粒灰	
	57	SK05A	圓盤	X50730II 磁	陶文土器	深鉢	陶文土器	陶文土器	陶文土器	小鉢皿	10YR5.2	灰黒色	白色・黑色・深色	細粒灰	
58	58	A	圓盤	X50730II 磁	陶文土器	深鉢	陶文土器	陶文土器	陶文土器	小鉢皿	7.2YR7.3	灰黒色	白色・黑色・深色	細粒灰	
59	59	A	圓盤	X50730II 磁	陶文土器	深鉢	陶文土器	陶文土器	陶文土器	小鉢皿	2.2YR7.3	灰黒色	白色・黑色・深色	細粒灰	
70	SK05A	圓盤	陶文土器	X50730II 磁	陶文土器	深鉢	陶文土器	陶文土器	陶文土器	小鉢皿	10YR6.2	灰黒色	白色・黑色・深色	細粒灰	
71	50A	圓盤	陶文土器	X50730II 磁	陶文土器	深鉢	陶文土器	陶文土器	陶文土器	小鉢皿	10YR5.1	灰黒色	白色・黑色・深色	細粒灰	
72	52	A	圓盤	X50730II 磁	陶文土器	深鉢	陶文土器	陶文土器	陶文土器	小鉢皿	10YR7.2	灰黒色	白色・黑色・深色	細粒灰	
73	50A	圓盤	陶文土器	X50730II 磁	陶文土器	深鉢	陶文土器	陶文土器	陶文土器	小鉢皿	2.2YR3.3	灰黒色	白色・黑色・深色	細粒灰	
74	51	A	圓盤	X50730II 磁	陶文土器	深鉢	陶文土器	陶文土器	陶文土器	小鉢皿	5.4YR4.1	灰黒色	白色・黑色・深色	細粒灰	
75	52	A	圓盤	X50730II 磁	陶文土器	深鉢	陶文土器	陶文土器	陶文土器	小鉢皿	10YR6.3	灰黒色	白色・黑色・深色	細粒灰	
76	51	A	圓盤	X50730II 磁	陶文土器	深鉢	陶文土器	陶文土器	陶文土器	小鉢皿	10YR5.3	灰黒色	白色・黑色・深色	細粒灰	
77	52	A	圓盤	X50730II 磁	土製品	土質	土質	土質	土質	小鉢皿	7.2YR7.4	灰黒色	白色・黑色・深色	土質	瓦片・土質
114	160	SK05C1	Y8		生土器	小鉢皿				小鉢皿	10YR6.2	灰黒色	砂粒		小泥丸?
181	SK072C1	Y8		X52734V 磁	2.25薄色	生土器	生	生	1.65	小鉢皿	10YR7.2	灰黒色	砂粒		細粒灰
182	59B			X52734V 磁	2.25薄色	生土器	生	生	1.65	小鉢皿	2.2YR7.3	灰黒色	砂粒		細粒灰
183	59B			X52734V 磁	2.25薄色	生土器	生	生	1.65	小鉢皿	10YR6.4	灰黒色	砂粒		細粒灰
184	59B			X52734V 磁	2.25薄色	生土器	生	生	1.65	小鉢皿	10YR7.3	灰黒色	砂粒		細粒灰
185	7-90	5B	圓盤	X517170薄地燒土	生土器	深鉢	生土器	生土器	16.2	25.7	22YR5.1	灰黒色	砂粒		細粒灰・薄地小泥巴物
186	59B			X517170薄地燒土	生土器	深鉢	生土器	生土器	17.7	25.7	23YR5.2	灰黒色	砂粒		細粒灰・薄地
187	59B			X517170薄地燒土	生土器	深鉢	生土器	生土器	17.8	25.7	23YR5.2	灰黒色	砂粒		細粒灰・薄地
188	59B			X517170薄地燒土	生土器	深鉢	生土器	生土器	18.4	25.7	10YR7.2	灰黒色	砂粒		細粒灰・薄地
189	59	5B	圓盤	X517170薄地燒土	生土器	深鉢	生土器	生土器	18.5	25.7	23YR7.4	灰黒色	砂粒		細粒灰・薄地
190	59	5B	圓盤	X517170薄地燒土	生土器	深鉢	生土器	生土器	15.6	25.7	10YR6.3	灰黒色	砂粒		細粒灰・薄地
191	59B			X517170薄地燒土	生土器	深鉢	生土器	生土器	14.9	25.7	23YR5.2	灰黒色	砂粒		細粒灰・薄地
192	3	5B	圓盤	X517170薄地燒土	生土器	深鉢	生土器	生土器	14.6	25.7	51YR6.6	褐色	砂粒		細粒灰
193	59B			X517170薄地燒土	生土器	深鉢	生土器	生土器	13.0	25.7	51YR7.4	灰黒色	砂粒		細粒灰
194	59B			X517170薄地燒土	生土器	深鉢	生土器	生土器	16.6	25.7	51YR6.4	灰黒色	砂粒		細粒灰
195	59B			X517170薄地燒土	生土器	深鉢	生土器	生土器	16.4	25.7	51YR6.4	灰黒色	砂粒		細粒灰
196	59	5B	圓盤	X528590薄地燒土	生土器	深鉢	生土器	生土器	19.2	26.5	51YR	褐色	砂粒		細粒灰
197	59	5B	圓盤	X528590薄地燒土	生土器	深鉢	生土器	生土器	19.5	26.5	51YR	褐色	砂粒		細粒灰
198	59B			X528590薄地燒土	生土器	深鉢	生土器	生土器	15.6	25.7	10YR7.2	灰黒色	砂粒		細粒灰
199	59B			X528590薄地燒土	生土器	深鉢	生土器	生土器	4.6	25.7	23YR7.2	灰黒色	砂粒		細粒灰
200	59B			X528590薄地燒土	生土器	深鉢	生土器	生土器	3.4	25.7	23YR7.2	灰黒色	砂粒		細粒灰

第29表 加納谷内遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧（4）

件名	分類	遺物 名前 目録番 号	出土地点	性質	上口 寸法	底面 寸法	厚さ (mm)	剖面	詳細の記述	出土の位置	褐色調	地質	備考
115-301	石器	548	X707083Ⅲ層	土器	直	14.0	8.5	1.7mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	
116-302	石器	548	X60770Ⅲ層	盆生土器	直	14.0	8.5	1.7mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	深灰色地に手配入
203-303	石器	548	X73570Ⅲ層	盆生土器	盆	14.5	8.5	1.7mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
204-304	石器	548	X60570Ⅲ層	盆生土器	盆	14.5	8.5	1.7mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
205-305	石器	548	X60770Ⅲ層	盆生土器	盆	14.5	8.5	1.7mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
206-306	石器	548	X73570Ⅲ層	盆生土器	盆	14.4	8.5	1.7mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
207-307	石器	548	X73570Ⅲ層	盆生土器	盆	14.4	8.5	1.7mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
208-308	石器	548	X73570Ⅲ層	盆生土器	盆	14.5	8.5	1.7mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
209-309	石器	548	X73570Ⅲ層	盆生土器	盆	14.4	8.5	1.7mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
210-310	SAIA	548	X50770Ⅲ層	盆生土器	盆	13.0	8.5	1.7mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
211-311	SAIA	548	X72773Ⅲ層	盆生土器	盆	13.0	8.5	1.7mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
212-312	SAIA	548	X60770Ⅲ層	盆生土器	盆	13.4	13.7	2.5mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
213-313	SAIA	548	X707083Ⅲ層	盆生土器	盆	13.0	9.5	2.5mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
214-314	SAIA	548	X707083Ⅲ層	盆生土器	盆	12.0	12.3	2.5mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
215-315	SAIA	548	X73570Ⅲ層	盆生土器	盆	12.6	14.0	2.5mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
216-316	SAIA	548	X78771Ⅲ層	盆生土器	盆	14.0	15.7	2.7mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
117-317	SAIA	548	X60570Ⅲ層	盆生土器	盆	14.0	20.1	4.0mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
218-318	SAIA	548	X71773Ⅲ層	盆生土器	盆	14.9	26.1	6.0mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
219-319	SAIA	548	X73570Ⅲ層	盆生土器	盆	16.2	-	-	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
220-320	SAIA	548	X60770Ⅲ層	盆生土器	盆	15.3	26.5	6.0mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
221-321	SAIA	548	X72773Ⅲ層	盆生土器	盆	15.0	26.5	6.0mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
222-322	SAIA	548	X73570Ⅲ層	盆生土器	盆	15.3	26.5	6.0mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
223-323	SAIA	548	X72774Ⅲ層	盆生土器	盆	21.6	15.3	18.7mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
224-324	SAIA	548	X73570Ⅲ層	盆生土器	盆	16.2	-	-	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
225-325	SAIA	548	X73570Ⅲ層	盆生土器	盆	12.2	26.5	6.0mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
226-326	SAIA	548	X60570Ⅲ層	盆生土器	盆	14.5	26.5	6.0mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
227-327	SAIA	548	X71773Ⅲ層	盆生土器	盆	14.6	26.5	6.0mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
228-328	B	548	X80182	土器	手配	37.5	37.5	半	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
118-229	B	548	X72774Ⅲ層	土器	手配	30.8	-	-	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
230-230	B	548	X72774Ⅲ層	土器	手配	31.2	-	-	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
231-231	B	548	X72774Ⅲ層	土器	手配	31.5	30.5	22.5mm	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
232-232	B	548	X60770Ⅲ層	土器	手配	31.5	-	-	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入
233-233	B	548	X73570Ⅲ層	土器	手配	31.5	-	-	底面半球形(正)	手配	66.白色	66.白色	手配入

第29表 加納谷内遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧（5）

件番	所	名	種類	出土場所	性質	形狀	上径	底径	高さ	時期	計測用	絵土色圖	出土の状況	地色	備考
118	231	3	土器	X522(30)下	土器	筒形				古墳	51W74	1.2.5.1.褐色	赤色・白地	白色	円筒形瓦陶
230	3	3	土器	X601(46)中上	土器	筒形	15.0	12.0	7.3	古墳	109W7.3	1.2.5.1.褐色	赤色・白地	白色	赤色・白地
231	3	3	土器	X601(46)中上	土器	筒形	16.0	12.0	7.6	古墳	51W6.6	褐色	赤色・白地	白色	赤色・白地
237	33	3	土器	X601(73)中上	土器	筒形	16.0	12.0	7.6	古墳	23W7.3	淡黄色	赤色・白地	白色	赤色・白地
238	33	3	土器	X727(45)中上	土器	筒形	20.0	15.0	5.0	古墳	109W6.2	淡黄色	赤色・白地	白色	赤色・白地
239	3	41	土器	X727(45)中上	土器	筒形	16.5	13.2	11.4	古墳	109W7.2	1.2.5.1.褐色	赤色・白地	白色	赤色・白地
240	3	41	土器	X627(45)中上	土器	筒形	11.2	7.0	5.0	古墳	109W8.3	1.2.5.1.褐色	赤色・白地	白色	赤色・白地
241	33	3	土器	X727(45)中上	土器	筒形	12.0	7.0	5.0	古墳	109W6.3	淡黄色	赤色・白地	白色	赤色・白地
242	3	53	土器	X627(73)	土器	筒形	10.0	7.0	5.0	古墳	109W6.3	1.2.5.1.褐色	赤色・白地	白色	赤色・白地
243	33	53	土器	X601(73)中上	土器	筒形	10.0	7.0	5.0	古墳	109W7.3	1.2.5.1.褐色	赤色・白地	白色	赤色・白地
244	33	53	土器	X601(73)中上	土器	筒形	10.0	7.0	5.0	古墳	109W6.3	1.2.5.1.褐色	赤色・白地	白色	赤色・白地
245	33	53	土器	X717(45)中上	土器	筒形	12.0	7.0	5.0	古墳	109W7.3	1.2.5.1.褐色	赤色・白地	白色	赤色・白地
246	33	53	土器	X601(46)中上	土器	筒形	10.4	7.0	5.0	古墳	109W8.2	6.0白色	赤色・白地	白色	赤色・白地
247	33	53	土器	X601(46)中上	土器	筒形	6.7	5.0	5.0	古墳	109W8.2	6.0白色	赤色・白地	白色	赤色・白地
119	248	3	41	土器	X637(60)中上	筒形	18.6	9.3	3.2	直筒	109W8.2	淡黄色	白色・白地	白色	外側入火
249	3	53	土器	X527(45)中上	土器	筒形	16.6	9.0	6.2	直筒	109W6.4	1.2.5.1.褐色	赤色・白地	白色	外側入火
250	3	42	53	X636(60)中上	土器	筒形	15.2	11.5	12.0	直筒	7.2W7.4	1.2.5.1.褐色	赤色・白地	白色	外側入火
251	33	53	土器	X601(73)中上	土器	筒形	11.8	5.2	5.0	直筒	51W7.6	褐色	赤色・白地	白色	外側入火
252	33	53	土器	X601(73)中上	土器	筒形	12.8	6.0	5.0	直筒	23W8.2	褐色	赤色・白地	白色	外側入火
253	33	53	土器	X661(46)中上	土器	筒形	12.2	5.8	5.0	直筒	51W7.8	褐色	赤色・白地	白色	外側入火
254	33	53	土器	X627(73)中上	土器	筒形	13.2	6.1	5.0	直筒	109W7.2	1.2.5.1.褐色	赤色・白地	白色	外側入火
255	33	53	土器	X637(45)中上	土器	筒形	14.6	8.2	5.0	直筒	7.2W8.3	淡黄色	赤色・白地	白色	外側入火
256	33	53	土器	X627(45)中上	土器	筒形	13.5	6.0	5.0	直筒	23W7.2	褐色	赤色・白地	白色	外側入火
257	33	53	土器	X627(45)中上	土器	筒形	11.4			直筒	23W7.8	褐色	赤色・白地	白色	外側入火
258	259	33	53	X541(96)中上	土器	筒形	14.4			直筒	109W8.2	淡黄色	赤色・白地	白色	外側入火
260	33	53	土器	X617(45)中上	土器	筒形	12.4	4.4	5.0	直筒	51W7.6	褐色	赤色・白地	白色	外側入火
261	33	53	土器	X601(96)中上	土器	筒形	12.8	4.6	4.6	直筒	23W7.8	褐色	赤色・白地	白色	外側入火
262	33	53	土器	X599A(84)	土器	筒形	15.0	4.0	5.0	直筒	109W6.2	淡黄色	赤色・白地	白色	外側入火
263	33	53	土器	X601(96)中上	土器	筒形	16.0	4.0	5.0	直筒	23W7.2	褐色	赤色・白地	白色	外側入火
264	33	53	土器	X501(72)	土器	筒形	16.0	4.0	5.0	直筒	49W7.5	褐色	赤色・白地	白色	外側入火
265	33	53	土器	X553(60)中上	土器	筒形	9.6	3.2	5.0	直筒	109W6.3	1.2.5.1.褐色	赤色・白地	白色	外側入火
266	33	53	土器	X511(91)A	土器	筒形	12.0	4.0	5.0	直筒	109W7.2	1.2.5.1.褐色	赤色・白地	白色	外側入火
267	33	53	土器	X501(74)A	土器	筒形	16.0	4.0	5.0	直筒	109W5.3	1.2.5.1.褐色	赤色・白地	白色	外側入火
120	268	54	B	X501(96)	土器	筒形	20.0			直筒	109W7.3	褐色	白色・6.0白色	白色	外側入火
269	54	54	B	X601(96)中上	土器	筒形	12.0			直筒	51W8.0	6.0白色	白色	白色	外側入火
270	54	54	B	土	土器	筒形	12.2			直筒	51W8.0	6.0白色	白色	白色	外側入火
271	54	54	A	X501(75)	土器	筒形	12.2			直筒	109W8.0	6.0白色	白色	白色	外側入火

第29表 加納谷内遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧 (6)

件名	遺物 番号	遺物 名	出土地点	性質	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	剖面	詳細な 形態	断土・分類	地質	備考
[20]	272 54	SDA	X350/75	瓦状器	杯形	11.0	4.2	古代	T字底盤	Nec. 0	灰色	
	273 A	X463/74	同上	瓦状器	杯	12.2(±1.1)	4.2	古代	U字底盤	Nec. 0	白色	白色系
274	B	X463/78	1号	瓦状器	杯	12.2	4.2	古代	U字底盤	Nec. 0	灰色	白色系
275	SX03/3	X1403/45	同上	瓦状器	杯	15.0	5.0	古代	8字底盤 -K字盤	Nec. 0	灰色	白色系 -K字盤 -8字盤
276	SH00/3	X1380/137	瓦状器	杯	16.0	5.0	古代	U字底盤 -K字盤	73Y7/1	灰色	白色系 -U字盤 -K字盤	
277 54	C3	X1404/137	同上	瓦状器	杯	12.1(±1.1)	2.3	古代	U字底盤 -K字盤	Nec. 0	灰色	白色系 -U字盤
278	B	X370/76	2号	瓦状器	杯	11.0	4.2	古代	U字底盤 -K字盤	Nec. 0	灰色	白色系
279	C3	X1380/136	同上	瓦状器	杯	13.6	5.0	古代	U字底盤 -K字盤	Nec. 0	灰色	白色系 -U字盤
280	A	X365/82	同上	瓦状器	杯	13.0	5.0	古代	U字底盤 -K字盤	Nec. 0	灰色	白色系
281 54	S1706/3	X1483/32	瓦状器	杯	13.0	5.0	古代	U字底盤	Nec. 0	灰色	白色系 -U字盤	
282	SX03/2	SX03/2	同上	瓦状器	杯	10.0(±2.4)	3.0	古代	U字底盤	Nec. 0	灰色	白色系
283	C3	X1404/147	同上	瓦状器	杯	13.8	5.0	古代	U字底盤	Nec. 0	灰色	白色系 -U字盤
284	SX03/28	SX03/28	同上	瓦状器	杯	13.0	5.0	古代	U字底盤	Nec. 0	灰色	白色系
285	C3	X365/86	1号	瓦状器	杯	14.5	5.0	古代	U字底盤	Nec. 0	灰色	白色系
286 54	C3	X1407/41	同上	瓦状器	杯	10.3	3.7	70.5(?)	70.5(?)	73Y6/1	灰色	白色系
287	C3	X1407/130	同上	瓦状器	杯	14.0	3.7	9.0(±2.5)	9.0(±2.5)	Nec. 0	灰色	白色系
288	C3	X1603/155	同上	瓦状器	杯	14.0	3.8	10.5(±2.5)	10.5(±2.5)	SZ0/1	白色	白色系
289 54	B	X365/95	瓦状器	杯	12.0	5.0	12.0	5.0	Nec. 0	灰色	白色系	
290	SQ12/C3	X1653/152	瓦状器	杯	12.0	5.0	12.0	5.0	10Y5/3	白色	白色系 -U字盤 -V字盤	
291 54	S1707/1	X1300/1号	瓦状器	杯	6.4	2.0	6.4	2.0	Nec. 0	灰色	白色系 -U字盤	
292 54	A	X367/82	同上	瓦状器	杯	8.0	2.0	Nec. 0	灰色	白色系	白色系	
293	SX03/76	X1709/155	同上	瓦状器	杯	8.0	2.0	Nec. 0	灰色	白色系	白色系	
[21]	294 54	C3	NEJ-22/T1	同上	瓦状器	杯	22.6	5.0	7C底盤 -	23G/4.1	同上 -U字盤	白色系 -U字盤
295	SQ12/C4	X365/160	同上	瓦状器	杯	12.0	5.0	12.0	5.0	Nec. 0	灰色	白色系
297	C3	X365/160	同上	瓦状器	杯	12.0	5.0	12.0	5.0	5Y7/1	白色	白色系 -U字盤 -V字盤
298 54	S1700/3	S1700/3	同上	瓦状器	杯	13.3	5.0	13.3	5.0	5Y7/1	白色	白色系 -U字盤 -V字盤
299 54	S1000/3	X1305/137	瓦状器	杯	7.6	3.0	7.6	3.0	73Y6/1	灰色	白色系 -U字盤	
300 54	C2	X1313/136	瓦状器	杯	7.6	3.0	7.6	3.0	23Y7/1	白色	白色系	
301 55	C2	X1290/103	同上	瓦状器	杯	9.07	5.4	4.4(±0.9)	16C-	10Y6/6-2	白色	白色系 -U字盤
302 55	C3	X0403/103	同上	瓦状器	杯	11.7	5.0	5.1(±0.9)	16C-	10Y6/6-2	白色	白色系 -U字盤
303 3-55	C2	X1313/113	同上	瓦状器	杯	12.7	5.0	4.9(±0.9)	16C-	23Y7/1	白色	白色系 -U字盤
304 56	C3	X1603/45	同上	瓦状器	杯	11.6	5.0	5.0	16C-	10Y6/6-3	白色	白色系 -U字盤
305 55	SX03/42	X1313-130/115	瓦状器	杯	10.5	5.0	10.5	5.0	23Y7/1	白色	白色系 -U字盤	
306 55	SX03/42	X132-130/115	瓦状器	杯	10.0	5.0	10.0	5.0	16C/4-17C	白色	白色系 -U字盤	
307 55	SX03/42	X132-130/115	瓦状器	杯	12.0	5.0	12.0	5.0	16C/4-17C	白色	白色系 -U字盤	

第29表 加納谷内遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(7)

件名	番号	種類	出土場所	形態	直径	口径	高さ	時期	計測値	鉢土色	土上の状況	地質	備考
121	208 C2	縁付 盆	X.1281.10.2 直筒	縁付直筒	31.2	2.2	5.0	中期	166.8mm ± 17.2	11.5cm 黄褐色	10YR 4.4	7.7cm 黄土 - 4.0cm	ナメナリツテ 灰褐色
209	55 SK003	縁付直筒	X.1114.9.1 直筒	縁付直筒	34.8	2.8	5.8	中期	317.1	16.5cm 白褐色	517.7	5.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
210	55 C1	縁付直筒	X.1114.9.1 直筒	縁付直筒	36.0	2.8	5.8	中期	234Y.7	16.5cm 白褐色	50.7.4	5.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
211	3	縁付直筒	X.1281.10.2 直筒	縁付直筒	34.0	2.8	5.8	中期	7.5YR 1.7	16.5cm 白褐色	7.5YR 1.7	5.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
212	3-62 SK004-SK005	縁付直筒	X.1281.10.2 直筒	縁付直筒	35.8	2.8	5.9	中期	10YR 7.3	17.5cm 黄褐色	7.5YR 6.5	5.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
213	55 A	縁付直筒	X.627.9.2 直筒	縁付直筒	37.0	2.8	6.0	中期	10YR 6.1	17.5cm 黄褐色	23Y.4.3	5.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
122	214 C2	縁付 盆	X.1271.10.2 直筒	縁付直筒	6.8	1.8	3.2	初期	10YR 8.3	12.5cm 黄褐色	10YR 7.3	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
215	3	縁付 盆	X.327.9.2 直筒	縁付直筒	14.2	2.8	4.0	初期	10YR 7.3	12.5cm 黄褐色	10YR 7.3	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
216	SK003A	中世-縁付 盆	X.1281.10.2 直筒	中世-縁付盆	6.0	0.8	1.0	初期	10YR 7.3	12.5cm 黄褐色	10YR 7.3	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
217	3	中世-縁付 盆	X.5551.9.0 直筒土器	中世-縁付盆	6.0	0.8	1.0	初期	7.5YR 8.3	12.5cm 黄褐色	10YR 7.3	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
218	SK003B	中世-縁付 盆	X.6517.7.5 直筒土器	中世-縁付盆	6.0	0.8	1.0	初期	10YR 8.3	12.5cm 黄褐色	10YR 7.3	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
219	SK003C	中世-縁付 盆	X.6101.1	中世-縁付盆	5.0	2.4	0.8	初期	10YR 8.3	12.5cm 黄褐色	10YR 7.3	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
220	SK003D	中世-縁付 盆	X.6101.1	中世-縁付盆	14.8	4.0	6.4	中期	23Y.7.2	12.5cm 黄褐色	23Y.7.2	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
221	SK006A	中世-縁付 盆	X.6101.1	中世-縁付盆	8.2	0.8	1.0	初期	10YR 8.1	12.5cm 黄褐色	10YR 8.1	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
222	3	SK006B	X.6101.1	中世-縁付盆	8.0	2.0	1.0	初期	10YR 8.1	12.5cm 黄褐色	10YR 8.1	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
223	55 SK006C	中世-縁付 盆	X.6101.1	中世-縁付盆	2.7	2.2	0.8	初期	10YR 8.1	12.5cm 黄褐色	10YR 8.1	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
224	SK006A	中世-縁付 盆	X.6101.1	中世-縁付盆	7.6	1.0	0.8	初期	10YR 8.2	12.5cm 黄褐色	10YR 8.2	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
225	55 SK006A	中世-縁付 盆	X.6101.1	中世-縁付盆	27.7	1.6	0.8	中期	10YR 7.2	12.5cm 黄褐色	10YR 7.2	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
226	55 SK006A	中世-縁付 盆	X.6101.1	中世-縁付盆	8.2	0.8	1.0	初期	10YR 8.6	12.5cm 黄褐色	10YR 8.6	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
227	3	SK006A	X.6101.1	中世-縁付盆	8.1	1.6	0.8	初期	10YR 7.4	12.5cm 黄褐色	10YR 7.4	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
228	SK006A	中世-縁付 盆	X.6101.1	中世-縁付盆	11.8	0.8	1.0	初期	10YR 8.2	12.5cm 黄褐色	10YR 8.2	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
229	A	中世-縁付 盆	X.327.9.2 直筒	中世-縁付盆	13.0	0.8	1.0	初期	10YR 7.3	12.5cm 黄褐色	10YR 7.3	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
230	SK006A	中世-縁付 盆	X.6101.1	中世-縁付盆	10.4	1.0	0.8	中期	23Y.7.2	12.5cm 黄褐色	10YR 7.2	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
231	SK006A	中世-縁付 盆	X.6101.1	中世-縁付盆	20.0	2.5	0.8	中期	23Y.7.2	12.5cm 黄褐色	10YR 7.2	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
232	C1	中世-縁付 盆	X.1117.9.7 直筒	中世-縁付盆	20.0	2.4	0.8	中期	10YR 7.4	12.5cm 黄褐色	10YR 7.4	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
233	55 C2	中世-縁付 盆	X.1281.10.2 直筒	中世-縁付盆	5.9	2.9	0.8	中期	10YR 6.2	12.5cm 黄褐色	10YR 6.2	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
234	SK01A	中世-縁付 盆	X.6101.1	中世-縁付盆	9.5	1.0	0.8	初期	10YR 7.1	12.5cm 黄褐色	10YR 7.1	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
235	SK006B	中世-縁付 盆	X.6101.1	中世-縁付盆	9.0	1.6	0.8	初期	10YR 5.2	12.5cm 黄褐色	10YR 5.2	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
236	SK006A	中世-縁付 盆	X.6101.1	中世-縁付盆	9.8	1.0	0.8	初期	10YR 7.3	12.5cm 黄褐色	10YR 7.3	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
237	3-55 C2	中世-縁付 盆	X.1401.12.5 直筒	中世-縁付盆	5.3	2.0	0.8	中期	10YR 6.0	12.5cm 黄褐色	23Y.7.3	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
238	SK01B	中世-縁付 盆	X.6101.1	中世-縁付盆	9.3	2.1	0.8	中期	7.5YR 6.3	12.5cm 黄褐色	10YR 8.2	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
239	3	SK01B	X.6101.1	中世-縁付盆	7.2	1.8	0.8	中期	10YR 7.3	12.5cm 黄褐色	10YR 7.3	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
240	55 SK01B	中世-縁付 盆	X.6101.1	中世-縁付盆	7.6	1.3	0.8	中期	23Y.7.2	12.5cm 黄褐色	10YR 7.6	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
241	55 SK01C	中世-縁付 盆	X.6101.1	中世-縁付盆	8.6	1.8	0.8	中期	10YR 7.2	12.5cm 黄褐色	10YR 7.2	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
242	C1	中世-縁付 盆	X.971.9.2 直筒	中世-縁付盆	30.0	2.2	0.8	中期	10YR 7.6	12.5cm 黄褐色	10YR 7.6	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
243	3-55 SK01A	中世-縁付 盆	X.6101.1	中世-縁付盆	8.1	1.9	0.8	中期	10YR 7.3	12.5cm 黄褐色	10YR 7.3	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
244	3-55 C1	中世-縁付 盆	X.6101.1	中世-縁付盆	8.4	2.0	0.8	中期	10YR 7.4	12.5cm 黄褐色	10YR 7.4	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
245	B	中世-縁付 盆	X.6101.1	中世-縁付盆	9.9	2.1	0.8	中期	7.5YR 7.3	12.5cm 黄褐色	10YR 7.3	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
246	SK01A	中世-縁付 盆	X.6101.1	中世-縁付盆	9.5	2.0	0.8	中期	10YR 7.4	12.5cm 黄褐色	10YR 7.4	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
247	SK01C	中世-縁付 盆	X.6101.1	中世-縁付盆	9.9	2.0	0.8	中期	10YR 7.4	12.5cm 黄褐色	10YR 7.4	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
248	3-55 SK01A	中世-縁付 盆	X.6101.1	中世-縁付盆	8.9	2.0	0.8	中期	10YR 7.3	12.5cm 黄褐色	10YR 7.3	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
249	3-55 SK01A	中世-縁付 盆	X.6101.1	中世-縁付盆	7.9	2.5	0.8	中期	10YR 7.3	12.5cm 黄褐色	10YR 7.3	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色
250	3 A	中世-縁付 盆	X.301.9.2 直筒	中世-縁付盆	8.1	2.2	0.8	中期	23Y.7.2	12.5cm 黄褐色	23Y.7.2	1.5cm 黄褐色	ナメナリツテ 灰褐色

第29表 加納谷内遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧 (8)

件名	番号	遺跡名	出土地点	性別	口径 (cm)	底径	厚径	時間	詳細な期	地上付箇所	種類	地質	備考	
123	351	55	SK002-C3		中世-後期	圓	17.0	基盤	10V25-3	後土色黃	骨片			
132	352	C1		中世-後期	圓	9.9	2.2	中世	10V27-2	後土色黃	骨片		10V25基部3.5	
133	353	SE091-C1		中世-後期	圓	8.6	1.7	中世	10V27-2	後土色黃	骨片			
134	354	SE111-B	縄文	中世-後期	圓	9.9	2.2	40-9	10V25-2	後土色黃	骨片		円筒外縁3.5	
135	355	C2	X.1571.135 II号	中世-後期	圓	9.6	1.9	中世	10V27-2	後土色黃	骨片			
136	356	SE092-A		中世-後期	圓	9.6	2.3	中世	10V27-2	後土色黃	骨片			
137	357	B	X.71798.1 埋	中世-後期	圓	10.0	1.9	中世	10V27-2	後土色黃	骨片			
138	358	SA008-A		中世-後期	圓	9.9	2.2	中世	10V27-2	後土色黃	骨片			
139	359	B	X.7375.1.48号	中世-後期	圓	9.6	2.2	中世	10V27-2	後土色黃	骨片			
140	360	A	X.6573.001 埋	中世-後期	圓	9.9	2.6	中世	10V27-2	後土色黃	骨片			
141	361	55	B	X.6573.1.49号	中世-後期	圓	9.9	2.6	中世	10V27-2	後土色黃	骨片		
142	362	55	B	X.6573.002 埋	中世-後期	圓	11.0	2.3	10V27-2	後土色黃	骨片			
143	363	A	X.64734	小字-後期	圓	9.6	2.4	中世	10V27-2	後土色黃	骨片			
144	364	7-55	SK002-C1	中世-後期	圓	10.5	2.7	中世	10V27-2	後土色黃	骨片			
145	365	B	X.72796.0 II号	中世-後期	圓	10.0	2.5	中世	10V27-2	後土色黃	骨片			
146	366	SE094-A		中世-後期	圓	11.3	2.0	中世	10V27-2	後土色黃	骨片			
147	367	B	X.64735.1 埋	中世-後期	圓	10.9	2.5	中世	10V27-2	後土色黃	骨片			
148	368	SE051-B		中世-後期	圓	11.0	2.1	中世	10V27-2	後土色黃	骨片			
149	369	SE0001A		中世-後期	圓	11.0	2.3	中世	10V27-2	後土色黃	骨片			
150	370	55	SK001-C1	中世-後期	圓	11.4	2.4	中世	10V27-2	後土色黃	骨片			
151	371	55	SE080-A	中世-後期	圓	12.0	2.4	中世	10V27-2	後土色黃	骨片			
152	372	55	SE146-C3	小字	中世-後期	圓	12.0	2.6	中世	10V27-2	後土色黃	骨片		
153	373	B	X.64736.5 埋	中世-後期	圓	12.0	2.6	中世	10V27-2	後土色黃	骨片			
154	374	SA001-C1		中世-後期	圓	13.4	2.5	中世	10V27-2	後土色黃	骨片			
155	375	A	X.6573.0II 埋	中世-後期	圓	12.4	2.3	中世	10V27-2	後土色黃	骨片			
156	376	A	X.6573.1.48	中世-後期	圓	11.6	2.1	中世	10V27-2	後土色黃	骨片			
157	377	B	X.6573.001 埋	中世-後期	圓	13.0	2.5	10V27-2	後土色黃	骨片				
158	378	SA002-A		小字-後期	圓	13.0	2.5	10V27-2	後土色黃	骨片				
159	379	55	SK002-B	小字-後期	圓	12.0	2.4	10V27-2	後土色黃	骨片				
160	380	56	SA001-C2	X.12671.10 III号	後期	22.1		10V27-2	後土色黃	骨片				
161	381	B	X.12671.29 III号	後期	後期	22.0		10V27-2	後土色黃	骨片				
162	382	56	SE051-B5	X.65736	後期	21.8		10V27-2	後土色黃	骨片				
163	383	56	SA02-A	X.65736	後期	21.1		10V27-2	後土色黃	骨片				
164	384	3	-67	SE01-C1	X.90071.13	後期	24.0	11.5	10V27-2	後土色黃	骨片			
165	385	C2	X.11471.23 II号	後期	24.1			N.0	N.0	後土色				
166	386	56	C2	X.12571.15 II号	後期	23.8			N.0	N.0	後土色			
167	387	B	X.11471.21 II号	後期	23.0			1 頭	1 頭	後土色				
168	388	56	SA02-C2	X.11771.22	後期	22.8			1 頭	1 頭	後土色			
169	389	56	C1	X.11251.19 II号	後期	22.8			N.0	N.0	後土色			
170	390	56	SA03-A	X.11311.16 II号	後期	22.0			N.0	N.0	後土色			
					後期	42.0			N.0	N.0	後土色			

第29表 加納谷内遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧（9）

件名	番号	種類	出土場所	形態	直径 (mm)	高さ (mm)	剖面	時期	鉢形別		出土位置	種類	備考
									内径	外径			
124	201	小口 直筒	X145110 X145110 X145110 X145110	深鉢	262.5	21.0	中斜 方頭	Neg.	7.25W.1	底色画 白色・青	白色・青	白色・青	
382	36	S4546.2	X1171122	洗碗	20.0	9.0	中斜 方頭	Neg.0	Neg.0	白色	白色	白色	
383	36	C3	X153156.1	深鉢	29.8	9.0	中斜 方頭	Neg.0	23Y6.1	白色	白色	白色	白色
394	36	SE206.1	X153156.1	深鉢	34.1	9.0	中斜 方頭・V頭	Neg.0	14C-V.1	白色	白色	白色	白色
125	385	56	S4579.5	洗碗	25.7	10.0	中斜 V頭	15C-V.1	23Y5.1	白色	白色	白色	白色
396	36	C2	X1361117.1	洗碗	25.0	9.0	中斜 V頭	Neg.0	Neg.0	白色	白色	白色	白色
398	36	S4580.5	X1719511	洗碗	24.0	9.0	中斜 V頭	23Y6.1	14C-V.1	白色	白色	白色	白色
399	36	B	X153156.1	深鉢	30.0	9.0	中斜 V頭	Neg.0	Neg.0	白色	白色	白色	白色
400	36	S4534.4	X153156.1	深鉢	37.0	9.0	中斜 V頭	23Y5.1	白色	白色	白色	白色	白色
401	36	C3	X153156.1	深鉢	41.6	9.0	中斜 V-1頭	23Y6.1	白色	白色	白色	白色	白色
402	36	C3	X1361144.1	洗碗	42.0	9.0	中斜 V頭	23Y6.1	白色	白色	白色	白色	白色
403		SE208.5	X153156.1	深鉢	42.0	9.0	中斜 V-1頭	23Y7.1	白色	白色	白色	白色	白色
404	36	A	X601111	深鉢	23.0	11.8	10A-0頭	7.25W.1	底色画 白色・青	白色	白色	白色	白色
			X601111	深鉢									
405		S4564.5	X153156.1	深鉢									
406		S4573.6	X153156.1	深鉢					13D-BH	白色	白色	白色	白色
407		S4573.6	X153156.1	深鉢					13D-BH	白色	白色	白色	白色
126	408	36	S4580.5	洗碗	38.0	9.0	中斜 V頭	23Y6.1	白色	白色	白色	白色	白色
409	36	B	X1719511	洗碗	29.0	9.0	中斜 V頭	23Y5.1	白色	白色	白色	白色	白色
410		S4562.1	X153156.1	深鉢					14B-0頭	白色	白色	白色	白色
411	37	S4566.6	X153156.1	深鉢	53.1	9.0	中斜 V頭	23Y6.2	白色	白色	白色	白色	白色
412	37	B	X153156.1	深鉢	56.6	9.0	中斜 V頭	23Y6.2	白色	白色	白色	白色	白色
413	37	S4567.6	X153156.1	深鉢	56.4	9.0	中斜 V頭	23Y6.2	白色	白色	白色	白色	白色
414	37	C2	X1361131.1	洗碗	56.3	9.0	中斜 V頭	23Y6.2	白色	白色	白色	白色	白色
415	37	S4566.6	X153156.1	深鉢	59.0	9.0	中斜 V頭	23Y6.2	白色	白色	白色	白色	白色
416	37	S4521.2	X1171122	洗碗	59.0	9.0	中斜 V頭	23Y6.2	白色	白色	白色	白色	白色
			X1171122	洗碗									
			X1171122	洗碗									
417		S45125.2	X1171122	洗碗					14C-V-1頭	白色	白色	白色	白色
418	37	S4523.2	X1361131.1	洗碗	50.8	9.0	中斜 V頭	Neg.0	Neg.0	白色	白色	白色	白色
			X1361131.1	洗碗									
419		SE110.1	X153156.1	洗碗					10D-BH	白色	白色	白色	白色
420	37	C3	X1171102	洗碗					11-BH	白色	白色	白色	白色
421	37	A	X1451010	深鉢					23L	白色	白色	白色	白色
422		S4528.1	X1361131.1	洗碗					53.0	白色	白色	白色	白色

第29表 加納谷内遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧 (10)

件名	番号	遺跡名	出土地点	性別	年齢	口径 (cm)	基面	外形	詳細記述	鉢色調	盤上・外形	地質	備考
127	423	SKC-C1 - SKC-C1	X.103Y97 X.103Y117	女性	中壮	7.20		中腹	NS-0	灰色	白色・青白		
424	527	SKD2-C1	X.103Y97	女性	中壮			中腹	N6-0	灰色	白色・青白		
425	527	SKD2-C2	X.103Y117	女性	中壮			中腹	N6-0	灰色	白色・青白		
426	527	SKD2-C4	X.103Y117	女性	中壮			中腹	N6-0	灰色	白色・青白		
427	527	SKD2-C1	X.103Y117 - X.103Y117 - 118	女性	中壮			中腹	N6-0	灰色	白色・青白		
428	527	SKD2-C2	X.103Y117 - 118	女性	中壮			中腹	N6-0	灰色	白色・青白		
429	527	SKD2-C5	X.103Y117	女性	中壮			中腹	N6-1	灰色	白色		
430	527	C1	X.103Y107 ②回	女性	中壮			中腹	7.5Y6-1	灰色	黑色		
431	527	SKA-A4	X.103Y105	女性	中壮			中腹	N6-0	灰色	白色・青白		
432	527	SKD2-A5	X.103Y105	女性	中壮			中腹	7.5Y6-1	灰色	白色		
433	527	SKD2-A6	X.103Y105	女性	中壮			中腹	N6-0	灰色	白色		
434	527	SKD2-C1	X.103Y105 ②回	女性	中壮			中腹	N6-0	灰色	白色		
435	527	SKD2-C1	X.103Y105 ②回	女性	中壮			中腹	N6-0	灰色	白色		
436	527	SKA-A4	X.103Y105	女性	中壮			中腹	7.5Y6-1	灰色	黑色		
437	527	SKD2-B1	X.103Y105	女性	中壮			中腹	N6-0	灰色	白色・青白		
128	428	SKC-C3	X.103Y112	中国漆器	中壮	11.8		中腹	7.5Y6-1	灰色	白色	10Y5-2	11Y-2回 黄褐色
429	526	SKD2-A6	X.103Y112	中国漆器	中壮	11.6		中腹	10Y8-1	灰色	白色	2.5G7Y4-1	11Y-2回 黄褐色
440	526	SKD2-A6	X.103Y112	中国漆器	中壮	11.8		中腹	10Y8-1	灰色	白色	2.5G7Y7-1	11Y-2回 黄褐色
441	526	SKD2-A6	X.103Y112	中国漆器	中壮	11.2		中腹	10Y8-1 - 11Y-1	灰色	白色	7.5G7Y6-1	11Y-2回 黄褐色
442	526	C2	X.103Y112	中国漆器	中壮	11.1		中腹	10Y8-1	灰色	白色	5Y6-2	11Y-2回 黄褐色
443	526	A	X.103Y112	中国漆器	中壮	11.6		中腹	5Y7-1	灰色	白色	5Y6-2	11Y-2回 黄褐色
444	526	S020A	X.103Y112	中国漆器	中壮	14.7		中腹	10Y8-1 - 11Y-1	灰色	白色	10Y6-2	11Y-2回 黄褐色
445	526	SKA-B	X.103Y112	中国漆器	中壮	14.0		中腹	5Y7-0	灰色	白色	2.5G7Y7-1	11Y-2回 黄褐色
446	526	A	X.103Y112	中国漆器	中壮	14.6		中腹	5Y6-0	灰色	白色	10Y5-2	11Y-2回 黄褐色
447	526	SKD2-B6	X.103Y112	中国漆器	中壮	14.0		中腹	NT-0	灰色	白色	7.5G7Y7-1	11Y-2回 黄褐色
448	526	C2	X.103Y113	中国漆器	中壮	5.6	0.9	中腹	NT-0	灰色	白色	5G7Y6-1	11Y-2回 黄褐色
449	526	A	X.103Y113	中国漆器	中壮	4.7	0.9	中腹	5Y7-0	灰色	白色	7.5Y5-2	11Y-2回 黄褐色
450	526	SKD2-A	X.103Y113	中国漆器	中壮	12.4	2.6	6.5 壁厚	10C-0 - 1回	灰色	白色	2.5G7Y6-1	11Y-2回 黄褐色
451	526	C2	X.103Y113	中国漆器	中壮	8.8		中腹	NS-0	灰色	白色	10Y8-2	11Y-2回 黄褐色
452	526	SKD2-C1	X.103Y118 - 119	中国漆器	中壮	12.0		中腹	5Y7-1	灰色	白色	7.5G6-2	11Y-2回 黄褐色
453	526	SKD2-C2	X.103Y118 - 119	中国漆器	中壮	25.0		中腹	NS-0	灰色	白色	10Y8-2	11Y-2回 黄褐色

第29表 加納谷内遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧 (11)

所	名	類別	遺物	出土場所	種類	形態	上口径	底径	高さ	時期	計測値	絶対色調	出土の位置	地質	備考
125	151	湯沸	X10301565	湯沸	中國白粗	壺	22.0	10.0	7.0	7.2N7.7	[6]白色	7.2N6.2	[6]白色	泥質	第4リードブ
145	146	B	X353902II	湯沸	中國白粗	壺	24.0	9.0	7.0	NK.0	[6]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
146	146	B	X353906	湯沸	中國白粗	壺	15.0	9.0	7.0	7.2N6.3	[6]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
129	127	SX-45C2	漆器	漆器	中國白粗	壺	24.0	10.0	7.0	7.2N7.1	[6]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
148	148	B	漆器	漆器	中國白粗	壺	16.0	9.0	7.0	N7.0	[6]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
150	150	B	X35392	漆器	中國白粗	壺	16.0	9.0	7.0	N6.0	[6]白色	10.0S7.2	褐色灰白色	青釉地	泥質
160	158	SX-50	漆器	漆器	中國白粗	壺	15.6	6.2	6.0	N7.0	[6]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
161	158	C2	X1291115	漆器	中國白粗	壺	14.2	6.0	6.0	N6.0	[6]白色	10.0S7.2	褐色灰白色	青釉地	泥質
162	158	SX-52	X12902	漆器	中國白粗	壺	15.8	6.0	6.0	N6.0	[6]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
163	158	SX-50	X12901A	漆器	中國白粗	壺	13.2	6.0	6.0	N6.0	[6]白色	10.0S7.2	褐色灰白色	青釉地	泥質
164	159	SX-52	X129Y121	漆器	中國白粗	壺	16.1	6.0	6.0	N6.0	[6]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
165	SU112	X1271128	漆器	中國白粗	壺	16.1	6.0	6.0	N6.0	[6]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質	
166	158	SX-50	X1171122	漆器	中國白粗	壺	17.2	6.0	6.0	N7.8	[6]白色	10.0S7.2	褐色灰白色	青釉地	泥質
167	158	SX-50	X1171122	漆器	中國白粗	壺	16.6	6.0	6.0	N7.8	[6]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
168	158	SX-50	X1171122	漆器	中國白粗	壺	16.5	6.0	6.0	N7.8	[6]白色	10.0S7.2	褐色灰白色	青釉地	泥質
169	159	SX-52	X1191122	漆器	中國白粗	壺	17.8	6.0	6.0	N7.8	[6]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
170	159	SX-52	X1171122	漆器	中國白粗	壺	16.0	6.0	6.0	N7.8	[6]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
171	158	SX-50	X1171122	漆器	中國白粗	壺	14.4	4.2	6.0	N7.8	[6]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
172	158	SX-50	X1171122	漆器	中國白粗	壺	15.2	6.0	6.0	N7.7	[6]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
173	158	SX-50	X128Y1237	漆器	中國白粗	壺	6.0	6.0	6.0	N7.8	[6]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
174	158	SX-50	X128Y123	漆器	中國白粗	壺	4.8	6.0	6.0	N7.8	[6]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
175	158	SX-50	X128Y96	漆器	中國白粗	壺	3.7	6.0	6.0	N7.8	[6]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
176	158	SX-50	X128Y96	漆器	中國白粗	壺	3.7	6.0	6.0	N7.8	[6]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
177	158	SX-50	X128Y115	漆器	中國白粗	壺	6.7	6.0	6.0	N7.8	[6]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
178	158	SX-50	X128Y12	漆器	中國白粗	壺	7.8	6.0	6.0	N7.8	[6]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
179	158	SX-50	X128Y12	漆器	中國白粗	壺	6.3	6.0	6.0	N7.8	[6]白色	10.0S7.2	褐色灰白色	青釉地	泥質
180	158	B	X36375II	漆器	中國白粗	壺	9.9	6.0	6.0	N8.0	[6]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
181	158	SX-50	X127271	漆器	中國白粗	壺	10.4	7.0	7.0	N8.0	[6]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
182	158	A	X13116	漆器	中國白粗	壺	7.5	5.5	5.5	N7.8	[5]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
183	158	A	X102701II	漆器	中國白粗	壺	10.6	4.2	4.2	N7.8	[5]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
184	158	C2	X133114II	漆器	中國白粗	壺	10.7	2.4	4.0	N7.8	[5]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
185	158	C2	X133114II	漆器	中國白粗	壺	11.2	2.3	4.0	N7.8	[5]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
186	158	SX-50	X128Y12	漆器	中國白粗	壺	11.0	2.7	4.0	N7.8	[5]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
187	158	SX-50	X128Y12	漆器	中國白粗	壺	11.0	2.7	4.0	N7.8	[5]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
188	158	C2	X133114II	漆器	中國白粗	壺	11.8	2.7	4.0	N7.8	[5]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
189	158	C2	X133114II	漆器	中國白粗	壺	11.8	3.1	4.0	N7.8	[5]白色	10.0S7.1	褐色灰白色	青釉地	泥質
190	158	C2	X133114II	漆器	中國白粗	壺	12.0	3.1	5.0	N7.8	[5]白色	10.0S7.2	褐色灰白色	青釉地	泥質
191	158	C2	X133114II	漆器	中國白粗	壺	13.0	3.4	5.0	N7.8	[5]白色	10.0S7.4	褐色灰白色	青釉地	泥質

第29表 加納谷内遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧 (12)

件名	番号	遺物名	備考	出土場所	性別	口径 (cm)	底径	高さ	時間	詳細説明	出土位置	地質	種別	備考
130	491	SS606A		X-23	縦円筒	34.4	36	69	近世	10YR6-3 1.5-3.5黄色	10YR6-3 1.5-3.5黄色	SYR4-2 1.5-3.5黄色	直筒	
482	50	SS607A		縦小筒	14.0	13	5.4	近世	10YR7-2 1.5-3.5黄色	10YR7-2 1.5-3.5黄色	SYE4 縦赤色	直筒		
483	50	SS606A		縦小筒	10.0	2.5	5.0	近世	10YR4-4 1.5-3.5黄色	10YR4-4 1.5-3.5黄色	HRE2 縦赤色	直筒		
484		SS61B		縦小筒	14.4	3.1	5.0	近世	10YR7-3 1.5-3.5黄色	10YR7-3 1.5-3.5黄色	7.3YR2-2 縦赤色	直筒		
485	50	C1	X-103196	縦小筒	7.1	1.7	2.6	近世	7.5R7-3 1.5-3.5黄色	7.5R7-3 1.5-3.5黄色	10YR8-3 1.5-3.5黄色	直筒		
486	50	C1	X-883114	縦小筒	10.5	3.1	3.4	近世	10YR7-3 1.5-3.5黄色	10YR7-3 1.5-3.5黄色	10YR6-4 1.5-3.5黄色	直筒		
487		SS607A		縦小筒	10.1	6.5	3.3	近世	7.5YR6-2 3.5-4.5白色	7.5YR6-2 3.5-4.5白色	SYR4-2 1.5-3.5黄色	直筒		
488		SS61B	X-860190	縦小筒	12.6	3.2	5.2	近世	7.5YR6-4 1.5-3.5黄色	7.5YR6-4 1.5-3.5黄色	SYR6-3 1.5-3.5黄色	直筒		
489	50	SS606A		縦小筒	14.0	3.5	5.5	近世	10YR7-3 1.5-3.5黄色	10YR7-3 1.5-3.5黄色	SYR4-2 1.5-3.5黄色	直筒		
500	50	C2	X-135114	縦小筒	13.7	2.2	5.5	近世	10YR6-3 1.5-3.5黄色	10YR6-3 1.5-3.5黄色	7.3YR2-4 1.5-3.5黄色	直筒		
501	3-50	SS606A		縦小筒	10.2	2.9	5.6	近世	2.5Y7-2 3.5-4.5白色	2.5Y7-2 3.5-4.5白色	7.3YR4-4 1.5-3.5黄色	直筒		
502		SS606A		縦小筒	10.6	3.1	5.0	近世	10YR7-3 1.5-3.5黄色	10YR7-3 1.5-3.5黄色	7.3YR2-3 1.5-3.5黄色	直筒		
503		X-132-133Y115		縦小筒	10.0	3.1	4.9	近世	5.5T-1 3.5-4.5白色	5.5T-1 3.5-4.5白色	SYR6-6 1.5-3.5黄色	直筒		
111	504	3-62	X-510180	縦小筒	8.8	6.9	9.4	近世	2.5YK2 3.5-4.5白色	2.5YK2 3.5-4.5白色	7.3YR2-2 1.5-3.5黄色	直筒		
505	C1	X-8832001		縦小筒	8.1	3.5	5.8	近世	10YR6-2 1.5-3.5黄色	10YR6-2 1.5-3.5黄色	7.3YR4-3 1.5-3.5黄色	直筒		
506	50	C1	X-124-11	縦小筒	8.8	3.5	5.8	近世	10YR6-4 1.5-3.5黄色	10YR6-4 1.5-3.5黄色	SYR5-2 1.5-3.5黄色	直筒		
507	C2	X-125109		縦小筒	9.1	3.5	5.8	近世	2.5Y8-2 3.5-4.5白色	2.5Y8-2 3.5-4.5白色	SYR4-2 1.5-3.5黄色	直筒		
508		SS23B	X-124-17	縦小筒	9.6	3.5	6.7	近世	10YR7-3 1.5-3.5黄色	10YR7-3 1.5-3.5黄色	10YR4-1 1.5-3.5黄色	直筒		
509		X-124-17		縦小筒	10.7	3.5	6.7	近世	2.5Y8-3 3.5-4.5白色	2.5Y8-3 3.5-4.5白色	SYR4-2 1.5-3.5黄色	直筒		
510		SS44C2	X-132-133Y115	縦小筒	20.0	13.3	11.0	近世	7.5YR8-4 1.5-3.5黄色	7.5YR8-4 1.5-3.5黄色	SYR5-4 1.5-3.5黄色	直筒		
511	3	X-124-17		縦小筒	26.6	13.3	11.0	近世	7.5YR8-2 1.5-3.5黄色	7.5YR8-2 1.5-3.5黄色	SYR5-2 1.5-3.5黄色	直筒		
512	C2	X-129Y113		縦小筒	27.3	11.2	12.6	近世	7.5YR8-2 1.5-3.5黄色	7.5YR8-2 1.5-3.5黄色	SYR5-2 1.5-3.5黄色	直筒		
513	3-50	C2	X-135Y17	縦小筒	11.2	5.8	6.6	近世	N7-0 6.0-7.0白色	N7-0 6.0-7.0白色	7.3YR4-3 1.5-3.5黄色	直筒		
514		X-124-17		縦小筒	13.1	5.5	8.4	近世	2.5Y7-2 3.5-4.5白色	2.5Y7-2 3.5-4.5白色	SYR4-2 1.5-3.5黄色	直筒		
515		SS13A	X-103Y20	土製品	R-5.5A	6.55.0	5.22.0	近世	7.5YR6-4 1.5-3.5黄色	7.5YR6-4 1.5-3.5黄色	SYR4-2 1.5-3.5黄色	直筒		
516	C1	X-103Y20		土製品	R-5.5B	6.64.9	5.21.8	近世	7.5YR6-3 1.5-3.5黄色	7.5YR6-3 1.5-3.5黄色	SYR4-2 1.5-3.5黄色	直筒		
517	SS40C1			土製品	R-5.5D	6.61.8	5.21.6	近世	7.5YR6-3 1.5-3.5黄色	7.5YR6-3 1.5-3.5黄色	SYR4-2 1.5-3.5黄色	直筒		
518	SS40A			土製品	R-5.62	6.64.4	5.21.6	近世	7.5YR6-3 1.5-3.5黄色	7.5YR6-3 1.5-3.5黄色	SYR4-2 1.5-3.5黄色	直筒		
519	A	X-69761		土製品	R-5.66	6.61.7	5.21.6	近世	10YR6-3 1.5-3.5黄色	10YR6-3 1.5-3.5黄色	SYR4-2 1.5-3.5黄色	直筒		
520	50	A	X-2614	土製品	10.6	3.6	2.5	近世	10YR6-1 6.0-7.0白色	10YR6-1 6.0-7.0白色	SYR4-2 1.5-3.5黄色	直筒		
521	C2	X-128Y165		土製品	11.8	2.7	4.7	近世	10YR6-4 1.5-3.5黄色	10YR6-4 1.5-3.5黄色	SYR4-4 1.5-3.5黄色	直筒		
522		SS44C2	X-135Y118-119	土製品	11.8	3.7	4.4	近世	10YR8-2 6.0白色	10YR8-2 6.0白色	SYR5-3 1.5-3.5黄色	直筒		
523	X-124-17			土製品	13.2	3.9	4.2	近世	2.5YR3 3.5-4.5白色	2.5YR3 3.5-4.5白色	SYR5-1 3.5-4.5白色	直筒		
524	50	SS609A		土製品	10.2	3.3	3.0	近世	7.5YR5-3 1.5-3.5黄色	7.5YR5-3 1.5-3.5黄色	SYR6-2 1.5-3.5黄色	直筒		
525	50	X-3614		土製品	11.4	3.4	3.0	近世	7.5YR6-4 1.5-3.5黄色	7.5YR6-4 1.5-3.5黄色	2.5YR2-2 1.5-3.5黄色	直筒		
526	50	SS606A		土製品	12.1	3.9	4.8	近世	2.5YR4-4 3.5-4.5白色	2.5YR4-4 3.5-4.5白色	SYR5-3 1.5-3.5黄色	直筒		
132														

第29表 加納谷内遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧 (13)

件号	品名	種類	出土場所	剖面	直径 (mm)	高さ (mm)	形態	計測値	鉢土色調	土上の容積	鉢色調	地質	備考
122 527	湯沸 501/116	陶器	136.1 番	直	111	27	50×38	10185.2 73Y86.3	11.45×7.96 10185.2 5W6.3	10185.2 5W6.3	白色	10185.2 5W6.3	
528 529 530	B A B	陶器	X25/14 II 番 X70/96 X132 - 133/115	直 直 直	120 121	34 32	50×38 50×38	72Y86.2 57.0	10185.2 5W6.3	10185.2 5W6.3	白色	10185.2 5W6.3	
531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541	B C1 A C2 X135 - 136/117 - 16 X26/90 5W6.0 X127/107 X132 - 133/115 X133/30 II 番 X130/45 II 番 X140/49 - 50 II 番 50.3/19	陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器	X25/14 II 番 X31/5 C II 番 X135 - 136/117 - 16 X26/90 5W6.0 X127/107 X132 - 133/115 X133/30 II 番 X130/45 II 番 X140/49 - 50 II 番 50.3/19	直 直 直 直 直 直 直 直 直 直 直 直	128 75 40 82 96 74.4 66 72.4 67 108 2.7 35.2	25 40 40 59 71 66 70 66 53 56 11.0	46×38 40×38 40×38 45×38 46×38 46×38 52×38 53×38 53×38 53×38 132×38	5Y7.2 5W6.3 5W6.4 23Y5.3 23Y7.4 5W8.1 5W7.1 73Y87.3 5Y7.1 10W5.2	10185.2 5W6.2 5W6.2 10185.2 5W6.2 5W6.2 5W6.2 5W6.2 5W6.2 5W6.2 5W6.2 5W6.2	10185.2 5W6.2 5W6.2 10185.2 5W6.2 5W6.2 5W6.2 5W6.2 5W6.2 5W6.2 5W6.2 5W6.2	白色 白色 白色 白色 白色 白色 白色 白色 白色 白色 白色 白色	白色 白色 白色 白色 白色 白色 白色 白色 白色 白色 白色 白色	
541 542 543 544 545 546 547 548	C2 C2 50.3/19 50.3/19 50.3/19 50.3/19 50.3/19 50.3/19	陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器	X133/30 II 番 X130/45 II 番 X140/49 - 50 II 番 X133/30 II 番 X130/45 II 番 X140/49 - 50 II 番 X133/30 II 番 X130/45 II 番	直 直 直 直 直 直 直 直	12.4 12.8 11.9 13.0 17.3 28.1 39.4	3.2 5.2 2.4 2.6 1.7 6.2 10.1	56×38 56×38 56×38 56×38 56×38 104×38 2.5Y5.6	NW.0 NW.0 NW.0 NW.0 5YR2.1 23Y7.1 10Y8.4	10185.4 10185.4 10185.4 10185.4 10185.4 10185.4 10185.4	白色 白色 白色 白色 白色 白色 白色	白色 白色 白色 白色 白色 白色 白色		

第30表 加納谷内遺跡 木製品一覧（1）

件名 番号	写真 図版	遺構 地区	出土地点	種類	法量 (cm)			樹種	木取り	備考
					長さ×幅	幅厚	厚さ(既往)			
134.549 83	写B	X60Y86Ⅲa層	槽	(44.1)	(140)	3.4	スギ	柾目		
134.550 83	写B	X60Y72Ⅲa層	槽	(128)	(366)	1.3	スギ	柾目	孔打跡	
134.551 83	SD4A	X50Y69	槽	87.0	(184)	5.3	スギ	板目～柾目		
134.552 84	写B	黒褐色粘土	円筒木製品	(185)	19.4	(13.5)	モクラン属	芯持丸木		
135.553 85	写B	X60Y90Ⅲa層	羽物柄	32.0	(135)	3.5	スギ	追板	把手孔付き	
135.554 84	写B	X60Y90Ⅲa層	羽物柄	33.6	(240)	4.5	スギ	追板		
135.555 85	写B	X77Y74Ⅲa層	羽物柄	70.4	(248)	7.6	スギ	柾目		
135.556 85	写B	X76Y74Ⅲ	羽物柄	71.5	(165)	7.0	スギ	柾目		
135.557 85	写B	X64Y90Ⅲa層	円筒板	(296)	(61)	1.3	スギ	板目		
136.558 86	写B	X78Y67黒褐色粘土	木製品	(195)	23.7	29	コナラ属 アカガシ属	柾目		
136.559 86	写B	X79Y67黒褐色粘土	木製品	12.7	(162)	3.3	コナラ属 アカガシ属	柾目		
136.560 86	写B	X60Y82Ⅲ	弓	32.5	1.1	10	ヒノキ特	芯持丸木		
136.561 85	写B	X77Y74Ⅲa層	羽物柄	(403)	4.8	1.5	スギ	板目		
137.562 63	B	X60Y79Ⅲa層	漆器柄	13.6	4.5	6.8	ヤセキ	横木地板目	内外側赤色 高台内黒色漆 高台外文様赤色漆	
137.563 63	SK1B	X79Y96	漆器柄	8.4	2.5	5.2	ヤセキ	横木地	内外側赤色 高台内黒色漆 高台外文様赤色漆	
137.564 64	SK527A		漆器柄	—	(36)	4.6	ブナ属	横木地板目	内外側赤色漆 高台内黒色漆	
137.565 65	SK4C1		漆器柄	—	(42)	6.0	ブナ属	横木地板目	内外側赤色漆 外側赤色漆	
137.566 63	SK191B	X85Y84	漆器柄	—	(37)	—	ブナ属	横木地板目	内外側赤色漆 外側赤色漆 高台内文様赤色漆	
137.567 63	SE111B		漆器柄	—	(24)	5.8	スダジイ	横木地板目	内外側赤色漆 外側文様赤色漆	
137.568 64	SK517A		漆器柄	8.8	2.2	6.5	ブナ属	横木地板目	内外側赤色漆	
137.569 64	SE186C1		漆器柄	14.5	4.4	7.5	ブナ属	横木地板目	内外側赤色漆 外側文様赤色漆	
137.570 65	SK242C2	X132-X33Y115	漆器柄	20.6	6.5	5.1	ブナ属	横木地板目	内外側赤色漆 外側文様赤色漆	
137.571 64	SK191B	X85Y84	漆器柄	—	(27)	9.2	ブナ属	横木地板目	内外側赤色漆 外側文様赤色漆	
137.572 66	SE269A		粘物柄	36.3	33.8	31.5	楓板；スギ 楓；イネ科タケ科苗	楓板；板目		
137.573 66	SK191B		粘物柄	16.1	8.2	2.3	マツ属 根群管束属	板目		
137.574 65	SK242C2	X132-X33Y115	粘物柄	—	(33)	19.6	楓板；楓板；スギ	柾目		
137.575 66	SE133A		粘物柄	9.4	5.9	9.4	楓板；ヒノキ 底板；ヒノキ	柾目	厚さ0.1cm	
138.576 66	SE269A	舟口杓 (曲物柄)	舟口杓	37.2	25.9	37.4	楓板；アヌナロ	柾目	厚さ0.2cm	
138.577	SE609A	舟口杓 (曲物柄)	舟口杓	39.4	30.5	39.0	スギ	柾目	厚さ0.3cm 五重	
138.578 68	SE233A	舟口杓 (曲物柄)	舟口杓	38.0	26.5	38.0	楓板；内；ヒノキ	柾目	厚さ0.7cm 二重	
138.579 67	SE680A	舟口杓 (曲物柄)	舟口杓	35.3	16.1	35.4	楓板；ヒノキ	柾目	厚さ0.3cm	
138.580 67	SE269A	舟口杓 (曲物柄)	舟口杓	25.4	9.8	25.8	スギ	柾目	厚さ0.2cm	
138.581 68	SE269A	舟口杓 (曲物柄)	舟口杓	37.4	12.0	37.9	アヌナロ	柾目	厚さ0.2cm	
138.582 67	SE682A	舟口杓 (曲物柄)	舟口杓	32.6	13.9	33.1	楓板；内；ヒノキ	柾目	厚さ0.5cm	
138.583 67	SE267A	舟口杓 (曲物柄)	舟口杓	38.1	24.8	37.9	楓板；内；スギ	内；柾目～追板；外；柾目	厚さ0.3cm	
138.584 68	SE671A	舟口杓 (曲物柄)	舟口杓	42.4	19.1	42.4	楓板；スギ	板目	厚さ0.5cm	
138.585 68	SE186C1	舟口杓 (曲物柄)	舟口杓	36.2	26.2	35.9	楓板；内；ヒノキ	板目	厚さ0.6cm	
138.586 70	SE339C1	舟口杓 (曲物柄)	舟口杓	39.5	24.9	40.2	楓板；スギ	板目	厚さ0.4cm	
138.587 69	SE186C1	舟口杓 (曲物柄)	舟口杓	37.0	37.4	38.0	楓板；内；ヒノキ	柾目	厚さ0.4cm	
138.588 69	SE290C1	舟口杓 (曲物柄)	舟口杓	34.0	9.5	34.1	楓板；内；ヒノキ	柾目	厚さ0.3cm	
138.589 70	SE390C1	舟口杓 (曲物柄)	舟口杓	34.0	25.4	34.3	楓板；内；アヌナロ	柾目	厚さ0.4cm	
138.590 69	SE156B	舟口杓 (曲物柄)	舟口杓	32.6	23.0	52.5	楓板；スギ	板目	厚さ0.6cm 上段	
138.591 69	SE156B	舟口杓 (曲物柄)	舟口杓	40.5	18.3	41.3	楓板；スギ	板目	厚さ0.3cm 下段	
138.592 71	SE336B	舟口杓 (曲物柄)	舟口杓	66.8	33.0	54.1	マツ属 根群管束属	芯持材(鋼製)	厚さ7.5cm	
138.593 71	SE590C1	舟口杓 (木口)	舟口杓	38.1	26.3	37.8	マツ属 根群管束属	芯持丸木	厚さ5.4cm	
138.594 71	SE495A	舟口杓 (木口)	舟口杓	(33.7)	33.4	37.3	スギ	芯持丸木	厚さ6.4cm	
138.595 72	SE630A	円筒板	円筒板	30.9	20.9	29.7	アヌナロ 内；イネ科タケ科苗	柾目～柾目 削削；削削		
138.596 73	SE630A	円筒板	円筒板	19.7	28.4	12.8	スギ	柾目～板目		
138.597 72	SE329C1	円筒板	円筒板	21.0	20.5	0.7	ヒノキ	柾目		

第30表 加納谷内遺跡 木製品一覧 (2)

番 号	通 号	写 真 番 号	地 名	出土地点	種類	寸法 (cm)			樹種	木取引	備考
						長さ(口幅)	幅厚	厚さ(底面)			
141	598	74	SX1919	X64Y84II周	円形板	18.2	12.0	0.5	ヒノキ材	柵目	
141	599	74	SK242C2	X132 - 133Y115	円形板	18.6	(16.5)	0.6	スギ	柵目	2箇所に複数
141	600	73	SK205A		円形板	(7.4)	(4.7)	0.3	スギ	柵目	
141	601	73	B	X81Y78IIa周	円形板	7.4	7.5	0.7	ヒノキ材	柵目	
142	602	74	SE172A		円形板	24.8	(9.8)	0.7	スギ	柵目	
142	603	75	SK209C1		円形板	25.4	23.9	0.5	ヒノキ	柵目	
142	604	74	SE630A		円形板	(24.1)	(7.4)	1.0	ヒノキナロ	柵目	
142	605	75	SE223B		円形板	(27.0)	(17.9)	1.1	ヒノキナロ	柵目	
142	606	74	SE223B		円形板	(30.6)	(7.7)	1.3	スギ	柵目	
142	607	75	SE267A		円形板	(31.0)	(9.4)	1.0	スギ	柵目	
143	608	75	SE323B		円形板	(35.3)	(20.1)	1.2	ヒノキ	柵目	
143	609	75	SE323B		円形板	(35.5)	(22.1)	1.1	スギ	柵目	
143	610	69	SD4A	X46Y77O	円形板	<b>36.4</b>	(14.6)	1.2	スギ	柵目・柵板	
144	611	69	SK1B		円形板	(37.0)	(5.5)	2.7	ヒノキナロ	柵目	
144	612	70	SE223B		円形板	(48.0)	(12.2)	1.0	スギ	柵目	
144	613	69	SE233B		円形板	(43.7)	(15.5)	1.2	スギ	柵目	
145	614	76	SE640A		折衷板	26.3	31.5	0.3	セイボク・スギ	柵目	
145	615	76	SE180C1		折衷板	24.8	23.6	0.4	ヒノキ	柵目	
145	616	70	SK1B		折衷板	17.7	(5.0)	0.4	スギ	柵目	
145	617	70	SK289C1		板	(21.7)	7.8	1.0	ヒノキ	柵目	
146	618	76	SK966A		下板	16.4	6.4	3.8	ヒノキ耐候鋼管合板属	柵目	
146	619	76	SK454A		下板	(20.8)	8.3	2.0	ヒノキ耐候鋼管合板属	柵板	
146	620	77	SK1B		柄状部材	13.3	(3.7)	0.5	ヒノキナロ	柵目	
146	621	77	SE630A		柄	11.0	3.8	2.5	スギ	削刮丸棒	金属残存
146	622	77	SE323B		柄	25.1	15.5	2.4	スギ	柵目	
146	623	77	A	X56Y51IIa周	飾	6.9	3.3	0.8	モザン属	背:木口 種:柵目	
146	624	77	SE294C1		部材	3.6	25.3	0.9	スギ	柵目	
146	625	77	SK209C1		部材	18.2	3.3	0.6	スギ	画面黒色塗装	孔B
146	626	77	SK32C2		板材	(12.4)	4.9	0.3	スギ	柵目	孔I
147	627	78	SX356B		釘子	25.1	7.8	0.3	スギ	柵目	
147	628	78	SE223B		釘子	(21.8)	7.0	0.9	ヒノキ属	柵目	
147	629	78	SE323B		釘子	(27.6)	9.2	1.8	スギ属	柵目	
147	630	78	SE194C1		部材	17.2	2.9	2.8	スメリ	芯持角材	孔I
147	631	78	SK342B		用達不明品	4.8	5.1	3.7	ヒノキ耐候鋼管合板属	芯持材	
147	632	79	SK79B	黒刷毛粘土	柄状部材	27.8	5.1	3.8	ヒノキ耐候鋼管合板属	削刮(芯持)	孔I
147	633	78	SE156B		柄状部材	27.8	8.1	6.7	3.4	分割材	孔I
148	634	79	SK1B		部材	6.2	11.9	1.3	スギ	柵目	
148	635	79	SK1B		部材	6.5	11.4	1.2	スギ	柵目	
148	636	79	SE323B		板材	57.4	10.5	0.6	スギ	柵目	孔S
148	637	79	SE368B		角材	(27.6)	5.2	6.1	ミツガサ	芯持角材	孔I
148	638	79	SK4B		角材	(45.1)	3.9	3.4	スギ	芯持材	孔I
149	639	82	SK242C2	X132 - 133Y115	作業台	<b>40.0</b>	27.0	高5.10アマヒノキ耐候鋼管合板属	柵目		
					作業台(脚)			a:ヒノキ属 b:c:スギ d:e:スメリ属イヌシデ	A: B: 分割材 C: 滑出し軌		
149	640	80	SK264A		柱板	(66.0)	17.1	21.6	タリ	芯持丸木	
149	641	80	SP1137A		柱板	(51.3)	35.2	17.5	タリ	芯持丸木	
149	642	80	SK264A		柱板	(62.5)	19.2	13.9	タリ	芯持丸木	
150	643	80	SK264A	(SB1)	柱板	(44.7)	36.4	18.2	タリ	芯持丸木	
150	644	80	SK263A	(SB2)	柱板	(38.0)	13.1	11.2	タリ	芯持丸木	
150	645	80	SK264A	(SA2)	柱板	(33.9)	12.5	12.1	タリ	芯持丸木	
150	646	81	SK266A	(SA2)	柱板	(33.2)	15.3	14.3	タリ	芯持丸木	
150	647	81	SK264A	(SA2)	柱板	(94.8)	27.4	26.9	タリ	芯持丸木	
150	648	81	SK262A	(SA2)	柱板	(32.8)	14.0	16.6	タリ	芯持丸木	
150	649	81	SK320A	E	柱板	(51.7)	22.9	10.0	タリ	芯持丸木	
150	650	81	SK262A	(SA2)	柱板	(70.3)	22.3	19.8	タリ	芯持丸木	
151	651	82	SK1B		柱板	(96.2)	31.8	24.3	タリ	芯持丸木	
151	652	82	SK1B		柱板	(89.0)	30.0	25.7	タリ	芯持丸木	
151	653	81	SK1B		柱板	(63.0)	33.3	25.6	タリ	芯持丸木	
152	654	82	SK79B		板材	155.0	28.0	1.1	アマヒノキ耐候鋼管合板属	柵目・柵板	
152	655	82	SD252B	X63Y68	板材	141.5	20.9	3.0	スギ	柵目	
152	656	82	TB1	X70Y73V型	板材	93.8	22.2	2.7	スギ	柵目	
152	657	83	TB1	X72Y71黒刷毛粘土	板材	81.1	22.9	1.5	スギ	柵目	

第31表 加納谷内遺跡 金属製品一覧

排 列 番 号	遺物 番号	写真 図版	遺構 地区	出土地点	種類	法量 (cm・g)				備考
						長さ	幅	厚さ	重さ	
160	695	I03	SD140B	X67Y7III層	袋状鉄斧	8.5	5.2	2.8	175.01	
160	696	I03	SD140B	X84Y89	鉄	13.6	0.9	0.8	69.62	
160	697	I03	SK666A		クマダ形鉄製品	15.1	5.1	0.4	112.97	
160	698	I05	SK510A		導管	(5.05)	0.8	0.1	5.19	
160	699	I05	SE111B		鋼鉄	2.5	2.5	0.1	2.30	坐造丸寶
160	700	I05	SD2D	Y38	鋼鉄	2.5	2.5	0.1	3.56	天宝丸寶
160	701	I05	SK1B		鋼鉄	2.39	2.39	0.11	2.94	元豐通寶
160	702	I05	SK1B		鋼鉄	2.4	2.4	0.12	2.50	元祐通寶
160	703	I05	SK1B	X80Y96	鋼鉄	2.42	2.42	0.1	3.10	元祐通寶
160	704	I05	SK1B	X80Y96	鋼鉄	2.5	2.5	0.1	3.27	皇宋通寶
160	705	I05	SK1B	X80Y96	鋼鉄	2.45	2.45	0.18	3.09	朝鮮元寶
160	706	I05	SK1B	X80Y96	鋼鉄	2.49	2.49	0.11	3.35	元祐通寶
160	707	I05	SK1B	X80Y96	鋼鉄	2.42	2.42	0.11	3.38	元祐通寶
161	708	I05	A	X38Y46II層	佛像	7.0	1.1	0.1	9.15	
161	709	I05	A	X30Y50II層	佛像	8.55	1.1	0.1	12.68	
161	710	I04	C1	試掘トレンチ	鉢型容器	(13.2)	(12.1)	0.3	337.68	
161	711	I04	C3	X148Y149I層	骨	12.7	0.95	0.2	7.5	
161	712	I04	A	X38Y44II層	龍虎金具	3.8	2.7	1.5	19.01	
161	713	I05	C2	X133Y125S形トレンチ内	鋼鉄	2.2	2.2	0.1	1.34	開元通寶
161	714	I05	C3	I層	鋼鉄	2.5	2.5	0.1	2.0	宋造丸寶
161	715	I05	B	X85Y75II層	鋼鉄	2.49	2.49	0.11	2.82	景德元寶
161	716	I05	C1	X105Y123讲水溝	鋼鉄	2.4	2.4	0.1	2.13	天祐通寶
161	717	I05	B	X85Y75II層	鋼鉄	2.49	2.49	0.12	3.41	政和通寶
161	718	I05	C2	X130Y112II層	鋼鉄	2.4	2.4	0.1	1.83	元祐通寶
161	719	I05	C2	X122Y109II層	鋼鉄	2.3	2.3	0.1	1.89	元祐通寶
161	720	I05	A	X44Y66II層	鋼鉄	2.3	2.3	0.1	2.36	洪武通寶
161	721	I05	A	X43Y67II層	鋼鉄	2.4	2.4	0.1	2.86	永樂通寶
161	722	I05	A	X65Y70II層	鋼鉄	2.3	2.3	0.1	1.88	寛永通寶
161	723	I05	C2	X112Y132II層	鋼鉄	2.4	(2.3)	0.1	1.26	□施油

第32表 加納谷内遺跡 石製品一覧 (1)

排 列 番 号	遺物 番号	写真 図版	遺構 地区	出土地点	種類	種類	法量 (cm・g)				備考
							長さ	幅	厚さ	重さ	
103	78	I88	C2	X134Y122S形	磨製石斧	トレモラ閃石岩	(5.35)	(4.85)	2.13	58.97	刃部欠損
103	79	I87	SD1C3	X165Y143	磨製石斧	風化蛇紋岩	(8.33)	(5.33)	(2.84)	170.5	
103	80	I87	C3	X139Y140II層	磨製石斧	風化蛇紋岩	(6.84)	(5.76)	(2.39)	98.5	
103	81	I88	C3	X137Y150I層	磨製石斧	蛇紋岩	(5.37)	(4.51)	(2.27)	61.5	
103	82	I88	C3	X139Y150V層	磨製石斧	蛇紋岩	(4.6)	(4.3)	(2.87)	62.7	
103	83	I87	C3	試掘T19埋土	磨製石斧	風化蛇紋岩	(11.36)	(6.41)	2.39	316.4	
103	84	I88	SD2A	X45Y68	磨製石斧	蛇紋岩	(7.84)	(5.06)	1.79	91.98	
103	85	I88	C2	X130Y95IV層	磨製石斧	トレモラ閃石岩	(6.53)	4.7	2.04	92.88	上部・刃部欠損 右鍼再利用
103	86	I88	C2	X122Y102II層	磨製石斧	蛇紋岩 (トレモラ閃石岩含有)	(6.68)	(5.28)	2.31	110.04	上部欠損
103	87	I88	C2	X133Y136V層	磨製石斧	風化蛇紋岩	(5.63)	4.6	1.9	72.12	上部欠損
103	88	I88	C2	X128Y113I層	磨製石斧	蛇紋岩	(4.79)	4.98	2.5	76.14	刃部のみ
103	89	I88	C2	X135Y135V層	磨製石斧	風化蛇紋岩	(4.91)	4.3	1.2	35.42	月部のみ欠損
103	90	I87	C2	X137Y147II層	磨製石斧	翡翠	(8.59)	6.3	(3.17)	224.0	
103	91	I87	C2	X126Y101表孫	磨製石斧	蛇紋岩 (トレモラ閃石岩含有)	(6.57)	6.22	2.1	133.35	上部・刃部欠損 右鍼再利用
104	92	I87	SK1B	X75Y97	磨製石斧	蛇紋岩	10.57	5.13	2.32	242.15	
104	93	I87	SK79B		磨製石斧	輝石安山岩	11.1	5.68	3.74	400.92	
104	94	I88	C2	X139Y117V層	磨製石斧	トレモラ閃石岩	9.27	4.18	2.06	110.42	
104	95	I88	C2	X129Y124II層	磨製石斧	蛇紋岩	4.99	3.45	0.89	24.83	刃部欠損
104	96	I88	C2	X135Y130II層	磨製石斧	トレモラ閃石岩	6.29	3.56	1.25	51.98	
104	97	I87	C3	X151Y146V層	磨製石斧	蛇紋岩	9.87	5.54	2.21	207	
104	98	I88	C2	X133Y126V層	磨製石斧	蛇紋岩	10.94	5.26	2.63	220.5	
104	99	I94	SD909A		打製石斧	實質安山岩	9.53	5.7	1.63	102.38	
104	100	I95	SD168C2	X120Y109	打製石斧	シルト岩	10.01	8.62	1.87	174.85	
105	101	I89	SD2A	X56Y61黒色(谷縫下層)	石鑿	質質頁岩	3.21	1.64	0.55	1.70	
105	102	I89	SK922A		石鑿	頁岩	3.37	2	0.67	2.84	
105	103	I89	SD2A	X51Y165II層	石鑿	無斑品質安山岩 (新第三紀)	(2.35)	(1.90)	0.54	2.38	
105	104	I89	SD7C3	X157Y136	石鑿	無斑品質ガラス質安山岩 (新第三紀)	(3.43)	2.23	0.54	41	
105	105	I89	SK633A		石鑿	質質頁岩 (新第三紀)	(4.69)	2.66	0.94	863	

第32表 加納谷内遺跡 石製品一覧（2）

排 列 番 号	遺 物 名	写真 図版	遺構 地区	出土地点	種類	種類	法量 (cm · g)				備考
							長さ	幅	厚さ	重さ	
105 107	89	C3	X137Y134Ⅴ層	石砲	珪化岩	9.35	4.0	1.49	363		
105 108	89	C2	X136Y126Ⅴ層	石砲	珪化岩（赤玉質）	3.46	4.01	0.71	7.28		
105 109		C3	X130Y148Ⅴ層	調片	珪化岩	2.67	(3.69)	0.81	6.6		
105 110		SK49C2		調片	珪化岩	5.0	2.37	1.32	12.73		
105 111		C2	X128Y135Ⅴ層	調片	木玉	3.36	(5.54)	0.68	8.53		
106 112	90	C2	X135Y135Ⅴ層	鐵石	多孔質安山岩 (新第三紀)	8.8	5.97	4.88	338.3		
106 113	90	C3	X135Y142Ⅴ層	鵞石	微閃綠岩	10.7	8.59	4.57	635.0		
106 114	90	C3	X140Y143Ⅴ層	鵞石	輝石安山岩 (新第三紀)	8.85	6.95	5.25	465.0		
106 115	90	C2	X134Y126Ⅴ層	鵞石・門石	輝石安山岩 (新第三紀)	12.08	10.57	6.42	113.9		
107 116	95	C3	X135Y142Ⅴ層	石頭	波紋岩質的粘結灰岩	44.99	56.59	4.79	8880.0		
107 117		C3	X135Y142Ⅴ層	不明	輝石安山岩 (新第三紀)	(23.07)	(15.02)	(3.17)	1200.0		
107 118	94	C2	X124Y143Ⅴ層	石核	珪化岩	14.01	13.86	6.84	136.3		
108 119	91	SK45C2	集石上部	石錐	角閃石ダイサイト	6.58	6.08	2.21	90.26		
108 120	91	SK46C2	X130Y144	石錐	砂岩	5.9	5.88	1.32	42.26		
108 121	91	SK219C3		石錐	砂岩	6.95	5.15	2.34	94		
108 122	94	SK413C2		石錐	砂岩	(6.42)	(5.01)	2.54	89.43	四周に打ち欠き	
108 123	91	SK247C3		石錐	ダイサイト質凝灰岩	8.13	(6.4)	2.79	157		
108 124	91	SD29C3	X128Y145	石錐	シルト岩	7.47	5.18	2.4	86.7		
108 125	91	SD4A	X50Y65 黒色粘土	石錐	砂岩	12.17	6.95	3.37	323.70		
108 126	91	SD26C3	X147Y156	石錐	片状角閃石花崗岩	9.66	7.22	3.33	345.3		
108 127	91	SK206C3		石錐	砂岩	7.94	5.46	2.62	126		
108 128	91	SD200C3	X139Y147	石錐	砂岩	5.02	4.86	1.57	36.9		
108 129	91	SK217C3		石錐	波紋岩	8.59	7.15	2.37	208		
108 130	91	SK247C3		石錐	波紋岩質凝灰岩	8.88	6.26	3.12	184		
109 131	91	SK217C3		石錐	砂岩	9.48	6.48	3.66	290		
109 132	91	C2	X133Y134Ⅴ層	石錐	黒雲母花崗岩 (磁粒)	5.12	4.49	1.83	56.16		
109 133	91	C2	X132Y134Ⅴ層	石錐	黒雲母花崗岩	5.33	5.21	1.79	71.2		
109 134	92	C3	X126Y132Ⅴ層	石錐	頁岩	5.2	4.59	1.42	40.9		
109 135	92	C3	X137Y136Ⅴ層	石錐	黒雲母ダイサイト	5.97	5.62	1.27	36.8		
109 136	92	C3	X137Y136Ⅴ層	石錐	砂岩	6.6	5.25	2.05	76.0		
109 137	91	C2	X132Y134Ⅴ層	石錐	輝石安山岩 (新第三紀)	6.8	5.3	2.06	95.4	前面に凹み	
109 138	91	C2	X131Y138Ⅴ層	石錐	東質安山岩	7.01	4.56	2.0	87.03		
109 139	92	C3	X131Y150Ⅴ層	石錐	砂岩	7.12	5.04	2.98	134.1		
109 140	91	C2	X141Y148Ⅴ層	石錐	砂岩	7.47	5.79	2.4	138.46		
109 141	92	C3	X138Y147Ⅴ層	石錐	砂岩	7.37	6.45	2.92	144.1		
109 142	92	C3	X139Y141Ⅴ層	石錐	シルト岩	6.63	6.49	2.18	80.5		
109 143	92	C3	X137Y137Ⅴ層	石錐	シルト岩	7.96	5.7	2.34	104.9		
109 144	91	C2	X135Y135Ⅴ層	石錐	輝石安山岩 (新第三紀)	7.66	5.61	3.35	367.12		
109 145	92	C3	X139Y148Ⅴ層	石錐	砂岩	8.13	6.23	3.28	216.8		
109 146	91	C2	X133Y136Ⅴ層	石錐	黒雲母花崗岩	8.93	5.88	2.35	210.74		
110 147	92	C3	X139Y142Ⅴ層	石錐	黒雲母花崗岩	7.02	5.78	1.96	119.5		
110 148	92	C3	X139Y139Ⅴ層	石錐	多孔質輝石安山岩 (新第三紀)	7.42	6.52	1.91	116.5		
110 149	92	C3	X138Y152Ⅴ層	石錐	角閃石黒雲母花崗岩	6.68	6.52	2.53	153.9		
110 150	92	C3	X137Y147Ⅴ層	石錐	頁岩	7.95	5.83	2.47	99.2		
110 151	91	C2	X134Y133Ⅴ層	石錐	黒雲母花崗岩	7.77	7.07	2.77	199.18		
110 152	92	C3	X138Y150Ⅴ層	石錐	離質砂岩	7.39	6.13	2.09	105.4		
110 153	92	C3	X140Y144Ⅴ層	石錐	砂岩	8.39	8.13	3.12	244.3		
110 154	92	C3	X140Y137Ⅴ層	石錐	黒雲母花崗岩	10.0	6.07	2.32	200.0		
110 155	92	C3	X129Y150Ⅴ層	石錐	破碎状花崗岩	9.7	5.85	2.29	172.4		
110 156	92	C3	X130Y148Ⅴ層	石錐	黒雲母花崗岩	8.14	7.49	2.61	229.2		
110 157	92	C3	X138Y150Ⅴ層	石錐	砂岩	8.73	6.68	3.21	179.9		
110 158	91	C2	X132Y136Ⅴ層	石錐	砂岩	8.08	3.84	1.49	61.67		
110 159	92	C3	X138Y152Ⅴ層	石錐	砂岩	9.72	7.52	2.53	186.6		
110 160	92	C3	X140Y137Ⅴ層	石錐	ダイサイト質凝灰岩	8.7	7.37	2.85	231.5		
111 161	92	C3	X138Y150Ⅴ層	石錐	砂岩	9.05	8.24	4.39	373.8		
111 162	92	C3	X138Y150Ⅴ層	石錐	砂岩	9.61	9.43	3.93	321.6		
111 163	91	C2	X135Y135Ⅴ層	石錐	破碎状花崗岩	10.44	9.23	4.04	462.4		
111 164	91	C2	X136Y136Ⅴ層	石錐	砂岩	9.56	8.1	2.71	237.75		
111 165	91	C2	X133Y124Ⅴ層	石錐	多孔質輝石安山岩	13.51	8.52	4.43	646		
111 166	92	C3	X130Y145Ⅴ層	石錐	花崗岩マグナイト	14.06	9.93	4.62	860.0		
111 167	93	C2	X138Y129Ⅴ層	石錐	輝石安山岩 (新第三紀)	14.27	11.83	4.17	987		
112 168	91	C2	X142Y123Ⅴ層	石錐	砂岩	11.22	9.16	4.59	551.68		
112 169	92	C3	X141Y143Ⅴ層	石錐	輝石安山岩 (新第三紀)	11.21	11.52	4.16	720.0		
112 170	93	C2	X133Y128Ⅴ層	石錐	黒雲母花崗岩	13.3	9.98	4.34	772		
112 171	93	C2	X133Y128Ⅴ層	石錐	砂岩	10.99	10.99	5.29	668		

第32表 加納谷内遺跡 石製品一覧（3）

排 列 番 号	遺 物 名	写真 図版	遺 跡 地 区	出土地點	種類	種類	法量(cm・g)				備考
							長さ	幅	厚さ	重さ	
112 172 93 C2	X136Y130Ⅴ型		石鍤	輝石安山岩 (新第三紀)	15.28	12.7	4.13	1234			
112 173 93 C2	X133Y128Ⅴ型		石鍤	輝石安山岩 (新第三紀)	18.3	11.68	4.46	1100			
112 174 93 C3	X136Y137Ⅴ型		石鍤	輝石安山岩 (新第三紀)	15.07	10.4	4.17	1000.0			
113 175 92 C2	X133Y126Ⅴ型		石鍤	輝石安山岩 (新第三紀)	14.38	11.18	3.94	959			
113 176 93 C2	X133Y128Ⅴ型		石鍤	黒雲母花崗岩	12.58	11.55	4.61	960			
113 177 92 C3	X136Y138Ⅴ型		石鍤	緑色粘板岩	15.13	9.98	3.1	512.5			
113 178 93 C2	X132Y138Ⅴ型		石鍤	輝石安山岩 (新第三紀)	13.87	12.85	4.31	926			
113 179 93 C2	X128Y135Ⅴ型		石鍤	輝石安山岩 (新第三紀)	16.46	14.79	3.07	850			
153 638 97 SK79B			五輪塔	耀灰質砂岩	27.03	27.00	18.00	17500	火輪		
153 639 97 SK305B			五輪塔	シルト岩 (付着層じる)	26.55	26.33	18.07	15800	火輪		
153 660 97 SD1C1	X102Y97		五輪塔	耀灰質砂岩	(21.98)	25.44	17.67	9600	火輪		
153 661 97 SE555C1			五輪塔	シルト岩	23.88	23.46	14.42	9000	火輪		
153 662 98 SK664A			石塔 (宝鏡印塔)	シルト岩	47.75	17.49	18.52	14950	相輪		
153 663 98 SE569A			石塔部品	シルト岩	23.61	23.28	20.99	14900			
153 664 98 SK79B			石塔部品	シルト岩	32.0	19.88	18.88	8900			
154 665 98 SE596A			板磚	シルト岩	60.21	25.68	18.01	44800			
154 666 98 SE596A			板磚	シルト岩	54.11	24.58	18.13	33800			
154 667 98 SE555C1			板磚	シルト岩	52.05	23.16	18.35	29700			
154 668 98 SE555C1			板磚	シルト岩	59.38	24.01	18.96	43400			
154 669 99 SE555C1			板磚	シルト岩	59.83	23.57	19.23	42650			
154 670 99 SE555C1			板磚	シルト岩	53.31	19.99	15.21	20000			
154 671 99 SE569A			板磚	シルト岩	37.89	15.16	13.22	9600			
154 672 99 SE149C1			板磚	シルト岩	47.1	21.02	18.58	26000			
154 673 99 SK78B			パンドコ蓋	シルト岩	(10.21)	16.29	3.32	33967			
154 674 99 SX191B	X85Y81		パンドコ	シルト岩	(11.6)	16.59	7.8	646			
154 675 100 SX191B			湯温石	滑石	(9.54)	(6.65)	2.1	192.47	スス付着		
154 676 100 SE595A			パンドコ	シルト岩	(11.09)	(15.77)	6.06	425.23			
154 677 101 SK666A			臼臼	多孔質角閃石ディサイト	(15.29)	(16.62)	11.87	294.72			
154 678 101 SK1B			臼臼	砂岩	26.39	26.11	11.32	7100			
154 679 102 SE201B			井戸水槽	シルト岩	26.6	46.9	47.4	23300			
154 680 102 SE1134A			井戸水槽	シルト岩 (白色化石片を散在)	35.4	48.5	51.4	45500			
154 681 96 SD629A			砥石	流紋岩	(6.57)	3.35	1.89	56.16			
154 682 96 SD629A			砥石	角閃石ディサイト	(6.77)	3.93	1.7	54.82			
154 683 96 SE630A	植内		砥石	角閃石ディサイト	(8.64)	2.89	2.66	93.47			
154 684 96 SK619A			砥石	頁岩	(9.51)	(5.84)	2.46	91.21			
154 685 96 SK1B	X78Y98		砥石	流紋岩	(6.84)	(3.32)	4.17	82.04			
154 686 96 SX191B	重土坑		砥石	変質流紋岩	(8.53)	4.33	2.84	114.85			
154 687 96 SK666A			砥石	流紋岩	(13.98)	7.73	4.11	341.87			
154 688 96 SK242C2	X132 - 133Y115		砥石	砂岩	(9.53)	7.37	5.15	466			
154 689 96 谷B	X62Y74		砥石	輝石安山岩 (新第三紀)	(3.88)	(5.68)	5.49	137.52			
154 690 96 SK242C2	黒褐色粘土		砥石	砂岩	(13.09)	8.76	7.82	924			
154 691 96 SK242C2	X132 - 133Y115		砥石	輝質砂岩	(17.79)	12.8	7.21	1785	筋3条		
154 692 102 SD273C2	X124Y102		砥石	粘板岩	(16.76)	7.8	2.66	481.55	巻板・底面あり		
154 693 100 谷B	X72Y74V型		不明石製品	シルト岩	7.89	3.1	0.67	19.52	穿孔		
154 694 102 SD60C2	X116Y115		結晶单	滑石	(3.77)	4.17	1.68	30.04			

## 5 自然科学分析

### (1) 放射性炭素年代測定分析

#### A 分析目的と測定対象試料

測定対象となった試料は、C 3 地区 V 層から出土した自然木 2 点 (IAAA-60265, IAAA-60266)、C 2 地区 V 層上面で検出した S K425 出土の炭化物 (IAAA-60267)，計 3 点である。自然木は、湿った状態で保管されており、年輪の最も外側から必要量を試料として採取した。V 層は縄文時代前期前葉の遺構構造面であり、出土土器および遺構の年代を明らかにすることを目的とする。また、S K 425 内に堆積する 2 枚の炭化物層には炭化材が良好な状態で残存していた。S K425 は集石土坑であるが、時代を特定できる遺物が出土していないため、年代測定結果が遺構の年代を特定する根拠となる。

#### B 化学処理工程

- ①メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- ②AAA (Acid Alkali Acid) 処理。酸処理、アルカリ処理、酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では 1 N の塩酸 (80°C) を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では 0.001 ~ 1 N の水酸化ナトリウム水溶液 (80°C) を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では 1 N の塩酸 (80°C) を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。その後、90°C で乾燥する。
- ③試料を酸化銅 1 g と共に石英管に詰め、真空中で封じ切り、500°C で 30 分、850°C で 2 時間加熱する。
- ④液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用して、真空ラインで二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を精製する。
- ⑤精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出 (還元) し、グラファイトを作製する。
- ⑥グラファイトを内径 1 mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着し測定する。

#### C 測定方法

測定機器は、3 MV タンデム加速器をベースとした <sup>14</sup>C-AMS 専用装置 (NEC Pelletron 9 SDH-2) を使用する。134 個の試料が装填できる。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシウ酸 (HOx-II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また、加速器により <sup>13</sup>C / <sup>12</sup>C の測定も同時に行う。

#### D 算出方法

- ①年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用した。
- ②BP 年代値は、過去において大気中の炭素 14 濃度が一定であったと仮定して測定された、1950 年を基準年として測る放射性炭素年代である。
- ③付記した誤差は、次のように算出した。  
複数回の測定値について、 $\chi^2$  検定を行い測定値が 1 つの母集団とみなせる場合には測定値の統計誤差から求めた値を用い、みなせない場合には標準誤差を用いる。
- ④ $\delta^{13}\text{C}$  の値は、通常は質量分析計を用いて測定するが、AMS 测定の場合に同時に測定される  $\delta^{13}\text{C}$  の値を用いることもある。
- ⑤ $\delta^{13}\text{C}$  補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載する。
- 同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差 (‰; パーミル) で表した。

$$\delta^{14}\text{C} = [(^{14}\text{As} - ^{14}\text{Ar}) / ^{14}\text{Ar}] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}\text{C} = [(^{13}\text{As} - ^{13}\text{A}_{\text{PDB}}) / ^{13}\text{A}_{\text{PDB}}] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、 $^{14}\text{As}$ ：試料炭素の $^{14}\text{C}$ 濃度： $(^{14}\text{C}/^{12}\text{C})_S$ または $(^{14}\text{C}/^{12}\text{C})_R$

$^{14}\text{Ar}$ ：標準現代炭素の $^{14}\text{C}$ 濃度： $(^{14}\text{C}/^{12}\text{C})_R$ または $(^{14}\text{C}/^{12}\text{C})_S$

$\delta^{13}\text{C}$ は、質量分析計を用いて試料炭素の $^{13}\text{C}$ 濃度 $(^{13}\text{As} = ^{13}\text{C}/^{12}\text{C})$ を測定し、PDB（白亜紀のペレムナイト（矢石）類の化石）の値を基準として、それからのずれを計算した。但し、加速器により測定中に同時に $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ を測定し、標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{13}\text{C}$ を用いることもある。この場合には表中に「[加速器】と注記する。

また、 $\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{14}\text{C} = -25.0$ （‰）であるとしたときの $^{14}\text{C}$ 濃度 $(^{14}\text{As})$ に換算した上で計算した値である。(1)式の $^{14}\text{C}$ 濃度を、 $\delta^{14}\text{C}$ の測定値をもとに次式のように換算する。

$$^{14}\text{As} = ^{14}\text{As} \times (0.975 / (1 + \delta^{14}\text{C} / 1000))^2 \quad (^{14}\text{As} \text{として } ^{14}\text{C}/^{12}\text{C} \text{を使用するとき})$$

または

$$= ^{14}\text{As} \times (0.975 / (1 + \delta^{14}\text{C} / 1000)) \quad (^{14}\text{As} \text{として } ^{14}\text{C}/^{12}\text{C} \text{を使用するとき})$$

$$\Delta^{14}\text{C} = [(^{14}\text{As} - ^{14}\text{Ar}) / ^{14}\text{Ar}] \times 1000 \text{ (‰)}$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気の炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行った年代値は実際の年代との差が大きくなる。多くの場合、同位体補正をしない $\delta^{14}\text{C}$ に相当するBP年代値が比較的よくその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致する。

$^{14}\text{C}$ 濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC (percent Modern Carbon) がよく使われており、 $\Delta^{14}\text{C}$ との関係は次のようになる。

$$\Delta^{14}\text{C} = (\text{pMC} / 100 - 1) \times 1000 \text{ (‰)}$$

$$\text{pMC} = \Delta^{14}\text{C} / 10 + 100 \text{ (‰)}$$

国際的な取り決めにより、この $\Delta^{14}\text{C}$ あるいはpMCにより、放射性炭素年代 (Conventional Radiocarbon Age ; yrBP) が次のように計算される。

$$T = -8033 \times \ln [(\Delta^{14}\text{C} / 1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln (\text{pMC} / 100)$$

⑤ $^{14}\text{C}$ 年代値と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示する。

## E 測定結果

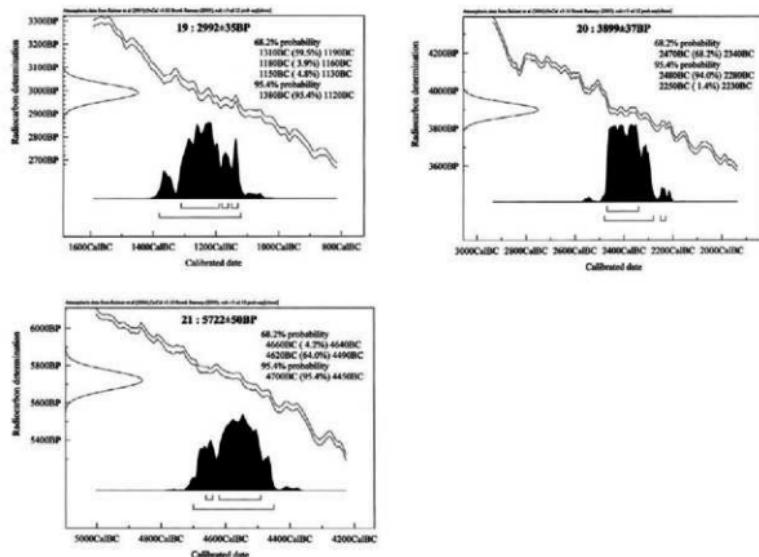
C 3 地区V層から出土した自然木2点は、 $2990 \pm 40$ yrBP (IAAA-60265),  $3900 \pm 40$ yrBP (IAAA-60266) の $^{14}\text{C}$ 年代を示した(第33表)。それぞれ縄文時代後期末、縄文時代後期初頭の年代である。V層は縄文時代前期前葉の遺構検出面であるが、縄文時代のより新しい時期の堆積物も混入していたと考えられる。集石土坑 S K 425出土試料 (IAAA-60267) は  $5720 \pm 50$ yrBPの $^{14}\text{C}$ 年代となり、縄文時代前期前葉の年代値を示した。S K 425は遺物を伴わないが、検出面がV層であることから、縄文時代前期前葉に属すると推定されており、妥当な $^{14}\text{C}$ 年代である。

(株式会社 加速器分析研究所)

第33表 AMS測定結果

測定番号	試料	出土地点	種類	BP年代および炭素の同位体比			
				$\delta^{14}\text{C}$ 補正あり			
IAAA-60265 (試料番号19)	X105Y130	C 3 地区	自然木 V層	Libby Age (yrBP)	$\delta^{14}\text{C}$ (%) (加速器)	$\Delta^{14}\text{C}$ (%)	pMC (%)
				2990 ± 40	-29.51 ± 0.89	-3110 ± 30	68.90 ± 0.30
				$\delta^{14}\text{C}$ (%)	pMC (%)	Age (yrBP)	Libby Age (yrBP)
				-3174 ± 27	68.26 ± 0.27	3070 ± 30	2992 ± 35
IAAA-60266 (試料番号20)	X141Y147	C 3 地区	自然木 V層	Libby Age (yrBP)	$\delta^{14}\text{C}$ (%) (加速器)	$\Delta^{14}\text{C}$ (%)	pMC (%)
				3900 ± 40	-29.88 ± 0.86	-3846 ± 29	61.54 ± 0.29
				$\delta^{14}\text{C}$ (%)	pMC (%)	Age (yrBP)	Libby Age (yrBP)
				-3907 ± 2.6	60.93 ± 0.26	3980 ± 40	3899 ± 37
IAAA-60267 (試料番号21)	SK425	C 2 地区	炭化物 灰層	Libby Age (yrBP)	$\delta^{14}\text{C}$ (%) (加速器)	$\Delta^{14}\text{C}$ (%)	pMC (%)
				5720 ± 50	-27.50 ± 0.89	-5095 ± 3.1	49.05 ± 0.31
				$\delta^{14}\text{C}$ (%)	pMC (%)	Age (yrBP)	Libby Age (yrBP)
				-5120 ± 29	48.80 ± 0.29	5760 ± 50	5722 ± 50

【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



使用プログラム・OxCal v3.10

## (2) 樹種同定

### A 分析目的と試料

加納谷内遺跡から出土した木製品の樹種、および木材利用の検討を目的として、樹種同定を実施した。分析対象とされた資料は120点である。このうち、井戸の曲物には、二重あるいは三重の側板で構成される資料が確認されたことから、状態の良いものを中心に複数の側板より試料を採取している。また、鉢未製品(558)は3点の破片が確認されたが、接合関係が確認できなかったことから、各破片を分析対象としている。折敷底板(615)は、3試料からなり、2片に接合関係が認められたが、1片は不明であった。そのため、接合した試料と接合関係が不明の試料の双方を分析対象としている。机(639)は、天板に脚部をはめる脇があり、残存する3箇所の脇に脚部の一部が認められた。このことから、天板と分析対象とされた脚部(639)のほか、脇2箇所に確認された脚部も分析対象としている。

### B 分析方法

木製品は木取りを観察した上で、剃刀を用いて木口(横断面)・柵目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を直接採取する。切片はガム・クロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

木材組織の名称や特徴は島地・伊東(1982)、Wheelerほか(1998)、Richterほか(2006)を、日本産木材の組織配列は林(1991)や伊東(1995, 1996, 1997, 1998, 1999)を参考にする。

### C 結果

結果は第30表に示す。加納谷内遺跡出土の木製品は、針葉樹6分類群(マツ属複維管束亞属、スギ、ヒノキ、アスナロ、ヒノキ科、イヌガヤ)と、広葉樹12分類群(ヤナギ属、クマシデ属イヌシテ節、ブナ属、コナラ属アカガシ亞属、クリ、スダジイ、エノキ属、ケヤキ、モクレン属、ツバキ属、トチノキ、トネリコ属)、さらにイネ科タケ亞科に同定された。以下、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

#### ・マツ属複維管束亞属(*Pinus* subgen. *Diploxyylon*) マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エビセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1-10細胞高。

#### ・スギ(*Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2-4個。放射組織は単列、1-10細胞高。

#### ・ヒノキ(*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1分野に1-3個。放射組織は単列、1-15細胞高。

#### ・アスナロ(*Thujopsis dolabrata* Sieb. et Zucc.) ヒノキ科アスナロ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩

材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、内壁には茶褐色の樹脂が顕著に認められる。分野壁孔はヒノキ型で、1分野に1-4個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・ヒノキ科 (Cupressaceae)

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1-10細胞高。

上述したヒノキやアスナロを含むヒノキ科のいずれかと考えられるが、分野壁孔など同定に重要な組織の観察ができなかったため、ヒノキ科とした。

・イヌガヤ (*Cephalotaxus harringtonia* (Knight) K. Koch f.) イヌガヤ科イヌガヤ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。仮道管内壁にはらせん肥厚が認められる。樹脂細胞は早材部および晩材部に散在する。放射組織は柔細胞のみで構成され、分野壁孔はヒノキ型で1分野に1-2個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・ヤナギ属 (*Salix*) ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または2-3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減少させる。道管は、單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1-15細胞高。

・クマシデ属イヌシデ節 (*Carpinus subgen. Euarpinus*) カバノキ科

散孔材で、道管は単独または2-4個が放射方向に複合して散在する。道管は單穿孔を有し、壁孔は対列状～交互状に配列する。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-40細胞高のものと集合放射組織がある。

・ブナ属 (*Fagus*) ブナ科

散孔材で、管孔は単独または放射方向に2-3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は單穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は対列状～階段状に配列する。放射組織はほぼ同性、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では椿円形、単独で放射方向に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高のものと複合放射組織がある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圈部は3-4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

・スダジイ (*Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii* (Makino) Nakai) ブナ科シイ属

環孔性放射孔材で、道管は接線方向に1-2個幅で放射方向に配列する。孔圈部は3-4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

・エノキ属 (*Celtis*) ニレ科

環孔材で、孔圈部は1-3列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合し接線・斜方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高で精細胞が認められる。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圈部は1-2列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帶状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-5細胞幅、1-50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・モクレン属 (*Magnolia*) モクレン科

散孔材で、道管壁は中庸～薄く、横断面では角張った梢円形～多角形、単独および2-4個が放射方向に複合して散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は單穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-40細胞高。

・トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume) トチノキ科トチノキ属

散孔材で、道管壁はやや厚く、横断面では角張った梢円形、単独または2-3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、1-15細胞高で階層状に配列する。

・トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科

環孔材で、孔圈部は1-3列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、厚壁の道管が単独または2個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1-3細胞幅、1-30細胞高。

## ・イネ科タケ亜科 (Gramineae subfam. Bambusoideae)

原生木部の小径の道管の左右に1対の大型の道管があり、その外側に師部細胞がある。これらを厚壁の纖維細胞（維管束鞘）が囲んで維管束を形成するが、纖維細胞は放射方向に広く、接線方向に狭いため、全体として放射方向に長い菱形となる。維管束は柔組織中に散在し、不齊中心柱をなす。

## D 考 察

加納谷内遺跡の木製品・自然木は、繩文時代、弥生時代～、中世～に帰属し、器種は工具、農具、容器、食事具、調度、服飾具、武器、建築部材、その他に分類される。これらの木製品からは、マツ属複維管束亞属、スギ、ヒノキ、アスナロ、ヒノキ科、イヌガヤ等の針葉樹6分類群と、ヤナギ属、クマシデ属イヌシデ節、ブナ属、コナラ属アカガシ亜属、クリ、スマジイ、エノキ属、ケヤキ、モクレン属、ツバキ属、トチノキ、トネリコ属の広葉樹12分類群、さらにイネ科タケ亜科が認められた。これらの分類群では、全体的にスギの占める割合が高い。

各分類群の材質についてみると、針葉樹のマツ属複維管束亞属は、軽軟で加工は容易であり、強度や保存性は比較的高い。スギ、ヒノキ、アスナロ、ヒノキ料は、木理が直通で割裂性が高く、加工が容易であり、ヒノキやアスナロでは耐水性も高い。イヌガヤは、重硬・緻密で強度や耐水性が高い。広葉樹は比較的重硬で強度が高い材質を有する種類が多いが、モクレン属は比較的軽軟である。

各時期の器種別樹種構成（第34～36表）についてみると、繩文時代の自然木はトチノキとトネリコ属であった。これらは、いずれも谷筋や低湿地等に生育する分類群であることから、周辺の谷沿い等を中心いて生育していたことが推定される。

弥生時代～の資料は、工具（ヘラ状）、農具（鋤）、容器（槽？、桶、容器未製品、円形板）、武器（弓）、その他（板状）がある。ヘラ状、皿、槽？、円形板、板状は全てスギであり、割裂性が高く、加工が容易なスギ材の利用が推定される。一方、鋤は、全て未製品であり、破片も含めて全てアカガシ亜属であったことから、強度の高い木材の利用が考えられる。容器未製品か？（552）は、モクレン属の

第34表 縄文時代・弥生時代への器種別種類構成

分類群	縄文	弥生～								合計
		その他	工具	農具	鉢	柄?	桶	未成品	円形板	
		自然木	ヘラ状	鍬	擂?	桶	未成品	円形板	弓	
針葉樹	-	-	-	-	-	個板	-	-	-	-
スギ	-	1	-	3	3	-	2	-	2	11
ヒノキ科	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
広葉樹	-	-	5	-	-	-	-	-	-	5
アカガシ亞属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
モクレン属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
トチノキ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
トネリコ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
計	2	1	5	3	3	1	2	1	2	20

第35表 中世～の器種別種類構成(容器・食事具)

分類群	縄器	容器								食事具			合計		
		漆器	盤	曲物	柄杓	柄杓	漆板	柄杓	漆	柄	柄物	円形板	杓文字		
		鉢	碗	圓板	底板	側板	漆板	側板	漆	柄	柄物	円形板	木杓		
針葉樹	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	2	
マツ属根管束属	-	-	-	1	2	-	3	-	-	1	8	-	1	2	
スギ	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	2	-	-	7	
ヒノキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	5	
アツナロ	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	-	-	3	
ヒノキ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
広葉樹	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	
ブナ属	1	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	
スダジイ	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
エノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
ケヤキ	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
タケヅチ科	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	2	
計	1	9	1	2	3	1	1	4	1	1	1	16	1	2	48

第36表 中世～の器種別種類構成(工具・農具・服飾具・調度・建築部材・その他)

分類群	工具	農具		服飾具		調度		建設部材		その他		合計	
		耕	鋤	木臼	下駄	襷	机	柱根	井戸	漆製品	部材	板材	
		鉢	鍬	木臼	通面	腰袋	天板	脚	曲物	-	-	-	
針葉樹	-	-	1	2	-	1	-	-	-	1	1	1	7
マツ属根管束属	-	-	1	-	-	-	-	-	9	1	4	4	20
スギ	1	-	1	-	-	-	-	-	10	-	-	-	10
ヒノキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
アツナロ	1	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	2
ヒノキ科	1	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1
イヌガヤ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
広葉樹	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
ヤナギ属	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2
イヌシデ属	-	-	-	-	-	-	16	-	-	-	1	-	18
クリ	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
スダジイ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
モクレン属	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1
ツバキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
計	2	1	2	2	1	1	3	16	23	1	9	5	67

芯持丸木であり、加工性の高い木材が利用されたことが推定される。弓(560)は芯持丸木であり、ヒノキ科に同定された。当試料は、年輪幅が狭く硬いことから、イヌガヤほどではないが、比較的強度が高かったことが推定される。

中世～の資料は、工具(柄)、農具(鍬、木臼)、容器(漆器、盤、曲物、柄杓、桶、柄物、円形板)、食事具(杓文字、折敷)、服飾具(下駄、襷)、調度(机)、建築部材(柱根、井戸)、その他(漆製品、部材、板材、不明木製品)がある。容器では、桶、曲物、底板、柄杓等の板状を呈する部材を利用する製品に割裂性の高い針葉樹材が認められた。弥生時代～の資料と同様にスギの利用が目立つが、これらの資料ではほとんど確認されなかったヒノキ科が認められ、木材利用に違いがみられる。挽物である漆器碗と皿は、落葉広葉樹のブナ属を主体としてスダジイとケヤキが認められたことから、旋削加工が容易な木材の利用が考えられる。工具の柄、折敷底板、井戸材の曲物等の容器以外の板状加工を行う木製品は、スギやヒノキ科が認められ、容器と同様の木材利用が窺える。柱根は、全てクリの芯持丸木であり、強度や耐久性に優れた木材が選択的に利用されたと考えられる。机は、四隅に脚を

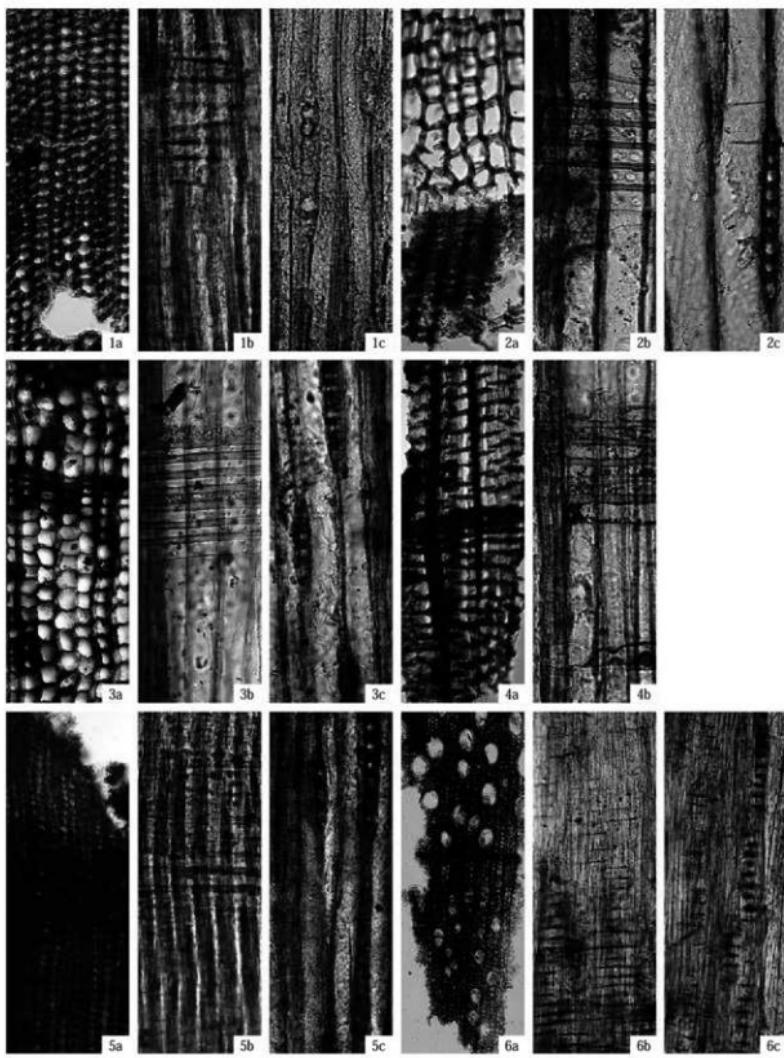
はめ込むものであり、本来4箇所あった脚部のうち3点が残存していた。天板(639)はマツ属複雜管束亞属の柾目板であり、比較的強度の高い木材の利用が窺える。一方、脚部は、1箇所がヤナギ属、2箇所がイヌシデ節であった。このことから、机には強度や保存性の低い木材と強度の高い木材が混在して利用されている状況が明らかとなった。

加納谷内遺跡周辺では、上庄川を挟んで対岸(南岸)の丘陵の開析谷付近に立地する中尾新保谷内遺跡等で出土木製品の調査が実施されている。中尾新保谷内遺跡では、中世の柱材にスギの分割材が多く、クリの利用が少ないという傾向が認められている。また、井戸棒や容器など、板状加工を施す木製品にもスギが多く利用されており、ヒノキ科の木材の利用が少ない。一方、漆器椀ではブナ属とケヤキが利用されている。本遺跡の分析結果と比較すると、漆器椀では同様の木材利用を示すのに対して、その他の器種では種類構成に違いが認められる。

(パリノ・サーヴェイ株式会社 高橋 敦)

#### 引用文献

- 林 昭三 1991『日本産木材顕微鏡写真集』京都大学木質科学研究所  
 伊東隆夫 1995「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」「木材研究・資料、31」京都大学木質科学研究所 81-181  
 伊東隆夫 1996「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」「木材研究・資料、32」京都大学木質科学研究所 66-176  
 伊東隆夫 1997「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」「木材研究・資料、33」京都大学木質科学研究所 83-201  
 伊東隆夫 1998「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」「木材研究・資料、34」京都大学木質科学研究所 30-166  
 伊東隆夫 1999「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」「木材研究・資料、35」京都大学木質科学研究所 47-216  
 Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編) 2006「針葉樹材の識別」「IAWAによる光学顕微鏡の特徴リスト」伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修)海青社 70p [Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification]  
 島地 謙・伊東隆夫 1982『図説木材組織』地球社 176p  
 Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編) 1998「広葉樹材の識別」「IAWAによる光学顕微鏡の特徴リスト」伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修)海青社 122p [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification]

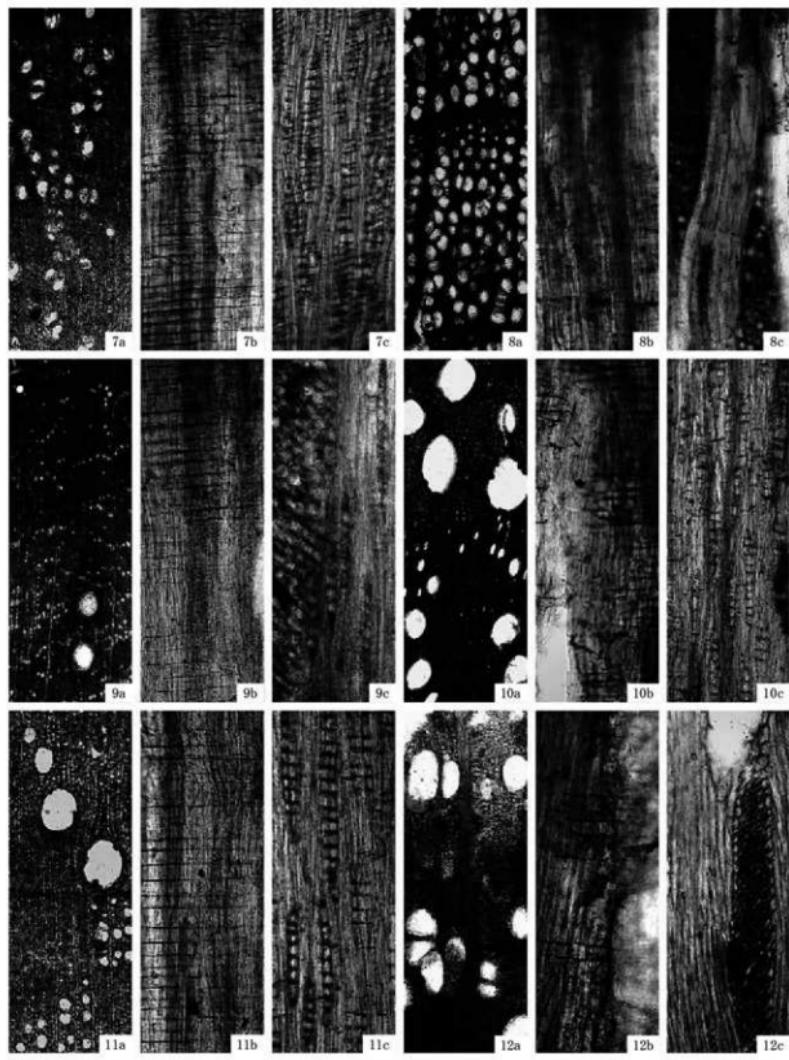


1. マツ属複管束亞属 (62)  
 2. スギ (607)  
 3. ヒノキ (578; 外側)  
 4. アスナロ (286)  
 5. イヌガヤ (637)  
 6. ヤナギ属 (639; 脚 a)

a:木口, b:柾目, c:板目

200  $\mu\text{m}$ :1a  
 100  $\mu\text{m}$ :1-5a, 6b, c  
 100  $\mu\text{m}$ :1-5b, c

写真5 木製品の樹種同定 木材 (1)

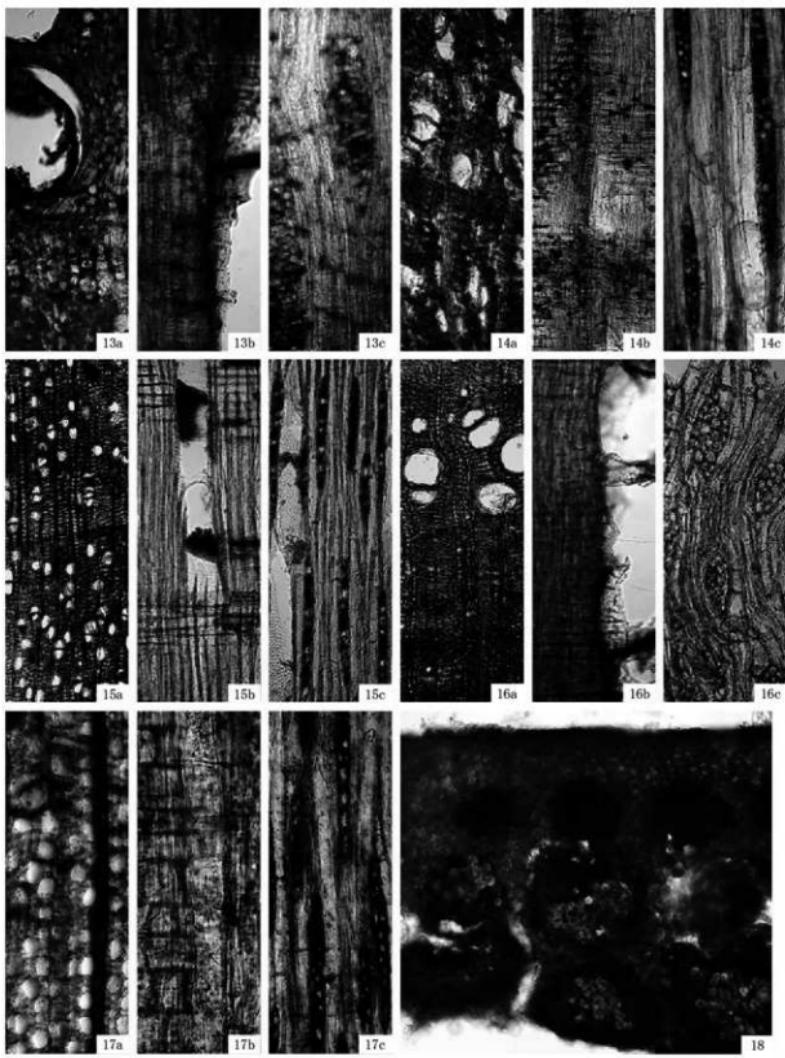


7. クマシデ属イヌシデ節 (639; 脚 c)  
 8. ブナ属 (564)  
 9. コナラ属アカガシ属 (539)  
 10. クリ (600)  
 11. スダジイ (567)  
 12. エノキ属 (629)

a:木口, b:柾目, c:板目

— 200  $\mu\text{m}$ :a  
 — 100  $\mu\text{m}$ :b, c

写真 6 木製品の樹種同定 木材 (2)



13. ケヤキ (563)  
14. モクレン属 (552)  
15. トチノキ (IAAA-60265)  
16. トネリコ属 (IAAA-60266)  
17. ツバキ属 (628)  
18. イネ科タケ亜科 (522: 糙)

a:木口, b:柾目, c:板目, 18:横断面

— 200  $\mu$ m:a, 18  
— 100  $\mu$ m:b, c

写真7 木製品の樹種同定 木材 (3)

### (3) 石材鑑定

#### A 分析の目的と試料

本報告では石材鑑定の結果と、各遺跡の地理的位置および地質学的背景を参考として、石材の由来について検討を行った。鑑定対象とした石器・石製品は161点である。

#### B 分析方法

鑑定は、野外用ルーベ等を用いて構成鉱物や組織の特徴を観察し、肉眼で鑑定できる範囲の岩石名を付した。

#### C 結 果

肉眼による石質の鑑定結果を第32表、種類別に集計した石材組成を第37表に示す。

出土石材は、深成岩類の黒雲母花崗岩10点、破碎状花崗岩2点、片状角閃石花崗岩1点、角閃石黒雲母花崗岩1点および黒雲母花崗閃綠岩1点、半深成岩類の微閃綠岩1点、火山岩類の流紋岩4点、角閃石アイサイト3点、黒雲母アイサイト1点、多孔質角閃石アイサイト1点、輝石安山岩（新第三紀）17点、無斑晶ガラス質安山岩1点、無斑晶質安山岩（新第三紀）1点、多孔質安山岩（新第三紀）2点、多孔質輝石安山岩1点、多孔質輝石安山岩（新第三紀）4点および玄武岩（新第三紀）1点、火山碎屑岩類の軽石1点、流紋岩質凝灰岩1点、流紋岩質溶結凝灰岩1点およびデイサイト質凝灰岩2点、堆積岩類の凝灰質砂岩2点、礫質砂岩2点、砂岩30点、シルト岩25点、頁岩7点、泥岩1点および珪質頁岩3点、変成岩類の粘板岩1点、緑色粘板岩1点および花崗岩マイロナイト1点、変質岩類の珪化岩5点、変質流紋岩1点、変質安山岩2点、蛇紋岩10点、風化蛇紋岩5点およびトレモラ閃石岩4点、鉱物の赤玉1点、翡翠1点および滑石2点と鑑定された。なお、岩相から堅硬緻密質で中生界～古第三系に由来すると判断されるものは「古期」、変質鉱物や含有化石の有無等から新第三紀の地質に由来すると判断されるものには「新第三紀」と付記した。

#### D 考 察

加納谷内遺跡は水見市加納地内に所在し、宝達丘陵から派生した丘陵間の沖積平野に位置する。遺跡の位置する平野部は、南方に上庄川、北方に余川が流れおり、いずれの河川も石動・宝達山地を水源として富山湾へ注いでいる。遺跡周辺より採取できる礫は、上庄川や余川川水系の地質に由来するものが大部分であると考えられ、それらは在地性石材とみることができる。

上庄川および余川の水源となる石動・宝達山地には、前期～後期中新世の堆積岩類が主に分布し、南部の宝達山には基盤を構成する先第三系の花崗岩類が露出している。中下流域の平野部においては、新第三系一下部更新統が丘陵を構成している。流域に分布する新第三系一下部更新統は、下位より太田累層、瓜生累層、八尾累層、音川累層、氷見累層、埴生累層の6累層に分けられており（角ほか、1989）、遺跡周辺には音川累層の頁岩・シルト岩が分布している。本項では、このような地質背景を踏まえて、石材の由来について検討した。

在地性とみなされる石材は、堆積岩類、火山碎屑岩類の大部分である。堆積岩類は、礫質砂岩、砂岩、シルト岩、頁岩等で、石錘や砥石に使用が認められる。大型の石製品には、凝灰質砂岩およびシルト岩が使用されており、凝灰質砂岩は五輪塔に、シルト岩は五輪塔や石塔、井戸の部材、板碑、パンドコ等の様々な石製品に認められる。これら以外の深成岩類、半深成岩類、火山岩類、変成岩類、変質岩類、堆積岩類、火山碎屑岩類の一部、および鉱物は、遺跡周辺の地質からは入手困難であり、異地性のものとみることができる。

深成岩類としては、黒雲母花崗岩、破碎状花崗岩、片状角閃石花崗岩、角閃石黒雲母花崗岩、黒雲

母花崗閃綠岩等が認められており、石錘および円礫に使用される。花崗岩体の最寄りの分布域としては、石川県鹿島郡中能登町の二宮地区や、宝達山が挙げられる。この他、庄川や神通川流域にも花崗岩体が分布しており、これらの河川の河床礫等が使用された可能性もある。半深成岩類の微閃綠岩は、船津花崗岩にしばしば伴う石材であり、花崗岩類と同様な産地が推定される。

火山岩類としては、流紋岩類、ディサイト類、安山岩類および玄武岩が含まれている。流紋岩類およびディサイト類は石錘、砥石等に使用される。流紋岩・ディサイト溶岩を含む地質としては、小矢部川上流部に分布する下部中新統の医王山層が代表的であり、この他に能登半島の各所にも中新統の流紋岩類が分布する。安山岩類は、石錘、磨製石斧、敲石、砥石等に使用されており、能登半島に広く分布する下部中新統の穴水層等に由来が求められる。また、小矢部川や庄川流域にも安山岩類を主要石材とする下部中新統の岩縞層が分布しているが、いずれにしても近隣地域において容易入手できる石材と理解される。石錘に使用が認められた無斑晶ガラス質安山岩および無斑晶質安山岩については、多産しない岩相と判断されるため、特定産地より採取されたものと推測される。玄武岩については、変質鉱物を伴う岩相を示しており、新第三系に由来する石材とみられることから、安山岩類と同様な産地を想定することができる。

変成岩類としては、粘板岩類および花崗岩マイロナイトが認められる。粘板岩類は、硯、石錘として、花崗岩マイロナイトは石錘に使用される。富山・石川県においては、粘板岩類の広い分布は知られていないことから、遠方からの搬入石材の可能性もある。粘板岩類は、長野県から兵庫県にかけて広く分布するジュラ紀付加体の美濃一丹波帯等にしばしば産出する石材であり、このような古期堆積岩類からの由来も考えられる。一方の花崗岩マイロナイトは、マイロナイト化した花崗岩類を伴うことの多い船津花崗岩類に由来する石材と考えられ、前述の花崗岩類と同様な産地が想定される。

変質岩類としては、珪化岩、変質流紋岩、変質安山岩、蛇紋岩、風化蛇紋岩およびトレモラ閃石岩が認められる。珪化岩は石匙、剥片および石核に使用されており、珪化頁岩または珪化流紋岩に近い岩相を示す。珪化岩は、頁岩や流紋岩等が珪化作用を被った岩石であり、一般に小規模に産出するため、産地を推定することは難しいと考えられる。変質流紋岩および変質安山岩は、変質鉱物を伴い下部中新統にしばしば認められる岩相を示すことから、前述した医王山層や、岩縞層、穴水層等に由来する石材と推定される。蛇紋岩類およびトレモラ閃石岩は、磨製石斧にのみ使用されている。蛇紋岩類は、飛騨外縁帯の超塩基性～塩基性岩類が分布する青海一白馬岳地域に多産することが知られており、遺跡から最も近い産地となっているこの地域に由来するものが大半を占めると考えられる。トレモラ閃石岩は、蛇紋岩の変成作用によって生成される石材であることから、蛇紋岩と同様に青海一白馬岳地域に由来すると考えられる。

火山碎屑岩類および堆積岩類において異地性とみられる石材は、軽石および珪質頁岩である。軽石は最大径7.1cmと大型のものであり、火山灰等から採取できるサイズのものではない。脱ガラス化がみられず、新鮮な岩相を示すことから、第四紀火山の噴出物に由来すると考えられる。氷見市周辺には、このような大型の軽石の分布は知られていないため、遠方からの搬入石材または漂着軽石の可能性を考慮する必要がある。珪質頁岩は石錘、石槍として使用されている。石動・宝達山地や氷見市周辺には新第三系の頁岩は広く分布しているが、珪質頁岩の分布はほとんど知られていない。小規模に産する特定産地のものが使用されたと考えられるが、産地を明らかにすることは困難である。

鉱物としては、赤玉、翡翠および滑石が認められる。赤玉は剥片として、翡翠は磨製石斧として、滑石は石核および温石として使用されている。赤玉は、鉄石英とも呼ばれ、普通、流紋岩の珪化変質

部等に産出する。小矢部川や庄川流域に分布する医王山層、太美山層群、濃飛流紋岩類等に含まれる流紋岩に伴って産出するものと推定されるが、多産するものではないため、原産地近傍より採取されたと考えられる。翡翠の产地としては、糸魚川—青海地域のものが良く知られており、出土した翡翠についてもこの地域に由来しているものと考えられる。滑石は、氷見市やその周辺地域における产地は知られていないため、搬入品と考えられる。滑石については、蛇紋岩と同様な产地が考えられる。国内に産する滑石は普通、蛇紋岩が交代作用を被ることによって生成するため、蛇紋岩の分布域に産することが多い。よく知られている滑石の产地としては、福岡県糟屋郡篠栗地区、岡山県真庭市下呂部地区、高知県土佐郡大川村地区、群馬県藤岡市日野地区、埼玉県秩父郡野上地区等があり、このような产地の試料との比較も重要と考えられる。

(パリノ・サーヴェイ株式会社 石岡 智武)

#### 引用文献

角 精夫・野沢 保・井上正昭 1989「石動地域の地質」「地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)」地質調査所 118p

第37表 石器・石製品の種類別石材組成

	石 墨	石 英	打 削 石 斧	石 英	滑 石 片	碧 玉 石 斧	碧 玉 石 斧	碧 玉 石 斧	石 墨	石 墨 · 凹 石	蛇 纹 岩	礁 石	砂 岩	灰 岩	温 泉 石	白 石	石 英 部 品	石 英 部 品	井 口 水 泥	假 鍔	ハ ン ド コ	不明 石 製 品	バ シ ド コ の 蓋	合 計	
深成岩類																									
黒雲母花崗岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10
透輝石花崗岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
片狀熱帶花崗岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
角閃石黑雲母花崗岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
黑雲母花崗岩閃長岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
半成岩類																									
微閃長岩	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
火成岩類																									
流紋岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	4
角閃石ダイサイト	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	3
黒雲母ダイサイト	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
多孔質閃石ダイサイト	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1
輝石斑岩岩(新第三紀)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17
無斑流紋岩(新第三紀)	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
多孔質斑岩岩(新第三紀)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
多孔質流紋岩(新第三紀)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
多孔質輝石斑岩岩(新第三紀)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4
玄武岩(新第三紀)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
火成岩類																									
軽石	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
流紋岩質斑岩岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
流紋岩質前綱状斑岩岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
ダイサイト質斑岩岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
堆積岩類																									
凝灰岩質岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	2
雜質岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
砂岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	27	—	—	—	—	—	2	—	—	1	—	—	—	—	30
シルト岩	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
頁岩	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	7
泥岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
珪質頁岩	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
變成岩類																	1	—	—	—	—	—	—	—	—
綠色板岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	1
褐色板岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
花崗岩質マイロナイト	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
斜長岩類																	2	2	2	9	2	1	1	25	
珪化岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	2
家質珪化岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	1
家質岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
軽石岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10
風化軽石岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5
風化軽石岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
トレモライト岩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4
礫物																	2	2	2	2	2	1	2	1	30
赤玉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
翡翠	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
滑石	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
合計	4	21	21	2	31	21	1	21	74	1	11	2	4	2	11	11	11	11	11	21	4	11	2	20	

## 6 総 括

加納谷内遺跡は余川川と上庄川の間にある丘陵の先端が二股に分かれた合間に位置する。遺跡の三方には丘陵が迫り、東側は平野が開けている。遺跡は丘陵谷間の低地から南北丘陵裾、北側丘陵中腹斜面へと広がっており、標高差は約5mほどとなっている。調査では縄文時代・弥生時代・古墳時代・古代・中世・近世の遺構と遺物が検出されたが、主な時代は縄文時代、中世、近世である。

縄文時代では、北側の丘陵裾C2・C3地区（標高6m）で集石土坑や溝を検出し、前期前葉～中期の土器、磨製石斧や石錐などの石器、多量の石錐が出土した。埋土に炭化物層のある土坑では火を焚いたと推測でき、放射性炭素年代測定で炭化物の年代が前期前葉に帰属するという結果を得た。前期の海岸線は現在より6m高く、丘陵裾に入り込んでいたと推定されているため、石錐を使って漁を行なう人々がここに足を止め、焚き火を囲んでいたと想像する。南北の丘陵間には中期以降の海面低下後、谷が出現する。この谷の南側A地区は中近世面で削平され、詳細がわからないが、前期後葉～中期前葉の埋設土器が見つかっており、北側丘陵裾に引き続いている。南側の平地でも人々が生活を営んでいたと考えられる。谷からは中期初頭～前葉の土器の他に、弥生時代後期後半から古墳時代中期の土器と鍛未製品・鉢物桶・槽・容器未製品等の木製品が出土した。遺跡を囲む丘陵上には加納南古墳群・加納蛭子山古墳群・加納横穴群が築造され、古墳時代初頭から古代まで続く墓域となっている。当該期の遺構は調査の中ではみつからなかったが、この近辺で人々が生活していたことがうかがえる。

中世になると、北側丘陵裾C2地区から斜面のC3地区にかけて、掘立柱建物群が出現する。特に集中する丘陵裾には10棟が建てられており、建物主軸から3つの群に分けられる。

I群：SB11・12・16・17は建物主軸が北を指す一群。SB16は6×4間の大型建物で、柱穴から中国製白磁と珠洲が出土している。この群の区画溝と考えられるのはSD3C2・54C2・214C2で、遺物量は少ないが中国製白磁と吉岡編年IV期の珠洲が出土している。これらの遺物から、この建物群の時期は中世前期後半から後期初頭かと考えられる。

II群：SB9・13・14・19は建物主軸がやや東に振る一群。建物SB13とSB14は重複しているため、建て替えがあったと考えられるが、新旧関係はわからない。区画溝SD169C2がI群のSB16西側柱穴を切っており、また柱穴同士の切り合いによって、SB13はI群SB12よりも新しい。このためI群に後続する建物群と考えられる。区画溝や柱穴からほとんど遺物が出土しておらず、時期は不明だが、柱間隔や柱穴規模等から考えて、I群とはさして時期差がなかったのではないかと考える。

III群：SB15・18は建物主軸がやや西に振る一群。SB15の柱穴がI群のSB12の南側を迂回するSD44C2を切るために、I群に後続する建物群と考えられるが、II群との関係は不明である。

以上、3つの建物群について述べたが、この丘陵裾に建物群が出現した時期は、丘陵上に木谷城が築かれていた時期にある。木谷城は余川川が形成した谷平野の入口をおさえる要所であり、南朝方の桃井氏の拠点であった。正平7（1352）年には北朝方で能登守護の吉見氏と、木谷城北側の天坂で激しい合戦が行われたとの記録が残されている。建物群が木谷城と関係していたかどうかはわからぬが、中世後期以降は丘陵裾から斜面の遺構がまばらになり、南側の平地へ集中する様子が見られる。

3つの建物群以外にも、丘陵中腹斜面C3地区に7棟の建物と槽がみつかった。柱穴埋土からSB24・25・26とSB10・20～23の2群にわけることができ、他の遺構の切り合いから前者のほうが古いと考えられる。SB24に伴うと考えられるSK120C3からは15世紀の遺物が出土しているが、これらはII群もしくはIII群の時期に建てられたものとみられる。建物群のある丘陵裾に近いC1地区南側

では建物が見つからなかったが、調査区西側に中世前期から近世にかけての井戸・土坑・区画溝が集中しており、生活の範囲がさらに西側へ広がっていることをうかがわせる。南側の平地A・B地区では8棟の建物がみつかった。特にA地区南端では後期前半のSB4、後期後半のSB2・3、後期後半～近世のSB1が重複しており、同じ場所で何度も建て直しが行われていた。

建物以外には、井戸・溜池状遺構・大型土坑・石敷遺構などがみつかっている。

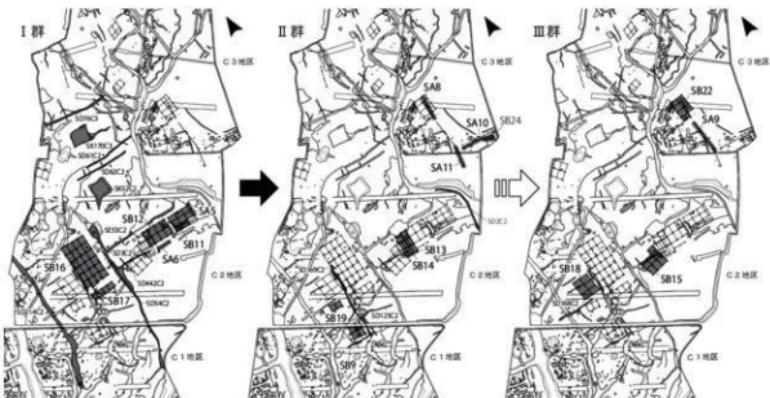
井戸は南側平地A・B・C1地区に集中し、井戸側の形状から素掘り・木枠組・石組・切石組の4種類にわけることができる。時期は木枠組が中世前期、石組は円筒状石組のものが中世後期前半、上部は円筒状で下部は平面方形切石組となるものが中世後期で、石組の中には中世後期の板碑や五輪塔を井戸側に転用しているものがあり、中世末～近世のものも存在する。切石組は扁平な長方形に加工した板石を平面4・5・6角形に組み、垂直に最大3段積んだもので、水溜に桶を据えるものと、一回り小さい切石組を据えるものにわけられ、後期後半～近世である。井戸の種類によって所在の偏りは見られず、人々が中世から近世にかけて、満遍なく平地を利用してしたものと考えられる。

溜池状遺構は南側平地のA地区に集中する。梢円もしくは不整形の大型土坑で、溜池間を繋ぐ溝や、溜池隅に水源かとみられる溜井を伴うものがあり、中世前期後半または後期中葉には掘削され、改修を行なうながら近世まで継続して利用されていたと考えられる。同じ大型土坑でも、B地区にある護壁された隅丸方形のものや、C2・C3地区にある方形のものは用途が異なるように見受けられる。

石敷遺構は南側平地のB・C1地区にある。C1地区では同じ大きさの扁平な長方形の板石を整然と並べるのに対し、B地区ではやや不揃いな板石を並べるところが異なり、外縁を区画するように石を立て、中央に向かって高さを下げるところと、時期が中世後期から近世と考えられるところは共通している。どちらの石敷も同じ性格をもつものかは不明だが、B地区的石敷は、階段状の石敷きが遺構の中央へ下りていくことを想定させ、人々の生活の中で使われた水場の可能性をあげておきたい。

繩文時代中期前葉以降、人々の営みが見られなかったこの地には、中世前期から人々が戻り始め、前期後半には北側丘陵裾、後期前半には南側平地へと集落が展開していき、近世まで引き継ぎ営まれていく様子がうかがえる。また南側平地では中世前期前半の井戸が作られており、調査範囲内では当該期の建物が見つからなかったため、中世の集落はこの谷間の東西に広がっていることが推測される。

(新宅 茜)





1



2

### 大野中遺跡・七分一堂口遺跡

1. 大野中遺跡・七分一堂口遺跡全景（南から） 2. 大野中遺跡 須恵器



2

加納谷内遺跡

1. 全景(南から) 2. 繩文土器・石製品  
SK338A (30) SK1130A (31) 埋甕2A (13) 埋甕3A (33) 谷B (32)



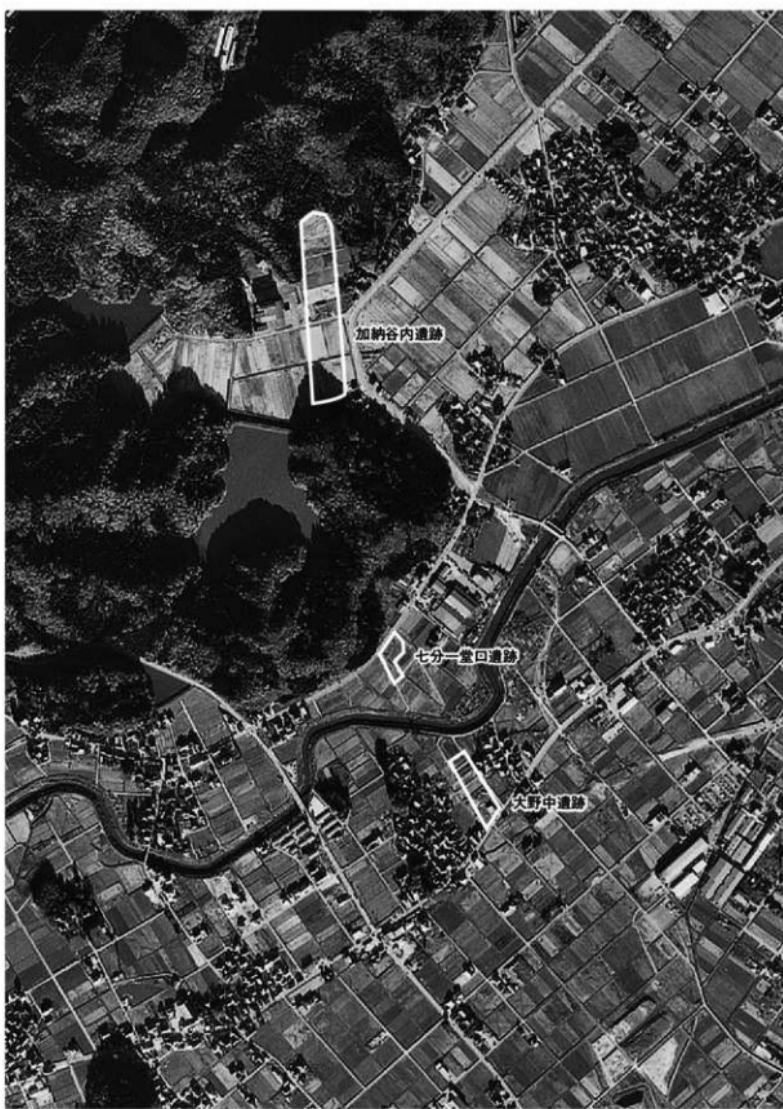
### 加納谷内遺跡 土器・陶磁器

SB1 SP504A (312) · SP615A (327) · SK545A · SK619A (501) · SK666A (349) · SK1B (322) · SK2B (541 · 542) · SK2B · SD140B (504) · SK122B (339) · SK8C1 · SD1C1 (384) · SK375C1 (364) · SK242C2 (535 · 539 · 548) · SD140B (213 · 220) · 谷B (185 · 189 · 192 · 202 · 211 · 212 · 214 ~ 216 · 218 · 227 · 231 · 239 · 246 · 248 ~ 250) · 包含層

図版4



航空写真（1953年　米軍撮影）



航空写真（2003年 国土地理院撮影）



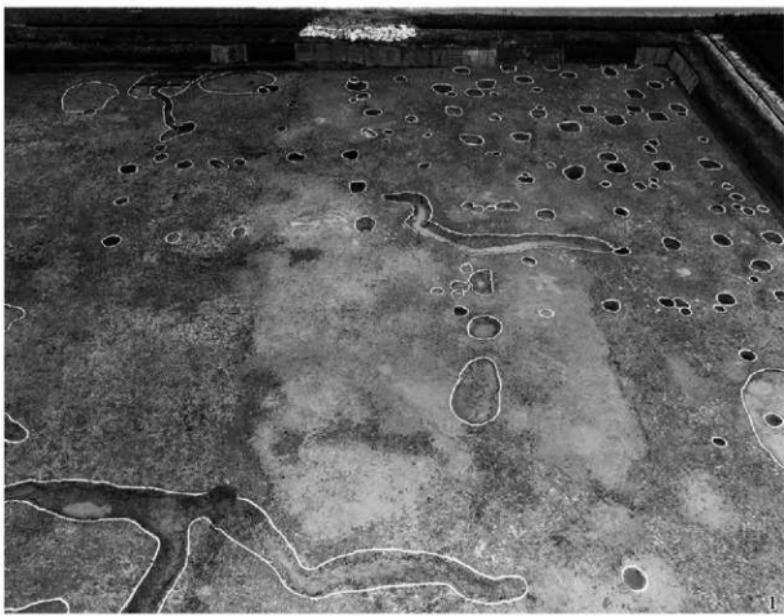
大野中遺跡 全景

1. A地区（南から） 2. A地区（北東から）



大野中遺跡 全景

1. B地区（真上から） 2. B地区（北から）



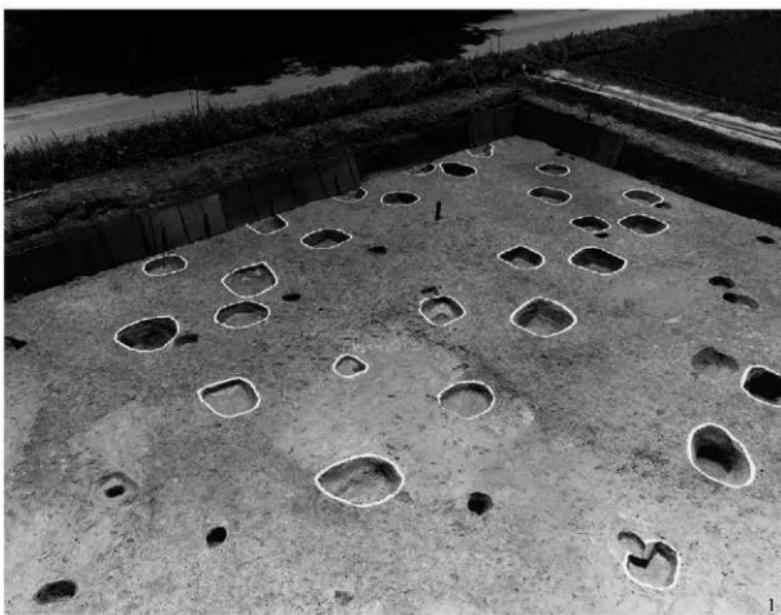
1



2

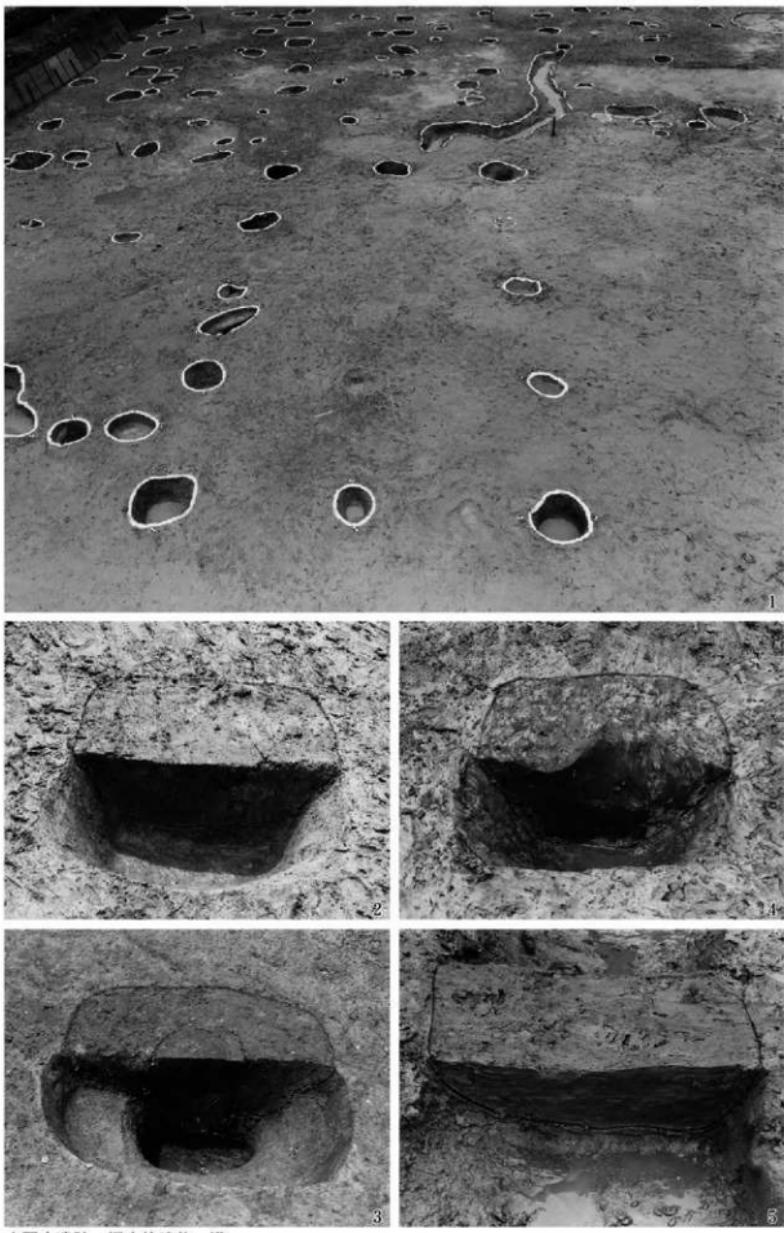
大野中遺跡 堀立柱建物

1. A地区建物群（西から） 2. A地区建物群（東から）



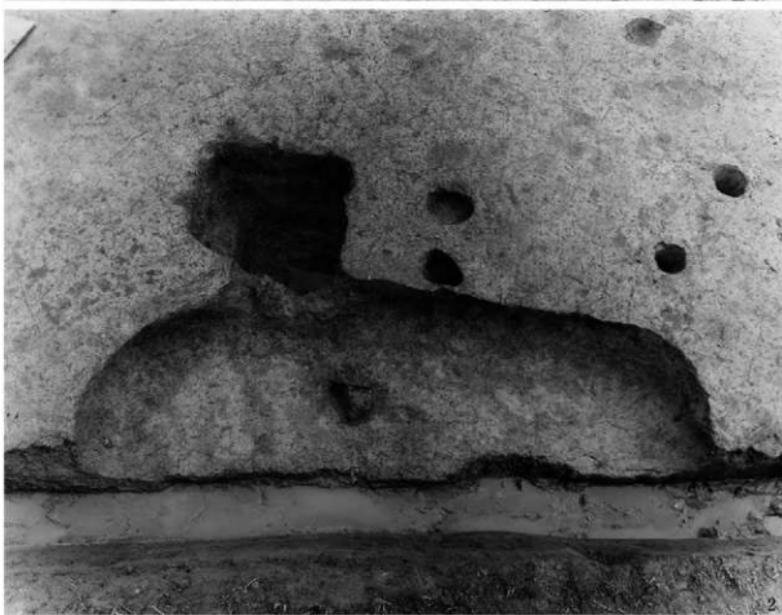
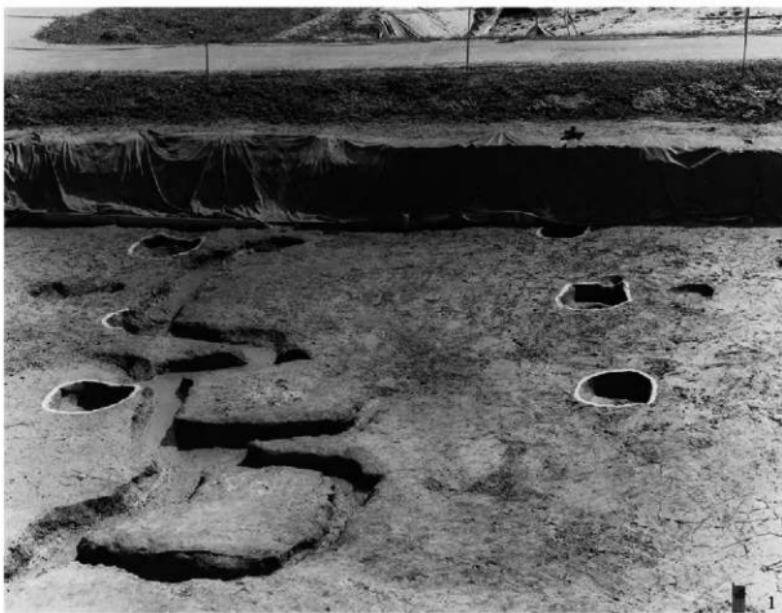
大野中遺跡 堀立柱建物

1. SB1・SB2 (北西から) 2. SB3 (北から)



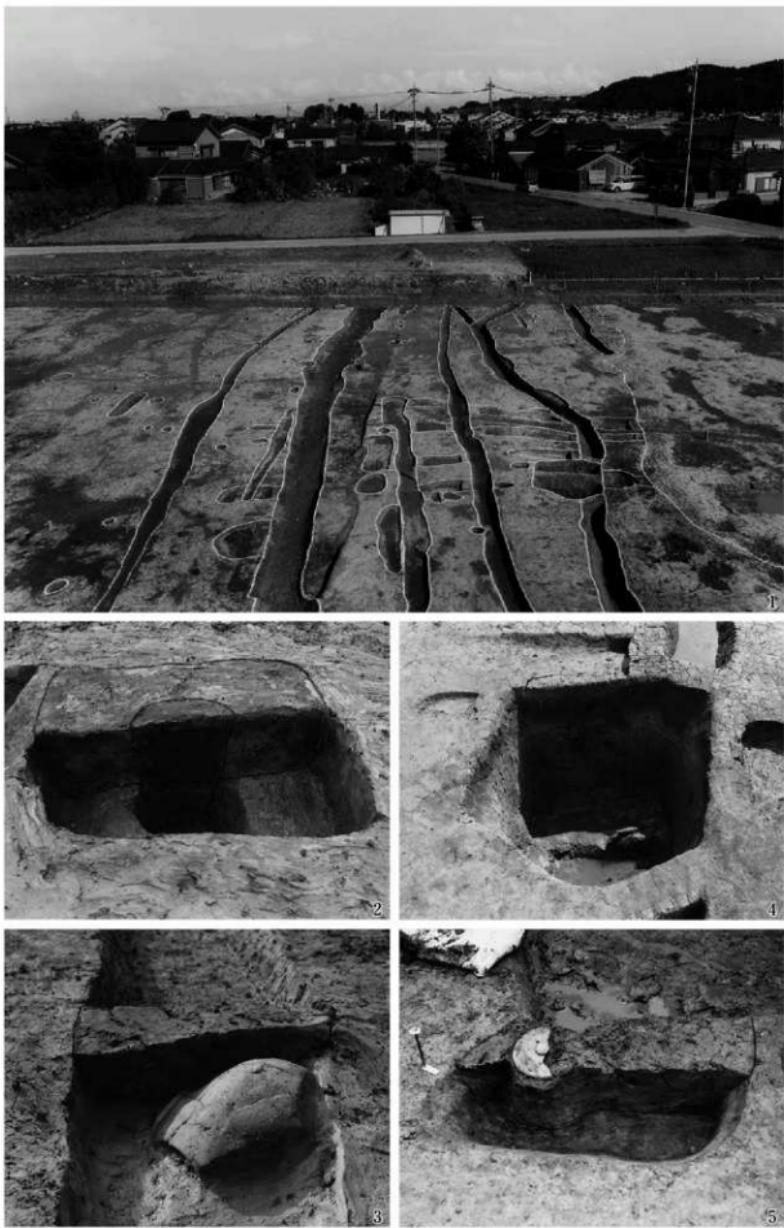
大野中遺跡 堀立柱建物・溝

1. SB4 (北から) 2. SB2 SP4A (東から) 3. SBI SP27A (東から) 4. SA2 SP57A (東から)  
5. SD67A (北から)



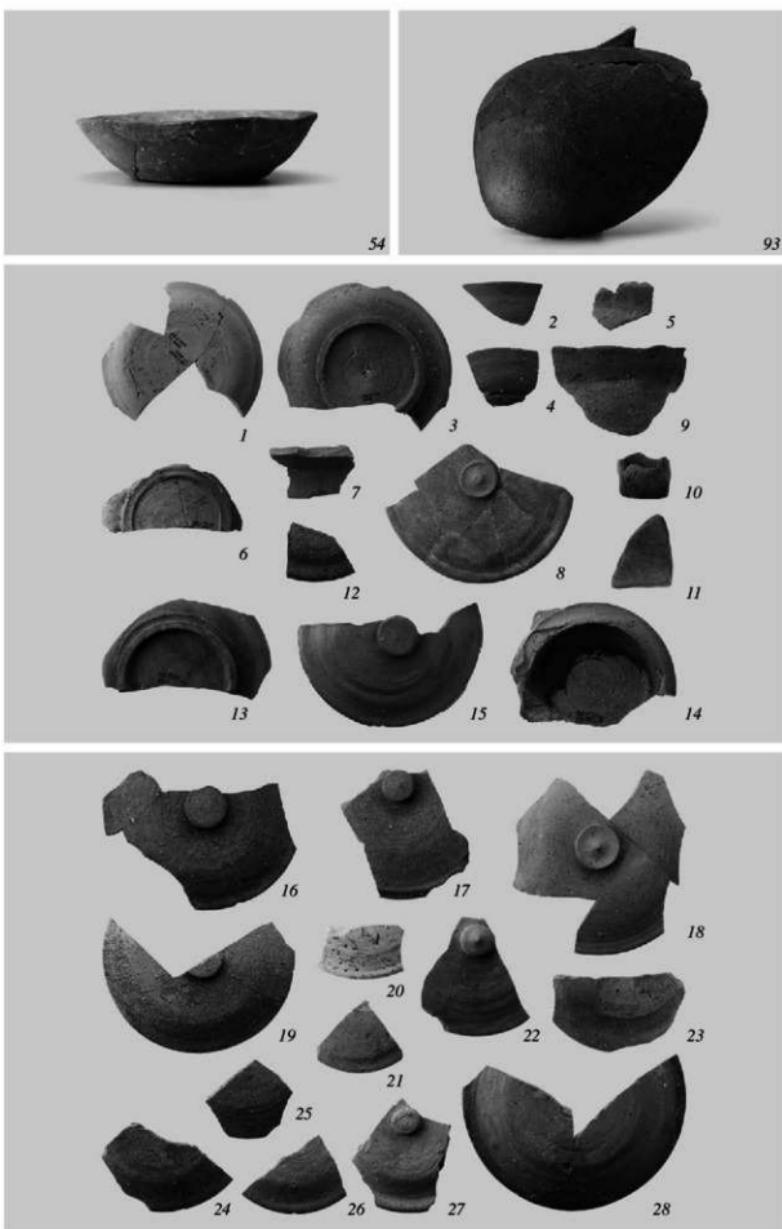
大野中遺跡 堀立柱建物・堅穴建物

1. SB5（北から） 2. SH1（北から）



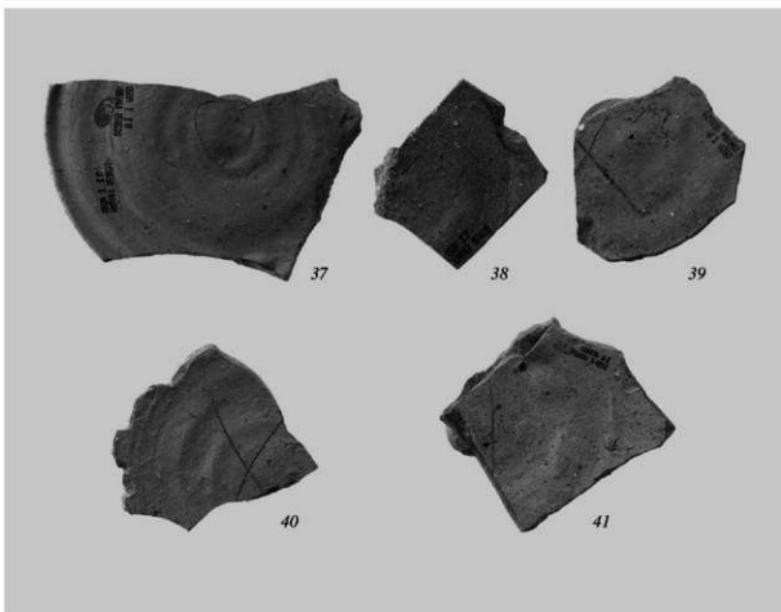
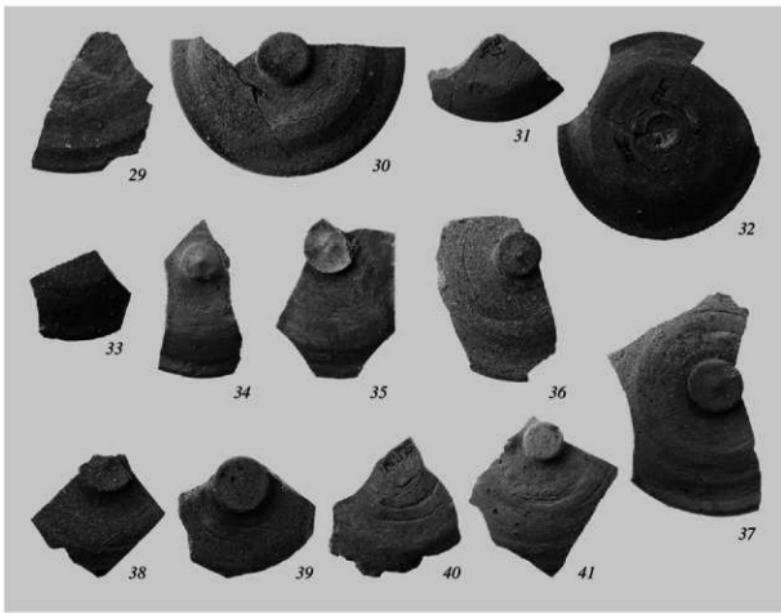
大野中遺跡 溝・柱穴・井戸・土坑

1. 溝群（西から） 2. SB5 SP64B（東から） 3. SD79B（南東から） 4. SE227B（西から）  
5. SK230B遺物出土状況（東から）

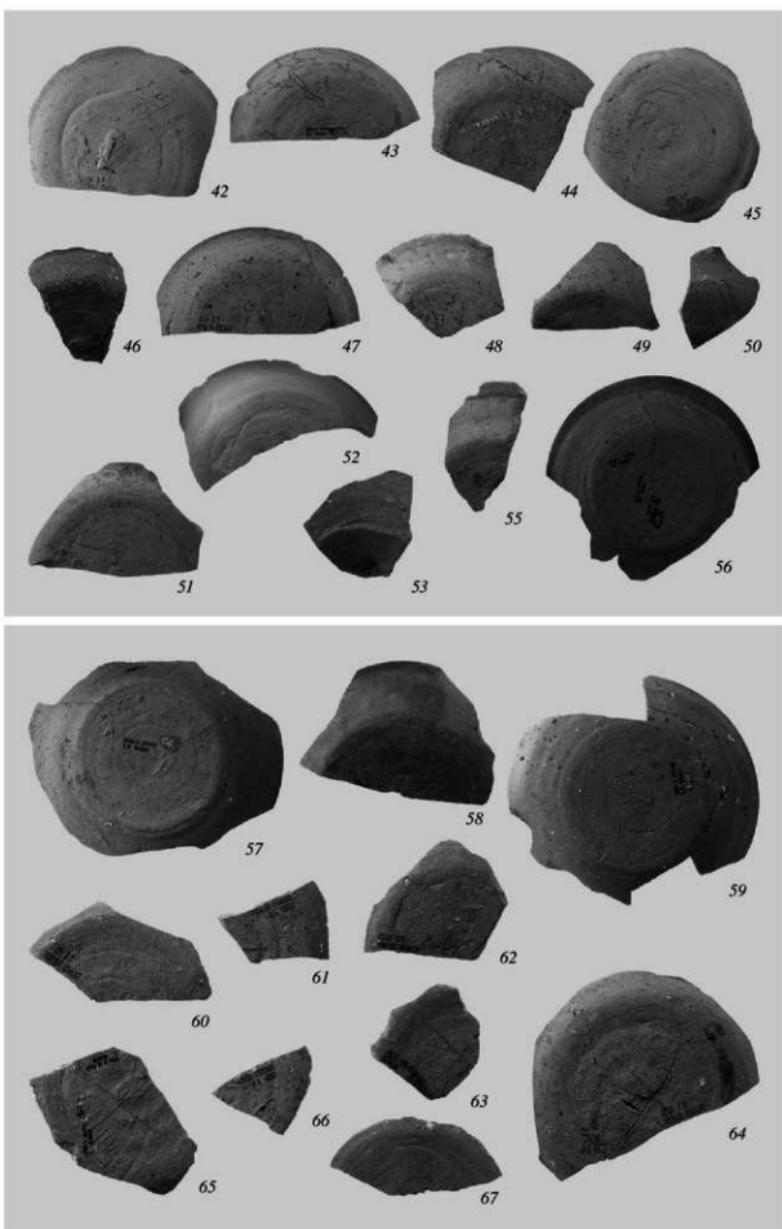


大野中遺跡 土器・土製品

SI1 (1 ~ 5) SB2 SP4A (12) SE227B (11) SK11A (14) SK104A (13) SK230B (15) SD174B (6 · 7)  
SD200B · SD221B (8) SD248B (9 · 10) 包含層

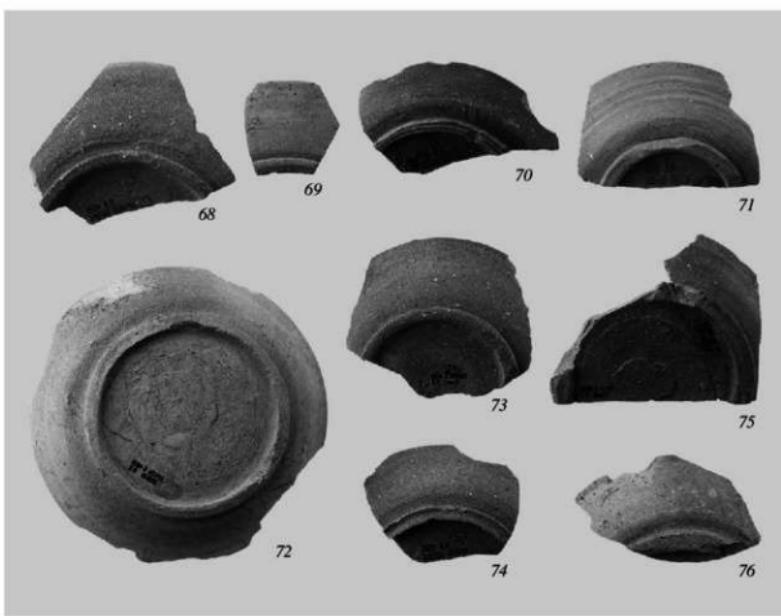


大野中遺跡 土器  
包含層

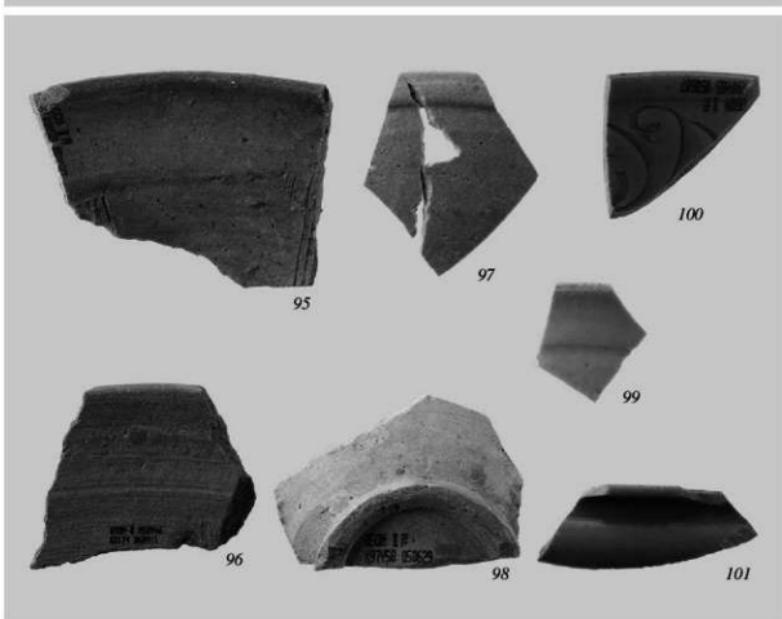


大野中遺跡 土器

包含層



大野中遺跡 土器  
包含層

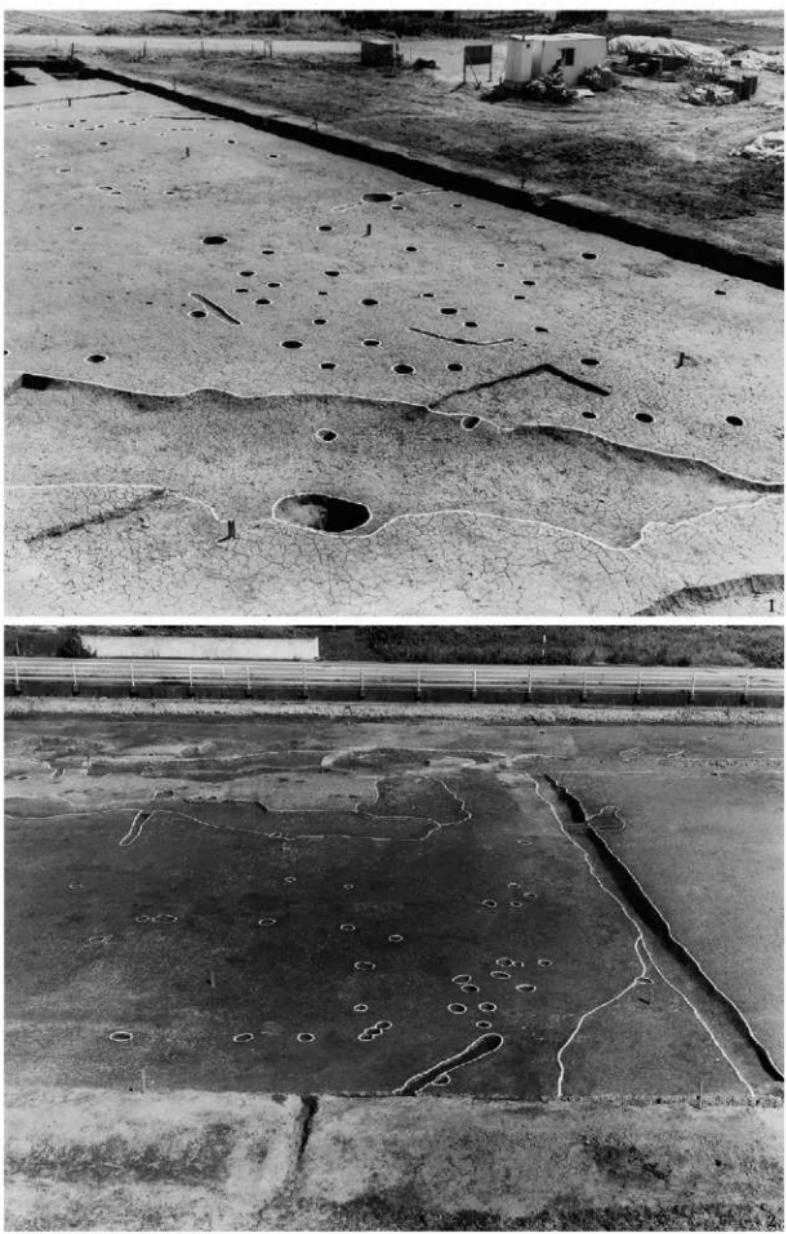


大野中遺跡 土器・陶磁器  
SD174B (96) 包含層



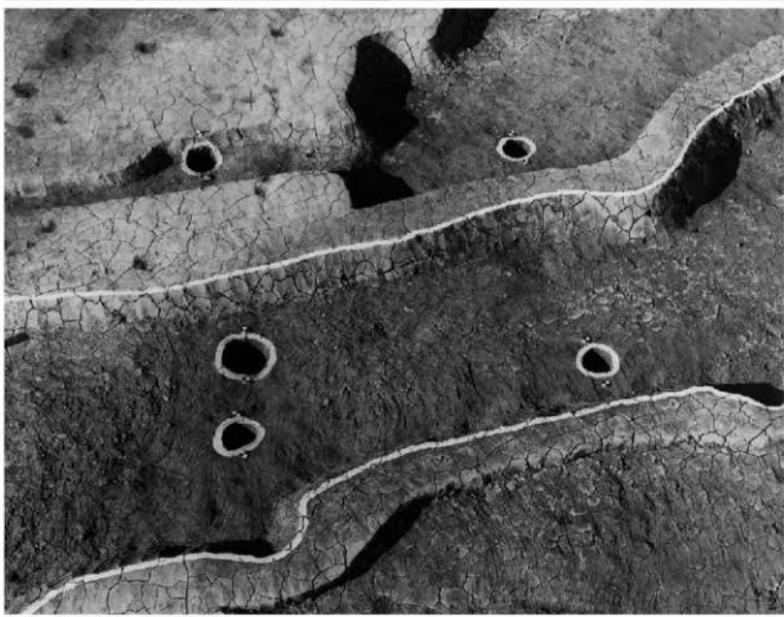
七分一堂口遺跡 全景

1. 全景（南から） 2. 全景（南西から）

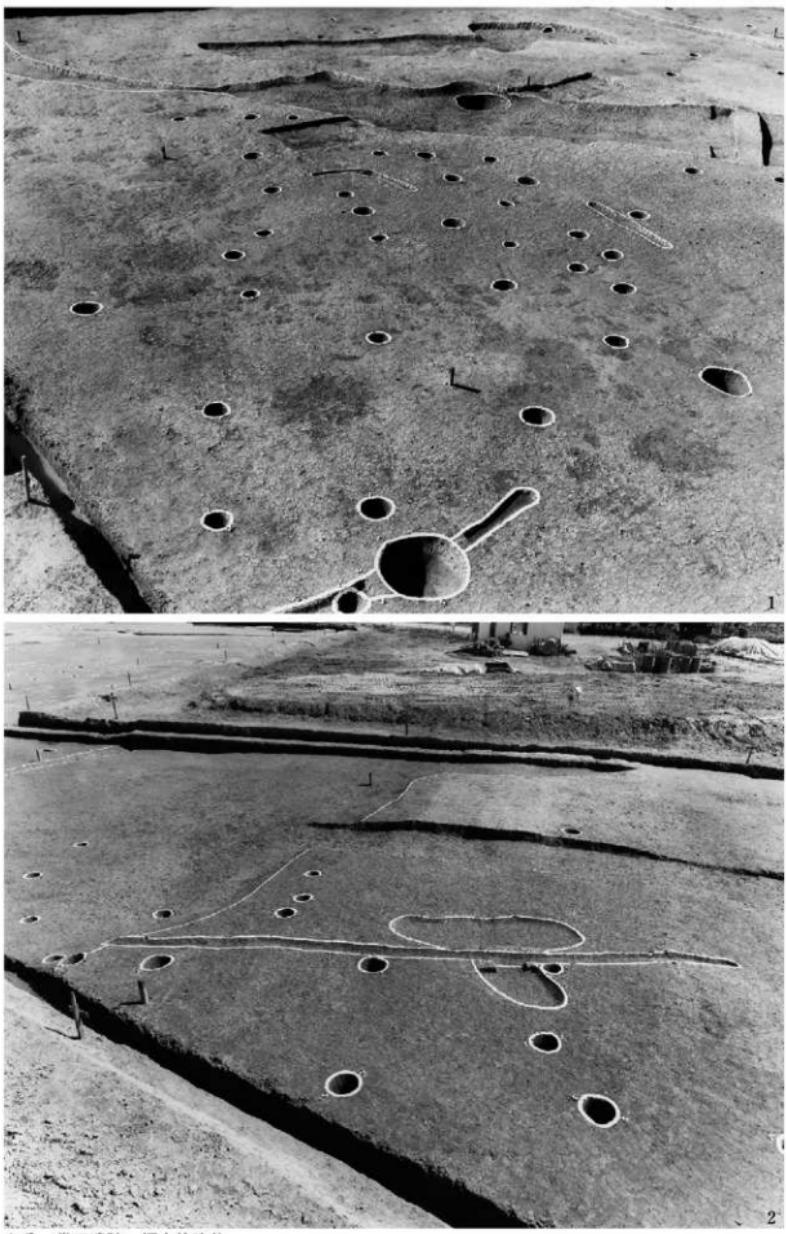




1



七分一堂口遺跡 堀立柱建物  
1. SB1 (西から) 2. SB2 (南から)



七分一堂口遺跡 堀立柱建物

1. SB3 (南東から) 2. SB4 (西から)

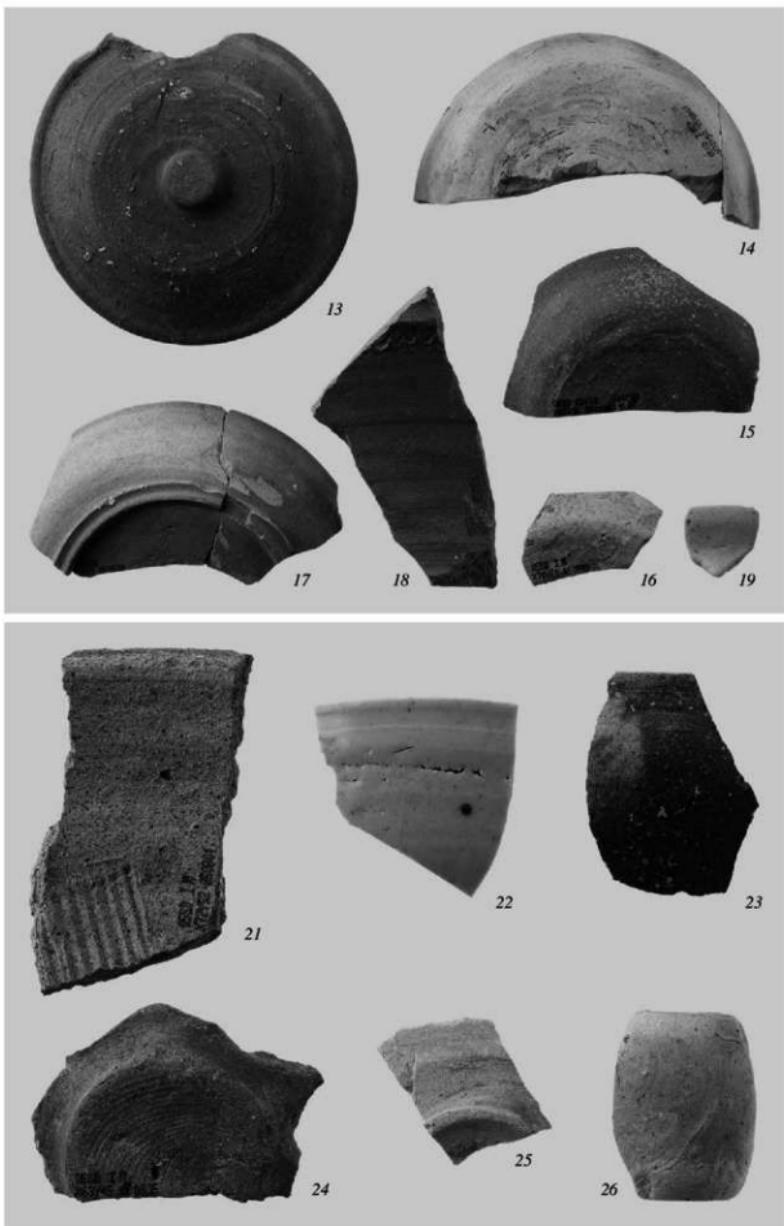


七分一堂口遺跡 柱穴・溝・井戸・土坑

1. SB1 SP92 (南から) 2. SD1 (南西から) 3. SD2 (南から) 4. SD102 (西から) 5. SD109 (西から)  
6. 7. SE134 (南西から) 8. SK107 (南西から)

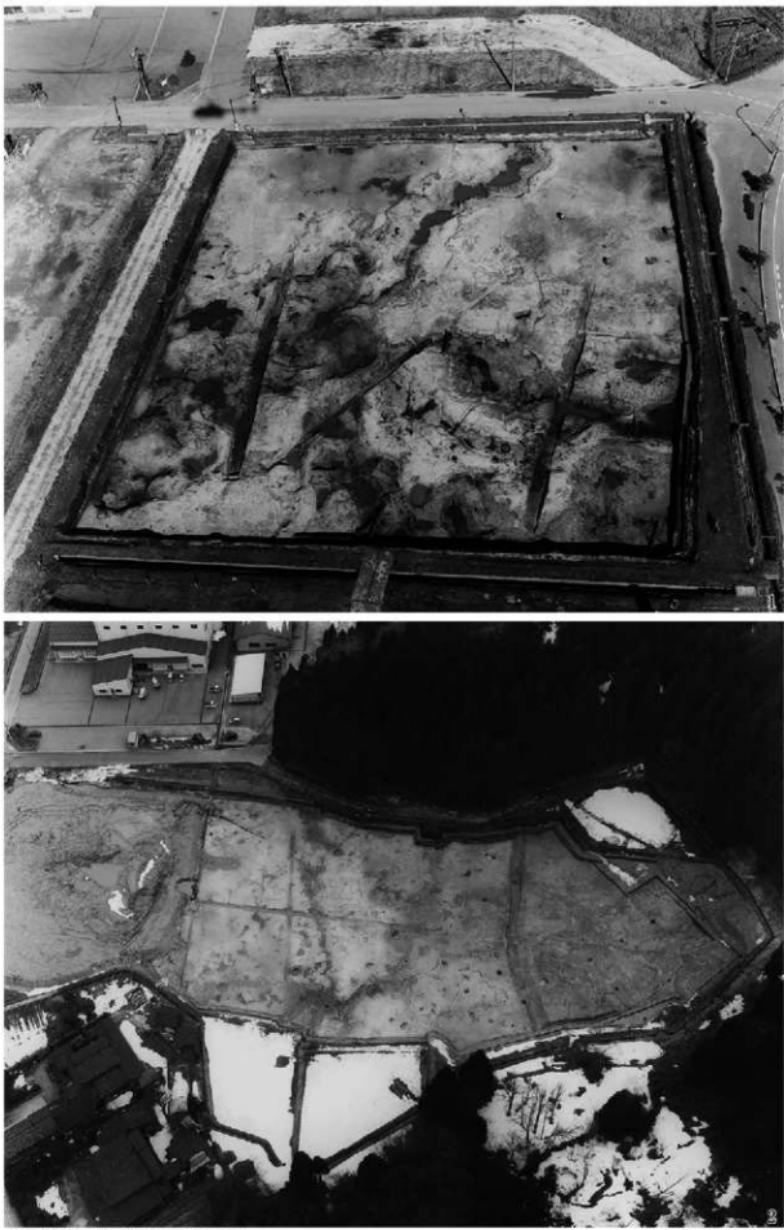


七分一堂口遺跡 土器  
SD102 (20) 包含層



七分堂口遺跡 土器・陶磁器・土製品

SD110 (15) 包含層



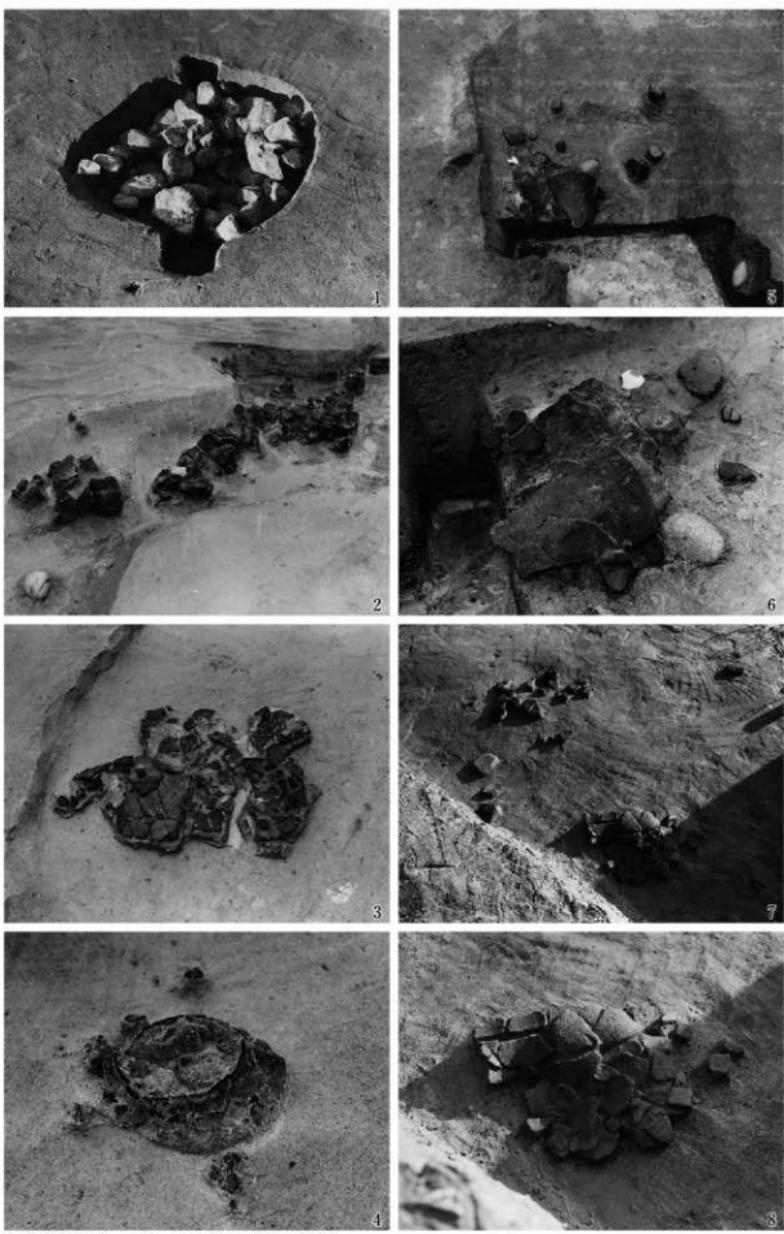
加納谷内遺跡 全景（縄文時代）

1. B地区下層（南から） 2. C2・C3地区下層（東から）



加納谷内遺跡 埋甕・土坑（縄文時代）

1. 埋甕2A（南西から） 2. 埋甕2A（南から） 3. 埋甕1A（東から） 4. SK1130A（北から）  
5. SK338A（西から） 6. SK338A（北から） 7. SK1038A（西から） 8. SK1038A（東から）



加納谷内遺跡 土坑・出土状況（縄文時代）

1. SK410C2（南から） 2. SK413C2（北西から） 3. SK423C2（北東から） 4. C2地区X125Y134（西から）  
5. SK205C3（西から） 6. SK205C3（北から） 7・8. C3地区X136Y136（北から）



加納谷内遺跡 全景（中近世）

1. 遠景（南から） 2. A地区（北から）



加納谷内遺跡 全景（中近世）

1. B地区（北から） 2. B地区（西から）



加納谷内遺跡 全景（中近世）

1. C1地区（北から） 2. C1地区（北から）



加納谷内遺跡 全景（中近世）

1. C2地区（西から） 2. C2地区（西から）



1



2

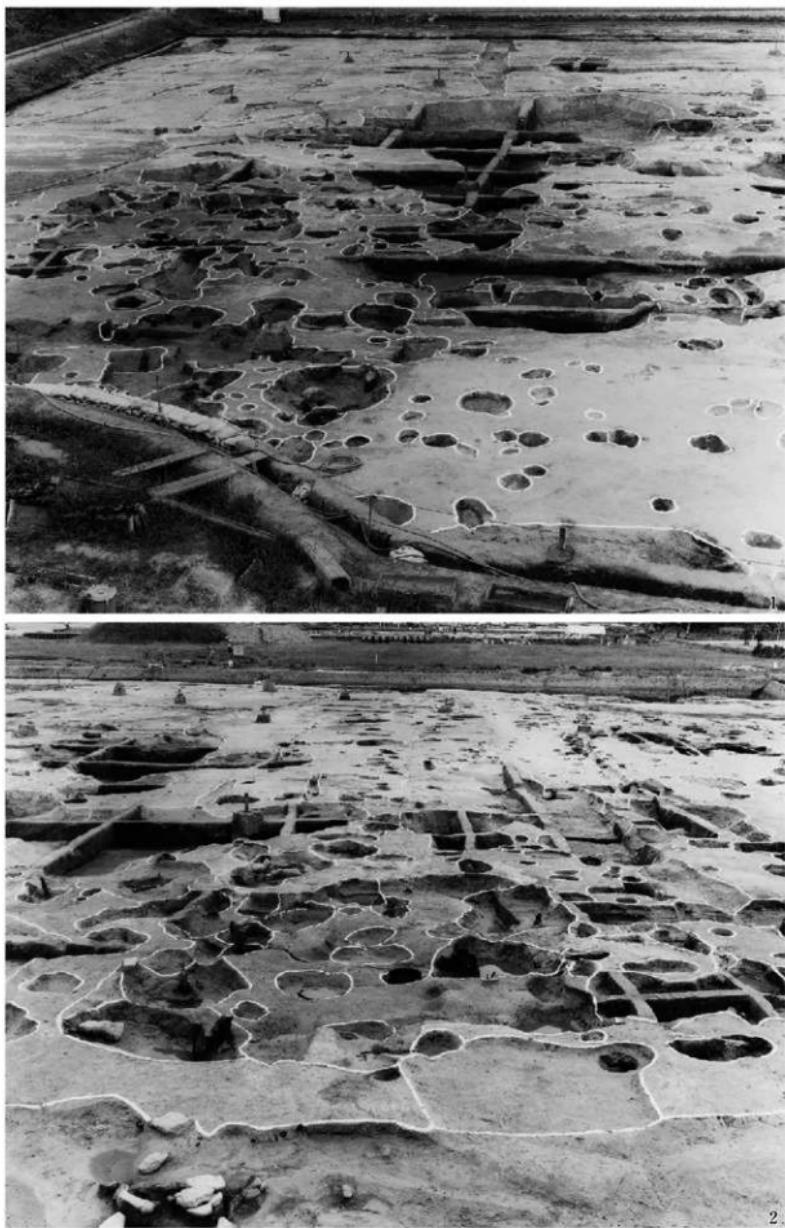
加納谷内遺跡 全景（中近世）

1. C3地区（東から） 2. C3地区（南から）



加納谷内遺跡 全景（中近世）

1. C1～C3地区（南から） 2. D地区（西から）



加納谷内遺跡 堀立柱建物（中近世）

1. A地区SB1（東から） 2. A地区SB2（南から）



1



2

加納谷内遺跡 堀立柱建物（中近世）

1. B地区SB6～SB8（東から） 2. C2地区堀立柱建物群（西から）



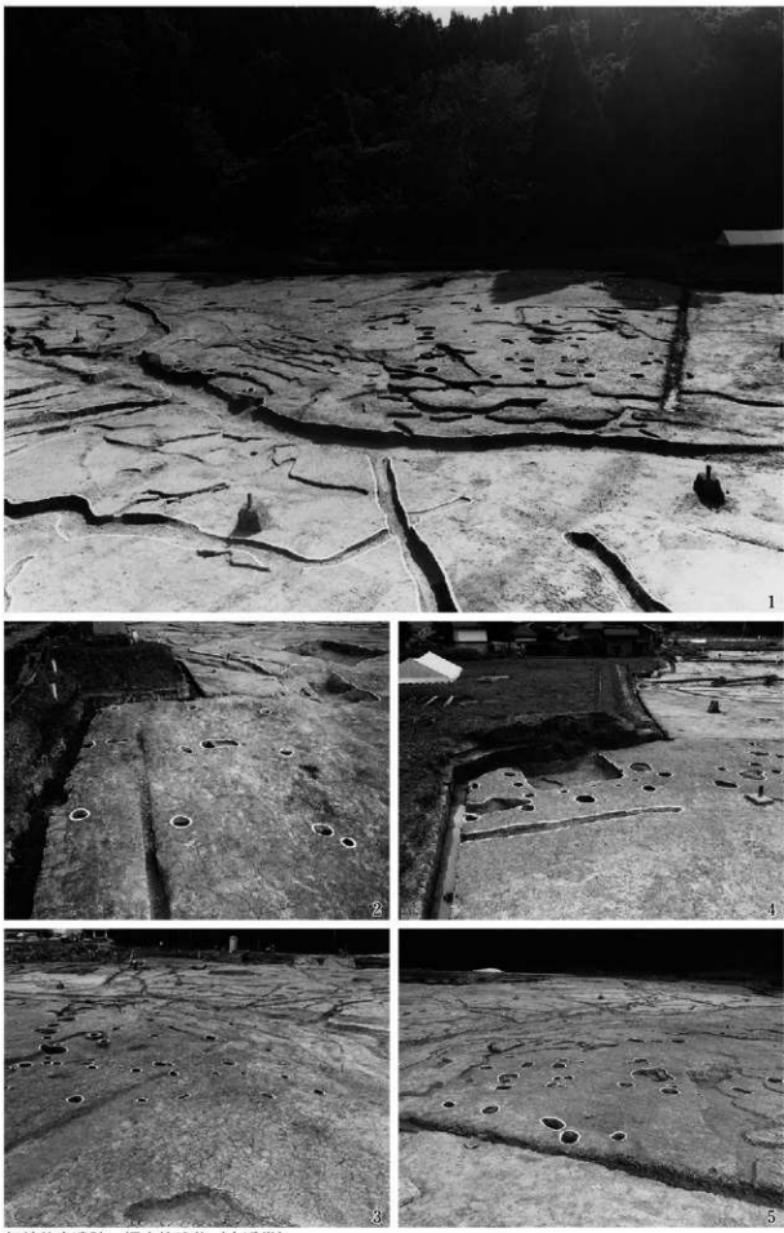
1



2

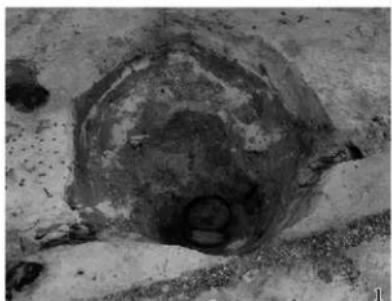
加納谷内遺跡 堀立柱建物（中近世）

1. C2地区SB16・SB17（南から） 2. C2地区SB11・SB12（東から）

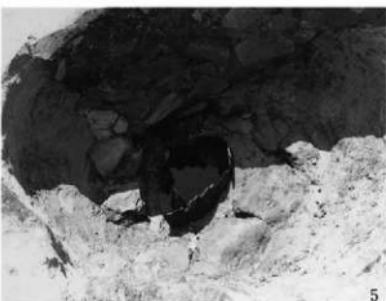


加納谷内遺跡 堀立柱建物（中近世）

1. C3地区堀立柱建物群（南西から） 2. C2地区SB10（南から） 3. C3地区SB22（東から）  
4. C3地区SB23・SB24（北東から） 5. C3地区SB25・SB26（南西から）



1



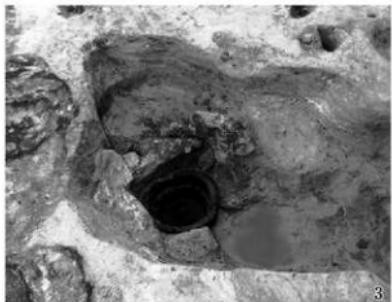
5



2



6



3



7



4



8

加納谷内遺跡 井戸（中近世）

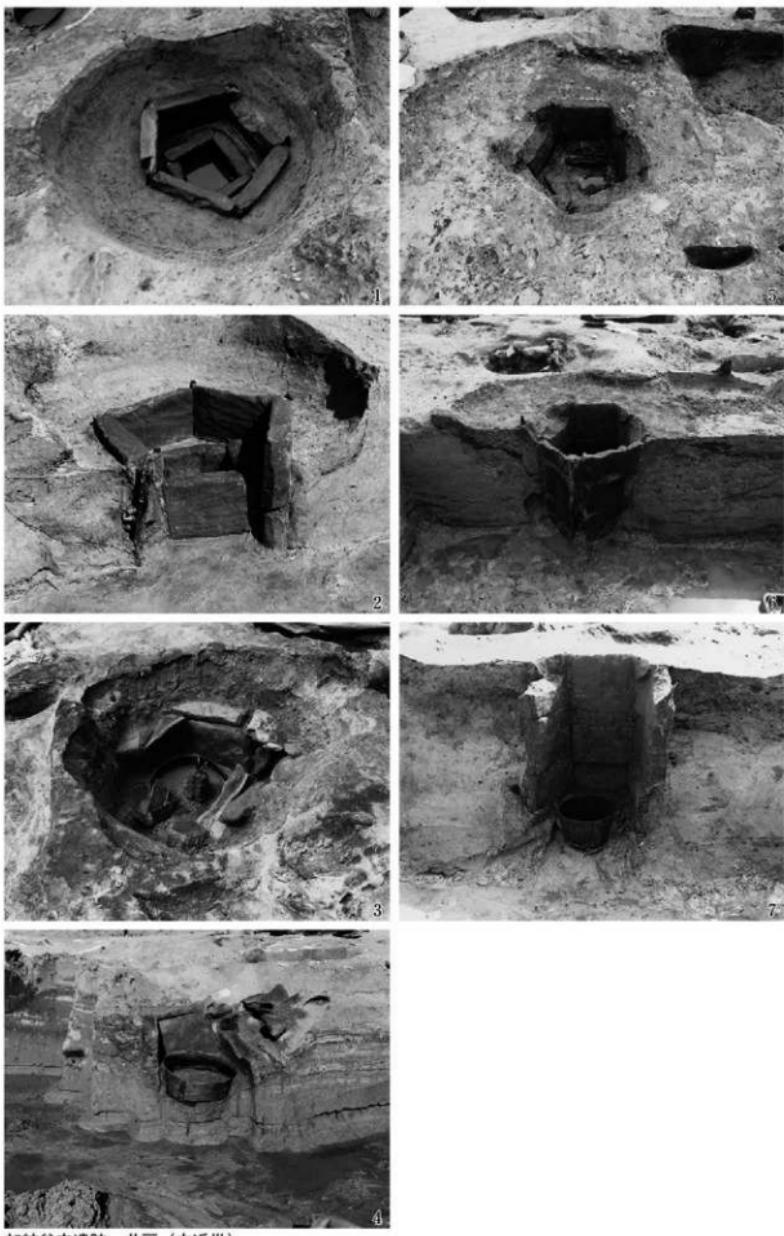
1. SE172A（東から） 2. SE172A（北から） 3・4. SE495A（南から） 5・6. SE564A（北から）  
7. SE595A（東から） 8. SE595A（南東から）



加納谷内遺跡 井戸（中近世）

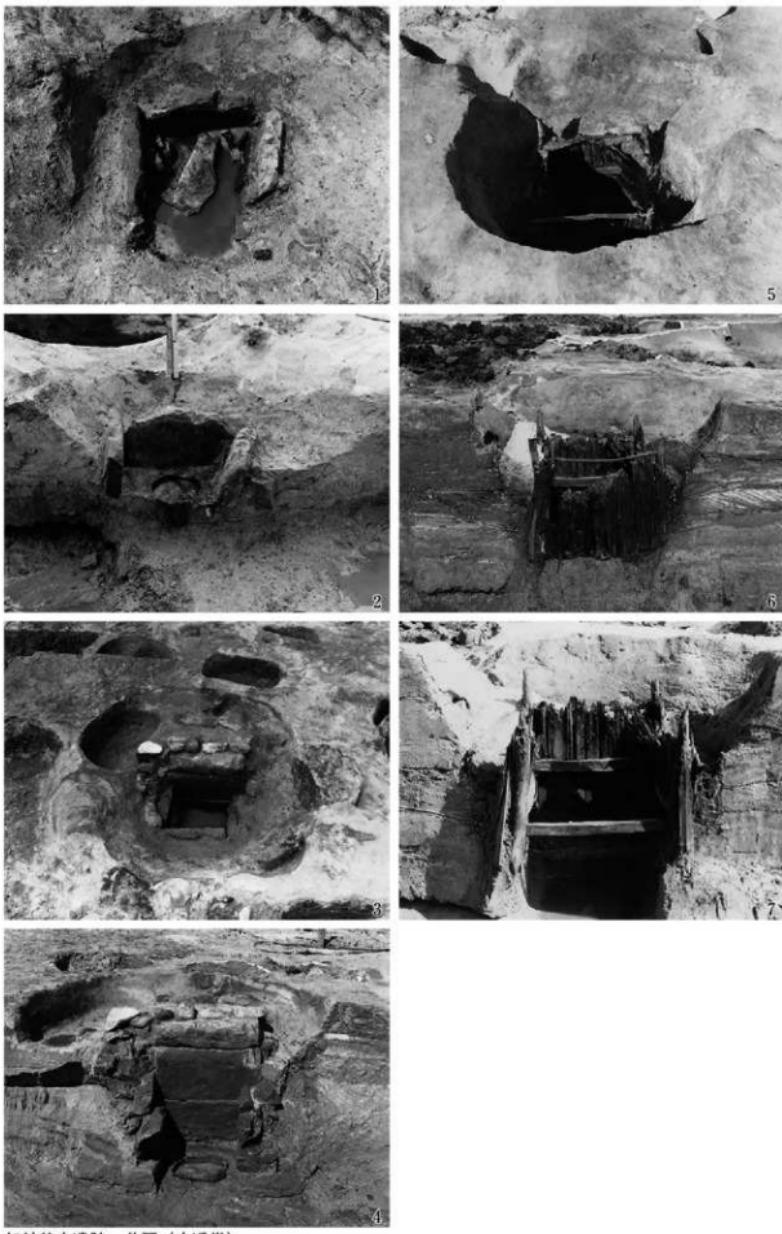
1. SE569A（南から） 2・3. SE569A（北から） 4. SE574A（南東から） 5・6. SE596A（南から）  
7. SE609A・SE640A（南から） 8. SE671A（北から）

図版40



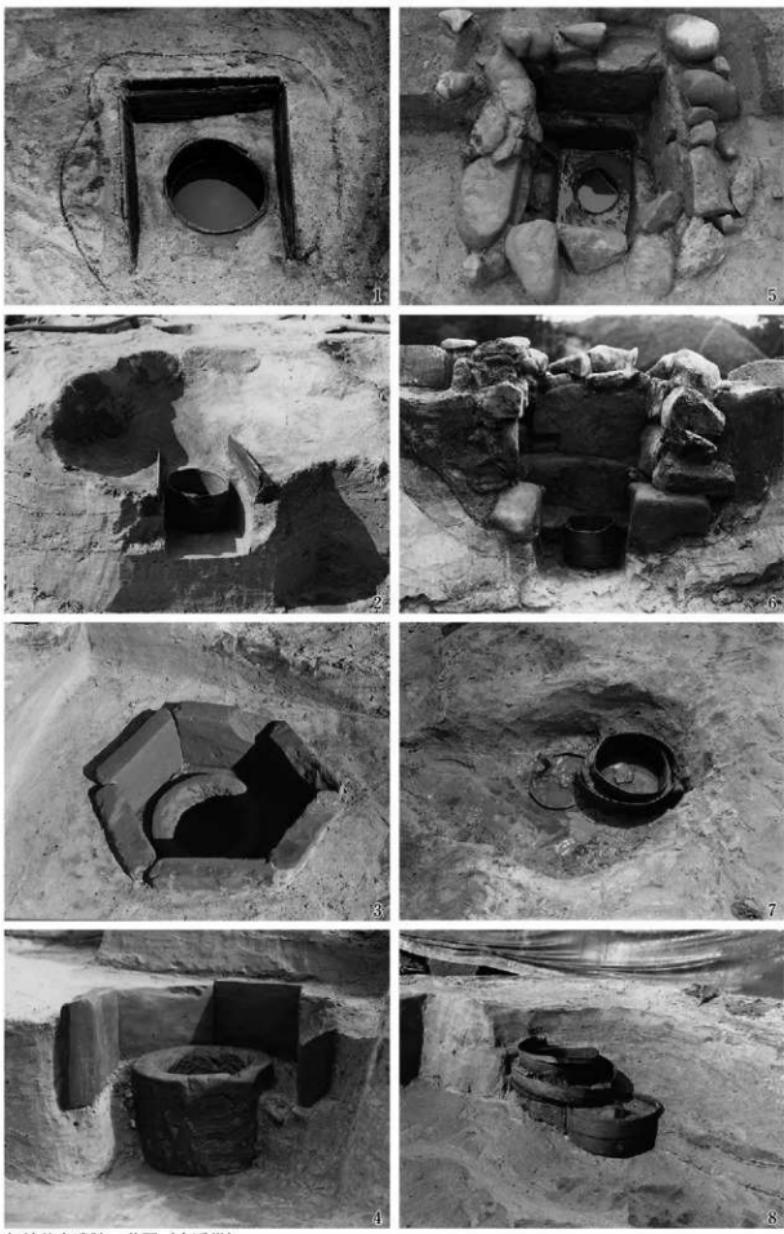
加納谷内遺跡 井戸（中近世）

1. SE614A（西から） 2. SE614A（南から） 3. SE669A（北東から） 4. SE669A（東から）  
5. 6. 7. SE630A（西から）



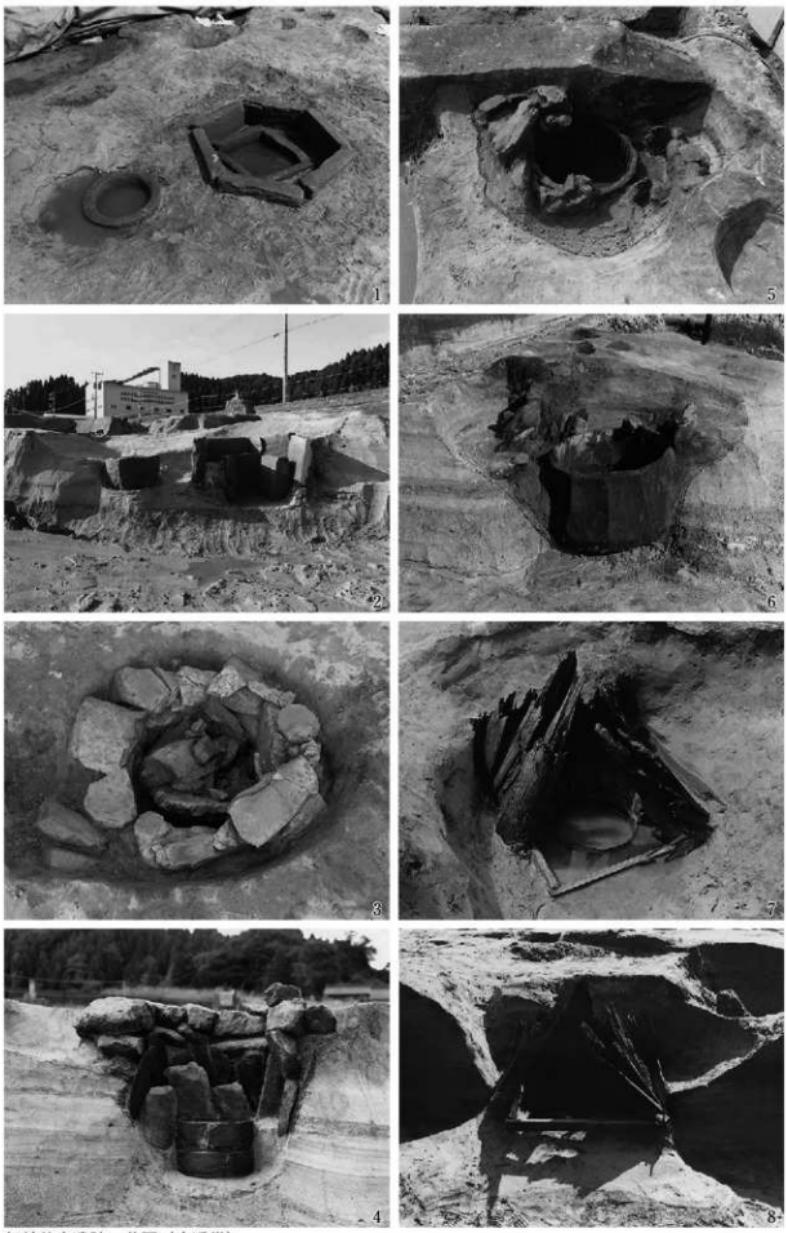
加納谷内遺跡 井戸（中近世）

1・2. SE682A (北から) 3・4. SE717A (東から) 5・6・7. SE796A (南から)



加納谷内遺跡 井戸（中近世）

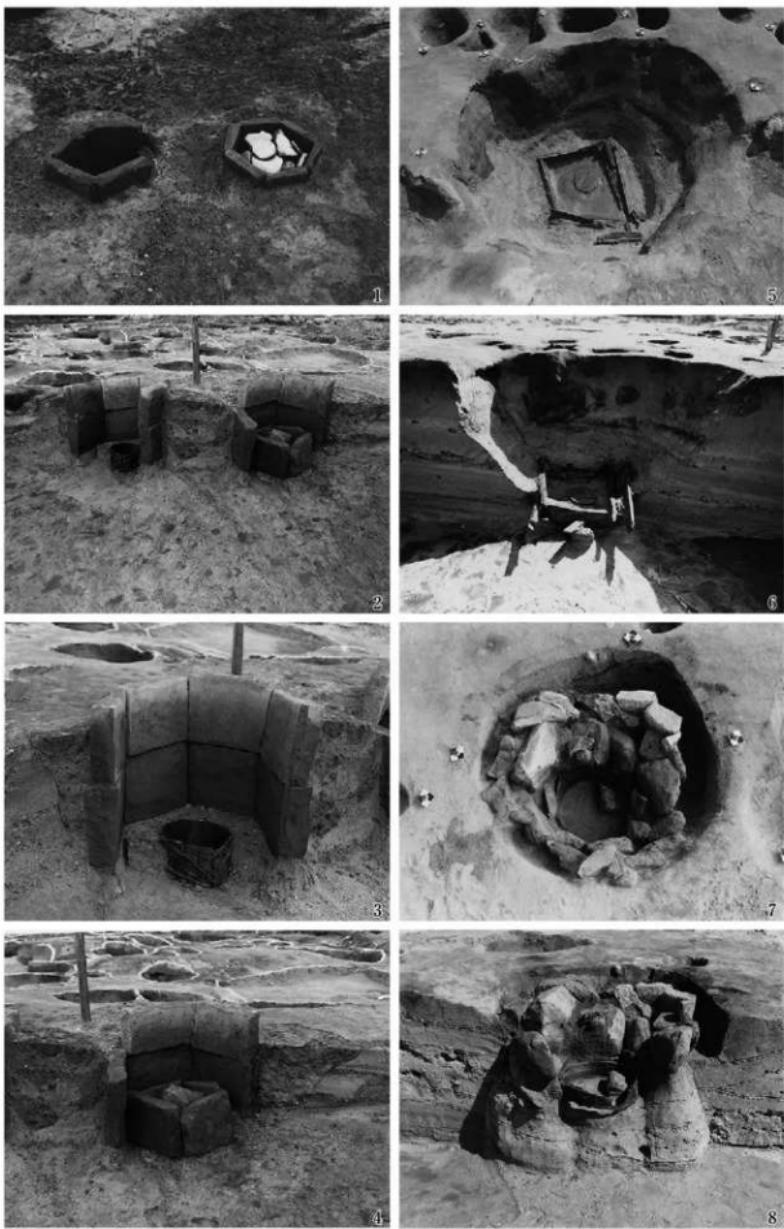
1. SE867A（南から） 2. SE867A（北から） 3. SE1134A（西から） 4. SE1134A（南から）  
5・6. SE111B（北から） 7. SE156B（北から） 8. SE156B（南から）



加納谷内遺跡 井戸（中近世）

1・2. SE201B・SE202B（南から） 3. SE323B（南西から） 4. SE323B（南から） 5. SE336B（東から）  
6. SE336B（西から） 7・8. SE185C1（北から）

図版44



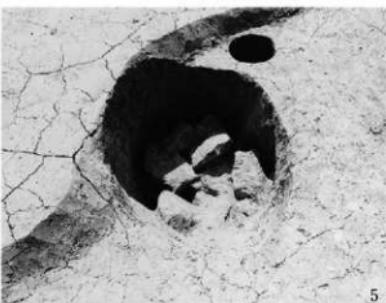
加納谷内遺跡 井戸（中近世）

1. SE4C1・SE5C1 (北から) 2. SE4C1・SE5C1 (南から) 3. SE4C1 (南から)  
5. SE326C1 (北から) 6. SE326C1 (西から) 7. 8. SE420C1



加納谷内遺跡 井戸（中近世）

1. SE339C1（西から） 2・3. SE339C1（南から） 4. SE201C1（南から） 5. SE591C1（南から）  
6. SE591C1（南東から） 7. SE591C1（北から） 8. SE591C1・SE592C1・SE593C1（西から）



5



2



6



3



7



4

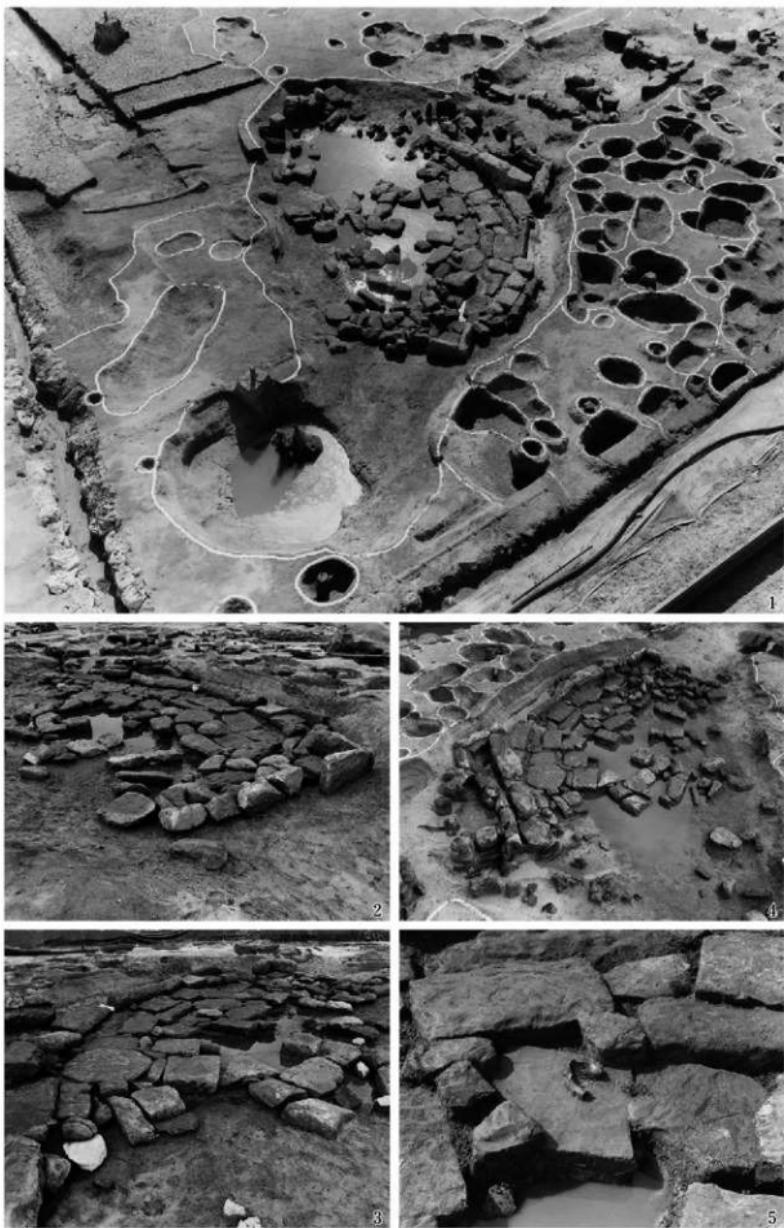
加納谷内遺跡 井戸（中近世）

1. SE593C1（北から） 2. SE593C1（西から） 3・4. SE593C1（北から） 5. SE73C3（東から）  
6・7. SE140C3（南から）



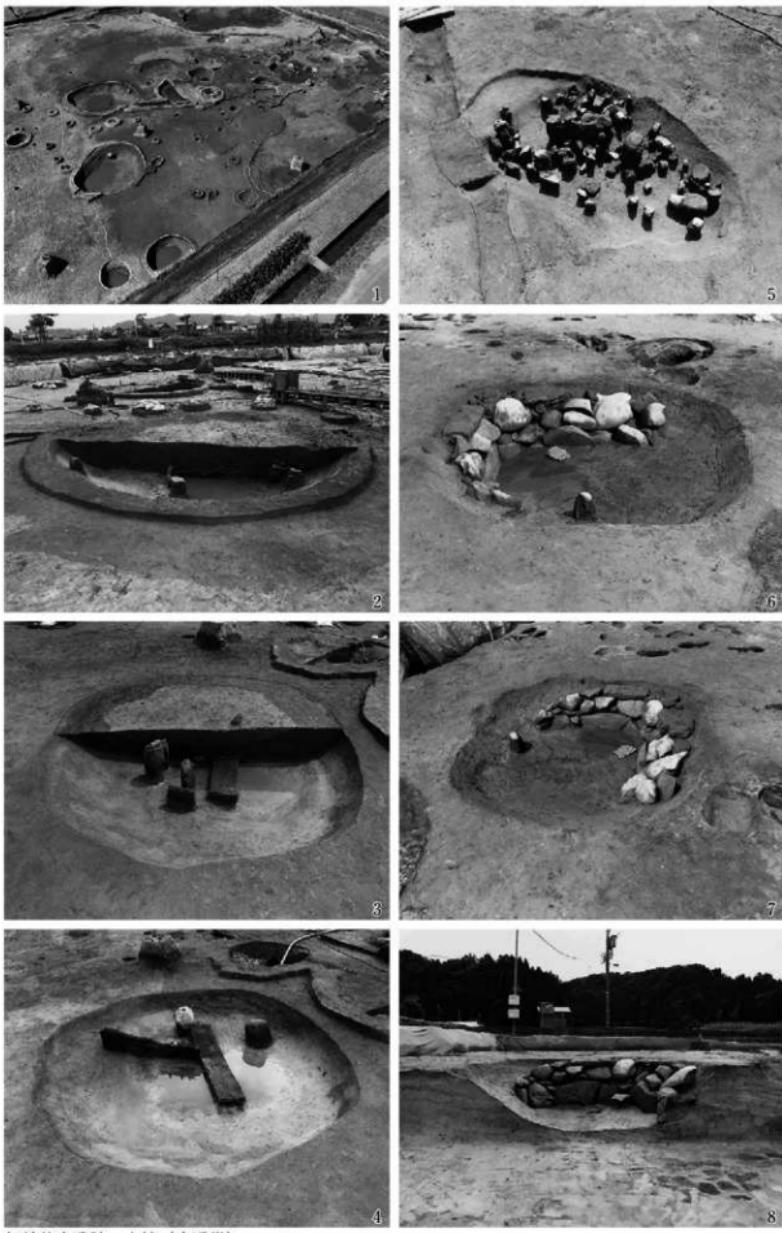
加納谷内遺跡 石敷遺構・土坑（中近世）

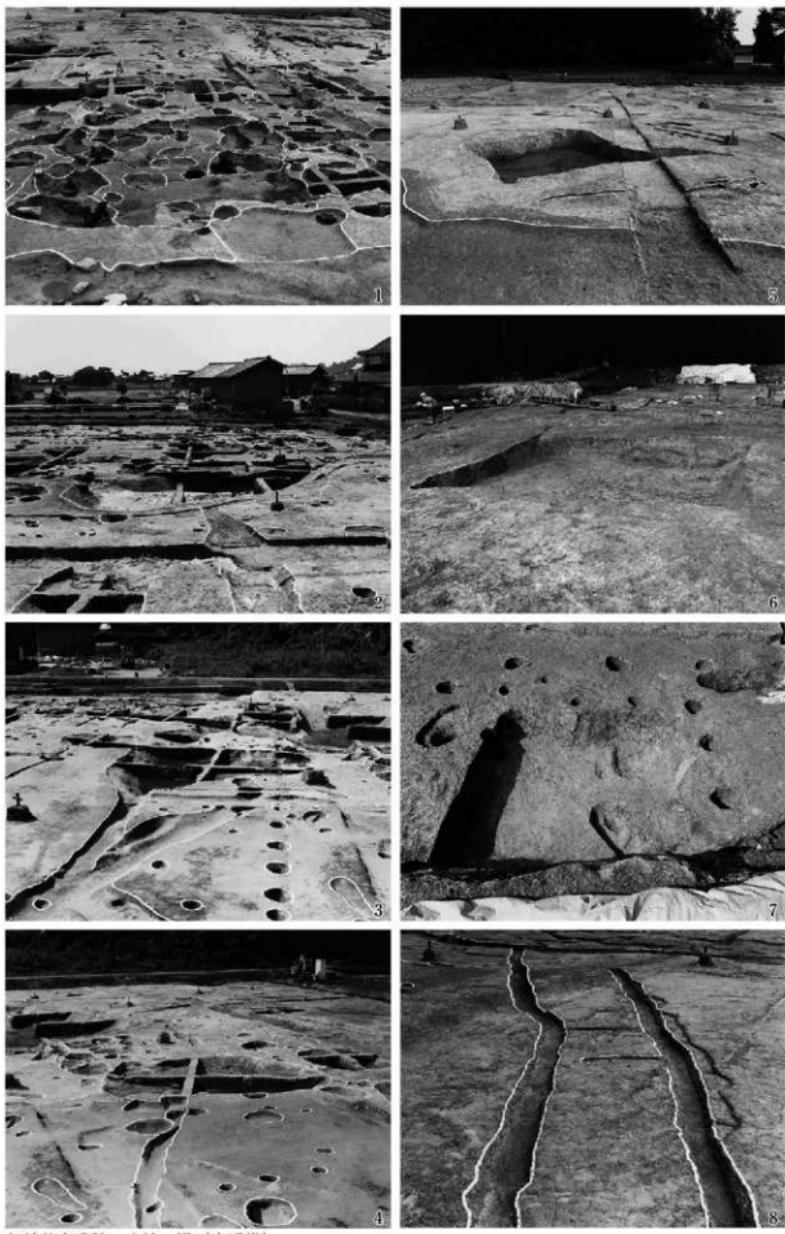
1. SX726C1 (南から) 2. SX191B・SX350B・SX351B (西から)



加納谷内遺跡 石敷遺構（中近世）

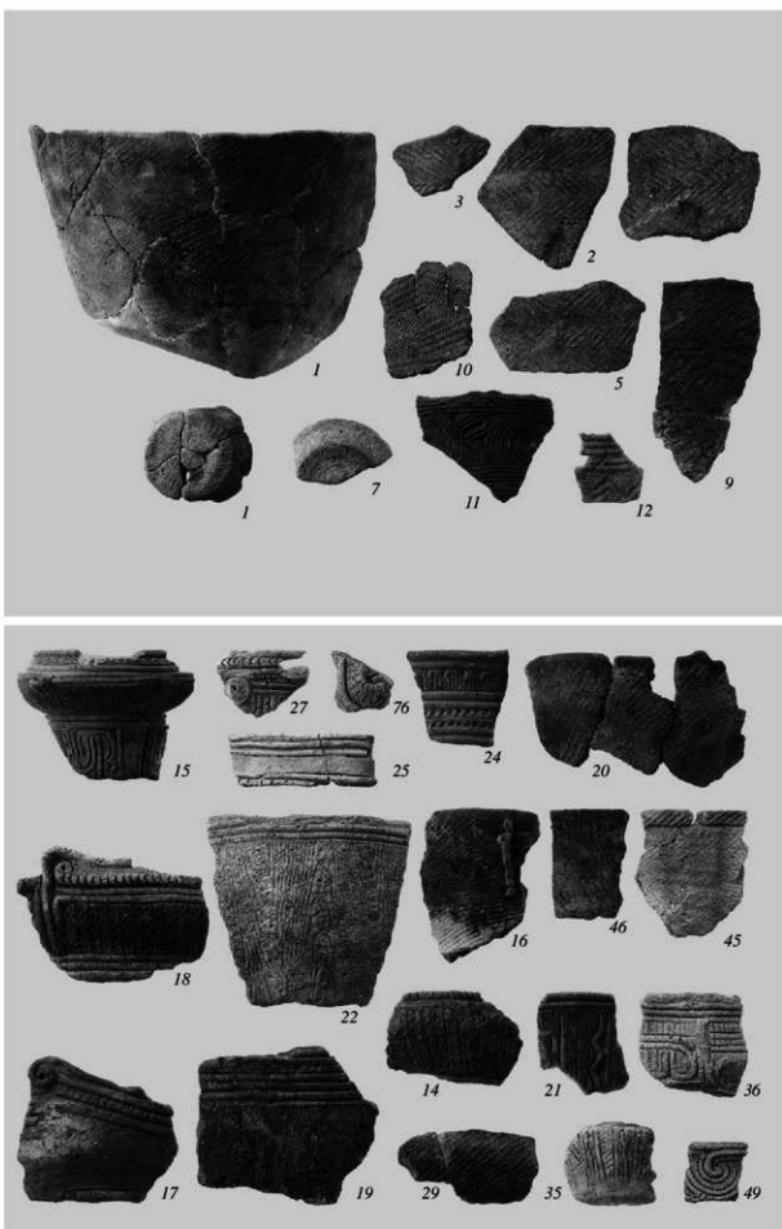
1. SX191B（北から） 2. SX191B（北西から） 3・5. SX191B（東から） 4. SX191B（南から）





加納谷内遺跡 土坑・溝（中近世）

1. SK545A (南から) 2. SK666A (西から) 3. SK683A (北から) 4. SK791A (東から) 5. SK52C2 (西から)  
6. SK170C3 (南から) 7. SK120C3 (南から) 8. SD61C2・SD62C2 (西から)



加納谷内遺跡 土器

SK413C2 (10) SK205C3 (1) SD4A (35) SD1029A (49)  
SD140B (14·16·20·46) 谷B (11·15·17~19·21·22·24·36) 包含層



加納谷内遺跡 條文土器・土製品  
埋甕2A (13) 谷B (32) 包含層



加納谷內遺跡 土器

SBI SP504A (261) SD4A (264) 谷B (232·233·237·238·241~244·246·251·252·254~256·259·260)  
包含層



271

272



268

270

269

281

277

291

294

292

286

289

299

296

295

300

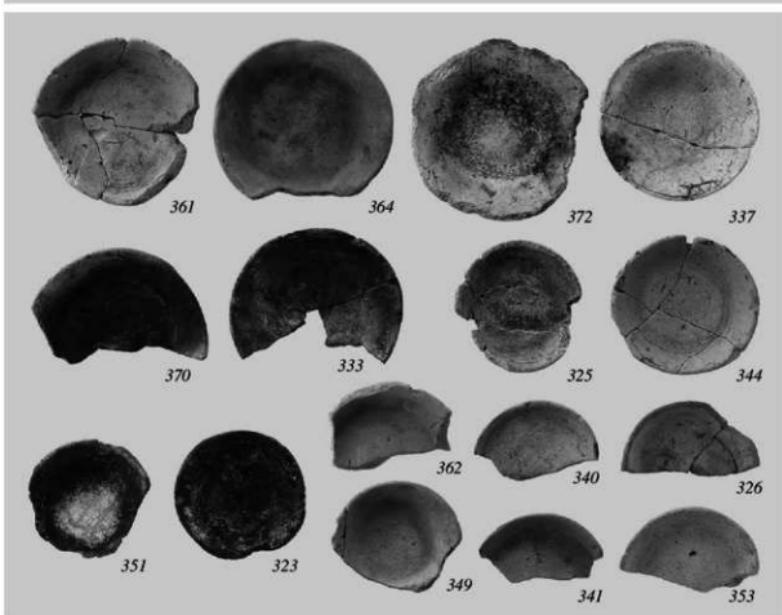
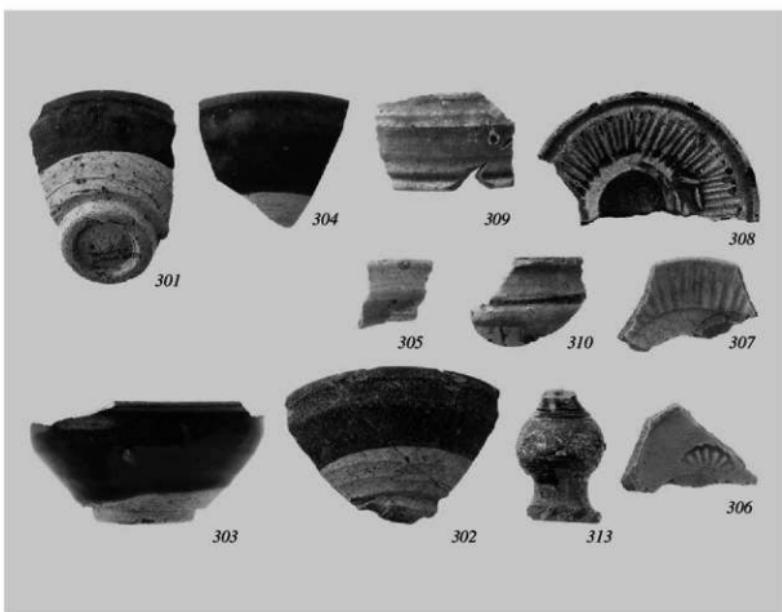
298

290

287

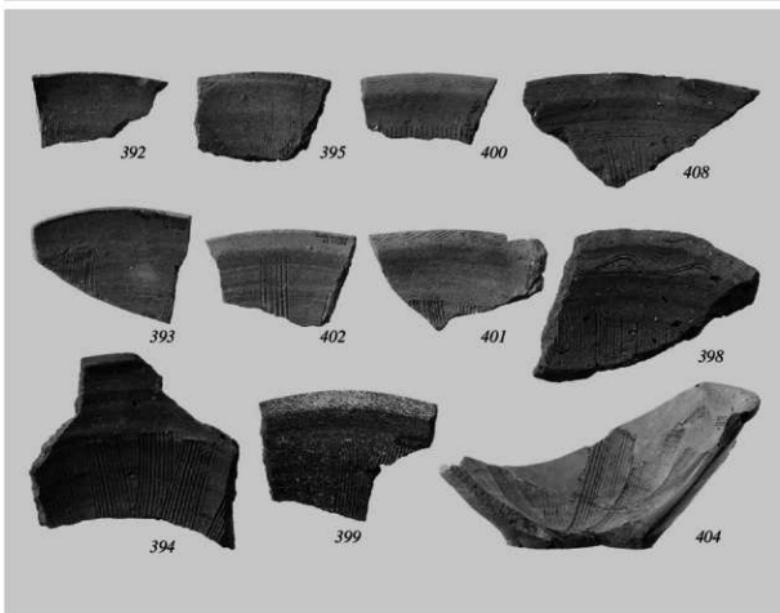
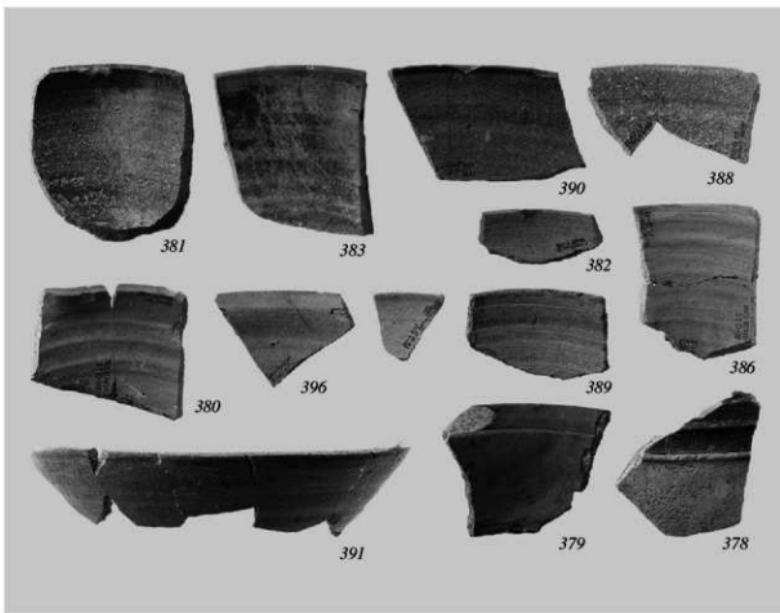
加納谷内遺跡 土器

SA9 SP100C3 (298) SD4A (271・272) SD77C1 (291) SD214C2 (296) SD76C3 (281) SD80C3 (299) 包含層



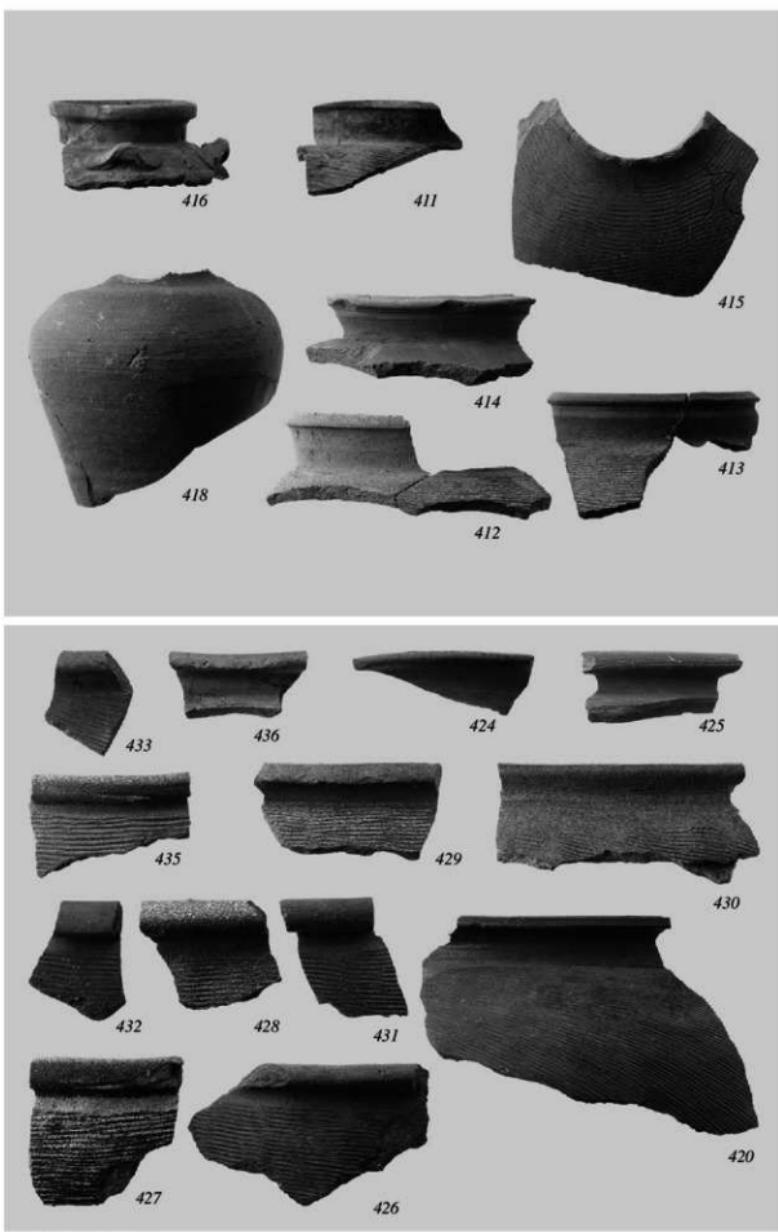
加納谷内遺跡 土器・陶磁器

SE185C1 (326・341) SE191C1 (353) SE146C3 (372) SK314A (325) SK666A (349) SK208B (362)  
 SK322C1 (340) SK375C1 (364) SK434C1 (370) SK241C2 (323) SK242C2 (305～307) SK89C3 (309)  
 SK120C3 (351) 包含層



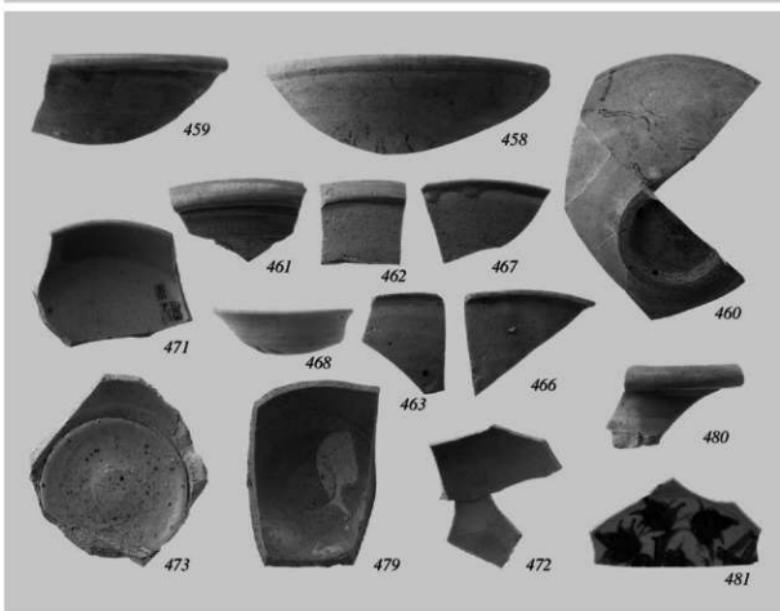
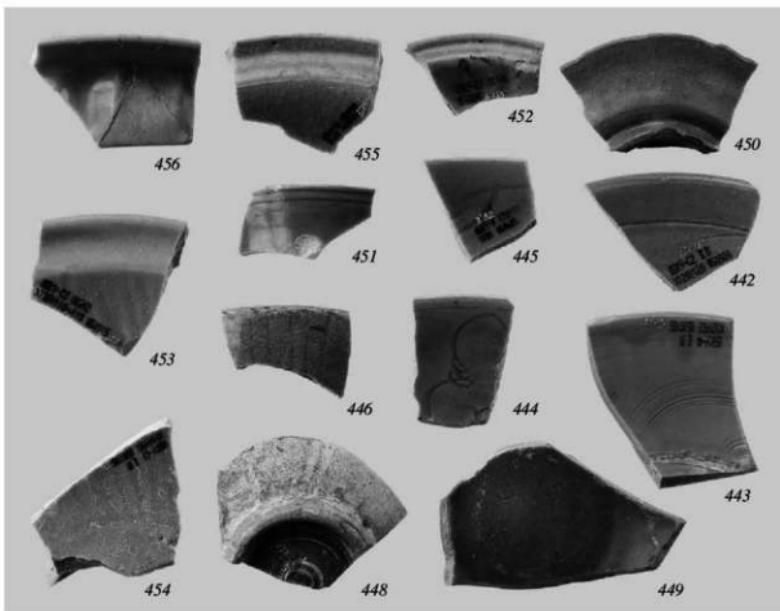
加納谷内遺跡 土器

SB2 SP505A (408) SE420C1 (394) SE53C2·SD50C2 (391) SX351B (379) SK314A (390·400) SK791A (395)  
SK305B (398) SK349C1 (396) SD2A (378·383) SD140B (382) SD1C2 (380) SD54C2 (388·392) 包含層



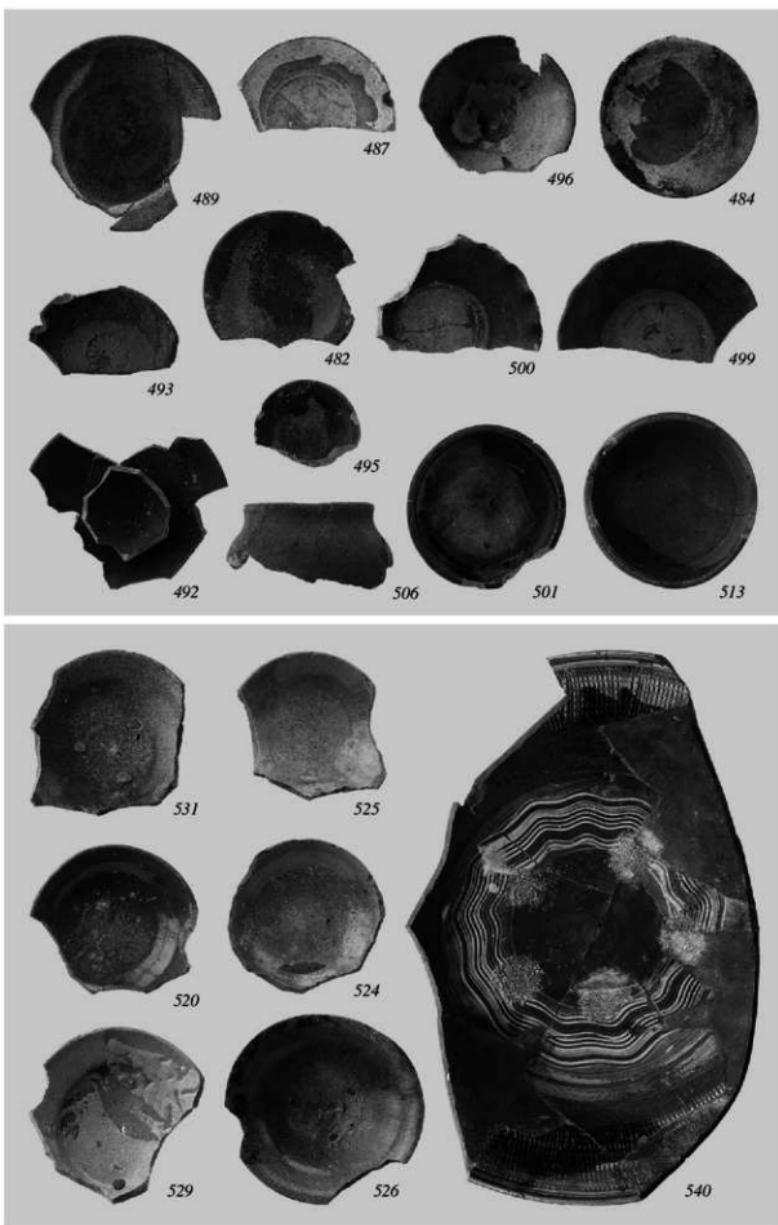
## 加納谷内遺跡 土器

SE595A (429) SE639A (432) SE53C2・SD54C2 (416) SX191B・SK343B (413) SK314A (436)  
 SK666A (411・415・426) SK2B (431) SK78B (433) SK242C2 (418・428) SD1C1 (427) SD21C1 (424)  
 SD221C1・SD403C1 (435) SD125C2 (425) 包含層



## 加納谷内遺跡 陶磁器

SB16 SP145C2 (472) SE569A (450) SE111B・SK1B (456) SK666A (471) SK683A (468) SK1B (445)  
SK55B (460) SK56B (467・479) SK146C1 (452) SK242C2 (453) SD2A (444) SD891A (463) SD77C1 (481)  
SD54C2 (466) SD256C2 (462) SD80C3 (473) 包含層



加納谷内遺跡 陶磁器

SK545A (482) SK545A · SK619A (501) SK619A (492 · 524) SK619A · SK666A (540) SK665A (526)  
SK666A (493 · 499 · 525) SK242C2 (487 · 531) 包含層



185



211



196



213



202



214

加納谷内遺跡 土器

SD140B (213) 谷B (185・196・202・211・214)



加納谷内遺跡 土器

SD140B (220) 谷B (215・223・227・231・239・248)



250



504



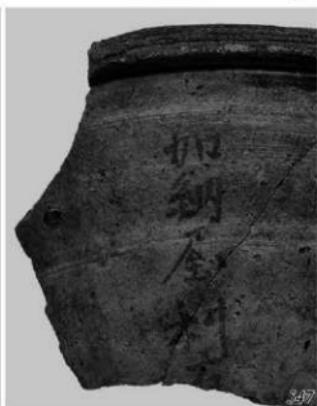
312



548



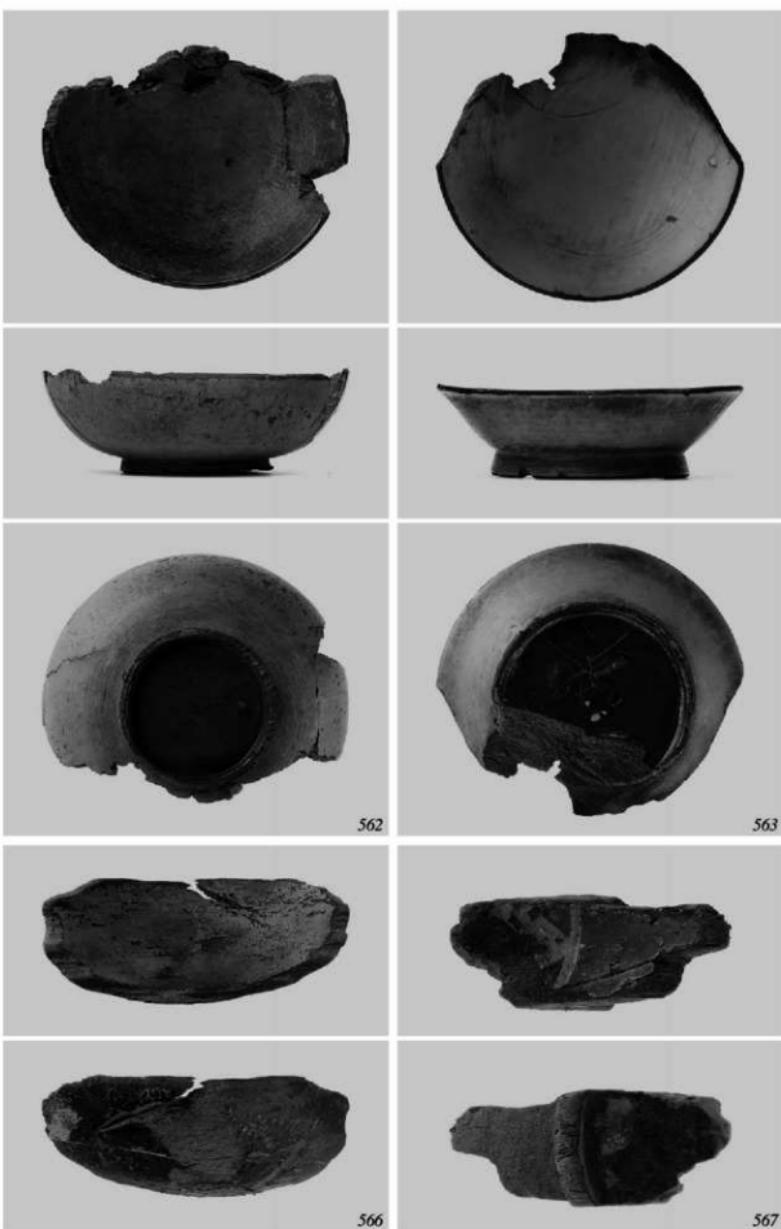
384



547

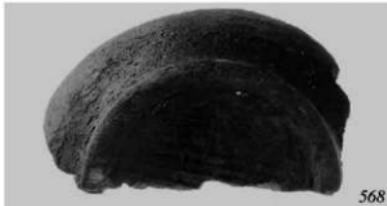
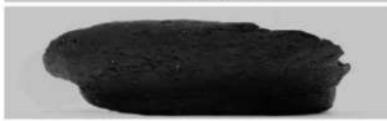
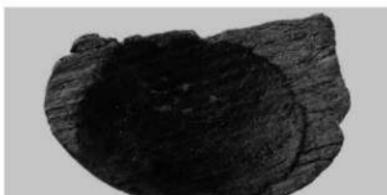
加納谷内遺跡 土器・陶磁器

SB1 SP504A (312) SK545A · SK619A (547) SK2B · SD140B (504) SK8C1 · SD1C1 (384) SK242C2 (548)  
谷B (250)

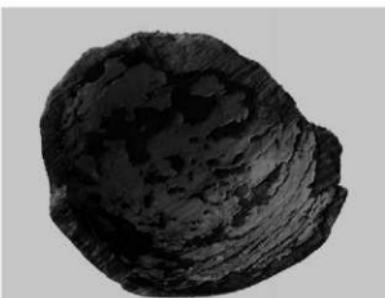


加納谷内遺跡 木製品

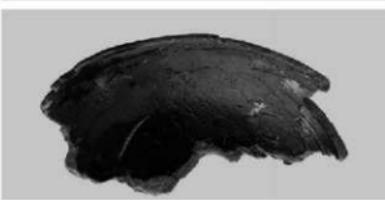
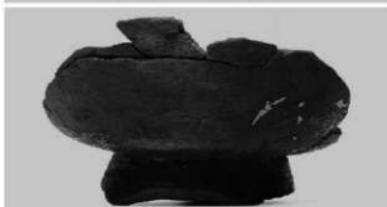
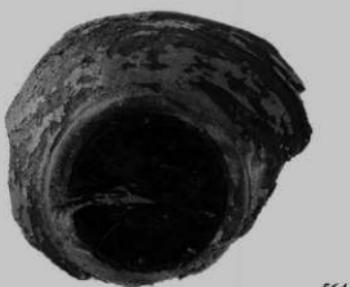
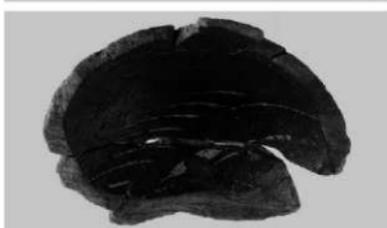
SE111B (567) SX191B (566) SK1B (563) 包含層



568



564



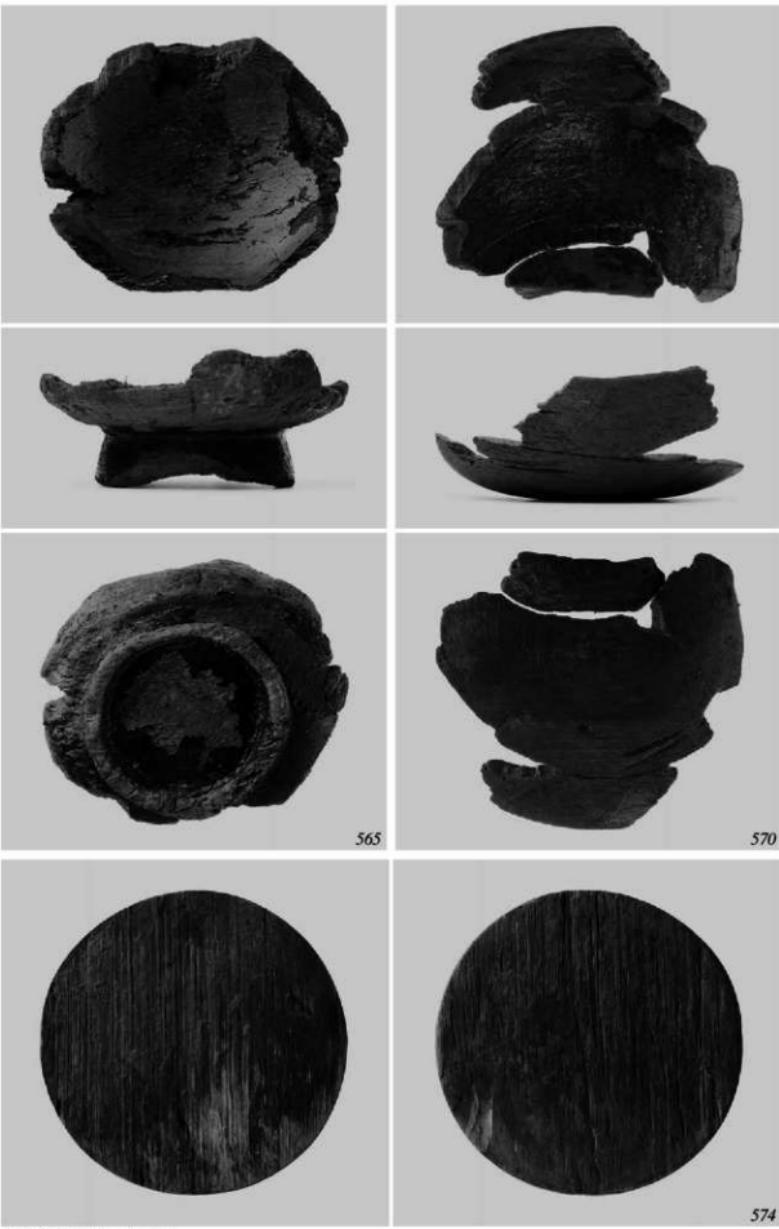
571



569

加納谷内遺跡 木製品

SE185C1 (569) SX191B (571) SK517A (568) SK527A (564)



加納谷内遺跡 木製品

SE4C1 (565) SK242C2 (570・574)



加納谷内遺跡 木製品

SB2 SP505A (576) SE569A (572) SE1134A (575) SX191B (573)



579

580



582

583

加納谷内遺跡 木製品

SE595A (580) SE680A (579) SE682A (582) SE867A (583)



578



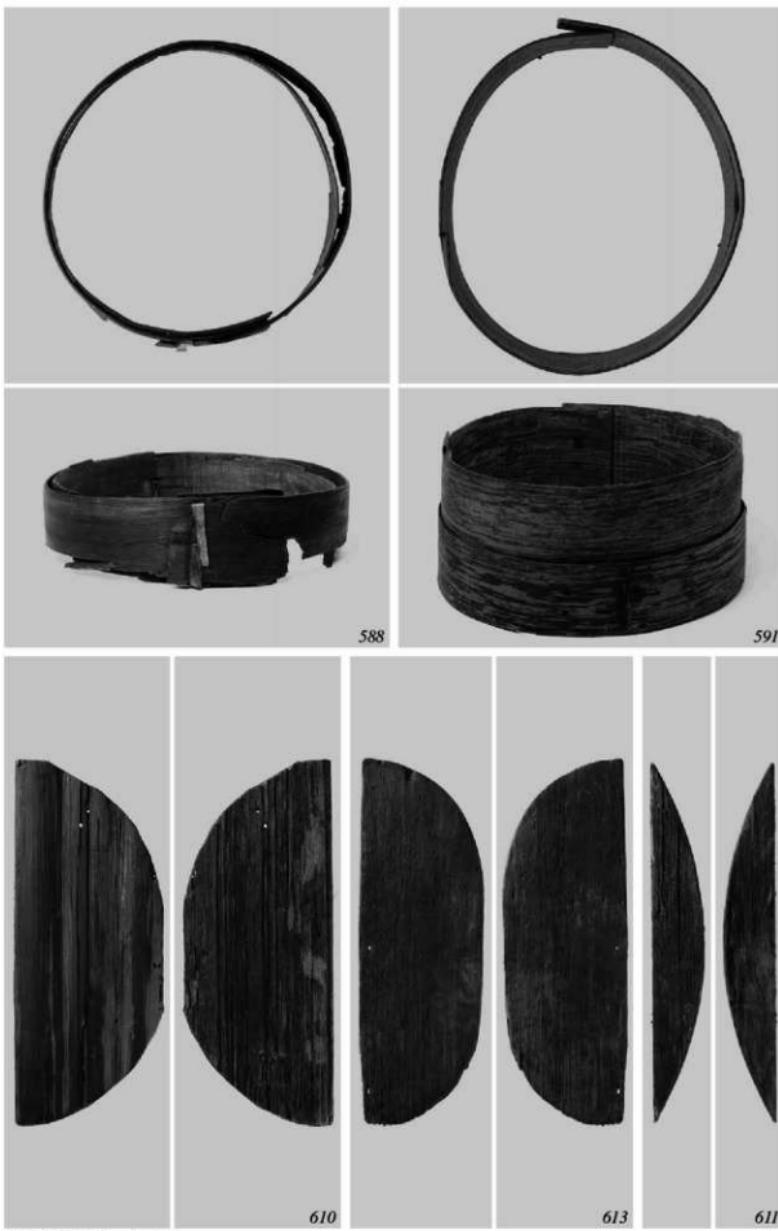
584



585

加納谷内遺跡 木製品

SE531A (578) SE596A (581) SE671A (584) SE185C1 (585)



加納谷内遺跡 木製品

SE156B (591) SE323B (613) SE590C1 (588) SK1B (611) SD4A (610)



加納谷内遺跡 木製品

SE323B (612) SE326C1 (617) SE339C1 (586) SE591C1 (589) SK1B (616)



592



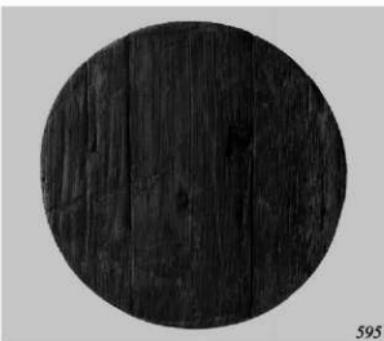
593



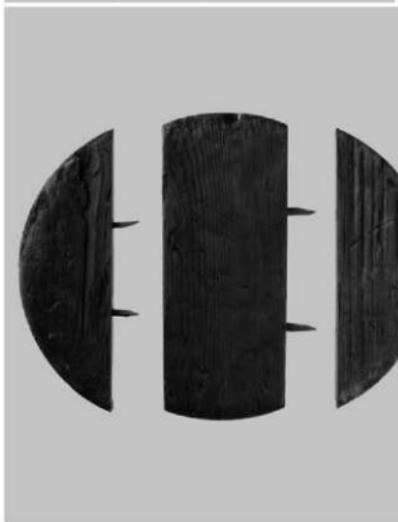
594

加納谷内遺跡 木製品

SE495A (594) SE336B (592) SE593C1 (593)



595



595



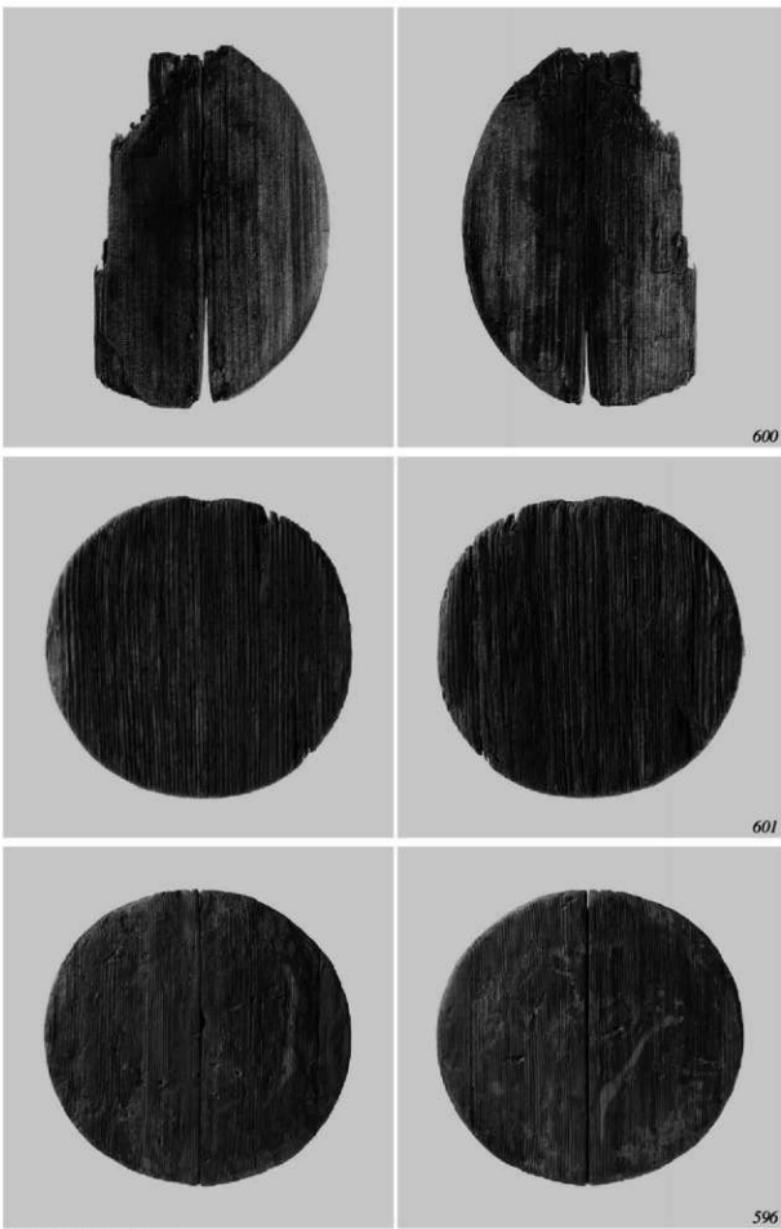
595



597

加納谷内遺跡 木製品

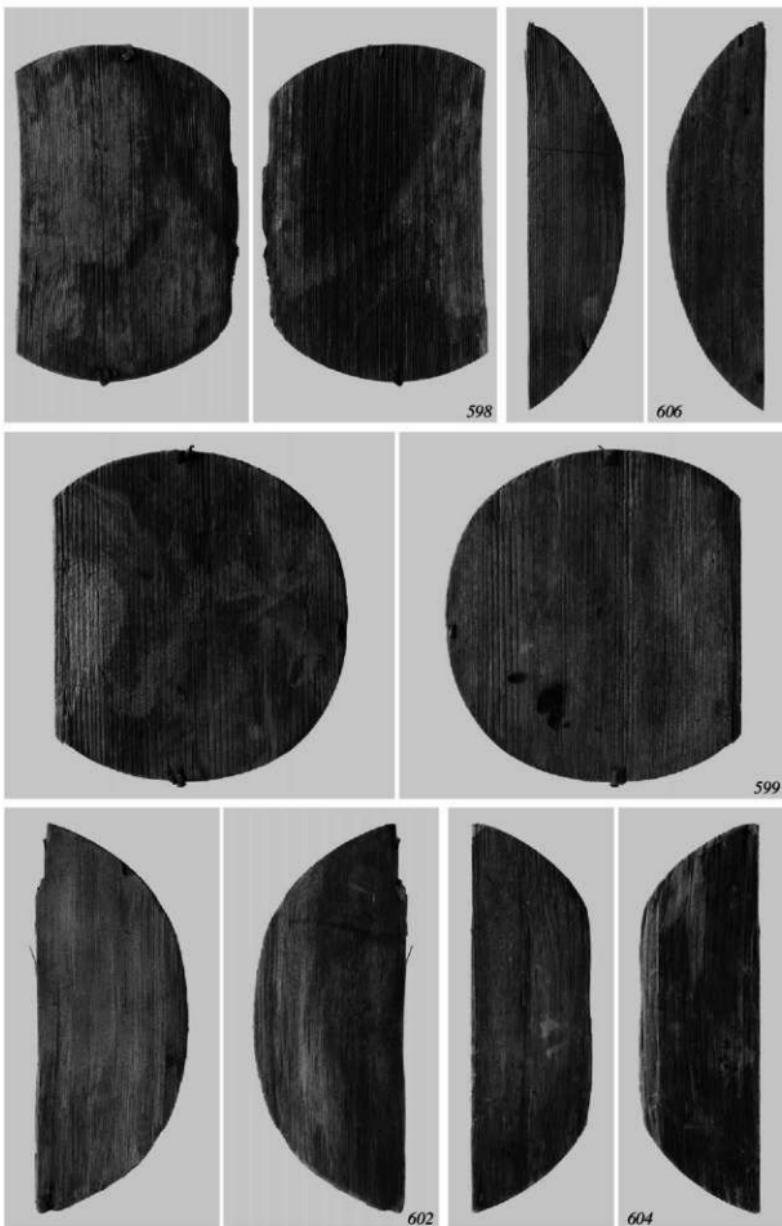
SE630A (595) SE326C1 (597)



加納谷内遺跡 木製品

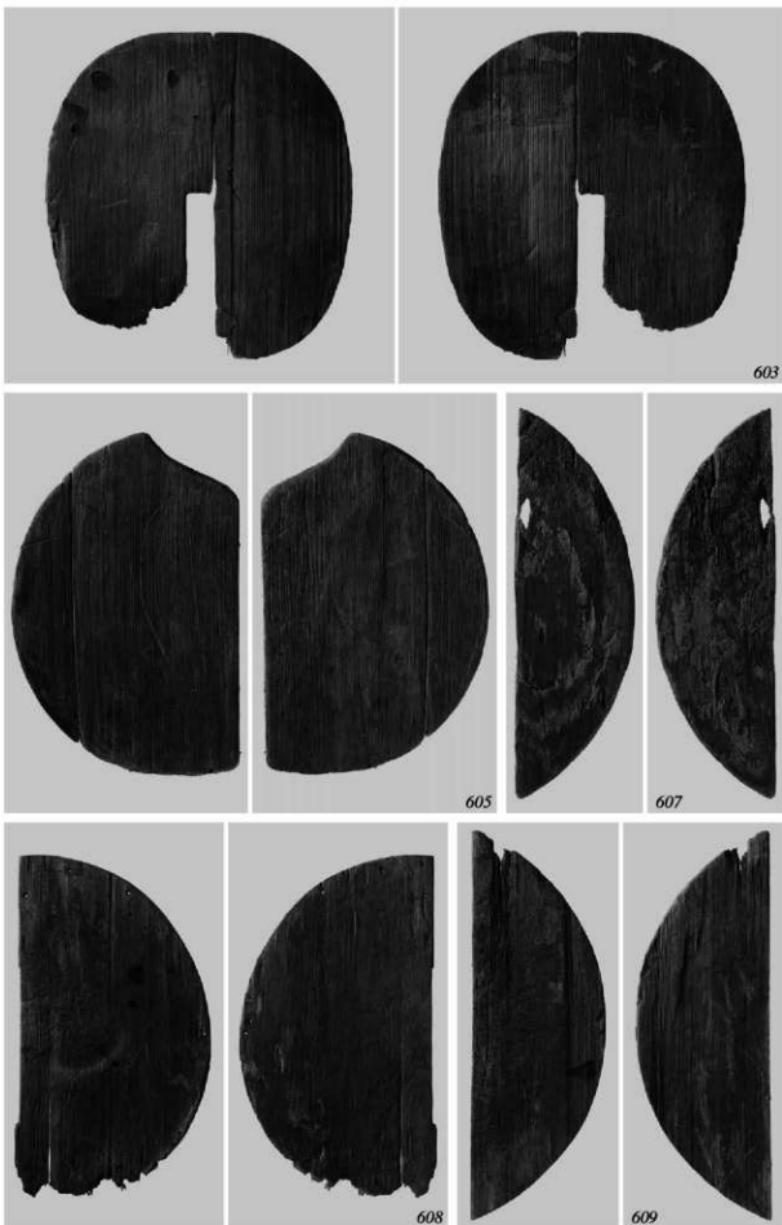
SE595A (600) SE630A (596) 包含層

図版74



加納谷内遺跡 木製品

SE172A (602) SE630A (604) SE323B (606) SX191B (598) SK242C2 (599)

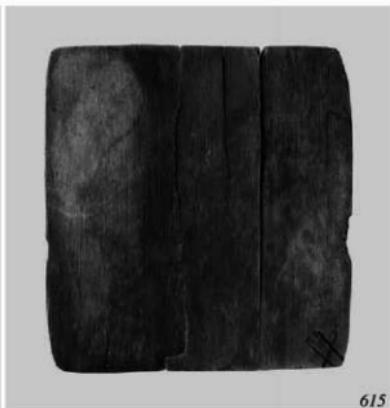


加納谷内遺跡 木製品

SE867 (607) SE323B (605・608・609) SE339C1 (603)



614



615

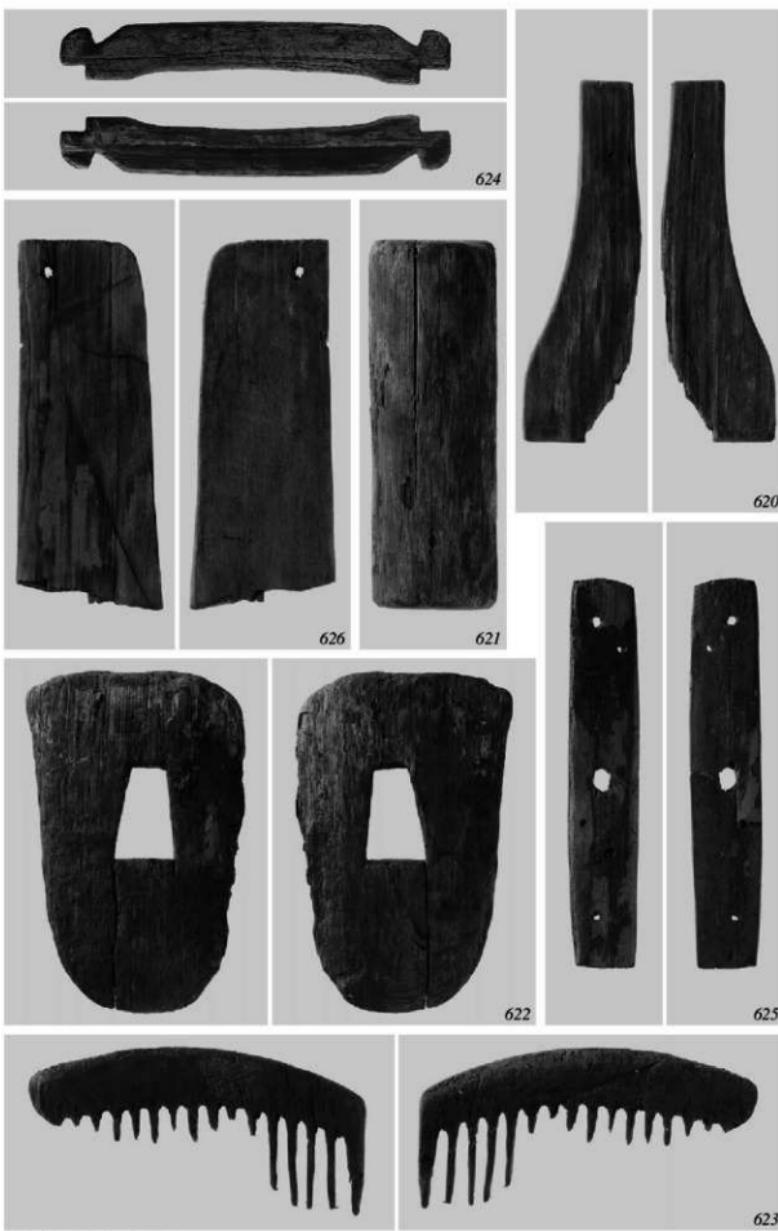


618

619

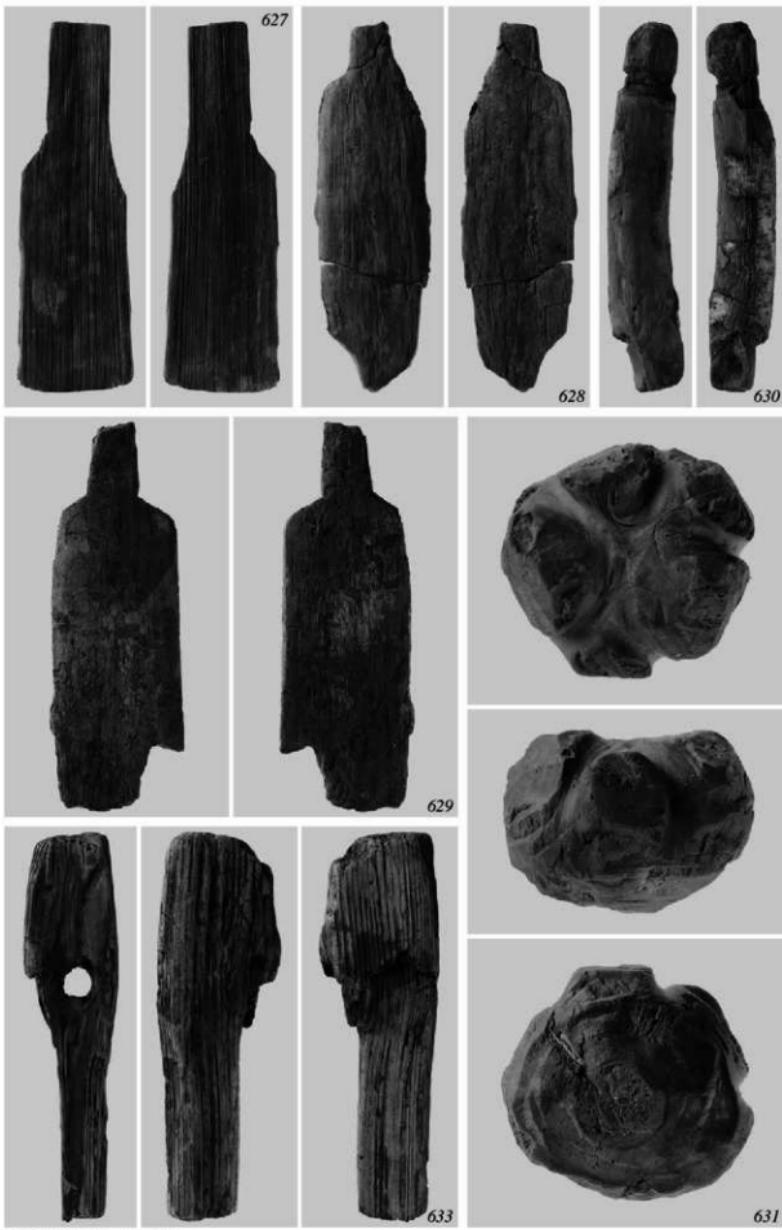
加納谷内遺跡 木製品

SE640A (614) SE185C1 (615) SK545A (619) SK666A (618)



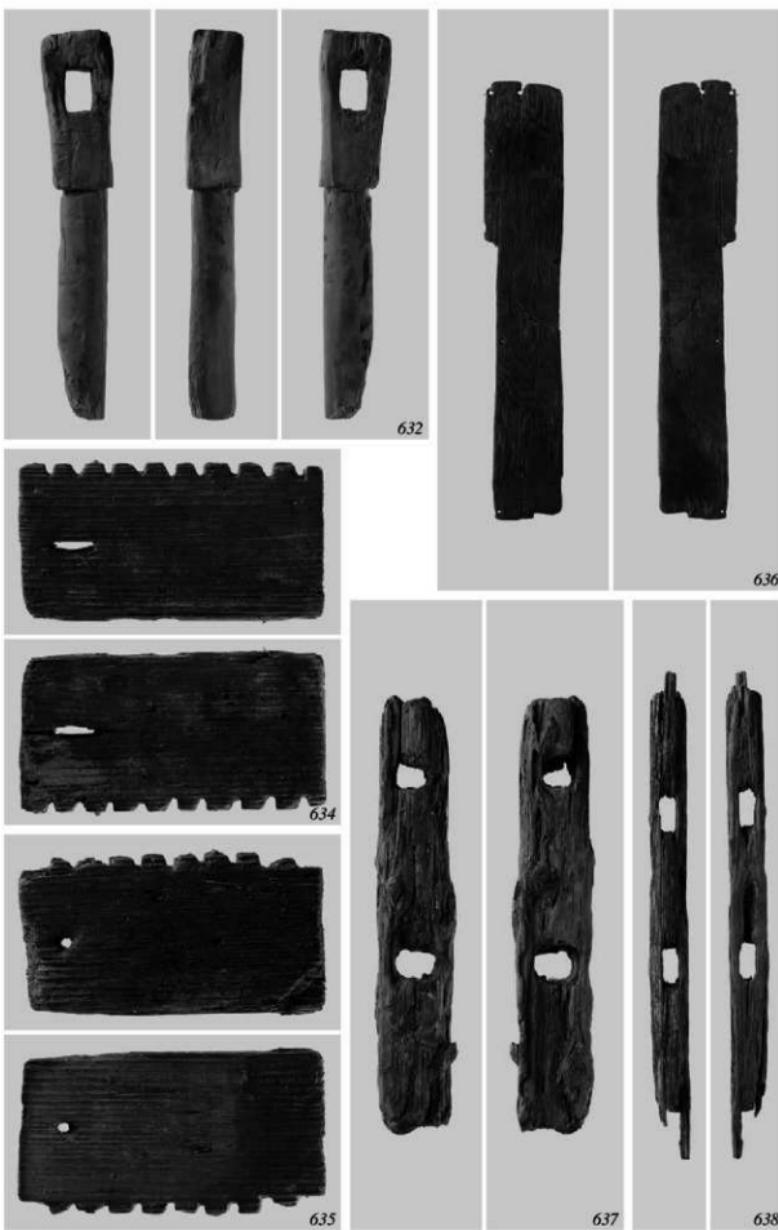
加納谷内遺跡 木製品

SE630A (621) SE323B (622) SE339C1 (625) SE591C1 (624) SK1B (620) SK52C2 (626) 包含層



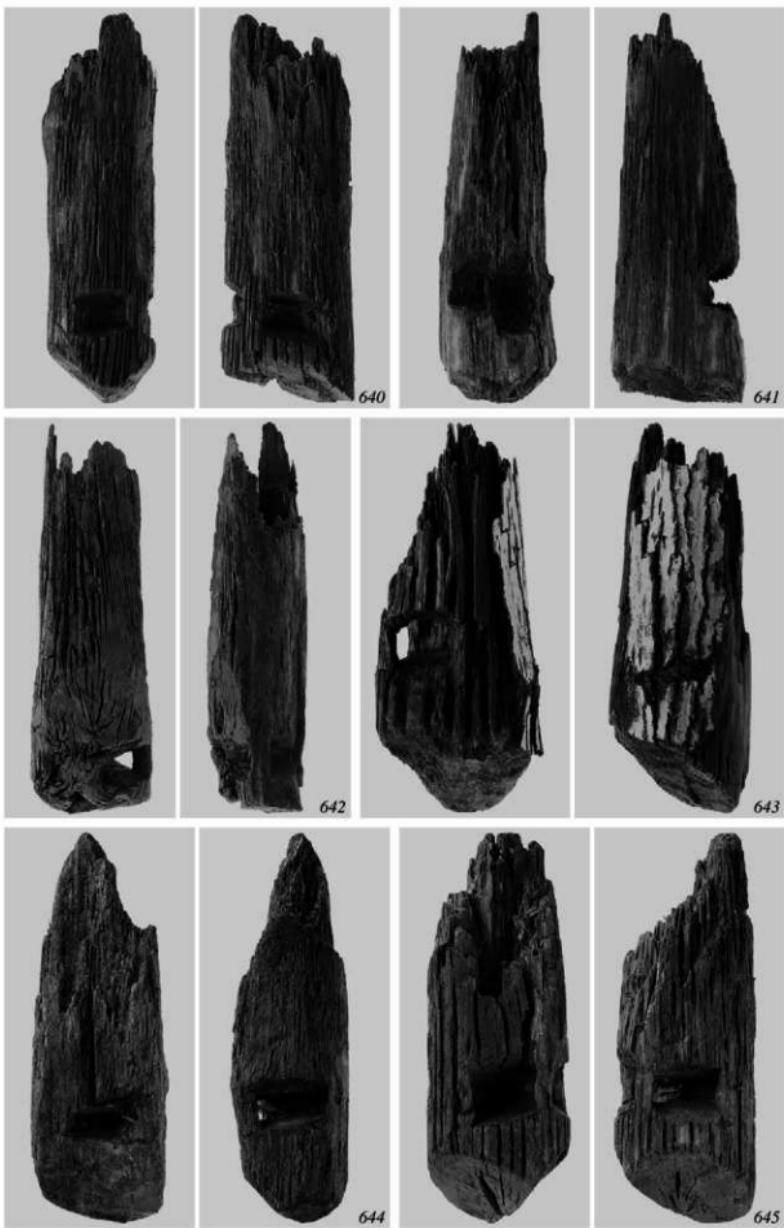
加納谷内遺跡 木製品

SE156B (633) SE323B (628・629) SE594C1 (630) SK342B (631) SX350B (627)



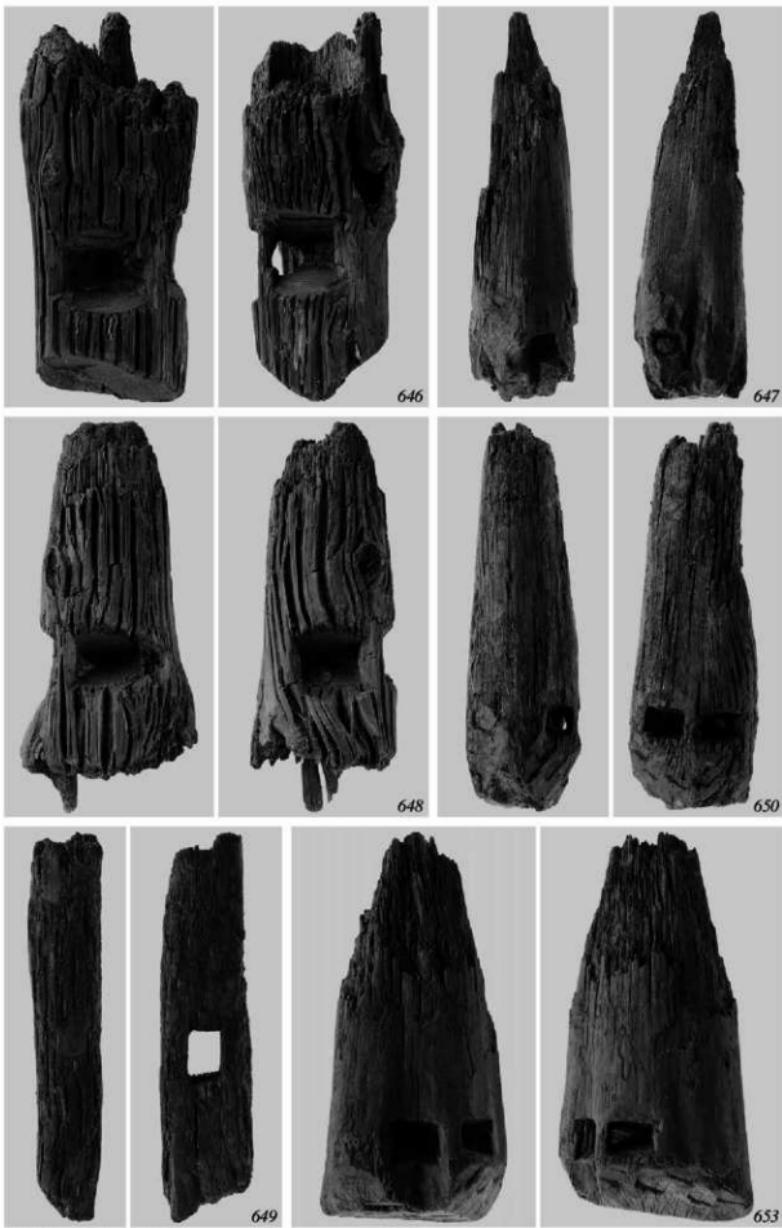
加納谷内遺跡 木製品

SE323B (636) SE336B (637) SK1B (634・635) SK4B (638) SK79B (632)



加納谷内遺跡 木製品

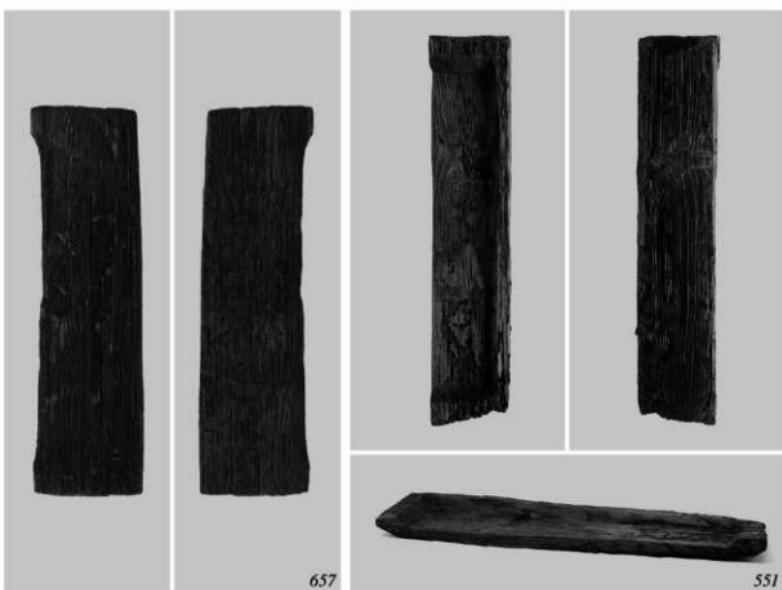
SB1 SP593A (643) SB2 SP563A (644) SB4 SP1137A (641) SA2 SP547A (645) SE564A (640・642)





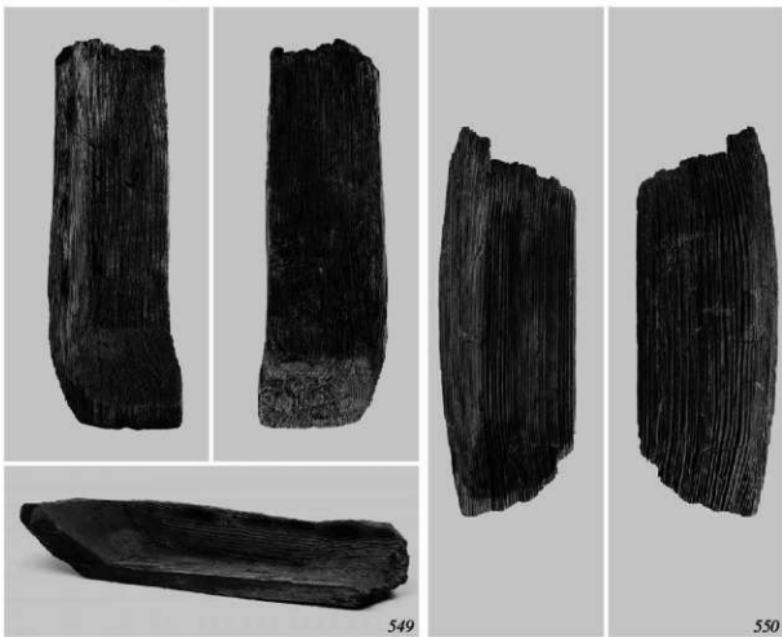
加納谷内遺跡 木製品

SK1B (651・652) SK79B (654) SK242C2 (639) SD425B (655) 谷B (656)



551

551



549

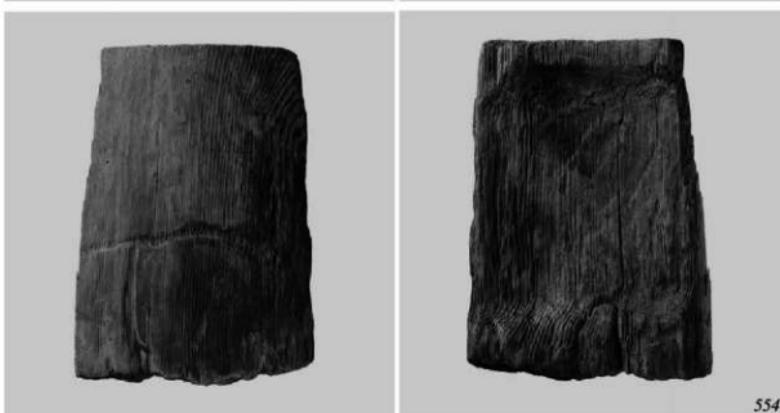
550

加納谷内遺跡 木製品

SD4A (551) 谷B (549・550・657)



552



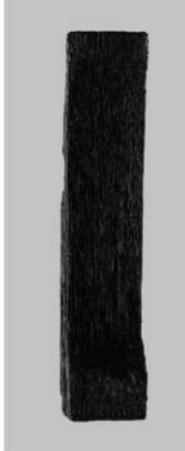
554

加納谷内遺跡 木製品  
谷B



553

555



556

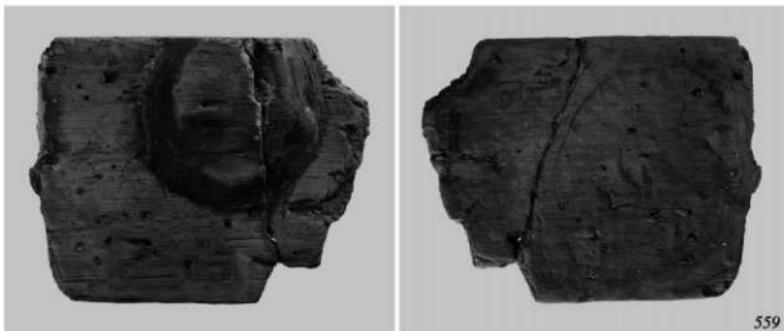
557

561

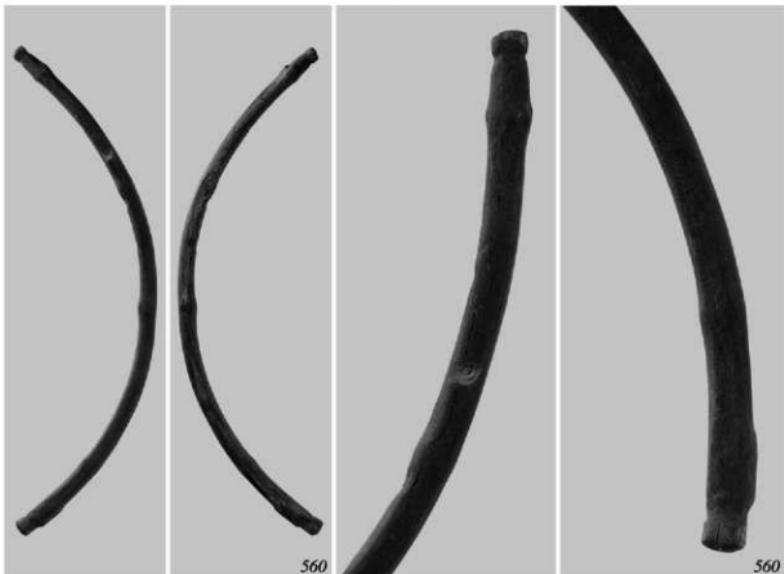
加納谷内遺跡 木製品  
谷B



558

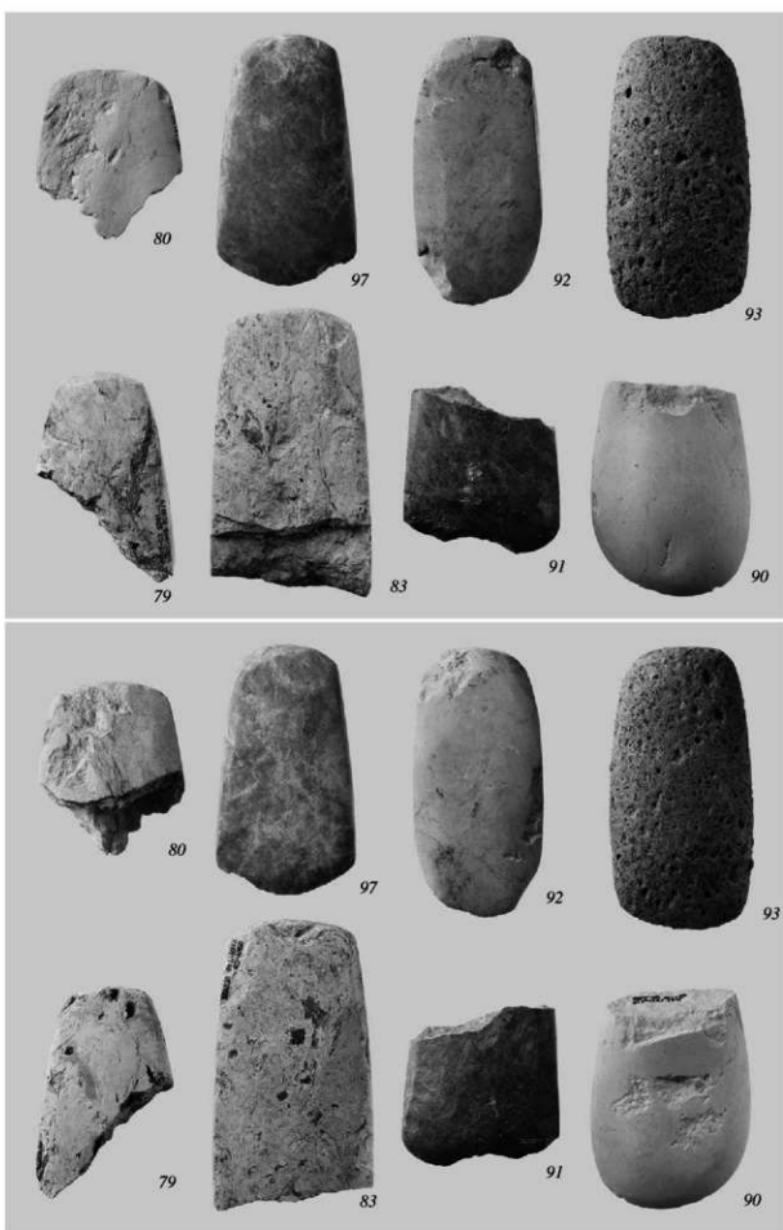


559



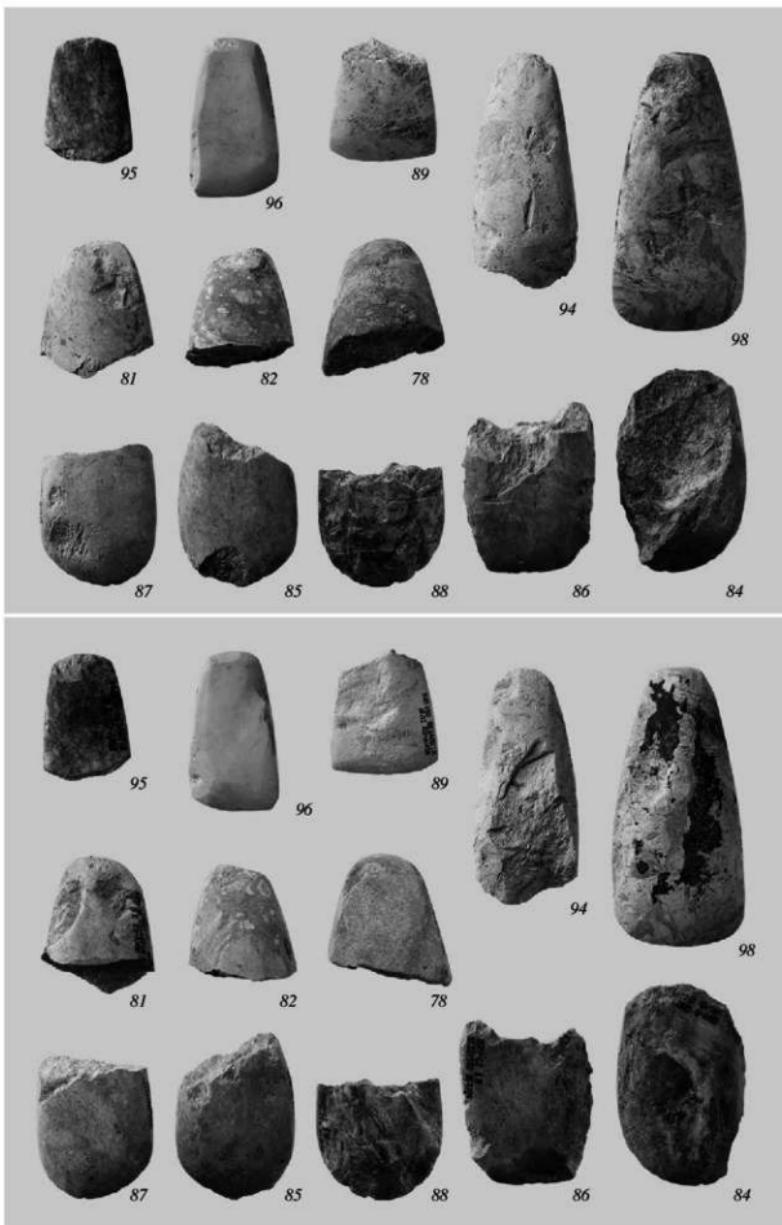
560

560



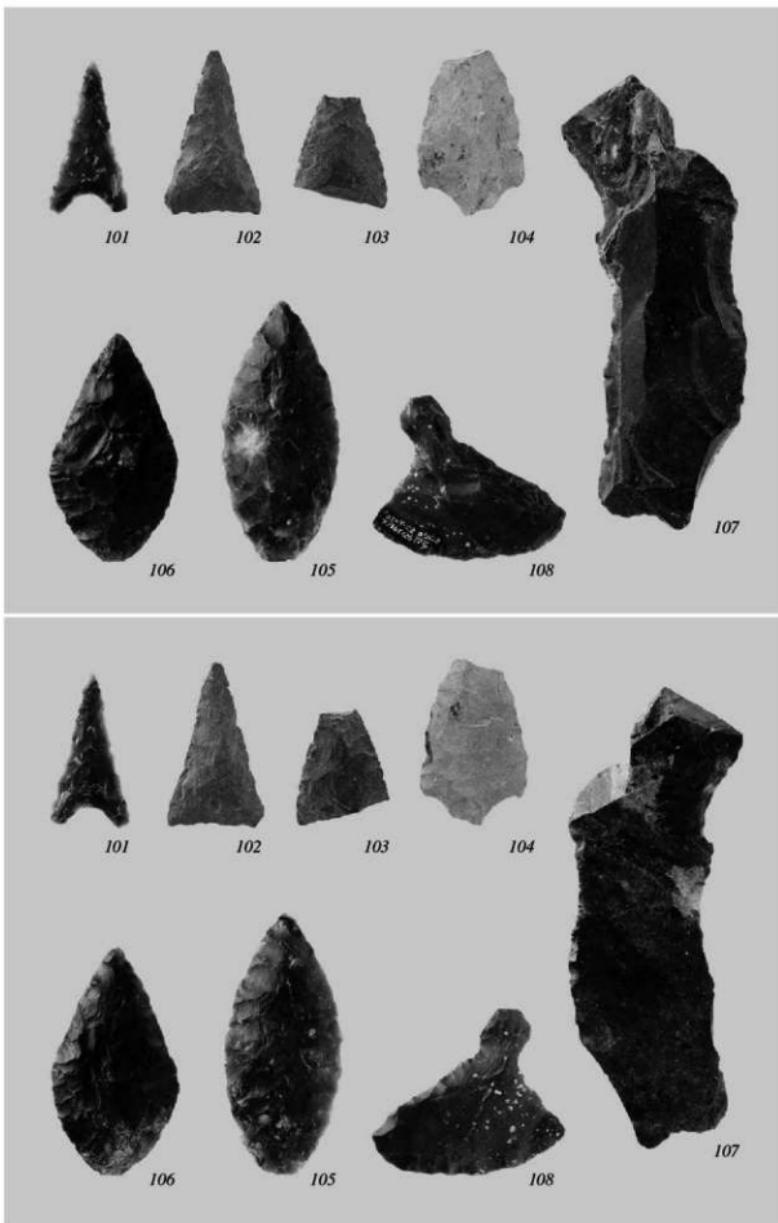
加納谷内遺跡 石製品

SK1B (92) SK79B (93) SD1C3 (79) 包含層



加納谷内遺跡 石製品

SD2A (84) 包含層



加納谷内遺跡 石製品

SK683A (105) SK922A (102) SD2A (101・103) SD7C3 (104) 谷B (106) 包含層



II2



II4



II3



II5



II2



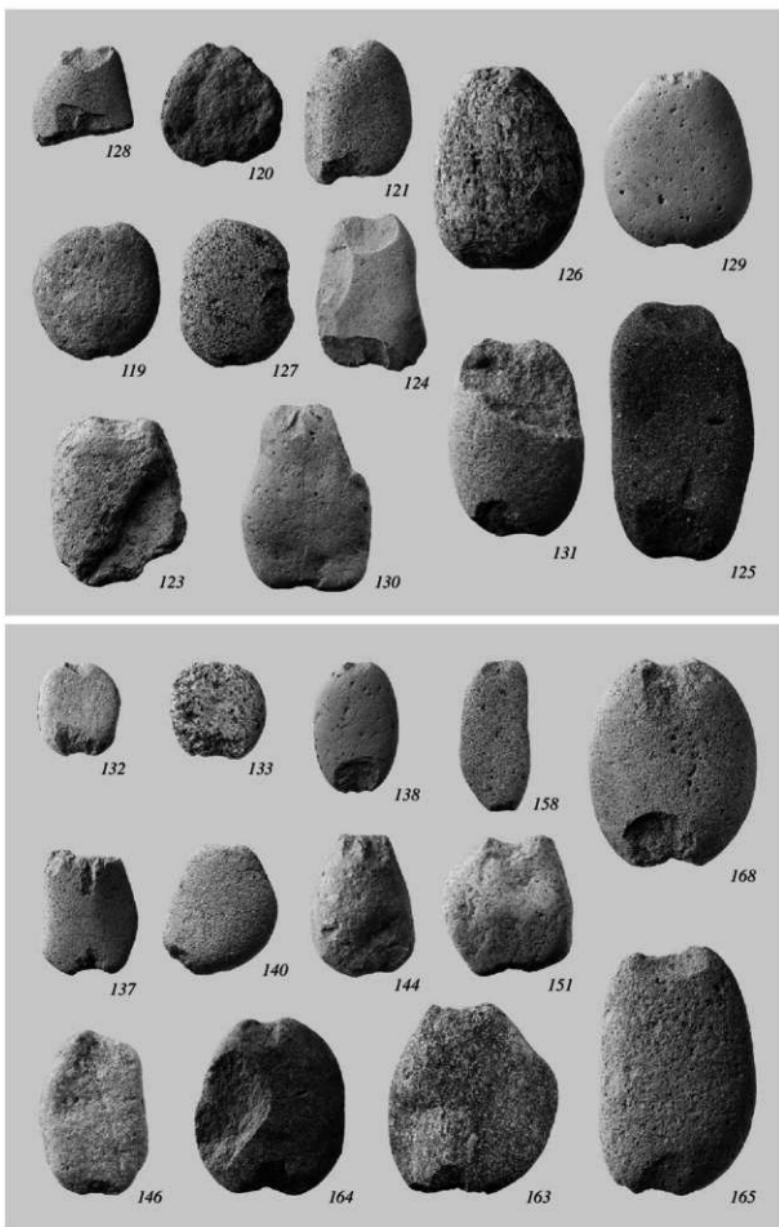
II4



II3

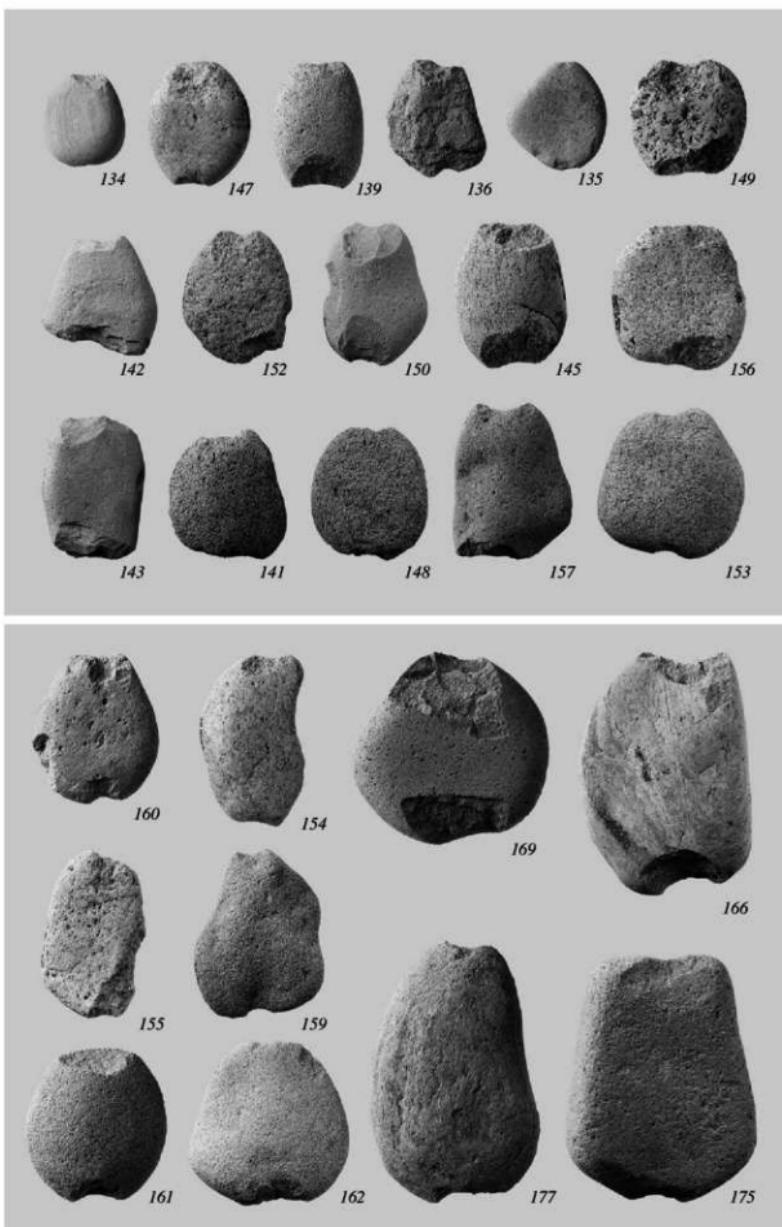


II5

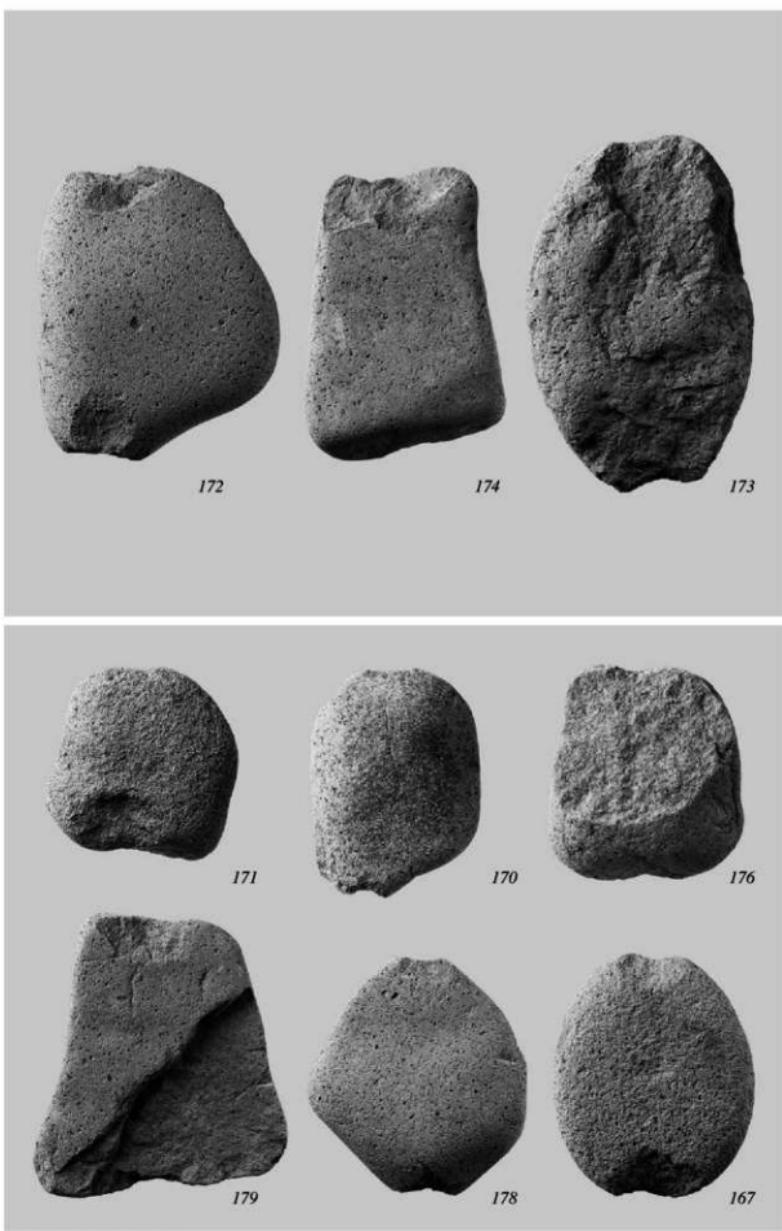


## 加納谷内遺跡 石製品

SK404C2 (120) SK425C2 (119) SK205C3 (127) SK217C3 (123・129・130・131) SK219C3 (121) SD4A (125)  
SD26C3 (126) SD201C3 (124・128) 包含層



加納谷内遺跡 石製品  
包含層



加納谷内遺跡 石製品  
包含層



118



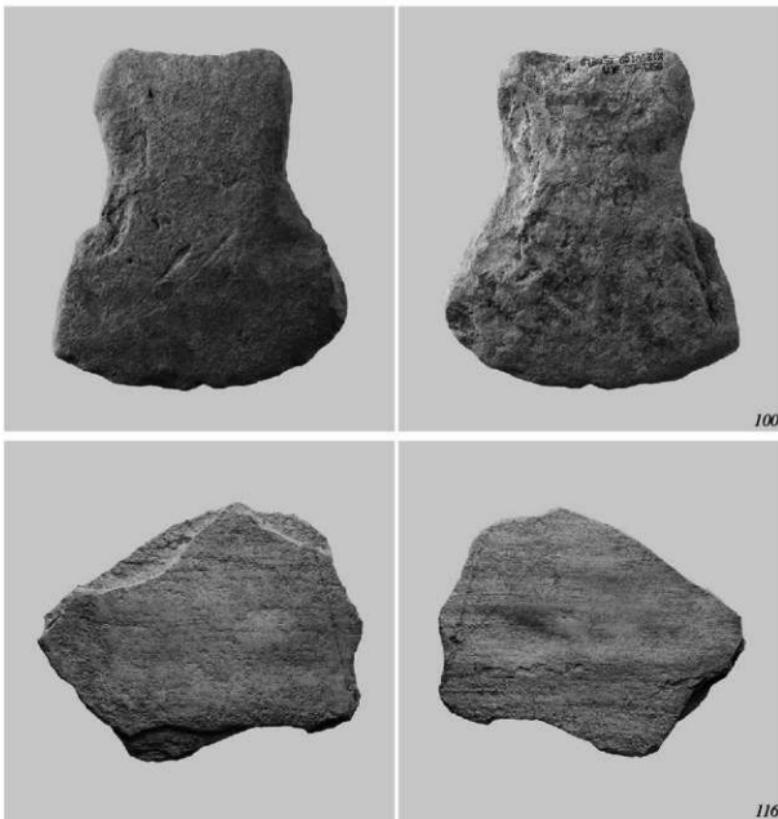
122



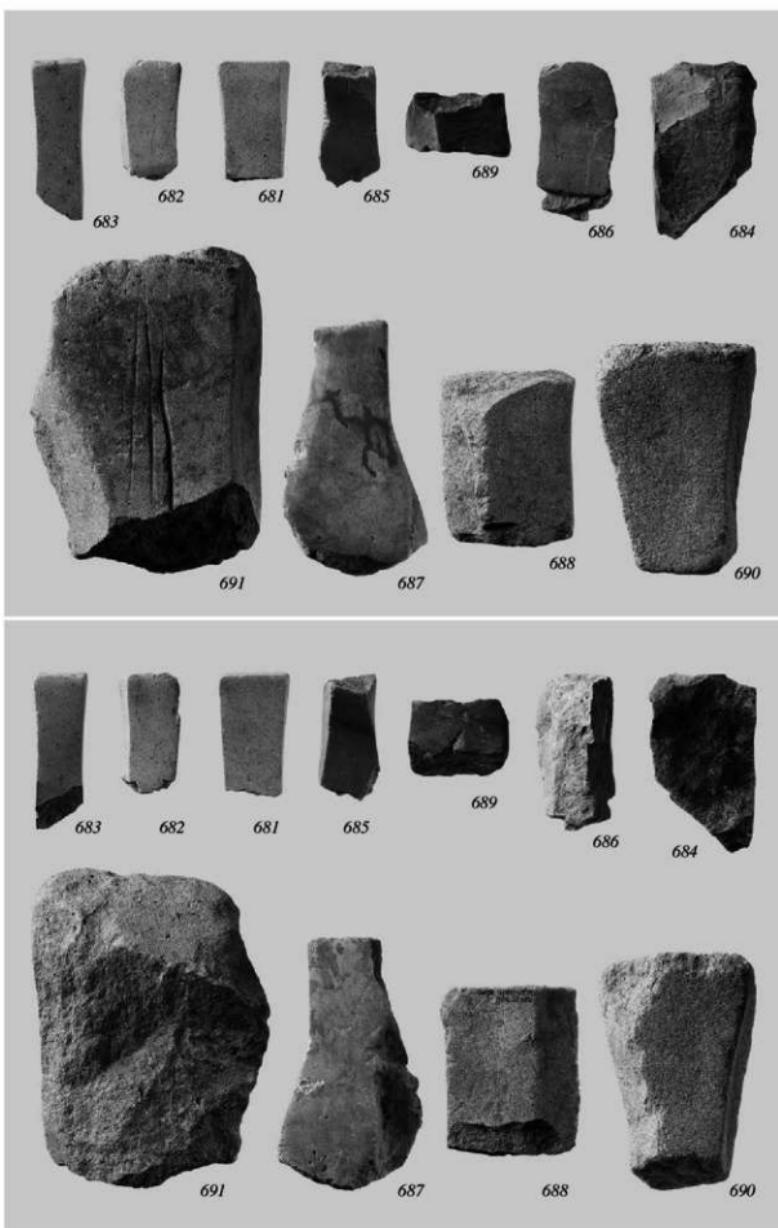
99

加納谷内遺跡 石製品

SK413C2 (122) SD909A (99) 包含層

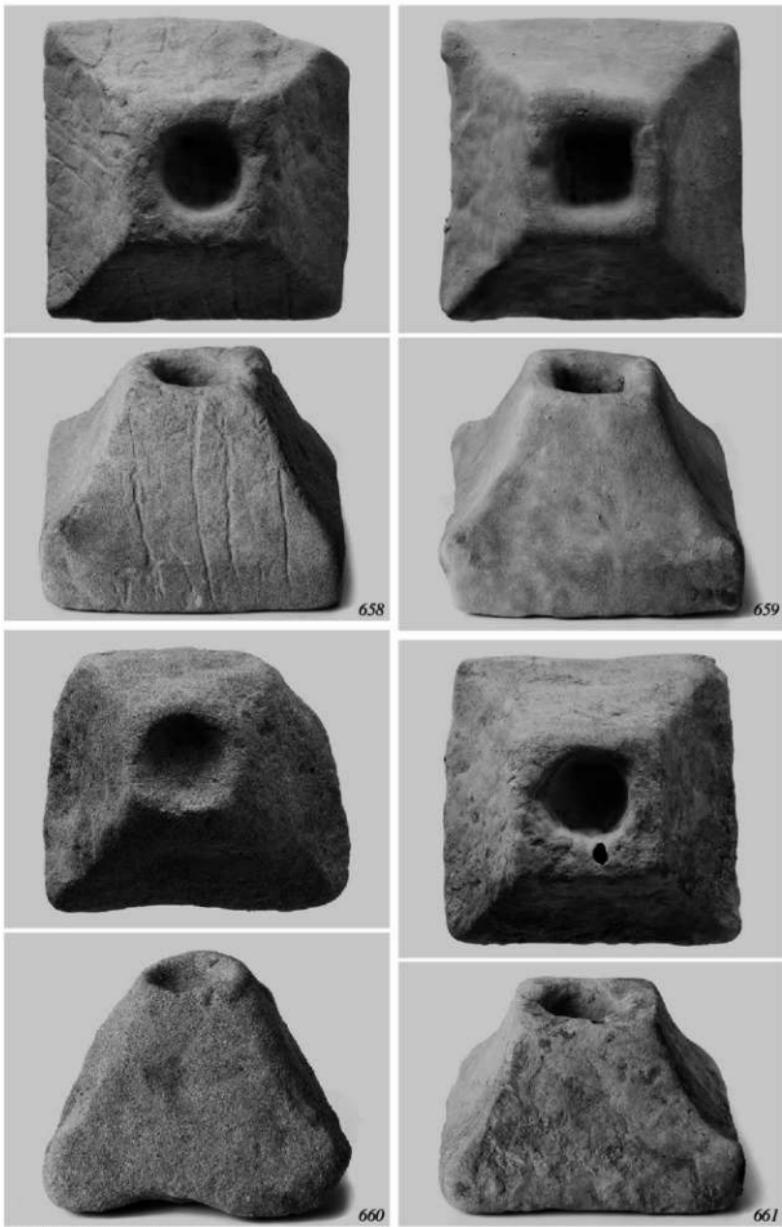


加納谷內遺跡 石製品  
SD168C2 (100) 包含屑



加納谷内遺跡 石製品

SE630A (683) SX191B (686) SK619A (684) SK666A (687) SK1B (685) SK242C2 (688・690・691)  
SD629A (681・682) 谷B (689)



加納谷内遺跡 石製品

SE555C1 (661) SK79B (658) SK305B (659) SD1C1 (660)



663



662



664



665



666



667



668

加納谷内遺跡 石製品

SE569A (663) SE596A (665・666) SE555C1 (667・668) SK664A (662) SK79B (664)



669



670



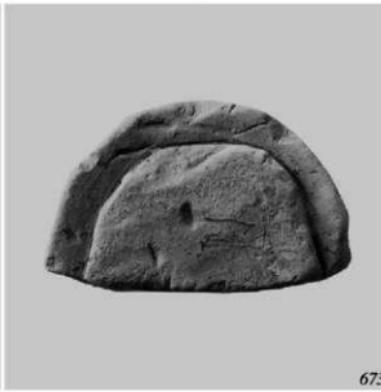
671



672



673



674



675

加納谷内遺跡 石製品

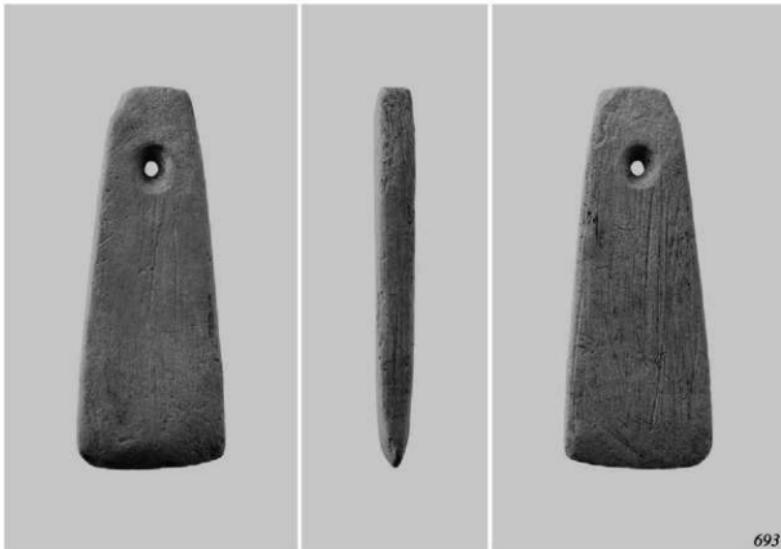
SE569A (671) SE149C1 (672) SE555C1 (669・670) SX191B (674) SK78B (673)



675



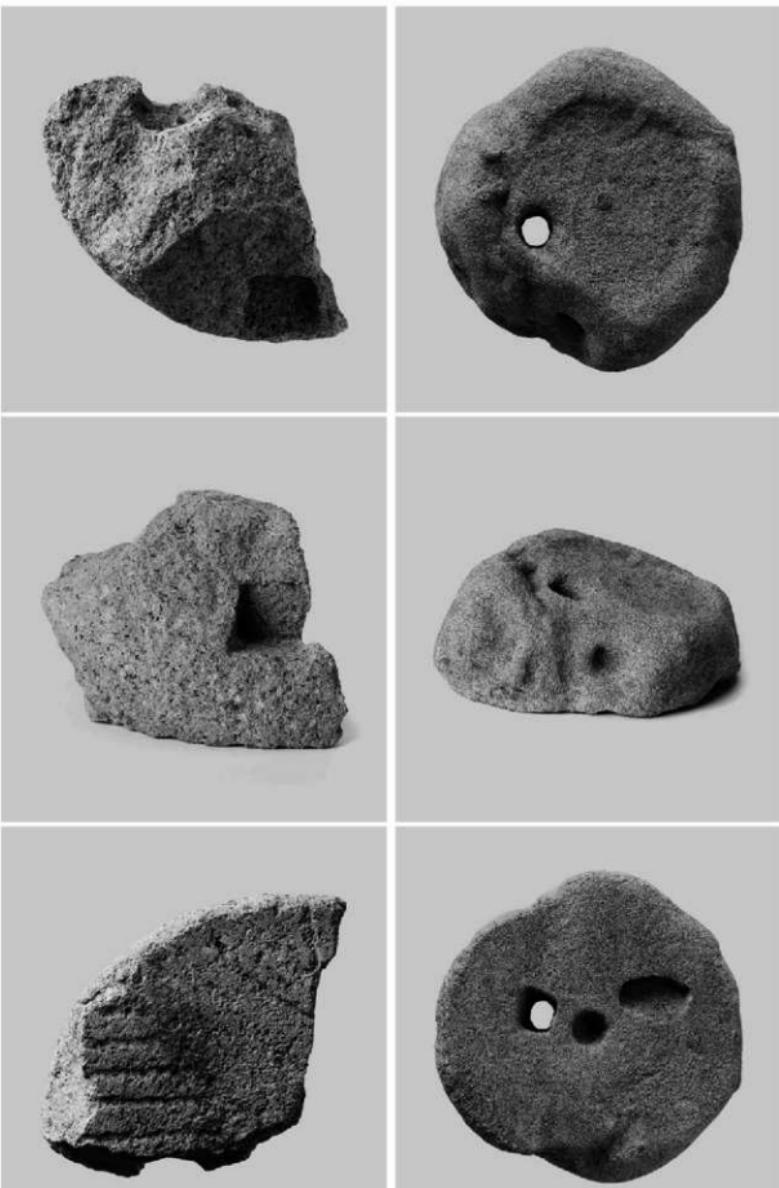
676



693

加納谷内遺跡 石製品

SE595A (676) SX191B (675) 谷B (693)



加納谷内遺跡 石製品  
SK666A (677) SK1B (678)

677

678



680



679



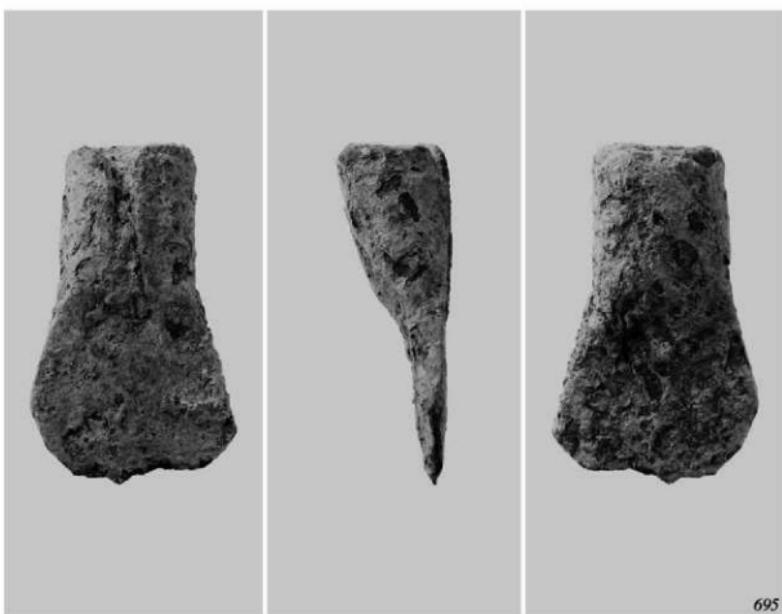
692



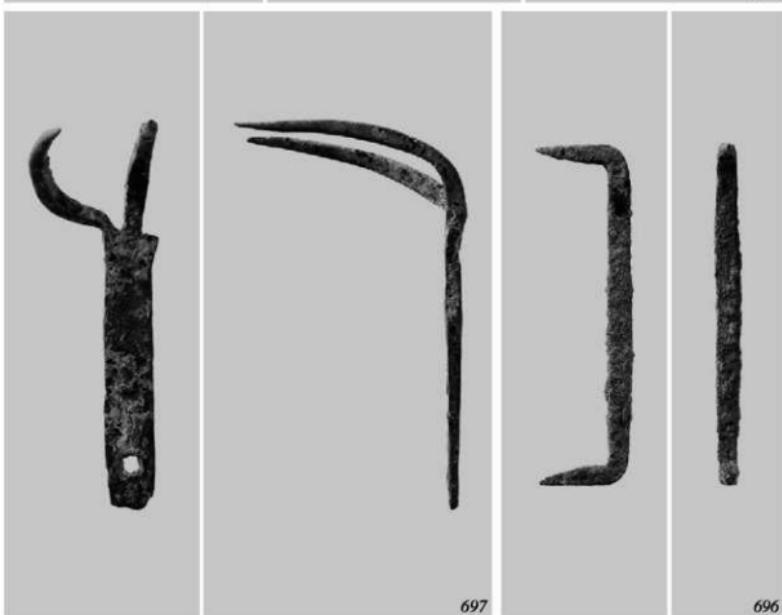
694

加納谷内遺跡 石製品

SE1134A (680) SE201B (679) SD50C2 (694) SD273C2 (692)



695

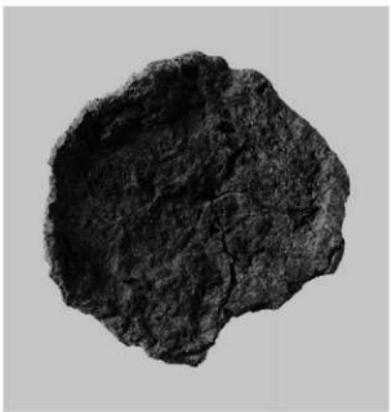


697

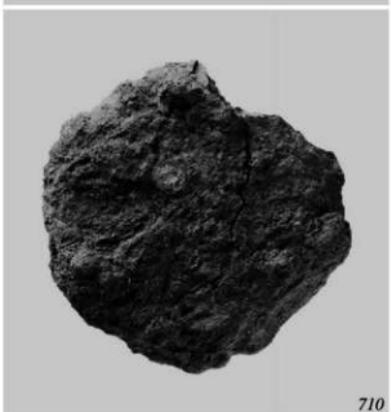
696

加納谷内遺跡 金属製品

SK666A (697) SD140B (695・696)



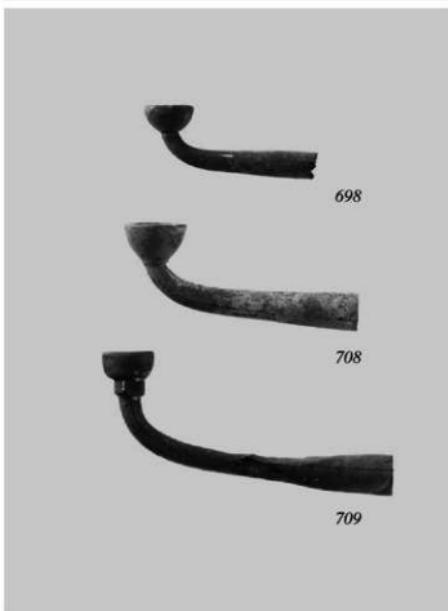
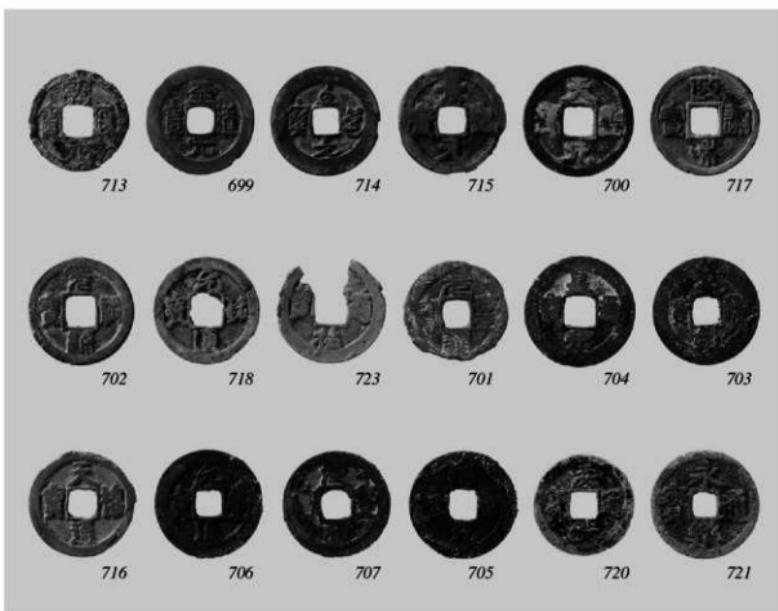
712



710

711

加納谷内遺跡 金属製品  
包含層



加納谷内遺跡 金属製品

SE111B (699) SK510A (698) SK1B (701~707) SD2D (700) 包含層



# 報告書抄録

ふりがな	おおのなかいせき・しちぶいちどうのくちいせき・かのうやちいせきはつくつちょうさほうこく										
書名	大野中遺跡・七分一堂口遺跡・加納谷内遺跡発掘調査報告										
副書名	能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告										
巻次	X II										
シリーズ名	富山県文化振興財團埋蔵文化財発掘調査報告										
シリーズ番号	第62集										
編著者名	鳥田亮仁、新宅 茜										
編集機関	公益財團法人富山県文化振興財團 埋蔵文化財調査事務所										
所在地	〒930-0887 富山県富山市五福4384番1号 TEL 076-442-4229										
発行年月日	2014年3月20日										
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東經	発掘期間	発掘面積 m <sup>2</sup>	発掘原因				
大野中	富山県 氷見市 大野	16205	371	36° 51° 44°	136° 57° 26°	20050512～20050719 20060524～20061002	4,082	道路 (能越自動車道) 建設に伴う 事前調査			
七分一堂口	富山県 氷見市 七分一	16205	372	36° 51° 53°	136° 57° 30°	20050512～20051003	2,608				
加納谷内	富山県 氷見市 加納	16205	373	36° 52° 12°	136° 57° 46°	20050516～20051221 20060517～20061128	35,375				
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項						
大野中	集落	古代	掘立柱建物 堅穴建物 構 土坑 溝 自然流路	9棟 1棟 2列 13基 30条 1条	土師器、須恵器、カマド 形土製品、木製品	8世紀後半～9世紀前半 の集落					
		中近世	井戸 土坑 溝	1基 1基 3条	珠洲、中国製白磁、中国 製青磁、木製品、石製品						
七分一堂口	集落	中世以前	土坑 自然流路 溝	2基 1条 2条	弥生土器、土師器、須恵 器	弥生時代終末期～古墳時 代初頭の自然流路					
		中世	掘立柱建物 溝 井戸 土坑	4棟 9条 1基 2基	中世土師器、珠洲、中国 製白磁、越中瀬戸、越中 丸山、肥前陶磁器、土製 品、石製品	中世前期(12世紀後半～ 14世紀)の小規模集落					
加納谷内	集落	縄文時代	埋設土器 土坑 溝 自然流路	5基 13基 1条 1条	縄文土器、石製品	前期前業の集石土坑と前 期後業～中期前業の埋設 土器を検出 中期以降の谷からは縄文 土器のほか、弥生時代後 期後半から古墳時代中期 までの土器・木製品が出土					
		中近世	掘立柱建物 構 井戸 土坑・溜池状遺構 石敷遺構 溝・自然流路 道路状遺構	26棟 11列 46基 56基 2基 35条 1条	中世土師器、珠洲、中国 製青磁、中国製白磁、中 国製染付、瀬戸美濃、越 中瀬戸、肥前陶磁器、土 製品、木製品、石製品、 金属製品	中世前期から近世の集落					
<b>要約</b>											
・大野中遺跡では、古代（8世紀後半～9世紀前半）の集落を調査し、掘立柱建物群がみつかった。上庄川に面した地理的条件から物流を中心とした集落の可能性がある。											
・七分一堂口遺跡では、弥生時代終末期～古墳時代初頭の谷と中世前期(12世紀後半から14世紀)の小規模集落を調査した。											
・加納谷内遺跡では、縄文時代前期前業の集石土坑、前期後業～中期前業の埋設土器、縄文時代中期～古墳時代中期の谷、中世前期～近世の集落を調査した。中世では掘立柱建物群や多数の井戸、溜池状遺構、板石を敷き並べた石敷遺構などが見つかり、中世前期から近世まで引き続いて集落が営まれていたことがわかった。											

2014(平成26)年3月10日 印刷  
2014(平成26)年3月20日 発行

富山県文化振興財团埋蔵文化財発掘調査報告第62集

**大野中遺跡  
七分一堂口遺跡 発掘調査報告  
加納谷内遺跡**

- 能越自動車道建設に伴う  
埋蔵文化財発掘報告 XII -

編集・発行 公益財団法人富山県文化振興財団  
埋蔵文化財調査事務所  
〒930-0887 富山市五福4384番1号  
TEL 076-442-4229

印 刷 ヨシダ印刷株式会社  
(本社) 〒921-8546 石川県金沢市御影町19-1  
TEL 076-241-2141  
(富山営業所) 〒939-8213 富山市黒瀬447-1 742号  
TEL 076-493-3321